

Hyperion(R) Enterprise(R) Reporting

リリース 6.5.1

ユーザガイド

ORACLE®
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド, 6.5.1

Copyright © 1998, 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: Enterprise Reporting Information Development Team

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は、Oracle Corporation またはその関連会社、あるいはその両方の登録商標です。他の名称は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章 デスクトップのカスタマイズ	31
ディメンションのカスタマイズ	31
計算式バーのカスタマイズ	32
データの視点バーのカスタマイズ	33
第 2 章 レポートとパッケージの作成と保存	35
レポートまたはパッケージの作成	35
レポートまたはパッケージを閉じる	36
レポートまたはパッケージの保存	36
複合レポートについて	37
複合レポートの作成	39
第 3 章 データの視点の設定	41
Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点について	41
パッケージのデータの視点について	42
レポートのデータの視点について	42
[データの視点] ダイアログボックス	42
Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定	43
[使用可能な項目] リスト	44
フィルタ	45
Hyperion Enterprise の例	46
Hyperion Essbase の例	46
フィルタの概要	46
検索オプション	46
使用可能なオプション	47
分割バー	48
パッケージにおけるデータの視点の設定	48
レポートにおけるデータの視点の設定	49
第 4 章 レポートとパッケージの編集	51
レポートのヘッダーとフッター	51
Hyperion Essbase レポートのセキュリティ	53
レポートおよびパッケージの領域	53

レポートまたはパッケージを開く	53
レポートまたはパッケージ領域の選択または選択解除	54
パッケージ領域の切り取り	55
レポートまたはパッケージ領域のコピー	55
レポートまたはパッケージ領域の貼り付け	55
空白の列または行の挿入	56
レポートまたはパッケージ領域の削除	57
編集を元に戻す	57
Hyperion Enterprise のレポートオプションの設定	57
Hyperion Essbase のレポートオプションの設定	58
パッケージオプションの設定	59
パッケージへのレポートの挿入	63
パッケージのレポートの置換	64
レポートまたはパッケージのサマリの編集	64
ヘッダーとフッターの設定	64
レポートのインポート	66
第 5 章 デイメンションの割り当て	69
デイメンションの割り当て方法：概要	69
レポート列とレポート行	70
レポートセクション	70
パッケージセクション	72
レポートのデイメンションの変更	73
パッケージのデイメンションの変更	74
デイメンションの ID、関数、および一覧の使用	75
[使用可能な項目] リスト	76
フィルタ	76
Hyperion Enterprise の例	77
Hyperion Essbase の例	78
フィルタの概要	78
検索オプション	78
使用可能なオプション	78
分割バー	79
[選択項目] リスト	79
パラメータ	80
プレビュー	80
デイメンション ID の割り当て	80
デイメンション関数の割り当て	80
デイメンション一覧の割り当て	81

ディメンションの変更の挿入	82
ディメンションの変更の編集	83
セクションの挿入	83
セクション内へのセクションの挿入	84
セクションの編集	86
プロンプトの値の割り当て	86
第 6 章 データ計算式とタイトル計算式の使用	87
タイトル計算式	87
テキストの入力ルール	87
データ計算式	88
数式	88
数式における演算子	88
優先順位	91
数式のオペランド	91
キーワード	92
ACC - 勘定科目	93
CAT - データ種別	94
CONSOL - 連結詳細	94
CURR - 通貨	95
DAT - 期間	96
ENT - エンティティ	97
FIE - フィールド	97
FRE - 期間単位	101
PAR - 親エンティティ	103
SUBACC1 - 最初のサブ勘定科目セット	103
SUBACC2 - 第 2 のサブ勘定科目セット	105
SUBENT - サブエンティティ	106
データ計算式の編集	106
定義の表示	108
タイトル計算式の編集	108
第 7 章 レポートウィザードの使用	109
レポートウィザードについて	109
レポートウィザードのアイコン	110
クエリの作成	110
ネストされたディメンション	111
ディメンション値の展開と縮小	112
レポート形式でのクエリの表示	113

第 8 章 レポートの書式	115
レポートの書式オプション	115
継承された書式オプション	117
チェックボックスの状態	118
勘定科目属性	118
Hyperion Enterprise の勘定科目属性	119
Hyperion Essbase の勘定科目属性	119
カスタム数値書式	119
書式オプション	120
フォントオプションの設定	120
網掛けおよび枠線オプションの設定	121
数値オプションの設定	122
マスクオプション	122
マスクおよび単位	124
レイアウトオプションの設定	124
表示オプションの設定	125
見出しオプションの設定	126
ソートオプションの設定	128
表示基準の設定	129
Hyperion Enterprise の条件ステートメントの変数	130
Hyperion Essbase の条件ステートメントの変数	131
ドラフトまたは書式設定済レポートの表示	132
書式のコピー	133
ディメンションおよび計算式のコピー	133
書式、ディメンション、および計算式のコピー	133
注釈とローカル見出しの設定	134
注釈の設定	135
レポートのローカル見出しの設定	135
展開と調査	136
展開の設定	137
調査の設定	137
展開機能の管理	138
第 9 章 レポートおよびパッケージの管理	141
レポートおよびパッケージの管理について	141
レポートセットとパッケージセットについて	142
レポートセットまたはパッケージセットの作成	142
レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットの検索	143

レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットのソー ト	143
レポートセットまたはパッケージセットの削除	144
レポートセットまたはパッケージセットの編集	144
レポートまたはパッケージのセットへの追加	144
セットからのレポートまたはパッケージの削除	145
レポートまたはパッケージ情報の編集	145
レポートまたはパッケージのチェック	146
レポートまたはパッケージのアプリケーションへの追加	146
アプリケーションからのレポートまたはパッケージの削除	147
第 10 章 レポートとパッケージの実行	149
デフォルトのページ書式の変更	150
デフォルトのページ設定の変更	150
レポートおよびパッケージの出力	152
プリンタの選択	152
アクティブなレポート、一連のレポート、または一連のレポートセットのプ レビュー	152
アクティブなレポートまたはパッケージの印刷	153
レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットの連続印 刷	154
アクティブなレポート、一連のレポート、または一連のレポートセットの Microsoft Excel へのエクスポート	155
Microsoft Excel へのレポートパッケージのエクスポート	156
レポートバッチコマンド、バッチファイル、およびタスクファイル	157
構文	160
引用符	160
文字	161
コメント	161
バッチファイルおよびタスクファイルの実行	161
例	162
バッチファイルおよびタスクファイルの実行	164
第 11 章 関数の簡易リスト	165
Hyperion Enterprise および Hyperion Essbase に対応する Hyperion Enterprise Reporting の関数	165
Hyperion Enterprise Reporting for Essbase の関数	173
第 12 章 関数	177
ABS - 絶対値	179
関数	180
@ACODE - 勘定科目コード	180

関数	180
@ALL - すべて	180
Hyperion Enterprise の例	181
Hyperion Essbase の例	181
関数	181
@ALT - 現在のエイリアステーブル	182
関数	182
@AMCODE - チャートロジックコード	182
関数	182
@ANC - すべての祖先メンバ	183
関数	183
@APD - アプリケーションの説明	183
関数	184
@APN - アプリケーション名	184
関数	184
@APP - アプリケーション ID	184
関数	185
AS - 同じ	185
関数	185
@ASK - Windows ユーザへのプロンプト	185
関数	186
@ASK - Web ユーザへのプロンプト	186
AVG - 平均 : 概要	186
関数	186
@BAS - 基本レベル	187
関数	187
BET - 差異評価	187
関数	188
@BOT - レベル 0 のメンバ	188
関数	188
CELL - 特定のセル値	189
1 つまたは 2 つのパラメータを使用する場合	189
セル関数にパラメータが 1 つの場合	190
関数	190
CHANGE - ディメンション変更	190
関数	190
@CHART - チャートロジック展開	191
関数	191
CHG - 差異計算	192

関数	192
@CHL - 子	192
関数	192
@CMCODE - 連結ロジックのコード	193
関数	193
@CMO - 現在のデータ種別の期間番号	193
関数	194
@CON - サマリ ID	194
関数	195
CPN - 現在の期間番号	195
関数	195
@CUR - 現在のディメンション設定	196
Hyperion Enterprise の例	196
Hyperion Essbase の例	196
関数	196
@CURCY - 通貨テキスト	197
関数	197
日付マスク	198
@DAT - 期間の説明	199
関数	199
@DEP - 直下の ID	200
Hyperion Enterprise の例	200
Hyperion Essbase の例	200
関数	200
@DES - ディメンションの説明	201
関数	201
@DSC - 子孫メンバ	201
関数	202
DUR - 指定値	202
関数	203
@ECODE - エンティティコード	203
関数	203
@END - 最後の ID	204
関数	204
@ENT - 親としてのエンティティ	204
関数	205
@FIRST - 最初のサブ勘定科目	205
関数	205
@FLN - ファイル名	206

関数	206
@FLT - ファイルタイトル	206
関数	207
FOR - セクション For	207
関数	207
@FRD - 期間単位の説明	208
関数	208
@FRL - 期間単位 ID	208
関数	209
FROM - 範囲の開始	209
関数	209
@GEN - 同じ世代	210
関数	210
IFT - If Then	210
関数	211
@IND - インデント	211
関数	211
@LAB - ディメンション ID	212
関数	212
@LAD - 最下位勘定科目の説明	212
関数	213
@LAL - 最下位勘定科目 ID	213
関数	213
@LAST - 最後のサブ勘定科目	214
関数	214
LIST - リスト	215
Hyperion Enterprise の例	215
Hyperion Essbase の例	215
関数	215
@LOCAL - ローカル見出し	216
関数	216
@LRC - リンクされたレポートコメント	216
関数	217
@LRD - リンクされたレポートオブジェクトの変更日	217
関数	218
@LRF - リンクされたレポートファイル	218
関数	219
@LRI - リンクされたレポートオブジェクトのインデックス	219
関数	220

@LRO - リンクされたレポートオブジェクト	220
関数	221
@LRT - リンクされたレポートオブジェクトの種類	221
関数	222
@LRU - リンクされたレポートオブジェクトのユーザ	222
関数	222
@LVL - 同じレベル	222
関数	223
MUL - 乗算	223
関数	223
@OFF - 現在またはオプションの期間のオフセット	224
Hyperion Essbase の例	224
パラメータ	224
関数	224
@RNG と使用する@OFF	225
@OTA - Hyperion OnTrack アクション	225
@OTA テキストメモ	226
@OTA グラフィックメモ	226
@OTA 調査メモ	227
@OTA 起動メモ	228
@PAR - 親	228
関数	229
PBE - 差異率の評価	229
関数	230
PCH - 差異率	230
関数	230
PCR - 構成比	230
関数	231
PCT - 比率（パーセント表示）	232
関数	232
@PDES - 部分的説明	232
関数	233
@PLAB - 部分的ディメンション ID	233
関数	233
@PSF - 連結ステータス	234
関数	234
RAT - 比率	234
関数	235
REPORT - パッケージ内のレポート	235

関数	235
RND - 四捨五入	235
関数	235
@RNG - 範囲	236
Hyperion Enterprise の例	236
Hyperion Essbase の例	236
関数	237
@RPD - 現在のレポートディレクトリ	237
関数	238
@SCALE - 現在のエンティティの単位	238
関数	238
@SED - セットの説明	238
関数	239
@SET - セット名	239
関数	239
@SIB - 兄弟	239
関数	240
@SLA - 左側にあるすべての兄弟	240
関数	240
@SLF - 左側にある最初の兄弟	241
関数	241
@SRA - 右側にあるすべての兄弟	241
関数	242
@SRF - 右側にある最初の兄弟	242
関数	243
@SRN - サーバ名	243
関数	243
@START - 開始期間	243
関数	244
@SUB - サブ勘定科目	244
関数	244
SUM - 合計	245
関数	245
@TIM - 現在の時刻	245
関数	246
@TMCODE - 換算ロジックコード	246
関数	246
@TOD - 現在の日付	247
関数	247

@TOP - 最上位メンバ	247
関数	248
UNTIL - 範囲の終わり	248
関数	248
@USR - ユーザ ID	249
関数	249
@VWD - ビューの説明	249
関数	249
@VWL - ビュー ID	250
関数	250
WITHSUB - With サブ勘定科目	250
関数	251
WITHSUB1 - 第 1 レベルサブ勘定科目	251
関数	251
@WLD - ワイルドカード	252
関数	252
第 13 章 Hyperion Analyst	253
アドインファイル	254
Microsoft Excel 用のアドインファイルのロードまたはアンロード	254
Hyperion Analyst の起動	254
Windows からの Hyperion Analyst の起動	254
Microsoft Excel からの Hyperion Analyst の起動	255
Hyperion Analyst の終了	256
[Analyst] メニュー	256
オンラインヘルプへのアクセス	257
Hyperion Analyst ワークシート	258
ワークシートの視点の変更	259
Hyperion Analyst クエリ	260
クエリの作成	260
クエリを開く	260
クエリの変更	260
クエリの終了	261
クエリの保存	261
MissingValue 設定	261
ディメンションの編集	262
ディメンションの管理	262
ディメンションのドラッグアンドドロップ	263
Microsoft Excel を使用したディメンションのドラッグアンドドロップ	263

ディメンションの並べ替え	263
ディメンション ID の並べ替え	263
展開	264
デフォルトの展開	264
展開の有効化	264
データの展開または縮小	265
展開機能の管理	265
展開記号の表示または非表示	266
Hyperion Retrieve for Reporting 関数への値の変換	266
Microsoft Excel フォーマットテンプレートの作成	267
よく尋ねられる質問	268
新しいクエリを開始するときに、エラーメッセージ No.91 が表示されることがあります。これはどのような意味ですか。	268
ワークシートでディメンションアイコンを適切にドラッグアンドドロップする方法を教えてください。ディメンションアイコンが間違った場所に移動したり、移動できなかったりします。	268
Hyperion Analyst を起動したり新しいクエリを開始したりしたときに、エラーメッセージ No.76 が表示されることがあります。これはどのような意味ですか。	268
新しいクエリを開始したときに、エラー No.48 またはエラー No.53 のいずれかが表示されます。これはどのような意味ですか。	269
ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ	269
ダイアログボックス	270
[勘定科目] ダイアログボックス	270
[ディメンションの編集] ダイアログボックス : [ID] パネル	271
[ディメンションの編集] ダイアログボックス : [関数] パネル	271
[ディメンションの編集] ダイアログボックス : [範囲] パネル	272
[ディメンションの編集] ダイアログボックス : [一覧] パネル	273
[エンティティ] ダイアログボックス	274
[ディメンションの管理] ダイアログボックス	275
[展開機能の管理] ダイアログボックス	275
[展開機能の管理 - 詳細設定] ダイアログボックス	276
[Modify Query (クエリの変更)] ダイアログボックス	277
[Open Query (クエリを開く)] ダイアログボックス	277
[展開機能の設定] ダイアログボックス	278
[データの視点] ダイアログボックス	278
[名前を付けて保存] ダイアログボックス	279
[サブ勘定科目 1] ダイアログボックス	279
[サブ勘定科目 2] ダイアログボックス	280
[非表示オプション] ダイアログボックス	280

第 14 章 Hyperion Retrieve for Reporting	281
アドインファイル	282
Microsoft Excel 用のアドインファイルのロードまたはアンロード	282
[Retrieve] メニュー	282
オンラインヘルプへのアクセス	283
ワークシートの更新	283
アプリケーションへのデータの保存	284
Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点の変更	284
Hdcdaret.ini ファイル	284
値の貼り付け	286
アプリケーションを開く	286
Hyperion Retrieve for Reporting の計算式	286
Hyperion Retrieve for Reporting の関数	287
CDABET - 2 つの ID の値の比較	288
CDACAL - 算出値からなるデータの視点かどうかをチェック	289
CDACHG - 値の間の差の表示	289
CDADES - ディメンション設定の説明の表示	290
CDAINP - 入力のデータの視点かどうかのチェック	291
CDAKEY - ディメンション設定の変更	291
CDALAB - 指定されたディメンション上の ID の表示	292
CDALNK - Hyperion アプリケーションへの値の転送	293
CDAPAB - 勘定科目の 2 つの値の差異率の表示	293
CDAPBE - 2 つの値の差異率の表示	294
CDAPCH - 2 つの値の間の変化率の表示	295
CDAPCT - 比率の計算	296
CDASTR - 見出し関数を使ったテキストの表示	297
CDAVAL - Hyperion アプリケーションからの値の表示	298
ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ	299
方法	299
ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ：補足	303
第 15 章 Hyperion DataExtend	307
Hyperion DataExtend について	307
Hyperion DataExtend の起動	308
Hyperion DataExtend の終了	309
システムメニュー	309
[ファイル] メニュー	310
[編集] メニュー	310
[表示形式] メニュー	310

[ヘルプ] メニュー	310
ツールバー	310
注釈とローカル見出しのフィールド	310
フィールドの作成	311
フィールドの削除	311
レポートでの DataExtend フィールドの使用	312
フィールドデータの読み込みと抽出	312
Field Definitions セクション	312
Data Values セクション	313
テキストファイルの例	314
フィールドデータの読み込み	314
フィールドデータの抽出	315
Hyperion DataExtend ヘルプの使用	315
Hyperion DataExtend オンラインガイドの表示と印刷	315
DataExtend ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ	316
ダイアログボックス	316
[フィールドの編集] ダイアログボックス	316
[データの読込/抽出] ダイアログボックス - [読込] パネル	317
[データの読込/抽出] ダイアログボックス - [抽出] パネル	318
第 16 章 Hyperion Schedules	319
検索機能	320
Hyperion Schedules での非表示の行または列のソート	320
データの視点バーのカスタマイズ	321
Hyperion Schedules の起動	321
Hyperion Schedules の終了	322
Hyperion Schedules のウィンドウ	323
システムメニュー	324
[ファイル] メニュー	324
[編集] メニュー	324
[オプション] メニュー	324
[表示形式] メニュー	324
[ヘルプ] メニュー	324
ツールバー	325
右マウスボタン	326
アプリケーションとデータの視点	326
アプリケーションの選択	328
選択したデータセルを使用したデータの視点の変更	328
エンティティの選択	328

データ種別の選択	329
勘定科目の選択	329
期間の選択	330
期間単位と表示形式の選択	330
サブエンティティの選択	331
第 1 レベルのサブ勘定科目の選択	331
第 2 レベルのサブ勘定科目の選択	332
連結の詳細の選択	332
親の選択	333
通貨の選択	333
フィールドの選択	334
ウィンドウ要素の表示／非表示	334
レポートを開く	335
データセルの調査の使用	335
セルの色の定義	336
設定変更の設定	337
注釈とローカル見出し	338
注釈の入力	339
ローカル見出しの入力	339
データ入力表	339
オペレータキー	340
数値データの入力	341
データブロックのハイライト	341
データのコピー	341
データの移動	342
データの除去	342
計算式の実行	343
非表示の行と列の表示	343
デフォルトのプリンタの変更	343
データのプレビュー	344
データの印刷	344
データの視点バーからのディメンションの削除	345
Hyperion Schedules with Validations	346
前提条件	346
Hyperion Schedules での検証の有効化	347
VBScript を使用したカスタム検証プロジェクトの保持	348
Visual Basic を使用したカスタム検証プロジェクトの保持	349
Visual Basic を使用したカスタム検証プロジェクトの保持	350
カスタム検証関数の説明	351

検証 OLE クラスのロジックとプロパティ	356
よく尋ねられる質問	372
Hyperion Schedules 内から複合レポートを開けません	372
Hyperion Schedules 内で緑のセルに入力できません	373
入力レベルのセルにデータを入力できません	373
Hyperion Schedules 内で行や列を変更できません	373
計算式の算出を使用して、セルにアクセスできません	373
Hyperion Schedules ヘルプ	373
[Choose Report (レポートの選択)] ダイアログボックス	373
[アプリケーションの選択] ダイアログボックス	374
[Show Suppressed Rows (非表示の行の表示)] ダイアログボックス	374
[Show Suppressed Columns (非表示の列の表示)] ダイアログボック ス	375
[色の変更] ダイアログボックス	375
[設定変更] ダイアログボックス	376
[検索] ダイアログボックス	377
[データの視点] および [変更項目の編集] ダイアログボックス	378
第 17 章 Retrieve 変換ユーティリティに関するヘルプ	381
Hyperion Retrieve for Reporting への Enterprise Retrieve 関数の変換	381
Hyperion Retrieve for Reporting 関数への Enterprise Retrieve 関数の変換 - 概 要	382
第 18 章 ユーザのウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ	383
ダイアログボックス	383
ダイアログボックスの説明	383
[勘定科目] ダイアログボックス	385
[パッケージ情報] ダイアログボックス	385
[パッケージにおけるデータの視点] ダイアログボックス	386
[パッケージセット情報] ダイアログボックス	387
[パッケージオプション] ダイアログボックス	387
[「各月の日数」勘定] ダイアログボックス	388
[変更項目の編集] ダイアログボックス	388
[ディメンションの編集] ダイアログボックス	389
[計算式の編集] ダイアログボックス	389
[セクションの編集] ダイアログボックス	390
[エンティティ] ダイアログボックス	390
[エクスポート] ダイアログボックス	390
[フォント] ダイアログボックス	391
[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックス	391

[書式] ダイアログボックス	392
[グローバル設定] ダイアログボックス	392
[インポートオプション] ダイアログボックス	393
[レポートの挿入] ダイアログボックス	394
[レイアウト] ダイアログボックス	394
[展開機能の管理] ダイアログボックス	395
[展開機能の管理 - 詳細設定] ダイアログボックス	395
[ディメンションのカスタマイズ] ダイアログボックス	396
[レポートおよびパッケージの管理] ダイアログボックス	397
[タスクの実行] ダイアログボックス	398
[新規パッケージ] ダイアログボックス	399
[新規パッケージセット] ダイアログボックス	400
[新規作成] ダイアログボックス	400
[新規レポート] ダイアログボックス	400
[新規レポートセット] ダイアログボックス	401
[開く]、[連続エクスポート]、[連続印刷]、または [Print Preview Batch (連続印刷プレビュー)] ダイアログボックス	401
[ページ書式] ダイアログボックス	402
[ページ設定] ダイアログボックス	402
[展開機能の設定] ダイアログボックス	403
[ディメンションの貼り付け] ダイアログボックス	403
[貼り付け] ダイアログボックス	404
[ファイルから貼り付け] ダイアログボックス	404
[印刷] ダイアログボックス	404
[OnTrack Action (OnTrack アクション)] ダイアログボックス	405
[ピボットテーブルオプション] ダイアログボックス	405
[データの視点] ダイアログボックス	406
[Preview Window (プレビューウィンドウ)] ダイアログボックス	407
[プレビューページ指定] ダイアログボックス	407
[プロンプト値] ダイアログボックス	408
[レポートの置換] ダイアログボックス	408
[レポート情報] ダイアログボックス	408
[レポートオプション] ダイアログボックス	409
[レポートにおけるデータの視点] ダイアログボックス	410
[レポートセット情報] ダイアログボックス	410
[レポートウィザード] ダイアログボックス	411
[名前を付けて保存] ダイアログボックスと [サマリー情報] ダイアログ ボックス	412
[条件式の編集] ダイアログボックス	412
[タグ] ダイアログボックス	413

[勘定科目] ダイアログボックス - [範囲] パネル	414
[勘定科目] ダイアログボックス - [関数] パネル	415
[勘定科目] ダイアログボックス - [一覧] パネル	416
[パッケージにおけるデータの視点] ダイアログボックス	416
パッケージにおけるデータの視点 - [連結の詳細] ダイアログボック ス	417
パッケージにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス ...	417
パッケージにおけるデータの視点 - [データ種別] ダイアログボック ス	417
パッケージにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボック ス	417
パッケージにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボック ス	418
パッケージにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス ...	418
パッケージにおけるデータの視点 - [親] ダイアログボックス	418
パッケージにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス	418
変更項目の編集 - [Additional Dimension (追加ディメンション)] ダイアロ グボックス	419
変更項目の編集 - [データ種別] ダイアログボックス	419
変更項目の編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス	419
変更項目の編集 - [通貨単位] ダイアログボックス	419
変更項目の編集 - [エンティティ] ダイアログボックス	420
変更項目の編集 - [フィールド] ダイアログボックス	420
変更項目の編集 - [期間単位] ダイアログボックス	420
変更項目の編集 - [親] ダイアログボックス	420
変更項目の編集 - [期間] ダイアログボックス	420
変更項目の編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス	420
変更項目の編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス	421
変更項目の編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス	421
ディメンションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス	421
ディメンションの編集 - [データ種別] ダイアログボックス	421
ディメンションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス	421
ディメンションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス	422
ディメンションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス	422
ディメンションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス	422
ディメンションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス	422
ディメンションの編集 - [親] ダイアログボックス	423
ディメンションの編集 - [期間] ダイアログボックス	423
ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス	423
ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス	423

ディメンションの編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス	424
[計算式の編集] ダイアログボックス - [データ] パネル	424
[計算式の編集] ダイアログボックス - [ヘッダー/フッター] パネル	425
セクションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス	425
セクションの編集 - [データ種別] ダイアログボックス	425
セクションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス	426
セクションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス	426
セクションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス	426
セクションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス	426
セクションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス	426
セクションの編集 - [期間] ダイアログボックス	427
[エンティティ] ダイアログボックス - [ID] パネル	427
[エンティティ] ダイアログボックス - [関数] パネル	428
[エンティティ] ダイアログボックス - [一覧] パネル	428
[書式] ダイアログボックス - [フォント] パネル	429
[書式] ダイアログボックス - [網掛け/枠線] パネル	430
[書式] ダイアログボックス - [数値] パネル	431
[書式] ダイアログボックス - [レイアウト] パネル	432
[書式] ダイアログボックス - [表示] パネル	433
[書式] ダイアログボックス - [タイトル] パネル	434
[書式] ダイアログボックス - [ソート] パネル	435
[書式] ダイアログボックス - [表示基準] パネル	436
[書式] ダイアログボックス - [調査] パネル	438
[書式] ダイアログボックス - [展開] パネル	439
[レポートの貼り付け] ダイアログボックス	440
[プロンプトの貼り付け] ダイアログボックス	440
[ページ設定] ダイアログボックス - [日付] パネル	441
[ページ設定] ダイアログボックス - [一般] パネル	441
[ページ設定] ダイアログボックス - [ページ番号] パネル	442
[ページ設定] ダイアログボックス - [テキスト] パネル	442
[ページ設定] ダイアログボックス - [時間] パネル	443
ディメンションの貼り付け - [勘定科目] ダイアログボックス	444
ディメンションの貼り付け - [データ種別] ダイアログボックス	444
ディメンションの貼り付け - [連結の詳細] ダイアログボックス	444
ディメンションの貼り付け - [通貨単位] ダイアログボックス	444
ディメンションの貼り付け - [エンティティ] ダイアログボックス	444
ディメンションの貼り付け - [フィールド] ダイアログボックス	445
ディメンションの貼り付け - [期間単位] ダイアログボックス	445
ディメンションの貼り付け - [親] ダイアログボックス	445

ディメンションの貼り付け - [期間] ダイアログボックス	445
ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス ...	445
ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス ...	446
ディメンションの貼り付け - [サブエンティティ] ダイアログボック ス	446
[特殊貼り付け] ダイアログボックス	446
[OnTrack アクションの貼り付け] ダイアログボックス : [テキストメモ] パネル	446
[OnTrack アクションの貼り付け] ダイアログボックス : [グラフィックメ モ] パネル	447
[OnTrack アクションの貼り付け] ダイアログボックス : [調査] パネ ル	448
[OnTrack アクションの貼り付け] ダイアログボックス : [起動] パネ ル	448
[データの視点] ダイアログボックス - [勘定科目] パネル	449
[データの視点] ダイアログボックス - [データ種別] パネル	449
[データの視点] ダイアログボックス - [連結の詳細] パネル	450
[データの視点] ダイアログボックス - [通貨単位] パネル	450
[データの視点] ダイアログボックス - [エンティティ] パネル	450
[データの視点] ダイアログボックス - [フィールド] パネル	451
[データの視点] ダイアログボックス - [期間単位] パネル	451
[データの視点] ダイアログボックス - [親] パネル	452
[データの視点] ダイアログボックス - [期間] パネル	452
[データの視点] ダイアログボックス - [サブエンティティ] パネル ...	453
[データの視点] ダイアログボックス - [サブ勘定科目 1] パネル	453
[データの視点] ダイアログボックス - [サブ勘定科目 2] パネル	453
プロンプト値 - [勘定科目] ダイアログボックス	454
プロンプト値 - [データ種別] ダイアログボックス	454
プロンプト値 - [連結の詳細] ダイアログボックス	454
プロンプト値 - [エンティティ] ダイアログボックス	454
プロンプト値 - [フィールド] ダイアログボックス	455
プロンプト値 - [期間単位] ダイアログボックス	455
プロンプト値 - [親] ダイアログボックス	455
プロンプト値 - [期間] ダイアログボックス	455
プロンプト値 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネ ル	455
プロンプト値 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネ ル	456
プロンプト値 - [サブエンティティ] ダイアログボックス	456
[レポートにおけるデータの視点] ダイアログボックス	457

レポートにおけるデータの視点 - [データ種別] ダイアログボックス	457
レポートにおけるデータの視点 - [連結の詳細] ダイアログボックス	457
レポートにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス	458
レポートにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボックス	458
レポートにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボックス	458
レポートにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス	458
レポートにおけるデータの視点 - [親] ダイアログボックス	458
レポートにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス	459
レポートにおけるデータの視点 - [表示形式] ダイアログボックス	459
パッケージにおけるデータの視点 - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル	459
パッケージにおけるデータの視点 - [勘定科目] ダイアログボックス : [関 数] パネル	460
パッケージにおけるデータの視点 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル	460
パッケージにおけるデータの視点 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル	461
パッケージにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル	461
パッケージにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス : [関 数] パネル	461
パッケージにおけるデータの視点 - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル	462
パッケージにおけるデータの視点 - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル	462
パッケージにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル	463
パッケージにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル	463
パッケージにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル	464
パッケージにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル	464
パッケージにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル	464
パッケージにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス : [関 数] パネル	465
パッケージにおけるデータの視点 - [親] ダイアログボックス : [ID] パ ネル	465

パッケージにおけるデータの視点 - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル	466
パッケージにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル	466
パッケージにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル	467
パッケージにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル	467
パッケージにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [関数] パネル	468
パッケージにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル	468
パッケージにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [関数] パネル	469
パッケージにおけるデータの視点 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル	469
パッケージにおけるデータの視点 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル	470
変更項目の編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル	470
変更項目の編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [関数] パネル ...	471
変更項目の編集 - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル ...	471
変更項目の編集 - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル	472
変更項目の編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル ...	472
変更項目の編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル	472
変更項目の編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル	473
変更項目の編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [関数] パネル ...	473
変更項目の編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル	473
変更項目の編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル	474
変更項目の編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル ...	474
変更項目の編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル	474
変更項目の編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル	475
変更項目の編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル ...	475
変更項目の編集 - [親] ダイアログボックス : [ID] パネル	475
変更項目の編集 - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル	476
変更項目の編集 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル	476
変更項目の編集 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル	477

変更項目の編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル	477
変更項目の編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [関数] パネル	478
変更項目の編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル	478
変更項目の編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [関数] パネル	479
変更項目の編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル	479
変更項目の編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル	479
ディメンションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [関数] パネル	480
ディメンションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [一覧] パネル	481
ディメンションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル	481
ディメンションの編集 - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル	482
ディメンションの編集 - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル	482
ディメンションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル	483
ディメンションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル	484
ディメンションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル	484
ディメンションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [関数] パネル	485
ディメンションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル	486
ディメンションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル	487
ディメンションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [一覧] パネル	487
ディメンションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル	488
ディメンションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル	488
ディメンションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル	489
ディメンションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル	490

ディメンションの編集 - [親] ダイアログボックス : [ID] パネル	490
ディメンションの編集 - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル	491
ディメンションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル	492
ディメンションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル	493
ディメンションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [範囲] パネル	494
ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [関数] パネル	495
ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル	495
ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [範囲] パネル	496
ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [関数] パネル	497
ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル	497
ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [範囲] パネル	498
ディメンションの編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル	499
ディメンションの編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル	499
セクションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル	500
セクションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [関数] パネル	500
セクションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [範囲] パネル	501
セクションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [一覧] パネル	502
セクションの編集 - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル	502
セクションの編集 - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル	503
セクションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル	504
セクションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル	504
セクションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル	505
セクションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [関数] パネル	505
セクションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル	506

セクションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル	506
セクションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [一覧] パネル	507
セクションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル	508
セクションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル	508
セクションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル	509
セクションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル	509
セクションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル	510
セクションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル	511
セクションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [範囲] パネル	511
[フォントおよび網掛け/枠線の書式] ダイアログボックス - [フォント] パネル	512
[フォントおよび網掛け/枠線の書式] ダイアログボックス - [網掛け/枠線] パネル	513
ディメンションの貼り付け - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル	514
ディメンションの貼り付け - [勘定科目] ダイアログボックス : [関数] パネル	515
ディメンションの貼り付け - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル	515
ディメンションの貼り付け - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル	516
ディメンションの貼り付け - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル	516
ディメンションの貼り付け - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル	516
ディメンションの貼り付け - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル	517
ディメンションの貼り付け - [通貨単位] ダイアログボックス : [関数] パネル	517
ディメンションの貼り付け - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル	518
ディメンションの貼り付け - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル	518
ディメンションの貼り付け - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル	519
ディメンションの貼り付け - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル	519

ディメンションの貼り付け - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル	519
ディメンションの貼り付け - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル	520
ディメンションの貼り付け - [親] ダイアログボックス : [ID] パネル	520
ディメンションの貼り付け - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル	521
ディメンションの貼り付け - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル	521
ディメンションの貼り付け - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル	522
ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル	522
ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [関数] パネル	523
ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル	523
ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [関数] パネル	524
ディメンションの貼り付け - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル	524
ディメンションの貼り付け - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル	525
プロンプト値 - [勘定科目] ダイアログボックス : [範囲] パネル	525
プロンプト値 - [勘定科目] ダイアログボックス : [一覧] パネル	526
プロンプト値 - [勘定科目] ダイアログボックス : [関数] パネル	526
プロンプト値 - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル	527
プロンプト値 - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル	528
プロンプト値 - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル	528
プロンプト値 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル	529
プロンプト値 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル	530
プロンプト値 - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル	530
プロンプト値 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル	531
プロンプト値 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル	532
プロンプト値 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル	532
プロンプト値 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル	533
プロンプト値 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル	533

プロンプト値 - [親] ダイアログボックス : [ID] パネル	534
プロンプト値 - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル	534
プロンプト値 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル	535
プロンプト値 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル	536
プロンプト値 - [期間] ダイアログボックス : [範囲] パネル	537
プロンプト値 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル	538
プロンプト値 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル	538
レポートにおけるデータの視点 - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル	539
レポートにおけるデータの視点 - [勘定科目] ダイアログボックス : [関数] パネル	539
レポートにおけるデータの視点 - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル	540
レポートにおけるデータの視点 - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル	540
レポートにおけるデータの視点 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル	541
レポートにおけるデータの視点 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル	541
レポートにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル	541
レポートにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス : [関数] パネル	542
レポートにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル	542
レポートにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル	543
レポートにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル	543
レポートにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル	544
レポートにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル	544
レポートにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル	544
レポートにおけるデータの視点 - [親] ダイアログボックス : [ID] パネル	545
レポートにおけるデータの視点 - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル	545
レポートにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル	546

レポートにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル	546
レポートにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル	547
レポートにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [関数] パネル	547
レポートにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル	548
レポートにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [関数] パネル	549
レポートにおけるデータの視点 - [表示形式] ダイアログボックス : [ID] パネル	549
レポートにおけるデータの視点 - [表示形式] ダイアログボックス : [関数] パネル	550
[サブ勘定科目 1] ダイアログボックス	550
[サブ勘定科目 2] ダイアログボックス	550
[親] ダイアログボックス	550
[サブ勘定科目 1] ダイアログボックス - [ID] パネル	551
[サブ勘定科目 1] ダイアログボックス - [関数] パネル	551
[サブ勘定科目 2] ダイアログボックス - [ID] パネル	552
[サブ勘定科目 2] ダイアログボックス - [関数] パネル	552
Hyperion Enterprise Reporting	552
用語集	553
索引	581

この章の内容

ディメンションのカスタマイズ	31
計算式バーのカスタマイズ	32
データの視点バーのカスタマイズ	33

オラクルの Hyperion® Enterprise® Reporting デスクトップのレポートウィンドウおよびパッケージウィンドウのデータの視点バー、計算式バー、ディメンションアイコンをカスタマイズできます。

ディメンションのカスタマイズ

ディメンションは次のようにカスタマイズできます。

- データの視点バーおよび計算式バーのメニューオプション、ステータスバー、およびツールチップに表示されるディメンションの名前または説明を指定します。[データの視点] ダイアログボックスのタブの名前または説明も指定できます。
- データの視点バーおよび計算式バーに表示されるディメンションのアイコンを変更するか、カスタムのアイコンを使用します。

ディメンションの管理によって Hyperion Enterprise Reporting をカスタマイズする場合は、すべての変更内容は使用しているユーザ ID にのみ適用されます。カスタムの設定は、設定を変更するまで有効です。例えば、エンティティのディメンションにカスタムのアイコンを使用した場合は、次回 Hyperion Enterprise Reporting を起動したときに、そのエンティティのディメンションのカスタムのアイコンが表示されます。

カスタムのアイコンの推奨サイズは 16×16 ピクセル、推奨バックグラウンドは RGB (192,192,192) です。カスタムのアイコンを使用している場合は、REPEING.INI ファイルの[Product-Server-Application Set-Application]セクションを次のように更新する必要があります。

```
[Product-Server-ApplicationSet-Application]
DimensionCustomBitmap_xxx = e:\newicon.bmp
```

注： 構文では大文字と小文字は区別されません。

変数	用途
Product	製品名（Enterprise または Essbase）。
Server	Hyperion Essbase のサーバ名（OLAP）。Hyperion Enterprise では、このパラメータは省略します。
ApplicationSet	Hyperion Essbase のアプリケーション名。Hyperion Enterprise では、このパラメータは省略します。
Application	Hyperion Enterprise のアプリケーション名、または Hyperion Essbase のデータベース名。
xxx	ディメンション名。
e:\newicon.bmp	カスタムのアイコンのパスおよびファイル名。

▶ ディメンションをカスタマイズするには、次の手順に従います。

- 1 レポートウィンドウまたはパッケージウィンドウで [タスク] メニューから [ディメンションのカスタマイズ] を選択します。
- 2 ディメンション一覧からディメンションを選択し、次のいずれかの操作を行います。
 - ディメンションのアイコンをデフォルトに戻すには、[デフォルトのアイコン] をクリックします。
 - アイコンを変更するには、アイコンを選択するか、カスタムのアイコン名を指定します。

注： 指定したディレクトリにカスタムのアイコンが存在する必要があります。

- ディメンション名を表示するには、[名前] ボタンをクリックします。
- ディメンションの説明を表示するには、[説明] ボタンをクリックします。

注： ディメンションの説明と名前は、Hyperion Enterprise アプリケーションで共通です。

- 3 [OK] をクリックします。

計算式バーのカスタマイズ

計算式バーに表示するディメンションを指定して、計算式バーの外観をカスタマイズできます。

▶ 計算式バーをカスタマイズするには、次の手順に従います。

- 1 [タスク] メニューから [計算式バーのカスタマイズ] を選択するか、計算式バーにカーソルを置き、右マウスボタンでクリックしてから [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 計算式バーに表示する各ディメンションの [Show Button（ボタンの表示）] チェックボックスをオンにします。
- 3 [OK] をクリックします。

データの視点バーのカスタマイズ

データの視点バーの外観をカスタマイズできます。表示するディメンションボタンを指定したり、ディメンションボタンにアイコン、名前、または説明を表示するかどうかを指定したりできます。名前または説明に使用するフォントも指定できます。

▶ データの視点バーをカスタマイズするには、次の手順に従います。

1 [タスク] メニューから [データの視点バーのカスタマイズ] を選択するか、データの視点バーにカーソルを置き、右マウスボタンでクリックし、[カスタマイズ] をクリックします。

2 必要に応じて次の操作を行います。

- データの視点バーに各ディメンションボタンのディメンションアイコンを表示するには、[アイコンの表示] をクリックします。

注： ディメンションアイコンを変更するには、[31 ページの「ディメンションのカスタマイズ」](#)を参照してください。

- データの視点バーに、各ディメンションボタンの名前を表示するには [名前]、説明を表示するには [説明]、テキストを表示しない場合は [なし] をクリックします。

ヒント： 名前および説明のフォントオプションを指定するには、[フォント] ボタンをクリックします。

- データの視点バーに表示する各ディメンションボタンの [Show Button (ボタンの表示)] チェックボックスをオンにします。

3 [OK] をクリックします。

2

レポートとパッケージの作成と保存

この章の内容

レポートまたはパッケージの作成	35
レポートまたはパッケージを閉じる	36
レポートまたはパッケージの保存	36
複合レポートについて	37
複合レポートの作成	39

Hyperion Enterprise Reporting を使用して、スプレッドシートに似た罫線付きレポートを作成できます。標準レポートまたは複合レポートを作成できます。作成したレポートは Hyperion Enterprise Reporting で編集または印刷できます。レポートを作成する前にデザインを決定する必要があります。

レポートまたはパッケージを初めて保存するときは、ファイルに名前を付け、レポートまたはパッケージをレポートセットまたはパッケージセットに割り当てます。レポートまたはパッケージにタイトルを付けたり、コメントを追加したりすることもできます。

保存したレポートまたはパッケージは、出力のハードコピーを作成したり、ファイルに出力したりできます。また、レポートをプレビューして出力を確認できます。詳しくは、[152 ページの「レポートおよびパッケージの出力」](#)を参照してください。

レポートまたはパッケージの作成

レポートを作成するには、レポートウィンドウの罫線の列および行にディメンションとディメンション ID を割り当てます。パッケージを作成するには、パッケージウィンドウでレポート、ディメンションのセクション、およびディメンション ID の変更の行を追加します。

ディメンションのレポートまたはパッケージのデータの視点を定義して、レポートまたはパッケージでディメンションのデータを取得できます（レポートまたはパッケージ内でデータの視点を上書きした場合は、上書きしたデータの視点が優先されます）。詳しくは、[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)を参照してください。

例えば、現在の月の複数のエンティティの収益と費用のデータを示す「損益計算書」という標準レポートを作成して、レポートの列にエンティティを、行に収益と費用の勘定科目を割り当てることができます。

また、現在の月の損益計算書と貸借対照表の両方を含む複合レポートを作成して、複合レポート内の各標準レポートの列および行を設定することもできます。

同じ組織内のエンティティ間のトランザクションを示す会社間照合レポートを作成できます。時間の経過に従って変化する組織の場合、組織内である期間から別の期間までの会社間出資を示すレポートを作成できます。詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』または Hyperion Enterprise Reporting のヘルプを参照してください。

「四半期別レポート」という四半期ごとのパッケージを作成できます。四半期別レポートパッケージには、損益計算書レポート、貸借対照表、およびその他のレポートを含めることができます。

- ▶ レポートセットまたはパッケージを作成するには、次の手順に従います。
- 1 [ファイル] メニューの [新規作成]、または [新規作成] アイコンを選択します。
- 2 [標準レポート]、[複合レポート]、または [パッケージ] を選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

レポートまたはパッケージを閉じる

レポートまたはパッケージを閉じるときに変更が保存されていない場合は、変更を保存するよう求めるメッセージが表示されます。以前にレポートまたはパッケージを保存していない場合は、レポートまたはパッケージに名前を付けるための [ファイルに名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

- ▶ レポートまたはパッケージを閉じるには、レポートまたはパッケージウィンドウで [ファイル] メニューの [閉じる] を選択します。

ヒント： すべてのレポートおよびパッケージを閉じるには、[ウィンドウ] メニューの [すべて閉じる] を選択します。

レポートまたはパッケージの保存

レポートまたはパッケージを作成または編集したときに行った変更内容を保存するには、レポートまたはパッケージを保存します。保存するときは、レポートまたはパッケージの名前を変更することもできます。レポートまたはパッケージを保存しても、レポートまたはパッケージウィンドウは閉じないので、編集作業を続けることができます。

レポートまたはパッケージを初めて保存するときは、レポートまたはパッケージを少なくとも1つの既存のレポートセットまたはパッケージセットに追加して、セキュリティクラスを指定する必要があります。レポートまたはパッケージのタイトルを指定することやコメントを保存することもできます。

例えば、第1四半期の貸借対照表レポートに「Q1BAL.RPT」という名前を付けて保存し、セキュリティクラス「マネージャ」を指定して、レポートの内容を説明するコメントを追加できます。このレポートを貸借対照表レポートに追加します。また、貸借対照表と損益計算書のパッケージに「BALINC.BPT」という名前を付け

て保存し、セキュリティクラス「取締役」を指定して、パッケージの内容を説明するコメントを追加できます。

- ▶ レポートまたはパッケージウィンドウでアクティブなレポートまたはパッケージを保存するには、次のいずれかの操作を行います。
 - 以前に保存されていないレポートまたはパッケージを保存するには、[ファイル] メニューの [保存]、または [保存] ツールバーアイコンを選択し、ファイル名、セキュリティクラス、セット、タイトル（オプション）、およびレポートのコメント（オプション）を指定して [OK] をクリックします。
 - 以前に保存されているレポートまたはパッケージを保存するには、[ファイル] メニューの [保存] を選択するか、または [保存] ツールバーアイコンを選択します。
 - 開いているすべてのレポートおよびパッケージの変更内容を保存するには、[ファイル] メニューの [すべて保存] を選択します。
 - レポートまたはパッケージの名前を変更する場合や、セットまたはその他の情報を変更する場合は、レポートウィンドウで [ファイル] メニューの [名前を付けて保存] を選択するか、または [保存] アイコンを選択して、変更を行います。

注： ファイル名には最大 20 文字まで入力できます。

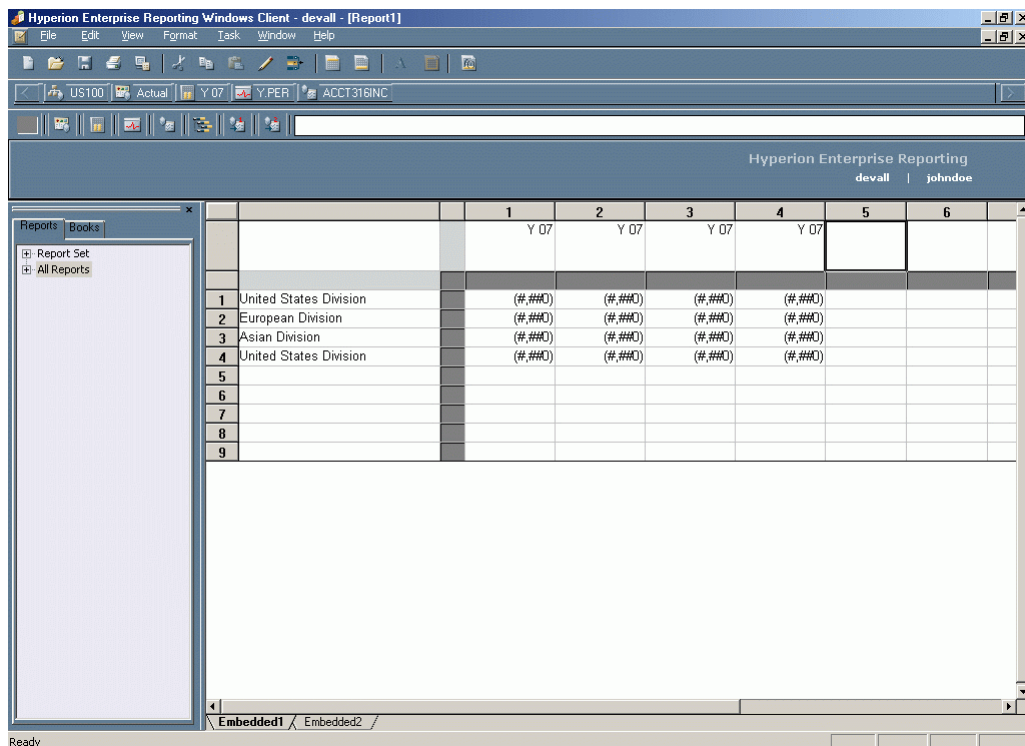
複合レポートについて

複合レポートには、一緒に表示される複数のレポートが含まれます。複合レポートに含まれるレポートは、組み込みレポートと呼ばれます。複合レポートのレイアウトにより、組み込みレポートの数および複合レポートの出力での配置が決定されます。

複合レポートのレポートウィンドウには、各組み込みレポートがタブ形式で表示されます。標準レポートを作成または編集する場合と同じように、各タブパネルで、組み込みレポートを作成または編集します。組み込みレポートの表示を切り替えるには、パネルタブまたは [表示] メニューのコマンドを使用します。

次の図に、2 つのレポートパネルがある複合レポートウィンドウを示します。

図 1 複合レポートウィンドウ



複合レポートには、すべての組み込みレポートに適用されるレポートのデータの視点があります。複合レポートには、ヘッダーとフッターを指定できます。ヘッダーとフッターは、レポートを実行するときに各ページの上下にそれぞれ表示されます。各組み込みレポートに対してヘッダーとフッターを作成することもできます。

組み込みレポートとして標準レポートを複合レポートに貼り付けることができます。組み込みレポートとして標準レポートを複合レポートにインポートすることもできます。その場合は、インポートされた標準レポートが変更された場合に組み込みレポートにも変更が反映されるように標準レポートへのリンクが作成されます。詳しくは、[55 ページの「レポートまたはパッケージ領域の貼り付け」](#)を参照してください。

複合レポートを実行すると、すべての組み込みレポートが複合レポート内で実行されます。組み込みレポートを独立したレポートとして実行するには、そのレポートをコピーして、新しい標準レポートに貼り付ける必要があります。

複合レポートをプレビューして、印刷する前に画面で出力を確認できます。[プレビュー] ウィンドウには、複合レポートのデータ、タイトル、および書式が表示されます。複合レポートは、[プレビュー] ウィンドウから印刷できます。また、レポートウィンドウに戻ってレポートの計算式や書式を変更してから印刷することもできます。詳しくは、[152 ページの「アクティブなレポート、一連のレポート、または一連のレポートセットのプレビュー」](#)を参照してください。

次の図に、サンプルの複合レポートが表示された [プレビュー] ウィンドウを示します。

図2 サンプルの複合レポートが表示された「プレビュー」ウィンドウ

First Last Next Previous Goto Zoom Print Margins Close			
SUMMARY BALANCE SHEET 1st Quarter 2002			
Assets		Liabilities & Equity	
TOTAL CURRENT ASSETS	\$4,285,000	TOTAL SHORT TERM LIABILITIES	\$1,498,000
TOTAL FINANCIAL ASSETS	1,436,500	TOTAL LONG TERM LIABILITIES	1,882,000
TOTAL TANGIBLE ASSETS	1,401,500	TOTAL EQUITY	4,140,000
TOTAL INTANGIBLE ASSETS	397,000	TOTAL LIABILITIES AND EQUITY	7,520,000
TOTAL ASSETS	<u>7,520,000</u>		
Key Ratios			
Current Ratio	2.86		

複合レポートには、拡張子.crb が付けられます。この拡張子により、.rpt 拡張子の付いた標準レポートおよび.bpt 拡張子の付いたパッケージと複合レポートを区別できます。

注： Hyperion Schedules および Hyperion Distributed Schedules では、複合レポートを使用しません。複合レポートでデータ入力表を作成すると、空のデータ入力表が作成されます。

複合レポートの作成

複合レポートは、各組み込みレポートを設定するパネルのある複合レポートウィンドウで作成します。デフォルトでは、複合レポートには2つの組み込みレポートがありますが、3つまたは4つのレポートを使用するレイアウトを選択できます。

複合レポートには、以下のレイアウトを指定できます。

- 並列表示の2つのレポート
- 2つの並列表示レポートおよびその下に表示される別のレポート
- 2つの並列表示レポートおよびその上に表示される別のレポート
- 重ねて表示される2つ、3つ、または4つのレポート

レイアウトを設定する場合、各組み込みレポートの位置を指定します。例えば、3つのレポートが組み込まれている複合レポートの場合、左上に表示するレポート、右上に表示するレポート、および下に表示するレポートを指定します。各組み込みレポートの位置および名前はいつでも変更できます。複合レポートレイアウトで次のレイアウトオプションを設定します。

- 縦向きまたは横向きでの印刷
- 印刷順序
- 余白

➤ 複合レポートを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [ファイル] メニューの [新規作成] または [新規作成] ツールバーアイコンを選択して、[複合レポート] を選択します。
- 2 レイアウトの選択、複合レポートヘッダーまたはフッターの設定、レイアウトオプションの選択、または組み込まれたレポートの表示順序の調整を行うには、[表示]

メニューの「レイアウト」を選択するか、パネルをダブルクリックして、次のいずれかの操作を行います。

- レポートレイアウトを選択するには、レポートテンプレートを選択します。
 - 複合レポートのヘッダーまたはフッターを作成するには、「複合レポートヘッダー」または「複合レポートフッター」アイコンを選択します。
 - レポートの表示位置を変更するには、目的のレポートをハイライトして、「上に移動」または「下に移動」アイコンを選択します。
 - レイアウトオプションを設定するには、「Compound Report Spacing Options（複合レポートレイアウトオプション）」アイコンを選択します。
- 3** 組み込みレポートを作成するには、複合レポートウィンドウ下部の該当するパネルをクリックするか、「表示」メニューからレポートを選択します。
- 4** 既存の標準レポートを複合レポートにコピーするには、次のいずれかの操作を行います。
1. 「ファイル」メニューの「開く」を選択し、標準レポートの名前をハイライトして「OK」をクリックします。
 2. 標準レポート全体をハイライトして、「編集」メニューの「コピー」を選択するか、または「コピー」アイコンを選択します。
 3. 「ファイル」メニューの「新規作成」を選択して、「複合レポート」を選択します。
 4. 組み込みレポートパネル全体をハイライトして、「編集」メニューの「特殊貼り付け」を選択し、「すべて」をクリックして「OK」をクリックします。
 5. 「書式」メニューの「レイアウト」を選択し、上下左右の余白を0に設定して「OK」をクリックします。

ヒント： 複合レポートに含まれる組み込みレポートに標準レポートのリンクを設定するには、「表示」メニューの「インポートオプション」を選択します。詳しくは、[66 ページの「レポートのインポート」](#)を参照してください。

この章の内容

Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点について.....	41
パッケージのデータの視点について.....	42
レポートのデータの視点について.....	42
[データの視点] ダイアログボックス.....	42
Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定.....	43
パッケージにおけるデータの視点の設定.....	48
レポートにおけるデータの視点の設定.....	49

レポートの各セルはディメンションのデータを取得し、これらのデータは列および行に割り当てられます。ディメンションがレポートに割り当てられない場合は、レポートのデータの視点、パッケージのデータの視点、または Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点からセルに設定が継承されます。

Hyperion Enterprise Reporting では、次のデータの視点の設定をこの順序で使用して、取得するデータ値を決定します。

- 各レポートに含まれている列と行
- 各レポートに定義したレポートのデータの視点
- パッケージでレポートを実行している場合は、パッケージで定義したセクション
- パッケージでレポートを実行している場合は、パッケージのデータの視点
- Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点

Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点について

Hyperion Enterprise Reporting は、現在の Hyperion Solutions 製品アプリケーションからデータの視点を継承しますが、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点は、いつでもリセットできます。新しい設定は、Hyperion Enterprise Reporting 内の設定を再び変更するまで有効です。Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点に加えた変更内容は、使用しているユーザ ID に適用され、アプリケーションデータベースには影響を与えません。Hyperion Enterprise Reporting を終了すると、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点は自動的に保存されるので、変更内容は次のセッションで適用されます。

Hyperion Enterprise Reporting では、各ディメンションに Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点が設定されています。データの視点バーには、これらの

ディメンションを必要な数だけ表示できます。データの視点をカスタマイズする手順については、33 ページの「データの視点バーのカスタマイズ」を参照してください。

パッケージのデータの視点について

パッケージのデータの視点を設定し、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を上書きできます。パッケージを実行すると、Hyperion Enterprise Reporting では、パッケージのレポートの列および行、レポートのデータの視点、またはパッケージの行やセクションに割り当てられていないディメンションに対して、パッケージのデータの視点の ID が使用されます。

例えば、四半期別レポートのパッケージのデータの視点のデータ種別が Actual だとします。パッケージには、Forecast データ種別が指定されたレポートのデータの視点を持つレポートを含めることができます。パッケージを実行すると、そのレポートには Forecast データが取得されます。パッケージ内で、独自のデータの視点のデータ種別を持たないレポートには Actual データが取得されます。

レポートのデータの視点について

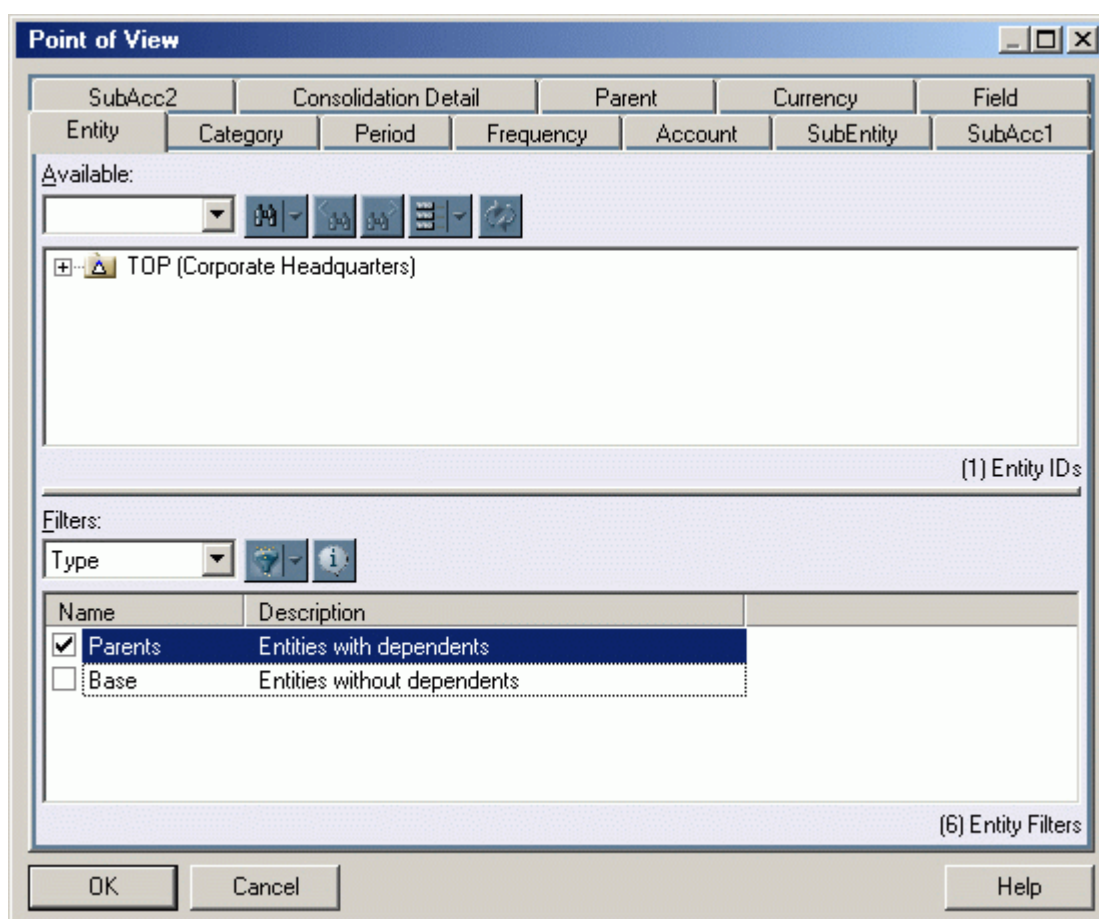
レポートのデータの視点を設定し、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を上書きできます。レポートを実行すると、Hyperion Enterprise Reporting では、特別に列および行に割り当てられていないディメンションのレポートのデータの視点が最初に参照されます。パッケージにレポートが含まれている場合は、レポートのデータの視点によってパッケージのデータの視点が上書きされます。

例えば、レポートの行に勘定科目のみ、列にデータの種別のみを割り当て、期間を割り当てるレポートのデータの視点を作成するとします。レポートを実行すると、Hyperion Enterprise Reporting では、データの視点の期間のデータ、および行に割り当てられたデータ種別と勘定科目のデータが取得されます。システムでは、他のすべてのディメンションに設定された Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点が参照されます。パッケージの一部としてこのレポートを実行すると、システムではパッケージのデータの視点が参照され、次に他のすべてのディメンションに設定された Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点が参照されます。

[データの視点] ダイアログボックス

[データの視点] ダイアログボックスを使用して、データの視点にディメンション ID を割り当てることができます。[データの視点] ダイアログボックスとそのコンポーネントを次の図に示します。コンポーネントについて詳しくは、次の図の項目を参照してください。

図3 「データの視点」ダイアログボックス



1. 「使用可能な項目」リスト
2. 検索オプション
3. 使用可能なオプション
4. 分割バー
5. フィルタ
6. フィルタの概要

Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定

列または行、アクティブなレポートのデータの視点、あるいはアクティブなパッケージのデータの視点で割り当てられていないディメンションの ID は、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点によって指定されます。Hyperion Enterprise Reporting を Hyperion Enterprise アプリケーションとともに初めて起動すると、Hyperion Enterprise Reporting では、そのアプリケーションのデータの視点が継承されます。Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点は、データの視点バーまたは「編集」メニューの「データの視点」コマンドを使用していつでもリセットできます。Hyperion Enterprise Reporting では、次の Hyperion Enterprise Reporting セッションのために新しい設定が保存されます。ただし、変更内容は、アプリケーションに対する Hyperion Enterprise のデータの視点に影響を与えません。

貸借対照表レポートの列または表にエンティティを割り当てるとします。データの視点のエンティティが Evergreen Paper Company であるレポートを実行すると、レポートでは Evergreen Paper Company の値が取得されます。データの視点のエンティティを Diamond Business Papersに変更し、レポートを再び実行すると、レポートでは Diamond Business Papers の値が取得されます。次回 Hyperion Enterprise Reporting をアプリケーションとともに起動するときは、Diamond Business Papers が Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点のエンティティになります。

注： REPENG.INI ファイルに Web=Yes が設定されており、Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションがインストールされている場合は、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を Hyperion Essbase に設定することはできません。Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点が設定されていない場合、Hyperion Enterprise Reporting は起動しません。

➤ Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を設定するには、次の手順に従います。

- 1 レポートウィンドウまたはパッケージウィンドウのデータの視点バーで、[編集] メニューから [データの視点] を選択し、ディメンション名を選択します。

ヒント： [編集] メニューを使用せずに、データの視点バーからディメンションのボタンをクリックすることもできます。

- 2 [使用可能な項目] リストに表示される ID を指定するには、フィルタを指定します。
- 3 ディメンション ID を選択します。
- 4 別のディメンションを設定するには、そのディメンションのパネルを選択し、ステップ 2 に進みます。
- 5 [OK] をクリックします。

【使用可能な項目】 リスト

フィルタを使用して、[使用可能な項目] リストに表示されるディメンション ID を指定します。検索オプションおよび使用可能なオプションを使用して、[使用可能な項目] リストのディメンション ID、関数、一覧を検索および表示します。次の表でこれらのコンポーネントについて説明します。






表 1 フィルタ、検索オプション、および使用可能なオプション

オプション	用途
フィルタ	[使用可能な項目] リストに表示されるディメンション ID を指定します。
検索オプション	[使用可能な項目] リストから項目を検索します。
使用可能なオプション	使用可能な項目のリストをツリー形式またはリスト形式で表示します。各項目に表示される属性を指定することもできます。

[使用可能な項目] リストに表示されるディメンション ID の前にはアイコンが表示されます。アイコンはどのディメンション ID がメモリに読み込まれているかを

示します。ID を検索する場合は、メモリに読み込まれている ID のみが検出されます。次の表に、各ディメンション ID アイコンおよびその意味を示します。

表 2 ディメンション ID アイコン

アイコン	定義
	最上位レベルの ID はリスト表示で読み込まれます。
	最上位レベルの ID はツリー表示で読み込まれます。
	ツリーにデータを挿入するために使用可能なオプションを使用する場合は、最上位レベルの ID とその子はツリー表示で読み込まれます。ツリーにデータを挿入するためにプラス記号アイコンを選択した場合は、最上位レベルの ID とその子、または最上位レベルの ID とそのすべての子孫がツリー表示に読み込まれます。
	最上位レベルの ID およびそのすべての子孫はツリー表示で読み込まれます。
	最下位レベルの ID はリスト表示で読み込まれます。

フィルタ

フィルタを使用して、ダイアログボックスの「使用可能な項目」リストに表示される ID を指定します。フィルタを使用すると、必要な ID のみが表示できます。

注： Field と View のディメンションではフィルタは使用されません。

「使用可能な項目」リストに表示される ID は、すべてのフィルタ内の指定項目の少なくとも 1 つと一致します。範囲のフィルタは最後に適用されます。まず、フィルタは最上位または親の ID を表示するように設定されます。アプリケーション内でフィルタが設定されると、それを再び変更するまで有効になります。

注： 「フィルタの概要」アイコンをクリックすると、設定されたすべてのフィルタとそれらの値を表示できます。

選択する ID が多数ある場合は、フィルタの選択を行うまで、使用可能なオプションにある「自動更新」オプションをオフにしてください。「更新」アイコンを選択して、メンバの選択を更新できます。次の表に、使用可能なフィルタの種類を説明します。

表 3 フィルタの種類

フィルタの種類	説明
リスト	リスト内で 1 つまたは複数の選択された項目に一致する ID を指定します。例えば、組織のフィルタを使用して Org1 および Org4 が選択された場合、Org1 または Org4 内のすべての ID は一致する ID となります。

フィルタの種類	説明
範囲	範囲内の ID を指定します。範囲は、他のすべてのフィルタが適用された後に、ID のリストに適用されます。例えば、すべてのフィルタが適用され、100 つの一致する ID があるとしします。範囲を「5-23」に設定すると、5 番目～23 番目の ID が「使用可能な項目」リストに表示されます。
ワイルドカード	*または?のワイルドカード記号を使用する項目を指定します。区切り文字として空白を使用すると、複数の検索を指定できます。例えば、名前のフィルタを使用して、「d*w*」と指定した場合、d または w から始まるすべての名前が一致します。[ワイルドカード] テキストボックスが空白の場合は、ID は一致しません。
オンまたはオフ	選択されたチェックボックスの項目に一致する ID を指定します。例えば、サブエンティティのフィルタを使用して下位構造とともにエンティティが選択された場合は、下位構造を含むすべての ID が一致する ID となります。

Hyperion Enterprise の例

次の例では、親ディメンションに 4 つのフィルタがあります。

組織を、ORG1 および ORG3 に設定
 名前を、d* および f* に設定
 説明を、* に設定
 範囲を、5～27 に設定

ORG1 または ORG3 に含まれるエンティティ ID で、これらの名前が d または f で始まるすべてのエンティティ ID は、フィルタに一致します。これらの ID の 5 番目～27 番目が「使用可能な項目」リストに表示されます。

Hyperion Essbase の例

次のフィルタを含むディメンションがあるとします。

リストを、Gen1, Account に設定
 期首残高を選択
 名前を、r* および w* に設定

期首残高を含む Gen1, Account リストの ID で、これらの名前が r または w で始まるすべての ID が、「使用可能な項目」リストに表示されます。

フィルタの概要

[フィルタの概要] アイコンを使用すると、設定されたすべてのフィルタとそれらの値を表示できます。

検索オプション

検索オプションを指定して、「使用可能な項目」リストの項目を検索します。システムが項目を検出するには、その項目がメモリに読み込まれている必要があります。

す。メモリに読み込まれる項目については、[44 ページの「\[使用可能な項目\] リスト」](#)を参照してください。

表 4 検索オプション

オプション	用途
名前の検索	名前によって検索します。
説明の検索	説明によって検索します。
ワイルドカードの検索	*または?のワイルドカード記号を使用する項目を指定します。区切り文字として空白を使用すると、複数の検索を指定できます。例えば、「d*w*」と指定した場合、d または w から始まるすべての項目が一致します。
大文字と小文字を区別して検索	大文字と小文字を区別して検索を実行します。
自動検索	入力された文字の一覧を検索します。このオプションがオフの場合は、[前を検索] または [次を検索] アイコンをクリックして検索を行う必要があります。

使用可能なオプション

使用可能なオプションを指定して、[使用可能な項目] リストの項目を表示します。

表 5 使用可能なオプション

オプション	用途
リスト表示	項目をリストで表示します。
ツリー表示	項目を階層ツリーで表示します。
すべてを展開	ツリーのすべての項目を展開します。
すべてを縮小	ツリーのすべての項目を縮小します。
選択項目を展開	ツリーのハイライトされた項目を展開します。
選択項目を縮小	ツリーのハイライトされた項目を縮小します。
すべてを読込	最上位レベルから開始してすべての子孫を読み込みます。
選択項目を読込	選択した ID のすべての子孫を読み込みます。
自動読込	すべての子孫を自動的に読み込みます。
自動更新	フィルタが変更されるたびに [使用可能な項目] リストを更新します。[自動更新] オプションがオフの場合に、フィルタされた ID を表示するには、[更新] アイコンを選択する必要があります。
[可視属性] メニューの [属性] リスト	属性を表示します。

分割バー

分割バーを使用して、ウィンドウ内のペインのサイズを変更できます。フィルタが含まれる場合は、分割バーはダイアログボックスの中央に表示されます。フィルタが含まれない場合は、分割バーはデフォルトでダイアログボックスの下部に表示されます。分割バーが移動されると、その指定された位置がデフォルトの位置になります。

パッケージにおけるデータの視点の設定

1 つ以上のディメンションを使用してパッケージのデータの視点を設定すると、パッケージの実行時にパッケージはデフォルトでそれらのディメンションのデータを取得できるようになります。パッケージのデータの視点は Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を上書きしますが、パッケージ内のレポートのディメンションの割り当てまたはデータの視点設定は、パッケージのデータの視点を上書きしません。

Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点のエンティティが「Evergreen Paper Company」であるとしてします。エンティティが割り当てられていないパッケージを実行すると、そのパッケージでは「Evergreen Paper Company」に関するデータが取得されます。パッケージのデータの視点を設定して「Diamond Business Papers」をエンティティとして使用すると、そのパッケージでは、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点に関係なく、「Diamond Business Papers」に関するデータが取得されます。

- ▶ パッケージのデータの視点を設定するには、次の手順に従います。
- 1 パッケージウィンドウで、[編集] メニューから [パッケージにおけるデータの視点] を選択します。
- 2 1 つまたは複数のディメンションのデータの視点をクリアするには、次のいずれかの操作を行います。
 - 1 つのディメンション設定をクリアするには、そのディメンション設定をハイライトして、[クリア] をクリックします。
 - すべてのディメンション設定をクリアするには、[すべてクリア] をクリックします。
- 3 パッケージのデータの視点に設定するディメンションをハイライトして、[セット] をクリックするか、ディメンションの ID をダブルクリックします。
- 4 [ID] または [関数] タブを選択します。
- 5 パッケージのデータの視点の ID または関数を選択して、[OK] をクリックします。詳しくは、[第 5 章「ディメンションの割り当て」](#)を参照してください。
- 6 パッケージのデータの視点にディメンションを設定するごとにステップ 3 ~ 5 を繰り返して、[OK] をクリックします。

レポートにおけるデータの視点の設定

1 つ以上のディメンションを使用してレポートのデータの視点を設定すると、レポートの実行時にレポートはデフォルトでそれらのディメンションのデータを取得できるようになります。レポートのデータの視点はパッケージのデータの視点および Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を上書きします。

損益計算書レポートのデータの視点を設定して「Diamond Business Papers」をエンティティとして使用すると、そのレポートでは、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点に関係なく、「Diamond Business Papers」に関するデータが取得されます。損益計算書レポートを含むパッケージのデータの視点を実行すると、そのレポートでは、パッケージのデータの視点に関係なく、「Diamond Business Papers」に関するデータが取得されます。

- ▶ レポートのデータの視点を設定するには、次の手順に従います。
- 1 レポートウィンドウで、[編集] メニューから [レポートにおけるデータの視点] を選択します。
 - 2 1 つまたは複数のディメンションをクリアするには、次のいずれかの操作を行います。
 - 1 つのディメンション設定をクリアするには、そのディメンション設定をハイライトして、[クリア] をクリックします。
 - すべてのディメンション設定をクリアするには、[すべてクリア] をクリックします。
 - 3 レポートのデータの視点に設定する任意のディメンションをハイライトして、[セット] をクリックするか、ディメンションの ID をダブルクリックします。
 - 4 [ID] または [関数] タブを選択します。
 - 5 レポートのデータの視点の ID または関数を選択して、[OK] をクリックします。
 - 6 レポートのデータの視点にディメンションを設定するごとにステップ 3 ~ 5 を繰り返して、[OK] をクリックします。

この章の内容

レポートのヘッダーとフッター	51
Hyperion Essbase レポートのセキュリティ	53
レポートおよびパッケージの領域	53
パッケージへのレポートの挿入	63
パッケージのレポートの置換	64
レポートまたはパッケージのサマリの編集	64
ヘッダーとフッターの設定	64
レポートのインポート	66

既存のレポートまたはパッケージを開いて編集できます。既存のレポートまたはパッケージでは、以下の操作を行うことができます。

- レポートまたはパッケージの領域の切り取り、コピー、貼り付け、または挿入
- パッケージでのレポートの挿入または再配置
- レポートオプションの設定（特定の属性を含む勘定科目の符号をプレゼンテーション目的で反転させる場合など）
- パッケージオプションの設定（ページ番号、内容、書式、パッケージの向き、パッケージの目次など）
- レポートまたはパッケージに関する要約情報の編集
- ヘッダーとフッターの設定
- 現在のレポートへのレポートのインポート

レポートのヘッダーとフッター

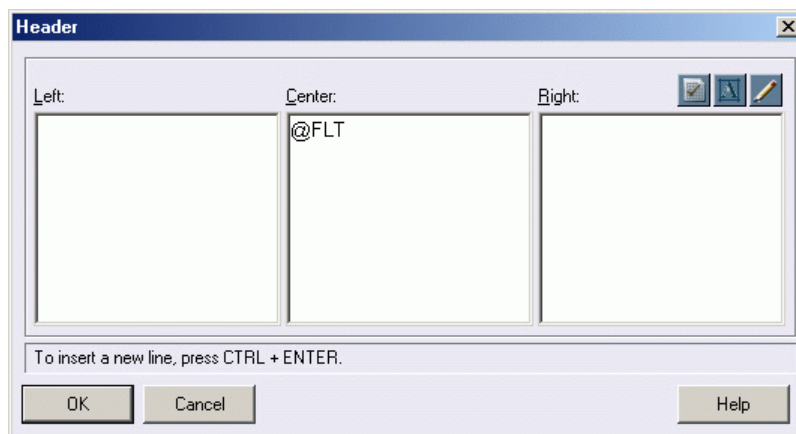
ヘッダーとフッターは、レポートの出力で各ページの上下それぞれに表示されるテキストです。ヘッダーとフッターには、アプリケーション名やディメンションの説明などのテキストを取得するテキスト関数を含んだ計算式を含めることができます。

ヘッダーとフッターは、中央、右、または左に配置できます。また、ヘッダーやフッター全体またはヘッダーやフッターの各行のフォント、色、およびその他のテキスト属性を指定することもできます。ヘッダーまたはフッターのフォントを指定した場合は、アクティブなレポートに対して [ページ書式] ダイアログボックスで設定したヘッダーフォントよりもこの設定が優先されます。

注： ヘッダーまたはフッターに指定したフォントのスタイルおよび色は、レポートをプレビューまたは実行するときのみ表示されます。

次の図は、@FLT 関数を使用してレポートのタイトルを取得し、タイトルを各ページの中央に表示するヘッダーを示します。

図 4 @FLT 関数を使用したサンプルヘッダー



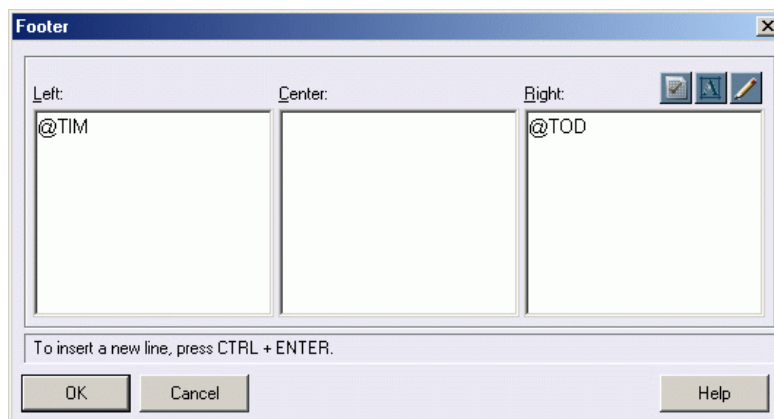
次の図は、「Cash Accounts」というタイトルのレポートの各ページに表示されるヘッダーを示します。ヘッダーでは、16 ポイントの Arial 太字フォントが使用されています。

図 5 サンプルのヘッダー出力

Corporate Office		Cash Accounts	
	JAN.2002	FEB.2002	MAR.2002
Bank of New York	90,090,606	93,680,449	98,096,612

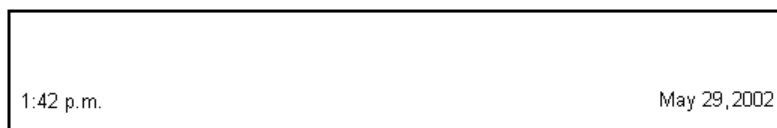
次の図は、@TIM テキスト関数を使用して現在のアプリケーションの説明を各ページの左下に表示し、@TOD テキスト関数を使用して現在の日付を各ページの右下に表示するフッターを示します。

図 6 @TIM および@TOD を使用したサンプルフッター



次の図は、2002 年 5 月 29 日（May 29, 2002）の午後 1 時 42 分にレポートを実行した場合に、このフッターがどのように表示されるかを示します。フッターの数値では、デフォルトのフォントオプションが使用されています。

図 7 サンプルのフッター出力



Hyperion Essbase レポートのセキュリティ

Hyperion Essbase レポートのセキュリティは、Hyperion Essbase アプリケーションの Hyperion Essbase アプリケーションマネージャで設定されたセキュリティを継承します。例えば、アプリケーションに対する読み取り専用アクセスを持ち、ユーザ ID が読み取り専用アクセスのグループに属しているユーザがレポートを作成した場合は、そのレポートを次のいずれかの方法で保存できます。

- レポートをパブリックに保存する。ユーザはレポートに対する変更アクセス権限を持ちます。
- レポートを自分の ID に保存する。ユーザはレポートに対する変更アクセス権限を持ちます。
- レポートを自分のグループに保存する。ユーザはレポートに対する変更アクセス権限を持ちません。

レポートおよびパッケージの領域

Hyperion Enterprise Reporting で標準レポート、複合レポートまたはパッケージを編集する場合、目的のレポートまたはパッケージをレポートまたはパッケージウィンドウで開きます。レポートまたはパッケージのファイル名とタイトルがレポートまたはパッケージウィンドウのタイトルバーに表示されます。レポートまたはパッケージに別のファイル名とタイトルを付けて保存することもできます。

レポート領域には、連続した列、行、または見出しがあります。また、レポート領域には、1 つのレポートまたはレポート全体のすべてのデータ（すべての見出しとデータを含む）も含まれます。パッケージ領域には、パッケージ内のリンクがあります。

レポートまたはパッケージを選択して編集できます。例えば、レポートの最初の 3 列を選択してコピーし、列 12 の後ろに貼り付けることができます。

レポートまたはパッケージを開く

- ▶ Hyperion Enterprise Reporting のウィンドウから既存のレポートまたはパッケージを開くには、次の手順に従います。

- 1 [ファイル] メニューの [開く] または [開く] ツールバーアイコンを選択します。

2 次のいずれかを実行します。

- 過去に開いた4つのレポートまたはパッケージを開くには、[ファイル] メニューの一番下のリストからレポートまたはパッケージのファイル名を選択します。
- レポートを開くには、[レポート] タブを選択し、目的のレポートを選択して [OK] を選択します。
- パッケージを開くには、[パッケージ] タブを選択し、目的のパッケージを選択して [OK] を選択します。
- レポートセットを開くには、[レポートセット] タブを選択し、目的のレポートセットを選択して [OK] をクリックします。
- パッケージセットを開くには、[パッケージセット] タブを選択し、目的のパッケージセットを選択して [OK] をクリックします。

注： 最後に使用したレポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットがハイライトされます。

レポートまたはパッケージ領域の選択または選択解除

領域を編集して、ディメンション、計算式、または計算式設定を割り当てるには、レポートまたはパッケージの領域を選択します。領域を選択すると、選択した領域がハイライトされます。

メニューコマンド、ツールバーアイコン、または計算式バーを使用するには、領域を選択する必要があります。使用できるコマンドは、選択した領域により異なります。領域での作業が終了したら、領域の選択を解除します。

例えば、レポートの列を選択して期間とデータ種別を割り当てた後に、列見出しを選択して、見出しのフォントとその他の書式オプションを選択します。

➤ レポートまたはパッケージ領域を選択または選択解除するには、次のいずれかの操作を行います。

- レポート内の1つの列や行またはパッケージ内の1つの行を選択するには、列または行番号、あるいはパッケージの行を選択します。
- レポート内の連続した列や行またはパッケージ内の連続した行を選択するには、マウスの左ボタンを押したまま、目的の範囲にポインタをドラッグします。

ヒント： また、範囲内の最初の列、行、または行（パッケージ）を選択して、[Shift] キーを押したまま範囲の最後の列、行、または行（パッケージ）を選択して、目的の範囲を選択することもできます。

- レポートまたはパッケージ領域を選択解除するには、レポートまたはパッケージウィンドウ内で選択範囲外の場所をクリックします。

パッケージ領域の切り取り

レポートの列や行またはパッケージの行を切り取って、選択した領域を削除してクリップボードに配置できます。切り取った領域は、クリップボードから同じレポートまたはパッケージの別の場所や別のレポートまたはパッケージに貼り付けることができます。レポート領域を切り取ると、その領域に割り当てられている書式属性も一緒に切り取られます。クリップボードに配置されていた項目は、切り取ったレポートまたはパッケージ領域で置き換えられます。

- ▶ レポートまたはパッケージ領域を切り取るには、次の手順に従います。

1 領域を選択します。

ヒント： セクション全体ではなく、レポート選択アイコンを選択できます。

- 2 [編集] メニューの [切り取り] または [切り取り] ツールバーアイコンを選択します。

レポートまたはパッケージ領域のコピー

レポートまたはパッケージ領域をコピーして、選択したレポート領域のコピーをクリップボードに入れることができます。切り取った領域は、クリップボードから同じレポートまたはパッケージの別の場所や別のレポートまたはパッケージに貼り付けることができます。レポート領域をコピーすると、その領域に割り当てられている書式属性も一緒にコピーされます。クリップボードに配置されていた項目は、コピーした領域で置き換えられます。

- ▶ レポートまたはパッケージ領域をコピーするには、次の手順に従います。

1 領域を選択します。

ヒント： セクション全体ではなく、レポート選択アイコンを選択できます。

- 2 [編集] メニューの [コピー] または [コピー] ツールバーアイコンを選択します。

レポートまたはパッケージ領域の貼り付け

レポートおよびパッケージ領域を貼り付けて、選択したレポート領域の隣にクリップボードから領域のコピーを配置できます。レポートの行を選択してクリップボードから領域を貼り付けた場合は、貼り付けた領域は選択した行の上に表示されます。レポートの列を選択した場合は、貼り付けた領域は選択した列の左側に表示されます。パッケージの列を選択した場合は、貼り付けた領域は選択した行の上に表示されます。

領域を貼り付けた後でも、コピーはクリップボードに残ります。この領域は、同じレポートまたはパッケージの別の場所や別のレポートまたはパッケージに貼り付けることができます。

レポート領域の切り取りまたはコピーを行った場合は、クリップボード内のコピーで領域の書式属性が維持されます。コピーは、書式属性付きまたは書式属性なしで貼り付けることができます。レポート全体をコピーした場合は、そのディメン

ションを貼り付けることなく、レポート全体に適用される書式設定を貼り付けることができます。

列と行に割り当てられているディメンションが競合しない限り、レポートでは、行を行に、列を列に、行を列に、または列を行に貼り付けることができます。

例えば、データに薄い影が適用されている「2月」列をコピーして、新しい場所（別の勘定科目のセクションなど）に貼り付けて、新しい「2月」列を作成できます。この場合は、列と一緒に網掛け（影）およびその他の書式設定を貼り付けることができますが、ディメンションだけを貼り付けて、デフォルトの書式属性で新しい「2月」列を設定することもできます。

▶ レポートまたはパッケージ領域を貼り付けるには、次の手順に従います。

- 1 レポートまたはパッケージウィンドウで、レポートまたはパッケージ領域を切り取るかコピーして、レポートクリップボードに入れます。
- 2 同じレポートまたはパッケージウィンドウ、あるいは別のレポートまたはパッケージウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。
 - レポートに行を貼り付けるには、クリップボード内の行を表示する場所の上にある行を選択します。
 - レポートに列を貼り付けるには、クリップボード内の列を表示する場所の後ろにある列を選択します。
 - パッケージに行を貼り付けるには、クリップボード内の行を表示する場所の後ろにある行を選択します。
- 3 次のいずれかを実行します。
 - ディメンションおよび書式属性とともにレポート領域を貼り付けるには、[編集] メニューの [貼り付け]、または [貼り付け] ツールバーアイコンを選択します。
 - 書式属性を除外して、ディメンションとともにレポート領域を貼り付ける場合、またはディメンションを除外して、書式属性とともにレポート領域を貼り付ける場合は、[編集] メニューの [特殊貼り付け] を選択します。

注： レポート全体に適用される書式属性だけを貼り付けるには、レポート全体をコピーして貼り付ける必要があります。詳しくは、[133 ページの「書式のコピー」](#)を参照してください。

空白の列または行の挿入

任意の列、行、またはセクション、あるいはレポートのセクションに空白の列や行を挿入できます。[編集] メニューの [挿入] コマンドは、列を選択した場合と行を選択した場合で異なります。行を選択した場合は、[編集] メニューに [行の挿入] メニューが表示されます。列を選択した場合は、[編集] メニューに [列の挿入] メニューが表示されます。詳しくは、[83 ページの「セクションの挿入」](#)を参照してください。

▶ 空白の列または行を挿入するには、次の手順に従います。

- 1 次のいずれかを実行します。

- 既存の列または行の前に空白の列または行を挿入するには、既存の列または行を選択します。
 - セクションの前に空白の列または行を挿入するには、セクションアイコンを選択します。
 - セクション内の列または行の前に空白の列または行を挿入するには、セクション内の列または行を選択します。
- 2 [編集] メニューの [行の挿入]、または [編集] メニューの [列の挿入] を選択します。

レポートまたはパッケージ領域の削除

レポートまたはパッケージ領域を削除すると、領域はクリップボードにコピーされず、選択した領域がレポートから削除されます。列を削除すると、その列の右側にあるすべての列が左側にシフトします。行を削除すると、その行の下にあるすべての行が上にシフトします。

- ▶ レポートまたはパッケージ領域を削除するには、次の手順に従います。

- 1 レポートまたはパッケージ領域を選択します。

ヒント： セクション全体ではなく、レポート選択アイコンを選択できます。

- 2 [編集] メニューの [削除] を選択します。

ヒント： 削除したレポートまたはパッケージ領域を復元するには、レポートまたはパッケージで他の編集を行う前に [編集] メニューの [元に戻す] を選択します。

編集を元に戻す

編集結果を元に戻して、アクティブなレポートに行った最後の編集操作を取り消すことができます。例えば、行を誤って削除した場合は、その行を復元できます。元に戻すコマンドは、元に戻す編集操作がある場合にのみ使用できます。

- ▶ レポートまたはパッケージの編集結果を元に戻すには、[編集] メニューの [元に戻す] を選択します。

Hyperion Enterprise のレポートオプションの設定

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

アクティブなレポートにレポートオプションを設定して、以下の処理を行うことができます。

- 実際の親子関係に基づいてデータを表示する。

- レポートの 50%以上のセルにデータが含まれていない場合に大きなレポートをより効率的に作成する。
- エンティティおよびデータ種別のデータを含む勘定科目だけを取得して、多くの勘定科目、エンティティ、およびデータ種別を含むレポートの作成を高速化する。
- 毎月の日数を保持する勘定科目を識別する。平均日数による重み付けデータを計算するために、「各月の日数」勘定科目の DWV フィールドのデータが使用されます。
- データの視点で指定されたデータ種別、すべてのデータ種別、またはユーザーが選択したデータ種別に基づいて決定レポートのエンティティを列挙する。
- プレゼンテーション目的でアカウントのグループの符号を反転する。

例えば、2,199 と表示されている勘定科目「売上」の符号を反転して、(2,199)と表示できます。

▶ Hyperion Enterprise のレポートオプションを設定するには、次の手順に従います。

1 [タスク] メニューの [レポートオプション] を選択します。

2 必要に応じて次の操作を行います。

- 「[各月の日数] 勘定」編集ボックスに、各月の日数を保持する勘定科目の ID を入力するか、[検索] アイコンを選択してリストから勘定科目を選択します。
- レポートの 50%以上のセルにデータが含まれていない場合に大きなレポートをより効率的に作成するには、[データ量の少ないレポートの最適化] を選択します。
- 勘定科目属性の符号を反転するには、[符号を逆にする] チェックボックスをオンにします。
- エンティティの一覧表示に使用するデータ種別を指定するには、[すべて] または特定のデータ種別を選択します。
- 多くの勘定科目を含むレポートの作成処理を高速化するには、[データ量の多いレポートの最適化] をクリックします。
- 実際の親子関係に基づいてデータを表示するには、[期間ごとに組織を変更] を選択します。

3 [OK] をクリックします。

Hyperion Essbase のレポートオプションの設定

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

アクティブなレポートにレポートオプションを設定して、以下の処理を行うことができます。

- レポートの 50%以上のセルにデータが含まれていない場合に大きなレポートをより効率的に作成する。

- ディメンションのメンバーが多いレポートの作成を高速化する。
- プレゼンテーション目的でアカウントのグループの符号を反転する。

費用属性がある複数の勘定科目を例に説明します。一般的に、費用属性には負の値が表示されます。費用属性の符号を反転すると、すべての費用勘定科目に正の値が表示されます。

例えば、費用属性のある出張、労働力、および材料の勘定科目に関するレポートがあるとします。費用属性は、一般的に負の値です。費用属性の符号を反転すると、すべての費用勘定科目に正の値が表示されます。

► Hyperion Essbase のレポートオプションを設定するには、次の手順に従います。

1 [タスク] メニューの [レポートオプション] を選択します。

2 必要に応じて次の操作を行います。

- レポートの 50%以上のセルにデータが含まれていない場合に大きなレポートをより効率的に作成するには、[データ量の少ないレポートの最適化] をクリックします。
- 多くのセルにデータが含まれている場合に大きなレポートをより効率的に作成するには、[データ量の多いレポートの最適化] を選択して、次のいずれかを選択します。
- ゼロデータを含むセルを非表示にするには、[ゼロのデータを非表示] をクリックします。

注： このオプションを選択すると、[データなしを非表示] オプションが自動的に選択されます。

- データを含まないセルを非表示にするには、[データなしを非表示] をクリックします。
- すべてのサブクエリーを単一のクエリーに結合するには、[単一のクエリーに結合] をクリックします。

注： [単一のクエリーに結合] 機能は、レポートの関数で返されるクエリー結果が重複する場合に使用します。

- セルに基準が含まれているかどうか、またはセルのソースが保護、入力、あるいは算出されているかどうかに関する情報を取得するには、[ステータス情報を検索] をクリックします。
- 勘定科目属性の符号を反転するには、[符号を逆にする] チェックボックスをオンにします。

3 [OK] をクリックします。

パッケージオプションの設定

概要

アクティブなパッケージ内でパッケージオプションを設定して、以下の処理を行うことができます。

- 連続ページ番号、セクションごとのページ番号、またはパッケージ内のレポートごとのページ番号を設定する。
- ページ番号にパッケージ内の章番号、セクション番号、またはディメンション値の接頭辞を付ける。
- パッケージ内のセクションおよびレポートを一覧表示するパッケージ目次を印刷する。
- パッケージ目次の内容、グローバルフォント、およびページの向きオプションを指定する。

[ページ番号を付け直す] および [セクションの情報] オプションでは、ページ番号の書式およびパッケージの目次を指定できます。ページ番号では、[ファイル] メニューの [ページ設定] コマンドで設定された開始ページ番号が使用されます。次の表に、[ページ番号を付け直す] オプションの説明を示します。

表 6 [ページ番号を付け直す] オプション

オプション	説明
連続	パッケージの最初で開始ページ番号を一度使用します。
各セクション	各セクションの最初で開始ページ番号を一度使用します。
各レポート	各レポートの最初で開始ページ番号を一度使用します。

セクションの情報は、パッケージ内のページ番号の接頭辞およびパッケージの目次に使用されます。ページ番号の接頭辞に章番号、セクション番号、またはディメンション値を付けることができます。このオプションでは、パッケージの目次に表示されるセクションおよびレポート情報も指定できます。次の表に、[セクションの情報] オプションの説明を示します。

表 7 [セクションの情報] オプション

オプション	説明
なし	ページ番号に接頭辞を使用しません。
章番号	ページ番号の接頭辞に章番号を使用します。章番号はセクション番号と同じで、セクション内でディメンションが変化するたびに増加します。
セクション番号	ページ番号の接頭辞にセクション番号を使用します。セクション番号は、セクション内でディメンションが変化するたびに増加します。
ディメンション値	ページ番号の接頭辞にセクションのディメンション値を使用します。

[目次を印刷する] オプションは、パッケージの目次の書式を設定するために使用します。パッケージおよびレポートの名前とタイトルを印刷するかどうか、ページの向き、およびフォントオプションを指定できます。パッケージおよびレポートの名前とタイトルは、次のように目次に表示されます。

- 目次
- パッケージ名
- パッケージタイトル
- レポート名 - レポートタイトル

- レポート名 - レポートタイトル

次の表に、[目次を印刷する] オプションの説明を示します。

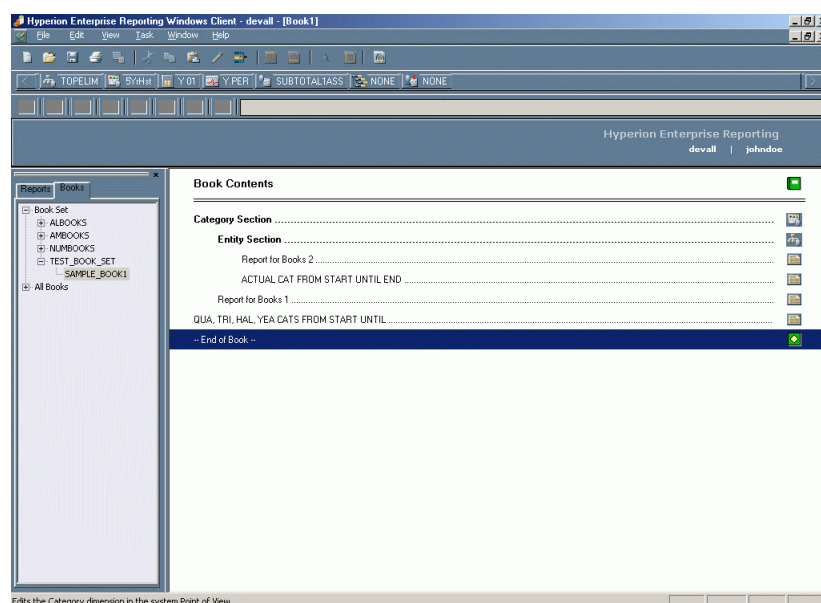
表 8 [目次を印刷する] オプション

オプション	説明
パッケージ名	目次の一番上にパッケージ名を印刷します。
パッケージタイトル	目次の一番上にパッケージタイトルを印刷します。
レポート名	目次の左側にレポート名が印刷されます。
レポートタイトル	目次の左側にレポートタイトルが印刷されます。
ページ設定ラベル	目次内に一般、日付、時刻、およびテキストページラベルが印刷されます。 注： ページ設定ラベルを定義するには、[ファイル] メニューの [ページ設定] コマンドを使用します。このオプションを選択すると、ページ設定ラベルで定義されたページ番号は印刷されません。
向き	目次の向き（縦向き、横向き、またはシステムデフォルトの向き）を指定します。 注： デフォルトのプリンタオプションを使用して、システムデフォルトの向きを設定します。
フォント	目次のフォントオプションを設定します。

例

次に示すパッケージには、データ種別セクション、エンティティセクション、および複数のレポートがあります。このパッケージ内のすべてのレポートは 1 ページです。

図 8 Hyperion Enterprise Reporting パッケージ



パッケージオプションで「ページ番号を付け直す」が「連続」に、「セクションの情報」が「なし」に設定されている場合は、パッケージの目次にレポートが次のように一覧表示されます。

目次	
パッケージ 5	
データ種別およびエンティティレポート	
Bugattrレポート.....	1
Exportレポート.....	2
Bugattrレポート.....	3
Exportレポート.....	4

パッケージオプションで「ページ番号を付け直す」が「各セクション」に、「セクションの情報」が「章番号」に設定されている場合は、パッケージの目次にセクションおよびレポートが次のように一覧表示されます。

目次	
パッケージ 5	
データ種別およびエンティティレポート	
1 実績-USELIM	
Bugattrレポート.....	1-1
Exportレポート.....	1-2
2 実績-US100	
Bugattrレポート.....	2-1
Exportレポート.....	2-2

パッケージオプションで「ページ番号を付け直す」が「各レポート」に、「セクションの情報」が「セクション番号」に設定されている場合は、パッケージの目次にセクションおよびレポートが次のように一覧表示されます。

目次	
パッケージ 5	
データ種別およびエンティティレポート	
1 実績	
1-1 USELIM	
Bugattrレポート.....	1-1-1
Exportレポート.....	1-1-1
1-2 US100	
Bugattrレポート.....	1-2-1
Exportレポート.....	1-2-1

パッケージオプションで「ページ番号を付け直す」が「連続」に、「セクションの情報」が「ディメンション値」に設定され、パッケージ名とパッケージタイトルが印刷されるように設定されている場合は、パッケージの目次にセクションおよびレポートが次のように一覧表示されます。

目次	
パッケージ 5	
データ種別およびエンティティレポート	
1 実績	
1-1 USELIM	
Bugattrレポート.....	実績-USELLIM-1
Exportレポート.....	実績-USELLIM-2
1-2 US100	
Bugattrレポート.....	実績-US100-3
Exportレポート.....	実績-US100-4

► パッケージオプションを設定するには、次の手順に従います。

1 [タスク] メニューの [パッケージ] オプションを選択します。

2 必要に応じて次の操作を行います。

- 開始ページ番号を使用して、パッケージ全体、各セクション、または各レポートのページ番号を指定します。

注： 開始ページ番号を定義するには、[ファイル] メニューの [ページ設定] コマンドを使用します。

- ページ番号の接頭辞を指定します。
- パッケージの目次に表示する章、セクション、およびレポートの情報を指定します。
- パッケージの目次を印刷するかどうかを指定します。
- パッケージの目次のフォントおよび向きオプションを指定します。

3 [OK] をクリックします。

パッケージへのレポートの挿入

パッケージは、同時に実行するレポートのグループです。例えば、各四半期の期末に実行する複数のレポートを含むパッケージを作成し、毎週実行する複数のレポートを含む別のパッケージを作成できます。レポートは、パッケージの行の上下またはセクション内に挿入できます。また、パッケージ内のレポートを別のレポートで置き換えることもできます。レポートの置換については、[64 ページの「パッケージのレポートの置換」](#)を参照してください。

例えば、1つのパッケージに同じレポートを複数含めて、異なるディメンション設定でデータを生成できます。ユーザが値を割り当てられるように、ディメンション設定を要求するプロンプトを表示するレポートを挿入することもできます。詳しくは、[86 ページの「プロンプトの値の割り当て」](#)を参照してください。

注： Hyperion Enterprise Reporting では、パッケージが実行されるときにデータを含んでいないレポートは表示されません。詳しくは、[153 ページの「アクティブなレポートまたはパッケージの印刷」](#)を参照してください。

► パッケージにレポートを挿入するには、次の手順に従います。

1 パッケージウィンドウで、レポートを挿入する行を選択します。

2 [編集] メニューの [レポートの挿入] または [レポートの挿入] ツールバーアイコンを選択します。

3 レポートの一覧をフィルタするには、挿入するレポートを含むセットを選択します。

4 [ファイル名] 編集ボックスにレポート名を入力するか、リストからファイル名を選択します。

5 挿入位置のオプション（選択した行の上か下、または選択したセクション内）を選択します。

6 [OK] をクリックします。

パッケージのレポートの置換

パッケージ内のレポートを別のレポートで置き換えることができます。例えば、「Western Division - 管理」レポートを含む「第1四半期予測」パッケージで「Southern Division - 製造」レポートを実行する必要がある場合は、「Western Division - 管理」レポートを「Southern Division - 製造」レポートで置き換えることができます。この操作は、「Western Division - 管理」レポートを削除して「Southern Division - 製造」レポートを挿入するよりも簡単です。

- ▶ パッケージのレポートを置き換えるには、次の手順に従います。
- 1 パッケージウィンドウで、置き換えるレポートを含む行を選択し、[編集]メニューの[レポートの置換]を選択するか、レポート行をダブルクリックします。
- 2 レポートの一覧をフィルタするには、使用するレポートを含むセットを選択します。
- 3 [ファイル名] 編集ボックスにレポート名を入力するか、リストからファイル名を選択して、[OK] をクリックします。

レポートまたはパッケージのサマリの編集

レポートまたはパッケージのサマリには、レポートまたはパッケージのファイル名、セキュリティクラス、およびレポートまたはパッケージが属するレポートセットまたはパッケージセットが表示されます。レポートまたはパッケージのサマリのタイトルおよびコメントを編集できます。

- ▶ レポートまたはパッケージのサマリを編集するには、次の手順に従います。
- 1 レポートまたはパッケージウィンドウで、[ファイル]メニューの[サマリー情報]を選択します。
- 2 次のいずれかまたは両方の操作を行います。
 - レポートまたはパッケージのタイトルを編集します。
 - レポートまたはパッケージに関するコメントを編集します。
- 3 [OK] をクリックします。

ヘッダーとフッターの設定

ヘッダーとフッターは、レポートの出力で各ページの上下それぞれに表示されるテキストです。ヘッダーとフッターには、アプリケーション名やディメンションの説明などのテキストを取得するテキスト関数を含んだ計算式を含めることができます。

ヘッダーとフッターは、中央、右、または左に配置できます。また、ヘッダーやフッター全体またはヘッダーやフッターの各行のフォント、色、およびその他のテキスト属性を指定することもできます。ヘッダーまたはフッターのフォントを指定した場合は、アクティブなレポートに対して[ページ書式]ダイアログボックスで設定したヘッダーフォントよりもこの設定が優先されます。

注： ヘッダーまたはフッターに指定したフォントのスタイルおよび色は、レポートをプレビューまたは実行するときのみ表示されます。

次の図は、@FLT 関数を使用してレポートのタイトルを取得し、タイトルを各ページの中央に表示するヘッダーを示します。

図 9 @FLT 関数を使用したサンプルヘッダー

Header

Left: Center: Right:

@FLT

To insert a new line, press CTRL + ENTER.

OK Cancel Help

次の図は、「Cash Accounts」というタイトルのレポートの各ページに表示されるヘッダーを示します。ヘッダーでは、16 ポイントの Arial 太字フォントが使用されています。

図 10 サンプルのヘッダー出力

Corporate Office		Cash Accounts	
	JAN.2002	FEB.2002	MAR.2002
Bank of New York	90,090,606	93,680,449	98,096,612

次の図は、@TIM テキスト関数を使用して現在のアプリケーションの説明を各ページの左下に表示し、@TOD テキスト関数を使用して現在の日付を各ページの右下に表示するフッターを示します。

図 11 @TIM および@TOD を使用したサンプルフッター

Footer

Left: Center: Right:

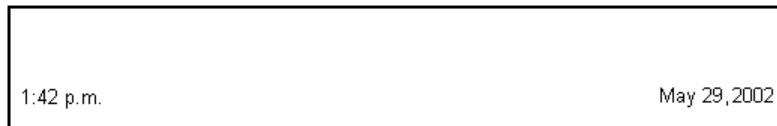
@TIM @TOD

To insert a new line, press CTRL + ENTER.

OK Cancel Help

次の図は、2002 年 5 月 29 日 (May 29, 2002) の午後 1 時 42 分にレポートを実行した場合に、このフッターがどのように表示されるかを示します。フッターの数値では、デフォルトのフォントオプションが使用されています。

図 12 サンプルのフッター出力



Hyperion Enterprise Reporting で標準レポート、複合レポートまたはパッケージを編集する場合、目的のレポートまたはパッケージをレポートまたはパッケージウィンドウで開きます。レポートまたはパッケージのファイル名とタイトルがレポートまたはパッケージウィンドウのタイトルバーに表示されます。レポートまたはパッケージに別のファイル名とタイトルを付けて保存することもできます。

- ヘッダーとフッターを設定するには、次の手順に従います。
- 1 レポートウィンドウで [表示形式] メニューの [ヘッダー] または [フッター]、あるいは [ヘッダー] または [フッター] ツールバーアイコンを選択します。
- 2 [左]、[中央]、および [右] 編集ボックスで次のいずれかの操作を行います。
 - テキストを入力するには、カーソルを置き、ヘッダーまたはフッターのテキストを入力します。
 - ヘッダーまたはフッターに計算式を貼り付けるには、計算式を挿入する場所にカーソルを置いて [計算式の編集] アイコンをクリックし、テキスト関数および必要なパラメータを使用して計算式を作成します。詳しくは、[108 ページの「タイトル計算式の編集」](#)を参照してください。
 - ヘッダーまたはフッターのすべてのテキストのフォントおよびスタイル属性を設定するには、[デフォルトのフォントおよび網掛け/枠線] アイコンをクリックして、フォントおよび網掛け/枠線の属性を選択します。詳しくは、[120 ページの「書式オプション」](#)を参照してください。
 - ヘッダーまたはフッターの個々の行のフォントおよびスタイル属性を設定するには、[行のフォントおよび網掛け/枠線] アイコンをクリックして、フォントおよび網掛け/枠線の属性を選択します。詳しくは、[120 ページの「書式オプション」](#)を参照してください。
- 3 [OK] をクリックします。

レポートのインポート

レポートの列または行を結合するには、レポートを実行するたびに、そのレポートをアクティブなレポートにインポートします。レポートを実行するたびに別のレポートをインポートするよう求めるプロンプトが表示されるようにレポートを設定して、指定されたセットからユーザがレポートを選択できるようにセット名を指定できます。レポートをインポートする場合は、結合した行または列を、アクティブなレポートの前、アクティブなレポートの列の後、またはアクティブなレポートの行の後ろに表示できます。

例えば、「実績」および「予測」データ種別の列だけを含む「実績／予測」というレポートを作成し、勘定科目の行を含む別のレポートを作成して「実績／予測」レポートをインポートし、新しいレポートの列を設定できます。

- ▶ レポートをインポートするには、次の手順に従います。
- 1 レポートウィンドウで [表示形式] メニューの [インポートオプション] を選択します。
 - 2 [現在のレポートの前にインポート]、[列の後にインポート]、または [行の後にインポート] リストボックスで、レポートまたはプロンプトをインポートする行を選択します。
 - 3 次の操作を行います。
 - 特定のレポートをインポートするには、[レポートの貼り付け] をクリックし、レポートリストからレポートを選択します。[セット] リストからレポートを選択して、レポートをフィルタすることができます。
 - インポートするレポートを要求するプロンプトを設定するには、[プロンプトの貼り付け] をクリックして、ユーザがインポートできるレポートを制限するセットを選択します。
 - 4 [行/列参照の共有] を選択すると、ホストレポートに含まれているインポートした列および行を計算できます。
 - 5 [OK] をクリックします。

この章の内容

ディメンションの割り当て方法：概要.....	69
レポート列とレポート行.....	70
レポートセクション.....	70
パッケージセクション.....	72
レポートのディメンションの変更.....	73
パッケージのディメンションの変更.....	74
ディメンションの ID、関数、および一覧の使用.....	75

この章では、レポートとパッケージにディメンションを割り当てる方法について説明します。

ディメンションの割り当て方法：概要

複数の方法を使用して、レポートとパッケージにディメンションを割り当てることができます。使用可能な方法は、使用している Hyperion Solutions 製品および割り当てられているディメンションによって決まります。次の表に、ディメンションの割り当て方法を示します。

表 9 ディメンションの割り当て方法

割り当て方法	Hyperion アプリケーション	ディメンション
ID	Hyperion Enterprise および Hyperion Essbase	特定の ID またはメンバ
機能	Hyperion Enterprise または Hyperion Essbase	レポートまたはパッケージの 実行時に他の設定に応じて ID またはメンバを割り当てる関 数
リスト	Hyperion Enterprise のみ	エンティティ一覧または勘定 科目一覧

ディメンションの変更を挿入して、レポート領域のデータの視点を変更できます。また、レポートまたはパッケージにセクションを挿入することもできます。レポートセクションでは、一連のディメンションの列または行を設定します。パッケージセクションによって、一連のディメンションのレポートが実行されます。セクションは、複数の個々のディメンションの変更と同じ目的を果たします。

行にディメンションが割り当てられていない場合は、列にディメンションを割り当てることができます。列に割り当てられていない場合は、行にディメンションを割り当てることができます。

ディメンションが列や行に割り当てられず、レポートのデータの視点で設定されていない場合で、パッケージにレポートが含まれている場合は、レポートではパッケージのデータの視点が参照されます。パッケージのデータの視点がない場合は、レポートでは Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点が参照されます。例えば、期間がレポートの列または行に割り当てられず、パッケージにレポートが含まれていない場合は、レポートには Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点のデータが表示されます。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting 始めるには』を参照してください。

レポートウィンドウで 1 つの列または行にディメンションを割り当てると、レポートの実行時に複数のデータの列または行を作成できます。例えば、列を選択して、1 月、2 月、および 3 月という期間を割り当てたとします。レポートの出力には、各期間ごとに別個の列が表示されます。

レポート列とレポート行

レポートを作成するときは、ディメンションを使用する列または行を設定します。例えば、勘定科目の行とデータ種別の列を含む第四半期の年次累計データを表示する損益計算書を作成するとします。個々の ID を選択するか、動的なディメンション設定に関数を選択するか、または ID と関数の両方を選択して、ディメンションを割り当てることができます。レポートを実行すると、データが表示されます。

Hyperion Enterprise Reporting ではデフォルトで、列見出しにディメンション ID、および行見出しにディメンションの説明が表示されます。例えば、行に Sales 勘定科目と Cost of Sales 勘定科目を割り当て、列に Actual データ種別と Budget データ種別を割り当てるとします。行見出しは、勘定科目の説明である Sales および Cost of Sales となります。Actual および Budget データ種別の ID が ACTUAL および BUDGET である場合は、列見出しは ACTUAL および BUDGET となります。このデフォルトを上書きして、デフォルトの代わりにレポートのデータの定義を表示できます。詳しくは、[108 ページの「定義の表示」](#)を参照してください。

テキスト関数を選択して、列見出しおよび行見出しを編集できます。選択した列または行のデータセルにテキストを入力することもできます。テキスト関数については、[第 12 章「関数」](#)を参照してください。

レポートのデータおよび見出しを定義すると、レポートの書式を設定できます。例えば、レポートの書式設定をして、行見出しを斜体、列見出しを太字、および一部の列データを網掛けで表示することができます。詳しくは、[第 7 章「レポートウィザードの使用」](#)を参照してください。

レポートセクション

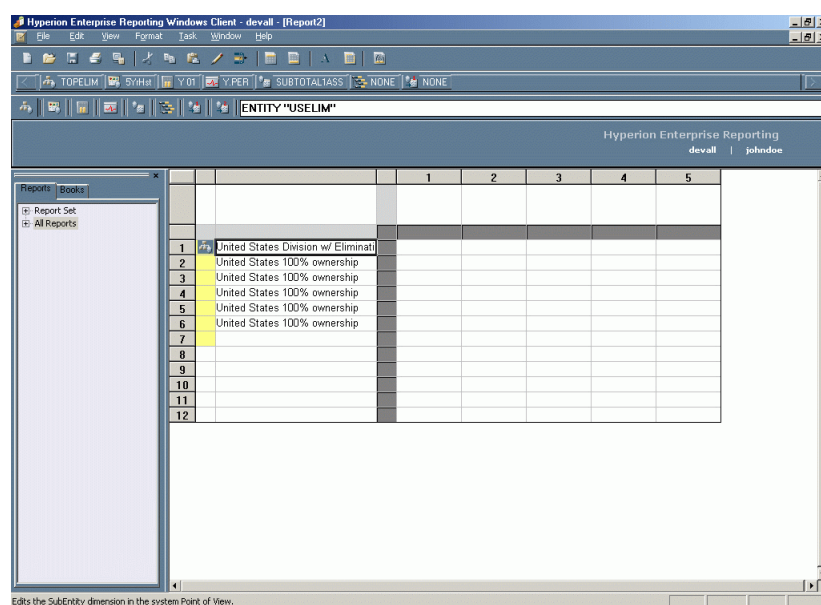
レポートセクションを作成して、1 つのレポートの一連のディメンションに関するデータを取得できます。レポートセクションを作成または編集して、セクションに含まれるディメンションを指定します。

レポートセクションは、複数のディメンションの変更と同じ目的を果たすことができます。レポートセクションを挿入する方が、ディメンションの変更を個別に挿入するより効率的です。レポートセクションは、レポートのデータの視点および Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を上書きします。

アイコンは、各セクションのディメンションを示します。ディメンションを表すために Hyperion Enterprise Reporting によりデフォルトで使用されるアイコンの一覧については、『Hyperion Enterprise Reporting セットアップガイド』の「関数の簡易リスト」の章を参照してください。

次の図に、レポートが実行されるたびに 3 つのエンティティの値が表示されるエンティティのセクションを含むレポートを示します。計算式バーの編集ボックスの計算式では、エンティティを指定します。

図 13 エンティティセクションを含むレポートの例



次の図は、1 つのセクションではなく個々のディメンションの変更を使用した場合のレポートの表示を示します。

図 14 個々のディメンションの変更を含むレポートの例

Hyperion Enterprise Reporting Windows Client - devall - [Report2]

File Edit View Format Task Window Help

TOPELIM SytHat Y 01 Y PER SUBTOTALASS NONE NONE

ENTITY "USLIM"

Hyperion Enterprise Reporting
devall johndoc

	1	2	3	4	5
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

Edits the SubEntity dimension in the system Point of View.

上記 2 つの図のレポートの出力は同じです。

レポートはネストされたセクション、すなわちセクション内にセクションを含むことができます。例えば、複数の勘定科目のセクションを挿入し、その勘定科目セクション内に Actual データ種別と Budget データ種別のセクションを挿入できます。

パッケージセクション

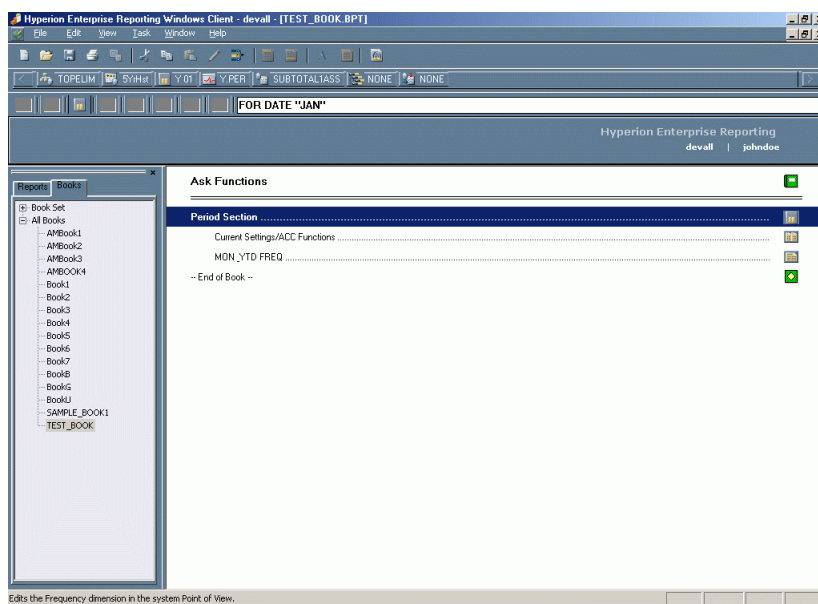
パッケージセクションを作成して、あるパッケージの一連のディメンションに関するデータを取得できます。パッケージセクションを作成または編集して、セクションに含まれるディメンションを指定します。

パッケージセクションは、複数のディメンションの変更と同じ目的を果たすことができます。パッケージセクションを挿入する方が、ディメンションの変更を個別に挿入するより効率的です。パッケージセクションは、パッケージのデータの視点および Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を上書きします。

セクション行の最後にあるアイコンはディメンションセクションを示します。ディメンションを表すためにシステムにより使用されるアイコンの一覧については、『Hyperion Enterprise Reporting セットアップガイド』の「関数の簡易リスト」の章を参照してください。

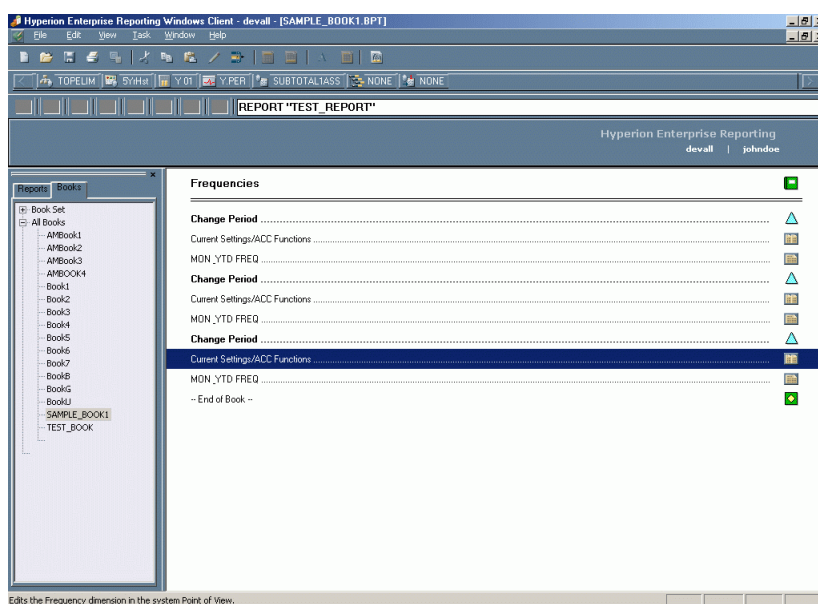
次の図に、3 つの期間の 2 つの費用レポートを実行する期間セクションを含むパッケージを示します。計算式バーの編集ボックスの計算式は、期間の ID を示します。

図 15 期間セクションを含むパッケージの例



次の図に、1つのセクションではなく個々の期間の変更を含むパッケージの表示を示します。

図 16 個々の期間の変更を含むパッケージの例



パッケージはネストされたセクション、すなわちセクション内にセクションを含むことができます。例えば、Sales 勘定科目および Administration 勘定科目のセクションを挿入し、そのセクション内に 1 月、2 月、および 3 月の期間のセクションを挿入できます。

レポートのディメンションの変更

レポート領域にディメンションの変更を挿入して、異なるディメンション ID のデータを表示できます。ディメンション ID を指定するか、@ASK 関数を使用し

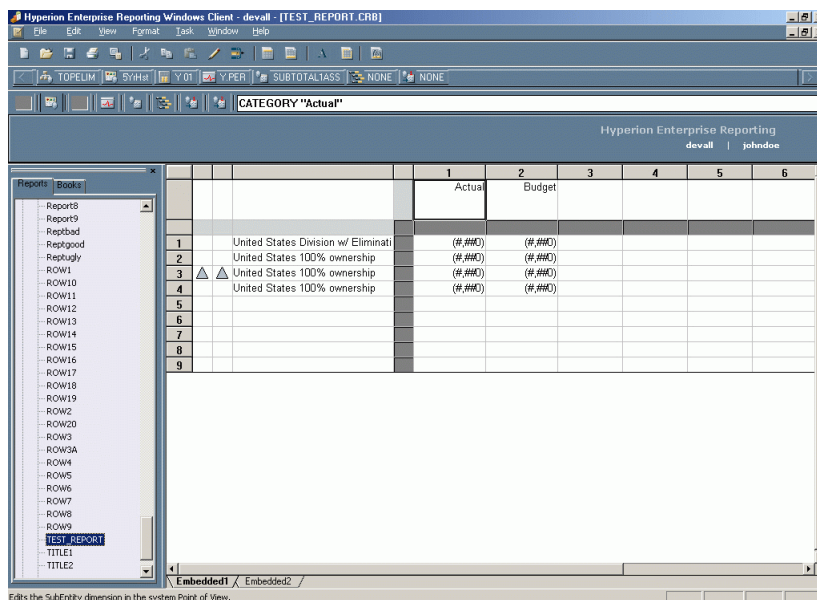
て、レポートが実行されるたびにディメンション ID の入力を求めるプロンプトを表示できます。この変更は、そのディメンションに別の変更が挿入されるまで、すべての列または行で有効です。

レポートのディメンション変更は、レポートのデータの視点および Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を上書きします。また、パッケージにレポートが含まれている場合は、ディメンション変更はパッケージのデータの視点も上書きします。

ディメンションの変更を挿入すると、ディメンション変更が発生した列または行にアイコンが表示されます。アイコンを選択すると、選択されたディメンション変更の ID が計算式バーの編集ボックスに表示されます。ディメンション変更を編集して、異なる ID を使用できます。

次の図に、ディメンション変更のアイコンを含むレポートを示します。

図 17 ディメンション変更のアイコンを含むレポートの例



パッケージのディメンションの変更

パッケージ領域にディメンションの変更を挿入して、異なるディメンション ID のデータを表示できます。ディメンション ID を指定するか、@ASK 関数を使用して、パッケージが実行されるたびにディメンション ID の入力を求めるプロンプトを表示できます。この変更は、そのディメンションに別の変更が挿入されるまで有効です。パッケージのディメンション変更は、パッケージのデータの視点および Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を上書きします。

パッケージ内にディメンションの変更を挿入すると、ディメンション変更が発生した行の最後にディメンションのアイコンが表示されます。アイコンを選択すると、そのディメンション変更の ID が計算式バーの編集ボックスに表示されます。次の図に、パッケージでのエンティティの変更の行を示します。

図 18 エンティティの変更の行

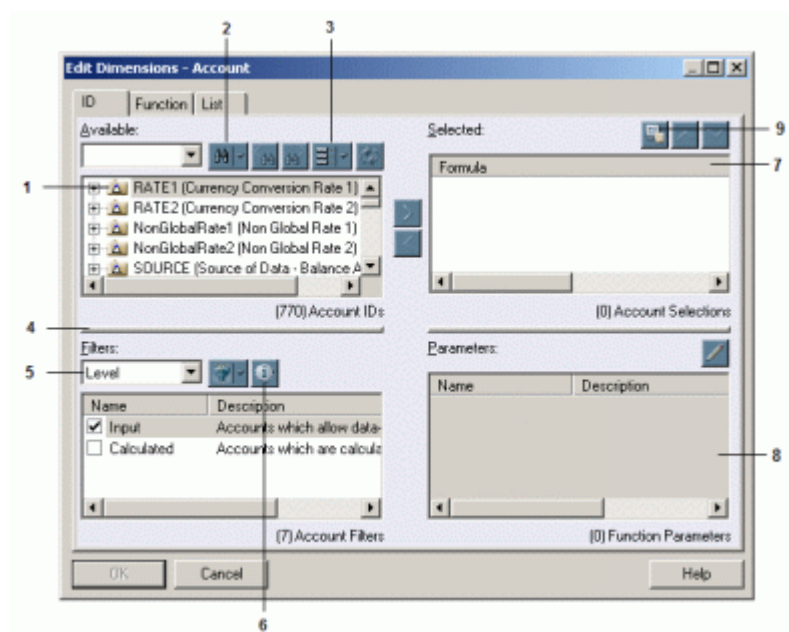
Change Entity ▲

ディメンションの ID、関数、および一覧の使用

[ディメンションの編集] ダイアログボックスを使用して、ディメンションの ID、関数、および一覧をレポート、パッケージ、セクションの変更、またはプロンプトに割り当てます。

次の図に、[ディメンションの編集] ダイアログボックスとそのコンポーネントを示します。コンポーネントについては、次の図の項目を参照してください。

図 19 [ディメンションの編集] ダイアログボックス



1. [使用可能な項目] リスト
2. 検索オプション
3. 使用可能なオプション
4. 分割バー
5. フィルタ
6. フィルタの概要
7. [選択項目] リスト
8. パラメータ
9. プレビュー

「使用可能な項目」 リスト

フィルタを使用して、「使用可能な項目」リストに表示されるディメンション ID を指定します。検索オプションおよび使用可能なオプションを使用して、「使用可能な項目」リストのディメンション ID、関数、一覧を検索および表示します。

注： 関数や一覧を割り当てるときに、ID が「使用可能な項目」リストに表示されていない場合でも、すべての ID が計算に使用されます。






次の表でこれらのコンポーネントについて説明します。

表 10 フィルタ、検索オプション、および使用可能なオプション

コンポーネント	説明
フィルタ	「使用可能な項目」リストに表示されるディメンション ID の指定に使用します。
検索オプション	「使用可能な項目」リストの項目の検索に使用します。
使用可能なオプション	「使用可能な項目」リストをツリー形式またはリスト形式で表示するために使用します。各項目に表示される属性を指定することもできます。

「使用可能な項目」リストに表示されるディメンション ID の前にはアイコンが表示されます。アイコンはどのディメンション ID がメモリに読み込まれているかを示します。ID を検索する場合は、メモリに読み込まれている ID のみが検出されます。次の表に、各ディメンション ID アイコンおよびその意味を示します。

表 11 ディメンション ID アイコン

アイコン	定義
	最上位レベルの ID はリスト表示で読み込まれます。
	最上位レベルの ID はツリー表示で読み込まれます。
	ツリーにデータを挿入するために使用可能なオプションを使用する場合は、最上位レベルの ID とその子はツリー表示で読み込まれます。ツリーにデータを挿入するためにプラス記号アイコンを選択する場合は、最上位レベルの ID とその子、または最上位レベルの ID とそのすべての子孫はツリー表示で読み込まれます。
	最上位レベルの ID およびそのすべての子孫はツリー表示で読み込まれます。
	最下位レベルの ID はリスト表示で読み込まれます。

フィルタ

フィルタを使用して、ダイアログボックスの「使用可能な項目」リストに表示される ID を指定します。フィルタを使用すると、必要な ID のみが表示できます。

注： Field と View のディメンションではフィルタは使用されません。

〔使用可能な項目〕 リストに表示される ID は、すべてのフィルタ内の指定項目の少なくとも 1 つと一致します。範囲のフィルタは最後に適用されます。まず、フィルタは最上位または親の ID を表示するように設定されます。アプリケーション内でフィルタが設定されると、それを再び変更するまで有効になります。

注： 〔フィルタの概要〕 アイコンをクリックすると、設定されたすべてのフィルタとそれらの値を表示できます。

選択する ID が多数ある場合には、フィルタの選択を行うまで、使用可能なオプションにある〔自動更新〕をオフにしてください。〔更新〕アイコンを選択してメンバの選択を更新できます。

次の表に、使用可能なフィルタの種類を説明します。

表 12 フィルタの種類

フィルタの種類	説明
リスト	リスト内で選択された項目の 1 つ以上に一致する ID を指定するために使用します。例えば、組織のフィルタを使用して Org1 および Org4 が選択された場合、Org1 または Org4 内のすべての ID は一致する ID となります。
範囲	範囲内にある ID を指定するために使用します。範囲は、他のすべてのフィルタが適用された後に、ID のリストに適用されます。例えば、すべてのフィルタが適用され、100 つの一致する ID があるとした場合、範囲を「5-23」に設定すると、5 番目～23 番目の ID が〔使用可能な項目〕リストに表示されます。
ワイルドカード	*または?のワイルドカード記号を使用する項目を指定するために使用します。区切り文字として空白を使用すると、複数の検索を指定できます。例えば、名前のフィルタを使用して、「d* w*」と指定した場合、d または w から始まるすべての名前が一致します。〔ワイルドカード〕テキストボックスが空白の場合は、ID は一致しません。
オンまたはオフ	選択されたチェックボックスの項目に一致する ID を指定するために使用します。例えば、サブエンティティのフィルタを使用して下位構造とともにエンティティが選択された場合は、下位構造を含むすべての ID が一致する ID となります。

Hyperion Enterprise の例

例えば、4 つのフィルタがある親ディメンションが次のように設定されたとします。

組織を、ORG1 および ORG3 に設定
名前を、d* および f* に設定
説明を、* に設定
範囲を、5～27 に設定

ORG1 または ORG3 に含まれるエンティティ ID で、これらの名前が d または f で始まるすべてのエンティティ ID は、フィルタに一致します。これらの ID の 5 番目～27 番目が〔使用可能な項目〕リストに表示されます。

Hyperion Essbase の例

次のフィルタセットを含むディメンションがあるとします。

リストを、Gen1, Account に設定

期首残高を選択

名前を、r*および w*に設定

期首残高を含む Gen1, Account リストの ID で、これらの名前が r または w で始まるすべての ID が、[使用可能な項目] リストに表示されます。

フィルタの概要

[フィルタの概要] アイコンを使用すると、設定されたすべてのフィルタとそれらの値を表示できます。

検索オプション

[使用可能な項目] リストの項目を検索するには、検索オプションを指定します。項目を検出するには、その項目がメモリに読み込まれている必要があります。メモリに読み込まれる項目については、[76 ページの「\[使用可能な項目\] リスト」](#)を参照してください。[使用可能な項目] リストのドロップダウンには、最新の 25 個の検索結果が表示されます。[次を検索] または [前を検索] を使用して、一覧のログの検索ができます。

表 13 検索オプション

オプション	説明
名前の検索	名前によって検索します。
説明の検索	説明によって検索します。
ワイルドカードの検索	*または?のワイルドカード記号を使用する項目を指定するために使用します。区切り文字として空白を使用すると、複数の検索を指定できます。例えば、「d* w*」と指定した場合、d または w から始まるすべての項目が一致します。
大文字と小文字を区別して検索	大文字と小文字を区別して検索を実行します。
自動検索	入力された文字のリストを検索します。このオプションがオフの場合は、[前を検索] または [次を検索] アイコンをクリックして検索を行う必要があります。

使用可能なオプション

[使用可能な項目] リストの項目を表示するには、使用可能なオプションを指定します。

表 14 使用可能なオプション





オプション	説明
リスト表示	項目をリストで表示します。
ツリー表示	項目を階層ツリーで表示します。
すべてを展開	ツリーのすべての項目を展開します。
すべてを縮小	ツリーのすべての項目を縮小します。
選択項目を展開	ツリーのハイライトされた項目を展開します。
選択項目を縮小	ツリーのハイライトされた項目を縮小します。
すべてを読み込	最上位レベルから開始してすべての子孫を読み込みます。
選択項目を読み込	選択した ID のすべての子孫を読み込みます。
自動読み込	すべての子孫を自動的に読み込みます。
自動更新	フィルタが変更されるたびに「使用可能な項目」リストを更新します。「自動更新」オプションがオフの場合に、フィルタされた ID を表示するには、「更新」アイコンを選択する必要があります。
「可視属性」メニューの「属性」リスト	属性を表示します。

分割バー

分割バーを使用して、ウィンドウ内のペインのサイズを変更できます。フィルタが含まれる場合は、分割バーはダイアログボックスの中央に表示されます。フィルタが含まれない場合は、分割バーはデフォルトでダイアログボックスの下部に表示されます。分割バーが移動されると、その指定された位置がデフォルトの位置になります。



「選択項目」リスト

項目を割り当てるには、その項目を「選択項目」リストに追加する必要があります。次の表に、「選択項目」リストの項目とアイコンを示します。

表記	アイコン
最上位レベルのディメンション ID	
最下位レベルのディメンション ID	
関数	
リスト	

パラメータ

関数のパラメータを入力するには、パラメータパネルを使用します。次の表に、パラメータとその前に表示されるアイコンを示します。

パラメータ	アイコン
Is required	
Is optional	

プレビュー

[プレビュー] を使用して、展開されたディメンション関数および [選択項目] リストからディメンションリストを表示します。

ディメンション ID の割り当て

特定のディメンション ID をレポートの列および行またはパッケージ領域に割り当てることができます。例えば、期間 ID の JAN および FEB を選択して、1 月、2 月の期間をレポートの列に割り当てることができます。

▶ ディメンション ID を割り当てるには、次の手順に従います。

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - レポートウィンドウで、列または行を選択します。
 - パッケージウィンドウで、パッケージの行を選択します。
- 2 [編集] メニューから [ディメンション] の [ディメンション] を選択します。ここで、[ディメンション] は任意の有効なディメンションを指します。

ヒント： 計算式バーからディメンションのアイコンを選択することもできます。

- 3 [使用可能な項目] リストに表示される ID を指定するには、フィルタを指定します。
- 4 [使用可能な項目] パネルで、次のいずれかの操作を行います。
 - ディメンション ID を選択したレポート領域またはパッケージ領域に追加します。
 - ディメンション ID を選択したレポート領域またはパッケージ領域から削除します。
 - ディメンション ID を並べ替えます。
- 5 [OK] をクリックします。

ディメンション関数の割り当て

ディメンションの関数を割り当てて、データの視点の設定に応じて変更するディメンション設定とともに列または行を設定できます。例えば、Field ディメンションのレポート列を設定するとします。@CUR 関数を使用して Field ディメンション

を割り当てると、その列には、レポートの実行時の現在のデータの視点の値が表示されます。使用可能な関数は、使用している Hyperion Solutions 製品および割り当てられているディメンションによって決まります。

▶ ディメンション関数を割り当てるには、次の手順に従います。

1 次のいずれかの操作を行います。

- レポートウィンドウで、列または行を選択します。
- パッケージウィンドウで、パッケージの行を選択します。

2 [編集] メニューから [ディメンション] の [ディメンション] を選択します。ここで、[ディメンション] は任意の有効なディメンションを指します。

ヒント： 計算式バーからディメンションのアイコンを選択することもできます。

3 [関数] タブを選択します。

注： 関数を割り当てるときに、ID が [使用可能な項目] リストに表示されていない場合でも、すべての ID が計算に使用されます。

4 必要に応じて次の操作を行います。

- 関数を選択したレポート領域またはパッケージ領域に追加します。
- 関数のパラメータを指定します。
- 関数を選択したレポート領域またはパッケージ領域から削除します。
- 関数を並べ替えます。

5 展開されたディメンション関数をプレビューするには、[プレビュー] をクリックします。

6 [OK] をクリックします。

ディメンション一覧の割り当て

Hyperion Enterprise の概要

レポートでエンティティ一覧または勘定科目一覧のそれぞれに列または行を作成するか、@ASK 関数を使用して、レポートの実行時に一覧の選択を求めるプロンプトが表示されるようにレポートを設定できます。

Hyperion Essbase の概要

レポートで各 [レベル] 一覧、[Generation (生成)] 一覧、[User Defined Attribute (ユーザ定義属性)] 一覧に列または行を作成するか、または@ASK 関数を使用してレポートの実行時に一覧の選択を求めるプロンプトが表示されるようにレポートを設定できます。

Hyperion Essbase で使用可能なディメンション一覧は、レベル一覧、世代一覧、およびユーザ定義属性一覧です。

▶ デイメンション一覧に割り当てるには、次の手順に従います。

1 次のいずれかを実行します。

- レポートウィンドウで、列または行を選択します。
- パッケージウィンドウで、パッケージの行を選択します。

2 [編集] メニューから [デイメンション] の [デイメンション] を選択します。ここで、[デイメンション] は [エンティティ] または [勘定科目] です。

ヒント： 計算式バーからデイメンションのアイコンを選択することもできます。

3 [一覧] タブを選択します。

注： 一覧を割り当てるときに、ID が [使用可能な項目] リストに表示されていない場合でも、すべての ID が計算に使用されます。

4 必要に応じて次の操作を行います。

- エンティティ一覧、名前一覧、または勘定科目一覧を選択したレポート領域またはパッケージ領域に追加します。
- 一覧とともに使用するパラメータを指定します。
- 一覧を選択したレポート領域またはパッケージ域から削除します。
- 一覧を並べ替えます。

5 展開されたデイメンション一覧をプレビューするには、[プレビュー] をクリックします。

6 [OK] をクリックします。

デイメンションの変更の挿入

レポートまたはパッケージにデイメンションの変更を挿入し、異なるデイメンション ID のデータを表示できます。この変更は、そのデイメンションに別の変更が挿入されるまで有効です。

レポートのデイメンション変更は、そのデイメンションに関するレポートのデータの視点および Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を上書きします。パッケージのデイメンション変更は、パッケージのデータの視点および Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を上書きします。

▶ デイメンションの変更を挿入するには、次の手順に従います。

1 次のいずれかを実行します。

- レポートウィンドウでデイメンションの変更を挿入する位置の 1 つ下のレポート領域を選択します。
- パッケージウィンドウでデイメンションの変更を挿入する位置の 1 つ下の行を選択します。

2 [編集] メニューから [変更の挿入] の [デイメンション] を選択します。ここで、[デイメンション] は任意のデイメンションを指します。

3 [名前] 一覧に表示される ID を指定するには、フィルタを指定します。

- 4 ID パネルから ID、または関数パネルから関数を選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

ディメンションの変更の編集

ディメンションが変更されたディメンションを編集できます。例えば、2001 年 7 月に期間が変更されたとします。後で期間を 2001 年 8 月に変更する場合に、ディメンションの変更を編集できます。

レポートでは、ディメンションの変更が行われた各列または各行にディメンションのアイコンが表示されます。パッケージでは、ディメンションの変更が行われた各行の最後にディメンションのアイコンが表示されます。アイコンを選択して、アイコンが表すディメンションの変更を編集できます。

▶ ディメンションの変更を編集するには、次の手順に従います。

1 次のいずれかの操作を行います。

- レポートウィンドウで編集するディメンションの変更のアイコンを選択します。

注： 列または行全体ではなく、ディメンションの変更のアイコンのみを選択してください。

- パッケージウィンドウで、ディメンションの変更の行を選択するか、ダブルクリックします。

2 [編集] メニューから [ディメンション] の [ディメンション] を選択します。ここで、[ディメンション] は変更するディメンションを指します。

3 [名前] 一覧に表示される ID を指定するには、フィルタを指定します。

4 ID パネルから ID、または関数パネルから関数を選択します。

5 [OK] をクリックします。

セクションの挿入

レポートまたはパッケージにセクションを挿入して、複数のディメンション ID のデータを表示できます。レポートセクションは、レポートのデータの視点および Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を上書きします。パッケージセクションは、パッケージのデータの視点および Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を上書きします。例えば、レポートのデータの視点の勘定科目が Direct Labor の場合に、レポートに勘定科目のセクションを挿入して、代わりに Purchase Labor 勘定科目および Shipping Supplies 勘定科目に関するデータを表示できます。

▶ レポートまたはパッケージのセクションを挿入するには、次の手順に従います。

1 次のいずれかを実行します。

- レポートウィンドウでセクションを挿入する位置の 1 つ後の列または行を選択します。

- パッケージウィンドウでセクションを挿入する位置の 1 つ下の行を選択します。
- 2 [編集] メニューから [セクションの挿入] の [ディメンション] を選択します。ここで、[ディメンション] は任意の有効なディメンションを指します。
 - 3 [名前] 一覧に表示される ID を指定するには、フィルタを指定します。
 - 4 ディメンションの ID または関数（1 つまたは複数）を選択します。

ヒント： セクションを挿入すると、セクションにラベルを付けることができます。次に、セクションで使用するレポート行のコピーおよび貼り付けを行います。

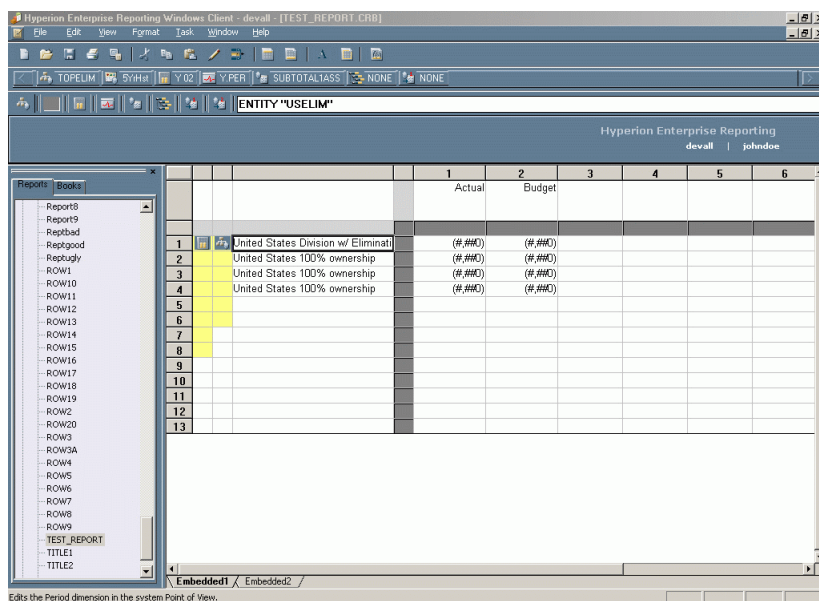
- 5 [OK] をクリックします。

セクション内へのセクションの挿入

レポートまたはパッケージ内にはネストされたセクションと呼ばれる、セクション内のセクションを挿入できます。

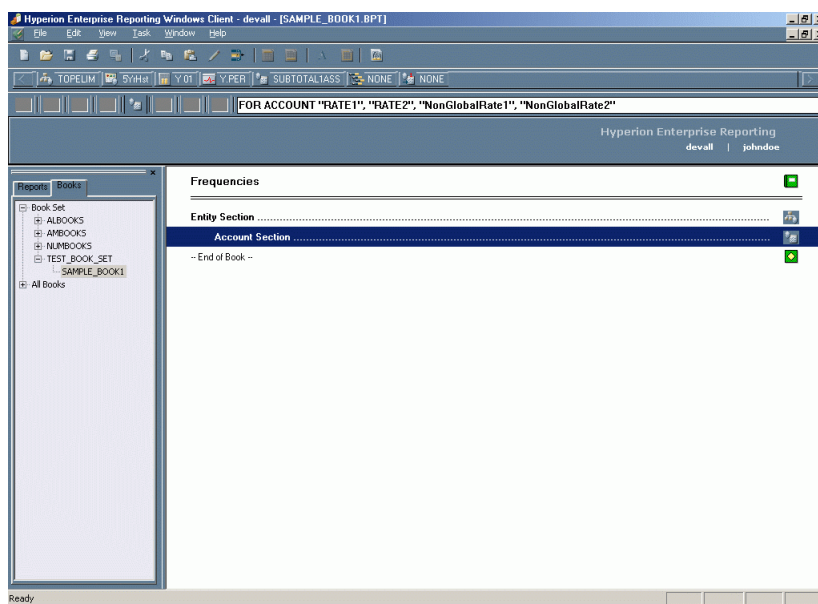
次の図に、エンティティのセクション内に期間のセクションがネストされたレポートを示します。

図 20 エンティティセクション内に期間セクションがネストされたレポートの例



次の図に、エンティティのセクション内に勘定科目のセクションがネストされたパッケージを示します。

図 21 エンティティセクション内に勘定科目セクションがネストされたパッケージの例



セクションを作成すると、セクションにラベルを付けることができ、操作が簡単になります。レポートウィザードを使用してレポートのセクションを作成することもできます。詳しくは、[第7章「レポートウィザードの使用」](#)を参照してください。

▶ セクション内にセクションを挿入するには、次の手順に従います。

1 レポートのセクションを挿入するには、次のいずれかの操作を行います。

- 行では、別のセクションを挿入するセクション内のセクションアイコンの右側にあるセルを選択します。
- 列では、別のセクションを挿入するセクション内のセクションアイコンの1つ下にあるセルを選択します。

2 パッケージのセクションを挿入するには、次の手順に従います。

1. 別のセクションを挿入するセクション内の行を選択します。
2. ネストされたセクション用のプレースホルダとして、選択したセクション内に任意のレポートを挿入します。詳しくは、[63 ページの「パッケージへのレポートの挿入」](#)を参照してください。
3. プレースホルダのレポートが含まれる行を選択します。

3 [編集] メニューから [セクションの挿入] の [ディメンション] を選択します。ここで、[ディメンション] は任意の有効なディメンションです。

4 [名前] 一覧に表示される ID を指定するには、フィルタを指定します。

5 セクションに含める項目を選択し、[OK] をクリックします。

6 パッケージのセクションを挿入している場合は、プレースホルダのレポートを含む行を削除します。

セクションの編集

セクションでは、一連のディメンション ID の列または行を設定します。また、複数のディメンションの変更と同じ目的を果たし、ディメンションの変更を個別に挿入するより効率的です。レポートのセクションまたはパッケージのセクションを編集して、セクションに含まれるディメンション ID を変更できます。

➤ セクションを編集するには、次の手順に従います。

- 1 レポートウィンドウまたはパッケージウィンドウで編集するセクションを選択します。
- 2 [編集] メニューから [ディメンション] の [ディメンション] を選択します。ここで、[ディメンション] はセクションのディメンションを指します。
- 3 [名前] 一覧に表示される ID を指定するには、フィルタを指定します。
- 4 セクションに含める項目を選択し、[OK] をクリックします。

プロンプトの値の割り当て

パッケージにレポートを挿入するときに、レポート内のプロンプトの値を指定できます。これにより、パッケージの実行時にそのプロンプトが表示されません。例えば、データ種別の指定を求めるレポートのプロンプトの場合に、パッケージにレポートを挿入するときに Actual データ種別を指定できます。パッケージを実行すると、レポートはデータ種別に関するプロンプトを表示せずに Actual データを取得します。

パッケージ内のプロンプトの値を指定する前に、パッケージのレポートをプレビューして、どのレポートがどのディメンションに関するプロンプトを含んでいるかを特定する必要があります。詳しくは、[157 ページの「レポートバッチコマンド、バッチファイル、およびタスクファイル」](#)を参照してください。

レポートのいくつかのプロンプトの値は、同じレポートの他のプロンプトの値を割り当てずに、割り当てることができます。例えば、データ種別と期間に関するレポートのプロンプトがある場合は、期間に関するプロンプトの値を指定せずに、データ種別に関するプロンプトの値を指定することができます。パッケージを実行すると、レポートにはデータ種別に関するプロンプトではなく、期間の指定を求めるプロンプトが表示されます。

➤ レポートのプロンプトに値を割り当てるには、次の手順に従います。

- 1 パッケージウィンドウで、プロンプトを含んでいるレポートの行を選択します。
- 2 [編集] メニューから [プロンプト値の貼り付け] の [ディメンション] を選択します。ここで、[ディメンション] はプロンプトのディメンションを指します。
- 3 [名前] 一覧に表示される ID を指定するには、フィルタを指定します。
- 4 1 つまたは複数の ID または関数を選択します。

ヒント： 計算式バーの編集ボックスにデータ計算式を表示する場合は、それらを選択する代わりに ID および関数を入力することができます。

- 5 [OK] をクリックします。

6

データ計算式とタイトル計算式の使用

この章の内容

タイトル計算式	87
キーワード	92
データ計算式の編集	106
定義の表示	108
タイトル計算式の編集	108

レポートに計算式を使用して、データを取得または計算したり、テキストを表示したりすることができます。データ計算式には、レポートの列および行のデータを計算するための財務計算関数および他の数式が含まれています。多くのデータ計算式には、パラメータを指定する必要があります。タイトル計算式にはテキスト関数が含まれており、列および行の見出しにテキストを表示できます。

計算式バーの編集ボックスまたはツールバーの「計算式の編集」アイコンを使用して、計算式を作成および編集できます。データ計算式とタイトル計算式の表示を切り替えるには、「表示形式」メニューから「計算式バー」メニューコマンドを選択するか、または「データの表示」から、ツールバーの「タイトル計算式」アイコンをクリックします。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting 始めるには』を参照してください。

タイトル計算式

列見出しおよび行見出しのテキストを指定するには、タイトル計算式を使用します。テキストのみが含まれる列および行を作成する場合も、タイトル計算式を使用できます。選択した列または行にテキストを入力するには、計算式バーの編集ボックスにテキストを入力するか、またはツールバーの「計算式の編集」アイコンを使用します。

ヘッダーおよびフッターにもタイトル計算式を使用します。テキストフィールドを使用して、レポートに注釈とローカル見出しを含めることができます。注釈およびローカル見出しについて詳しくは、[134 ページの「注釈とローカル見出しの設定」](#)を参照してください。

テキストの入力ルール

計算式バーの編集ボックスにテキストを入力します。計算式バーの編集ボックスに表示されているのがタイトル計算式である場合とデータ計算式である場合とで、

テキスト入力のルールが異なります。レポートへのテキスト入力時には、次の指示に従ってください。

- 計算式バーの編集ボックスにデータ計算式が表示されている場合は、入力するテキストを引用符（“ ”）で囲みます。
- 計算式バーの編集ボックスにタイトル計算式が表示されている場合は、入力するテキストを引用符で囲まないでください。

データ計算式およびタイトル計算式の表示方法については、『Hyperion Enterprise Reporting 始めるには』を参照してください。

データ計算式

データ計算式では、キーワードを含むテキスト表示関数を使用して、特定のディメンション ID のデータを取得できます。また、算術演算子や数字などの数式および財務計算関数を使用して、データを作成することもできます。例えば、次のデータ計算式では財務計算関数 AVG を使用して、行 1、行 3、および行 7 の平均値を示します。

AVG(1, 3, 7)

計算式バーの編集ボックスまたはツールバーの「計算式の編集」アイコンを使用して、列または行の計算式を作成あるいは編集できます。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting 始めるには』を参照してください。

数式

列および行のデータ計算式に数式を使用して、列および行が示すデータを決定します。例えば、次の行の計算式は、行 3 のデータに行 4 のデータを乗算する数式で構成されています。

[3] * [4]

一部の財務計算関数では、数式が構文の一部として必要です。例えば、SUM 関数では、この関数が加算する列または行を指定する数式が必要です。

数式には、算術的なタスクまたは比較を実行する記号である演算子、およびオペランドを含めることができます。オペランドで、演算子が結果を生成する際に使用する値を指定します。関数、およびディメンションなどの他の数式を含めることもできます。

数式を必要とする財務計算関数を選択する場合は、ダイアログボックスにアクセスし、このダイアログボックスでグラフィカルに数式を構築します。データ計算式を表示すると、計算式バーの編集ボックスに数式が関数とともに表示されます。ダイアログボックスを開かずに、計算式バーの編集ボックスで数式を作成または編集することもできます。

数式における演算子

演算子は、算術的なタスクまたは比較の実行、列や行の範囲の参照、あるいは計算式へのテキストの導入を行う記号です。複数の演算子が存在する数式の場合は、演算子の優先順位に従ってシステムで演算が実行されます。

次の表に、データ計算式および基準ステートメントの数式に含めることができる演算子の種類を示します。

表 15 演算子

種類	演算子	説明	例
算術	+	加算します。	次の行の計算式では、行 4 と行 5 の値を加算します。[4] + [5]
算術	-	減算します。	次の行の計算式では、行 4 の値から 3 を減算します。[4] - 3
算術	*	乗算します。	次の行の計算式では、行 4 の絶対値に 150 を乗算します。 ABS[4] * 150
算術	/	除算します。	次の行の計算式では、行 4 の値を行 5 の値で除算します。[4] / [5]
参照	:	SUM 関数とともに使用し、範囲を指定します。	次の行の計算式では、行 4 ～行 12 の値を加算します。SUM (4:12)
単項マイナス	-	値の正負符号を変更します。	次の列の数式では、列 4 の値を 12 で除算し、結果の正負符号を変更します。- ([4] / 12)
基準	IS	指定した属性を持ちます。	次の基準ステートメントでは、値が Asset 属性を持つかどうかを判断し、その属性を持つ値に任意の表示基準を適用します。 VALUE IS ASSET
基準	IS NOT	指定された属性を持ちません。	次の基準ステートメントでは、値が Liability 属性を持つかどうかを判断し、その属性を持たない値に任意の表示基準を適用します。VALUE IS NOT LIABILITY
基準	AND	および	次の基準ステートメントでは、50 より大きく 250 より小さい値に表示基準を適用します。VALUE > 50 AND < 250
基準	BETWEEN	間	次の基準ステートメントでは、選択した

種類	演算子	説明	例
			列または行の値が 100 と 200 の間にある場合に任意の表示基準を適用します。 VALUE BETWEEN 100, 200
基準	OR	または	次の基準ステートメントでは、Liability 属性および Expense 属性のテスト値を持つかどうかを判断し、どちらの属性も持たない値に任意の表示基準を適用します。 VALUE IS NOT LIABILITY OR EXPENSE
基準	NOT	ではない	次の基準ステートメントでは、結果が 75 より大きくない場合に任意の表示基準を適用します。NOT (VALUE > 75)
基準	=	等しい	次の基準ステートメントでは、すべての 100 の値に任意の表示基準を適用します。 VALUE = 100
基準	<	より小さい	次の基準ステートメントでは、100 より小さいすべての値に任意の表示基準を適用します。VALUE < 100
基準	>	より大きい	次の基準ステートメントでは、選択した列または行の値が列 6 の対応する値より大きい場合に、任意の表示基準を適用します。VALUE > [6]
基準	<=	以下	次の基準ステートメントでは、選択した列または行の値が列 6 の対応する値以下である場合に、任意の表示基準を適用します。VALUE <= [6]
基準	>=	以上	次の基準ステートメントでは、選択した列または行の値が列 6 の対応する値以上である場合に、任意

種類	演算子	説明	例
			の表示基準を適用します。VALUE >= [6]
基準	<>	等しくない	次の基準ステートメントでは、選択した列または行の値が列 6 の対応する値と等しくない場合に、任意の表示基準を適用します。VALUE <> [6]

基準ステートメントだけでなく、列および行の計算式にも IS 演算子および IS NOT 演算子以外の基準演算子を使用できます。例えば、次の行の計算式では、行 4 のそれぞれの値を 150 と比較します。

[4] <> 150

上記の計算式では、行 4 の値が 150 よりも小さいかまたは大きい場合に、該当する各列で 1 が生成されます。行 4 の値が 150 に等しい場合は、該当する各列の結果が 0（ゼロ）になります。

優先順位

数式に複数の演算子がある場合は、演算子の優先順位に応じてシステムで演算が実行されます。複数の演算子を持つ数式で演算を実行する場合にシステムが従う演算子の優先順位は、次のとおりです。

- 単項マイナスおよび NOT
- (x) 乗算および (/) 除算
- (-) 減算および (+) 加算
- (=) 等号および (-) 減算
- (<) より小さい、(>) より大きい、(>=) 以上、および (<=) 以下
- (=) 等しいおよび (<>) 等しくない
- AND
- OR

例えば、行の計算式で次の数式が使用されるとします。

[10] + 3 * 4

この例で、行 10 の列の値が 8 である場合は、優先順位に従って $3 * 4 + 8 = 20$ と計算することによって、値 20 がこの列に生成されます。

数式のオペランド

オペランドでは、結果を生成するために演算子で使用する値を指定します。次の表に、オペランドの種類を示します。

表 16 オペランド

オペランド	例
絶対値	3, 0.0, 27.5, 65.1987
行または列の参照	[1], [4], [8]
データベースの取得	[ACC SALES CAT BUDGET], [DAT @CUR CAT ACTUAL]
関数	AVG、BET、CHG
VALUE	次の基準ステートメントでは、100 よりも大きいすべての値に表示基準を適用します。VALUE > 100

注： オペランド VALUE は、基準ステートメントでのみ使用できます。現在の値変数を貼り付けることにより、このオペランドを基準ステートメントに追加します。

次の行の計算式は、行 3 の値に 100 を乗算する数式で構成されており、行を参照する[3]および絶対値 100 がともにオペランドです。

[3] * 100

キーワード

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

Hyperion Enterprise 製品アプリケーションの各ディメンションには、そのディメンションを識別するキーワードがあります。Hyperion Enterprise Reporting の計算式では、ID、関数、またはその両方をキーワードとともに使用して、ディメンションのデータを取得できます。

現在のアプリケーションのディメンションによって、Hyperion Enterprise Reporting で作成する計算式に表示できるキーワードが異なります。

次のキーワードは、Hyperion Enterprise アプリケーションのディメンションを表します。

- ACC - 勘定科目
- CAT - データ種別
- CONSOL - 連結詳細
- CURR - 通貨
- DAT - 期間
- ENT - エンティティ
- FIE - フィールド
- FRE - 期間単位

- PAR - 親
- SUBACC1 - 最初のサブ勘定科目セット
- SUBACC2 - 第 2 のサブ勘定科目セット
- SUBENT - サブエンティティ

ACC - 勘定科目

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

キーワード ACC では、勘定科目の列または行が作成されます。キーワード ACC を使用する計算式では、ID または次の関数も使用して勘定科目を指定します。

- @ALL
- AS
- @ASK
- @CUR
- @SUB

勘定科目を範囲ではなく個別に指定する場合は、キーワード ACC は次の形式で表示されます。

ACC Account1[,...Accountn]

変数	説明
Account1	指定対象の最初の勘定科目の ID または関数
Accountn	指定対象の最後の勘定科目の ID または関数

次の計算式では、Sales、Rentals、および Service の各勘定科目に一連の列または行が作成されます。

ACC SALES, RENTALS, SERVICE

連続する一連の勘定科目の列または行を作成する場合は、キーワード ACC は次の形式で表示されます。

ACC FROM First UNTIL Last

変数	説明
First	範囲の最初の勘定科目の ID または関数
Last	範囲の最後の勘定科目の ID または関数

例えば、次の計算式では、Sales 勘定科目で始まり Net Income 勘定科目で終わり、すべての第 1 レベルサブ勘定科目が含まれる範囲にデータの列が作成されます。

ACC FROM SALES UNTIL NETINC WITHSUB1

注： [Edit Dimensions - Account (ディメンションの編集 - 勘定科目)] ダイアログボックスの [Include Subaccounts (サブ勘定科目を含む)] オプションまたは [Include First Level Subaccounts (第 1 レベルのサブ勘定科目を含む)] オプションを選択した場合は、関数 WITHSUB または WITHSUB1 が表示されます。

CAT - データ種別

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

キーワード CAT では、データ種別の列または行が作成されます。キーワード CAT を使用する計算式では、ID を使用してデータ種別を指定したり、AS 関数、@ASK 関数、および@CUR 関数を使用したりすることができます。

キーワード CAT は次の形式で表示されます。

CAT Category1[,...,Categoryn]

変数	説明
Category1	指定対象の最初のデータ種別
Categoryn	指定対象の最後のデータ種別

例えば、次の計算式では、Actual データ種別の列または行が作成されます。

CAT ACTUAL

次の計算式では、Actual データ種別および Budget データ種別に列または行が作成されます。

CAT ACTUAL, BUDGET

CONSOL - 連結詳細

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

キーワード CONSOL では、特定の連結詳細のデータを示す列または行が作成されます。

例えば、次の計算式では、現在のディメンション設定の消去データが取得されます。

CONSOL Elimination

注： 関数ロジックを使用して連結詳細を指定する場合は、次のいずれかの関数を選択し、キーワード CONSOL とともに使用できます。

- AS
- @ASK
- @CUR

ID ロジックを使用して連結詳細を指定する場合は、キーワード CONSOL が次の形式で表示されます。

CONSOL Detail

ここで、Detail は Adjustment、Contribution、Elimination、NONE、Proportion、または Translation です。デフォルトは NONE で、連結の詳細は表示されません。

表 17 連結詳細の種類

種類	説明
調整の連結詳細	子が親に拠出する値に対して行われた、すべての親の仕訳帳調整の合計残高
調整後の連結詳細	親も含めた、調整、消去、比率、および換算の詳細の合計
消去連結詳細	会社間消去後に親に連結される値
比率連結詳細	親が所有している子エンティティの換算値の値
換算連結詳細	親の通貨に換算された、子エンティティの最下位データの結果

CURR - 通貨

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

キーワード CURR では、通貨の列または行が作成されます。キーワード CURR を使用する計算式では、ID を使用して通貨を指定したり、AS 関数、@ASK 関数、または@CUR 関数を使用したりすることができます。

通貨ディメンションを使用すると、複数のエンティティの値を、各エンティティの通貨ごとではなく 1 種類の通貨で示すことができます。例えば、レポートにフランスの行、イタリアの行、およびドイツの行が存在するとします。キーワード CURR を使用すると、フランスの値をフランで、イタリアの値をリラで、ドイツの値をドイツマルクで示すのではなく、すべての値をリラで示す列を設定できます。

キーワード CURR は次の形式で表示されます。

CURR Currency1[, ..., Currencyn]

変数	説明
Currency1	指定対象の最初の通貨単位
Currencyn	指定対象の最後の通貨単位

例えば、次の計算式では、データがフランスフランで取得されます。

CURR FF

次の計算式では、米ドル、フランスフラン、およびドイツマルクの列または行が作成されます。

CURR USD, FF, DM

DAT - 期間

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

キーワード DAT では、期間の列または行が作成されます。キーワード DAT を使用する計算式では、ID または数字も使用して期間を指定します。また、次のいずれかの関数を使用することもできます。

- AS
- @ASK
- @CMO
- @CUR
- @END
- @START

期間を範囲ではなく個別に指定する場合は、キーワード DAT が次の形式で表示されます。

DAT Period1[, ..., Periodn]

変数	説明
Period1	指定対象の最初の期間の ID、番号、または関数
Periodn	指定対象の最後の期間の ID、番号、または関数

次の計算式は、現在の期間の直前の期間の列または行を設定します。

DAT @CUR-1

レポートを実行し、現在の期間が 3 月の場合は、この計算式で 2 月の値が取得されます。

連続した期間の範囲に列または行を作成する場合は、キーワード DAT が次の形式で表示されます。

DAT FROM First UNTIL Last

変数	説明
First	範囲の最初の期間の ID、番号、または関数
Last	範囲の最後の期間の ID、番号、または関数

次の計算式では、2月の期間から現在のエンティティの期末までの範囲に列または行を設定します。

DAT FROM FEB UNTIL @END

ENT - エンティティ

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

キーワード ENT では、エンティティの列または行が作成されます。キーワード ENT を使用する計算式では、ID または次の関数も使用してエンティティを指定します。

@ALL	@CON
AS	@CUR
@ASK	@DEP
@BAS	@PAR

キーワード ENT は次の形式で表示されます。

ENT Entity1[,...,Entityn]

変数	説明
Entity1	指定対象の最初のエンティティ
Entityn	指定対象の最後のエンティティ

例えば、次の計算式では、JUNIPER エンティティのデータが取得されます。

ENT JUNIPER

次の計算式では、DIAMOND、JUNIPER、および PEBBLE の各エンティティの列または行が作成されます。

ENT DIAMOND, JUNIPER, PEBBLE

FIE - フィールド

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

キーワード FIE では、フィールドの列または行が作成されます。キーワード FIE を使用する計算式では、ID を使用してフィールドを指定したり、AS 関数、@ASK 関数、または@CUR 関数を使用したりすることができます。

キーワード FIE は次の形式で表示されます。

FIE Field1[, ..., Fieldn]

変数	説明
Field1	指定対象の最初のフィールド
Fieldn	指定対象の最後のフィールド

ID ロジックを使用して、A24、BAS、Credits、CUM、Debits、DIF、DWV、OPE、PRE、VAL の各フィールドを指定できます。

Hyperion Enterprise では、ID ロジックを使用して、IC1、IC2、PCONS、PCTRL、POWN、SHAROS、SHAROW、VSHAROS、VSHAROW の各フィールドを指定できます。

注： デフォルトのフィールドは VAL です。

例えば、次の計算式では、現在のディメンション設定の前期のデータが取得されます。

FIE PRE

次の計算式では、OPE フィールド、PRE フィールド、および VAL フィールドの列または行が作成されます。

FIE OPE, PRE, VAL

BAS フィールド

BAS フィールドでは、現在のディメンション設定の期首残高が取得されます。

BAS フィールドで生成される値は、勘定科目の種類により異なります。種類が Asset、Balance、または Liability の勘定科目では、BAS フィールドに常に期首残高が表示されます。種類が Expense、Flow、または Income の勘定科目では、BAS フィールドに前年期末値として常に 0（ゼロ）が表示されます。

例えば、次の計算式では、CASH 勘定科目の前年期末値が取得されます。

FIE BAS ACC CASH

Debits フィールド

Debits フィールドでは、現在のディメンション設定の借方の合計が取得されます。

Credits フィールド

Credits フィールドでは、現在のディメンション設定の貸方の合計が取得されます。

IC1 フィールド

IC1 フィールドでは、現在のエンティティと現在の第 1 レベルサブ勘定科目が交換されます。例えば、エンティティと IC サブ勘定科目表の第 1 レベルサブ勘定科

目の会社間照合レポートに行を設定する場合は、主要勘定科目および IC1 フィールドに列を設定し、サブ勘定科目表のエンティティの値を表示する必要があります。

注： 使用するエンティティが会社間用に設定されていない場合は、IC1 フィールドレポートにエラーメッセージが表示されます。

IC2 フィールド

IC2 フィールドでは、現在のエンティティと現在の第 2 レベルサブ勘定科目が交換されます。例えば、エンティティと IC サブ勘定科目表の第 2 レベルサブ勘定科目の会社間照合レポートに行を設定する場合は、主要勘定科目および IC2 フィールドに列を設定し、サブ勘定科目表のエンティティの値を表示する必要があります。

SHAROS フィールド

SHAROS フィールドでは、現在のディメンション設定の合計未払株が取得されます。

VSHAROS フィールド

VSHAROS フィールドでは、現在のディメンション設定の合計未払議決権株が取得されます。

SHAROW フィールド

SHAROW フィールドでは、現在のディメンション設定の合計所有株が取得されます。

VSHAROW フィールド

VSHAROW フィールドでは、現在のディメンション設定の合計所有議決権株が取得されます。

PCTRL フィールド

PCTRL フィールドでは、現在のディメンション設定の最終制御比率値が取得されます。

PCONS フィールド

PCONS フィールドでは、現在のディメンション設定の連結比率値が取得されます。

POWN フィールド

POWN フィールドでは、現在のディメンション設定の最終出資比率値が取得されます。

A24 フィールド

A24 フィールドでは、Balance、Asset、または Liability の各勘定科目に関して、24 期間の平均が取得されます。A24 フィールドは、前のデータ種別にリンクした年次累計表示にのみ使用できます。システムは、次の計算式を使用して 24 期間の平均を計算します。

$$\text{OpeningBalance} + ((\text{Sum of StartPeriod through PreviousPeriod}) \times 2) + \text{CurrentPeriod} / 2 \times \text{Number of ElapsedPeriods}$$

次の計算式では、Cash 勘定科目の 24 期間の平均が計算されます。

FIE A24 ACC CASH

DIF フィールド

DIF フィールドでは、現在のディメンション設定の今期と前期の値の差異が計算されます。

例えば、次の計算式では、前期と今期の Cash 勘定科目の差異が計算されます。

FIE DIF ACC CASH

DWV

DWV フィールドでは、現在のディメンション設定の平均日数による重み付け値が計算されます。月など、期間の長さが同じでない場合に、売上の重み平均を計算する際に便利です。

注： DWV 計算には、[レポートオプション] ダイアログボックスの [「各月の日数」勘定] 設定を使用します。このダイアログボックスは、[タスク] メニューから表示します。

期間ごとに、システムは勘定科目値とその期間の日数を乗算し、結果の累計を保持します。システムは各期間の日数の累計も保持します。DWV フィールドでは、累計重み係数を各期間の日数の累計で除算し、次の 2 つの計算を自動化します。

$$\text{重み係数} = (\text{勘定科目}) \times (\text{期間の日数})$$

$$\text{重み係数} = \text{累計重み係数} / \text{累計日数}$$

例えば、次の計算式では、Sales 勘定科目の重み付け平均が計算されます。

FIE DWV ACC SALES

CUM フィールド

CUM フィールドでは、現在のディメンション設定の現在のデータ種別の開始期間からの累積値が取得されます。

VAL フィールド

VAL フィールドでは、現在のディメンション設定の値が取得されます。

OPE フィールド

Income、Expense、および Flow の各勘定科目の場合は、OPE フィールドでは、現在のディメンション設定の期首残高が取得されます。Asset、Liability、および Balance の各勘定科目の場合は、OPE フィールドでは、前のデータ種別の期末残高が表示されます。

PRE フィールド

PRE フィールドには、現在のディメンション設定の前期値が表示されます。

例えば、次の計算式では、前期の Cash 勘定科目の値が取得されます。

FIE PRE ACC CASH

注： レポート期間が現在のデータ種別の最初の期間であり、データ種別が前期のデータ種別にリンクしている場合は、システムによって前期のデータ種別の最後の期間の値が取得されます。

FRE - 期間単位

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

キーワード FRE では、期間単位とビューの組み合わせの列または行が作成されます。キーワード FRE を使用した計算式では、ID を使用して期間単位およびビューを指定したり、AS 関数、@ASK 関数、および@CUR 関数を使用したりすることができます。

注： 指定対象の期間単位の会計年度ごとの期間数を、現在のデータ種別の期間単位より多くすることはできません。例えば、現在のエンティティの期間単位が四半期ごとである場合は、年ごとの期間単位であれば指定できますが、月別の期間単位は指定できません。

キーワード FRE は次の形式で表示されます。

FRE Frequency1.View1[,...,FrequencyN.ViewN]

変数	説明
Frequency1	指定対象の最初の期間単位の期間単位 ID または関数
View1	指定対象の最初の期間単位のビュー ID または関数
Frequencyn	指定対象の最後の期間単位の期間単位 ID または関数
Viewn	指定対象の最後の期間単位のビュー ID または関数

例えば、次の計算式では、累計表示形式で月次期間単位のデータが取得されます。

FRE M.YTD

次の計算式では、月次および四半期ごとの累計期間単位の列または行が作成されます。

FRE M.PER, Q.YTD

次の表に、期間単位 ID を示します。

表 18 レポート期間単位

期間単位	取得されるデータ
D	日次データ
W	週次データ
M	月次データ
Q	四半期データ
T	三半期データ
H	半期データ
Y	年次データ

次の表に、ビュー ID を示します。

表 19 ビュー ID

ビュー	取得されるデータ
PER	期別値。複数の期間の累計値ではありません。
WTD	現在の週の初めからの累計値
MTD	現在の月の初めからの累計値
QTD	現在の四半期の初めからの累計値
TTD	現在の三半期の初めからの累計値
HTD	現在の半期の初めからの累計値
CTD	現在のデータ種別の初めからの累計値

ビュー	取得されるデータ
YTD	現在の暦年の初めからの累計値

PAR - 親エンティティ

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

キーワード PAR では、親エンティティの列または行が作成されます。期間により変化する組織の場合は、レポートで指定されているエンティティについて、親ディメンションにより、レポートで使用する関係が設定されます。キーワード PAR を使用する計算式では、ID または次の関数も使用して親を指定します。

@ALL	@CUR
AS	@DEP
@ASK	@ENT
@BAS	@PAR
@CON	

キーワード PAR は次の形式で表示されます。

PAR Entity1[Entity,...,Entityn]

変数	説明
Entity1	最初の列または行のエンティティ
Entity	エンティティ ID、関数、またはなし
Entityn	最後の列または行のエンティティ

例えば、次の計算式では、COMP1 エンティティのデータが取得されます。

PAR COMP1

次の計算式では、COMP1 エンティティおよび COMP2 エンティティの列が取得されます。

PAR COMP1,COMP2

SUBACC1 - 最初のサブ勘定科目セット

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

キーワード SUBACC1 では、指定した表のサブ勘定科目の最初のセットまたは唯一のセットの列あるいは行が作成されます。また、キーワード SUBACC1 を使用する計算式では、ID または次の関数も使用してサブ勘定科目を指定します。

- @ALL
- AS
- @ASK
- @CUR

注： SUBACC1 は、第 1 レベルサブ勘定科目用に予約されていません。

サブ勘定科目を範囲ではなく個別に指定する場合は、キーワード SUBACC1 が次の形式で表示されます。

SUBACC1 Table1.Subacct1[,...,Tablen.Subacctn]

変数	説明
Table1	一覧の最初のサブ勘定科目表
Subacct1	最初のサブ勘定科目表のサブ勘定科目
Tablen	一覧の最後のサブ勘定科目表
Subacctn	最後のサブ勘定科目表のサブ勘定科目

次の計算式では、PRODUCT サブ勘定科目表の SHOES サブ勘定科目、PROD サブ勘定科目表の BALLS サブ勘定科目、および DIVISION サブ勘定科目表の TENNIS サブ勘定科目の各データを含んでいる列が作成されます。

SUBACC1 PRODUCT.SHOES,PROD.BALLS,DIVISION.TENNIS

サブ勘定科目表で連続したサブ勘定科目の範囲の列または行を作成する場合は、キーワード SUBACC1 が次の形式で表示されます。

SUBACC1 FROM Table.Subacct1 UNTIL Subacctn

変数	説明
Table	サブ勘定科目表
Subacct1	範囲の最初のサブ勘定科目
Subacctn	範囲の最後のサブ勘定科目

次の計算式では、PROD サブ勘定科目表の BALLS サブ勘定科目から SHOES サブ勘定科目の行が作成されます。

SUBACC1 FROM PROD.BALLS UNTIL SHOES

SUBACC2 - 第 2 のサブ勘定科目セット

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

キーワード SUBACC2 では、指定した表のサブ勘定科目の 2 番目のセットの列または行が作成されます。また、キーワード SUBACC2 を使用する計算式では、ID または次の関数も使用してサブ勘定科目を指定します。

- @ALL
- AS
- @ASK
- @CUR

注： SUBACC2 は、第 2 レベルのサブ勘定科目用に予約されていません。

キーワード SUBACC2 は次の形式で表示されます。

SUBACC2 Table1.Subacct1[,...,Tablen.Subacctn]

変数	説明
Table1	一覧の最初のサブ勘定科目表
Subacct1	最初のサブ勘定科目表のサブ勘定科目
Tablen	一覧の最後のサブ勘定科目表
Subacctn	最後のサブ勘定科目表のサブ勘定科目

次の計算式では、PRODUCT サブ勘定科目表の SHOES サブ勘定科目、PROD サブ勘定科目表の BALLS サブ勘定科目、および DIVISION サブ勘定科目表の TENNIS サブ勘定科目の各データを含んでいる列が作成されます。

SUBACC2 PRODUCT.SHOES,PROD.BALLS,DIVISION.TENNIS

サブ勘定科目表の連続したサブ勘定科目の範囲の列または行を作成する場合は、キーワード SUBACC2 が次の形式で表示されます。

SUBACC1 FROM Table.Subacct1 UNTIL Subacctn

変数	説明
Table	サブ勘定科目表
Subacct1	範囲の最初のサブ勘定科目
Subacctn	範囲の最後のサブ勘定科目

次の計算式では、PROD サブ勘定科目表の BALLS サブ勘定科目から SHOES サブ勘定科目の行が作成されます。

SUBACC2 FROM PROD.BALLS UNTIL SHOES

SUBENT - サブエンティティ

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

キーワード SUBENT では、サブエンティティの列または行が作成されます。キーワード SUBENT を使用する計算式では、ID を使用してサブエンティティを指定したり、@ASK 関数または@CUR 関数を使用したりすることができます。

キーワード SUBENT は次の形式で表示されます。

SUBENT Subentity1[,...,Subentityn]

変数	説明
Subentity1	指定対象の最初のサブエンティティの ID または関数
Subentityn	指定対象の最後のサブエンティティの ID または関数

例えば、次の計算式では、調整後のサブエンティティおよび最下位サブエンティティの列が作成されます。

SUBENT PADJ, BASE

データ計算式の編集

データ計算式には、列および行の値の財務計算関数またはテキスト表示関数が含まれています。データ計算式に財務計算関数を使用して、計算を実行できます。

多くの財務計算関数には、パラメータを指定する必要があります。例えば、財務計算関数 CHG を貼り付けて 2 つの列または行の値の差異を算出する場合は、比較する列または行の番号を入力する必要があります。

一部の財務計算関数では、ディメンションを指定する数式を使用できます。ID ロジックまたは関数ロジックのいずれかを使用して、数式にディメンションを貼り付けることができます。また、数式に算術記号を含めることも、列や行を番号で参照することもできます。

例えば、関数 ABS を貼り付けて、数式の絶対値を得る場合は、その後、Sales 勘定科目ディメンション、マイナス記号、および Cost of Sales 勘定科目ディメンションを貼り付けることにより、数式を作成できます。この計算式で、Sales から Cost of Sales を差し引いた絶対値を算出できます。

次の表に、任意の Hyperion Solutions 製品アプリケーションのレポート内の列または行のデータ計算式に貼り付けることができる財務計算関数を示します。

表 20 財務計算関数

関数	説明
ABS	数式の絶対値を生成します。
AVG	列または行のグループの平均値を算出します。

関数	説明
BET	2つの列または行値の差異を算出し、差異の良否を示します。
CELL	数式で使用する値を別のセルから取得します。
CHG	2つの行または列の値の差異を算出しますが、差異を評価しません。
CPN	現在の期間の番号を取得します。
DUR	一連の列または行に、特定の値または数式の結果を表示します。
IFT	数式によって生成される、負、ゼロに等しい、または正のいずれかの結果に応じて、特定の値または数式の結果を表示します。
MUL	2つの列または行の値を乗算します。
PBE	2つの列または行の値の差異率を算出し、差異の良否を決定します。
PCH	2つの列または行の値の差異率を算出しますが、差異を評価しません。
PCR	指定した列の値を指定した行の値のパーセント割合として計算したり、指定した行の値を指定した列の値のパーセント割合として計算したりします。
PCT	2つの列の値の比率をパーセント単位で表します。
RAT	2つの行または列の値の比率を算出します。
RND	数式の結果を四捨五入します。
SUM	指定した列または行の値を加算します。

▶ データ計算式を編集するには、次の手順に従います。

- 1 レポートのウィンドウで、列または行を選択します。
- 2 [編集] メニューから [計算式] を選択するか、またはツールバーの [計算式の編集] アイコンを選択します。あるいは、[Shift] キーを押しながら [F2] キーを押します。
- 3 データ計算式を作成または編集するには、[種類] ドロップダウンリストからデータ計算式の種類を選択し、次のいずれかの操作を行います。
 - 財務計算関数を含んでいるデータ計算式の場合は、[関数] ドロップダウンリストから関数を選択し、[関数の貼り付け] アイコンをクリックした後、関数で必要なパラメータを選択または入力します。選択する関数については、[関数ヘルプ] アイコンをクリックしてください。
 - テキスト表示関数を含んでいるデータ計算式の場合は、[ディメンション] ドロップダウンリストからディメンションを選択し、[ディメンション] アイコンをクリックした後、ディメンションを選択するか、またはディメンションに必要なパラメータを入力します。

注： データ計算式の種類を変更すると、システムにより現在の計算式が消去されます。

- 4 [OK] をクリックします。

ヒント： 財務計算関数またはテキスト表示関数、およびパラメータを選択してデータ計算式に貼り付ける代わりに、計算式バーの編集ボックスにこれらを入力することもできます。

定義の表示

レポートウィンドウには、デフォルトで列および行見出しが表示されますが、[表示] メニューの [定義] コマンドを使用すると、見出しではなく、列および行のデータの計算式を表示できます。[定義] コマンドの影響を受けるのは、レポートウィンドウのみです。レポートのプレビューや印刷したレポートには影響しません。

例えば、次の見出しを持つ列に、列 3 と列 7 の値の差異を正または負のパーセントで表示するように設定するとします。

Percent Change

レポートのウィンドウには、デフォルトで見出しが表示されます。[定義] コマンドを選択すると、次の計算式がレポートウィンドウの列見出しに表示されます。

PBE [3,7]

- 定義を表示するには、レポートウィンドウで [表示形式] メニューから [定義] を選択します。

注： [定義] コマンドを選択すると、メニューの [定義] コマンドの左側にチェックマークが表示されます。

タイトル計算式の編集

タイトル計算式のテキスト関数を使用して、ディメンション ID や説明など、レポートのテキストを取得できます。例えば、@DES 関数を使用して、列に指定するディメンション ID の説明を表示できます。

- タイトル計算式を編集するには、次の手順に従います。
 - 1 レポートのウィンドウで、列または行を選択します。
 - 2 [編集] メニューの [計算式] を選択するか、ツールバーの [計算式の編集] アイコンをクリックし、[タイトル] タブを選択します。
 - 3 [関数] ドロップダウンリストで貼り付ける関数を選択し、関数に必要な任意のパラメータを選択または入力した後、[関数の貼り付け] アイコンをクリックします。

ヒント： 選択する関数については、[関数ヘルプ] アイコンをクリックしてください。テキスト関数およびパラメータを選択してタイトル計算式に貼り付ける代わりに、計算式バーの編集ボックスにこれらを入力することもできます。

- 4 [OK] をクリックします。

この章の内容

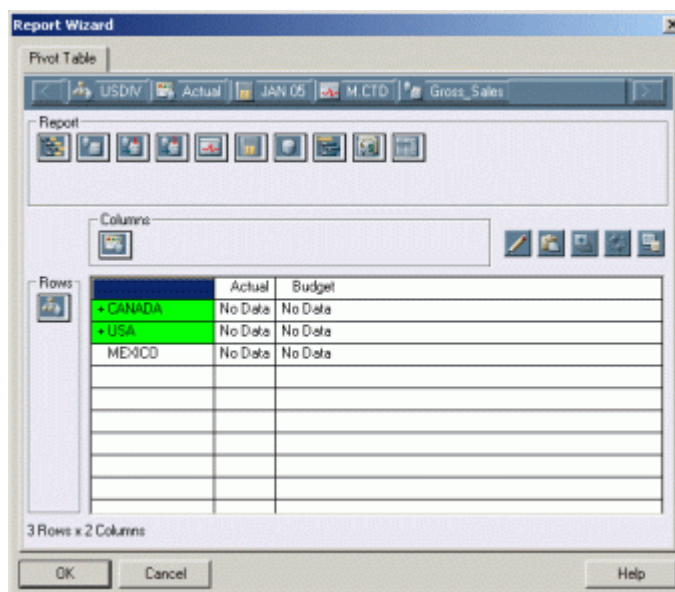
レポートウィザードについて	109
レポートウィザードのアイコン	110
クエリの作成.....	110
ネストされたディメンション	111
ディメンション値の展開と縮小	112
レポート形式でのクエリの表示	113

この章では、レポートウィザードを使用して Hyperion Enterprise Reporting 内で動的なアドホッククエリを作成する方法について説明します。

レポートウィザードについて

レポートウィザードは、Hyperion Enterprise Reporting 内で動的なアドホッククエリを作成するために使用するグラフィックツールです。次の図に、レポートウィザードのクエリを示します。

図 22 レポートウィザードのクエリ







クエリのデータの視点とクエリの列および行の間でディメンションを移動できます。また、列と行の中でディメンションの順序を変更することもできます。

Hyperion Analyst のクエリを読み込み、レポートウィザードのクエリのベースとして使用できます。レポートウィザードのクエリをプレビューすると、クエリのレポート表示形式を確認できます。クエリの結果はアクティブなレポートウィンドウに表示できます。

レポートウィザードのアイコン

次の表に、[レポート] 軸の右側に表示される 4 つのアイコンを示します。

表 21 レポートウィザードのアイコン

アイコン	用途
	[ピボットテーブルオプション] ダイアログボックスの表示と非表示オプションを設定します。
	レポートウィザードのクエリのベースとなる Hyperion Analyst の .haq ファイルを読み込みます。
	レポートウィザードのクエリをレポート形式でプレビューします。
	展開結果を決める expand.rel ファイルを表示または編集します。

クエリの作成

列と行にディメンションを割り当てれば、レポートウィザードのクエリを作成できます。列と行にそれぞれ 1 つ以上のディメンションを割り当てると、クエリによりデータが取得されます。

データの視点バーのすべてのディメンションは、当初、データの視点バーの下 [レポート] 軸に表示されます。ディメンションは、データの視点バーと [列] 軸および [行] 軸の間でいつでも移動できます。さらに、[列] 軸と [行] 軸の間でディメンションを移動したり、軸内でディメンションを移動してクエリのディメンションの順番を変更したりすることもできます。

➤ クエリを作成するには、次の手順に従います。

- 1 レポートウィンドウで、[タスク] メニューから [レポートウィザード] を選択します。

注： クエリのデータの視点を変更しても、Hyperion Enterprise Reporting には影響が及びません。クエリをレポートとして保存する際、データの視点が一緒に保存されるわけではありません。

- 2 ディメンションを [レポート] 軸から [行] 軸にドラッグし、そのディメンションに 1 つまたは複数の値を選択します。

注： [ディメンションの編集] ダイアログボックスの関数パネルには、クエリに適用される関数のみが示されます。

- 3 別のディメンションを [レポート] 軸から [列] 軸にドラッグし、そのディメンションに 1 つまたは複数の値を選択します。
- 4 ディメンションをネストするには、別の 1 つまたは複数のディメンションを [列] 軸または [行] 軸にドラッグします。
- 5 クエリの行からディメンションを削除するには、ディメンションをデータの視点バーまたは [列] 軸にドラッグします。
- 6 クエリの列からディメンションを削除するには、ディメンションをデータの視点バーまたは [行] 軸にドラッグします。
- 7 クエリを終了するには、次のいずれかの操作を行います。
 - アクティブなレポートウィンドウにクエリをレポート形式で表示するには、[OK] をクリックします。
 - アクティブなレポートウィンドウにクエリを表示せずに終了するには、[キャンセル] をクリックします。

注： クエリをレポート形式で表示すると、アクティブなレポートの内容が新しいレポートに置き換えられます。Hyperion Enterprise Reporting では、レポートヘッダーの列または行で使用されていない重要なディメンションが配置されます。

ネストされたディメンション

既に 1 つまたは複数のディメンションが含まれる列か行にディメンションとディメンション値を追加すると、追加されたディメンション値がネストされます。ネストされたディメンションは、列か行に既に存在する各ディメンション ID のセクションに示されます。

次の図に、既にエンティティを含む行に勘定科目を追加したクエリを示します。

図 23 勘定科目セクションがネストされたクエリ

Columns		JAN 05	FEB 05	MAR 05
Rows	- TOP			
	PLSALES	43630	-34263	-4222
	PLBALANCE	37539	-35326	30201
	PLCGS	55798	-46415	-22788
	PLNLI	47818	-73265	31846
	PLCASH	82645	28943	6871
	TOPEUM			
	PLSALES	43630	-34263	-4222
	PLBALANCE	37539	-35326	30201
	PLCGS	55798	-46415	-22788
	PLNLI	47818	-73265	31846
	PLCASH	82645	28943	6871

60 Rows x 3 Columns

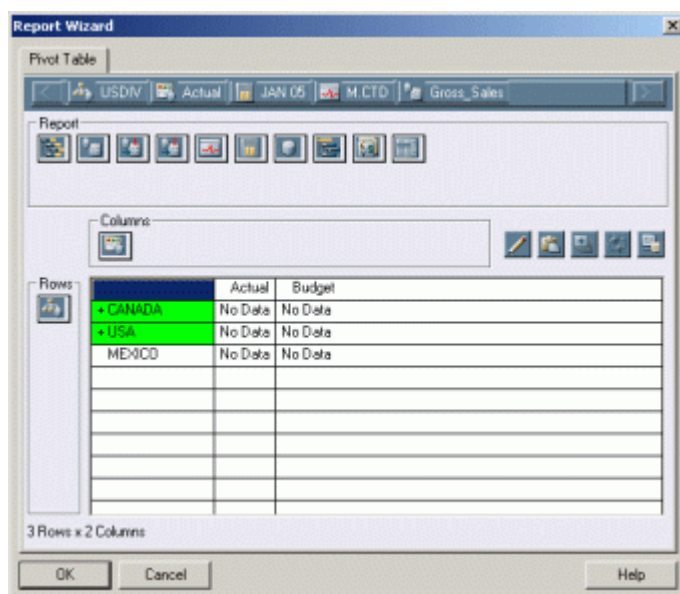
注： デフォルトでは、セクションが太字でインデント表示されます。

ディメンション値の展開と縮小

左側にプラス記号 (+) の付いたディメンション値には、サマリデータが含まれており、ディメンション値を展開すれば、詳細データを確認できます。左側にマイナス記号 (-) の付いたディメンション値は、縮小して現在表示されている詳細データを非表示にすることができます。

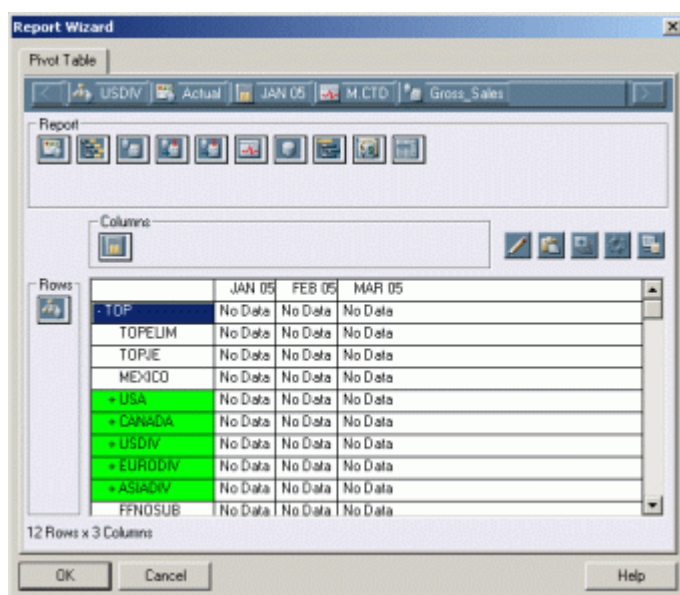
次の図では、米国とカナダのエンティティを展開できます。

図 24 データを含むレポートウィザードのクエリ



TOP を展開して、TOP の子データを表示できます。下図のように、この展開状態の表示から TOP をダブルクリックして、詳細を非表示にし、サマリデータのみを表示できます。

図 25 エンティティを展開したレポートウィザードのクエリ



- ▶ ディメンション値を展開または縮小するには、次のいずれかの操作を行います。
 - 値を展開するには、先頭にプラス記号 (+) が示された値をダブルクリックします。
 - 値を縮小するには、先頭にマイナス記号 (-) が示された値をダブルクリックします。

レポート形式でのクエリの表示

レポートウィザードのクエリの作成を完了すると、クエリをレポート形式で表示できます。この結果は、レポートウィンドウの前の内容に置き換わって表示されます。

レポートウィンドウに保存済みのレポートが表示されている状態で、クエリをレポート形式で表示すると、レポートファイル名は同じものが使用されます。ここでレポートを保存すると、前のレポートの内容がクエリの結果で上書きされます。

- ▶ レポート形式でクエリを表示するには、次の手順に従います。
 - 1 [レポートウィザード] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。
 - 2 Hyperion Enterprise Reporting で現在のレポートを上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[はい] をクリックします。これにより、レポートウィンドウが再度表示され、クエリの結果が表示されます。

この章の内容

レポートの書式オプション.....	115
継承された書式オプション.....	117
チェックボックスの状態.....	118
勘定科目属性.....	118
カスタム数値書式	119
書式オプション	120
フォントオプションの設定.....	120
網掛けおよび枠線オプションの設定	121
数値オプションの設定	122
レイアウトオプションの設定	124
表示オプションの設定	125
見出しオプションの設定	126
ソートオプションの設定.....	128
表示基準の設定	129
ドラフトまたは書式設定済レポートの表示	132
書式のコピー.....	133
ディメンションおよび計算式のコピー.....	133
書式、ディメンション、および計算式のコピー	133
注釈とローカル見出しの設定	134
展開と調査.....	136

レポートの書式により、レポートを印刷またはプレビューする際のレポートの外観が決定されます。書式設定では、列の幅、見出しのフォント、見出し、データ、およびレポートの外観に関するその他の属性を指定します。レポートのデフォルトの書式を使用するか、レポート領域を選択して書式の特性を指定することができます。

レポートの書式オプション

レポートを作成するときは、次のレポート領域を選択して書式オプションを設定できます。

- レポート全体
- すべてのデータ

- すべての列または行の見出し
- 列全体または行全体
- 個々の列または行のデータ
- 個々の列または行の見出し

使用可能な書式オプションは、選択したレポート領域によって異なります。例えば、列見出しを選択した場合は、フォントオプションを設定できますが、見出しには数値書式が適用されないため数値オプションは設定できません。

次の表に、書式オプションを示します。

注： [書式] メニューを選択したときに表示されるオプションには、特定の条件が満たされた場合にしか使用できないものがあります。例えば、[レイアウト] パネルの [ページの向き] オプションは、レポート全体を選択した場合にのみ使用可能です。手順に従う際、使用できないオプションの手順は省略してください。

表 22 書式オプション

オプション	説明
フォント	次の属性を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● フォント ● ポイントサイズ ● 下線または上線 ● 色 ● 両端揃え ● 斜体または太字 ● 非表示の列または行
網掛け/枠線	次の属性を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 薄い影、濃い影、または網掛けなし ● 枠線とグリッド
数値	次の属性を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 10 の累乗での単位設定 ● 数値の書式 ● 数値の丸め係数 ● 列の前の行または行の前の列の計算 ● 矛盾する勘定科目属性を含む計算での列または行の勘定科目属性
レイアウト	次の属性を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 縦向き、横向き、またはシステムデフォルトのページの向き ● 印刷順序（横方向から縦方向へ、または縦方向から横方向へ） ● テキストがセルに収まらない場合に行または列を拡張するかどうか ● データおよび行見出し列の幅 ● 余白 ● 行内の行数

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ● レポート全体で印刷するページ数。レポートの幅と長さを指定できます。例えば、レポートの幅が2ページにわたる場合は、[幅]を1ページに設定すると、レポートは1ページに収まるようサイズが小さくなります。 ● 列見出し内の行数 ● 行見出しの配置
表示	<p>次の属性を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ゼロ値、データなし、エラー、またはゼロによる除算エラーが含まれているセルのテキスト ● 選択した列または行の非表示 ● 複数のディメンションを含む列または行の詳細の非表示。列または行の合計だけが表示されます。 ● ゼロ値、データなし、計算式エラー、またはゼロによる除算エラーが含まれている列または行の非表示 ● 条件式に基づいた列または行の非表示
タイトル	<p>次の属性を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 選択した列または行の見出し ● 列および行見出しに表示するディメンション ID および説明の部分 ● 見出しの内容が同じで隣り合わせになった列見出しを表示するかどうか
ソート	<p>次の属性を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ソート基準の値を含む列または行 ● ソート順 ● データの順位付けを行うかどうか
展開	Hyperion Enterprise Reporting Web の展開オプションを指定するために使用します。
調査	Hyperion Enterprise Reporting Web の調査オプションを指定するために使用します。
基準	表示基準、および基準を満たす値の書式を指定するために使用します。

レポートウィンドウで列または行に対して作成した基準の書式は、出力で複数の列または行に影響する場合があります。例えば、期間を指定する列をレポートウィンドウで選択した場合に書式オプションを指定すると、そのオプションは、出力で期間のすべての列に影響します。

レポートの領域の設定については、『Hyperion Enterprise Reporting 始めるには』の「レポートの基本操作」の章を参照してください。

継承された書式オプション

複数の異なるレポート領域のオプション設定が競合する場合は、Hyperion Enterprise Reporting では継承順位に基づいて競合が解決されます。例えば、このような競合の解決は、レポート全体に 12 ポイントの Helvetica 太字フォントが下線なしで指定されているときに、1 つの行に対して二重下線が指定された場合などに行われます。

次の表に、レポート領域で書式設定が継承される順序を示します。

表 23 書式設定の継承

継承された書式	影響を受けるレポート領域
すべてのデータ	レポート全体
列データ	レポート全体およびすべてのデータ
行データ	レポート全体、すべてのデータ、列データ
すべての列見出しまたはすべての行見出し	レポート全体
個々の列見出し	レポート全体およびすべての列見出し
個々の行見出し	レポート全体およびすべての行見出し

チェックボックスの状態

〔書式〕ダイアログボックスのパネルのチェックボックスは、次のいずれかの状態になります。

<input checked="" type="checkbox"/>	オンの状態は、オプションが選択されていることを示します。この設定は、選択したレポート領域で継承された設定よりも優先されます。例えば、行見出しを選択して〔フォント〕パネルの〔斜体〕チェックボックスをオンにした場合は、レポート全体で斜体オプションがオフであっても、選択した行見出しは斜体で表示されます。
<input type="checkbox"/>	オフの状態は、オプションが選択されていないことを示します。この設定は、選択したレポート領域で継承された設定よりも優先されます。例えば、行見出しを選択して〔フォント〕パネルの〔太字〕チェックボックスをオフにした場合は、レポート全体で太字オプションがオンであっても、選択した行見出しは通常の手体（太字なし）で表示されます。
<input type="checkbox"/>	網掛けの状態は、選択したレポート領域でこのオプションの複数の設定が行われていることを示します。例えば、複数の行を選択したときに、〔データなしの場合〕非表示オプションが網掛けの状態である場合は、選択したすべての行において、このオプションが同じ設定ではないことを示します。この場合は、一部の行においてデータを含む行だけが表示され、その他の行ではデータの有無に関係なく行が表示されます。このオプションをリセットすると、新しい設定がすべての行に適用されます。
<input type="checkbox"/>	継承の状態は、選択したレポート領域では別の領域から設定が継承されていることを示します。このオプションをリセットすると、継承された設定よりも新しい設定が優先されます。

勘定科目属性

各勘定科目には、勘定科目のデータの種別を説明し、計算で勘定科目の処理方法を決定するデフォルト属性があります。アカウント属性は、書式の条件および条件ステートメントの抑制として使用できます。さらに、財務計算関数でも使用できます。

アカウントのグループの符号は、その属性の符号を逆にすることによって反転できます。費用属性がある複数の勘定科目を例に説明します。一般的に、費用属性には負の値が表示されます。費用属性の符号を反転すると、すべての費用勘定科目に正の値が表示されます。

例えば、費用属性のある出張、労働力、および材料の勘定科目に関するレポートがあるとします。費用属性は、一般的に負の値です。費用属性の符号を反転すると、出張、労働力、および材料の勘定科目に正の値が表示されます。

レポートの属性を選択した場合の影響は、レポート生成だけに限定されます。勘定科目属性が恒久的に変更されるわけではありません。勘定科目の符号を反転する手順については、[57 ページの「Hyperion Enterprise のレポートオプションの設定」](#)または[58 ページの「Hyperion Essbase のレポートオプションの設定」](#)を参照してください。

次の一覧は、Hyperion Enterprise および Hyperion Essbase の勘定科目属性を示します。

Hyperion Enterprise の勘定科目属性

- ASSET
- BALANCE
- EXPENSE
- FLOW
- INCOME
- LIABILITY
- MAJOR
- CALCACC

Hyperion Essbase の勘定科目属性

- BALAVERAGE
- BALFIRST
- BALLAST
- BALNONE
- CCVTANCESTOR
- CCVTCATEGORY
- CCVTNONE
- Essbase ユーザ定義属性
- EXPENSE
- NON-EXPENSE

カスタム数値書式

Hyperion Enterprise Reporting をカスタマイズして、企業で最も頻繁に使用するマスクでデフォルトの数値書式マスクを置き換えることができます。例えば、レポートで使用する通貨記号を含む書式を使用できます。

[数値] タブで選択できるデフォルトの数値書式を置き換えるには、RW32.INI を編集します。RW32.INI ファイルは Windows ディレクトリにある ASCII ファイルで、Hyperion Enterprise Reporting のセッションに関する情報が含まれています。

RW32.INI ファイルで指定した数値書式は、[数値] タブの [書式] ドロップダウンリストに表示されます。数値書式を変更するには、RW32.INI ファイルの [Format] セクションで次の行を追加または編集します。

```
[Format]
NumFormat=Mask1[\nMaskn]
```

変数	説明
Mask1	最初のカスタム数値書式
Maskn	最後のカスタム数値書式。最初のカスタム数値書式の後の各カスタム数値書式の前に文字\nを配置する必要があります。

例えば、マルク（DM）の新しい書式を追加するには、次の行を入力します。

```
NumFormat=#: #0DM\n-#: #0DM\n###0.00DM
```

注： RW32.INI ファイルで新しい書式を指定すると、デフォルトの書式は使用できなくなります。

書式オプション

次に示すレポートのデータおよびテキストの属性に書式オプションを設定できます。

- フォント
- 網掛けと枠線
- 数値書式、単位、四捨五入、および計算順序
- レイアウト
- データ表示
- タイトル
- ソート
- 展開
- 調査
- 基準

フォントオプションの設定

レポートの書式を設定するときは、フォントオプションを設定して、デフォルトのページ書式を上書きし、選択したレポート領域のフォント、フォントサイズ、およびスタイルを指定できます。例えば、太字スタイルを使用して特定のエントリのデータの列を強調できます。

システムで使用可能なフォント、および選択したフォントで使用可能なサイズを使用できます。下線は、二重下線、一重下線、連続下線、または下線なしを設定できます。色、位置揃え（左、中央、または右）、および書体（斜体、太字、および取り消し線）を選択できます。また、選択したレポート領域をレポート出力で非表示にすることもできます。[フォント] パネルの [サンプル] ボックスには、選択したオプションでテキストがどのように表示されるかが示されます。

► フォントオプションを設定するには、次の手順に従います。

- 1 レポートウィンドウで書式を設定するレポート領域を選択し、[書式] メニューの [フォント] を選択するか、[フォント] アイコンをクリックします。
- 2 [フォント] パネルで使用可能なフォントオプションを選択します。
- 3 選択したレポート領域を出力で非表示にするには、[非表示] をクリックします。

注： [非表示] を選択した場合は、選択した領域で [フォント] パネルのその他のオプションがすべて使用できなくなります。

- 4 パネルのすべての設定をデフォルトに戻すには、[デフォルト] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。

網掛けおよび枠線オプションの設定

レポートの書式を設定するときは、選択したレポート領域に網掛けと枠線のオプションを設定できます。枠線オプションは、領域全体または領域内の個々のセルに指定できます。また、出力の各ページに表示されるページ枠線のオプションも設定できます。例えば、連続した3行に右側のページ枠線を指定すると、各ページで、これらの行の右端に枠線が表示されます。

セルの枠線および網掛けオプションは、選択したレポート領域の各セルに適用されます。例えば、セル枠線を使用して列内に格子を作成することや、網掛けを使用して行をハイライトすることができます。

注： [自動外枠] ツールバーアイコンをクリックすると、選択したレポート領域の周囲にボックスが追加されます。[網掛け/枠線] パネルは表示されません。

► 網掛けおよび枠線オプションを設定するには、次の手順に従います。

- 1 レポートウィンドウで書式を設定するレポート領域を選択し、[書式] メニューの [網掛け/枠線] を選択します。
- 2 セル枠線を指定するか、枠線オプションを選択します。

注： [セルの枠線] および [選択された領域の枠線] チェックボックスのオンの状態は、枠線を示す線として表示されます。

- 3 [網掛け] ドロップダウンリストから網掛けオプションを選択します。
- 4 パネルのすべての設定をデフォルト設定に戻すには、[デフォルト] をクリックします。

5 [OK] をクリックします。

数値オプションの設定

レポートの書式を設定するときは、レポートの数値に関連する数値オプションを設定できます。次の表に、数値オプションの設定を示します。

表 24 数値オプション

オプション	説明
単位	値の単位として使用する 10 の累乗。
形式	デフォルトで数値の次の特性を指定する数値マスク（表示パターン）。 <ul style="list-style-type: none">● 千単位の区切り文字（使用する場合）。デフォルトでは、千単位の区切り文字としてコンマ（,）が使用されます。● 負の値をマイナス記号（-）で表示するか、小かっこ（（））で囲んで表示するか。デフォルトでは、負の値はかっこで囲んで表示されます。● 数値でドル記号（\$）やパーセント記号（%）などの文字を使用するかどうか、およびこれらの記号を数値の前後のどちらに配置するか。デフォルトでは、数値を表示する際にこれらの文字は使用されません。● レポートに表示される小数点以下の桁数。デフォルトでは、小数点以下は表示されません。
四捨五入計算	値を計算する前に値を四捨五入する係数。例えば、.01 を選択すると、100 分の 1 単位で四捨五入されます。デフォルトでは、計算前の四捨五入は行われません。
計算順序	列および行の値を計算する順序。デフォルトでは、列が計算された後に行が計算されます。
フォーマット順序を表示	[フォント]、[網掛け/枠線]、[数値]、および [表示基準] オプションによって定義された列および行の書式を使用する順序。デフォルトでは、行の書式、列の書式、レポートの書式の順に使用されます。例えば、行、列、およびレポートの書式が指定されていて、数値書式の順序が列から行の順である場合は、行およびレポートの書式の前に列の書式が使用されます。
勘定科目属性	選択した列または行の勘定科目属性。競合する属性を含む勘定科目の値を計算する数式で定義されます。

マスクオプション

次の表に、[書式] ドロップダウンリストから選択できる数値マスク、および各マスクでの正と負の値の表示例を示します。[書式] ドロップダウンリストの数値マスクを変更するには、RW32.INI ファイルを編集します。詳しくは、[119 ページの「カスタム数値書式」](#)を参照してください。

注： 選択した数値マスクを編集して、任意の追加文字を使用できます。例えば、mask ###0 を選択し、0 の後に K を追加して千（キロ）の単位を表すことができます。値に千の単位を使用する場合は、100,000 の値は編集後のマスクで「100K」として表示されます。

表 25 数値マスク

マスク	正の値	負の値
デフォルト	1,000,000,000	(1,000,000,000)
製品の定義	アプリケーションで定義されます。	アプリケーションで定義されます。
###0	100,000	-100,000
####0	100000	-100000
###0.00	100,000.00	-100,000.00
####0.00	100000.00	-100000.00
(\$###0)	\$100,000	(\$100,000)
(\$###0.00)	\$100,000.00	(\$100,000.00)
###0%	100,000%	-100,000%
####0%	100000%	-100000%
###0.00%	100,000.00%	-100,000.00%
####0.00%	100000.00%	-100000.00%
(###0%)	100,000%	(100,000%)
(###0.00%)	100,000.00%	(100,000.00%)
{\$}###0 または ###0{ }	\$100,000 または 100,000%	-\$100,000 または -100,000%
接尾辞または接頭辞として単一の文字記号を中かっこ { } 内に指定できます。 注： このマスクを使用すると、レポート内で記号は 1 回だけ表示されます。	記号はレポートの最初の行または列で 1 回だけ表示されます。	記号はレポートの最初の行または列で 1 回だけ表示されます。
[\$]###0 または ###0[]	\$100,000 または 100,000%	-\$100,000 または -100,000%
接尾辞または接頭辞として単一の文字記号を大かっこ [] 内に指定できます。 注： このマスクを使用すると、記号は、展開された行または列、あるいはセクションの繰り返しで 1 回だけ表示されます。展開された行または列では関数またはディメンション一覧が使用され、複数の行または列が生成されます (@SUB 関数など)。	記号は、次のいずれかに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ● セクションの各繰り返しの最初の行または列。 ● 展開された各行または各列の最初の行または列。 ● レポートの最初の行または列。 	記号は、次のいずれかに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ● セクションの各繰り返しの最初の行または列。 ● 展開された各行または各列の最初の行または列。 ● レポートの最初の行または列。

マスクおよび単位

記号は、値の数値マスクで単位変更された値に基づきます。単位変更された値の四捨五入が必要な場合があります。例えば、小数点以下の桁数を指定しない数値マスクを使用する場合は、千の単位を使用すると、1,500 の入力値は単位変更されて 2 と表示されます。単位変更された正確な値は 1.500 ですが、数値マスクで小数点以下の桁数が指定されていない場合は、単位変更された値は近似値の数値に四捨五入されます。計算では、正確な入力値が使用されます。

- ▶ 数値オプションを設定するには、次の手順に従います。
- 1 レポートウィンドウで書式を設定するレポート領域を選択し、[書式] メニューの [数値] を選択します。
 - 2 使用可能な数値オプションを選択します。
 - 3 [OK] をクリックします。

レイアウトオプションの設定

レポートの書式を設定するときは、列幅、余白、およびその他のレイアウトオプションを定義して、ページ上でのデータおよび見出しの配置方法を決定できます。次の表に、設定可能なレイアウトオプションを示します。

表 26 レイアウトオプション

オプションまたはグループ	説明
ページの向き	レポートの向き（横向き、縦向き、またはシステムデフォルトのページの向き）を決定します。デフォルトは横向きです。
印刷順序	ページの印刷順序（横方向から縦方向、または縦方向から横方向）を決定します。デフォルトは横方向から縦方向です。
Cell Autofit（セルの自動調整）	<p>テキストがセルに収まらない場合に行または列を拡張するかどうかを決定します。テキストに合わせて高さを拡張する行を選択します。テキストに合わせて列幅を拡張する列を指定します。[なし] を指定すると、[行] および [列] オプションで設定された行内の行数と列幅のデフォルト設定が使用されます。[なし] を指定した場合にテキストがセルに収まらないときは、テキストが切り捨てられます。</p> <p>注： このオプションを使用するには、レポート全体を選択する必要があります。</p>
列/行間隔	<p>レポートで、ハイライトされた列の前または後に空白の列を含むかどうか（およびその列の幅）、ハイライトされた行の前または後に空白の行を含むかどうか（およびその行の高さ）、またはハイライトされた列または行の後に改ページを含むかどうかを決定します。デフォルトでは、空白の列または行は含まれません。</p> <p>注： 1 の列幅は 1 文字に相当し、1 の行高さは 1 文字または 1 行の高さに相当します。</p>
幅	データおよび行見出しの列の文字数で幅を決定します。デフォルトの幅は、データ列で 15 文字、行見出し列で 20 文字です。

オプションまたはグループ	説明
余白	レポートページの上下左右の余白を決定します。デフォルトでは、デフォルトのページ設定が使用されます。
行	出力でハイライトされた各行の行数を決定します。デフォルトは 1 です。
ページ	レポート全体で印刷するページ数を決定します。レポートの幅と長さを指定できます。例えば、レポートの幅が 2 ページにわたる場合は、[幅] を 1 ページに設定すると、レポートは 1 ページに収まるようサイズが小さくなります。 注： 指定できるのは、現在のレポートサイズ以下の高さおよび幅です。
タイトル	列見出しの行数および行見出しの配置を決定します。例えば、列見出しの行数を 3 に指定すると、最初の行に収まらなかった単語は 2 行目に表示され、2 行目に収まらなかった単語は 3 行目に表示されます。指定した行数に収まりきれないテキストは切り捨てられます。列 3 の後に行の説明を配置するよう指定すると、レポートの列 4 に行見出しが配置されます。

► レイアウトオプションを設定するには、次の手順に従います。

- 1 レポートウィンドウで書式を設定するレポート領域を選択し、[書式] メニューの [レイアウト] を選択します。
- 2 使用可能なレイアウトオプションを選択します。

注： [列/行間隔] チェックボックスの状態は、オンまたはオフのいずれかです。

- 3 [OK] をクリックします。

表示オプションの設定

レポートの書式を設定するときは、レポートデータの表示を制御する表示設定を行います。例えば、使用可能なデータがない場合に表示されるテキストを定義できます。

また、データ非表示オプションを設定して、特定の状況で選択した列または行を非表示にすることもできます。非表示データは計算で使用されません。例えば、行 23 および 24 を非表示にして行 10 ～ 30 の合計を計算した場合は、合計には行 23 および 24 の値が含まれません。

次の表に、設定可能な表示オプションを示します。各オプションで指定できる最大文字数は 20 文字です。

表 27 表示オプション

オプション	説明
ゼロ	0 に等しいすべての値のテキストを定義します。デフォルトでは、これらのセルに 0 が表示されます。
データなし	使用可能なデータがないセルに表示されるテキストを定義します。デフォルトでは、これらのセルは空白になります。

オプション	説明
エラー	エラーによりデータの抽出または計算を行うことができないセルに表示されるテキストを定義します。デフォルトは「ERR」です。
ゼロによる除算	ゼロによる除算が発生するセルに表示されるテキストを定義します。デフォルトでは、これらのセルは空白になります。

次の表に、設定可能な非表示オプションを示します。デフォルトは非表示なしです。

表 28 非表示オプション

オプション	説明。
常時	レポートを作成するときは、個々の列または行を非表示にします。非表示にした列または行は、別の列または行の計算式で参照できます。
詳細（概要を表示）	一連のディメンション定義を含む列または行を非表示にします。例えば、損失、返品、回収不能金の勘定科目の行を含むレポートがあるとします。行に対して「詳細（概要を表示）」非表示オプションを選択すると、レポート出力には勘定科目の合計を含む 1 行が表示されます。この勘定科目の展開された行は非表示になります。合計を反映する出しを追加する必要があります。
ゼロ	ゼロしか含まない列または行およびデータを含まない列または行を非表示にします。
データなしの場合	データを含まない列または行を非表示にします。
エラーの場合	エラーのためにデータを表示できない列または行を非表示にします。
ゼロによる除算の場合	ゼロ値による除算が行われる列または行を非表示にします。
条件付け（IF 文）	条件式に基づいて列または行を非表示にします。

➤ 表示オプションを設定するには、次の手順に従います。

- 1 レポートウィンドウで書式を設定するレポート領域を選択し、[書式] メニューの [表示] を選択します。

注： 表示オプションを設定するには、レポート全体を選択する必要があります。

- 2 [表示] パネルで、テキストおよび設定する非表示オプションを指定します。
- 3 数式を非表示にするには、[条件式の編集] アイコンをクリックします。
- 4 [OK] をクリックします。

見出しオプションの設定

レポートの書式を設定するときは、[タイトル] オプションを使用して、選択した列または行の見出しの計算式を指定できます。1 つの列または複数の列に表示する見出しを指定できます。選択した見出しの計算式で、ディメンション ID または

説明を動的に取得するために@LAB または@DES 関数を使用する場合は、使用する ID または説明の部分指定できます。

例えば、勘定科目の説明を表示する見出しの計算式を指定して、勘定科目の説明が 5 番目の文字で始まり 20 番目の文字で終わるよう指定できます。デフォルトでは、見出しのディメンション ID および説明は最初の文字で始まり、最後の文字で終わります。@LAB および@DES 関数については、[第 12 章「関数」](#)を参照してください。

個々の列または一連の行に表示される列見出しを指定できます。次の例では、個々の行に列見出しが表示されています。

	USDIV Actual 1995	USDIV Actual 1998	USDIV Budget 1995	USDIV Budget 1998	total
Amount of Cash	49,269	49,269	49,269	49,269	49,269
Sales	43,630	43,630	43,630	43,630	43,630

次のレポートは前のレポートと同じですが、列見出しが複数の行にわたって表示されています。「USDIV」が列 1 ～ 4 にわたって表示され、「Actual」が列 1 ～ 2 にわたって表示されています。次に、「Budget」が列 3 ～ 4 にわたって表示され、年を示す 3 行目の見出しは個々の列に表示されています。

Wednesday, April 22, 1998

	USDIV				
	Actual		Budget		
	1995	1998	1995	1998	total
Amount of Cash	49,269	49,269	49,269	49,269	49,269
Sales	43,630	43,630	43,630	43,630	43,630

➤ 見出しオプションを設定するには、次の手順に従います。

- 1 レポートウィンドウで書式を設定する列または行見出しを選択し、[書式] メニューの [タイトル] を選択します。
- 2 新しい計算式を [タイトル] 編集ボックスに入力します。
- 3 見出しの計算式で@LAB または@DES 関数を使用してディメンション ID または説明を取得する場合は、次のいずれかまたはすべての操作を行います。

注： [ディメンション] リストボックスからディメンションを選択します。ディメンション ID または説明を短縮するには、ディメンションを選択して開始文字と終了文字の番号を指定します。

ヒント： 列と行の両方を含む領域を選択して、選択した領域内の見出しのディメンション ID または説明を短縮できます。

- 4 見出しを 1 つの列に表示するのか複数の行にわたって表示するのかを指定します。

ヒント： このオプションを使用するには、レポート全体またはすべての列を選択する必要があります。同じ見出しが隣り合わせの位置にある場合は、該当する複数の列にわたって 1 つの見出しが表示されます。

- 5 [OK] をクリックします。

ソートオプションの設定

レポートの書式を設定するときは、ソートオプションを設定して、指定した列または行の値に基づいて列または行をソートできます。列の範囲を選択すると、指定した行の値に基づいて列がソートされます。行の範囲を選択すると、指定した列の値に基づいて行がソートされます。選択した列または行は昇順または降順でソートできます。列または行の値に基づいてデータの順位付けを行うことができます。データの順位付けを行う場合は、すべてのデータまたは指定した数の列や行の順位付けを出力に表示できます。非表示の行または列はソートから除外されます。

行または列は、見出しのアルファベット順にソートできます。各レポート内で、1つの範囲の列および1つの範囲の行をソートできます。

ソートアイコンが表示された緑のバーは、レポート内でソートされた列または行を示します。アイコンには、列の場合に右向きの矢印、行の場合に下向きの矢印が表示され、ソートの方向を示す0および10の数字が表示されます。昇順の場合は、アイコンには0の後に10が表示されます。降順の場合は、10の後に0が表示されます。

次の図は、1つの列の値に基づいてすべての行が昇順にソートされたレポートを示します。

図 26 ソートされたレポート

	1	2	3	4	5	6
	Y 01	Y 01	Y 01	Y 01		
1	United States Division w/ Eliminati	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	
2	United States 100% ownership	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	
3	United States 100% ownership	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	
4	United States 100% ownership	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	
5	United States 100% ownership	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	
6	United States 100% ownership	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	
7	United States 100% for CHART 1 I	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	
8	United States 50% ownership	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	
9	United States 25% ownership	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	(#.#%)	
10						
11						
12						
13						
14						

- ソートオプションを設定するには、次の手順に従います。
- 1 レポートウィンドウでソートオプションを設定する列または行見出しを選択し、[書式]メニューの[ソート]を選択します。
 - 2 [ソート]パネルで次のいずれかを選択します。
 - [オン]：選択したレポート領域のソートが有効になります。
 - [オフ]：選択したレポート領域のソートが無効になります。
 - 3 ソートおよび順位付けオプションを選択します。

ヒント： レポート内の順位付けおよび順位付けされたデータの両方を表示するには、順位付けされた列または行を複製して、複製した列または行の順位付けを「なし」に設定します。

4 [OK] をクリックします。

表示基準の設定

表示基準を定義して、レポート内のデータの条件付き書式を指定できます。表示基準は、指定の属性で値を表示する場合に値が一致する必要がある論理条件です。例えば、販売勘定科目の値の表示基準を定義して、予想値よりも大幅に低い値を太字で、予想値よりも高い値を下線付きで表示できます。

[表示基準] オプションを使用して、表示基準を追加、削除、または変更します。レポート全体または個々の列や行に対して表示基準を定義できます。値には、一致したすべての表示基準で指定されている書式が適用されます。例えば、1,000 以上の値に斜体を適用する表示基準が設定されているレポートで、1,000 以上の値に太字を適用する表示条件を単一の行に設定した場合、その行の 1,000 以上の値は太字の斜体で表示されます。

条件ステートメントを作成するには、次の書式を使用します。

(Variable Operator Att/Value) [Connector (Variable Operator Att/Value)]

変数	説明
Variable	選択された列または行の現在の値、または数値で指定した列、行、またはセルの現在の値。
Operator	次に示す記号または単語。 <ul style="list-style-type: none">● IS：選択した属性を表示基準として指定します。● IS NOT：選択した属性がない状態を表示基準として指定します。● BETWEEN：範囲内の値を指定します。● 等号 (=)：等しい● 山型かっこ (<>)：等しくない● 大なり記号 (>)：より大きい● 大なり記号と等号 (>=)：より大きいまたは等しい● 小なり記号 (<)：より小さい● 小なり記号と等号 (<=)：より小さいまたは等しい 小かっこ (()：計算の実行順序を制御します。
Att	[属性] リストで使用可能な属性。属性は、データの種別を説明する条件です。
Value	ユーザが入力する数値。
Connector	AND または OR。

例えば、列を選択して、次の条件ステートメントを作成できます。

VALUE > 500

この条件ステートメントを選択してフォントを太字に変更すると、出力では、選択した列で 500 よりも大きい値が太字で表示されます。

条件ステートメントを作成して、特定のセルの値を非表示にすることができます。
例えば、次の条件ステートメントを作成できます。

ROWREF(11:15) AND COLREF(2:2)

この条件ステートメントを選択してフォントを非表示に変更すると、出力では、
列 2 の行 11 ～ 15 の値が非表示になります。

Hyperion Enterprise の条件ステートメントの変数

次の表に、Hyperion Enterprise の条件ステートメントで可以使用の変数を示します。

表 29 Hyperion Enterprise の条件ステートメントの変数

変数	説明
ASSET	指定された資産勘定科目を示します。
BALANCE	現在のセルの勘定科目が残高勘定科目であることを示します。
BASE	現在のセルが最下位のディメンションのメンバーであることを示します。
CALCACC	現在のセルが算出勘定であることを示します。
CALCULATED	現在のセルがソース算出としてマークされていることを示します。
CELL	1 つのセルの列または行メンバーを示します。
[COL/ROW] Number	列または行番号を示します。
COLREF	列の範囲を示します。
DBZ	現在のセルがゼロによる除算としてマークされていることを示します。
ERROR	現在のセルがエラーとしてマークされていることを示します。
EXPENSE	現在のセルの勘定科目が費用であることを示します（勘定科目ディメンションが存在する場合にのみ使用）。
FLOW	現在のセルの勘定科目がフロー勘定科目であることを示します
INCOME	現在のセルの勘定科目が収益勘定科目であることを示します。
INPUT	このセルには情報を入力できます。
LIABILITY	現在のセルの勘定科目が負債勘定科目であることを示します。
LOCKED	現在のセルが保護済としてマークされていることを示します。
MAJOR	現在のセルの勘定科目が主要勘定科目（最上位の詳細）であることを示します。
NODATA	現在のセルがデータなしとしてマークされていることを示します。
NONEXPENSE	現在のセルの勘定科目が費用外であることを示します（勘定科目ディメンションが存在する場合にのみ使用）。

変数	説明
PARENT	現在のセルが親メンバーであることを示します。
PERIODIC	現在のセルは期別値です。
ROWREF	行の範囲を示します。
RPTCALC	現在のセルがレポート上で算出された項目としてマークされていることを示します。
UDA（ユーザ定義属性）	ユーザ定義属性選択の値を示します。
VALUE	選択した列または行の値を示します。
YTD	現在のセルが年次累計値であることを示します。

Hyperion Essbase の条件ステートメントの変数

次の表に、Hyperion Essbase の条件ステートメントで使用できる変数を示します。

表 30 Hyperion Essbase の条件ステートメントの変数

変数	説明
BALAVERAGE	現在のセルの勘定科目が平均期間残高（すべての子の平均値）であることを示します（勘定科目および時間ディメンションが存在する場合にのみ使用）。
BALFIRST	現在のセルの勘定科目が期首残高（最初の子の値）であることを示します（勘定科目および時間ディメンションが存在する場合にのみ使用）。
BALLAST	現在のセルの勘定科目が期末残高（最後の子の値）であることを示します（勘定科目および時間ディメンションが存在する場合にのみ使用）。
BALNONE	現在のセルの勘定科目が期間残高ではないことを示します。（勘定科目および時間ディメンションが存在する場合にのみ使用）。
CALCULATED	現在のセルがソース算出としてマークされていることを示します。
CCVTNONE	現在のセルの勘定科目に通貨換算がないことを示します（勘定科目および通貨ディメンションが存在する場合にのみ使用）。
CCVTANCESTOR	現在のセルの勘定科目にその祖先の通貨換算があることを示します（勘定科目および通貨ディメンションが存在する場合にのみ使用）。
CCVTCATEGORY	現在のセルの勘定科目にデータ種別の通貨換算があることを示します（勘定科目および通貨ディメンションが存在する場合にのみ使用）。
CELL	1 つのセルの列または行メンバーを示します。
[COL/ROW] Number	列または行番号を示します。
COLREF	列の範囲を示します。
DBZ	現在のセルがゼロによる除算としてマークされていることを示します。

変数	説明
ERROR	現在のセルがエラーとしてマークされていることを示します。
EXPENSE	現在のセルの勘定科目が費用であることを示します（勘定科目ディメンションが存在する場合にのみ使用）。
INPUT	このセルには情報を入力できます。
LOCKED	現在のセルが保護済としてマークされていることを示します。
NODATA	現在のセルがデータなしとしてマークされていることを示します。
NONEXPENSE	現在のセルの勘定科目が費用外であることを示します（勘定科目ディメンションが存在する場合にのみ使用）。
ROWREF	行の範囲を示します。
RPTCALC	現在のセルがレポート上で算出された項目としてマークされていることを示します。
UDA（ユーザ定義属性）	ユーザ定義属性選択の値を示します。
VALUE	選択した列または行の値を示します。

► 表示基準をテストするには、次の手順に従います。

- 1 レポートウィンドウで表示条件オプションを設定するレポート領域を選択して、[書式]メニューの[表示基準]を選択します。
- 2 [表示基準] パネルで次のいずれかのオプションを選択します。
 - [オン]：選択したレポート領域の表示基準が有効になります。
 - [オフ]：選択したレポート領域の表示基準が無効になります。
 - [デフォルト] デフォルトの表示基準設定が使用されます。
- 3 表示基準を使用する場合は、編集ボックスに条件ステートメントを入力します。

ヒント： また、[変数]、[演算子]、[属性]、または [Connectors（接続詞）] リストボックスから項目を選択して、現在のカーソル位置に貼り付けることもできます。

- 4 表示基準オプションを指定します。
- 5 [OK] をクリックします。

ドラフトまたは書式設定済レポートの表示

レポートウィンドウで書式設定済レポートを表示できます。[ドラフト] オプションを使用すると、処理時間を短縮できます。[ドラフト] オプションを使用すると、フォントおよび選択したその他の書式オプションなしでレポートが表示されます。例えば、列の網掛けが指定されているレポートを [ドラフト] オプションで表示した場合は、網掛けがレポートウィンドウに表示されませんが、プレビューまたは印刷時には表示されます。印刷およびプレビューについては、[第 10 章「レポートとパッケージの実行」](#)を参照してください。

- ▶ ドラフトまたは書式設定済レポートを表示するには、レポートウィンドウで [表示] メニューの [ドラフト] を選択します。

注： [ドラフト] オプションを選択すると、[ドラフト] メニューコマンドの左側にチェックマークが表示されます。

書式のコピー

ディメンションや計算式をコピーすることなく、1つのレポートから別のレポートに書式をコピーできます。例えば、14ポイントの Arial 太字の列見出しおよび12ポイントの Arial 太字斜体の行見出しがあるレポートで、データ種別が列に、勘定科目が行に割り当てられている場合は、列と行に別のディメンションが割り当てられている別のレポートにこの書式をコピーできます。

- ▶ 書式をコピーするには、次の手順に従います。
 - 1 レポートウィンドウでレポート全体を選択して、[編集] メニューの [コピー] を選択します。
 - 2 新しいレポートウィンドウを開き、そのレポート全体を選択します。
 - 3 [編集] メニューから [特殊貼り付け] を選択します。
 - 4 [書式] をクリックして、[OK] をクリックします。

ディメンションおよび計算式のコピー

選択したレポート領域のディメンションおよび計算式を同じレポートの別の領域または別のレポートに書式なしで貼り付けることができます。例えば、列を選択して、書式をコピーすることなく、ディメンションおよび計算式を同じレポートの別の列または別のレポートにコピーできます。

- ▶ ディメンションおよび計算式をコピーするには、次の手順に従います。
 - 1 レポートウィンドウでコピーするレポート領域を選択して、[編集] メニューの [コピー] を選択します。
 - 2 同じレポートウィンドウまたは別のレポートウィンドウで、コピーを貼り付ける領域を選択します。
 - 3 [編集] メニューから [特殊貼り付け] を選択します。
 - 4 [値] をクリックして、[OK] をクリックします。

書式、ディメンション、および計算式のコピー

選択したレポート領域のディメンションおよび計算式を同じレポートまたは別のレポートに書式付きで貼り付けることができます。例えば、列を選択して、その書式、ディメンション、および計算式を同じレポートの別の列または別のレポートの列にコピーできます。

- ▶ 書式、ディメンション、および計算式をコピーするには、次の手順に従います。
- 1 レポートウィンドウでコピーするレポート領域を選択して、[編集] メニューの [コピー] を選択します。
 - 2 同じレポートウィンドウまたは別のレポートウィンドウで、コピーを貼り付ける領域を選択します。
 - 3 [編集] メニューの [貼り付け] または [編集] メニューの [特殊貼り付け] を選択します。
 - 4 [すべて] をクリックして、[OK] をクリックします。

注釈とローカル見出しの設定

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

Hyperion Enterprise Reporting のフィールドを使用して、次の機能をレポートに含めることができます。

- 説明やコメントなどのテキストを入力する注釈機能
- レポート内の他のディメンション設定を基に個々のディメンションの説明を置換できるローカル見出し設定機能

注釈とは、レポート出力に情報を追加するためにコメントやその他のテキストデータを入力できるフィールドのことです。注釈は、エンティティ、期間、またはその他のディメンションごとに設定できます。例えば、Notes1 というフィールドを作成して増減の理由などの注釈を含めることや、異なるエンティティ、期間、およびデータ種別の総売り上げ勘定科目に注釈を追加することができます。

ローカル見出しとは、レポートにおけるディメンション設定に基づいて説明の代わりに使用できるフィールドのことです。例えば、ある会社の勘定科目表には Cost A という勘定科目があります。Cost A は、Canada Division では輸送費を表し、Northeast Division では梱包費を表します。Alternate というフィールドを作成すると、組織内のエンティティごとに勘定科目の説明を保存できます。この場合は、Cost A について Canada Division エンティティではローカル説明として「輸送コスト」を使用し、Northeast Division エンティティでは「梱包コスト」を使用します。

次の表に、注釈およびローカル見出しを使用する際のタスクおよびそのタスクを行う場所を示します。

表 31 注釈およびローカル見出しを使用する際のタスク

タスク	説明
Hyperion DataExtend	注釈またはローカル見出しに使用するフィールドを設定します。詳しくは、 第 15 章「Hyperion DataExtend」 または Hyperion DataExtend のヘルプを参照してください。
Hyperion Enterprise Reporting	注釈およびローカル見出しを使用してデータを表すレポートを作成します。

タスク	説明
Hyperion Schedules	注釈とローカル見出しとしてテキストを入力します。詳しくは、 第 16 章「Hyperion Schedules」 または Hyperion Schedules のヘルプを参照してください。

注釈の設定

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

レポートに注釈を設定すると、テキスト情報の行または列を追加できます。注釈を設定する場合は、Hyperion DataExtend でフィールドを作成し、Hyperion Enterprise Reporting でフィールドを列または行に割り当てて、Hyperion Schedules でテキストを入力します。

- ▶ レポートで注釈を設定するには、次の手順に従います。
- 1 レポートウィンドウで列または行を選択し、注釈を表示するフィールドに割り当てます。
- 2 レポートで注釈を設定する前に、Hyperion DataExtend を使用して、レポートの注釈で使用するテキストフィールドを作成する必要があります。手順については、[第 15 章「Hyperion DataExtend」](#) を参照してください。
- 3 レポートを保存します。

ヒント： レポートに注釈を追加するには、レポートを Hyperion Schedules で開いて注釈を入力します。手順については、[第 16 章「Hyperion Schedules」](#) を参照してください。

レポートのローカル見出しの設定

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

レポートでローカル見出しを設定すると、ディメンションの説明を追加できます。例えば、同じ勘定科目に異なる見出しを使用する 2 つの子会社用のローカル見出しを設定できます。

ローカル見出しを設定する場合は、Hyperion DataExtend でローカル見出しを作成し、Hyperion Enterprise Reporting でローカル見出しを列または行に割り当てて、Hyperion Schedules でテキストを入力します。

Hyperion Enterprise Reporting 内のレポートでは、ローカル見出しを表示する軸とは反対の軸にテキストフィールドを割り当てることができます。次に、テキストフィールドを割り当てた行または列を非表示にします。例えば、各行にローカル見出しを設定する場合は、テキストフィールドを列に割り当てて、列を非表示にします。

レポートの列または行にローカル見出しを割り当てるには、@LOCAL 関数を使用します。列または行見出しでローカル見出しを指定するには、次の構文を使用します。

@LOCAL(field,default)

変数	説明
field	Hyperion DataExtend で定義されているフィールドの ID。
default	ローカル見出しが割り当てられていない場合に表示されるテキスト。

例えば、複数の勘定科目を含む行の見出しに計算式@LOCAL(lothead,@DES)を入力すると、次の結果が得られます。

- 勘定科目にローカル見出しが割り当てられていない場合は、Hyperion Schedules でレポートを作成または開くと勘定科目の説明が表示されます。
- 勘定科目にローカル見出しが割り当てられている場合は、説明の代わりにローカル見出しが表示されます。

ローカル見出しを設定した後、Hyperion Schedules を使用してデータを入力します。詳しくは、[第 16 章「Hyperion Schedules」](#) または Hyperion Schedules のヘルプを参照してください。

➤ レポートでローカル見出しを設定するには、次の手順に従います。

- 1 レポートウィンドウで、列または行を選択して、ローカル見出しを表示する軸の反対側の軸にテキストフィールドを割り当てます。

ヒント： レポートでローカル見出しを設定する前に、Hyperion DataExtend を使用してフィールドを作成する必要があります。手順については、[第 15 章「Hyperion DataExtend」](#) を参照してください。

- 2 次の手順に従って、フィールドを割り当てた列または行を非表示にします。

- 列または行を選択して、[書式] メニューの [表示] を選択します。
- [非表示オプション] グループで [常時] をクリックして、[OK] をクリックします。

- 3 レポートを保存します。

ヒント： レポートにローカル見出しを追加するには、レポートを Hyperion Schedules で開いて見出しを入力します。手順については、[第 16 章「Hyperion Schedules」](#) を参照してください。

展開と調査

展開と調査の設定および Hyperion Enterprise Reporting Web で使用する展開オプションの管理を行うには、Hyperion Enterprise Reporting を使用します。展開と調査は、Hyperion Enterprise Reporting Web Application のレポートに表示されるデータの詳細のレベルを指定するための機能です。Hyperion Analyst の展開機能を管理することもできます。

デフォルトでは、[書式] メニューの調査および拡張コマンド、および [タスク] メニューの展開機能の管理コマンドは無効になっています。調査および展開コマンドを有効にするには、Windows ディレクトリにある REPENG.INI ファイルの DEFAULT セクションを編集する必要があります。このセクションを次に示します。

[DEFAULT]
OnTrack=1

展開の設定

展開を設定して、選択した列または行に対する Hyperion Enterprise Reporting Web の展開オプションを定義します。これらのオプションを指定してもレポート出力には影響しません。展開機能を使用すると、レポート内から追加ディメンションのデータにすぐにアクセスできます。例えば、第2四半期データを示す列を展開して、4月、5月、または6月のデータを含む列を表示できます。

展開機能は、選択したレポート領域で有効または無効にできます。次の表に、任意のレポート領域に対して設定できる展開オプションを示します。

表 32 展開オプション

オプション	説明
ディメンション	展開の基準となるディメンション。デフォルトでは、現在の列のディメンションが使用されます。
位置	展開データをサマリー列または行の前または後に表示するかどうか。
展開タグ	[展開機能の管理] ダイアログボックスを使用して、現在のディメンションに定義された展開タグ。
親オーバーライド	[展開機能の管理] ダイアログボックスを使用して、現在のディメンションに定義された展開機能の設定。

- 展開を設定するには、次の手順に従います。
- 1 レポートウィンドウで書式を設定するレポート領域を選択し、[書式] メニューから [展開] を選択します。
 - 2 展開オプションを設定します。
 - 3 [OK] をクリックします。

調査の設定

調査を設定すると、Hyperion Enterprise Reporting Web で調査機能を使用することや、Hyperion Schedules でさまざまなレベルのレポート詳細を表示することができます。これらのオプションを設定してもレポート出力には影響しません。

選択したレポート領域に対して自動またはカスタム調査を有効にすることやすべての調査を無効にすることに加えて、デフォルトの調査設定を使用することもできます。カスタム調査を有効にすると、使用する調査レポートを含むレポートセットを選択して、そのセットからレポートを選択できます。最初にセットを選択せずにレポートを選択することもできます。

- ▶ 調査を設定するには、次の手順に従います。
- 1 レポートウィンドウで書式を設定するレポート領域を選択し、[書式] メニューの[調査]を選択します。
 - 2 調査オプションを有効または無効にするには、次のいずれかの操作を行います。
 - 選択したレポート領域で自動調査を有効にするには、[自動]をクリックします。
 - 選択したレポート領域でカスタム調査を有効にするには、[オン]をクリックします。
 - 選択した領域ですべてのカスタム調査を無効にするには、[オフ]をクリックします。
 - 3 レポートの一覧をフィルタするには、挿入するレポートを含むセットを選択します。
 - 4 [レポート名] 編集ボックスにレポートラベルを入力するか、一覧からレポートを選択します。
 - 5 [OK] をクリックします。

展開機能の管理

展開機能を管理するには、展開を定義して Hyperion Enterprise Reporting Web の画面でディメンションを展開するときに表示する詳細を指定し、展開の親子関係を指定する必要があります。これらのオプションを指定してもレポート出力には影響しません。

Hyperion Analyst の展開機能を管理することもできます。展開については、[第 13 章「Hyperion Analyst」](#) または Hyperion Analyst のヘルプを参照してください。

展開機能を使用すると、Hyperion Enterprise Reporting Web の画面または Hyperion Analyst ワークシート内から追加ディメンションのデータにすぐにアクセスできます。例えば、第 1 四半期データを示す列を展開して、1 月、2 月、または 3 月のデータを含む列を表示できます。

親子関係は、データを展開したときに表示される詳細を指定します。親子関係に基づいて、[展開機能の管理] ダイアログボックスで定義された関係を使用するかどうか、またはデータ構造内の親子関係に従うかが決定されます。

次の表に、設定可能な展開オプションを示します。

表 33 展開機能の管理オプション

オプション	説明
ディメンション	Hyperion Enterprise Reporting Web または Hyperion Analyst で詳細を表示するディメンション値を決定します。
展開タグ	選択したディメンションの展開タグの名前を決定します。
展開機能の設定	選択したディメンションの親子関係を決定します。

- ▶ 展開機能を管理するには、次の手順に従います。
- 1 レポートウィンドウで書式を設定するレポート領域を選択し、[タスク] メニューの[展開機能の管理]を選択します。

- 2 展開するディメンションを選択します。
- 3 そのディメンションの展開タグおよび展開機能の設定を作成、編集、または削除します。
- 4 [閉じる] をクリックします。

この章の内容

レポートおよびパッケージの管理について	141
レポートセットとパッケージセットについて	142
レポートまたはパッケージ情報の編集	145
レポートまたはパッケージのチェック	146
レポートまたはパッケージのアプリケーションへの追加	146
アプリケーションからのレポートまたはパッケージの削除	147

この章では、レポートおよびパッケージの作成、追加、削除、および編集方法について説明します。

レポートおよびパッケージの管理について

レポートとパッケージの管理は、[レポート] タブまたは [パッケージ] タブを含んでいる左側のナビゲーションペインで実行できます。左側のナビゲーションペインを有効にするには、[表示] メニューの [レポートとパッケージ] を選択します。デフォルトではこのオプションが有効になっています。

次を利用してレポートとパッケージを管理できます。

- 142 ページの「レポートセットまたはパッケージセットの作成」
- 143 ページの「レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットの検索」
- 143 ページの「レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットのソート」
- 144 ページの「レポートセットまたはパッケージセットの削除」
- 144 ページの「レポートセットまたはパッケージセットの編集」
- 144 ページの「レポートまたはパッケージのセットへの追加」
- 145 ページの「セットからのレポートまたはパッケージの削除」
- 145 ページの「レポートまたはパッケージ情報の編集」
- 146 ページの「レポートまたはパッケージのチェック」
- 146 ページの「レポートまたはパッケージのアプリケーションへの追加」
- 147 ページの「アプリケーションからのレポートまたはパッケージの削除」

レポートセットとパッケージセットについて

便宜上、レポートとパッケージをセットにまとめることができます。レポートセットまたはパッケージセットには、損益計算書のセットや貸借対照表のセットなど、特定のタスクに関係するレポートまたはパッケージが含まれます。レポートまたはパッケージは、必要に応じていくつかのセットにでも含めることができます。レポートまたはパッケージを実行するには、少なくとも 1 つのレポートセットまたはパッケージセットに所属している必要があります。

レポートまたはパッケージをセットにまとめると、実行または編集するレポートまたはパッケージを短時間で簡単に探せるようになります。セットの検索は、アプリケーション内で個々のレポートまたはパッケージをすべて検索する場合よりも短時間で行うことができます。

レポートセットまたはパッケージセットの作成

新規または既存のレポートまたはパッケージをセットに挿入するには、まずレポートセットまたはパッケージセットを作成しておく必要があります。Hyperion Enterprise Reporting では、任意の数のレポートセットおよびレポートまたはパッケージを作成できます。

- ▶ レポートセットまたはパッケージセットを作成するには、次の手順に従います。
- 1 左側のナビゲーションペインで、[レポートセット] または [パッケージセット] を右クリックし、[新規レポートセット] または [新規パッケージセット] を選択します。
- 2 レポートセットまたはパッケージセットの名前を入力します。

注： レポートセットまたはパッケージセットの名前には、最大 20 文字入力できます。

3 オプション：次の操作を実行できます。

- レポートセットの場合：
 - 1. レポートセットを右クリックして、[Property Summary (プロパティサマリー)] を選択します。
[レポートセット情報] ダイアログボックスが開きます。
 - 2. [新しい名前] の指定、レポートセットの [セキュリティクラス] または [タイトル] の変更を選択できます。[Hyperion Schedules からの入力を可能にする] を選択し、Hyperion Schedules または Hyperion Distributed Schedules を使用してレポートセットへのデータ入力を可能にするには、[第 16 章「Hyperion Schedules」](#)、Hyperion Schedules のヘルプ、または Hyperion Distributed Schedules のヘルプを参照してください。
- パッケージセットの場合：
 - 1. パッケージセットを右クリックして、[Property Summary (プロパティサマリー)] を選択します。
[パッケージセット情報] ダイアログボックスが開きます。

2. [新しい名前] の指定、パッケージセットの [セキュリティクラス] または [タイトル] の変更を選択できます。

レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットの検索

アプリケーション内のレポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットを検索できます。必要な情報がすばやく見つかります。

- ▶ アプリケーション内のレポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットを検索するには、次の手順に従います。

- 1 ツリー表示で、次のいずれかの操作を行います。

- レポートを検索するには、[レポート] タブをクリックし、[検索の範囲] グループボックスで [レポート] を選択します。
- レポートセットを検索するには、[レポート] タブをクリックし、[検索の範囲] グループボックスで [レポートセット] を選択します。
- パッケージを検索するには、[パッケージ] タブをクリックし、[検索の範囲] グループボックスで [パッケージ] を選択します。
- パッケージセットを検索するには、[パッケージ] タブをクリックし、[検索の範囲] グループボックスで [パッケージセット] を選択します。

- 2 検索フィールドに、レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットの名前を入力します。

- 3 (オプション) [クリア] をクリックしてデフォルトのツリー構造に戻します。

注： 検索の際には、レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットの名前の一部または完全な名前を指定できます。検索文字列の中でワイルドカードオプションを使用することもできます。

レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットのソート

アプリケーション内のレポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットをソートできます。デフォルトでは、レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットは昇順にソートされます。ソート順を変更する場合は、管理者権限が必要です。

- ▶ レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットのソート順を変更するには、次の手順に従います。

- 1 REPENG.INI ファイルに、[TREEVIEW] という新しいセクションを作成します。

- 2 [TREEVIEW] の下に、Sort というエントリを指定します。

- 3 必要なソート順に基づいて、Sort の値を次のように設定します。

- 作成日の順にソートするには、Sort=0 と設定します。
- 昇順にソートするには、Sort=1 と設定します。

- 降順にソートするには、Sort=2 と設定します。
- 4 REPENG.INI ファイルを保存して閉じます。

レポートセットまたはパッケージセットの削除

レポートまたはパッケージのグループをセットとして管理する必要がなくなった場合に、セット内のすべてのレポートまたはパッケージを除去して、アプリケーションからそのセットを削除します。

- レポートセットまたはパッケージセットを削除するには、次の手順に従います。
- 1 左側のナビゲーションペインで、レポートセットまたはパッケージセットに移動します。
 - 2 右クリックして、[レポートセットの削除] または [パッケージセットの削除] を選択します。
 - 3 [はい] をクリックして削除を確認します。

レポートセットまたはパッケージセットの編集

レポートセットまたはパッケージセットの名前、タイトル、またはセキュリティクラスを変更できます。Hyperion Schedules または Hyperion Distributed Schedules のデータ入力に使用できるようにレポートセットを指定することもできます。セット情報を編集しても、セット内の個々のレポートまたはパッケージには影響が及びません。

- レポートセットまたはパッケージセット情報を編集するには、次の手順に従います。
- 1 左側のナビゲーションペインで、レポートセットまたはパッケージセットに移動します。
 - 2 右クリックして、[Property Summary (プロパティサマリー)] を選択します。
[レポートセット情報] ダイアログボックスまたは [パッケージセット情報] ダイアログボックスが開きます。
 - 3 [新しい名前] の指定、レポートセットまたはパッケージセットの [セキュリティクラス] または [タイトル] の変更を選択できます。[Hyperion Schedules からの入力を可能にする] を選択し、Hyperion Schedules または Hyperion Distributed Schedules を使用してレポートセットへのデータ入力を可能にするには、[第 16 章「Hyperion Schedules」](#)、Hyperion Schedules のヘルプ、または Hyperion Distributed Schedules のヘルプを参照してください。
 - 4 [OK] をクリックします。

レポートまたはパッケージのセットへの追加

アプリケーションからレポートまたはパッケージを、レポートセットおよびパッケージセットに追加できます。例えば、販売部門用のトレンドレポートまたはパッケージのセットを作成している場合に、新規のトレンドレポートまたはパッケージ

を作成したら、そのレポートまたはパッケージをセットに追加できます。同じレポートまたはパッケージを、複数のセットに追加できます。

- ▶ レポートまたはパッケージをセットに追加するには、次の手順に従います。
- 1 左側のナビゲーションペインで、レポートセットまたはパッケージセットに移動します。
- 2 右クリックして、[新規レポートの挿入] または [新規パッケージの挿入] を選択します。

注： レポートまたはパッケージは、特定のセットに追加する必要があります。すべてのレポートまたはパッケージを含む [すべて] というセットに追加することはできません。

- 3 [開く] ダイアログボックスでレポートまたはパッケージを選択し、[開く] をクリックします。
- 4 レポートセットまたはパッケージセットの名前を入力します。

レポートまたはパッケージがインポート済みで、それらを異なるセットまたは新しく作成されたセットに移動する場合、レポートまたはパッケージ名をハイライトしてセット間をドラッグアンドドロップできます。

セットからのレポートまたはパッケージの削除

レポートまたはパッケージを、アプリケーションから削除することなく、特定のセットから削除できます。詳しくは、[147 ページの「アプリケーションからのレポートまたはパッケージの削除」](#)を参照してください。

- ▶ レポートまたはパッケージをセットから削除するには、次の手順に従います。
- 1 左側のナビゲーションペインで、レポートまたはパッケージに移動します。
- 2 右クリックして、[Delete from set (セットから削除)] を選択します。
- 3 [はい] をクリックして削除を確認します。

レポートまたはパッケージ情報の編集

レポートまたはパッケージ情報を編集して、レポートまたはパッケージに新しいタイトルやセキュリティクラスを設定できます。例えば、レポートに変更を加える場合は、その変更内容を反映したタイトルに変更できます。

- ▶ レポートまたはパッケージ情報を編集するには、次の手順に従います。
- 1 左側のナビゲーションペインで、レポートまたはパッケージに移動します。
- 2 右クリックして、[Property Summary (プロパティサマリー)] を選択します。
[レポート情報] ダイアログボックスまたは [パッケージ情報] ダイアログボックスが開きます。
- 3 レポートまたはパッケージの [セキュリティクラス] または [タイトル] を指定できます。

- 4 [OK] をクリックします。

レポートまたはパッケージのチェック

レポートまたはパッケージの構文エラーをチェックできます。アプリケーションでレポートまたはパッケージに含まれる指示が解釈されるようにするには、レポートおよびパッケージに Hyperion Enterprise Reporting の構文を使用する必要があります。

新しいレポートを挿入すると、Hyperion Enterprise Reporting で構文チェックが自動的に行われます。しかし、旧バージョンで作成されるか、このアプリケーション以外で編集されたレポートまたはパッケージがレポートセットおよびパッケージセットに含まれている場合は、実行する前にレポートまたはパッケージのチェックを行います。

注： パッケージセットはオラクルの Hyperion® Enterprise® と Oracle Essbase でサポートされていますが、セキュリティクラスは、Hyperion Enterprise でのみサポートされています。

- ▶ レポートまたはパッケージをチェックするには、次の手順に従います。
- 1 左側のナビゲーションペインで、レポートまたはパッケージに移動します。
- 2 右クリックして、[レポートのチェック] または [パッケージのチェック] を選択します。

注： レポートまたはパッケージに構文エラーが含まれる場合は、レポートまたはパッケージのチェック時にエラーメッセージが表示されます。レポートまたはパッケージを実行するには、まずエラーを修正して、レポートまたはパッケージを再度チェックする必要があります。

レポートまたはパッケージのアプリケーションへの追加

レポートまたはパッケージをアプリケーションに追加して、追加先のレポートセットまたはパッケージセットを指定できます。Hyperion Enterprise Reporting では、アプリケーションへ追加されるときにレポートとパッケージがチェックされます。

注： パッケージセットは Hyperion Enterprise と Oracle Essbase でサポートされていますが、セキュリティクラスはオラクルの Hyperion® Enterprise® でのみサポートされています。

- ▶ レポートまたはパッケージをアプリケーションに追加するには、次の手順に従います。
- 1 左側のナビゲーションペインで、[すべてのレポート] または [すべてのパッケージ] を右クリックし、[新規レポート] または [新規パッケージ] を選択します。

注： [新規レポート] を選択した場合、[標準レポート] または [複合レポート] レポートタイプのうちいずれかを選択します。

- 2 レポートまたはパッケージを変更し、[ファイル] メニューから [名前を付けて保存] を選択します。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

- 3 [ファイル名]、[タイトル]、および [コメント] を入力し、[セキュリティクラス] および所属する [セット] を指定します。

注： ファイル名には最大 20 文字まで入力できます。

- 4 [OK] をクリックします。

アプリケーションからのレポートまたはパッケージの削除

レポートまたはパッケージが使用されなくなった場合、アプリケーションから削除できます。アプリケーションからレポートまたはパッケージを削除すると、Hyperion Enterprise Reporting ではそのレポートまたはパッケージがすべてのセットから削除され、左側のナビゲーションペインに名前とタイトルが表示されなくなります。

Hyperion Enterprise Reporting で、レポートまたはパッケージがディスクから削除されるわけではありません。削除されたレポートまたはパッケージをアプリケーションに再度追加すれば、レポートまたはパッケージを回復できます。

- ▶ アプリケーションからレポートまたはパッケージを削除するには、次の手順に従います。
 - 1 左側のナビゲーションペインで、[すべてのレポート] または [すべてのパッケージ] に移動します。
 - 2 レポートまたはパッケージを右クリックして、[レポートの削除] または [パッケージの削除] を選択します。
 - 3 [はい] をクリックして削除を確認します。

この章の内容

デフォルトのページ書式の変更	150
デフォルトのページ設定の変更	150
レポートおよびパッケージの出力	152
プリンタの選択	152
アクティブなレポート、一連のレポート、または一連のレポートセットのプレビュー	152
アクティブなレポートまたはパッケージの印刷	153
レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットの連続印刷	154
アクティブなレポート、一連のレポート、または一連のレポートセットの Microsoft Excel へのエクスポート	155
Microsoft Excel へのレポートパッケージのエクスポート	156
レポートバッチコマンド、バッチファイル、およびタスクファイル	157
バッチファイルおよびタスクファイルの実行	164

Hyperion Enterprise で設定したデータを取得、計算、および表示するには、レポートおよびパッケージを実行します。レポートを個別に実行することも、パッケージを実行して、一連のレポートを同時に実行することもできます。

レポートまたはパッケージを実行すると、レポートの列および行にデータが表示されます。レポートまたはパッケージからの出力はプリンタまたはファイルに送信でき、レポートを印刷する前に、個々のレポートの出力を画面でプレビューできます。レポートおよびパッケージは、個別印刷または連続印刷ができます。また、レポートを Microsoft Excel にエクスポートした後、グラフやチャートを作成したり、レポートの書式を整えたりすることができます。

レポートまたはパッケージを実行する前に、次の設定グループのデフォルト値を変更できます。

- フォント、文字サイズ、書体などが含まれるページ書式
- 余白が含まれるページ設定
- ページ数、日付、その他の情報の配置が含まれるラベル設定

レポートとパッケージでは、これらの設定グループのデフォルト値が異なります。例えば、パッケージの余白と個別に実行するレポートの余白に、それぞれ異なるデフォルト値を使用できます。このようなデフォルト設定は、各ユーザのアプリケーションに保存されます。

注： Hyperion Enterprise のレポートモジュールまたはパッケージモジュールから、レポートおよびパッケージを実行することもできます。

デフォルトのページ書式の変更

レポートとパッケージには、デフォルトのページ書式を別々に指定して保持します。デフォルトのページ書式はいつでも変更でき、レポートページの指定した領域内のテキストについて、フォント、サイズ、書体、および色を変更できます。次の表に、変更可能な領域を示します。

表 34 ページ書式のオプション

領域	影響を受けるテキスト
ラベル	現在の日付、時刻、ページ番号など、各ページの上部または下部に表示されるテキスト
ヘッダー	各ページに表示されるレポートのタイトル
列	列見出し
行	行見出し
データ	列と行にあるデータ
フッター	現在の日付、時刻、ページ番号など、各ページの下部に表示されるテキスト

レポートの指定された領域に特定の書式指定が含まれている場合は、デフォルトのページ書式が上書きされます。例えば、レポートの列見出しに下線を付けるよう設定すると、デフォルトのページ書式で列見出しの下線が指定されていなくても、出力時には見出しに下線が表示されます。レポートの書式設定について詳しくは、[第 8 章「レポートの書式」](#)を参照してください。

ページ書式、ページ設定、およびラベル設定の設定値は、Hyperion Enterprise Reporting および Hyperion Enterprise の [レポート] ウィンドウまたは [パッケージ] ウィンドウでレポートおよびパッケージを実行する場合に適用されます。例えば、Hyperion Enterprise Reporting でレポートの余白のデフォルト設定を変更すると、この設定は Hyperion Enterprise の [レポート] ウィンドウで使用されます。同様に、Hyperion Enterprise の [パッケージ] ウィンドウでフッターのデフォルトのフォントを変更すると、この設定が Hyperion Enterprise Reporting のパッケージで使用されます。

- デフォルトのページ書式を変更するには、次の手順に従います。
- 1 レポートまたはパッケージで、[ファイル] メニューから [ページ書式] を選択します。
 - 2 ページモデルの領域をダブルクリックして、フォントの説明と、現在のフォントオプションの設定のサンプルを表示します。
 - 3 選択した領域のデフォルトのフォントオプションを変更するには、[フォント] をクリックします。
 - 4 フォントオプションをリセットし、[OK] を 2 回クリックします。

デフォルトのページ設定の変更

デフォルトのページ設定は、いつでも変更できます。デフォルトのページ設定を変更する場合は、余白や、時刻、日付、ページ番号、およびテキストが表示され

るレポートおよびパッケージのページ上の場所を指定できます。レポートおよびパッケージのデフォルトは、別々に指定し保持します。

上部ラベルまたは下部ラベルの左、中央、または右のゾーンを選択し、時刻、日付、ページ番号、およびテキストの位置を決めます。例えば、時刻、日付、またはページ番号をページの上部左または下部中央に表示できます。月別収益などの短いテキストをラベルとして含めることもできます。

上部ラベルおよび下部ラベルには行が存在し、レポートやパッケージのプレビュー時または印刷時には、この行に日付、時刻、ページ番号、およびテキストが表示されます。上部ラベルでは、最初の行に日付、時刻、またはページ番号が、最後の行にラベルのテキストが表示されます。下部ラベルでは、最初の行にラベルのテキストが、最後の行に日付、時刻、またはページ番号が表示されます。

次の図に、上部ラベルおよび下部ラベルを含むレポートを示します。

図 27 上部ラベルおよび下部ラベルを含むレポート

The screenshot shows the Hyperion Reporting window titled "Hyperion Reporting - TEST - [SAH2.RPT]". The window has a menu bar with "First", "Last", "Next", "Previous", "Goto", "Zoom", "Print", and "Margins". The report content is as follows:

	Actual FEB 2002	Actual MAR 2002
ENT@CON(DIV1)		
Gross Sales	12,044	18,302
Cost of Goods Sold	2,198	3,099
Marketing Expense	318	421
R & D Expense	2,781	3,298
Net Income	6,747	11,484

At the bottom of the report, it says "End of Report" and "Page: 1". The status bar at the bottom left shows "Page 1 of 1".

Numbered callouts in the original image point to the following elements:

- 1: Thursday, December 05, 2001
- 2: Actual Data for March, 2002
- 3: End of Report
- 4: 10:01:52 AM

1. 日付が記載されています。
2. ラベルのテキストが記載されています。
3. テキストが記載されています。
4. 時刻が記載されています。

► デフォルトのラベル設定を変更するには、次の手順に従います。

- 1 レポートウィンドウまたはパッケージウィンドウで、[ファイル] メニューから [ページ設定] を選択します。
- 2 次のいずれかを実行します。
 - 余白を指定するには、[一般] タブを選択して、上下左右の余白を指定します。
 - 日付を指定するには、[日付] タブを選択して、日付オプションを指定します。

- 時刻を指定するには、[時刻] タブを選択して、時刻オプションを指定します。
- ページ番号を指定するには、[ページ番号] タブを選択して、ページ番号オプションを指定します。
- テキストを指定するには、[テキスト] タブを選択して、テキストオプションを指定します。

3 [OK] をクリックします。

レポートおよびパッケージの出力

[プレビュー] ウィンドウでは、レポートを印刷する前に、レポートの出力をプレビューできます。また、レポートまたはパッケージの出力は、プリンタまたはファイルに送信できます。

レポートまたはパッケージの全体を印刷したり、特定のページ範囲を印刷したりすることができます。また、レポートやパッケージの連続印刷もできます。また、レポート、パッケージ、または一連のレポートやパッケージをファイルに出力し、出力を保存して改めて使用できます。例えば、レポートの出力を保存し、テキストエディタを使用してこのレポートを別の文書に含めることができます。

プリンタの選択

プリンタを選択し、用紙のサイズ、ソース、向き、ページ設定、プロパティの詳細などのオプションを指定できます。

- ▶ プリンタを選択するには、次の手順に従います。
- 1 レポートウィンドウで、[ファイル] メニューから [プリンタの選択] を選択します。
- 2 プリンタを選択します。
- 3 用紙のサイズ、ソース、および向きを指定するには、[設定] をクリックします。
- 4 ページ設定および詳細オプションを指定するには、[プロパティ] をクリックします。

注： 指定したプリンタのオプションは REPENG.INI ファイルに保存され、設定内容を変更しない限り、選択したプリンタではこの設定が使用されます。

HRPrinter を選択して、PDF ファイルを生成します。

アクティブなレポート、一連のレポート、または一連のレポートセットのプレビュー

[プレビュー] ウィンドウでは、アクティブなレポート、一連のレポート、または一連のレポートセットを印刷前にプレビューできます。[プレビュー] ウィンドウでは、レポートの個別のページや項の表示、余白の概観の確認、またはレポートの印刷ができます。

- ▶ アクティブなレポート、一連のレポート、または一連のレポートセットをプレビューするには、次の手順に従います。

1 次のいずれかを実行します。

- アクティブなレポートをプレビューするには、[ファイル] メニューから [プレビュー] を選択するか、または [プレビュー] アイコンを選択します。

ヒント： [プレビュー] ウィンドウで印刷するには、[印刷] をクリックします。

- 一連のレポートをプレビューするには、[ファイル] メニューから [連続印刷プレビュー] を選択し、[レポート] タブを選択します。レポートセットを選択した後、レポートを選択します。
- 一連のレポートセットをプレビューするには、[ファイル] メニューから [連続印刷プレビュー] を選択し、[レポートセット] タブを選択した後、1 つまたは複数のレポートセットを選択します。

2 レポートの出力を表示した後、[閉じる] をクリックすると、レポートのウィンドウに戻ります。

ヒント： 連続印刷のプレビューを途中で中止するには、[キャンセル] をクリックします。

アクティブなレポートまたはパッケージの印刷

レポートまたはパッケージ全体の出力を印刷したり、出力の中の指定したページを印刷したりすることができます。例えば、アクティブなレポートの 3 ~ 10 ページを印刷できます。

ドラフト印刷を使用するオプションもあります。この場合は、通常印刷よりも速く印刷できますが、仕上りの品質は少し劣ります。ドラフト印刷を使用する際、データに指定したフォントがシステムで使用されない場合があります。最終的な配布または出版ではなく、レビューを目的としてレポートまたはパッケージのコピーを作成する場合は、このドラフト印刷オプションを使用できます。

レポートやパッケージをファイルに出力し、ASCII 形式で保存することもできます。Hyperion Enterprise Reporting の場合は、デフォルトでは現在のアプリケーションのレポートディレクトリに拡張子.txt を付けてファイルを保存しますが、別の拡張子やディレクトリを指定することもできます。

パッケージを印刷するとき、Hyperion Enterprise Reporting では、印刷可能な行または列が含まれていないレポートが非表示になります。例えば、レポート内のすべての行が非表示になっている場合は、そのレポートが印刷されません。Hyperion Enterprise アプリケーションで、子が存在しない場合にエンティティの子がレポートに指定されていると、そのレポートは Hyperion Enterprise Reporting で印刷されません。

注： プリンタを選択するには、[ファイル] メニューから [プリンタの選択] オプションを使用できます。Generic/Text Only on File プリンタを選択した場合は、Windows の書式を設定しなくても、出力が ASCII テキストファイルとなります。Windows の書式設定は、Hyperion Enterprise Reporting で制御され

ていません。プリンタの選択または設定方法については、Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。

➤ アクティブなレポートまたはパッケージを印刷するには、次の手順に従います。

- 1 レポートまたはパッケージで、[ファイル] メニューから [印刷] を選択するか、またはツールバーの [印刷] アイコンを選択します。

ヒント： レポートウィンドウで [ファイル] メニューから [プレビュー] を選択し、[プレビュー] ウィンドウで [印刷] をクリックすることもできます。

- 2 レポートまたはパッケージをファイルに出力するには、[ASCII ファイルへ出力] をクリックします。
- 3 印刷オプションを指定します。
- 4 [OK] をクリックします。

レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットの連続印刷

レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットをプリンタで連続印刷したり、ASCII ファイルに出力したりすることができます。プリンタでのみ連続印刷できます。

プリンタを選択するには、[ファイル] メニューから [プリンタの選択] オプションを使用できます。Generic/Text Only on File プリンタを選択した場合は、Windows の書式を設定しなくても、出力が ASCII テキストファイルとなります。Windows の書式設定は、Hyperion Enterprise Reporting で制御されていません。プリンタの選択または設定方法については、Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。

➤ レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットを連続印刷するには、次の手順に従います。

- 1 ウィンドウで、[ファイル] メニューから [連続印刷] を選択します。
- 2 次のいずれかを実行します。
 - レポートまたはレポートセットを連続印刷するには、[レポート] タブまたは [レポートセット] タブを選択します。
 - パッケージまたはパッケージセットを連続印刷するには、[パッケージ] タブまたは [パッケージセット] タブを選択します。
- 3 [セットのレポート] リスト、[セットに含まれるパッケージ] リスト、または [セット] リストから、印刷するレポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットの名前を選択し、[OK] をクリックします。

ヒント： 一連のレポートを ASCII ファイルに出力するには、レポートをパッケージに配置し、[ASCII ファイルへ出力] オプションを使用してそのパッケージを出力する必要があります。

4 [OK] をクリックします。

ヒント： 連続印刷を途中で中止するには、[ESC] キーを押します。

アクティブなレポート、一連のレポート、または一連のレポートセットの Microsoft Excel へのエクスポート

アクティブなレポート、一連のレポート、または一連のレポートセットを Microsoft Excel にエクスポートできます。その後 Excel を使用してグラフやチャートを作成したり、レポートのデータの書式を設定したりすることができます。

レポートを Excel にエクスポートする際は、レポートの向きおよびほとんどのレポートの書式オプションがエクスポートされます。次の表に、エクスポートされない書式オプションを示します。

表 35 エクスポートされない書式オプション

コマンド	エクスポートされないオプション
[表示形式] メニューの [ヘッダー] または [表示形式] メニューの [フッター]	文字以外の色オプションおよびすべての下線オプション
[書式] メニューの [網掛け] / [枠線]	網掛け、セルの枠線、および選択された領域の枠線
[書式] メニューの [フォント]	文字以外の下線オプション

OLE 自動化を使用して、書式オプションなしでレポートを Excel バージョン 5.0 またはそれ以降にエクスポートする場合は、次の行を追加します。

```
[PE]
ExcelOLENoFormat=1
```

- アクティブなレポート、一連のレポート、または一連のレポートセットを Excel にエクスポートするには、次の手順に従います。

1 次のいずれかを実行します。

- アクティブなレポートをエクスポートするには、[ファイル] メニューから [エクスポート] を選択します。
- レポートまたはレポートセットを連続エクスポートするには、[ファイル] メニューから [連続エクスポート] を選択し、[レポート] タブまたは [レポートセット] タブを選択した後、レポートまたはレポートセットを選択します。

2 エクスポートのオプションを指定します。

ヒント： レポート名がデフォルトでファイル名になります。アクティブなレポートをエクスポートする場合は、別のファイル名を指定できます。

注： ファイル名には最大 20 文字まで入力できます。

- 3 [OK] をクリックします。

ヒント： 連続エクスポートを途中で中止するには、[ESC] キーを押します。

Microsoft Excel へのレポートパッケージのエクスポート

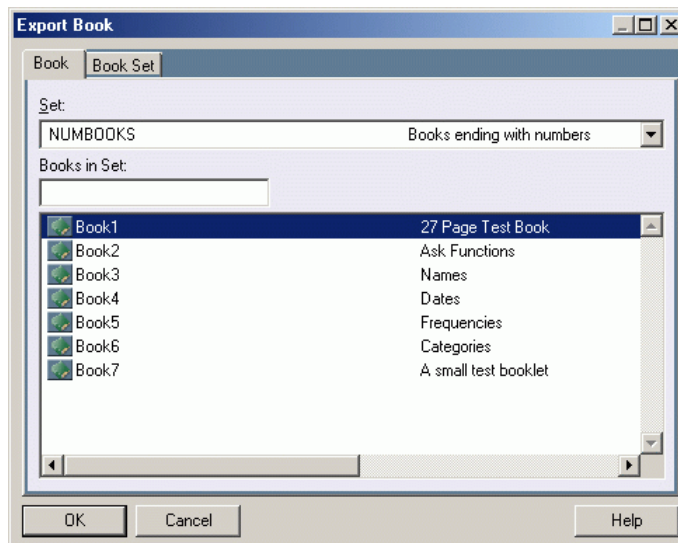
パッケージのエクスポート機能で、レポートパッケージまたはレポートパッケージセットを Excel にエクスポートできます。エクスポートされた Excel 出力ファイルには、同じ Excel ワークブック内の別々の Excel ワークシートにエクスポートされたレポートが含まれています。

レポートパッケージを Excel にエクスポートする際は、レポートの向きおよびレポートの書式オプションがエクスポートされます。

- レポートパッケージまたはレポートパッケージセットを Excel にエクスポートするには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Enterprise Reporting Windows Client デスクトップで、[ファイル] メニューから [パッケージのエクスポート] を選択します。

[パッケージのエクスポート] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 [パッケージのエクスポート] ダイアログボックスで、次のいずれかの操作を行います。

パッケージをエクスポートするには、次の手順に従います。

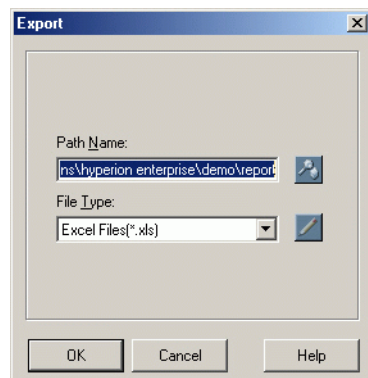
1. [パッケージ] タブの [セット] ドロップダウンリストで、エクスポートするパッケージを含んでいるパッケージセットを選択します。
2. 表示されているパッケージのリストからパッケージを選択し、[OK] をクリックします。

ヒント： 複数のパッケージをランダムに選択するには [Ctrl] キーを、複数のパッケージを順序どおりに選択するには [Shift] キーを押しながら選択します。


パッケージセットをエクスポートするには、次の手順に従います。[**パッケージセット**] タブでエクスポートするパッケージセットを選択し、[**OK**] をクリックします。

ヒント： 複数のパッケージセットをランダムに選択するには [Ctrl] キーを、複数のパッケージを順序どおりに選択するには [Shift] キーを押しながら選択します。

[エクスポート] ダイアログボックスが表示されます。



3 [エクスポート] ダイアログボックスで次の操作を行います。

- デフォルト以外の場所を選択するには、[参照] アイコン  をクリックします。
- [ファイルの種類] ドロップダウンリストで、ファイルの種類を選択します。
 - ファイルを Excel ファイル形式でエクスポートするには、[Excel ファイル (*.xls)] を選択します。
 - ファイルを Portable Document Format でエクスポートするには、[Adobe Acrobat Files (*.pdf) (Adobe Acrobat ファイル (*.pdf))] を選択します。
 - ファイルをテキスト形式でエクスポートするには、[Custom 2 Files (*.txt) (カスタム 2 ファイル (*.txt))] を選択します。
- [OK] をクリックします。

レポートバッチコマンド、バッチファイル、およびタスクファイル

レポートバッチコマンドにより、Hyperion Enterprise Reporting のタスクを実行できるアクションおよびパラメータを指定できます。バッチファイルは、MS-DOS バッチコマンドおよびレポートバッチコマンドが含まれているテキストファイルです。タスクファイルおよび応答ファイルは、レポートバッチコマンドのみが含まれているテキストファイルです。レポートバッチコマンドのステータス情報が更新されるログファイルを指定できます。

次の表に、各ファイルおよびその目的を示します。

表 36 レポートファイル

ファイル	用途
バッチファイル	Hyperion Enterprise Reporting の実行、アプリケーションへのユーザのログオン、ログファイルの起動、およびタスクファイルの実行
タスクファイル	データの視点の設定、レポート、レポートセット、パッケージ、およびパッケージセットの印刷、プレビュー、またはエクスポート、応答ファイルの指定
応答ファイル	レポートおよびパッケージ内の@ASK 関数への応答
ログファイル	実行されたレポートバッチコマンドのステータスの記録

レポートバッチコマンドを使用すると、次のタスクを実行できます。

- Hyperion Enterprise Reporting アプリケーション、アプリケーションセット、またはサーバへのログオン
- レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットの印刷あるいはエクスポート
- レポートまたはレポートセットのプレビュー
- レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットのデータの視点の変更
- レポート、レポートセット、パッケージ、およびパッケージセット内の@ASK 関数プロンプトへの応答
- バッチファイル、タスクファイル、および応答ファイルの処理を記録するログファイルの作成および更新

次の表に、アプリケーションへのログオン時に使用できるレポートバッチコマンドを示します。

表 37 バッチファイルのレポートバッチコマンド

コマンド	パラメータ	用途
/user=	ユーザ名	ユーザを指定します。
/pass=	パスワード	パスワードを指定します。
/prod=	Hyperion 製品名	Hyperion 製品を指定します。 Hyperion 製品名については、REPENG.INI ファイルの DRIVERS32 セクションを確認してください。このコマンドは、コンピュータの REPENG.INI ファイルの設定値に基づいた、コンピュータに依存したコマンドです。 製品を指定するには、/prod コマンドまたは/drv コマンドのいずれかを使用します。

コマンド	パラメータ	用途
/drv=	ドライバ	製品のドライバを指定します。Hyperion Enterprise には 1 を、Hyperion Essbase には 7 を、Hyperion Enterprise SE には 4 を使用します。このコマンドは、コンピュータに依存していません。 注：製品を指定するには、/prod コマンドまたは/drv コマンドのいずれかを使用します。
/srv=	サーバ名または IP アドレス	Hyperion Essbase のサーバを指定します。
/appset=	アプリケーションセット	Hyperion Essbase アプリケーションセットを指定します。
/app=	アプリケーション	Hyperion Enterprise アプリケーションまたは Hyperion Essbase アプリケーションを指定します。
/taskfile=	パスおよびファイル名	タスクファイルのパスおよびファイル名を指定します。

次の表に、アクションの実行に使用できるレポートバッチコマンドを示します。これらのコマンドは、バッチファイルまたはタスクファイルに配置できます。

表 38 バッチファイルまたはタスクファイルのレポートバッチコマンド

コマンド	パラメータ	用途
/logfile=	パスおよびファイル名	ログファイルのパスおよびファイル名
/printer=	プリンタ名	プリンタを指定します。
/pov=	“ディメンション名またはキーワード “ディメンション ID”	データの視点のディメンション ID を指定します。
/doctype=	レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセット	文書の種類を指定します。
/docaction=	印刷、プレビュー、エクスポート	アクションを指定します。
/docname=	名前	レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットの名前を指定します。
/exportpath=	パス	エクスポートファイルのパスを指定します。レポート名またはパッケージ名がデフォルトのファイル名になります。

コマンド	パラメータ	用途
/exporttype=	テキスト、データ、カスタム 1、カスタム 2、excel、adobe	エクスポートファイルの種類を指定します。
/responsefile=	パスおよびファイル名	応答ファイルのパスおよびファイル名
/responsereset=	行の最後、ファイルの最後、文書の最後	応答ファイルの巻き戻し時間を指定します。

次の表に、応答ファイルで利用できるレポートバッチコマンドを示します。

表 39 応答ファイルのレポートバッチコマンド

コマンド	パラメータ	用途
/keydef=	“ディメンション ID、リスト、または関数”	ディメンション ID、リスト、または LIST@ASK 関数の関数を指定します。
/povdef=	“ディメンション名またはキーワード “ディメンション ID”	@ASK 関数のデータの視点を指定します。
/reportname=	“レポート名”	@ASK 関数に、インポートするレポート名を指定します。

構文

レポートバッチコマンドでは、等号 (=) の前後に空白文字を入れることができません。例えば、コマンド /doctype は次のように空白なしで表す必要があります。

```
/doctype=print
```

引用符

空白文字が含まれているすべてのパラメータは、二重引用符で囲む必要があります。英数字以外の文字または空白文字が含まれているすべての ID または名前は、2 つの二重引用符で囲む必要があります。次のコマンドの場合は、パラメータを常に二重引用符で囲む必要があります。

- /pov
- /povdef

次に、LIST ステータスレポートを指定する /keydef コマンドの例を示します。パラメータおよび名前には空白文字が含まれているため、パラメータは二重引用符で囲まれ、名前は 2 つの二重引用符で囲まれています。

```
/keydef="LIST " "Status Report" " "
```

次に、エンティティ ID に USDIV を、フィールド ID に Field 1 を指定する /pov コマンドの例を示します。パラメータは二重引用符で、名前は 2 つの二重引用符で囲まれています。

```
/pov= "entity USDIV Field " "Field 1" " "
```

文字

レポートバッチコマンドの構文では、大文字と小文字は区別されません。Hyperion Essbase のメンバ名は大文字と小文字が区別されている場合があります。

コメント

行の最初に次の文字を使用すると、バッチファイル、タスクファイル、または応答ファイルにコメントを入力できます。

`;` または `rem`

例えば、次の 3 行がコメントになります。

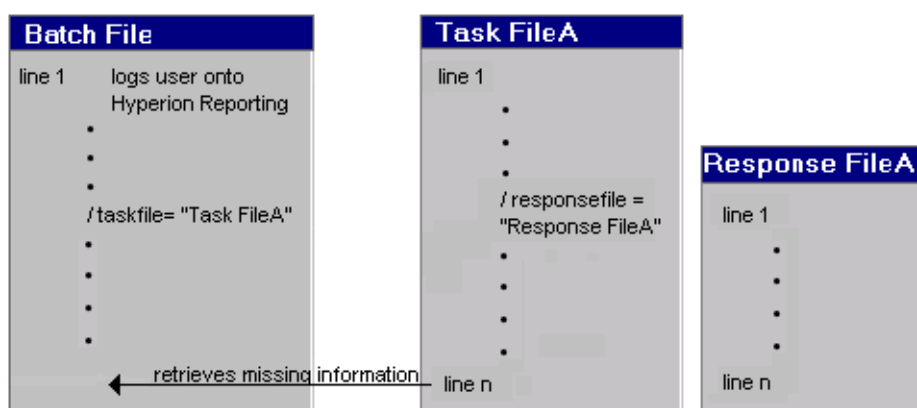
```
rem これはコメント行です。  
// これはコメント行です。  
; これはコメント行です。
```

バッチファイルおよびタスクファイルの実行

バッチファイル、タスクファイル、および応答ファイルは連動しています。通常、バッチファイルがタスクファイルを読み出し、タスクファイルが次に応答ファイルを読み出します。バッチファイルおよびタスクファイルの各行は、他の行とは別個に実行されます。例えば、レポートを印刷する場合は、`/docaction`、`/doctype`、および `/docname` の各コマンドをタスクファイルの同じ行に配置する必要があります。

次の図に、コマンド行から見たバッチファイルおよびタスクファイルを示します。

図 28 コマンド行からのバッチファイルの実行

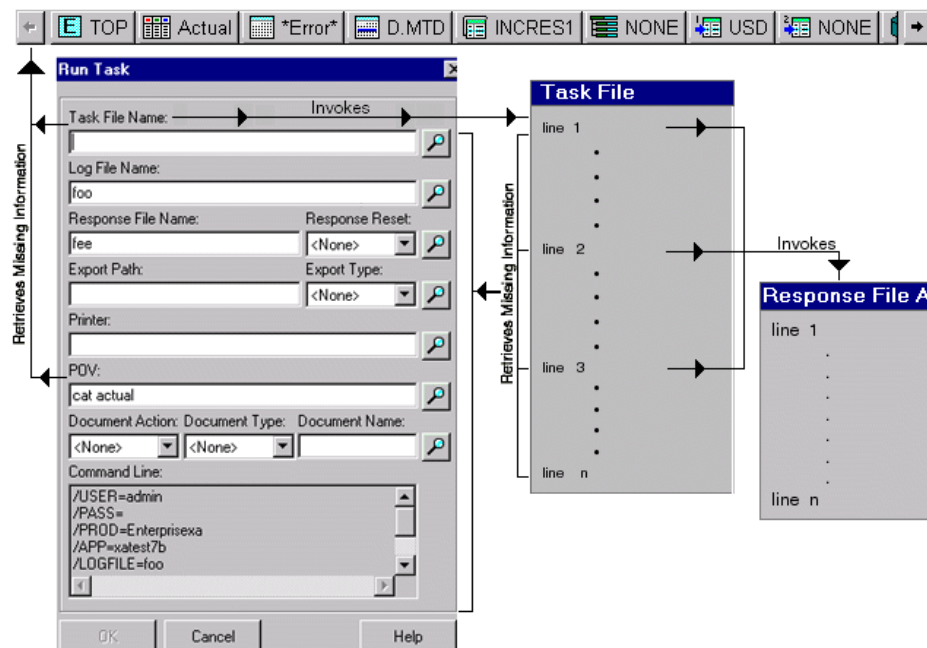


1. バッチファイルからコマンドが実行され、バッチファイルがタスクファイルを読み出します。
2. タスクファイルから、コマンドが一度に 1 行ずつ実行されます。タスクファイルの行に情報がない場合は、バッチファイルからその情報が取得されます。バッチファイルにも情報がない場合は、その行が中止されます。
3. 応答ファイルが使用される場合は、ファイルが開き、最初の行から読み込みが行われます。

注： バッチファイルでは、いくつかの異なるアクションを指定した後、それぞれのアクションについてタスクファイルを実行できます。例えば、バッチファイルは同じタスクファイルをプレビュー、印刷、およびエクスポートできます。

次の図に、Hyperion Enterprise Reporting 内部から見たタスクファイルを示します。

図 29 タスクファイルの実行



► Hyperion Enterprise Reporting 内からタスクファイルを実行するには、次の手順に従います。

- 1 [ファイル] メニューから [タスクの実行] を選択します。
- 2 タスクファイル名を入力します。[タスクの実行] ダイアログボックスでオプションを入力できます。ここで入力しない場合は、MS-DOS コマンド行でオプションを指定します。

注： タスクファイルから、コマンドが一度に 1 行ずつ実行されます。行に情報がない場合は、[タスクの実行] ダイアログボックスのオプションから情報が取得されます。その情報がオプションにない場合は、その行が中止されます。応答ファイルが使用される場合は、ファイルが開き、最初の行から読み込みが行われます。

例

次に、連動するバッチファイル、タスクファイル、および応答ファイルの例を示します。

注： ファイルの各行には、番号のラベルが付いています。これは、バッチファイルおよびタスクファイルにはそれぞれ 1 行、応答ファイルには 3 行が含ま

れていることを示します。実際のバッチファイル、タスクファイル、または応答ファイルには行の数を含めないでください。

バッチファイルのサンプル - DEMO.BAT

次に、MS-DOS およびレポートバッチコマンドを含んでいるバッチファイルの例を示します。このバッチファイルで、Hyperion Enterprise Reporting の実行、ユーザ名の付いた管理者の Hyperion Essbase アプリケーションへのログオン、ログファイルの起動、および DEMO.TXT タスクファイルの実行を行います。

```
REM*****run Hyperion Enterprise Reporting
REM specify the user, password and application information REM preview,
print, and export the task file
c:\program files\hyperion solutions\reporting\rw32.exe
/USER=ADMIN
/PASS=essbase
/PROD = Essbase
/Srv=server1
/SET=demo
/APP=basic
/logfile="Batch file log"
/docaction=preview /TASKFILE=demo.txt
```

タスクファイルのサンプル - DEMO.TXT

次に 1 行のレポートバッチコマンドを含んでいるタスクファイルの例を示します。このタスクファイルでは、データの視点の設定、レポートセットの指定、DEMO.RSP 応答ファイルの使用、および各レポートの実行後の DEMO.RSP ファイルの巻き戻しを行います。

```
/POV="ENT " "US DIV" " "
/DOCTYPE=ReportSet
/DOCNAME=AUTO
/RESPONSEFILE=\server\demo\demo.rsp
/RESPONSERESET=ENDOFDOCUMENT
```

応答ファイルのサンプル - DEMO.RSP

次に、レポート名の@ASK、LIST@ASK、および@ASK に応える応答ファイルの例を示します。

```
/POVDEF="FX Local Category Actual"
/KEYDEF="@CUR, USDIV, LIST " "TOP" " "
/REPORTNAME="Status Report"
```

- ▶ バッチファイル、タスクファイル、または応答ファイルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 テキストエディタを使用してファイルを作成します。

注： バッチファイルには、拡張子.BAT を使用します。

2 必要に応じて次の操作を行います。

- バッチコマンドおよびパラメータを入力し、ファイルを保存します。
- タスクファイルを作成する場合は、[ファイル] メニューから [タスクの実行] を選択し、オプションを入力または選択できます。オプションを指定する際、[コマンド行] テキストボックスにレポートバッチコマンドが表示されます。[コマンド行] テキストボックスからコマンドをコピーし、タスクファイルに貼り付けることができます。

バッチファイルおよびタスクファイルの実行

MS-DOS のコマンドプロンプトからバッチファイルを実行したり、Hyperion Enterprise Reporting 内からタスクファイルを実行したりできます。

- ▶ MS-DOS コマンドプロンプトからバッチファイルを実行するには、次の手順に従います。

- 1 [スタート] メニューから [MS-DOS コマンドプロンプト] を選択します。
- 2 バッチファイル名を入力し、[Enter] キーを押します。

- ▶ Hyperion Enterprise Reporting 内からタスクファイルを実行するには、次の手順に従います。

- 1 [ファイル] メニューから [タスクの実行] を選択します。
- 2 [タスクファイル名] 編集ボックスにタスクファイル名を入力し、[検索] ボタンをクリックしてタスクファイルを選択します。

注： タスクを指定する必要があります。

3 タスクファイルを実行するには、次のいずれかの操作を行います。

- [OK] をクリックします。
- オプションを指定して、[OK] をクリックします。

注： タスクファイルに情報がない場合は、[タスクの実行] オプションが使用されます。例えば、タスクファイルで `report1` という名前のレポートがアクションなしで指定されている場合は、アクションが [文書の動作] フィールドから取得されます。

この章の内容

Hyperion Enterprise および Hyperion Essbase に対応する Hyperion Enterprise Reporting の関数	165
Hyperion Enterprise Reporting for Essbase の関数	173

この章では、Hyperion Enterprise Reporting の関数の要約と、各製品で使用可能な関数を示します。

Hyperion Enterprise および Hyperion Essbase に対応する Hyperion Enterprise Reporting の関数

次の表に、Hyperion Enterprise Reporting の関数の要約と、各製品で使用可能な関数を示します。関数について詳しくは、[第 12 章「関数」](#)を参照してください。

表 40 Hyperion Enterprise および Hyperion Essbase に対応する Hyperion Enterprise Reporting の関数

関数	説明	Hyperion Enterprise	Hyperion Essbase
ABS - 絶対値	数式の絶対値を取得します。	X	X
@ACODE - 勘定科目コード	現在の勘定科目のコードを取得します。	X	
@ALL - すべて	現在または特定のエンティティ、勘定科目、またはサブ勘定科目のすべての子孫に列または行を作成します。Hyperion Enterprise で@ALL を使用すると、現在の親または特定の親のすべての子孫に列または行を作成することもできます。	X	X
@ALT - 現在のエイリアステーブル	現在のエイリアステーブルの名前を取得できます。		X
@AMCODE - チャートロジックのコード	現在のエンティティに割り当てられた	X	

関数	説明	Hyperion Enterprise	Hyperion Essbase
	チャートロジックのコードを取得します。		
@ANC - すべての祖先メンバ	特定のメンバまたは現在のメンバより 1 つ上位の祖先を取得します。		X
@APD - アプリケーションの説明	タイトルに表示された現在のアプリケーションの説明を取得します。	X	X
@APN - アプリケーションメモ	現在のアプリケーションメモの説明を取得します。		X
@APP - アプリケーション名	現在のアプリケーションまたはデータリポジトリの名前を取得します。	X	X
AS - 行／列と同じメンバ	別の番号の列または行と同じディメンション設定の列または行を作成します。	X	X
@ASK - ユーザへのプロンプト	レポートの実行時にディメンションを指定するように求めるメッセージを表示します。	X	X
AVG - 平均	列または行のグループの平均値を算出します。	X	X
@BAS - 基本レベル	現在のエンティティまたは特定のエンティティの最下位子孫に列または行を作成します。	X	X
BET - 差異評価	2 つの列または行の値の差異を算出し、差異の良否を示します。	X	X
@BOT - レベル 0 の子孫	特定のメンバまたは現在のメンバの子孫メンバのうち、レベル 0 のメンバをすべて取得します。		X
CELL - 特定のセル値	特定のセル値をセルの列番号と行番号で指定します。	X	X
CHANGE - ディメンション変更	レポートまたはパッケージでディメン	X	X

関数	説明	Hyperion Enterprise	Hyperion Essbase
	ションの変更にマー カを付けます。		
@CHART - チャートロ ジック展開	入力ロジックに基づ いて算出勘定を展開 し、計算の詳細を表 示します。	X	
CHG - 差異計算	2つの行または列の 値の差異を算出しま すが、差異を評価し ません。	X	X
@CHL - 子	特定のメンバまたは 現在のメンバの子を 取得します。		X
@CMCODE - 連結ロジッ クのコード	現在のエンティティ の連結ロジックの コードを取得します。	X	
@CMO - 現在のデータ 種別の期間番号	現在のデータの視点 の期間との関係に基 づいて期間の行また は列を作成します。	X	
@CON - 子エンティ ティ	現在のエンティティ または特定のエン ティティより下位の 概要エンティティに 列または行を作成し ます。Hyperion Enterprise では、現在 の親または特定の親 より下位のエンティ ティに列または行を 作成できます。	X	
CPN - 現在の期間番号	現在の期間の番号を 取得します。	X	
@CUR - 現在のディメ ンション設定	現在のデータの視点 設定を使用して、特 定のディメンション に列または行を作成 します。	X	X
@CURCY - 通貨テキス ト	現在のエンティティ の ID または説明を取 得します。通貨の記 号を取得することも できます。	X	
@DAT - 期間の説明	現在の期間に関する カスタム説明を取 得します。	X	
@DEP - 子	現在のエンティティ または特定のエン ティティのすべての 子に列または行を作 成します。Hyperion	X	X

関数	説明	Hyperion Enterprise	Hyperion Essbase
	Enterprise では、現在の親または特定の親のすべての子に列または行を作成できます。		
@DES - ディメンションの説明	現在のディメンションの説明を取得します。	X	X
@DSC - 子孫メンバ	特定のメンバまたは現在のメンバの子孫を取得します。		X
DUR - 指定値	一連の列または行に指定された値または数式を示します。	X	X
@ECODE - エンティティコード	現在のエンティティのコードを取得します。	X	
@END - 終了期間	終了期間、または終了期間からオフセットされた期間に行または列を作成します。	X	
@ENT - 親としてのエンティティ	現在のエンティティを親として列または行を作成します。	X	
@FIRST - 最初のサブ勘定科目	勘定科目に割り当てられたサブ勘定科目表にある最初のサブ勘定科目を指定します。	X	
@FLN - ファイル名	アクティブなレポートのファイル名を取得します。	X	X
@FLT - ファイルタイトル	アクティブなレポートのタイトルを取得します。	X	X
FOR - セクション	レポートまたはパッケージでセクションの開始にマーカを付けます。	X	X
@FRD - 期間単位の説明	現在の期間単位の説明を取得します。	X	
@FRL - 期間単位のラベル	現在の期間単位の ID (ラベル) を取得します。	X	
FROM - 範囲の開始	勘定科目など、ディメンション値の範囲の始まりにマーカを付けます。	X	X

関数	説明	Hyperion Enterprise	Hyperion Essbase
@GEN - 同じ世代	特定のメンバまたは現在のメンバと同じ世代のメンバをすべて取得します。		X
IFT - IF THEN 条件	数式の結果が負、ゼロ、正のいずれかに応じて、指定値またはテキストを表示します。	X	X
@IND - インデント	世代番号に基づいてテキストをインデントします。		X
@LAB - ディメンションのラベル	現在のディメンションの ID を取得します。	X	X
@LAD - 最下位勘定科目の説明	現在の勘定科目に関する最下位の説明を取得します。	X	
@LAL - 最下位勘定科目のラベル	現在の勘定科目またはサブ勘定科目の最下位の ID を取得します。	X	
@LAST - 最後のサブ勘定科目	勘定科目に割り当てられたサブ勘定科目表にある最後のサブ勘定科目を指定します。	X	
LIST - リスト	LIST をキーワード ACC とともに使用した場合は勘定科目一覧の勘定科目に、LIST をキーワード ENT とともに使用した場合はエンティティ一覧のエンティティに、列または行を定義します。	X	X
@LOCAL - ローカル見出し	列または行にローカル見出しを割り当てます。	X	X
@LRC - リンクされたレポートコメント	コメントである、リンクされたレポートオブジェクトを取得します。		X
@LRD - リンクされたレポートオブジェクトの変更日	現在リンクされているレポートオブジェクトの変更日を取得します。		X
@LRF - リンクされたレポートファイル	ファイルである、リンクされたレポート		X

関数	説明	Hyperion Enterprise	Hyperion Essbase
	オブジェクトを取得します。		
@LRI - リンクされたレポートオブジェクトのインデックス	現在リンクされているレポートオブジェクトのインデックスを取得します。		X
@LRO - リンクされたレポートオブジェクト	ファイルやコメントを含め、リンクされたレポートオブジェクトを取得します。		X
@LRT - リンクされたレポートオブジェクトの種類	現在リンクされているレポートオブジェクトの種類を取得します。		X
@LRU - リンクされたレポートオブジェクトのユーザ	現在リンクされているレポートオブジェクトのユーザを取得します。		X
@LVL - 同じレベル	特定のメンバまたは現在のメンバと同じレベルのメンバをすべて取得します。		X
MUL - 乗算	2つの列または行の値を乗算します。	X	X
@OFF	現在の期間または特定の期間のオフセットに列または行を作成します。		X
@PAR - 親	親ディメンションの列または行を作成します。	X	
PBE - 差異率の評価	2つの列または行の値の差異率を算出し、差異の良否を決定します。	X	X
PCH - 差異率	2つの行または列の差異率を算出しますが、差異を評価しません。	X	X
PCR - 構成比	現在の列または行の値を特定のセル値の比率として示します。	X	X
PCT - 比率（パーセント表示）	2つの列または行の値の比率をパーセント単位で表します。	X	X
@PDES - 部分的説明	サブエンティティまたはサブ勘定科目を持つエンティティまたは勘定科目に関する	X	

関数	説明	Hyperion Enterprise	Hyperion Essbase
	る部分的な説明を取得します。		
@PLAB - ディメンションの部分的なラベル	サブエンティティまたはサブ勘定科目を持つエンティティまたは勘定科目に関する部分的な ID（ラベル）を取得します。	X	
@PSF - 連結ステータス	現在のエンティティの連結ステータスを取得します。	X	
RAT - 比率	2 つの行または列の値の比率を算出します。	X	X
REPORT - パッケージ内のレポート	パッケージに含まれたレポートを指定します。	X	X
RND - 四捨五入	最も近い指定値に数式の結果を四捨五入します。	X	X
@RNG	ディメンション ID の範囲を取得します。	X	X
@RPD - 現在のレポートディレクトリ	REPENG.INI ファイルのレポートディレクトリ設定で指定されている、現在のレポートディレクトリの名前を取得します。		X
@SCALE - 現在のエンティティの単位	現在のエンティティの単位を表す数値を取得します。	X	
@SED - セットの説明	現在のセットの説明を取得します。		X
@SET - セット名	現在のセットの名前を取得します。		X
@SIB - すべての兄弟	現在のメンバまたは特定のメンバのすべての兄弟を取得します。		X
@SLA - 左側にあるすべての兄弟	指定したメンバを除き、その左側にあるすべての兄弟を含めて展開します。		X
@SLF - 左側にある最初の兄弟	指定したメンバを除き、その左側にある最初の兄弟を含めて展開します。		X

関数	説明	Hyperion Enterprise	Hyperion Essbase
@SRA - 右側にあるすべての兄弟	特定のメンバの右側にあるすべての兄弟を含めて展開します。ただし、特定のメンバ自体は除きます。		X
@SRF - 右側にある最初の兄弟	指定したメンバを除き、その右側にある最初の兄弟を含めて展開します。		X
@SRN - サーバ名	現在のサーバ名を取得します。		X
@START - 開始期間	開始期間、または開始期間からオフセットされた期間に行または列を作成します。	X	
@SUB - サブ勘定科目	指定した勘定科目のサブ勘定科目に列または行を作成します。	X	
SUM - 合計	指定した列または行の値を加算します。	X	X
@TIM - 現在の時刻	現在のシステム時刻を取得します。	X	X
@TMCODE - 換算ロジックコード	現在の換算ロジックのコードを取得します。	X	
@TOD - 現在の日付	現在のシステム日付を取得します。	X	X
@TOP - 最上位要素	ディメンション内の最上位の（親が未定義の）要素		X
UNTIL - 範囲の終わり	勘定科目など、ディメンション値の範囲の終わりにマーカを付けます。	X	X
@USR - ユーザ ID	現在のユーザの ID を取得します。	X	X
@VWD - ビューの説明	現在のビューの説明を取得します。	X	
@VWL - ビューのラベル	現在のビューの ID を取得します。	X	
WITHSUB - With サブ勘定科目	勘定科目の範囲内のすべてのサブ勘定科目が含まれます。	X	X
WITHSUB1 - 第 1 レベルサブ勘定科目	勘定科目の範囲内にある第 1 レベルのサ	X	X

関数	説明	Hyperion Enterprise	Hyperion Essbase
	ブ勘定科目が含まれます。		
@WLD - ワイルドカード	ワイルドカードの指定と一致するすべてのメンバを取得します。		X

Hyperion Enterprise Reporting for Essbase の関数

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

次の表に、Hyperion Enterprise Reporting for Essbase の関数の要約を示します。特に指定のない限り、この一覧のすべての関数は、フィールドディメンション以外のすべてのディメンションで使用できます。関数について詳しくは、[第 12 章「関数」](#)を参照してください。

表 41 Hyperion Enterprise Reporting for Essbase の関数

関数	説明
ABS - 絶対値	数式の絶対値を取得します。
@ALL - すべての	現在または特定のエンティティ、勘定科目、またはサブ勘定科目のすべての子孫に列または行を作成します。
@ALT - 現在のエイリアステーブル	現在のエイリアステーブルの名前を取得します。
@ANC - すべての祖先メンバ	特定のメンバまたは現在のメンバより 1 つ上位の祖先を取得します。
@APD - アプリケーションの説明	現在のアプリケーションの説明を取得します。
@APN - アプリケーションメモ	現在のアプリケーションメモの説明を取得します。
@APP - アプリケーション名	現在のアプリケーションまたはデータリポジトリの名前を取得します。
AS - 行／列と同じメンバ	別の番号の列または行と同じディメンション設定の列または行を作成します。
@ASK - ユーザへのプロンプト	レポートの実行時にディメンションを指定するように求めるメッセージを表示します。
AVG - 平均	列または行のグループの平均値を算出します。
@BAS - 最下位	現在のエンティティまたは特定のエンティティの最下位子孫に列または行を作成します。
BET - 差異評価	2 つの列または行の値の差異を算出し、差異の良否を示します。

関数	説明
@BOT - レベル 0 のすべてのメンバ	特定のメンバまたは現在のメンバの子孫メンバのうち、レベル 0 のメンバをすべて取得します。
CELL - 特定のセル値	特定のセル値をセルの列番号と行番号で指定します。
@CHL - 直属の子メンバ	特定のメンバまたは現在のメンバのすべての子を取得します。
CHANGE - ディメンション変更	レポートまたはパッケージでディメンションの変更にマーカを付けます。
CHG - 差異計算	2 つの行または列の値の差異を算出しますが、差異を評価しません。
@CUR - 現在のディメンション設定	現在のデータの視点設定を使用して、特定のディメンションに列または行を作成します。
@DEP - 子	現在のエンティティまたは特定のエンティティのすべての子に列または行を作成します。
@DES - ディメンションの説明	現在のディメンションの説明を取得します。
@DSC - 子孫メンバ	特定のメンバまたは現在のメンバのすべての子孫を取得します。
DUR - 指定値	一連の列または行に指定された値または数式を示します。
@FLN - ファイル名	アクティブなレポートのファイル名を取得します。
@FLT - ファイルタイトル	アクティブなレポートのタイトルを取得します。
FOR - セクション	レポートまたはパッケージでセクションの開始にマーカを付けます。
FROM - 範囲の開始	勘定科目など、ディメンション値の範囲の始まりにマーカを付けます。
@GEN - 同じ世代のすべてのメンバ	特定のメンバまたは現在のメンバと同じ世代のメンバをすべて取得します。
IFT - If Then 条件	数式の結果が負、ゼロ、正のいずれかに応じて、指定値またはテキストを表示します。
@IND	世代番号に基づいてテキストをインデントします。
@LAB - ディメンションの ID	現在のディメンションの ID を取得します。
LIST - リスト	LIST をキーワード ACC とともに使用した場合は勘定科目一覧の勘定科目に、LIST をキーワード ENT とともに使用した場合はエンティティ一覧のエンティティに、列または行を定義します。
@LOCAL - ローカル見出し	列または行にローカル見出しを割り当てます。
@LRC	リンクされたレポートオブジェクトに追加されたコメントを取得します（フィールドディメンションでのみ使用できます）。
@LRD	現在リンクされているレポートオブジェクトの変更日を取得します（フィールドディメンションでのみ使用できます）。

関数	説明
@LRF	リンクされたレポートオブジェクトに追加されたファイルを取得します（フィールドディメンションでのみ使用できます）。
@LRI	現在リンクされているレポートオブジェクトのインデックスを取得します（フィールドディメンションでのみ使用できます）。
@LRO	追加されたファイルやコメントも含め、リンクされたレポートオブジェクトを取得します（フィールドディメンションでのみ使用できます）。
@LRT	現在リンクされているレポートオブジェクトの種類を取得します（フィールドディメンションでのみ使用できます）。
@LRU	現在リンクされているレポートオブジェクトのユーザを取得します（フィールドディメンションでのみ使用できます）。
@LVL - 同じレベルのすべてのメンバ	特定のメンバまたは現在のメンバと同じレベルのメンバをすべて取得します。
MUL - 乗算	2つの列または行の値を乗算します。
@PAR - 親	特定のメンバの組み合わせの親の値を取得します。
PBE - 差異率の評価	2つの列または行の値の差異率を算出し、差異の良否を決定します。
PCH - 差異率の計算	2つの行または列の差異率を算出しますが、差異を評価しません。
PCR - 構成比	現在の列または行の値を特定のセル値の比率として示します。
PCT - 比率（パーセント表示）	2つの列または行の値の比率をパーセント単位で表します。
RAT - 比率	2つの行または列の値の比率を算出します。
REPORT - パッケージ内のレポート	パッケージに含まれたレポートを指定します。
RND - 四捨五入	最も近い指定値に数式の結果を四捨五入します。
@RNG	
@RPD - レポートディレクトリ	REPENG.INI ファイルのレポートディレクトリ設定で指定されている、現在のレポートディレクトリの名前を取得します。
@SED - セットの説明	現在のセットの説明を取得します。
@SET - セット名	現在のセットの名前を取得します。
@SIB - すべての兄弟	現在のメンバまたは特定のメンバのすべての兄弟を戻します。
@SLA - 左側にあるすべての兄弟	現在のメンバまたは特定のメンバの左側にあるすべての兄弟を取得します。ただし、メンバ自体は除きます。
@SLF - 左側にある最初の兄弟	現在のメンバまたは特定のメンバの左側にある最初の兄弟を取得します。
@SRA - 右側にあるすべての兄弟	現在のメンバまたは特定のメンバの右側にあるすべての兄弟を取得します。ただし、メンバ自体は除きます。

関数	説明
@SRF - 右側にある最初の兄弟	現在のメンバまたは特定のメンバの右側にある最初の兄弟を取得します。
@SRN - サーバ名	現在のサーバ名を取得します。
SUM - 合計	指定した列または行の値を加算します。
@TIM - 時刻	現在のシステム時刻を取得します。
@TOD - 日付	現在のシステム日付を取得します。
@TOP - 世代 2 のすべてのメンバ	ディメンションの最上位 ID のうち、親が未定義の ID に行または列を作成します。
UNTIL - 範囲の終わり	勘定科目など、ディメンション値の範囲の終わりにマーカを付けます。
@USR - ユーザ ID	現在のユーザの ID を取得します。
WITHSUB - With サブ勘定科目	勘定科目の範囲内のすべてのサブ勘定科目が含まれます。
WITHSUB1 - 第 1 レベルサブ勘定科目	勘定科目の範囲内にある第 1 レベルのサブ勘定科目が含まれます。
@WLD - ワイルドカードの指定と一致するすべてのメンバ	ワイルドカードの指定と一致するすべてのメンバを取得します。

この章の内容

ABS - 絶対値.....	179
@ACODE - 勘定科目コード.....	180
@ALL - すべて.....	180
@ALT - 現在のエイリアステーブル	182
@AMCODE - チャートロジックコード	182
@ANC - すべての祖先メンバ.....	183
@APD - アプリケーションの説明	183
@APN - アプリケーション名	184
@APP - アプリケーション ID	184
AS - 同じ	185
@ASK - Windows ユーザへのプロンプト.....	185
AVG - 平均 : 概要	186
@BAS - 基本レベル	187
BET - 差異評価	187
@BOT - レベル 0 のメンバ	188
CELL - 特定のセル値	189
CHANGE - ディメンション変更.....	190
@CHART - チャートロジック展開.....	191
CHG - 差異計算	192
@CHL - 子	192
@CMCODE - 連結ロジックのコード	193
@CMO - 現在のデータ種別の期間番号	193
@CON - サマリ ID	194
CPN - 現在の期間番号	195
@CUR - 現在のディメンション設定	196
@CURCY - 通貨テキスト	197
日付マスク	198
@DAT - 期間の説明	199
@DEP - 直下の ID	200
@DES - ディメンションの説明	201
@DSC - 子孫メンバ	201
DUR - 指定値	202
@ECODE - エンティティコード.....	203
@END - 最後の ID	204

@ENT - 親としてのエンティティ	204
@FIRST - 最初のサブ勘定科目	205
@FLN - ファイル名	206
@FLT - ファイルタイトル	206
FOR - セクション For	207
@FRD - 期間単位の説明	208
@FRL - 期間単位 ID	208
FROM - 範囲の開始	209
@GEN - 同じ世代	210
IFT - If Then	210
@IND - インデント	211
@LAB - ディメンション ID	212
@LAD - 最下位勘定科目の説明	212
@LAL - 最下位勘定科目 ID	213
@LAST - 最後のサブ勘定科目	214
LIST - リスト	215
@LOCAL - ローカル見出し	216
@LRC - リンクされたレポートコメント	216
@LRD - リンクされたレポートオブジェクトの変更日	217
@LRF - リンクされたレポートファイル	218
@LRI - リンクされたレポートオブジェクトのインデックス	219
@LRO - リンクされたレポートオブジェクト	220
@LRT - リンクされたレポートオブジェクトの種類	221
@LRU - リンクされたレポートオブジェクトのユーザ	222
@LVL - 同じレベル	222
MUL - 乗算	223
@OFF - 現在またはオプションの期間のオフセット	224
@RNG と使用する@OFF	225
@OTA - Hyperion OnTrack アクション	225
@OTA テキストメモ	226
@OTA グラフィックメモ	226
@OTA 調査メモ	227
@OTA 起動メモ	228
@PAR - 親	228
PBE - 差異率の評価	229
PCH - 差異率	230
PCR - 構成比	230
PCT - 比率（パーセント表示）	232
@PDES - 部分的説明	232
@PLAB - 部分的ディメンション ID	233
@PSF - 連結ステータス	234
RAT - 比率	234
REPORT - パッケージ内のレポート	235

RND - 四捨五入	235
@RNG - 範囲	236
@RPD - 現在のレポートディレクトリ	237
@SCALE - 現在のエンティティの単位	238
@SED - セットの説明	238
@SET - セット名	239
@SIB - 兄弟	239
@SLA - 左側にあるすべての兄弟	240
@SLF - 左側にある最初の兄弟	241
@SRA - 右側にあるすべての兄弟	241
@SRF - 右側にある最初の兄弟	242
@SRN - サーバ名	243
@START - 開始期間	243
@SUB - サブ勘定科目	244
SUM - 合計	245
@TIM - 現在の時刻	245
@TMCODE - 換算ロジックコード	246
@TOD - 現在の日付	247
@TOP - 最上位メンバ	247
UNTIL - 範囲の終わり	248
@USR - ユーザ ID	249
@VWD - ビューの説明	249
@VWL - ビュー ID	250
WITHSUB - With サブ勘定科目	250
WITHSUB1 - 第 1 レベルサブ勘定科目	251
@WLD - ワイルドカード	252

この章にある Hyperion Essbase の例は、Hyperion Essbase デモアプリケーションを基にしています。

ABS - 絶対値

財務計算関数 ABS によって式の絶対値が生成されます。例えば、式の結果が-1 である場合は、結果の絶対値は 1 です。ABS 関数を使用すると、差異を正の数値として記録できます。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を列または行に貼り付けた場合は、データ計算式を表示すると、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

次の計算式は、列 2 と列 1 の差異を正の数として示す列に表示されます。

`ABS([2]-[1])`

次の計算式は、2 つのエンティティの現在の勘定科目値の差異を正の数として示す行に表示されます。

`ABS([ENT DIAMOND] - [ENT JUNIPER])`

関数

ABS 関数は次の書式で表示されます。

ABS(Value)

ここで、Value は数式です。数式には勘定科目 ID を使用できます。また、計算記号を使用して他の列や行を数値で参照することもできます。

注： ABS 関数を選択すると、デフォルトではデータ計算式が列または行の見出しとして表示されますが、計算式バーの編集ボックスか [計算式の編集] ダイアログボックスに別の見出しを入力することもできます。

@ACODE - 勘定科目コード

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@ACODE では、勘定科目をグループ化するために Hyperion Enterprise で定義できるコードが生成されます。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、フッター用に次の計算式を作成します。

Account Group: @ACODE

現在の勘定科目コードが T-FR の場合は、レポートを実行すると次のフッターが生成されます。

Account Group: T-FR

関数

@ACODE 関数は次の形式で表示されます。

[Before] @ACODE [After]

変数	説明
Before	勘定科目コードの前に表示されるテキスト。
After	勘定科目コードの後に表示されるテキスト。

@ALL - すべて

@ALL 関数では、エンティティまたは親のすべての子孫か、勘定科目のすべてのサブ勘定科目、第 1 レベルのサブ勘定科目、または第 2 レベルのサブ勘定科目に対応する列または行が作成されます。この関数は、[編集] メニューか計算式バー

のボタンで関数ロジックを使用してエンティティ、勘定科目、親などを割り当てる場合に選択できます。

[計算式の編集] ダイアログボックスで@ALLを見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示した場合に、計算式バーにこの関数が表示されます。

注： 親ディメンションは Hyperion Enterprise でサポートされています。

Hyperion Enterprise の例

次の計算式では、現在のエンティティの下にあるすべてのエンティティのデータが表示されます。

ENT @ALL

次の計算式では、勘定科目 C1SALES の下にあるすべてのサブ勘定科目の列や行が作成されます。

ACC @ALL(C1SALES)

次の計算式では、現在の勘定科目の第 1 レベルのサブ勘定科目の列や行が INTERCO サブ勘定科目表から作成されます。

SUBACC1 @ALL(TABLE INTERCO)

Hyperion Essbase の例

次の計算式では、現在のエンティティの下にあるすべての子孫エンティティのデータが表示されます。

ENTITY @ALL

次の計算式では、勘定科目 C1SALES の下にあるすべての子孫の列や行が作成されます。

ACCOUNT @ALL(C1SALES)

関数

@ALL 関数は次の書式で表示されます。

Keyword or Dimension @ALL

次の書式では、dimension の現在のデータの視点のメンバの子孫が取得されます。

Keyword or Dimension @ALL(ID)

この書式では、Dimension の ID の子孫が取得されます。

変数	説明
Keyword or Dimension	Hyperion Enterprise ではディメンションのキーワード、Hyperion Essbase ではディメンション名。
ID	指定したディメンションの現在の設定を上書きする ID。

@ALT - 現在のエイリアステーブル

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

テキスト関数@ALT を使用すると、現在のエイリアステーブル名を取得できます。
[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。
[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、現在のエイリアステーブルの名前が「La Table Francais」で、見出し計算式に@ALT 関数を適用すると、見出しに「La Table Francais」と表示されます。

注： エイリアステーブル名は、新しいエイリアステーブルを指定するまでは REPENG.INI ファイルの「デフォルト」に初期設定されています。エイリアステーブルについて詳しくは、『Arbor Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

関数

@ALT 関数は次の書式で表示されます。

@ALT

@AMCODE - チャートロジックコード

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@AMCODE では、ロジックをグループ化するために Hyperion Enterprise で定義できるコードが生成されます。
[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。
[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、フッター用に次の計算式を作成します。

Chart Method: @AMCODE

現在のチャートロジックのコードが FR-ELIM であれば、レポートを実行したとき、この式によって次のフッターが生成されます。

Chart Method: FR-ELIM

関数

@AMCODE 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @AMCODE [After]

変数	説明
Before	チャートロジックコードより前に表示されるテキスト。
After	チャートロジックコードより後に表示されるテキスト。

@ANC - すべての祖先メンバ

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

@ANC 関数によって、指定したメンバまたは現在のメンバより上位の祖先が取得されます。これは Field と View 以外のすべてのディメンションでサポートされています。この関数は、必要なパラメータがメンバー一覧である別の関数のパラメータとして使用できます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。例えば、次のステートメントは Market、East、Central、West を取得します。

Market @ANC

次のステートメントは Year を取得します。

Period @ANC(QTR4)

関数

関数@ANC は次の書式で表示されます。

Dimension @ANC

これは、Dimension の現在の視点のメンバの上位にある祖先を取得します。

Dimension @ANC(mbrName)

これは、Dimension の mbrName の上位の祖先を取得します。

変数	説明
Dimension	ディメンション名。
mbrName	指定したメンバ。

@APD - アプリケーションの説明

テキスト関数@APD は見出しに現在のアプリケーションの説明を取り込みます。
[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をレポートのヘッダーとフッターに貼り付けることができます。

例えば、行見出し用に次の計算式を作成します。

Totals for @APD

現在のアプリケーションが HQ の場合は、レポートを実行すると次の見出しが生成されます。

Totals for Headquarters

関数

@APD 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @APD [After]

変数	説明
Before	現在のアプリケーションの説明より前に表示されるテキスト。
After	現在のアプリケーションの説明より後に表示されるテキスト。

@APN - アプリケーション名

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

テキスト関数@APN を使用すると、見出しに Hyperion Essbase のアプリケーション名が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示した場合に、計算式バーにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をレポートのヘッダーとフッターに貼り付けることができます。

関数

@APN 関数は次の書式で表示されます。

@APN

@APP - アプリケーション ID

テキスト関数@APP を使用すると、現在のアプリケーション ID が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示した場合に、計算式バーにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をレポートのヘッダーとフッターに貼り付けることができます。

例えば、フッター用に次の計算式を作成します。

Totals for @APP

現在のアプリケーション ID が「Headquarters」の場合は、レポートを実行すると次のフッターが生成されます。

Totals for Headquarters

関数

@APP 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @APP [After]

変数	説明
Before	現在のアプリケーション ID より前に表示されるテキスト。
After	現在のアプリケーション ID より後に表示されるテキスト。

AS - 同じ

AS 関数を使用すると、別の番号の列または行と同じディメンション設定の列または行が作成されます。この関数は、[編集] メニューか計算式バーのボタンで関数ロジックを使用してディメンション設定を指定する場合に選択できます。

例えば、次の計算式では同じエンティティの行が行 15 として作成されます。

ENT AS 15

変更したディメンション設定を AS 関数が参照している場合は、現在の設定が生成されます。例えば、列に次の計算式が表示されるとします。

ENT AS 4

エンティティの変更を挿入すると、どの列に変更が含まれているかに関係なく、現在のエンティティ用の列が設定されます。

関数

AS 関数は次の書式で表示されます。

Keyword or Dimension AS Number

変数	説明
Keyword or Dimension	Hyperion Enterprise ではディメンションのキーワード、Hyperion Essbase ではディメンション名。
Number	レポートの列番号または行番号。

@ASK - Windows ユーザへのプロンプト

@ASK 関数では、レポートを実行したときにディメンション設定のプロンプトが表示されます。この関数は、[編集] メニューか計算式バーのボタンで関数ロジック

クを使用してディメンション設定の割り当てや変更を行う場合に選択できます。この関数を選択すると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、レポートを実行すると、データ種別を1つまたは複数選択するように指示するメッセージが表示されます。

CAT @ASK

関数

@ASK 関数は次の書式で表示されます。

Dimension @ASK

Dimension は任意のディメンションです。

@ASK - Web ユーザへのプロンプト

Hyperion Enterprise Reporting Web では、@ASK 関数を使用すると、report-builder がユーザにプロンプトを表示し、レポートの生成中にユーザがディメンションを選択できるようになります。実行すると [@ASK ディメンション] ダイアログボックスには、特定のディメンションに対し選択されたすべてのディメンションが表示されます。@ASK 機能を使用して生成されたレポートでは、excelrep および printrep 演算がサポートされます。

AVG - 平均 : 概要

財務計算関数 AVG では、列や行のグループの平均値が計算されます。列や行は連続していても連続していなくてもかまいません。[計算式の編集] ダイアログボックスで列または行にこの関数を貼り付けると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、行の次の計算式では、行 1、4、および 7 の平均値が生成されます。

AVG(1,4,7)

列の次の計算式では、列 4 から 12 までの平均値が生成されます。

AVG(4:12)

関数

次の書式の AVG 関数では、指定した列や行が連続しているかどうかに関係なく、その平均値が計算されます。

AVG(First,[...],Last)

変数	説明
First	平均に含まれる最初の行または列。

変数	説明
Last	平均に含まれる最後の行または列。

次の形式の AVG 関数は、連続した列または行の範囲を平均します。

AVG(First:Last)

変数	説明
First	範囲の最初の行または列。
Last	範囲の最後の行または列。

@BAS - 基本レベル

@BAS 関数を使用すると、ディメンションの現在の ID または指定した ID の下の基本レベル ID の列または行が作成されます。この関数は、[編集] メニューか計算式バーで関数ロジックを使用してディメンション ID を割り当てる場合に選択できます。この関数を選択すると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

次の計算式を使用すると、現在のエンティティのすべての最下位の子孫のデータが表示されます。

ENT @BAS

関数

@BAS 関数は次の書式で表示されます。

Keyword or Dimension @BAS

これによって、dimension の現在の視点のメンバの最下位の子が取得されます。

Keyword or Dimension @BAS(ID)

これによって、Dimension の ID の最下位の子が取得されます。

変数	説明
Keyword or Dimension	Hyperion Enterprise ではディメンションのキーワード、Hyperion Essbase ではディメンション名。
ID	指定したディメンションの現在の設定を上書きする ID。

BET - 差異評価

財務計算関数 BET は、2 つの列または行の値の差異を算出し、差異の良否を示します。[計算式の編集] ダイアログボックスで列または行にこの関数を貼り付けると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

指定した値の差異が、完全に指定された現在の勘定科目の勘定科目タイプに基づいて評価されます。収益、フロー、資産、残高の各勘定科目の場合は、正の結果は増加を表すため、結果は正の数として表示されます。費用または負債の勘定科目の場合は、正の結果は減少を表すため、結果は負の数として表示されます。

例えば、次の計算式では、列 1 と 5 の値の差異が評価されて表示されます。

BET(1,5)

関数

BET 関数は次の書式で表示されます。

BET (First, Second)

変数	説明
First	最初の列または行の番号。
Second	2 番目の列または行の番号。

@BOT - レベル 0 のメンバ

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@BOT では、指定したメンバまたは現在のメンバに関連するレベル 0 のすべてのメンバが取得されます。これは Field と View 以外のすべてのディメンションでサポートされています。

この関数は、必要なパラメータがメンバー一覧である別の関数のパラメータとして使用できます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次のステートメントがあるとしします。

@BOT(East)

このステートメントは次のメンバを取得します。

New York, Connecticut, New Jersey

関数

@BOT 関数は次の書式で表示されます。

Dimension @BOT

これによって、Dimension の現在の視点のレベル 0 のメンバが取得されます。

Dimension @BOT(mbrName)

これによって、Dimension の mbrName のレベル 0 のメンバが取得されます。

変数	説明
Dimension	ディメンション名。
mbrName	指定したメンバ。

@BOT(All)

All はレベル 0 のすべてのメンバです。

CELL - 特定のセル値

セル関数は、列と行または反対の列または行で指定されたレポートの特定のセルから、単位の変更されていない数値を取得します。

参照されるセルはプレビュー前にレポートに表示される列と行です。1つの行と列に複数の値が含まれていることもあるため、結果のセルは実際には要約された値の可能性があります。

財務計算関数 CELL では、特定のセルの値がその列と行の番号で示されます。CELL 関数は次のように使用できます。

- DUR や IFT など複数の財務計算関数と一緒に使用する。
- [条件式の編集] オプションで使用するレポート書式の [表示] オプションを指定する。詳しくは、[125 ページの「表示オプションの設定」](#)を参照してください。
- 表示基準ステートメントで使用する。詳しくは、[129 ページの「表示基準の設定」](#)を参照してください。
- 他の関数のない数式で、1つのセルの値を取得して、それを1つまたは複数の他のセルで表示する。詳しくは、[88 ページの「数式」](#)を参照してください。

[計算式の編集] ダイアログボックスで列または行にこの関数を貼り付けると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次の計算式では、列 3、行 2 の値を列 5、行 6 の値で除算して、この行の最初の列の値が作成されます。

```
DUR(1,1,CELL(3,2)/CELL(5,6))
```

次にその例を示します。

```
Row 1 = ACCOUNT EXP1, EXP2  
Col 1 = DAT JAN, FEB
```

コマンド CELL(1,1)は、JAN と FEB の EXP1 と EXP2 の合計です。

1つまたは2つのパラメータを使用する場合

1つ：反対側のレポート軸を表します。

2 つ：最初のパラメータは列、2 番目のパラメータは行を表します。

セル関数にパラメータが 1 つの場合

プレビューに表示される値を評価します。これは、レポートに表示される値を評価するという一般ルール of の例外です。例えば、レポートの 3 行目の次のラインは、列 1 で値が 10 未満の各エンティティを非表示にします。

ENTITY @ALL(CORP) SUPPRESS IF CELL(1)<10

次のようにセル関数で 2 つのパラメータを使用すると、要約された 3 行目が評価され、両方の合計が 10 未満の行がすべて非表示になります。

ENTITY @ALL(CORP) SUPPRESS IF CELL(1,3)<10

関数

CELL 関数は次の書式で表示されます。

CELL(Column,Row)

変数	説明
Column	特定のセルの列番号。
Row	特定のセルの行番号。

CHANGE - ディメンション変更

CHANGE 関数はレポートやパッケージのディメンションの変更にマークを付けます。後ろにキーワードまたはディメンションが続きます。[編集] メニューを使用してディメンションの変更を挿入すると、データ数式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスに CHANGE 関数が表示されます。

例えば、現在のデータ種別が Actual の場合、Hyperion Enterprise では列に次の計算式を使用して現在のデータ種別を Budget に変更します。

CHANGE CAT BUDGET

Hyperion Essbase では列にこの計算式を使用して現在のデータ種別を Budget に変更します。

CHANGE CATEGORY BUDGET

次の列に別のデータ種別を挿入しない限り、レポートの以降の列すべてに Budget データ種別が使用されます。但し、最初のデータ種別変更の前にデータ種別を指定していない場合は、どの列にもデフォルトとして Actual が使用されます。

関数

CHANGE 関数は次の書式で表示されます。

変数	説明
Keyword or Dimension	Hyperion Enterprise ではディメンションのキーワード、Hyperion Essbase ではディメンション名。
ID	指定したディメンションの ID。

@CHART - チャートロジック展開

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

@CHART 関数では、チャートロジックまたは入力ロジックに基づいて算出勘定を展開して、計算の詳細が表示されます。この関数を選択するのは、[編集] メニューまたは計算式バーのボタンを使用して関数方式で勘定科目を割り当てる場合です。この関数を選択すると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次の計算式では、Net Sales 勘定科目の計算詳細が含まれた列または行が生成されます。

ACC @CHART (NETSALES)

チャートロジックまたは入力ロジックで Total Sales 値から Cost of Goods Sold を差し引いて Net Sales 勘定科目を計算した場合は、Net Sales を展開すると Total Sales と Cost of Goods Sold の値が表示されます。

次の表に、@CHART 関数で展開される 4 種類のチャートロジックまたは計算式を示します。

表 42 @CHART 関数で展開されるロジックまたは計算式の種類

ロジックまたは計算式の種類	説明
<サブ勘定科目の合計>	勘定科目@SUB に相当。
SUB(#acc)	#acc と現在の勘定科目の間にあるすべての勘定科目。
SUM(#acc1, #acc2)	#acc1 から #acc2 までの勘定科目。
TOT	グループ内の最初の勘定科目から現在の勘定科目までのすべての勘定科目。

関数

@CHART 関数は次の書式で表示されます。

ACC @CHART [(ID)]

ここで、ID は、勘定科目 ID です。勘定科目 ID を指定しなければ、現在の勘定科目が使用されます。

CHG - 差異計算

財務計算関数 CHG では、2 つの行または列の値の差異が計算されます。[計算式の編集] ダイアログボックスで列または行にこの関数を貼り付けると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次の計算式では列 1 と列 3 の値の差異が計算されます。

CHG(1,3)

関数

CHG 関数は次の書式で表示されます。

CHG(First,Second)

変数	説明
First	計算する最初の列または行の番号。
Second	計算する 2 番目の列または行の番号。

@CHL - 子

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@CHL では、指定したメンバまたは現在のメンバの子が取得されます。これは Field と View 以外のすべてのディメンションでサポートされています。この関数は、必要なパラメータがメンバー一覧である別の関数のパラメータとして使用できます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次のステートメントは現在のデータの視点の Market ディメンションの子を取得します。

Market @CHL

次のステートメントでは、Margin 勘定科目の子が取得されます。

Account @CHL(Margin)

注： @DEP と@CHL は、Hyperion Essbase では同様に機能します。

関数

@CHL 関数は次の書式で表示されます。

Dimension @CHL

これは dimension の現在の視点のメンバの子を取得します。

Dimension @CHL(mbrName)

これは dimension の mbrName の子を取得します。

変数	説明
Dimension	ディメンション名。
mbrName	指定したメンバ。

@CMCODE - 連結ロジックのコード

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@CMCODE では、ロジックをグループ化するために Hyperion Enterprise で定義できるコードが生成されます。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、フッター用に次の計算式を作成します。

Consolidation Method: @AMCODE

現在の連結ロジックコードが FR-ELIM の場合は、レポートを実行すると次のフッターが生成されます。

Consolidation Method: FR-ELIM

関数

@CMCODE 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @CMCODE [After]

変数	説明
Before	連結ロジックコードより前に表示されるテキスト。
After	連結ロジックコードより後に表示されるテキスト。

@CMO - 現在のデータ種別の期間番号

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

@CMO 関数では、現在の視点の期間との関係に基づいて期間の行または列が作成されます。この関数は、[編集] メニューか期間計算式バーのボタンで関数ロジックを使用して期間の割り当てや変更を行う場合に使用できます。この関数を選択すると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次の計算式では、現在の視点の期間より 6 期前から 1 年を引いた期間の行が作成されます。

```
DAT @CMO-6 -1Y
```

次の計算式では、現在の視点の期間の 5 期後の行が作成されます。

```
DAT @CMO+5
```

期間が一致しないデータ種別で@CMO 関数を指定した場合は、レポート内のデータ種別の相当する期間のデータが取得されます。例えば、現在の期間が 1999 年 5 月で、1999 年 5 月は現在のデータ種別の最初の期間であるとしします。前期のデータ種別で@CMO 関数を使用した場合は、前期の最初の期間が 2002 年 2 月であれば、2002 年 2 月のデータが取得されます。

@CMO は演算子や数値なしで使用して、視点バーの今期の行や列を定義できます。例えば、次の計算式では視点バーの今期の行が作成されます。

```
DAT @CMO
```

関数

@CMO 関数は次の書式で表示されます。

```
DAT @CMO{[Operator][Number]}.{[Operator][Number] [Y]}
```

変数	説明
Operator	マイナス記号 (-) は現在のデータの視点の期間や年の前の期間や年を示し、プラス記号 (+) は現在のデータの視点の期間や年の後の期間や年を示します。
Number	現在のデータの視点の期間の前または後の期間数。
Number	現在のデータの視点の年の前または後の年数。
Y	年+または-を表す番号を示す ID。

@CON - サマリ ID

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

@CON 関数は、ENT キーワードとともに使用して、現在のエンティティまたは指定したエンティティや親の下位にある親の列または行を作成します。この関数は、[編集] メニューか [エンティティ] 計算式バーのボタンで関数ロジックを使用してエンティティを割り当てる場合に使用できます。この関数を選択すると、デー

タ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

注： 親ディメンションは Hyperion Enterprise でサポートされています。

次の計算式では、現在のエンティティの下位にあるすべての連結エンティティの列または行が作成されます。

ENT @CON

次の計算式では、Diamond Business Papers エンティティの下位にあるすべての連結エンティティの列または行が作成されます。

ENT @CON(DIAMOND)

関数

@CON 関数は次の書式で表示されます。

Keyword @CON [(ID)]

ここで、Keyword はディメンションのキーワードです。

CPN - 現在の期間番号

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

財務計算関数 CPN では、計算式で使用する今期の番号が取得されます。CPN 関数は、月の平均を示すのに便利です。[計算式の編集] ダイアログボックスで列または行にこの関数を貼り付けると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

注： 計算された行と列の見出しを入力する必要があります。

例えば、次の計算式では、PLSALES 勘定科目の累計売上を今期の番号で割って、毎月の平均が表示されます。

[ACC PLSALES] / CPN

関数

CPN 関数は次の書式で表示されます。

CPN

この関数では、今期の番号が取得されます。パラメータは使用しません。

@CUR - 現在のディメンション設定

@CUR 関数は、キーワードやディメンションとともに使用して、指定したディメンションの現在の値の列または行を作成します。この関数は、[編集]メニューから計算式バーのボタンで関数ロジックを使用してディメンションを割り当てる場合に選択できます。この関数を選択すると、タイトル計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

Hyperion Enterprise の例

現在のデータ種別が Budget の場合は、次の計算式によって Budget データ種別の値が列または行に作成されます。

CAT @CUR

Hyperion Essbase の例

現在のデータ種別が Actual の場合は、次の計算式によって Actual データ種別の値が Hyperion Essbase の列または行に作成されます。

CATEGORY @CUR

関数

@CUR 関数は次の書式で表示されます。

Keyword or Dimension @CUR

変数	説明
Keyword	Hyperion Enterprise のディメンションのキーワード。
Dimension	Hyperion Essbase での名前。

@CUR を DAT キーワードとともに使用すると、次の書式を使用して今期や年のオフセットを指定できます。

DAT @CUR[[Operator][Number]][[Operator][Number][Y]]

変数	説明
Operator	今期や年より後のオフセットにはプラス記号 (+)、今期や年より前のオフセットにはマイナス記号 (-)。このオプションは Hyperion Enterprise のみでサポートされています。
Number	オフセットの期間数。このオプションは Hyperion Enterprise のみでサポートされています。
Number	オフセットの年の番号。このオプションは Hyperion Enterprise のみでサポートされています。
Y	年+または-を表す番号を示す ID。

視点が 2001 年 7 月に設定されている場合は、次の計算式で 2000 年の 3 月が取得されます。4 か月戻ってから 1 年戻ります。

DAT @CUR -4 -1Y

注： DAT@CUR では、DAT キーワードの現在の値との関係に基づいて期間のデータが取得されます。@CMO 関数では、現在の視点の期間との関係に基づいて期間のデータが取得されます。

@CURCY - 通貨テキスト

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@CURCY では、通貨の記号、説明、または ID が生成されます。

次の表に、@CURCY 関数でどの通貨を使用してテキストが生成されるかを示します。

表 43 @CURCY と通貨

設定	通貨
視点の通貨が NONE ではない	データの視点の通貨。
視点の通貨が NONE で、視点の連結詳細が NONE ではない	データの視点のエンティティの親の通貨。
視点の通貨が NONE で、視点の連結詳細が NONE である	データの視点のエンティティの通貨。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、レポートのヘッダー用に次の計算式を作成します。

Total Sales in @CURCY(SHORT)

視点の通貨または視点の連結詳細がなく、現在のエンティティの通貨が米ドルの場合は、レポートを実行すると次のヘッダーが表示されます。

Total Sales in USD

関数

@CURCY 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @CURCY(Text) [After]

変数	説明
Before	現在の通貨の記号、説明、ID より前に表示されるテキスト。
Text	通貨の ID を生成するには SHORT、通貨の説明を生成するには LONG、通貨の記号を生成するには SYMBOL。
After	現在の通貨の記号、説明、ID より後に表示されるテキスト。

日付マスク

次の表に、日付マスクに使用できるコードを示します。

表 44 日付マスクのコード

コード	例	結果
SHORT	JAN、Q1	略語で表す期間 ID。
LONG	January、First Quarter	略語を使わない期間 ID。
yy	01, 02	2 桁で表した年度。
yyyy	2001, 2002	4 桁で表した年度。
m	1, 2, 10	1 桁または 2 桁の数字で表した月。
mm	01, 02, 10	2 桁の数字で表した期間番号
d	1, 2, 23	1 桁または 2 桁の数字で表した日付。
dd	01, 02, 23	2 桁の数字で表した日付。
ddd	Tue, Fri	アルファベット 3 文字で表した曜日の略語。
dddd	Tuesday、Friday	略語を使わない曜日。

注： Hyperion Enterprise では、テキスト関数@DAT と@TOD で使用する日付マスクを選択できます。

日付マスクはコードを使用して、さまざまな方法で期間、月、曜日、年度などを表します。テキスト関数@DAT と@TOD で使用する日付マスクを選択できます。

日付マスクは、計算式に期間 ID や説明を貼り付けるときに選択し、計算式バーの編集ボックスでカスタマイズできます。日付マスクコードを組み合わせ、かっこで囲んで日付をさまざまな書式で表します。日付マスクを指定しなかった場合は、期間 ID を略語で表すマスク SHORTyy の後に、年度の最後の 2 桁の数字が続きます。

次の表に、@DAT 関数と@TOD 関数で使用するマスクの組み合わせ例を示します。

表 45 @DAT と@TOD の日付マスクの組み合わせ

コード	結果
SHORT yy	JAN 02
yy	02
FULL yyyy	JANUARY 2002
mm/yy	01/02
SHORT, yyyy	JAN, 2002

@DAT - 期間の説明

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@DAT では、今期のカスタムの説明が生成されます。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

次の表に、@DAT 関数で作成可能な計算式の例と 2001 年 12 月期の生成結果を示します。

表 46 @DAT 計算式の例

計算式	結果
@DAT	DEC 01
@DAT (SHORT)	DEC
@DAT (SHORT yyyy)	DEC 2001
@DAT (FULL yy)	December 01
@DAT (FULL yyyy)	December 2001

関数

@DAT 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @DAT [(Mask)] [After]

変数	説明
Before	期間の説明より前に表示されるテキスト。
Mask	任意の日付マスク。

変数	説明
After	期間の説明より後に表示されるテキスト。

@DEP - 直下の ID

@DEP 関数では、現在のエンティティまたは指定したエンティティまたは親のすべての子孫の列や行を作成します。この関数は「編集」メニューか計算式バーの「エンティティ」ボタンを使用するときに選択できます。この関数を選択すると、タイトル計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

注： 親ディメンションは Hyperion Enterprise でサポートされています。

Hyperion Enterprise の例

次の計算式では、Hyperion Enterprise で現在のエンティティの直属の子孫すべてのデータが表示されます。

ENT @DEP

Hyperion Essbase の例

次の計算式では、Hyperion Essbase で現在のエンティティの真下の子孫すべてのデータが表示されます。

ENTITY @DEP

注： @DEP と@CHL は、Hyperion Essbase では同様に機能します。

関数

@DEP 関数は次の書式で表示されます。

Keyword or Dimension @DEP

これは dimension の現在の視点のメンバの子を取得します。

Keyword or Dimension @DEP(ID)

これは Dimension の ID の子を取得します。

変数	説明
Keyword or Dimension	Hyperion Enterprise ではキーワード ENT、Hyperion Essbase ではディメンション名。
ID	指定したディメンションの現在の設定を上書きする ID。ID を指定しなかった場合は、@DEP 関数によってディメンションの現在の ID の直下の ID すべてが割り当てられます。

@DES - ディメンションの説明

テキスト関数@DESでは、ディメンションの説明が表示されます。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

デフォルトでは、@DES 関数は行見出しに、@LAB 関数は列見出しに使用されます。@DES 関数で見出しにディメンションを指定すると、それらのディメンションのみの説明を生成できます。ディメンションを指定しなかった場合は、選択した列や行に割り当てられているすべてのディメンションの説明が見出しに表示されます。

例えば Hyperion Enterprise では、列にデータ種別と期間を割り当て、その見出しにこの計算式を使用すると、データ種別の説明のみが見出しに表示されます。

@DES (CAT)

例えば Hyperion Essbase では、列にデータ種別と期間を割り当て、その見出しにこの計算式を使用すると、データ種別の説明のみが見出しに表示されます。

@DES (CATEGORY)

関数

@DES 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @DES[(Keyword or Dimension)][After]

変数	説明
Before	ディメンションの説明の前に表示するテキスト。
Keyword or Dimension	Hyperion Enterprise ではディメンションのキーワード、Hyperion Essbase ではディメンション名。
After	ディメンションの説明の後に表示するテキスト。

@DSC - 子孫メンバ

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@DSCは、指定したメンバまたは現在のメンバの子孫を取得します。これはField以外のすべてのディメンションでサポートされています。この関数は、そのパラメータがメンバー一覧である別の関数のパラメータとしても使用できます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、ステートメント

Market @DSC(“East”)

では、Market ディメンションの East メンバの子孫が取得されます。

New York, Albany, New York City, Buffalo, Syracuse, Massachusetts,
Boston, Springfield, Worcester, Brockton

次のステートメント

Market @DSC

では、視点で設定された Market ディメンションメンバの子孫が取得されます。

New York, Albany, New York City, Buffalo, Syracuse, Massachusetts,
Boston, Springfield, Worcester, Brockton, California, Oregon,
Washington, Utah, Nevada, Texas, Oklahoma, Louisiana, New Mexico,
Illinois, Ohio, Wisconsin, Missouri, Iowa, Colorado

関数

関数@DSC は次の書式で表示されます。

Dimension @DSC

これは dimension の現在の視点のメンバの子孫を取得します。

Dimension @DSC(mbrName)

これは Dimension の mbrName の子孫を取得します。

変数	説明
Dimension	ディメンション名。
mbrName	単一のメンバ指定。

DUR - 指定値

財務計算関数 DUR は、列または行の範囲で指定された値や数式を表示します。列の計算式では、行の範囲の値を示します。行の計算式では、列の範囲の値を示します。[計算式の編集] ダイアログボックスで列または行にこの関数を貼り付けると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

注： 計算された行と列の見出しを入力する必要があります。

DUR 関数に続く数式に勘定科目や計算記号を含めることができます。1 つの数式に複数の DUR 関数をプラス記号 (+) で区切って含めることができます。DUR 関数を CELL 関数と一緒に使用すると、レポートの値に計算を実行できます。

次の行の計算式は、列 6 ～ 12 の値 378 を示しています。

DUR(6,12,378)

次の行の計算式は、Sales 勘定科目の現在の値の 3 倍ある列 6 ～ 12 の値を示しています。

`DUR(6,12,[ACC SALES]*3)`

次の計算式では、最初の列と 2 番目の列に値 296 が表示され、列 3 ～ 10 に Sales の値の半分に相当する値が表示されます。

`DUR(1,2,296) + DUR(3,10,[ACC SALES]/2)`

次の計算式では、列 3、行 2 の値を列 5、行 6 の値で除算した値が計算されて、この行の最初の列の値が作成されます。

`DUR(1,1,CELL(3,2)/CELL(5,6))`

関数

DUR 関数は次の形式で表示されます。

`DUR(First,Last,Value)`

変数	説明
First	範囲の最初の行または列の番号。
Last	範囲の最後の行または列の番号。
Value	表示する値または数式。

@ECODE - エンティティコード

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@ECODE では、エンティティをグループ化するために Hyperion Enterprise で定義できるコードが生成されます。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、フッター用に次の計算式を作成します。

Entity Group: @ECODE

現在のエンティティコードが FRS の場合は、レポートを実行すると次のフッターが生成されます。

Entity Group: FRS

関数

@ECODE 関数は次の書式で表示されます。

[[Before] @ECODE [After]

変数	説明
Before	エンティティコードの前に表示されるテキスト。
After	エンティティコードの後に表示されるテキスト。

@END - 最後の ID

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

@END 関数では、現在の終了期間または終了期間の期間オフセット、またはディメンションの最後の ID の行または列が作成されます。この関数は、[編集] メニューか期間計算式バーのボタンで関数ロジックを使用してディメンションを割り当てる場合に選択します。この関数を選択すると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

次の計算式では最後のデータ種別のデータが取得されます。

CAT @END

次の計算式では現在のエンティティの最終期間のデータが取得されます。

DAT @END

現在のエンティティの終了期間が 2001 年 12 月の場合は、次の計算式で 2000 年 12 月のデータが取得されます。

DAT @END-12

関数

@END 関数は次の書式で表示されます。

Keyword @END[Operator][Number]

変数	説明
Keyword	ディメンションのキーワード。
Operator	ディメンションが期間の場合は、終了期間より前のオフセットにマイナス記号 (-)。このオプションは Hyperion Enterprise のみでサポートされています。
Number	ディメンションがオフセットする期間の場合は、オフセットの期間数。このオプションは Hyperion Enterprise のみでサポートされています。

@ENT - 親としてのエンティティ

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

@ENT 関数は PAR キーワードとともに使用して、現在のエンティティを親として使用する列または行を作成します。例えば、Diamond Business Papers が現在のエンティティの場合は、@ENT 関数を使用して、Diamond Business Papers を親として列または行を作成します。この関数は、[編集] メニューか親計算式バーのボタンで関数ロジックを使用して親を割り当てる場合に選択します。この関数を選択すると、タイトル計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、現在のエンティティが Europe の場合は、この計算式によって Europe を親とする列または行が作成されます。

PAR @ENT

関数

@ENT 関数は次の書式で表示されます。

PAR @ENT

@FIRST - 最初のサブ勘定科目

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

@FIRST 関数は、現在の勘定科目または指定した勘定科目に割り当てられているサブ勘定科目テーブルの最初のサブ勘定科目を指定します。この関数は、[編集] メニューか勘定科目計算式バーのボタンで範囲ロジックを使用して勘定科目を割り当てる場合に選択します。この関数を選択すると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

注： レポートをコンパイルすると、@FIRST 関数で指定された勘定科目やサブ勘定科目はすべてハードコードされます。サブ勘定科目テーブルが変更された場合は、レポートを再コンパイルする必要があります。

例えば、次の計算式では、現在の視点の勘定科目に割り当てられているサブ勘定科目テーブルに、すべてのサブ勘定科目の列や行が作成されます。

ACC @FIRST UNTIL @LAST

関数

@FIRST 関数は次の書式で表示されます。

ACC FROM @FIRST[(Account1)] UNTIL Last [(Accountn)]

変数	説明
Account1	範囲で最初のサブ勘定科目の主要勘定科目。

変数	説明
Last	範囲の最後のサブ勘定科目の ID。
Accountn	範囲で最後のサブ勘定科目の主要勘定科目。

@FLN - ファイル名

テキスト関数@FLN はアクティブなレポートのファイル名を生成します。@FLN 関数はヘッダーとフッターでレポートファイルを識別するときに便利です。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

注： ファイル名は、レポートを保存した場合にのみ出力に表示されます。

@FLN 関数はヘッダーとフッターでレポートファイルを識別するときに便利です。例えば、フッター用に次の計算式を作成します。

Report File: @FLN

アクティブなレポートのファイル名が REGPL の場合は、レポートを実行すると次のフッターが生成されます。

Report File: REGPL

関数

@FLN 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @FLN [After]

変数	説明
Before	アクティブなレポートのファイル名の前に表示するテキスト。
After	アクティブなレポートのファイル名の後に表示するテキスト。

@FLT - ファイルタイトル

テキスト関数@FLT では、アクティブなレポートのタイトルが生成されます。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

注： タイトルはレポートを保存した場合にのみ出力に表示されます。

@FLT 関数はヘッダーとフッターでレポートを識別するときに便利です。例えば、フッター用に次の計算式を作成します。

Report File: @FLT

アクティブなレポートのファイルタイトルが「Western Region: Third Quarter」の場合は、レポートを実行すると次のフッターが生成されます。

Report File: Western Region: Third Quarter

関数

@FLT 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @FLT [After]

変数	説明
Before	アクティブなレポートのタイトルの前に表示するテキスト。
After	アクティブなレポートのタイトルの後に表示するテキスト。

FOR - セクション For

FOR 関数では、レポートやパッケージのセクションの開始がマークされます。後ろにキーワードまたはディメンションが続きます。[編集] メニューを使用してレポートまたはブックのセクションを挿入すると、計算式を表示した場合に、FOR 関数が計算式バーの編集ボックスに表示されます。

例えば、次の計算式では、Diamond Business Papers、Evergreen Paper Company、Juniper Paper Company の各エンティティの列または行のセクションが作成されます。

FOR ENT DIAMOND, EVERGREEN, JUNIPER

例えば、次の計算式では、Diamond Business Papers、Evergreen Paper Company、Juniper Paper Company の各エンティティの列または行のセクションが作成されます。

FOR ENTITY DIAMOND, EVERGREEN, JUNIPER

関数

FOR 関数は次の形式で表示されます。

FOR Keyword or Dimension ID1,[...] IDn

変数	説明
Keyword or Dimension	Hyperion Enterprise ではディメンションのキーワード、Hyperion Essbase ではディメンション名。
ID1	セクションの最初のディメンション ID。

変数	説明
IDn	セクションの最後のディメンション ID。

@FRD - 期間単位の説明

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@FRD では、現在の期間単位の説明が生成されます。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、列見出し用に次の計算式を作成します。

@FRD 平均

現在の期間単位が月次の場合は、レポートを実行すると次の列見出しが生成されます。

Monthly Average

関数

@FRD 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @FRD [After]

変数	説明
Before	現在の期間単位の説明の前に表示するテキスト。
After	現在の期間単位の説明の後に表示するテキスト。

@FRL - 期間単位 ID

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@FRL では、現在の期間単位の ID が生成されます。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、列見出し用に次の計算式を作成します。

@FRL 平均

現在の期間単位 ID が Q の場合は、レポートを実行すると次の列見出しが生成されます。

Q Average

関数

@FRL 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @FRL [After]

変数	説明
Before	現在の期間単位 ID の前に表示するテキスト。
After	現在の期間単位 ID の後に表示するテキスト。

FROM - 範囲の開始

FROM 関数では、ディメンション ID の範囲の開始がマークされます。

注： @RNG 関数では、FROM 関数と UNTIL 関数が置換されますが、FROM 関数と UNTIL 関数は計算式バーでサポートされています。@RNG 関数について詳しくは、[236 ページの「@RNG - 範囲」](#)を参照してください。

次の計算式では、2002 年 1 月に開始して 2002 年 6 月に終了する期間の連続した列または行が作成されます。

DAT FROM JAN02 UNTIL JUN02

次の計算式では、2000 年 1 月に開始して 2000 年 6 月に終了する期間の連続した列または行が作成されます。

DATES FROM JAN00 UNTIL JUN00

関数

FROM 関数は次の形式で表示されます。

Keyword or Dimension FROM First UNTIL Last

変数	説明
Keyword or Dimension	Hyperion Enterprise ではキーワード ACC または DAT、Hyperion Essbase ではディメンション名。
First	範囲の最初の勘定科目または期間の ID。
Last	範囲の最後の勘定科目または期間の ID。

@GEN - 同じ世代

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@GEN では、指定したメンバまたは現在のメンバの世代のメンバすべてが取得されます。@GEN は Field と View 以外のすべてのディメンションでサポートされています。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次のステートメント

@GEN(QTR3)

では、次のデータが取得されます。

Qtr1
Qtr2
Qtr3
Qtr4

関数

@GEN 関数は次の書式で表示されます。

Dimension @GEN

これは dimension の現在の視点のメンバの子を取得します。

Dimension @GEN(mbrName)

これは dimension の mbrName の子を取得します。

変数	説明
Dimension	ディメンション名。
mbrName	指定したメンバ。

IFT - If Then

財務計算関数 IFT では、数式の結果が負かゼロか正かによって、レポートのデータセクションに特定の値またはテキストが表示されます。[計算式の編集] ダイアログボックスで列または行にこの関数を貼り付けると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

注： 結果の行または列にラベルを付ける場合は、タイトル計算式を作成する必要があります。

例えば、次の計算式は、単語 Loss of Sales マイナス Cost of Sales の結果は負数、差異がゼロの場合は数字の 0、差異が正の場合は Profit という単語を表示します。

IFT(SALES-COS),"Loss",0,"Profit"

IFT を CELL 関数と一緒に使用して、特定のセルを参照することもできます。例えば、次の計算式は、値が負数またはゼロの場合は列 3、行 2 の値、値が正数の場合はゼロを示します。

IFT(CELL(3,2),CELL(3,2),CELL(3,2),0)

関数

IFT 関数は次の形式で表示されます。

IFT(Test,Negative,Zero,Positive)

変数	説明
Test	評価する結果を生成する数式。
Negative	Test 数式の結果が負の場合に表示される値またはテキスト。
Zero	Test 数式の結果がゼロの場合に表示される値またはテキスト。
Positive	Test 数式の結果が正の場合に表示される値またはテキスト。

注： IFT 関数を使用して結果のテキストを表示する場合は、テキストを二重引用符 (") で囲む必要があります。この引用符はレポートの出力には印刷されません。

@IND - インデント

テキスト関数@IND では、世代番号に基づいてテキストがインデントされます。これは Field と View 以外のすべてのディメンションでサポートされています。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

関数

テキスト関数@IND は次の書式で表示されます。

@IND(Dimension[,Num Spaces[,Gen Offset]])

変数	説明
Dimension	ディメンション名。(必須)。
Num Spaces	インデントするスペースの数 (デフォルトは列に 1、行に 5)。
Gen Offset	テキストが世代番号からオフセットするスペースの量 (デフォルトは 0)。

@LAB - ディメンション ID

テキスト関数@LAB では、ディメンションの ID が表示されます。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

デフォルトでは、@LAB 関数は列見出しに、@DES 関数は行見出しに使用されます。@LAB 関数で見出しにディメンションを指定すると、それらのディメンションのみの ID を生成できます。ディメンションを指定しなければ、選択した列または行に割り当てられているすべてのディメンションの ID が見出しに表示されます。

例えば Hyperion Enterprise では、列にデータ種別と期間を割り当て、その見出しにこの計算式を使用すると、データ種別の ID のみが見出しに表示されます。

@LAB (CAT)

例えば Hyperion Essbase では、列にデータ種別と期間を割り当て、その見出しにこの計算式を使用すると、データ種別の ID のみが見出しに表示されます。

@LAB (CATEGORY)

関数

@LAB 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @LAB[(Keyword or Dimension)][After]

変数	説明
Before	ディメンションの ID の前に表示するテキスト。
Keyword or Dimension	Hyperion Enterprise ではディメンションのキーワード、Hyperion Essbase ではディメンション名。
After	ディメンションの ID の後に表示するテキスト。

@LAD - 最下位勘定科目の説明

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@LAD では、現在の勘定科目の最下位の説明が生成されます。勘定科目に第 1 レベルと第 2 レベルのサブ勘定科目がある場合は、第 2 レベルのサブ勘定科目の説明が生成されます。勘定科目に第 1 レベルのサブ勘定科目しかない場合は、そのサブ勘定科目の説明が生成されます。勘定科目にサブ勘定科目がない場合は、勘定科目の説明が生成されます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が

表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、行見出し用に次の計算式を作成します。

@LAD

勘定科目 SALES.PAPER.NE の行で、NE サブ勘定科目の説明が Northeast の場合は、次の見出しが生成されます。

Northeast

関数

@LAD 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @LAD[After]

変数	説明
Before	勘定科目の最下位の説明の前に表示するテキスト。
After	勘定科目の最下位の説明の後に表示するテキスト。

@LAL - 最下位勘定科目 ID

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@LAL では、現在の勘定科目の最下位の説明 ID が生成されます。勘定科目に第 1 レベルと第 2 レベルのサブ勘定科目がある場合は、第 2 レベルの勘定科目の ID が生成されます。勘定科目に第 1 レベルのサブ勘定科目しかない場合は、そのサブ勘定科目の ID が生成されます。勘定科目にサブ勘定科目がない場合は、勘定科目の ID が生成されます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、行見出し用に次の計算式を作成します。

@LAL

これにより、勘定科目 SALES.PAPER.NE の行に次の見出しが生成されます。

NE

関数

@LAL 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @LAL[After]

変数	説明
Before	勘定科目の最下位の ID の前に表示するテキスト。
After	勘定科目の最下位の ID の後に表示するテキスト。

@LAST - 最後のサブ勘定科目

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

@LAST 関数では、現在の勘定科目または指定した勘定科目に割り当てられているサブ勘定科目テーブルの最後のサブ勘定科目を指定します。この関数は、[編集]メニューか勘定科目計算式バーのボタンで関数ロジックを使用して勘定科目を割り当てるときに選択します。この関数を選択すると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

注： レポートをコンパイルすると、@Last 関数で指定された勘定科目やサブ勘定科目はすべてハードコードされます。サブ勘定科目テーブルが変更された場合は、レポートを再コンパイルする必要があります。

例えば、次の計算式では、Sales 勘定科目に割り当てられているサブ勘定科目テーブルに、最後のサブ勘定科目の列または行が作成されます。

ACC SALES @LAST

次の計算式では、現在の視点勘定科目に割り当てられているサブ勘定科目テーブルに、すべてのサブ勘定科目の列または行が作成されます。

ACC @FIRST UNTIL @LAST

関数

@LAST 関数は、関数ロジックを使用して勘定科目を割り当てるときに、次の書式で表示されます。

ACC @LAST[(Account)]

ここで、Account は主要勘定科目または第 1 レベルのサブ勘定科目の ID です。勘定科目 ID を指定しなければ、現在の勘定科目が使用されます。

範囲ロジックを使用して@LAST 関数を選択すると、次の書式で表示されます。

ACC FROM First[(Account1)] UNTIL @LAST[(Account2)]

変数	説明
First	@FIRST 関数または範囲の最初のサブ勘定科目の ID。
Account1	最初の主要勘定科目または範囲の最上位サブ勘定科目の ID。勘定科目を指定しなければ、現在のデータの視点の勘定科目が使用されます。

変数	説明
Account2	最初の主要勘定科目または範囲の最上位サブ勘定科目。勘定科目を指定しなければ、現在のデータの視点の勘定科目が使用されます。

LIST - リスト

LIST 関数は、勘定科目一覧の勘定科目またはエンティティ一覧のエンティティの列や行を定義する場合に使用します。指定した勘定科目一覧の各勘定科目またはサブ勘定科目、あるいは指定したエンティティ一覧の各エンティティにつき 1 つの列または行が含まれます。[編集] メニューか計算式バーのボタンでリストロジックを使用して勘定科目やエンティティを割り当てると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスに LIST 関数が表示されます。

LIST 関数と一緒に使用する@ASK 関数を選択すると、ユーザがレポートを実行するときに勘定科目一覧またはエンティティ一覧の選択プロンプトを表示できます。

注： LIST 関数は View と Field 以外のすべての Hyperion Essbase ディメンションに適用されます。

Hyperion Enterprise の例

例えば、次の計算式では、USLIST という勘定科目一覧の各勘定科目の列が作成されます。

ACC LIST USLIST

Hyperion Essbase の例

例えば、次の計算式では、Gen2, Account という勘定科目一覧の各勘定科目の列が作成されます。

ACCOUNT LIST “Gen2, Account”

関数

LIST 関数は計算式バーの編集ボックスに次の書式で表示されます。

Keyword or Dimension LIST List

変数	説明
Keyword or Dimension	Hyperion Enterprise では勘定科目一覧のキーワード ACC またはエンティティ一覧の ENT、Hyperion Essbase ではディメンション名。
List	勘定科目一覧またはエンティティ一覧の名前。

@LOCAL - ローカル見出し

ローカルの見出しをレポートの列や行に割り当てるには、テキスト関数@LOCALを使用します。[編集]メニューを使用してローカルの見出しを割り当てると、見出し計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスに@LOCAL関数が表示されます。

関数

@LOCAL関数は次の書式で表示されます。

@LOCAL(Field,Default)

変数	説明
Field	Hyperion DataExtend で定義されているフィールドの ID。
Default	ローカル見出しが割り当てられていない場合に表示されるテキスト。

@LRC - リンクされたレポートコメント

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@LRC では、リンクされたレポートコメントが取得されます。リンクされたコメントの数、ユーザ、日付など、1 つまたは複数の条件を選んで、特定のコメントを指定できます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

注： @LRC 関数は Field ディメンションでのみサポートされています。

► レポート内にリンクレポートコメントを表示するには、以下の操作を行います。

- 1 Field ディメンションを選択します。
- 2 [関数] パネルを選択します。
- 3 関数リストで [@LRC] をクリックします。
- 4 必要に応じて次の操作を行います。
 - 含めるリンクされたコメントの数を指定するには、[制限] フィールドに数を入力します。例えば、「5」と入力すると、最初の 5 つのリンクされたコメントが取得されます。デフォルトは 1 です。
 - 特定のユーザが作成したコメントを指定するには、[ユーザー] フィールドにユーザ名を入力します。デフォルトはすべてのユーザです。

- 最後に含めるコメントの作成日を指定するには、[日付] フィールドに MM/DD/YYYY の形式で日付を入力します。デフォルトは任意の日付です。

5 [OK] をクリックします。

注： リンクされたレポートオブジェクト関数について詳しくは、[218 ページの「@LRF - リンクされたレポートファイル」](#) および [220 ページの「@LRO - リンクされたレポートオブジェクト」](#) を参照してください。現在リンクされているレポートオブジェクトの情報を取得する方法について詳しくは、[217 ページの「@LRD - リンクされたレポートオブジェクトの変更日」](#)、[219 ページの「@LRI - リンクされたレポートオブジェクトのインデックス」](#)、[221 ページの「@LRT - リンクされたレポートオブジェクトの種類」](#)、および [222 ページの「@LRU - リンクされたレポートオブジェクトのユーザ」](#) を参照してください。

関数

@LRC 関数は計算式バーの編集ボックスに次の書式で表示されます。

@LRC (Limit, User, Date)

変数	説明
Limit	表示するオブジェクトの数。
User	ユーザの名前、全ユーザの場合は空白。指定したユーザのオブジェクトが表示されます。
Date	日付。すべての日付の場合は空白。

@LRD - リンクされたレポートオブジェクトの変更日

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@LRD では、現在リンクされているレポートオブジェクトの変更日が取得されます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

注： @LRD 関数は Field デイメンションでのみサポートされています。

リンクされたレポートオブジェクト関数について詳しくは、[216 ページの「@LRC - リンクされたレポートコメント」](#)、[218 ページの「@LRF - リンクされたレポートファイル」](#)、および [220 ページの「@LRO - リンクされたレポートオブジェクト」](#)

を参照してください。現在リンクされているレポートオブジェクトの情報を取得する方法について詳しくは、[219 ページの「@LRI - リンクされたレポートオブジェクトのインデックス」](#)、[221 ページの「@LRT - リンクされたレポートオブジェクトの種類」](#)、および[222 ページの「@LRU - リンクされたレポートオブジェクトのユーザ」](#)を参照してください。

関数

@LRD 関数は次の書式で表示されます。

@LRD

@LRF - リンクされたレポートファイル

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@LRF では、リンクされたレポートオブジェクトのうちファイルが取得されます。リンクされたファイルの数、ユーザ、日付など、1 つまたは複数の条件を選んで、特定のファイルを指定できます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

注： @LRF 関数は Field ディメンションでのみサポートされています。

- ▶ レポート内にリンクレポートファイルを表示するには、以下の操作を行います。
- 1 Field ディメンションを選択します。
- 2 [関数] パネルを選択します。
- 3 関数一覧で [LRF] をクリックし、下のリストに追加します。
- 4 必要に応じて次の操作を行います。
 - 含めるリンクされたファイルの数を指定するには、[制限] フィールドに数を入力します。例えば、「5」と入力すると、最初の 5 つのファイルが取得されます。デフォルトは 1 です。
 - 特定のユーザが作成したオブジェクトを指定するには、[ユーザー] フィールドにユーザ名を入力します。デフォルトはすべてのユーザです。
 - 最後に含めるオブジェクトの作成日を指定するには、[日付] フィールドに MM/DD/YYYY の形式で日付を入力します。デフォルトは任意の日付です。
- 5 [OK] をクリックします。

注： リンクされたレポートオブジェクト関数について詳しくは、[216 ページの「@LRC - リンクされたレポートコメント」](#) および [220 ページの「@LRO - リンクされたレポートオブジェクト」](#) を参照してください。現在リンクされているレポートオブジェクトの情報を取得する方法について詳しくは、[217 ページの「@LRD - リンクされたレポートオブジェクトの変更日」](#)、[219 ページの「@LRI - リンクされたレポートオブジェクトのインデックス」](#)、[221 ページの「@LRT - リンクされたレポートオブジェクトの種類」](#)、および [222 ページの「@LRU - リンクされたレポートオブジェクトのユーザ」](#) を参照してください。

関数

@LRF 関数は計算式バーの編集ボックスに次の書式で表示されます。

@LRF (Limit, User, Date)

変数	説明
Limit	表示するオブジェクトの数。
User	ユーザの名前、全ユーザの場合は空白。指定したユーザのオブジェクトが表示されます。
Date	日付。すべての日付の場合は空白。

@LRI - リンクされたレポートオブジェクトのインデックス

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@LRI では、現在リンクされているレポートオブジェクトのインデックスが取得されます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

注： @LRI 関数は Field ディメンションでのみサポートされています。

リンクされたレポートオブジェクト関数について詳しくは、[216 ページの「@LRC - リンクされたレポートコメント」](#)、[218 ページの「@LRF - リンクされたレポートファイル」](#)、および [220 ページの「@LRO - リンクされたレポートオブジェクト」](#) を参照してください。現在リンクされているレポートオブジェクトの情報を取得する方法について詳しくは、[217 ページの「@LRD - リンクされたレポートオブジェクトの変更日」](#)、[221 ページの「@LRT - リンクされたレポートオブジェクト](#)

の種類」、および222 ページの「@LRU - リンクされたレポートオブジェクトのユーザ」を参照してください。

関数

@LRI 関数は次の書式で表示されます。

@LRI

@LRO - リンクされたレポートオブジェクト

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@LRO では、ファイルやコメントなど、リンクされたレポートオブジェクトが取得されます。オブジェクトの数、ユーザ、日付など、1 つまたは複数の条件を選んで、特定のオブジェクトを指定できます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

注： @LRO 関数は Field ディメンションでのみサポートされています。

➤ @LRO 関数でレポートオブジェクトをリンクするには、以下の操作を行います。

- 1 Field ディメンションを選択します。
- 2 [関数] パネルを選択します。
- 3 関数一覧で [LRO] をクリックし、下のリストに追加します。
- 4 必要に応じて次の操作を行います。
 - 含めるリンクされたオブジェクトの数を指定するには、[制限] フィールドに数を入力します。例えば、「5」と入力すると、最初の 5 つのオブジェクトが取得されます。デフォルトは 1 です。
 - 特定のユーザが作成したオブジェクトを指定するには、[ユーザー] フィールドにユーザ名を入力します。デフォルトはすべてのユーザです。
 - 最後に含めるオブジェクトの作成日を指定するには、[日付] フィールドに MM/DD/YYYY の形式で日付を入力します。デフォルトは任意の日付です。

注： フィールドを空白にすると、デフォルトですべて表示されます。

- 5 [OK] をクリックします。

注： リンクされたレポートオブジェクト関数について詳しくは、216 ページの「@LRC - リンクされたレポートコメント」および 218 ページの「@LRF - リンクされたレポートフィールド」を参照してください。

リンクされたレポートファイル」を参照してください。現在リンクされているレポートオブジェクトの情報を取得する方法については、217 ページの「@LRD - リンクされたレポートオブジェクトの変更日」、219 ページの「@LRI - リンクされたレポートオブジェクトのインデックス」、221 ページの「@LRT - リンクされたレポートオブジェクトの種類」、および222 ページの「@LRU - リンクされたレポートオブジェクトのユーザ」を参照してください。

関数

@LRO 関数は計算式バーの編集ボックスに次の書式で表示されます。

@LRO (Limit, User, Date)

変数	説明
Limit	表示するオブジェクトの数。
User	ユーザの名前、全ユーザの場合は空白。指定したユーザのオブジェクトが表示されます。
Date	日付。すべての日付の場合は空白。

@LRT - リンクされたレポートオブジェクトの種類

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@LRT では、現在リンクされているレポートオブジェクトの種類が取得されます。レポートオブジェクトの種類は、セル注釈、ファイル、URL、ドリルスルーなどです。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

注： @LRT 関数は Field ディメンションでのみサポートされています。

リンクされたレポートオブジェクト関数については、216 ページの「@LRC - リンクされたレポートコメント」、218 ページの「@LRF - リンクされたレポートファイル」、および 220 ページの「@LRO - リンクされたレポートオブジェクト」を参照してください。現在リンクされているレポートオブジェクトの情報を取得する方法については、217 ページの「@LRD - リンクされたレポートオブジェクトの変更日」、219 ページの「@LRI - リンクされたレポートオブジェクトのインデックス」、および222 ページの「@LRU - リンクされたレポートオブジェクトのユーザ」を参照してください。

関数

@LRT 関数は次の書式で表示されます。

@LRT

@LRU - リンクされたレポートオブジェクトのユーザ

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@LRU では、現在リンクされているレポートオブジェクトのユーザが取得されます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

注： @LRU 関数は Field ディメンションでのみサポートされています。

リンクされたレポートオブジェクト関数について詳しくは、[216 ページの「@LRC - リンクされたレポートコメント」](#)、[218 ページの「@LRF - リンクされたレポートファイル」](#)、および [220 ページの「@LRO - リンクされたレポートオブジェクト」](#) を参照してください。現在リンクされているレポートオブジェクトの情報を取得する方法について詳しくは、[217 ページの「@LRD - リンクされたレポートオブジェクトの変更日」](#)、[219 ページの「@LRI - リンクされたレポートオブジェクトのインデックス」](#)、および [221 ページの「@LRT - リンクされたレポートオブジェクトの種類」](#) を参照してください。

関数

@LRU 関数は次の書式で表示されます。

@LRU

@LVL - 同じレベル

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@LVL では、指定したメンバまたは現在のメンバと同じレベルのメンバすべてが取得されます。これは Field 以外のすべてのディメンションでサポートされています。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次のステートメント

@LVL (QTR3)

では、次のデータが取得されます。

Qtr1
Qtr2
Qtr3
Qtr4

関数

@LVL 関数は次の書式で表示されます。

Dimension @LVL

これは dimension の現在の視点のメンバの子を取得します。

Dimension @LVL(mbrName)

これは dimension の mbrName の子を取得します。

変数	説明
Dimension	ディメンション名。
mbrName	指定したメンバ。

MUL - 乗算

財務計算関数 MUL では、2 つの列または行の値が乗算されます。[計算式の編集] ダイアログボックスで列または行にこの関数を貼り付けると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次の計算式では列 1 と 5 の値の積が表示されます。

MUL (1, 5)

関数

MUL 関数は次の形式で表示されます。

MUL(First,Second)

変数	説明
First	乗算する最初の行または列の番号。
Second	乗算する 2 番目の行または列の番号。

@OFF - 現在またはオプションの期間のオフセット

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

@OFF 関数は、期間ディメンションとともに使用して、今期または指定した期間のオフセットの列や行を作成します。この関数は「編集」メニューまたは計算式バーのボタンから選択します。@OFF をクリックすると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

Hyperion Essbase の例

今期が Mar95 であれば、95 年 3 月より 2 期前、つまり 95 年 1 月の値が生成されます。

```
YEAR @OFF (MAR95, -2)
```

今期が Jun95 であれば、視点で設定された期間よりも 2 期前、つまり 95 年 4 月の値が生成されます。

```
YEAR @OFF (@CUR, -2)
```

前述の例は次のように入力することもできます。

```
YEAR @OFF(,-2)
```

注： 最初のパラメータを空にすると、デフォルトで視点の期間になります。

パラメータ

最後のパラメータはマッピングパラメータとして使用されます。四半期または月をマップするかどうかを指定します。

次にその例を示します。

```
YEAR @OFF( "May95" , -2)
```

この結果は Qtr2 で、年ディメンションのツリービューを参照します。

```
YEAR @OFF( "May95" ,-2,LIST " Monthly" )
```

この結果は March 95 で、年ディメンションのツリービューを参照します。

関数

@OFF 関数は次の書式で表示されます。

Dimension @OFF (Dimension Name, Offset, List)

変数	説明
Dimension Name	オプションのメンバ名。

変数	説明
Offset	現在の視点の期間より前の期間を示すにはマイナス記号 (-)、現在の視点の期間より後の期間を示すにはプラス記号 (+)。 注： プラス記号 (+) はオプションです。
List	世代、レベル、またはユーザ定義の属性 (UDA)

@RNG と使用する@OFF

次の例では、@OFF 関数を@RNG 関数と一緒に使用します。

```
YEAR @RNG (@OFF (@CUR, 2,
LIST "Monthly"), "May96",
LIST "Monthly")
```

開始 ID は@RNG 内の@OFF 関数のデータです。今期が JAN96 であれば、開始 ID が MAR96 になります。範囲は MAR96 から MAY96 までです。

以下は、@OFF を@RNG と一緒に使用するその他の例です。

今期+N から年の終わりまで。月のみをリストにします。

```
YEAR @RNG (@OFF (@CUR, 1), "DEC99", LIST "Monthly")
```

今期-N から今期まで。

```
YEAR @RNG (@OFF (@CUR, -1), @CUR, LIST "Monthly")
```

今期-N から今期+N まで。

```
YEAR @RNG (@CUR, @OFF (@CUR, 1, LIST "Monthly"), LIST "Monthly")
```

@OTA - Hyperion OnTrack アクション

関数一覧

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

テキスト関数@OTA は、Hyperion Enterprise での Hyperion OnTrack と Hyperion Enterprise Reporting の間のやり取りを設定します。@OTA 関数を使用して、次のようなメモを作成できます。

- 226 ページの「@OTA テキストメモ」。Hyperion OnTrack でメモを選択すると、Hyperion Enterprise のデータがレポートに表として表示されます。
- 226 ページの「@OTA グラフィックメモ」。Hyperion OnTrack でメモを選択すると、Hyperion Enterprise のデータがレポートにチャートとして表示されます。

- 227 ページの「@OTA 調査メモ」。Hyperion OnTrack または Hyperion's Spider-Man™ Web Application の値から、元になっている Hyperion Enterprise のデータを示すレポートを表示できます。
- 228 ページの「@OTA 起動メモ」。Hyperion OnTrack でメモを選択するとプログラムが起動します。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数をタイトル計算式に貼り付けると、タイトル計算式を表示した場合に、計算式バーのテキストボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

[計算式の編集] ダイアログボックスから@OTA を選択すると、[OnTrack アクションの貼り付け] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、メモを作成したり、実行するプログラムを指定することができます。

@OTA 関数が計算式バーのテキストボックスにどのように表示されるかは、作成するメモの種類によって異なります。

@OTA テキストメモ

関数一覧

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	--

グラフィックメモを作成すると、@OTA 関数は Hyperion Enterprise Reporting の計算式バーのテキストボックスに次の形式で表示されます。

@OTA (TEXTNOTE, Marker, Report, Size)

入力項目	入力値
Marker	Hyperion OnTrack でメモにマーカを付けるテキスト。
Report	メモによって取得される Hyperion Enterprise レポートの名前。
Size	Hyperion OnTrack が自動的にサイズ調整するメモの場合は AUTO、縦 23 文字、横 80 文字のメモの場合は BIG、縦 37 文字、横 80 文字のメモの場合は FULL。 注： BIG と FULL のサイズには Hyperion OnTrack のデフォルト設定の長さや幅が使用されます。これらのデフォルトは Hyperion OnTrack で変更できます。

@OTA グラフィックメモ

関数一覧

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

グラフィックメモを作成すると、@OTA 関数は Hyperion Enterprise Reporting の計算式バーのテキストボックスに次の形式で表示されます。

@OTA (GRAPHNOTE, Marker, Report, Template, Size, [Number,] Server, Scaling, Direction)

入力項目	入力値
Marker	Hyperion OnTrack でメモにマーカを付けるテキスト。
Report	メモによって取得される Hyperion Enterprise レポートの名前。
Template	チャートの作成に使用する Microsoft Excel または Chart Template Builder のテンプレートファイルの名前。Chart Template Builder のテンプレートのファイル名には拡張子.TPL が必要です。Excel テンプレートには拡張子.XLC が必要です。
Size	Hyperion OnTrack が自動的にサイズ調整するメモの場合は AUTO、縦 23 文字、横 80 文字のメモの場合は BIG、縦 37 文字、横 80 文字のメモの場合は FULL。 注： BIG と FULL のサイズには Hyperion OnTrack のデフォルト設定の長さや幅が使用されます。これらのデフォルトは Hyperion OnTrack で変更できます。
Number	複数の円グラフを表示する場合は MULTI、円グラフ以外の 1 つのチャートの場合は SINGLE。
Server	Microsoft Excel をグラフィックツールとして使用する場合は EXCEL、Chart Template Builder のグラフィックパッケージを使用する場合は OTCHART。
Scaling	Microsoft Excel または Chart Template Builder のデフォルトの単位を使用する場合は DEFSCALE、Hyperion OnTrack で単位を設定できる場合は SCALE。
Direction	行見出しに基づいたチャートの方向の場合は BYROW、列見出しに基づいたチャートの方向の場合は BYCOL。

@OTA 調査メモ

関数一覧

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

調査メモを作成すると、@OTA 関数は Hyperion Enterprise Reporting の計算式バーのテキストボックスに次の形式で表示されます。

@OTA (DRILL, Marker, Report)

入力項目	入力値
------	-----

Marker	Hyperion OnTrack または Hyperion's Spider-Man™ Web Application のメモにマーカを付けるテキスト。
Report	メモによって取得される Hyperion Enterprise レポートの名前。

@OTA 起動メモ

関数一覧

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	--

起動メモを作成すると、@OTA 関数は Hyperion Enterprise Reporting の計算式バーのテキストボックスに次の形式で表示されます。

@OTA(Process, Marker, Command)

入力項目	入力値
Process	起動メモを選択するたびにプログラムの新しいインスタンスが開く場合は RUN、プログラムの 1 つのインスタンスのみを実行する場合は SMARTRUN、レポート名、ディメンション設定などのパラメータとともにプログラムを実行する場合は LINK、メモを選択するとプログラムが一番手前のウィンドウで実行される場合は RUNONTOP。
Marker	Hyperion OnTrack でメモにマーカを付けるテキスト。
Command	プログラムファイルのパスおよびファイル名。

@PAR - 親

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

@PAR 関数は、ENT または PAR キーワードとともに使用して、現在または指定したエンティティまたは親の上の親の列や行を作成します。[編集] メニューか計算式バーのボタンで関数ロジックを使用してエンティティや親の割り当てや変更を行う場合は、@PAR 関数をクリックします。@PAR 関数をクリックすると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次の計算式では現在のエンティティの上の親のデータが表示されます。

ENT @PAR

親ディメンションが連結詳細、所有者、共有データなどの Hyperion Enterprise データを取得するように設定されている場合は、現在のエンティティに基づいて親を動的に設定できます。例えば、次の計算式をレポートの行として使用して、視点のエンティティに依存しているエンティティを一覧表示できます。視点で設定さ

れている現在の親ではなく、各エンティティの親を使用してデータを取得できます。

ENT @DEP PAR @PAR(@ENT)

親ディメンションと一緒に使用される動的関数の結果を、現在の Hyperion Enterprise 組織に基づいて制御できます。そのためには、REPENG.INI ファイルの OPTIONS セクションで UseEnterpriseOrg を設定します。UseEnterpriseOrg = 1 を設定した場合は、現在指定されている組織の親のみが返されます。UseEnterpriseOrg = 0 を設定した場合や、REPENG.INI ファイルに UseEnterpriseOrg がない場合は、現在指定されている組織に関係なく、すべての親が返されます。

注： UseEnterpriseOrg の設定によって、現在の組織に基づいて Reporting のダイアログボックスで一覧表示されるエンティティが変わることはありません。また、現在の組織に属さないエンティティについてレポートできなくなることもあります。

関数

@PAR 関数は次の書式で表示されます。

Keyword @PAR

これは dimension の現在の視点のメンバの子を取得します。

Keyword @PAR(ID)

これは Dimension の ID の子を取得します。

変数	説明
Keyword	キーワード ENT または PAR。
ID	指定したディメンションの現在の設定を上書きする ID。

PBE - 差異率の評価

財務計算関数 PBE では、2 つの列または行の値の差異率を算出して、差異の良否が決定されます。[計算式の編集] ダイアログボックスで列または行にこの関数を貼り付けると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

差異率は勘定科目の種類に基づいて評価されます。収益勘定科目または資産勘定科目の場合は、正の結果は増加を表すため、結果は正の数として表示されます。費用または負債の勘定科目の場合は、正の結果は減少を表すため、結果は負の数として表示されます。

PBE の値は次の計算式を使用して算出されます。

First – Second / Second x 100

例えば、次の計算式では行 1 と 5 の値の差異率が算出されて評価されます。

PBE(1,5)

関数

PBE 関数は次の形式で表示されます。

PBE(First,Second)

変数	説明
First	計算する最初の列または行の番号。
Second	計算する 2 番目の列または行の番号。

PCH - 差異率

財務計算関数 PCH では、2 つの行または列の値の差異率を評価せずに計算します。[計算式の編集] ダイアログボックスで列または行にこの関数を貼り付けると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

PCH の値は次の計算式を使用して算出されます。

First – Second / Second x 100

例えば、次の計算式では行 1 と 5 の値の差異率が算出されます。

PCH(1,5)

関数

PCH 関数は次の形式で表示されます。

PCH(First,Second)

変数	説明
First	計算する最初の列または行の番号。
Second	計算する 2 番目の列または行の番号。

PCR - 構成比

列の計算式で、PCR 財務計算関数は指定した行の値の構成比を示します。行の計算式では、指定した列の値の構成比を示します。PCR 関数を使用して計算には複数のエンドポイントを使用できます。例えば、別の列内のさまざまな行の構成比を示す列を設定する場合に使用できます。[計算式の編集] ダイアログボックスで列または行にこの関数を貼り付けると、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

次のレポートでは、列 1 に行 1 ～ 3 の総売上高と行 4 の合計総売上高が表示されます。列 2 の関数 PCR (1,4) によって、各総売上高が合計総売上高に貢献するパーセントが表示されます。この計算では列 1 の値を使用して行 1 ～ 4 のパーセ

ントが算出されます。例えば、ベルギーは 25 パーセント、オランダは 32 パーセント、スウェーデンは 48 パーセント合計総売上高に貢献しています。

図 30 総売上高レポート

Hyperion Reporting - STAT47 - [Pcex2.rpt]		
First Last Next Previous Goto Zoom		
	Q.CTD	PCR(1,4)
GRSALES1 - Belgium	\$6,135	25%
GRSALES1 - Holland	7,811	32%
GRSALES1 - Sweden	10,607	43%
Total Gross Sales	\$24,553	100%

次のレポートでは、列 1 に行 1 ～ 3 の Q4 の総売上高、行 4 の Q4 の合計総売上高、行 5 ～ 7 の Q3 の総売上高、行 8 の Q3 の合計総売上高が表示されます。列 2 の関数 PCR（1,4,8）によって、各総売上高が総売上上の合計に貢献するパーセントが表示されます。この計算では列 1 の値を使用して行 1 ～ 4 および行 5 ～ 8 のパーセントが算出されます。例えば、第 4 四半期は、ベルギーが 25%、オランダが 32%、スウェーデンが 43%合計総売上高に貢献しています。第 3 四半期は、ベルギーが 23%、オランダが 26%、スウェーデンが 50%合計総売上高に貢献しています。

図 31 総売上高レポート

Hyperion Reporting - STAT47 - [Pcex.rpt]		
First Last Next Previous Goto Zoom		
	Q.CTD	PCR(1,4,8)
GRSALES1.BELGIUM Q4 96	\$6,135	25%
GRSALES1.HOLLAND Q4 96	7,811	32%
GRSALES1.SWEDEN Q4 96	10,607	43%
Total Gross Sales Q4	\$24,553	100%
GRSALES1.BELGIUM Q3 96	\$3,821	23%
GRSALES1.HOLLAND Q3 96	4,320	26%
GRSALES1.SWEDEN Q3 96	8,280	50%
Total Gross Sales Q3	\$16,421	100%

関数

PCR 関数は次の形式で表示されます。

PCR (Place,End1[,...,Endn])

変数	説明
Place	パーセントの計算に使用される列または行の番号。

変数	説明
End1	パーセント計算の最初のエンドポイントの列または行の番号。Place が列番号の場合は、End1 が行番号です。Place が行番号の場合は、End1 が列番号です。
Endn	パーセント計算の最後のエンドポイントの列または行の番号。If Place が列番号の場合は、End2 が行番号です。If Place が行番号の場合は、End2 が列番号です。

PCT - 比率（パーセント表示）

財務関数 PCT は、1 つの列または行の値に対する別の列または行の値の比率を表します。[計算式の編集] ダイアログボックスで列または行にこの関数を貼り付けると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次の計算式は行 10 の値に対する行 6 の値の比率をパーセントで表します。

PCT(6,10)

PCT の値は次の計算式を使用して算出されます。

First / Second x 100

関数

PCT 関数は次の形式で表示されます。

PCT(First,Second)

変数	説明
First	比率の最初の列または行の番号。
Second	比率の 2 番目の列または行の番号。

@PDES - 部分的説明

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@PDES では、サブエンティティまたはサブ勘定科目のあるエンティティまたは勘定科目の部分的な説明が生成されます。例えば、サブエンティティを含んで完全指定されたエンティティに@PDES 関数を使用して、主要エンティティまたはサブエンティティの説明を表示できます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、勘定科目が完全に指定されている列で次の計算式を使用すると、2 番目のサブ勘定科目のみの説明が生成されます。

@PDES (SUBACC2)

完全指定されている勘定科目の説明が Sales.Paper.New England の場合は、この計算式で次の見出しが生成されます。

New England

関数

@PDES 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @PDES[(Keyword)][After]

変数	説明
Before	部分的な説明の前に表示するテキスト。
Keyword	ACC、ENT、SUBACC1、SUBACC2、SUBENT。
After	部分的な説明の後に表示するテキスト。

@PLAB - 部分的ディメンション ID

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@PLAB では、サブエンティティまたはサブ勘定科目のあるエンティティまたは勘定科目の部分的な ID が生成されます。例えば、サブエンティティを含んで完全指定されたエンティティに@PLAB 関数を使用して、主要エンティティまたはサブエンティティの ID を表示できます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、勘定科目が完全に指定されている列で次の計算式を使用すると、2 番目のサブ勘定科目のみの ID が生成されます。

@PLAB (SUBACC2)

完全指定されている勘定科目の ID が SALES.PAPER.NE の場合は、この計算式で次の見出しが生成されます。

NE

関数

@PLAB 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @PLAB [(Keyword)][After]

変数	説明
Before	部分的な ID の前に表示するテキスト。
Keyword	ACC、ENT、SUBACC1、SUBACC2、SUBENT。
After	部分的な ID の後に表示するテキスト。

@PSF - 連結ステータス

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@PSFでは、現在のエンティティの連結ステータスが生成されます。
[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、エンティティを列に割り当て、その見出しにこの計算式を使用すると、各エンティティの ID と連結ステータスがかっこで囲まれて表示されます。

@LAB (@PSF)

関数

@PSF 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @PSF [After]

変数	説明
Before	現在のエンティティの連結ステータスの前に表示するテキスト。
After	現在のエンティティの連結ステータスの後に表示するテキスト。

RAT - 比率

財務計算関数 RAT は、1 つの列または行の値に対する別の列または行の値の比率を表します。
[計算式の編集] ダイアログボックスで列または行にこの関数を貼り付けると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

比率は次の計算式を使用して算出されます。

First / Second

例えば、次の計算式は行 41 の値に対する行 37 の値の比率を表示します。

RAT(37,41)

関数

RAT 関数は次の形式で表示されます。

RAT(First,Second)

変数	説明
First	比率の最初の列または行の番号。
Second	比率の 2 番目の列または行の番号。

REPORT - パッケージ内のレポート

REPORT 関数では、パッケージ内のレポートを指定します。[編集] メニューを使用してパッケージにレポートを挿入すると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次の計算式はパッケージに INC レポートを含めます。

REPORT "INC"

関数

REPORT 関数は次の形式で表示されます。

REPORT "ID"

ID はレポートの ID です。

RND - 四捨五入

財務計算関数 RND では、数式の結果が指定の係数の近似値に丸められます。[計算式の編集] ダイアログボックスで列または行にこの関数を貼り付けると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次の計算式では、Cost of Sales の値に 2 を掛けて、結果が 1000 分の 1 に丸められます。

RND(COS*2,.001)

関数

RND 関数は次の形式で表示されます。

RND(Expression,Factor)

変数	説明
Expression	数式
Factor	丸める係数は小数点で表します。

@RNG - 範囲

@RNG 関数では、ディメンション ID の範囲が取得されます。Hyperion Enterprise では、@RNG は期間、勘定科目、サブ勘定科目の各ディメンションに使用されます。Hyperion Essbase では、View と Field を除くすべてのディメンションで使用されます。

注： @RNG 関数では、FROM 関数と UNTIL 関数が置換されますが、FROM 関数と UNTIL 関数は計算式バーでサポートされています。

Hyperion Enterprise の例

年ディメンションを使用すると、次の計算式で 2002 年 1 月から 2002 年 6 月までのすべての月が表示されます。

```
YEAR @RNG( "JAN02" , "JUN02" )
```

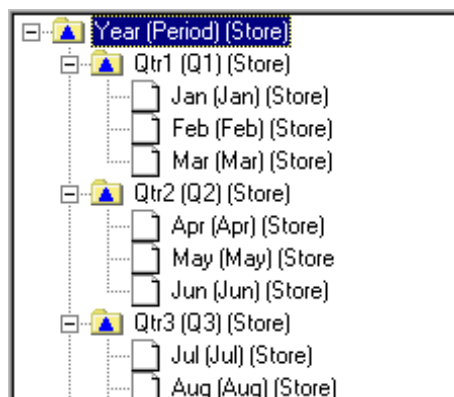
Hyperion Essbase の例

年ディメンションを使用すると、2002 年 1 月から 2002 年 6 月までのすべての月が表示されます。

```
YEAR @RNG( "JAN02" , "JUN02" , LIST " Monthly" )
```

次の図に年ディメンションのツリービューを示します。

図 32 Year ディメンションのツリービュー



次の例では、視点が 2001 年 3 月に設定されていると、2001 年 3 月から 2002 年 2 月までのすべての月が表示されます。

```
YEAR @RNG ( @CUR, " Feb02" , LIST " Monthly" )
```

以下に@RNG の別の例を示します。

年度の開始から今期まで

YEAR @RNG (, @CUR)

年度の初めから終わりまで

YEAR @RNG ("Jan02" , "Dec02" , List "Monthly")

関数

@RNG 関数は次の書式で表示されます。

Dimension name or Keyword @RNG (“Start ID” , “End ID” , “List”)]

変数	説明
Dimension name or Keyword	Hyperion Enterprise ではキーワード、Hyperion Essbase ではディメンション名。
Start ID	最初の ID。これを空白にすると、ディメンションの最初の ID が使用されます。 注： ID には名前または関数を使用できます。
End ID	最後の ID。これを空白にすると、ディメンションの最後の ID が使用されます。 注： ID には名前または関数を使用できます。
List	メンバの一覧。Hyperion Enterprise では、勘定科目ディメンションのみの一覧を使用してください。no list には-1、withsub には 0、withsub1 には 1、withsub2 には 2 を指定します。これを空白にすると、デフォルトの-1になります。Hyperion Essbase では、リストを指定しなければ、範囲のすべての項目が表示されます。

@RPD - 現在のレポートディレクトリ

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

テキスト関数@RPD では、REPENG.INI ファイルのレポートディレクトリ設定から現在のレポートディレクトリ名が取得されます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、@RPD をクリックしてそれを見出しの計算式に適用すると、

D:\essbase\reports\server\appset\app

がレポートの見出しに表示されます。

関数

@RPD 関数は次の書式で表示されます。

@RPD

@SCALE - 現在のエンティティの単位

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@SCALE では、現在のエンティティの単位が表示されます。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、行見出し用に次の計算式を作成します。

Scale for @DES(ENT) = @SCALE

現在のエンティティが Diamond Business Papers (1000 の単位) の場合は、レポートを実行したときに次の行見出しが生成されます。

Scale for Diamond Business Papers = 3

関数

@SCALE 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @SCALE [After]

変数	説明
Before	現在のエンティティの単位の前に表示するテキスト。
After	現在のエンティティの単位の後に表示するテキスト。

@SED - セットの説明

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@SED はアプリケーションセットの説明を取得します。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

関数

@SED 関数は次の書式で表示されます。

@SED

@SET - セット名

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@SET では、アプリケーションセットの説明が取得されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

関数

@SET 関数は次の書式で表示されます。

@SET

@SIB - 兄弟

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@SIB では、現在のメンバまたは指定したメンバの兄弟すべてが取得されます。これは Field と View 以外のすべてのディメンションでサポートされています。この関数は、そのパラメータがメンバー一覧である別の関数のパラメータとして使用できます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次のステートメントがあるとして。

@SIB(Boston)

このステートメントは次のメンバを取得します。

New_York, Chicago

また、次のステートメントがあるとして。

@SIB(East)

このステートメントは次のメンバを取得します。

West, Central, South

関数

@SIB 関数は次の書式で表示されます。

Dimension @SIB

これは dimension の現在の視点のメンバの子を取得します。

Dimension @SIB(mbrName)

これは dimension の mbrName の子を取得します。

変数	説明
Dimension	ディメンション名。
mbrName	指定したメンバ。

@SLA - 左側にあるすべての兄弟

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@SLA は、指定したメンバを除き、その左側にあるすべての兄弟を含めるように展開します。これは Field 以外のすべてのディメンションをサポートしています。この関数を別の関数のパラメータとして使用することもできますが、そのパラメータがメンバー一覧の場合に限ります。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次のステートメントがあるとします。

@SLA(QTR4)

このステートメントは次のメンバを取得します。

Qtr1, Qtr2, Qtr3

関数

@SLA 関数は次の書式で表示されます。

Dimension @SLA

これは dimension の現在の視点のメンバの子を取得します。

Dimension @SLA(mbrName)

これは dimension の mbrName の子を取得します。

変数	説明
Dimension	ディメンション名。

変数	説明
mbrName	指定したメンバ。

@SLF - 左側にある最初の兄弟

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@SLF は、指定したメンバを除き、その左側にある最初の兄弟を含めるように展開します。これは Field 以外のすべてのディメンションをサポートしています。この関数を別の関数のパラメータとして使用することもできますが、そのパラメータがメンバー一覧の場合に限ります。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次のステートメントがあるとします。

@SLF (QTR4)

このステートメントは次のメンバを取得します。

Qtr3

関数

@SLF 関数は次の書式で表示されます。

Dimension @SLF

これは dimension の現在の視点のメンバの子を取得します。

Dimension @SLF(mbrName)

これは dimension の mbrName の子を取得します。

変数	説明
Dimension	ディメンション名。
mbrName	指定したメンバ。

@SRA - 右側にあるすべての兄弟

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

関数@SRA は、指定したメンバを除き、その右側にある兄弟すべてを含めるように展開します。これは Field 以外のすべてのディメンションをサポートしていま

す。この関数を別の関数のパラメータとして使用することもできますが、そのパラメータがメンバー一覧の場合に限ります。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次のステートメントがあるとします。

```
@SRA(QTR2)
```

このステートメントは次のメンバを取得します。

```
Qtr3, Qtr4
```

関数

@SRA 関数は次の書式で表示されます。

Dimension @SRA

これは dimension の現在の視点のメンバの子を取得します。

Dimension @SRA(mbrName)

これは dimension の mbrName の子を取得します。

変数	説明
Dimension	ディメンション名。
mbrName	指定したメンバ。

@SRF - 右側にある最初の兄弟

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

テキスト関数@SRF は、指定したメンバを除き、その右側にある最初の兄弟を含めるように展開します。これは Field 以外のすべてのディメンションをサポートしています。この関数を別の関数のパラメータとして使用することもできますが、そのパラメータがメンバー一覧の場合に限ります。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次のステートメントがあるとします。

```
@SRF(QTR2)
```

このステートメントは次のメンバを取得します。

```
Qtr3
```

関数

@SRF 関数は次の書式で表示されます。

Dimension @SRF

これは dimension の現在の視点のメンバの子を取得します。

Dimension @SRF(mbrName)

これは dimension の mbrName の子を取得します。

変数	説明
Dimension	ディメンション名。
mbrName	指定したメンバ。

@SRN - サーバ名

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

テキスト関数@SRN は現在の Hyperion Essbase のサーバ名を取得します。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

関数

@SRN 関数は次の書式で表示されます。

@SRN

@START - 開始期間

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

@START 関数では、現在のエンティティの開始期間または開始期間の期間オフセットか、ディメンションの最初の ID の行または列が作成されます。この関数は、[編集] メニューか期間計算式バーのボタンを使用して、関数ロジックを使ってディメンションを割り当てる場合に選択します。この関数を選択すると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

次の計算式は最初のデータ種別のデータを示します。

CAT @START

次の計算式は、現在のエンティティの開始期間のデータを示します。

DAT @START

現在のエンティティの開始期間が 2001 年 12 月であれば、次の計算式は 2002 年 12 月のデータを示します。

DAT @START+12

関数

@START 関数は次の形式で表示されます。

Keyword @START[Operator][Number]

変数	説明
Keyword	ディメンションのキーワード。
Operator	期間ディメンションの場合は、最初の期間よりも後のオフセットにプラス記号 (+)、最初の期間よりも前のオフセットにはマイナス記号 (-)。このオプションは Hyperion Enterprise のみでサポートされています。
Number	オフセットの期間数。このオプションは Hyperion Enterprise のみでサポートされています。

@SUB - サブ勘定科目

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

@SUB 関数では、指定した勘定科目の直属のサブ勘定科目の列または行が作成されます。この関数を選択するのは、[編集] メニューまたは計算式バーのボタンを使用して関数方式で勘定科目を割り当てる場合です。この関数を選択すると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

次の計算式は Cost of Goods Sold 勘定科目のすべてのサブ勘定科目の列を作成します。

ACC @SUB (COSTGDS)

関数

@SUB 関数は次の書式で表示されます。

ACC @SUB [(Account)]

ここで、Account は勘定科目 ID です。勘定科目を指定しなければ、現在の勘定科目が使用されます。

SUM - 合計

財務計算関数 SUM では、指定した列または行の値が加算されます。[計算式の編集] ダイアログボックスで列または行にこの関数を貼り付けると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

例えば、次の計算式は行 2、7、9 の値の合計を表示します。

SUM(2,7,9)

次の計算式は列 12 の値の合計を表示します。

SUM(12)

次の計算式は行 2 ～ 7 の値の合計を表示します。

SUM(2:7)

計算式に SUM 関数を使用する代わりに、ライン番号を大かっこで囲んで、プラス記号で区切ることもできます。例えば、次の計算式はレポートの行 3 と 8 の値の合計を表示します。

[3] + [8]

関数

連続していない列や行の値を加算する場合は、SUM 関数は次の書式で表示されます。

SUM(First[,Last])

変数	説明
First	加算する最初の列または行の番号。
Last	加算する最後の列または行の番号。

連続している列や行の範囲の値を SUM 関数で加算する場合は、次のような書式で表示されます。

SUM(First:Last)

変数	説明
First	範囲の最初の列または行の番号。
Last	範囲の最後の列または行の番号。

@TIM - 現在の時刻

テキスト関数@TIM では、システムの現在の時刻が表示されます。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、行見出し用に次の計算式を作成します。

Totals as of @TIM

レポートを実行したとき、現在のシステム時刻が午前 11 時 35 分であれば、この計算式によって次の見出しが生成されます。

Totals as of 11:35 a.m.

関数

@TIM 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @TIM [Mask][After]

変数	説明
Before	現在のシステム時刻の前に表示するテキスト。
Mask	時と分を示すには SHORT、時、分、秒を示すには LONG。SHORT がデフォルトのオプションです。
After	現在のシステム時刻の後に表示するテキスト。

@TMCODE - 換算ロジックコード

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@TMCODE では、換算ロジックをグループ化するために Hyperion Enterprise で定義できるコードが表示されます。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、フッター用に次の計算式を作成します。

Translation Method: @TMCODE

現在のチャートロジックのコードが FR-ELIM であれば、レポートを実行したとき、この式によって次のフッターが生成されます。

Translation Method: FR-ELIM

関数

@TMCODE 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @TMCODE [After]

変数	説明
Before	換算ロジックコードより前に表示されるテキスト。
After	換算ロジックコードより後に表示されるテキスト。

@TOD - 現在の日付

テキスト関数@TOD では、システムの現在の日付が表示されます。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、行見出し用に次の計算式を作成します。

Totals as of @TOD

システムの現在の日付が 2002 年 5 月 23 日であれば、レポートを実行したときこの計算式によって次の見出しが生成されます。

Totals as of 05/23/02

関数

@TOD 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @TOD [Mask][After]

変数	説明
Before	システムの現在の日付の前に表示するテキスト。
Mask	月の番号と年の最後の 2 桁のみを表示するには SHORT、日付を英字で綴って年を 4 桁で示すには LONG、または別の日付マスク。SHORT がデフォルトのマスクです。
After	システムの現在の日付の後に表示するテキスト。

@TOP - 最上位メンバ

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

ディメンションの最上位 ID の行または列を作成するには、@TOP 関数を使用します。この関数は、[編集] メニューか期間計算式バーのボタンを使用して、関数ロジックを使ってディメンションを割り当てる場合に選択します。この関数を選択すると、データ計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。

次の計算式は最上位の勘定科目のデータを表示します。

ACCOUNT @TOP

関数

@TOP 関数は次の書式で表示されます。

Dimension @TOP

これは dimension の現在の視点のメンバの子を取得します。

Dimension @TOP(mbrName)

これは dimension の mbrName の子を取得します。

変数	説明
Dimension	ディメンション名。
mbrName	指定したメンバ。

UNTIL - 範囲の終わり

UTIL 関数では、ディメンションの範囲の終わりがマークされます。

注： @RNG 関数では、FROM 関数と UNTIL 関数が置換されますが、FROM 関数と UNTIL 関数は計算式バーでサポートされています。@RNG 関数について詳しくは、[236 ページの「@RNG - 範囲」](#)を参照してください。

例えば、次の計算式では、2001 年 1 月に開始して 2001 年 6 月に終了する期間の連続した列または行が作成されます。

DAT FROM JAN01 UNTIL JUN01

例えば、次の計算式では、Coffee で開始して Tea で終了する製品の連続する列または行が作成されます。

Product FROM Coffee UNTIL Tea

関数

UNTIL 関数は次の形式で表示されます。

Keyword or Dimension FROM First UNTIL Last

変数	説明
Keyword or Dimension	Hyperion Enterprise ではキーワード ACC または DAT、Hyperion Essbase ではディメンション名。
First	範囲の最初の勘定科目または期間の ID。
Last	範囲の最後の勘定科目または期間の ID。

@USR - ユーザ ID

テキスト関数@USRでは、現在のユーザのIDが生成されます。[計算式の編集]ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示した場合に、計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、フッター用に次の計算式を作成します。

Reported by @USR

現在のユーザのIDがSupervisorの場合は、レポートを実行したとき、この計算式によって次のフッターが生成されます。

Reported by Supervisor

関数

@USR 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @USR [After]

変数	説明
Before	現在のユーザのIDより前に表示されるテキスト。
After	現在のユーザのIDより後に表示されるテキスト。

@VWD - ビューの説明

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@VWDでは、現在のビューの説明が生成されます。[計算式の編集]ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、レポートのヘッダー用に次の計算式を作成します。

@VWD Expenses

現在のビューの説明がYear To Dateであれば、レポートを実行したとき、この計算式によって次のヘッダーが生成されます。

Year To Date Expenses

関数

@VWD 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @VWD [After]

変数	説明
Before	現在のビューの説明より前に表示されるテキスト。
After	現在のビューの説明より後に表示されるテキスト。

@VWL - ビュー ID

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

テキスト関数@VWL では、現在のビューの ID が生成されます。[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

例えば、レポートのヘッダー用に次の計算式を作成します。

@VWL Expenses

現在のビューが Year To Date で、その ID が YTD であれば、レポートを実行したとき、この計算式によって次のヘッダーが生成されます。

YTD Expenses

関数

@VWL 関数は次の書式で表示されます。

[Before] @VWL [After]

変数	説明
Before	現在のビュー ID の前に表示するテキスト。
After	現在のビュー ID の後に表示するテキスト。

WITHSUB - With サブ勘定科目

WITHSUB 関数では、勘定科目の範囲内のすべてのサブ勘定科目の列または行が作成されます。FROM 関数と UNTIL 関数を使用するとき、計算式バーから WITHSUB 関数を使用できます。

例えば、次の計算式では、Sales で始まり Net Income で終わる勘定科目範囲のデータの列が作成され、サブ勘定科目が含まれます。

ACC FROM SALES UNTIL NETINC WITHSUB

注： @RNG 関数では、FROM 関数と UNTIL 関数が置換されますが、FROM 関数と UNTIL 関数は計算式バーでサポートされています。WITHSUB 関数は計算式バーからのみサポートされています。@RNG 関数について詳しくは、[236 ページの「@RNG - 範囲」](#)を参照してください。

関数

WITHSUB 関数は次の書式で表示されます。

ACC FROM First[.Subfirst] UNTIL Last[.Sublast][WITHSUB]

変数	説明
First	範囲の最初の勘定科目の ID。
Subfirst	範囲の最初のサブ勘定科目の ID。
Last	範囲の最後の勘定科目の ID。
Sublast	範囲の最後のサブ勘定科目の ID。

WITHSUB1 - 第 1 レベルサブ勘定科目

WITHSUB1 関数では、勘定科目の範囲内の第 1 レベルのサブ勘定科目の列または行が作成されます。FROM 関数と UNTIL 関数を使用するとき、計算式バーから WITHSUB1 関数を使用できます。

例えば、次の計算式では、Sales で始まり Net Income で終わる勘定科目範囲のデータの列が作成され、サブ勘定科目が含まれます。

ACC FROM SALES UNTIL NETINC WITHSUB1

注： @RNG 関数では、FROM 関数と UNTIL 関数が置換されますが、FROM 関数と UNTIL 関数は計算式バーでサポートされています。WITHSUB1 関数は計算式バーからのみサポートされています。@RNG 関数について詳しくは、[236 ページの「@RNG - 範囲」](#)を参照してください。

関数

WITHSUB1 関数は次の形式で表示されます。

ACC FROM First UNTIL Last[WITHSUB1]

変数	説明
First	範囲の最初の勘定科目の ID。
Last	範囲の最後の勘定科目の ID。

@WLD - ワイルドカード

注： Hyperion Essbase にのみ該当します。

テキスト関数@WLD では、指定したワイルドカードと一致するすべてのメンバが取得されます。

[計算式の編集] ダイアログボックスでこの関数を見出しの計算式に貼り付けると、見出しの計算式を表示したとき計算式バーの編集ボックスにこの関数が表示されます。[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックスを使用して、この関数をヘッダーとフッターに貼り付けることもできます。

?記号は 1 文字を置き換えるために、*記号は複数の文字を置き換えるために使用できます。例えば、C という文字で始まるすべての州を検索する場合は、次の計算式を使用できます。

@WLD("C*")

関数

@WLD 関数は次の書式で表示されます。

Dimension@WLD[wildcardspecifier]

変数	説明
Dimension	ディメンション名。
wildcardspecifier	ワイルドカードを指定する任意の数の文字。

この章の内容

アドインファイル	254
Hyperion Analyst の起動	254
Hyperion Analyst の終了	256
[Analyst] メニュー	256
オンラインヘルプへのアクセス	257
Hyperion Analyst ワークシート	258
Hyperion Analyst クエリ	260
ディメンションの編集	262
ディメンションの管理	262
ディメンションのドラッグアンドドロップ	263
ディメンションの並べ替え	263
ディメンション ID の並べ替え	263
展開	264
Hyperion Retrieve for Reporting 関数への値の変換	266
Microsoft Excel フォーマットテンプレートの作成	267
よく尋ねられる質問	268
ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ	269

Hyperion Analyst は、Microsoft Excel で Hyperion Solutions 製品のアプリケーションのデータを解析する、柔軟性に富むアドホッククエリツールです。Hyperion Analyst を使用して、アプリケーションに存在する任意のディメンションに対してアプリケーションのクエリを行うことができます。Hyperion Analyst では、行と列のどのような組み合わせにでもディメンションを並べ替えて、データを取得し、結果をすばやく表示できます。また、特定の値についてディメンションを移動し、別のディメンション ID を選択し、サポート情報を表示して、アプリケーションを調べることができます。

Hyperion Retrieve for Reporting を使用して製品のレポート、チャート作成、およびプレゼンテーションの書式設定を行うように、Hyperion Analyst ワークシートを変換できます。このように変換すると、Microsoft Excel の機能をさらに利用できるようになります。Hyperion Retrieve for Reporting について詳しくは、Hyperion Retrieve for Reporting のオンラインヘルプを参照してください。

この章では、起動や終了などの Hyperion Analyst の基本機能について説明します。ここでは Hyperion Analyst のメニューの機能、ワークシート、およびクエリ、ディメンション、展開の操作方法について説明します。また、Hyperion Analyst で

Microsoft Excel ワークシートのテンプレートを作成する方法についても説明します。

アドインファイル

Hyperion Analyst を実行する前に、スプレッドシートプログラムにアドインファイルをロードする必要があります。そのファイルはロードしたままにしておき、スプレッドシートプログラムを起動したときに常に Hyperion Analyst を使用できるようにします。スプレッドシートプログラムを起動しても Hyperion Analyst を使用しない場合は、そのファイルをアンロードします。

Microsoft Excel 用のアドインファイルのロードまたはアンロード

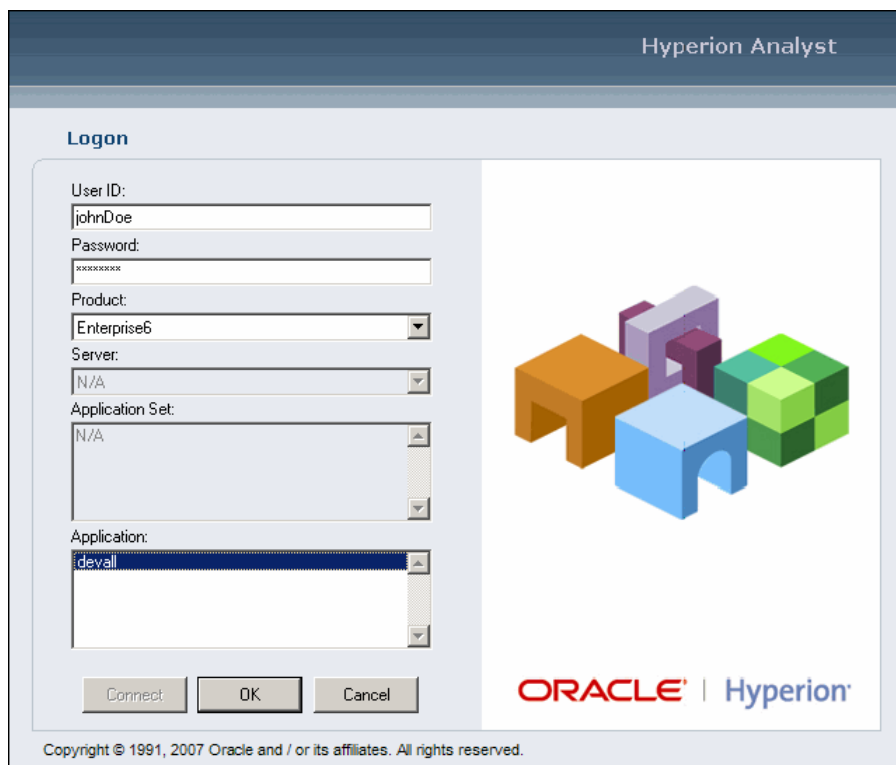
- ▶ Microsoft Excel 用のアドインファイルをロードまたはアンロードするには、次の手順に従います。
 - 1 [ツール] メニューの [アドイン] を選択します。
 - 2 [アドイン] ダイアログボックスの一覧に Hyperion Analyst がない場合は、[参照] をクリックして Hyperion Analyst プログラムファイルが含まれているディレクトリから ANALYS32.XLA を選択します。
 - 3 次のいずれかを実行します。
 - アドインファイルをロードするには [Hyperion Analyst] を選択します。
 - アドインファイルをアンロードするには [Hyperion Analyst] の選択を解除します。
 - 4 [OK] をクリックします。

Hyperion Analyst の起動

Hyperion Analyst を起動すると、Hyperion Solutions 製品、アプリケーションセット、およびアプリケーションを選択するメッセージが表示されます。次にアプリケーションのユーザ ID とパスワードを指定します。ユーザ名とパスワードを再度入力しなくても、同じアプリケーションに追加のクエリを作成できます。

Windows からの Hyperion Analyst の起動

- ▶ Windows から Hyperion Analyst を起動するには、次の手順に従います。
 - 1 [Hyperion Analyst] アイコンをダブルクリックします。
 - 2 [Analyst] メニューから [New Query (新規クエリ)] を選択します。Hyperion Analyst のログオン画面が表示されます。



- 3 有効なユーザ名とパスワードを入力します。

[接続] ボタンが選択可能になります。

- 4 [接続] ボタンをクリックします。

[アプリケーションセット] フィールドと [アプリケーション] フィールドに項目が表示されます。

- 5 Hyperion アプリケーションを選択して [OK] をクリックします。

ヒント： ユーザ名とパスワードを再度入力しなくても、同じアプリケーションに追加のクエリを作成できます。

Microsoft Excel からの Hyperion Analyst の起動

- ▶ Microsoft Excel から Hyperion Analyst を起動するには、次の手順に従います。

- 1 次のいずれかを実行します。

- Hyperion Analyst のアドインが既にロードされている場合は、ステップ 4 に進みます。
- Hyperion Analyst のアドインがロードされていない場合は、ステップ 2 に進みます。

- 2 [ファイル] メニューの [開く] を選択します。

- 3 使用している Analyst プログラムディレクトリ内にある、Hyperion Analyst のワークシートの ANALYS32.XLA を選択し、[OK] をクリックします。

- 4 [Analyst] メニューから [New Query (新規クエリ)] を選択します。

- 5 ログオンダイアログボックスが表示されたら、Hyperion Solutions 製品とアプリケーションを選択し、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 6 [OK] をクリックします。

ヒント： ユーザ名とパスワードを再度入力しなくても、同じアプリケーションに追加のクエリを作成できます。

Hyperion Analyst の終了

Hyperion Analyst を終了すると、作業セッションが終了し、Microsoft Excel も終了します。

- ▶ Hyperion Analyst を終了するには、[ファイル] メニューの [終了] を選択します。




[Analyst] メニュー

Hyperion Analyst でタスクを実行する場合、通常は [Hyperion Analyst] メニューからオプションを選択します。また、Microsoft Excel では、Hyperion Analyst ツールバーのアイコンを使用して [Hyperion Analyst] メニューの一部のオプションにマウスですばやくアクセスできます。

Microsoft Excel では、Hyperion Analyst ツールバーを表示するには [表示] メニューを使用します。次の表に、Hyperion Analyst のメニューコマンドを Microsoft Excel の相当するアイコンとともに示します。

表 47 Hyperion Analyst のメニューコマンドと Excel のアイコン

メニューコマンド	Excel のアイコン	説明
New Query (新規クエリ)		Hyperion Solutions アプリケーションから特定のディメンション ID のデータを取得するクエリを作成します。
Open Query (クエリを開く)		既存のクエリを開きます。
End Query (クエリの終了)		現在のクエリを終了します。
Save Query (クエリの保存)		作成または変更したクエリを保存します。
Save Query As (クエリに名前を付けて保存)		別のファイル名またはパスを使用してクエリを保存します。
Modify Query (クエリの変更)		既存のクエリを変更します。
更新		現在のアプリケーションから新しいデータおよび変更され

メニューコマンド	Excel のアイコン	説明
		たデータを取得して、現在のクエリを更新します。
Convert to Functions（関数への変換）		Hyperion Analyst ワークシートのすべてのデータを Hyperion Retrieve for Reporting の計算式または Hyperion Retrieve（HP Retrieve）の計算式に変換します。詳しくは、 286 ページの「Hyperion Retrieve for Reporting の計算式」 を参照してください。
Hide Page Dimensions（ページのディメンションを非表示にする）		ワークシートの視点のディメンションを非表示にし、行および列に割り当てられているディメンションのみを表示するようにします。このコマンドを使用すると、Hyperion Analyst ワークシートに一度により多くのデータを表示できるようになります。
Show Page Dimensions（ページのディメンションを表示する）		Hyperion Analyst ワークシートにワークシートの視点のディメンションを表示します。

次の表に、Microsoft Excel の上記以外の Hyperion Analyst メニューオプションを示します。[ヘルプ] メニューのオプションについては、[257 ページの「オンラインヘルプへのアクセス」](#)を参照してください。

表 48 その他の Hyperion Analyst メニューコマンド

コマンド	用途
ディメンションの管理	次のオプションを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● Hyperion Analyst クエリにどのディメンションを表示するか。 ● Hyperion Analyst クエリに、ID、ディメンション、その両方を表示するかどうか。 ● ディメンションを展開したときに、そのディメンションのすべての子を表示するか、または次のレベルの子のみを表示するか。 注： Hyperion Analyst では、Hyperion Enterprise の展開がサポートされています。
展開機能の管理	ディメンションの値を展開したときに表示される詳細情報を指定します。
Edit Suppress Options（非表示オプションの編集）	ゼロのみが含まれているかデータが含まれていない行と列、またはエラーかゼロによる除算が発生した行と列を非表示にします。

オンラインヘルプへのアクセス

Hyperion Analyst のヘルプを使用すると、Hyperion Analyst を使用するとき情報をすばやく取得できます。

- ▶ オンラインヘルプにアクセスするには、[Analyst] メニューから [ヘルプ] を選択し、次にポップアップメニューのコマンドを選択します。

次の表に、[ヘルプ] のさまざまなオプションを示します。

表 49 オンラインヘルプのオプション

オプションの選択	結果
ヘルプ	Hyperion Analyst のヘルプ
目次	Hyperion Analyst ヘルプの目次
ヘルプの検索	特定のヘルプ項目を検索するときに使用するダイアログボックス
ヘルプ使用法	Windows のヘルプの使用方法に関する情報
Hyperion Analyst Guide (Hyperion Analyst ガイド) (PDF)	このガイドのオンライン版。このオプションを選択すると、ファイルが開き、Adobe Acrobat Reader でファイルを表示または印刷できます。
Hyperion Analyst バージョン情報	Hyperion Analyst システムのソフトウェアバージョン情報
[ヘルプ] ボタン、またはダイアログボックスまたはウィンドウ内で [F1] キーを押す	ダイアログボックスレベルのヘルプ

Hyperion Analyst ワークシート

Hyperion Analyst ワークシートによって、Microsoft Excel のワークシートが Hyperion Solutions 製品のアプリケーションにリンク付けされます。ワークシートのクエリを作成または変更して、ワークシート内の特定のディメンションのデータを表示します。

次の図に、Hyperion Analyst ワークシートの例を示します。

図 33 Hyperion Analyst ワークシートの例

	A	B	C	D	E	F	G
1	Actual data for this year						
2	Yearly/Periodic						
3	Group 3 account 316 - income						
4		Yearly 2007					
5							
6	United States 100% ownership	1746					
7							
8							
9							
10							
11							

ワークシートの視点の変更

Hyperion Analyst のデータの視点は、Hyperion Analyst がアプリケーションからデータを生成するときに使用する一連のディメンション ID です。

ワークシートの視点では、Hyperion Analyst の作業セッションのデフォルトのディメンション ID を指定します。Hyperion Analyst ワークシートまたは [Modify Query (クエリの変更)] ダイアログボックスでワークシートの視点を変更できます。データの視点に対する変更は、現在の Hyperion Analyst クエリのみに対して行われます。

▶ ワークシートの視点を変更するには、次の手順に従います。

1 次のいずれかを実行します。

- [Analyst] メニューから [Modify Query (クエリの変更)] を選択し、[Worksheet point of view (ワークシートの視点)] 内のディメンションアイコンをダブルクリックします。
- Hyperion Analyst ワークシートで、ワークシートの視点に割り当てられたディメンション名またはディメンションアイコンをダブルクリックします。

ヒント: ディメンションをドラッグアンドドロップして、ワークシートの視点間を移動できます。詳しくは、263 ページの「ディメンションのドラッグアンドドロップ」を参照してください。

2 ワークシートの視点の変更する各ディメンションに新しい ID を選択します。

Hyperion Analyst クエリ

Hyperion Analyst クエリは、Hyperion Solutions 製品のアプリケーションからデータを取得するために使用される、ワークシートに並んでいるディメンション ID です。

クエリの作成

クエリを作成すると、スプレッドシートの計算式または SQL クエリを書き込まずに、アプリケーションからデータを表示できます。

- ▶ クエリを作成するには、次の手順に従います。
- 1 [Analyst] メニューから [New Query (新規クエリ)] を選択します。
- 2 ログオンダイアログボックスが表示されたら、Hyperion Solutions 製品とアプリケーションを選択し、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 3 Hyperion Analyst ワークシートから、ワークシートの視点、およびワークシートの列と行のディメンション ID を選択します。

クエリを開く

クエリを開くと、生成したデータが表示されます。開いたクエリを変更し、別のパスまたはファイル名で保存することもできます。

- ▶ クエリを開くには、次の手順に従います。
- 1 [Analyst] メニューから [Open Query (クエリを開く)] を選択します。
- 2 ログオンダイアログボックスが表示されたら、Hyperion Solutions 製品とアプリケーションを選択し、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 3 開くクエリを選択します。

クエリの変更

Hyperion Analyst ワークシートの、ワークシートの視点、列、または行のディメンションまたはディメンション ID を変更して、クエリを変更できます。

- ▶ クエリを変更するには、次の手順に従います。
- 1 クエリを開きます。詳しくは、[260 ページの「クエリを開く」](#)を参照してください。
- 2 [Analyst] メニューから [Modify Query (クエリの変更)] を選択します。
- 3 ディメンションアイコンをダブルクリックし、ディメンションの新しい ID を選択します。
- 4 [閉じる] をクリックします。

注： ディメンションをドラッグアンドドロップするか、ディメンション ID をダブルクリックして展開または縮小し、クエリを変更することもできます。

詳しくは、263 ページの「ディメンションのドラッグアンドドロップ」または265 ページの「データの展開または縮小」を参照してください。

クエリの終了

クエリを終了すると、現在のアプリケーションからのデータの取得が停止されます。クエリの終了後は、クエリの ID は Microsoft Excel ワークシートに表示されますが、アプリケーションのディメンション名またはアイコンは表示されません。

- ▶ クエリを終了するには、[Analyst] メニューから [End Query (クエリの終了)] を選択します。

クエリの保存

Hyperion Analyst クエリを保存すると、ワークシートの視点と行および列のディメンション ID が保存されます。保存したクエリを開いて、データの視点と列および行のディメンション ID を新しいクエリで使用できます。

[Hyperion Analyst] メニューを使用して Hyperion Analyst ワークシートをクエリとして保存することは、Hyperion Analyst の [ファイル] メニューを使用して Hyperion Analyst ワークシートを Microsoft Excel のワークシートとして保存することとは異なります。[ファイル] メニューを使用して Hyperion Analyst ワークシートを Microsoft Excel のワークシートとして保存すると、そのワークシートを Hyperion Analyst クエリとして再度開くことはできません。

- ▶ クエリを保存するには、次のいずれかの操作を行います。
 - 新しいクエリを保存するには、[Analyst] メニューから [Save Query (クエリの保存)] を選択するか、[Analyst] メニューから [Save Query As (クエリに名前を付けて保存)] を選択します。
 - 既存のクエリを現在のパスおよびファイル名で保存するには、[Analyst] メニューから [Save Query (クエリの保存)] を選択します。
 - 既存のクエリを別のパスまたはファイル名で保存するには、[Analyst] メニューから [Save Query As (クエリに名前を付けて保存)] を選択します。

MissingValue 設定

analyst.ini ファイルの MissingValue の設定によって、Hyperion Analyst クエリのセルにデータがない場合に何が表示されるかが決まります。この設定はすべてのアプリケーションに適用されます。

次の表に、analyst.ini ファイルのこの設定の正しいファイル構文を示します。

表 50 MissingValue 設定の analyst.ini ファイル構文

構文	説明
MissingValue=1	データのないセルには、ゼロが表示されます。

構文	説明
MissingValue=0	データのないセルには、[データなし] というテキストが表示されます。

ディメンションの編集

ディメンションを編集して、ディメンション ID または範囲を列および行に割り当てます。例えば、勘定科目ディメンションを編集して、特定の勘定科目を列または行に割り当てます。

▶ ディメンションを編集するには、次の手順に従います。

1 次のいずれかを実行します。

- 列または行で、ディメンションアイコン（Excel の場合）をダブルクリックします。
- [Analyst] メニューから [Modify Query (クエリの変更)] を選択し、[列] または [行] のディメンションアイコンをダブルクリックします。

2 ディメンション ID を選択します。

3 [OK] をクリックします。

ディメンションの管理

ディメンションを管理して、クエリに表示するディメンションを指定します。クエリでディメンションアイコン（Excel）をダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、ワークシートの視点、列、および行に特定のディメンション ID を選択します。例えば、Microsoft Excel クエリの [Period (区間)] アイコンをクリックし、特定の期間を選択します。

ディメンションの管理を行うと、Hyperion Analyst では新しいクエリが作成されます。そのクエリがまだ保存されていない場合は、現在のクエリを保存するメッセージが表示されます。

▶ ディメンションを管理するには、次の手順に従います。

1 新規または既存のクエリで、[Analyst] メニューから [ディメンションの管理] を選択します。

2 次のオプションを選択します。

- クエリにどのディメンションを表示するか。
- クエリ内の選択したディメンションの ID、説明、またはその両者を表示するか

3 [OK] をクリックします。

ディメンションのドラッグアンドドロップ

ワークシート上または [Modify Query (クエリの変更)] ダイアログボックスでディメンションをドラッグアンドドロップして、Hyperion Analyst ワークシートの領域間を移動させることができます。

複数の ID を持つディメンションを列または行からワークシートの視点に移動する場合は、そのディメンションの最初の ID がワークシートの視点として使用されます。例えば、JAN.FY97、FEB.FY97、および MAR.FY97 という期間を行 1、2、および 3 にそれぞれ割り当てたとします。この期間ディメンションをワークシートの視点に移動する場合は、ワークシートの視点の期間は JAN.FY97 になります。

Microsoft Excel を使用したディメンションのドラッグアンドドロップ

- ▶ Microsoft Excel を使用してディメンションをドラッグアンドドロップするには、次の手順に従います。
 - 1 ディメンションアイコンをクリックし、左マウスボタンを押したままにします。
 - 2 マウスポインタをディメンションの移動先まで動かしてから、マウスボタンを離します。

ディメンションの並べ替え

領域内のディメンションを並べ替えることができます。例えば、[列] に、勘定科目ディメンション、中央ディメンション、期間ディメンションの順に割り当てたとします。ディメンションを並べ替えて、期間ディメンションを第 1 のディメンションにする場合があります。

Hyperion Analyst ワークシートでディメンションアイコンまたはディメンション名をドラッグアンドドロップして、ディメンションを並べ替えることもできます。

- ▶ ディメンションを並べ替えるには、次の手順に従います。
 - 1 [Analyst] メニューから [Modify Query (クエリの変更)] を選択します。
 - 2 左マウスボタンでディメンションアイコンをクリックし、押したままにします。
 - 3 ディメンションアイコンを領域内の別の場所にドラッグしてから、マウスボタンを離します。
 - 4 [閉じる] をクリックします。

ディメンション ID の並べ替え

列および行の ID を並べ替えることができます。例えば、行に、JAN.FY97、FEB.FY97、MAR.FY97、および FY97 という期間をこの順序で割り当てたとします。FY97 が最後の行ではなく最初の行に表示されるように、期間を並べ替える場合があります。

- ▶ デイメンション ID を並べ替えるには、次の手順に従います。
- 1 次のいずれかを実行します。
 - Excel のデイメンションアイコンをダブルクリックします。
 - [Analyst] メニューから [Modify Query (クエリの変更)] を選択します。
 - 並べ替える ID のデイメンションアイコンをダブルクリックします。
 - 2 選択したボックスで ID をハイライトし、[上] または [下] ボタンを使用して ID を移動します。
 - 3 [OK] をクリックします。
 - 4 [閉じる] をクリックします。

展開

展開を行うと、Hyperion Analyst ワークシートのデイメンション ID の詳細データが表示されます。例えば、Hyperion Enterprise アプリケーションのエンティティを展開すると、エンティティの子のデータを表示できます。展開を縮小すると、ワークシートにはデイメンション ID のサマリデータのみが表示されます。

Hyperion Analyst ワークシートのデイメンション ID の左側にあるプラス記号 (+) は、その ID を拡張できることを示しています。マイナス記号 (-) は、その ID を縮小できることを示しています。

デフォルトの展開

各アプリケーションの reporting サブディレクトリにある EXPAND.REL ファイルにより、次の表に示す Hyperion Enterprise のデフォルトの展開が作成されます。

表 51 Hyperion Enterprise のデフォルトの展開

ディメンション	展開結果
エンティティ	エンティティまたは名前の子のデータ。
期間	月に対する週など、期間の子のデータ。
勘定科目	勘定科目のサブ勘定科目のデータ。

展開の有効化

使用している Hyperion アプリケーションによって、デフォルトの展開を有効にするか、展開機能を管理するかのいずれかを行ってから、アプリケーションのデータを展開する必要があります。

- Hyperion Analyst のデフォルトの展開機能を有効にするには (Hyperion Enterprise)、264 ページの「デフォルトの展開」を参照してください。
- Hyperion Analyst のデフォルト以外に展開を有効にするには、262 ページの「ディメンションの管理」を参照してください。

データの展開または縮小

詳細を表示するには、サマリデータを展開します。例えば、Hyperion Enterprise アプリケーションの親の ID を展開すると、その子の値が表示されます。

サマリ値を表示するには、データを縮小します。例えば、Hyperion Enterprise アプリケーションの子のグループのデータを縮小すると、親の値が表示されます。

Hyperion Analyst ワークシートのディメンション ID の左側にあるプラス記号 (+) は、そのディメンション ID を展開できることを示しています。ディメンション ID の左側にあるマイナス記号 (-) は、そのディメンション ID を縮小できることを示しています。

各ディメンションを展開してそのすべての子の詳細を表示するか、次のレベルの子のみのデータを表示するかを指定するには、展開機能を管理します。詳しくは、[262 ページの「ディメンションの管理」](#)を参照してください。

データの展開

- ▶ データを展開するには、左側にプラス記号 (+) のあるディメンション ID をダブルクリックします。

注： 展開を有効にしてから、データを展開したり縮小したりする必要があります。

データの縮小

- ▶ データを縮小するには、左側にマイナス記号 (-) のあるディメンション ID をダブルクリックします。

展開機能の管理

ディメンションを展開したときに表示される詳細情報を指定するには、展開機能を管理します。例えば、Hyperion Enterprise アプリケーションのエンティティの展開を設定すると、クエリで指定したエンティティのすべての子の値を表示できます。

- ▶ 展開機能を管理するには、次の手順に従います。
 - 1 新しいクエリまたは既存のクエリで、[Analyst] メニューから [展開機能の管理] を選択します。
 - 2 ディメンションの展開を設定するには、ディメンションを選択してから、そのディメンションの親の関係を作成、編集、または削除します。
 - 3 親データの前に子を表示するには、[前に展開] を選択します。

注： 通常、ワークシートでは子は親 ID の後に表示されます。

- 4 他のオプションの操作を続けて行うには、手順 5 に進みます。操作を行わない場合は [閉じる] をクリックします。
- 5 親の関係についての情報が含まれているテキストファイルの展開または読み込みを行うか、すべての親の関係を削除するには、次の手順に従います。
 1. [詳細設定] を選択して、[展開機能の管理 - 詳細設定] ダイアログボックスを表示します。
 2. 必要な詳細オプションを選択します。
 3. [閉じる] をクリックします。
 4. [閉じる] をクリックします。

展開記号の表示または非表示

展開記号は、ディメンションを展開して詳細を表示できるかどうか、またはディメンションを縮小してサマリ値のみを表示できるかどうかを示します。ディメンションの前にあるプラス記号 (+) は、そのディメンションを展開して詳細を表示できることを示します。ディメンションの前にあるマイナス記号 (-) は、そのディメンションを縮小してサマリ値のみを表示できることを示します。

analyst.ini ファイルに行を追加して、クエリ内の展開記号を非表示にしたり表示したりできます。行を追加しない場合、またはその行を削除した場合は、Hyperion Analyst ではデフォルトで展開記号が表示されます。

次の表に、アプリケーションのクエリで展開記号を非表示または表示するための、analyst.ini ファイルの [APPLICATION] セクションに追加する正しいファイル構文を示します。

表 52 展開を非表示または表示する Analyst.ini ファイル構文

構文	説明
ShowSign=1	展開記号を非表示にします。
ShowSign=0	展開記号を表示します。

Hyperion Retrieve for Reporting 関数への値の変換

[Convert to Functions (関数への変換)] オプションを使用して、Hyperion Analyst ワークシートのセル内のデータ値を Hyperion Retrieve for Reporting 関数に変換します。関数に変換したワークシート内のセルをクリックすると、Hyperion Retrieve for Reporting の計算が Microsoft Excel の計算式バーに表示されます。Hyperion Analyst では変換に絶対セル参照を使用するため、計算式を別の場所にコピーした場合でも計算式のセル参照は有効なままです。

ワークシートの値を関数に変換すると、現在の Hyperion Analyst の作業セッションが終了し、Microsoft Excel ワークシートが生成されます。[Analyst] メニューを使用してクエリを保存してから関数への変換を行った場合は、後でクエリを再度開くことができます。

関数への変換後に、データの視点、行、および列のディメンションを表示するワークシート領域をスクロールできないようにすることがあります。

次の表に、変換関数のオンまたはオフを切り替えるために、`analyst.ini` ファイルの[DEFAULT]セクションに追加する正しいファイル構文を示します。

表 53 変換関数に使用する `Analyst.ini` ファイル構文

構文	目的
<code>UnfreezePanelsOnConvert=0</code>	ワークシートのウィンドウ枠を固定しません。
<code>UnfreezePanelsOnConvert=1</code>	ワークシートのウィンドウ枠を固定します。
<code>cdaval=0</code>	HP Retrieve の計算式を取得します。
<code>cdaval=1</code>	Hyperion Retrieve for Reporting の計算式を取得します。

CDAVAL=0 と CDAVAL=1 を切り替えれば、ワークシートで HPVAL および CDAVAL の計算式をそれぞれ取得できます。但しデフォルトでは、`analyst.ini` に CDAVAL の仕様が含まれていない場合、[Convert to Functions (関数への変換)] オプションを使用して HPVAL の計算式を取得します。

注： Microsoft Excel で同時に Hyperion Analyst および Hyperion Retrieve for Reporting のアドインを読み込むことができます。

- ▶ 値を Hyperion Retrieve for Reporting 関数に変換するには、[Analyst] メニューの [Convert to Functions (関数への変換)] を選択します。

注： Hyperion Retrieve for Reporting のアドインを読み込んでから、値を Hyperion Retrieve for Reporting 関数に変換する必要があります。

Microsoft Excel フォーマットテンプレートの作成

Microsoft Excel で Hyperion Analyst を使用するためのデフォルトのフォーマットが含まれている Microsoft Excel のテンプレートを作成できます。これらのテンプレートを使用して、クエリの外観をカスタマイズします。

- ▶ Microsoft Excel フォーマットテンプレートを作成するには、次の手順に従います。
 - 1 新しい Microsoft Excel ブックで、[編集] メニューから [シートの削除] を選択し、Sheet1 以外のすべてのワークシートを削除します。
 - 2 Microsoft Excel のメニューおよびツールバーを使用して、色や位置合わせの指定などの書式をワークシートに追加します。
 - 3 ワークシートをテンプレートとして保存し、Microsoft Excel のプログラムディレクトリの XLSTART サブディレクトリにファイル名を ANALYST.XLT と入力します。

よく尋ねられる質問

この章では、このガイドの他の項で説明されていない、Hyperion Analyst についてのよく尋ねられる質問について説明します。

他の問題が発生した場合や、この章で説明されていない質問がある場合は、システム管理者に問い合わせるか、Readme を参照してください。

新しいクエリを開始するときに、エラーメッセージ No.91 が表示されることがあります。これはどのような意味ですか。

Hyperion Analyst をインストールしたときに、ANACTL32.DLL ファイルか ANACTL.DLL ファイルのいずれか、またはこの両方のファイルが正しく登録されませんでした。問題を解決するには、次の 2 つの操作のいずれかを行います。

- Hyperion Analyst を再度インストールします。
 - ファイルを手動で登録します。
1. [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、次のように入力します。

REGSVR C:\PROGRAM FILES\HYPERION SOLUTIONS\FILENAME

ここで、filename は ANACTL.DLL または ANACTL32.DLL のいずれかです。

両方のファイルを登録する場合は、両方のファイルについてこの操作を繰り返す必要があります。

ワークシートでディメンションアイコンを適切にドラッグアンドドロップする方法を教えてください。ディメンションアイコンが間違った場所に移動したり、移動できなかつたりします。

ワークシートでディメンションアイコンをドラッグアンドドロップする場合は、移動元の場所に置換可能な他のディメンションアイコンがなければなりません。

ワークシートに複数のディメンションアイコンがあるにもかかわらず問題が発生する場合は、[Modify Query (クエリの変更)] オプションを使用してディメンションアイコンをドラッグアンドドロップしてみてください。詳しくは、[260 ページの「クエリの変更」](#)を参照してください。

Hyperion Analyst を起動したり新しいクエリを開始したりしたときに、エラーメッセージ No.76 が表示されることがあります。これはどのような意味ですか。

次のいずれかの状況であることが考えられます。

- PC 内の EXCEL ディレクトリに、XL5GALRY.XLS ファイルが含まれている
XLSTART サブディレクトリが見つかりません。
 - XLSTART ディレクトリへの適切なセキュリティアクセス権限がありません。
適切な操作を行って、問題を解決します。2つの操作を両方とも行う場合は、順序は関係ありません。
 - XLSTART サブディレクトリを EXCEL ディレクトリに追加します。
 - 適切なセキュリティアクセス権限を取得します。
- Microsoft Excel を再インストールすることもできます。

新しいクエリを開始したときに、エラー No.48 またはエラー No.53 のいずれかが表示されます。これはどのような意味ですか。

次のいずれかの状況であることが考えられます。

- Hyperion Analyst プログラムが含まれている CDA ディレクトリが PC の AUTOEXEC.BAT ファイルのパスセクションで指定されていません。
- CDA ディレクトリは AUTOEXEC.BAT ファイル内に指定されていますが、ネットワークのログオンスクリプトによって AUTOEXEC.BAT ファイルのログオンスクリプトが書き換えられています。
- すべての Hyperion Solutions プログラム、ファイル、およびサブディレクトリが含まれている HYSOFT ディレクトリが PC の AUTOEXEC.BAT ファイルのパスセクションで指定されていません。

問題を解決するには、次の手順に従います。

1. AUTOEXEC.BAT ファイルを開きます。
2. CDA および HYSOFT のどちらも指定されていない場合は、いずれかをファイルのパスセクションに追加します。
3. PC を再起動します。
4. Windows の起動後、[スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] メニューの [アクセサリ] から [コマンドプロンプト] を選択し、コマンドプロンプトに「path」というコマンドを入力します。
5. パスに指定されている CDA または HYSOFT が表示されない場合は、ネットワークのログオンスクリプトによって AUTOEXEC.BAT ファイルスクリプトが書き換えられています。システム管理者に問い合わせ、ネットワークのログオンスクリプトを変更します。

ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ

Hyperion Analyst のウィンドウとダイアログボックスのオプションについて説明しています。

ダイアログボックス

ここでは、Hyperion Analyst のダイアログボックスおよびそのパネルを示します。一覧からダイアログボックスを選択すると、そのダイアログボックスに関する情報を表示できます。

270 ページの「[勘定科目] ダイアログボックス」

[ディメンションの編集] ダイアログボックス

- [ID] パネル
- [関数] パネル
- [範囲] パネル
- [一覧] パネル

274 ページの「[エンティティ] ダイアログボックス」

275 ページの「[ディメンションの管理] ダイアログボックス」

275 ページの「[展開機能の管理] ダイアログボックス」

276 ページの「[展開機能の管理 - 詳細設定] ダイアログボックス」

277 ページの「[Modify Query (クエリの変更)] ダイアログボックス」

277 ページの「[Open Query (クエリを開く)] ダイアログボックス」

278 ページの「[展開機能の設定] ダイアログボックス」

278 ページの「[データの視点] ダイアログボックス」

279 ページの「[名前を付けて保存] ダイアログボックス」

279 ページの「[サブ勘定科目 1] ダイアログボックス」

280 ページの「[サブ勘定科目 2] ダイアログボックス」

280 ページの「[非表示オプション] ダイアログボックス」

[勘定科目] ダイアログボックス

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

@ASK 関数、@ALL 関数、@SUB 関数、または@CHART 関数とともに使用するオプションの勘定科目を選択するために使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)

勘定科目をハイライトします。編集ボックスに勘定科目 ID またはラベルの最初の数文字を入力すると、これと一致する最初の勘定科目がハイライトされます。[入力勘定]、[算出勘定]、または [サブ勘定科目] のオプションを選択または選択解除して、一覧をフィルタできます。項目をダブルクリックして選択することもできます。

入力した文字に一致する前の項目を選択するには、[前を検索] アイコンをクリックします。入力した文字に一致する次の項目を選択するには [次を検索] アイコンをクリックします。


入力勘定、算出勘定、サブ勘定科目

勘定科目一覧に入力勘定科目、算出勘定科目、およびサブ勘定科目を含める場合にクリックします。

[ディメンションの編集] ダイアログボックス : [ID] パネル

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

個々のディメンション ID を列または行に割り当てるために使用します。


使用可能な項目、 (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)

[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。項目をダブルクリックして追加することもできます。編集ボックスに ID の最初の数文字を入力すると、これと一致する最初の項目をハイライトすることができます。

入力した文字に一致する前の項目を選択するには、[前を検索] アイコンをクリックします。入力した文字に一致する次の項目を選択するには [次を検索] アイコンをクリックします。

選択項目

[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。項目をダブルクリックして削除することもできます。

 (選択項目から削除)

[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。項目をダブルクリックして削除することもできます。

  (上に移動、下に移動)

[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

[ディメンションの編集] ダイアログボックス : [関数] パネル

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

個々のディメンション ID を列または行に割り当てるために使用します。


使用可能な項目、 (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)

[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。項目をダブルクリックして追加することもできます。編集ボックスに ID の最初の数文字を入力すると、これと一致する最初の項目をハイライトすることができます。

入力した文字に一致する前の項目を選択するには、[前を検索] アイコンをクリックします。入力した文字に一致する次の項目を選択するには [次を検索] アイコンをクリックします。

選択項目

[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。項目をダブルクリックして削除することもできます。

 (選択項目から削除)

[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。項目をダブルクリックして削除することもできます。

  (上に移動、下に移動)





[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

[ディメンションの編集] ダイアログボックス : [範囲] パネル

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。


連続したディメンション ID の範囲を列または行に割り当てるために使用します。

注： 勘定科目、原価中心点、製品、期間、および追加のディメンションの範囲を割り当てることができます。フィールド、通貨単位、および表示形式を編集するためのダイアログボックスには [ID] パネルのみがあります。

使用可能な項目、  (開始、Until (終了))、  (前を検索、次を検索)

[使用可能な項目] リストの範囲の最初の勘定科目をハイライトして、[開始] アイコンをクリックします。[使用可能な項目] リストの範囲の最後の勘定科目をハイライトして、[Until (終了)] アイコンをクリックします。勘定科目をダブルクリックして選択することもできます。

入力した文字に一致する前の勘定科目を選択するには、[前を検索] アイコンをクリックします。入力した文字に一致する次の勘定科目を選択するには [次を検索] アイコンをクリックします。


 (選択項目に追加)

[選択項目] リストに範囲を追加する場合に選択します。

ヒント： [使用可能な項目] リスト内の一連の連続した勘定科目をハイライトして、それらの勘定科目を範囲として選択できます。

選択項目

[選択項目] リストの 1 つまたは複数の勘定科目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。項目をダブルクリックして削除することもできます。

 (選択項目から削除)

[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。項目をダブルクリックして削除することもできます。

  (上に移動、下に移動)





[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

[ディメンションの編集] ダイアログボックス：[一覧] パネル

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

連続したディメンション ID の範囲を列または行に割り当てるために使用します。

注： 勘定科目、原価中心点、製品、期間、および追加のディメンションの範囲を割り当てることができます。フィールド、通貨単位、および表示形式を編集するためのダイアログボックスには [ID] パネルのみがあります。

使用可能な項目、  (開始、Until (終了))、  (前を検索、次を検索)

[使用可能な項目] リストの範囲の最初の勘定科目をハイライトして、[開始] アイコンをクリックします。[使用可能な項目] リストの範囲の最後の勘定科目をハイライトして、[Until (終了)] アイコンをクリックします。勘定科目をダブルクリックして選択することもできます。

入力した文字に一致する前の勘定科目を選択するには、[前を検索] アイコンをクリックします。入力した文字に一致する次の勘定科目を選択するには [次を検索] アイコンをクリックします。

(選択項目に追加)

[選択項目] リストに範囲を追加する場合に選択します。

ヒント： [使用可能な項目] リスト内の一連の連続した勘定科目をハイライトして、それらの勘定科目を範囲として選択できます。

選択項目

[選択項目] リストの1つまたは複数の勘定科目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。項目をダブルクリックして削除することもできます。

(選択項目から削除)

[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。項目をダブルクリックして削除することもできます。

(上に移動、下に移動)

[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

[エンティティ] ダイアログボックス

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

@ALL 関数、@BAS 関数、@CON 関数、または@DEP 関数とともに使用するオプションのエンティティを選択するために使用します。

使用可能な項目、 (前を検索、次を検索)

[使用可能な項目] リストからエンティティを選択します。編集ボックスにエンティティの最初の数文字を入力すると、これと一致する最初の項目がハイライトされます。[使用可能な項目] リストは、[親エンティティ]、[最下位エンティティ]、および [サブエンティティ] オプションを選択または選択解除することによってフィルタできます。

入力した文字に一致する前の項目を選択するには、[前を検索] アイコンをクリックします。入力した文字に一致する次の項目を選択するには [次を検索] アイコンをクリックします。

親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ

エンティティ一覧に親エンティティ、最下位エンティティ、およびサブエンティティを含める場合に選択します。デフォルトでは、3つすべてのオプションが選択されています。

[ディメンションの管理] ダイアログボックス

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

クエリに表示されるディメンションを選択するために使用します。クエリでディメンションをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、ディメンション ID を選択します。例えば、勘定科目ディメンションをクリックして、勘定科目を選択します。

注： Microsoft Excel ではディメンションアイコンがクエリに表示されます。

ディメンションの表示

ディメンションをハイライトして、クエリにディメンションを表示する場合はチェックボックスをオンにします。クエリでディメンションを非表示にする場合はチェックボックスをオフにします。

注： 製品ディメンションと勘定科目ディメンションは常にクエリに表示されます。

説明の表示

表示または非表示にする説明に関連付けられているディメンションをハイライトして、クエリに説明を表示する場合は、そのディメンションのチェックボックスをオンにします。クエリで説明を非表示にする場合は、チェックボックスをオフにします。

ID の表示

表示または非表示にするディメンション ID のディメンションをハイライトして、クエリに ID を表示する場合は、そのディメンションのチェックボックスをオンにします。クエリで ID を非表示にする場合は、チェックボックスをオフにします。

すべてを展開

子を表示するディメンションをハイライトして、そのディメンションを展開する場合にすべての子を表示するにはチェックボックスをオンにします。展開時に次のレベルの子のみを表示するにはチェックボックスをオフにします。

関連項目

[ディメンションの管理](#)




[展開機能の管理] ダイアログボックス

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

ディメンションを展開したときに表示される詳細情報を指定するために使用します。

Dimension

展開機能を管理するディメンションを選択します。

展開機能の設定、 (新規の親)、 (親の削除)、 (親の編集)

選択したディメンションの既存の展開機能の設定を表示します。

前に展開

Hyperion Analyst ワークシートの親の合計の前に詳細データを表示する場合に選択します。

詳細設定

[展開機能の管理 - 詳細設定] ダイアログボックスを表示して展開機能の設定の情報を管理する場合に選択します。

注： このダイアログボックスの [展開タグ] は Hyperion OnTrack でのみ使用されます。

[展開機能の管理 - 詳細設定] ダイアログボックス

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

展開機能の設定についての情報が含まれている EXPAND.DAT テキストファイルを抽出する、または読み込む場合、すべての展開機能の設定を削除する場合、または Hyperion Analyst で使用する Hyperion OnTrack の展開機能の設定の定義を変換する場合に使用します。EXPAND.DAT ファイルは、Hyperion Solutions 製品のアプリケーションディレクトリ内にあります。

読込

EXPAND.DAT ファイルを読み込んで、このファイルから展開機能の設定の定義を作成する場合に選択します。

抽出

既存の展開機能の設定の定義を EXPAND.DAT テキストファイルに抽出する場合に選択します。

変換

Hyperion Analyst とともに使用される Hyperion OnTrack の関係の定義を変換する場合に選択します。

すべて削除

「[読込] または [変換] ボタンを使用する前に、すべてのディメンションのすべての展開機能の設定を削除する場合に選択します。

「[Modify Query (クエリの変更)]」 ダイアログボックス

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

Hyperion Analyst ワークシートで表示するデータのディメンションを指定する場合、およびワークシートの視点、列、および行にディメンションを割り当てる場合に使用します。

Worksheet POV (ワークシート POV)

Hyperion Analyst ワークシートのデフォルトのディメンション ID を表示します。デフォルトのディメンション ID によって、ワークシートの視点が構成されます。この領域のディメンションアイコンをダブルクリックすると、そのディメンションのワークシートの視点を変更できます。また、ディメンションアイコンをこの領域から [列] または [行] の領域にドラッグすることもできます。

列

列のディメンション ID を表示します。各ディメンションに複数の ID を選択できます。ディメンションアイコンをダブルクリックして、そのディメンションの ID を変更できます。また、ディメンションをこの領域から [Worksheet POV (ワークシートの視点)] または [行] の領域にドラッグすることもできます。

行

行のディメンション ID を表示します。各ディメンションに複数の ID を選択できます。ディメンションアイコンをダブルクリックして、そのディメンションの ID を変更できます。また、ディメンションをこの領域から [Worksheet POV (ワークシートの視点)] または [列] の領域にドラッグすることもできます。

閉じる

変更内容を保存して Hyperion Analyst ワークシートに戻る場合に選択します。

関連項目

[ワークシートの視点の変更](#)

「[Open Query (クエリを開く)]」 ダイアログボックス

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

既存のクエリを開くために使用します。[Analyst] メニューから [Open Query (クエリを開く)] を選択してこのダイアログボックスを表示します。

注： Microsoft Excel のワークシートを開くには、[ファイル] メニューから表示する [開く] ダイアログボックスを使用します。

ファイル名

クエリのファイル名を選択します。ファイル名または拡張子、あるいはその両方を編集ボックスに入力して [ファイル名] リストをフィルタできます。ファイル名と拡張子にワイルドカード文字を使用することもできます。

ファイルの種類

ファイルの種類を選択して、[ファイル名] リストをフィルタします。

ディレクトリ

一覧表示するクエリを含むディレクトリを選択します。

ドライブ

一覧表示するクエリを含むドライブを選択します。

ネットワーク

[Network-Drive Connections (ネットワークドライブ接続)] ダイアログボックスを表示する場合に選択します。このダイアログボックスを使用して、一覧表示するクエリを含むサーバに接続できます。

【展開機能の設定】 ダイアログボックス

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

展開機能の設定を作成または編集するために使用します。

[展開機能の設定] ダイアログボックスのパネルは、作成または編集する展開機能の設定のディメンションによって異なります。また、[ディメンションの編集] ダイアログボックスのパネルと同じです。

関連項目

[\[ディメンションの編集\] ダイアログボックス](#)

【データの視点】 ダイアログボックス

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

ディメンションのワークシートの視点を設定するために使用します。

ディメンションのタブをクリックして、そのディメンションの現在のワークシートの視点の ID を選択します。

関連項目

[ワークシートの視点の変更](#)

[名前を付けて保存] ダイアログボックス

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

クエリを別のファイル名やパスで保存する場合、または別のサーバ上に保存する場合に使用します。[Analyst] メニューから [Save Query As (クエリに名前を付けて保存)] を選択してこのダイアログボックスを表示します。

注： Microsoft Excel のワークシートを保存するには、[ファイル] メニューから表示する [名前を付けて保存] ダイアログボックスを使用します。

ファイル名

クエリのファイル名を入力します。

ファイルを種類別に保存

クエリのファイル名の拡張子を選択します。デフォルトの拡張子は、.HAQ です。

ディレクトリ

クエリを保存するディレクトリを選択します。

ドライブ

クエリを保存するドライブを選択します。

ネットワーク

[Network-Drive Connections (ネットワークドライブ接続)] ダイアログボックスを表示する場合に選択します。このダイアログボックスを使用して、クエリを保存するために別のネットワークサーバを選択できます。

[サブ勘定科目 1] ダイアログボックス

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

@ALL 関数または@ASK 関数とともに使用するオプションの第 1 レベルのサブ勘定科目表を指定するために使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)

サブ勘定科目表を選択します。編集ボックスにサブ勘定科目表 ID またはラベルの最初の数文字を入力すると、これと一致する最初のサブ勘定科目表がハイライトされます。項目をダブルクリックして選択することもできます。

入力した文字に一致する前の項目を選択するには、[前を検索] アイコンをクリックします。入力した文字に一致する次の項目を選択するには [次を検索] アイコンをクリックします。

[サブ勘定科目 2] ダイアログボックス

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

@ALL 関数または@ASK 関数とともに使用するオプションの第 2 レベルのサブ勘定科目表を指定するために使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)

サブ勘定科目表を選択します。編集ボックスにサブ勘定科目表 ID またはラベルの最初の数文字を入力すると、これと一致する最初のサブ勘定科目表がハイライトされます。項目をダブルクリックして選択することもできます。

入力した文字に一致する前の項目を選択するには、[前を検索] アイコンをクリックします。入力した文字に一致する次の項目を選択するには [次を検索] アイコンをクリックします。

[非表示オプション] ダイアログボックス

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

特定の状況で列または行を非表示にするオプションを選択または選択解除するために使用します。次の表に、非表示オプションを示します。

オプション	非表示にする列または行
ゼロは非表示	ゼロのみを含んでいる列または行、およびデータを含んでいない列。
データなしは非表示	データを含んでいない列または行。
エラーは非表示	エラーのみを含んでいる列または行。
ゼロによる除算は非表示	ゼロ値による除算が行われる列または行。

この章の内容

アドインファイル	282
[Retrieve] メニュー	282
オンラインヘルプへのアクセス	283
ワークシートの更新	283
アプリケーションへのデータの保存	284
Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点の変更	284
値の貼り付け	286
アプリケーションを開く	286
Hyperion Retrieve for Reporting の計算式	286
Hyperion Retrieve for Reporting の関数	287
ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ	299

Hyperion Retrieve for Reporting は、Microsoft Excel のアドインソフトウェアです。このアドインを使って Hyperion Solutions 製品のアプリケーションと Excel ワークシートの間でデータをやり取りすることができます。Hyperion Retrieve for Reporting を使用すると、Excel ワークシートから Hyperion Enterprise アプリケーションにデータを保存することもできます。

Hyperion Retrieve for Reporting を使用すると、スプレッドシートプログラムが持つ分析、作図、表示などの機能を利用して Hyperion Solutions 製品のアプリケーションからのデータをカスタム処理できます。Hyperion Retrieve for Reporting の関数は、Excel のセルの内容を定義するためのものです。これによってアプリケーションからのデータをスプレッドシートに簡単に読み込んで処理できます。

Hyperion Retrieve for Reporting はアプリケーション内のすべての数値データとテキストデータへのアクセスに使用できます。Hyperion DataExtend を使って作成したローカル見出しやコメントにもアクセスできます。複数の Hyperion Solutions 製品やアプリケーションからのデータを 1 つのスプレッドシートに取り込むことができます。

Hyperion Retrieve for Reporting を Hyperion Analyst と合わせて使用することもできます。従って、Hyperion Analyst のクエリを Hyperion Retrieve for Reporting の計算式の作成に利用できます。

アドインファイル

Hyperion Retrieve for Reporting を実行するには、スプレッドシートプログラムにアドインファイルを追加する必要があります。

Microsoft Excel 用のアドインファイルのロードまたはアンロード

Microsoft Excel 用のアドインファイルをインストールすると、そのアドインファイルがロードされ、Excel を起動したときいつでも Hyperion Retrieve for Reporting が使用できるようになります。スプレッドシートプログラムを起動しても Hyperion Retrieve for Reporting を使用しない場合は、アドインファイルをアンロードできます。

Microsoft Excel 用のアドインファイルのインストール

- ▶ Microsoft Excel 用のアドインファイルをインストールするには、次の手順に従います。
 - 1 [ツール] メニューの [アドイン] を選択します。
 - 2 [参照] ボタンをクリックします。
 - 3 Hyperion Solutions ディレクトリ内の CDA ディレクトリに移動します。
 - 4 [RETXL32.XLL] をクリックします。
 - 5 [OK] をクリックします。
 - 6 [OK] をクリックします。

Microsoft Excel 用のアドインファイルのアンロード

- ▶ Microsoft Excel 用のアドインファイルをアンロードするには、次の手順に従います。
 - 1 [ツール] メニューの [アドイン] を選択します。
 - 2 Hyperion Retrieve for Reporting の隣のチェックボックスをオフにして、アドインの選択を解除します。
 - 3 [OK] をクリックします。

[Retrieve] メニュー

Hyperion Retrieve for Reporting アドインファイルを Microsoft Excel にロードすると、[Retrieve] メニューがメニューバーに表示されます。次の表に、[Retrieve] メニューのコマンドを示します。[ヘルプ] メニューのコマンドについては、[283 ページの「オンラインヘルプへのアクセス」](#)を参照してください。

表 54 [Retrieve] メニューのコマンド

コマンド	用途
更新	ワークシートを Hyperion Solutions 製品のアプリケーションからの新しいデータまたは変更されたデータで更新します。
保存	ワークシートのデータを Hyperion Enterprise アプリケーションに保存します。
Change POV（データの視点の変更）	Hyperion Retrieve for Reporting のディメンションのデータの視点を変更します。
Paste Value（値の貼り付け）	Hyperion Solutions 製品のアプリケーションからワークシートの選択されたセルに値を貼り付けます。
Open Applications（アプリケーションを開く）	Hyperion Solutions 製品のアプリケーションを開きます。

オンラインヘルプへのアクセス

Hyperion Retrieve for Reporting のヘルプには、このガイド内の手順に関する情報が記載されています。また、Hyperion Retrieve for Reporting の各ダイアログボックスからオンラインヘルプに直接アクセスすることもできます。Hyperion Retrieve for Reporting のヘルプには、次のいずれかの方法でアクセスできます。

- Hyperion Retrieve for Reporting 内から、[Retrieve] メニューの [目次] を選択して、目次にアクセスします。
- Hyperion Retrieve for Reporting 内から、[Retrieve] メニューの [ヘルプの検索] を選択して、ヘルプトピックを検索します。
- Hyperion Retrieve for Reporting の使用中に [F1] キーを押します。
- 任意のダイアログボックスの [ヘルプ] ボタンをクリックします。

ワークシートの更新

ワークシートを更新すると、Hyperion Solutions 製品の最新の値が読み込まれます。例えば、Hyperion Enterprise アプリケーションから値を取り込んだ後で、別のユーザがその値の一部をそのアプリケーションで変更したとします。ワークシートの更新によってアプリケーションから最新の値を取得して、ワークシートを最新の状態にできます。

注意 アクティブなワークシートを更新すると、最後に [Retrieve] メニューを使ってアプリケーションにデータを保存した後に行った変更がすべて上書きされます。

- ▶ ワークシートを更新するには、[Retrieve] メニューの [更新] を選択します。

アプリケーションへのデータの保存

Hyperion Retrieve for Reporting を Hyperion Enterprise アプリケーションとともに実行すると、ワークシートからアプリケーションにデータを保存できます。例えば、Hyperion Enterprise アプリケーションから売上の値を取り出し、その値をワークシートで入力または計算式によって変更する場合があります。そのようにして変更した売上の値をワークシートからアプリケーションに保存できます。

ワークシートを更新すると、Hyperion Retrieve for Reporting では一時メモリがクリアされ、CDAVAL 計算式を使用して Hyperion Solutions 製品アプリケーションの現在の値が生成されます。

ヒント： [Retrieve] メニューからデータを保存してもワークシート自体は保存されません。ワークシートを保存するには、Excel の [ファイル] メニューを使用します。

- ▶ アクティブなワークシートから Hyperion Solutions 製品のアプリケーションにデータを保存するには、[Retrieve] メニューの [保存] を選択します。

Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点の変更

Hyperion Retrieve for Reporting には計算式に適用されるデフォルトディメンションを設定するためのデータの視点があります。計算式はデータの視点のディメンション設定に基づいてアプリケーションから値を取得して計算します。このデータの視点には別の設定を指定できます。例えば、Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点の勘定科目が「0500」で、計算式に勘定科目が指定されていない場合は、勘定科目「0500」の値が取得されます。このデフォルト値に優先する値を指定する計算式を作成して、勘定科目を「0700」にすることができます。

Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点を変更すると、新しいデータの視点での値が直ちにワークシートに表示されます。例えば、Hyperion Retrieve for Reporting の勘定科目のデータの視点を「0500」から「0800」に変更すると、ワークシートに勘定科目「0800」のデータが表示されます。

Hdcdaret.ini ファイル

Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点は `hdcdaret.ini` ファイルから受け継がれます。Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点を初めて変更すると、`hdcdaret.ini` ファイルにその変更が対象のアプリケーションの名前の付いたセクションに保存されます。このファイルを直接編集して、Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点を変更できます。この変更はアプリケーションのデータの視点には影響しません。

次の表に、hdcdaret.ini ファイルの[MAIN]セクションで変更できる値を示します。これらの値では、Hyperion Retrieve for Reporting がワークシートでの変更を製品のデータベースに保存するかどうか、ワークシートに欠落している値の情報を表示するかどうか、端数を四捨五入するかどうかなどが制御されます。

表 55 Hdcdaret.ini ファイルのデータの視点の値

値	説明
CDAVAL_ AllowSave=1	CDAVAL 関数の両方向性を有効にします。
CDAVAL_ AllowSave=0	CDAVAL 関数の両方向性を無効にします。
CDALNK_ AllowSave=1	CDALNK 関数の両方向性を有効にします。
CDALNK_ AllowSave=0	CDALNK 関数の両方向性を無効にします。
MissingValue=1	データなしをゼロで、セルエラーを「エラー」でワークシートに表示します。
MissingValue=0	データの存在しないセルに「該当なし」を、エラーのあるセルには「エラー」をワークシートに表示します。
MissingValue=2	ワークシートで、データの存在しないセルにはゼロを、エラーのあるセルにもゼロを表示します。
ScaledValues=1	Hyperion 製品の中で値の四捨五入が使用されている場合に、ワークシートでの値も四捨五入して表示します。
ScaledValues=0	Hyperion 製品の中で値の四捨五入が使用されている場合でも、ワークシートでの値は四捨五入しないで表示します。

注： Hyperion Retrieve for Reporting と Hyperion Analyst を併用するときに、別々のデータの視点を使用できます。例えば、Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点ではデータ種別を Actual に、Hyperion Analyst ワークシートのデータの視点ではデータ種別を Budget に設定することが可能です。

- Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点を変更するには、次の手順に従います。
 - 1 ワークシートで、[Retrieve] メニューの [Change POV (データの視点の変更)] を選択します。
 - 2 ディメンションのタブを選択します。
 - 3 そのディメンションのデータの視点の設定を選択します。
 - 4 [OK] をクリックします。

値の貼り付け

[Paste Value (値の貼り付け)] メニューコマンドは、Hyperion Retrieve for Reporting の計算式をセルに挿入するために使用します。挿入した計算式では、CDAVAL 関数を使用して、データの視点の値が取得されます。Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点に優先するデータの視点の値を指定できます。CDAVAL 関数について詳しくは、[298 ページの「CDAVAL - Hyperion アプリケーションからの値の表示」](#)を参照してください。

- ▶ 値を貼り付けるには、次の手順に従います。
- 1 値を挿入するワークシートのセルで、[Retrieve] メニューの [Paste Value (値の貼り付け)] を選択します。
- 2 その値のデータの視点を選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

アプリケーションを開く

Hyperion Solutions 製品のアプリケーションを開いて Hyperion Retrieve for Reporting でデータを取得できるようにします。複数のアプリケーションを一度に開くことができます。例えば、Hyperion Enterprise アプリケーションの Tax と Legal を開いて、両方のアプリケーションからのデータを 1 つのワークシートに読み込んで使用できます。

Hyperion Retrieve for Reporting を Hyperion Analyst の使用中にロードした場合は、Hyperion Analyst で開いたアプリケーションが Hyperion Retrieve for Reporting でも開いています。Hyperion Retrieve for Reporting のメニューを使って追加のアプリケーションを開くことができます。

- ▶ アプリケーションを開くには、次の手順に従います。
- 1 ワークシートで、[Retrieve] メニューの [アプリケーションを開く] を選択します。
- 2 現在開いているアプリケーションがあって、追加のアプリケーションを開く場合は、[その他] をクリックします。
- 3 画面での指示に応じて、次の操作を行います。
 - 使用する Hyperion アプリケーションに応じて、Hyperion Solutions の製品とアプリケーションセットまたはレポートアプリケーション名を選択します。
 - そのアプリケーション用のユーザ名とパスワードを入力します。
 - [OK] をクリックします。

Hyperion Retrieve for Reporting の計算式

Hyperion Retrieve for Reporting では、Hyperion Solutions 製品アプリケーションからデータを取得して計算するために関数とパラメータを含む計算式を使用します。ワークシートのセルに値を挿入するときには、CDAVAL 関数を使用する計算式が Excel の計算式バーに表示されます。計算式の入力や編集もできます。

注： Excel では、関数の貼り付けオプションを選択して Hyperion Retrieve for Reporting 計算式を作成できます。関数の貼り付け方法については、Microsoft Excel のオンラインヘルプを参照してください。

Hyperion Retrieve for Reporting の計算式は、Hyperion Retrieve for Reporting の関数とそれに続く次の項目から構成されます。

- Hyperion Solutions 製品名
- アプリケーションセット名またはレポートアプリケーション名
- アプリケーション名
- 関数の持つその他のパラメータ

例えば、次の例は指定されたディメンション設定の説明を表示する CDADES 関数の計算式です。

CDADES("Enterprise:Tax","CAT ACTUAL ENT USA")

CDADES 関数の後には Hyperion 製品名、アプリケーションセット名、データ種別名、エンティティ名が続いています。この計算式は次のテキストを表示します。

Actual Data United States Operations

個々の関数のパラメータと書式については、[287 ページの「Hyperion Retrieve for Reporting の関数」](#)を参照してください。

Hyperion Retrieve for Reporting の関数

次の表に、Hyperion Solutions 製品アプリケーションからデータを取得して計算するための計算式で使用する Hyperion Retrieve for Reporting の関数を簡単に示します。

表 56 Hyperion Retrieve for Reporting の関数

関数	説明
CDABET	2 つの値を比較してその結果を正または負の数値で表示します。
CDACAL	指定されたデータの視点が計算された値を持っている場合は 1 を返し、そうでない場合は-1 を返します。
CDACHG	2 つの値の差を表示します。
CDADES	指定されたディメンション設定の説明を取得します。
CDAINP	指定されたデータの視点が入力のデータの視点であれば 1 を返し、そうでない場合は-1 を返します。
CDAKEY	ディメンション設定を変更するためのダイアログボックスの表示を選択できるプレースホルダを作成します。
CDALAB	指定されたディメンションの ID を取得します。
CDALNK	ワークシートの値を Hyperion Enterprise アプリケーションに書き込みます。

関数	説明
CDAPAB	指定された勘定科目の 2 つの値の差異率をパーセントで表示します。差異が正の場合はプラス記号 (+) を付けて表示され、負の場合はマイナス記号 (-) を付けて表示されます。
CDAPBE	資産や負債の 2 つの値の間の増減の割合をパーセントで表示します。
CDAPCH	2 つの値の間の変化率をパーセントで表示します。変化率が正の値であるか負の値であるかは評価しません。
CDAPCT	1 つの値のもう 1 つの値に対する寄与率を表示します。
CDASTR	見出し関数からのテキストを表示します。
CDAVAL	アプリケーションから値を取得して、その値を変更した場合はアプリケーションに変更を書き込めるようにします。

CDABET - 2 つの ID の値の比較

CDABET 関数では、ディメンション内の 2 つの ID の値が比較されます。他のディメンションの設定は Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点を適用します。例えば、CDABET 関数を使って May（5 月）と June（6 月）の値を比較できます。比較の結果は正または負の数値で表示されます。次の形式を使用します。

CDABET("Product:AppSet:Application","POV1","POV2")

変数	説明
Product	Hyperion Solutions 製品の名前。これは repeng.ini ファイルの DRIVERS または DRIVERS32 セクションでのその製品の名前に一致する必要があります。
AppSet	指定されている製品のアプリケーションセットの名前かレポートアプリケーションの名前。
Application	指定されている Hyperion 製品のアプリケーションの名前。
POV1	比較する第 1 の値を定義するディメンションとその ID。
POV2	比較する第 2 の値を定義するディメンションとその ID。

次の例は、計算式で Hyperion アプリケーションを指定するときに使用する正しい書式を示します。次の行が DRIVERS32 セクションにある場合は、計算式での製品の識別に「Enterprise」を使用します。

Enterprise=HPRED32.DLL,

CDABET の計算式の例

CDABET は計算式で指定されていないディメンション設定に Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点を適用します。例えば、次の計算式では Tax という Hyperion Enterprise アプリケーションの「Actual」と「Budget」の値を比較します。

CDABET("Enterprise:Tax","CAT ACTUAL","CAT BUDGET")

注： このシステムでは、勘定科目種別による値の差異を評価します。収入や資産の勘定科目を指定した場合は、最初の値よりも 2 番目の値が大きければ結果は負になります。費用や債務の勘定科目を指定した場合は、最初の値よりも 2 番目の値が大きければ結果は正になります。

CDACAL - 算出値からなるデータの視点かどうかをチェック

CDACAL 関数では、データの視点が算出値からなる場合は 1 が、そうでない場合は -1 が返されます。次の形式を使用します。

CDACAL("Product:AppSet:Application","POV")

変数	説明
Product	Hyperion Solutions 製品の名前。これは repeng.ini ファイルの DRIVERS または DRIVERS32 セクションでのその製品の名前に一致する必要があります。
AppSet	指定されている製品のアプリケーションセットの名前かレポートアプリケーションの名前。
Application	指定されている製品のアプリケーションの名前。
POV	データの視点を定義するディメンションと ID。

CDACAL の計算式の例

この例は、正しい書式の使用を示すものです。この例の Hyperion 製品のアプリケーションの USWEST エンティティでは、勘定科目の Total Sales は算出勘定なので、CDACAL は 1 を戻します。

CDACAL ("ENTERPRISE:DEMO" , " ENT US WEST CAT ACTUAL ALL TOTSALES")

CDACHG - 値の間の差の表示

CDACHG 関数では、2 つの値を比較してその差が表示されます。次の形式を使用します。

CDACHG("Product:AppSet:Application","POV1","POV2")

変数	説明
Product	Hyperion Solutions 製品の名前。これは repeng.ini ファイルの DRIVERS または DRIVERS32 セクションでのその製品の名前に一致する必要があります。
AppSet	指定されている製品のアプリケーションセットの名前かレポートアプリケーションの名前。
Application	指定されている製品のアプリケーションの名前。
POV1	比較する第 1 の値を定義するディメンションとその ID。

変数	説明
POV2	比較する第 2 の値を定義するディメンションとその ID。

次の例は、計算式で Hyperion アプリケーションを指定するときに使用する正しい書式を示します。次の行が DRIVERS32 セクションにある場合は、計算式での製品の識別に「Enterprise」を使用します。

```
Enterprise=HPRED32.DLL,
```

CDACHG の計算式の例

次の計算式では、Tax という Hyperion Enterprise アプリケーションの中のエンティティ USA と CANADA の値が比較されます。エンティティ以外のディメンションには、Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点が適用されます。

```
CDACHG("Enterprise:Tax","ENT USA","ENT CANADA")
```

CDADES - ディメンション設定の説明の表示

CDADES 関数は指定されたディメンション設定の説明を表示します。次の形式を使用します。

```
CDADES("Product:AppSet:Application","POV")
```

変数	説明
Product	Hyperion 製品の名前。これは repeng.ini ファイルの DRIVERS または DRIVERS32 セクションでのその製品の名前に一致する必要があります。
AppSet	指定されている製品のアプリケーションセットの名前かレポートアプリケーションの名前。
Application	指定されている製品のアプリケーションの名前。
POV	データの視点を定義するディメンションと ID。

次の例は、計算式で Hyperion アプリケーションを指定するときに使用する正しい書式を示します。次の行が DRIVERS32 セクションにある場合は、計算式での製品の識別に「Enterprise」を使用します。

```
Enterprise=HPRED32.DLL,
```

CDADES の計算式の例

次の CDADES の計算式では、Tax という Hyperion Enterprise アプリケーションの中の ACTUAL データ種別と USA エンティティの説明が表示されます。

```
CDADES("Enterprise:Tax","CAT ACTUAL ENT USA")
```

データ種別の説明は「Actual Data」、エンティティの説明は「United States Operations」です。表示される説明は次のようになります。

```
Actual Data United States Operations
```

CDAINP - 入力のデータの視点かどうかのチェック

CDAINP 関数では、指定したデータの視点が入力のデータの視点である場合は 1 が、そうでない場合は-1 が返されます。次の形式を使用します。

CDAINP("Product:AppSet:Application","POV")

変数	説明
Product	Hyperion Solutions 製品の名前。これは repeng.ini ファイルの DRIVERS または DRIVERS32 セクションでのその製品の名前に一致する必要があります。
AppSet	指定されている製品のアプリケーションセットの名前かレポートアプリケーションの名前。
Application	指定されている製品のアプリケーションの名前。
POV	データの視点を定義するディメンションと ID。

CDAINP の計算式の例

この例は、正しい書式の使用を示すものです。この場合は、Hyperion 製品アプリケーションの USWEST エンティティでは、Total Sales 勘定科目が入力勘定科目なので、CDACAL によって 1 が返されます。

CDACAL ("ENTERPRISE:DEMO" , " ENT US WEST CAT ACTUAL ALL TOTSALLES")

CDAKEY - ディメンション設定の変更

CDAKEY 関数では、ディメンション設定を変更するためのダイアログボックスの表示を選択できるプレースホルダが生成されます。CDAKEY の書式を使ってデフォルト値を設定します。

注： Excel では、Hyperion Analyst が Hyperion Retrieve for Reporting と一緒にロードされているときにのみダイアログボックスが表示されます。

次の形式を使用します。

CDAKEY("Product:AppSet:Application","Dimension ID")

変数	説明
Product	Hyperion Solutions 製品の名前。これは repeng.ini ファイルの DRIVERS または DRIVERS32 セクションでのその製品の名前に一致する必要があります。
AppSet	指定されている製品のアプリケーションセットの名前かレポートアプリケーションの名前。
Application	指定されている製品のアプリケーションの名前。
Dimension	ディメンションの名前。
ID	そのディメンションの ID。

次の例は、計算式で Hyperion アプリケーションを指定するときに使用する正しい書式を示します。次の行が DRIVERS32 セクションにある場合は、計算式での製品の識別に「Enterprise」を使用します。

```
Enterprise=HPRED32.DLL,
```

CDAKEY の計算式の例

次の計算式では、Tax という Hyperion Enterprise アプリケーションからのエンティティの ID として USA が表示されます。これはそのセルでプレースホルダとして機能します。

```
CDAKEY("Enterprise:Tax","ENT USA")
```

CDALAB - 指定されたディメンション上の ID の表示

CDALAB は指定されたディメンション上の ID を表示します。次の形式を使用します。

```
CDALAB("Product:AppSet:Application","POV")
```

変数	説明
Product	Hyperion Solutions 製品の名前。これは repeng.ini ファイルの DRIVERS または DRIVERS32 セクションでのその製品の名前に一致する必要があります。
AppSet	指定されている製品のアプリケーションセットの名前かレポートアプリケーションの名前。
Application	指定されている製品のアプリケーションの名前。
POV	データの視点を定義するディメンションと ID。

次の例は、計算式で Hyperion アプリケーションを指定するときに使用する正しい書式を示します。次の行が DRIVERS32 セクションにある場合は、計算式での製品の識別に「Enterprise」を使用します。

```
Enterprise=HPRED32.DLL,
```

CDALAB の計算式の例

次の計算式では、Tax という Hyperion Enterprise アプリケーションからのデータ種別とエンティティの ID が表示されます。

```
CDALAB("Enterprise:Tax","CAT ACTUAL ENT USA")
```

データ種別の説明は「Actual Data」、エンティティの説明は「United States」です。表示されるテキストは次のようになります。

```
ACTUAL USA
```

CDALNK - Hyperion アプリケーションへの値の転送

CDALNK 関数では、ワークシートから Hyperion Enterprise アプリケーションに値が転送されます。これは [Retrieve] メニューを使ってデータを保存するときに使用します。次の形式を使用します。

CDALNK("Product:AppSet:Application",Value,"POV")

変数	説明
Product	Hyperion Solutions 製品の名前。これは repeng.ini ファイルの DRIVERS または DRIVERS32 セクションでのその製品の名前に一致する必要があります。
AppSet	指定されている製品のアプリケーションセットの名前。 注： AppSet パラメータは Hyperion Essbase でのみ使用されます。AppSet パラメータは Hyperion Enterprise では使用されません。
Application	指定されている Hyperion Solutions 製品のアプリケーションの名前。
Value	数値またはセルの参照。
POV	データの視点を定義するディメンションと ID。これは Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点到優先します。

次の例は、計算式で Hyperion アプリケーションを指定するときに使用する正しい書式を示します。例えば、次の行が DRIVERS32 セクションにある場合は、計算式での製品の識別に「Enterprise」を使用します。

ENTERPRISE=HPRED32.DLL,

CDALNK の計算式の例

次の計算式では、Worldwide という Hyperion Enterprise アプリケーションから Tax というアプリケーションの勘定科目「0500」の'97年10月（OCT97）の値の場所にセル A20 の値が転送されます。

CDALNK("Enterprise:Worldwide:Tax",A20,"ACCOUNT 0500 PERIOD OCT97")

注： アプリケーション内のデータは、CDAVAL 計算式を含むセルで新しい値を入力することによって変更できます。詳しくは、[284 ページの「アプリケーションへのデータの保存」](#)を参照してください。

CDAPAB - 勘定科目の 2 つの値の差異率の表示

CDAPAB 関数では、指定した勘定科目の 2 つのデータ値の差異率が返されます。差異が正の場合はプラス記号 (+) を付けて表示され、負の場合はマイナス記号 (-) を付けて表示されます。

注： CDAPAB 関数では CDAPBE 関数とは違って、資産の増加は正の値に、負債の増加は負の値になります。

次の形式を使用します。

CDAPAB("Product:AppSet:Application"," Account" ,"Value1","Value2")

変数	説明
Product	Hyperion Solutions 製品の名前。これは repeng.ini ファイルの DRIVERS または DRIVERS32 セクションでのその製品の名前に一致する必要があります。
AppSet	指定されている製品のアプリケーションセットの名前かレポートアプリケーションの名前。
Application	アプリケーションの名前。
Account	勘定科目の名前。
Value1	最初の値を定義する計算式、数値、またはセル参照です。
Value2	2 番目の値を定義する計算式、数値、またはセル参照です。

次の例は、計算式で Hyperion アプリケーションを指定するときに使用する正しい書式を示します。次の行が DRIVERS32 セクションにある場合は、計算式での製品の識別に「Enterprise」を使用します。

Enterprise=HPRED32.DLL,

CDAPAB の計算式の例

例えば、Tax アプリケーションで 2001 年 10 月(October)と 2001 年 11 月(November)の「Cost of Goods Sold」という勘定科目の値の差異率を返すとしします。勘定科目名がワークシートのセル A5 に表示され、2001 年 11 月の値がセル D5 に、2001 年 10 月の値がセル C5 に、さらにアプリケーション名がセル A1 に表示されている場合は、次の計算式を使用してこの 2 つの値の差異率を返すことができます。

CDAPAB (A1,A5,D5,C5,)

CDAPAB 関数を使用すると、勘定科目と期間が同じでデータ種別またはエンティティの異なる 2 つの値の差異率を返すこともできます。たとえば、勘定科目を Cash に、期間を 2 月にして、データ種別 Actual と Last Year との間の値の差異率やエンティティ Italy と France との間の値の差異率を表示することができます。

注： 2 つの値の差異の評価方法は勘定科目の種類によって異なります。収益や負債の勘定科目を指定した場合、最初の値よりも 2 番目の値が大きければ結果は負になります。費用や資産の勘定科目を指定した場合は、最初の値よりも 2 番目の値が大きければ結果が正になります。

CDAPBE - 2 つの値の差異率の表示

CDAPBE 関数では、2 つの値の差異が正あるいは負の値で表示されます。次の形式を使用します。

CDAPBE("Product:AppSet:Application","POV1","POV2")

変数	説明
Product	Hyperion Solutions 製品の名前。これは repeng.ini ファイルの DRIVERS または DRIVERS32 セクションでのその製品の名前に一致する必要があります。
AppSet	指定されている製品のアプリケーションセットの名前かレポートアプリケーションの名前。
Application	指定されている製品のアプリケーションの名前。
POV1	比較する第 1 の値を定義するディメンションとその ID。
POV2	比較する第 2 の値を定義するディメンションとその ID。

次の例は、計算式で Hyperion アプリケーションを指定するときに使用する正しい書式を示します。次の行が DRIVERS32 セクションにある場合は、計算式での製品の識別に「Enterprise」を使用します。

Enterprise=HPRED32.DLL,

CDAPBE の計算式の例

例えば、次の計算式では、Tax という Hyperion Enterprise アプリケーションの期間 Q1 と Q2 を比較して、その差が正または負のパーセントで表示されます。期間以外のディメンションには、Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点に設定されているものが適用されます。

CDAPBE("Enterprise:Tax", "DAT Q1", "DAT Q2")

注： 2 つの値の差異の評価方法は勘定科目の種類によって異なります。収入や資産の勘定科目を指定した場合は、最初の値よりも 2 番目の値が大きければ結果は負になります。費用や債務の勘定科目を指定した場合は、最初の値よりも 2 番目の値が大きければ結果は正になります。

CDAPCH - 2 つの値の間の変化率の表示

CDAPCH 関数では、2 つの値の変化率が計算されますが、変化の方向が正か負かは評価されません。次の計算式が使用されます。

Value 1 - Value 2 x 100

Value 2

CDAPCH 関数は、勘定科目の種類に関係なく 2 期間での勘定科目の値の変化率を計算するときなどに使用します。また、同一期間の勘定科目間の値を、2 つの異なるデータ種別またはエンティティ間で比較するときにも使用できます。変化率を計算した結果が正の値であるか負の値であるかは評価されません。

次の形式を使用します。

CDAPCH("Product:AppSet:Application", " Value1", " Value2")

変数	説明
Product	Hyperion Solutions 製品の名前。これは <code>repeng.ini</code> ファイルの DRIVERS または DRIVERS32 セクションでのその製品の名前に一致する必要があります。
AppSet	指定されている製品のアプリケーションセットの名前かレポートアプリケーションの名前。
Application	アプリケーションの名前。
Value1	最初の値を定義する計算式、数値、またはセル参照です。
Value2	2 番目の値を定義する計算式、数値、またはセル参照です。

次の例は、計算式で Hyperion アプリケーションを指定するときに使用する正しい書式を示します。次の行が DRIVERS32 セクションにある場合は、計算式での製品の識別に「Enterprise」を使用します。

Enterprise=HPRED32.DLL,

CDAPCH の計算式の例

例えば、Tax アプリケーションの勘定科目で 2001 年 10 月 (October) と 2002 年 10 月 (October) の間の値の差異率を返すとします。2001 年 10 月 (October) の値がワークシートのセル D5 に表示されており、2000 年 10 月 (October) の値がセル C5 に表示されている場合、次の計算式を使用してこの 2 つの値の変化率を返すことができます。

CDAPCH ("TAX", D5, C5)

CDAPCT - 比率の計算

CDAPCT 関数では、1 つの値がもう 1 つの値の何パーセントであるかが計算されます。次の形式を使用します。

CDAPCT("Product:AppSet:Application","POV1","POV2")

変数	説明
Product	Hyperion Solutions 製品の名前。これは <code>repeng.ini</code> ファイルの DRIVERS または DRIVERS32 セクションでのその製品の名前に一致する必要があります。
AppSet	指定されている製品のアプリケーションセットの名前かレポートアプリケーションの名前。
Application	指定されている製品のアプリケーションの名前。
POV1	第 1 の値を定義するディメンションとその ID。
POV2	第 2 の値を定義するディメンションとその ID。

次の例は、計算式で Hyperion アプリケーションを指定するときに使用する正しい書式を示します。次の行が DRIVERS32 セクションにある場合は、計算式での製品の識別に「Enterprise」を使用します。

Enterprise=HPRED32.DLL,

CDAPCT の計算式の例

この計算式では、Tax という Hyperion Enterprise アプリケーション内のエンティティ NJ の値が USA の値の何パーセントであるかが表示されます。エンティティ以外のディメンションでは、Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点に設定されているものが適用されます。

CDAPCT("Enterprise:Tax","ENT NJ","ENT USA")

CDASTR - 見出し関数を使ったテキストの表示

CDASTR 関数では、Hyperion Solutions 製品の見出し関数を使用してテキストが表示されます。次の形式を使用します。

CDASTR("Product:AppSet:Application","POV","Function")

変数	説明
Product	Hyperion Solutions 製品の名前。これは repeng.ini ファイルの DRIVERS または DRIVERS32 セクションでのその製品の名前に一致する必要があります。
AppSet	指定されている製品のアプリケーションセットの名前かレポートアプリケーションの名前。
Application	指定されている製品のアプリケーションの名前。
POV	データの視点を定義するディメンションと ID。Hyperion Retrieve のデータの視点をそのまま適用する場合は、ディメンションと ID を指定しないで、二重引用符 ("") の間に何も入れずにおきます。
Function	指定したディメンションのテキストを取得する見出し関数。パラメータも含めます。

次の例は、計算式で Hyperion アプリケーションを指定するときに使用する正しい書式を示します。次の行が DRIVERS32 セクションにある場合は、計算式での製品の識別に「Enterprise」を使用します。

Enterprise=HPRED32.DLL,

CDASTR の計算式の例

次の計算式では、Tax という Hyperion Enterprise アプリケーション内の Canada というエンティティの通貨に関する説明が表示されます。

CDASTR("Enterprise:Tax","ENT CANADA","@CURCY(LONG)")

その通貨の説明が「Canadian Dollars」となっている場合は、次のようなテキストが表示されます。

Canadian Dollars

スプレッドシートのユーザがデータの視点を選択できるようにするには、次のような計算式を使用します。次の計算式が入ったセルをダブルクリックすると、デー

タの視点のディメンションの値を変更するためのダイアログボックスが表示されます。

CDASTR("Product:AppSet:Application","Function (Dimension)")

変数	説明
Product	Hyperion Solutions 製品の名前。これは repeng.ini ファイルの DRIVERS または DRIVERS32 セクションでのその製品の名前に一致する必要があります。
AppSet	指定されている製品のアプリケーションセットの名前かレポートアプリケーションの名前。
Application	指定されている製品のアプリケーションの名前かデータベースの名前。 Excel では、Hyperion Analyst が Hyperion Retrieve for Reporting と一緒にロードされているときにのみダイアログボックスが表示されます。
Function	指定したディメンションのテキストを取得する見出し関数。パラメータも含めます。
Dimension	ディメンション名。

次の計算式では、Tax という Hyperion Enterprise アプリケーションのデータの視点を変更するためのダイアログボックスを表示して、指定したデータの視点での勘定科目の ID が表示されます。

CDASTR("Enterprise:Tax", "", "@LAB(ACCOUNT) ")

CDAVAL - Hyperion アプリケーションからの値の表示

CDAVAL 関数では、Hyperion Solutions 製品アプリケーションからの値が表示されます。ワークシートに表示された値を変更し、[Retrieve] メニューを使ってアプリケーションにその変更を保存できます。次の形式を使用します。

CDAVAL("Product:AppSet:Application","Dimension1 ID1"[,...,"Dimension IDn"])

変数	説明
Product	Hyperion Solutions 製品の名前。これは repeng.ini ファイルの DRIVERS または DRIVERS32 セクションでのその製品の名前に一致する必要があります。
AppSet	指定されている製品のアプリケーションセットの名前。
Application	指定されている製品のアプリケーションの名前かデータベースの名前。
Dimension1	1 つ目のディメンション。Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点に優先します。
ID1	1 つ目のディメンションの ID。Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点に優先します。
Dimensionn	N 個目のディメンション。Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点に優先します。
IDn	N 個目のディメンションの ID。Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点に優先します。

次の例は、計算式で Hyperion アプリケーションを指定するときに使用する正しい書式を示します。例えば、次の行が DRIVERS32 セクションにある場合は、計算式での製品の識別に「Enterprise」を使用します。

ENTERPRISE=HPRED32.DLL,

CDAVAL の計算式の例

次の計算式では、Tax という Hyperion Enterprise アプリケーション内の United States というエンティティの PLNI という勘定科目の Actual の値が取得されます。指定されていないディメンションの設定には、Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点が適用されます。

CDAVAL("Enterprise:Tax","CAT ACTUAL ACC PLNI ENT USA")

CDAVAL 関数は、アプリケーションデータベースに値を保存するためにも使用できます。詳しくは、[284 ページの「アプリケーションへのデータの保存」](#)を参照してください。

ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ

この項では、Hyperion Retrieve ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプについて説明します。

方法

[アドインのロードまたはアンロード](#)

[アプリケーション内のレポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットの検索](#)

[Open Applications（アプリケーションを開く）](#)

[Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点の変更](#)

[値の貼り付け](#)

[アプリケーションへのデータの保存](#)

[Hyperion Retrieve for Reporting 関数への Enterprise Retrieve 関数の変換](#)

[ワークシートの再計算](#)

アドインのロードまたはアンロード

この項では、Microsoft Excel のアドインファイルをロードまたはアンロードする方法について説明します。

Microsoft Excel 用のアドインファイルのロードまたはアンロード

Hyperion Retrieve for Reporting を実行するには、スプレッドシートプログラムにアドインファイルを追加する必要があります。そのファイルはロードしたままにしておき、スプレッドシートプログラムを起動したときに常に Hyperion Retrieve for

Reporting を使用できるようにします。スプレッドシートプログラムを起動しても Hyperion Retrieve for Reporting を使用しない場合は、アドインファイルをアンロードできます。

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

- ▶ アドインファイルをロードするには、次の手順に従います。
 - 1 [ツール] メニューの [アドイン] を選択します。
 - 2 [参照] ボタンをクリックします。
 - 3 Hyperion Solutions ディレクトリ内の CDA ディレクトリに移動します。
 - 4 [RETXL32.XLL] をクリックします。
 - 5 [OK] をクリックします。
 - 6 [OK] をクリックします。
- ▶ アドインファイルをアンロードするには、次の手順に従います。
 - 1 [ツール] メニューの [アドイン] を選択します。
 - 2 [Hyperion Retrieve for Reporting] の隣のチェックボックスをオフにします。
 - 3 [OK] をクリックします。

アプリケーション内のレポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットの検索

- ▶ アプリケーション内のレポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットを検索するには、次の手順に従います。
 - 1 ツリー表示で、次のいずれかの操作を行います。
 1. レポートを検索するには、[レポート] タブをクリックし、[検索の範囲] グループボックスで [レポート] を選択します。
 2. レポートセットを検索するには、[レポート] タブをクリックし、[検索の範囲] グループボックスで [レポートセット] を選択します。
 3. パッケージを検索するには、[パッケージ] タブをクリックし、[検索の範囲] グループボックスで [パッケージ] を選択します。
 4. パッケージセットを検索するには、[パッケージ] タブをクリックし、[検索の範囲] グループボックスで [パッケージセット] を選択します。
 - 2 検索フィールドに、レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットの名前を入力します。
 - 3 (オプション) [クリア] をクリックしてデフォルトのツリー構造に戻します。

Open Applications (アプリケーションを開く)

概要

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

- ▶ アプリケーションを開きます。
- 1 ワークシートで、[Retrieve] メニューの [Open Applications (アプリケーションを開く)] を選択します。
- 2 現在開いているアプリケーションがあり、さらにアプリケーションを開く場合は、[その他] をクリックします。
- 3 画面の指示に応じて、次の操作を行います。
 - 使用する Hyperion アプリケーションに応じて、Hyperion Solutions の製品とアプリケーションセットまたはレポートアプリケーション名を選択します。
 - そのアプリケーション用のユーザ名とパスワードを入力します。
 - [OK] をクリックします。

Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点の変更

概要

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

- ▶ POV を変更するには、次の手順に従います。
- 1 ワークシートで、[Retrieve] メニューの [Change POV (データの視点の変更)] を選択します。
- 2 ディメンションのタブをクリックします。
- 3 そのディメンションのデータの視点の設定を選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

値の貼り付け

概要

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

- ▶ 値を貼り付けるには、次の手順に従います。
- 1 値を挿入するワークシートのセルで、[Retrieve] メニューの [Paste Value (値の貼り付け)] を選択します。
- 2 その値のデータの視点を選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

関連項目

[Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点の変更](#)

アプリケーションへのデータの保存

概要

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

- アプリケーションにデータを保存するには [Retrieve] メニューから [保存] を選択します。

注： データの変更内容を保存してもワークシート自体は保存されません。ワークシートを保存するには、Microsoft Excel の [ファイル] メニューを使用する必要があります。

Hyperion Retrieve for Reporting 関数への Enterprise Retrieve 関数の変換

概要

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

- Reporting 関数に変換するには、次の手順に従います。
 - 1 Retrieve for Reporting のアドインがまだ読み込まれていない場合は読み込みます。
 - 2 変換ユーティリティアドインを読み込みます (Excel の場合は、CONVERT32.XLA)。アドインを読み込む手順については、[299 ページの「Microsoft Excel 用のアドインファイルのロードまたはアンロード」](#)を参照してください。
 - 3 変換する関数を指定します。
 - 変換する特定の関数を選択するには、ワークシートで各関数をクリックしてドラッグします。
 - ワークシートまたはパッケージのすべての関数を選択するには、次のステップに進みます。
 - 4 [Retrieve] メニューの [変換] を選択します。
 - 5 次のオプションを選択します。
 - 変換するセルの範囲をワークシートで選択します。
 - ドライバを選択します。
 - Enterprise Retrieve の計算式でアプリケーション名が指定されていない場合に使用される、デフォルトのアプリケーションを選択します。
 - ここで選択した値を今後の変換のデフォルトとして使用するには、[Always Use These Values (これらの値を常に使用する)] チェックボックスをオンにします。
 - 6 [OK] をクリックします。

Hyperion Retrieve for Reporting の関数については、Hyperion Retrieve for Reporting のユーザガイドを参照してください。

ワークシートの再計算

概要

注： Hyperion Enterprise にのみ該当します。

- ▶ ワークシートを更新するには、[Retrieve] メニューの [更新] を選択します。

注： アクティブなワークシートを更新すると、最後に [Retrieve] メニューを使って [アプリケーションにデータを保存](#) した後に行った変更がすべて上書きされます。

ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ：補足

この項ではウィンドウとダイアログボックスのヘルプの補足情報を紹介します。

アプリケーションを開く - 概要

Hyperion Solutions 製品のアプリケーションを開いて Hyperion Retrieve for Reporting でデータを取得できるようにします。複数のアプリケーションを一度に開くことができます。例えば、Hyperion Enterprise アプリケーションの Tax と Legal を開いて、両方のアプリケーションのデータを 1 つのワークシートに読み込んで使用できます。

Hyperion Retrieve for Reporting を Hyperion Analyst の使用中にロードした場合は、Hyperion Analyst で開いたアプリケーションが Hyperion Retrieve for Reporting でも開いています。[Retrieve] メニューを使って追加のアプリケーションを開くことができます

Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点の変更 - 概要

Hyperion Retrieve for Reporting には計算式に適用されるデフォルトディメンションを設定するためのデータの視点があります。計算式はデータの視点のディメンション設定に基づいてアプリケーションから値を取得して計算します。このデータの視点には別の設定を指定できます。例えば、Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点の勘定科目が「0500」で、計算式に勘定科目が指定されていない場合は、勘定科目「0500」の値が取得されます。このデフォルト値に優先する値を指定する計算式を作成して、勘定科目を「0700」にすることができます。

Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点を上書きすると、新しいデータの視点での値がすぐにワークシートに表示されます。例えば、Hyperion Retrieve for Reporting の勘定科目のデータの視点を「0500」から「0800」に変更すると、ワークシートに勘定科目「0800」のデータが表示されます。

Hyperion Retrieve for Reporting では、Hyperion Solutions 製品のアプリケーションからデータの視点を継承します。Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点を変更しても、アプリケーションには影響が及びません。例えば、Hyperion Retrieve for

Reporting を使って Tax アプリケーションを開くと、そのアプリケーションのデータの視点設定はアクティブなワークシートに継承されます。Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点のデータ種別を変更しても、Tax アプリケーションのデータの視点は変更されません。

ワークシートを保存しても、Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点が保存されるわけではありません。例えば、データの視点の勘定科目として Sales を使ってワークシートを作成し、保存したとします。この場合、アプリケーションのデータの視点の勘定科目を Cash に変更して、ワークシートを開き直すと、Cash は Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点の勘定科目として継承されます。Sales の値を取得するには、Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点の勘定科目を変更するか、Sales 勘定科目を計算式で指定する必要があります。

注： Hyperion Retrieve for Reporting と Hyperion Analyst を併用するときに、別々のデータの視点を使用できます。例えば、Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点ではデータ種別を Actual に、Hyperion Analyst ワークシートのデータの視点ではデータ種別を Budget に設定することが可能です。

値の貼り付け - 概要

CDAVAL 関数を使用して特定のデータの視点の値を取得する Hyperion Retrieve for Reporting 計算式を作成するには、値をセルに貼り付けます。Hyperion Retrieve for Reporting のデータの視点に優先するデータの視点の値を指定できます。

アプリケーションへのデータの保存 - 概要

Hyperion Retrieve for Reporting を Hyperion Enterprise アプリケーションに対して実行すると、ワークシートからアプリケーションにデータを保存できます。例えば、Hyperion Enterprise アプリケーションから売上の値を取り出した後で、CDALNK 関数を使用するか、CDAVAL 計算式が含まれているセルに新しい値を入力することにより、ワークシートの値を変更したとします。そのようにして変更した売上の値をワークシートからアプリケーションに保存できます。

ワークシートを更新すると、Hyperion Retrieve for Reporting では一時メモリがクリアされ、CDAVAL 計算式を使用して Hyperion Solutions 製品アプリケーションの現在の値が生成されます。

Hyperion Retrieve for Reporting の関数と計算式については、Hyperion Retrieve for Reporting のユーザガイドを参照してください。

Hyperion Retrieve for Reporting 関数への Enterprise Retrieve 関数の変換 - 概要

Hyperion Retrieve for Reporting ワークシートで変換ユーティリティを使用すると、Enterprise Retrieve 関数を Hyperion Retrieve for Reporting 関数に変換できます。関数を変換すると、Hyperion Retrieve for Reporting の追加機能を利用できるようになります。

Hyperion Retrieve for Reporting は、Hyperion Solutions のすべての製品と連動し、複数の Hyperion 製品のデータを同一のワークシートに取り込むことができます。Hyperion Retrieve for Reporting では、Hyperion Solutions アプリケーションのデフォルトのデータの視点も使用されます。そのため、Hyperion Solutions アプリケーションのデータの視点を上書きする場合を除き、計算式で要素を指定する必要はありません。

また、Enterprise Retrieve の各関数では単一のタスクのみを実行しますが、Hyperion Retrieve for Reporting の一部の関数では、複数の Enterprise Retrieve 関数のタスクが 1 つのタスクにまとめられています。

ワークシートの更新 - 概要

ワークシートを更新すると、Hyperion Solutions 製品の最新の値が読み込まれます。例えば、Hyperion Enterprise アプリケーションから値を取り込んだ後で、別のユーザがその値の一部をそのアプリケーションで変更したとします。ワークシートの更新によってアプリケーションから最新の値を取得して、ワークシートを最新の状態にできます。

この章の内容

Hyperion DataExtend について	307
Hyperion DataExtend の起動	308
Hyperion DataExtend の終了	309
システムメニュー	309
ツールバー	310
注釈とローカル見出しのフィールド	310
フィールドデータの読み込みと抽出	312
Hyperion DataExtend ヘルプの使用	315
Hyperion DataExtend オンラインガイドの表示と印刷	315
DataExtend ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ	316

この章では、Hyperion DataExtend を使用して注釈やローカル見出しのテキストを保存する方法について説明します。

Hyperion DataExtend について

Hyperion DataExtend は、各企業の詳細とローカルのヘッダーのテキストコメントを保存する Hyperion Enterprise 製品です。DataExtend の情報は Hyperion データベースとは別の.MDB ファイルに保存されます。

Hyperion DataExtend を使用すると、Hyperion Schedules にテキストを入力し、それをデータや見出しとしてレポートに含めることができます。Hyperion DataExtend は、Hyperion Enterprise Reporting に次の機能を追加します。

- 説明やコメントなどのテキストを入力する注釈機能
- レポート内の他のディメンション設定を基に個々のディメンションの説明を置換できるローカル見出し設定機能

カスタムフィールドを設定するには、Hyperion DataExtend と Hyperion Retrieve for Reporting を使用します。これらのフィールドは、期間、エンティティ、サブエンティティ、その他のディメンションごとに変えることができます。フィールドのテキストを Hyperion Schedules で入力して、そのテキストをレポート出力に含めることができます。

例えば、Notes1 というフィールドを作成して、異なるエンティティ、期間、およびデータ種別の Gross Margin 勘定科目に、増減の理由などの注釈を追加できます。レポートの行または列に Notes1 フィールドを挿入してから、Hyperion Schedules を

使用して、エンティティと期間ごとの売上総利益率の結果に注釈を入力します。次に、その注釈を含むレポートを実行します。

テキストフィールドを割り当て、データの視点やレポートの他のディメンションに応じてディメンションの説明を置き換えることができます。例えば、勘定科目のチャートに勘定科目「Product 1 Sales」があるとします。Product 1 は Eastern Division ではプリンタを表しますが、Western Division ではモデムを表します。そのような場合、Local Accounts（ローカル勘定科目）というフィールドを作成して、組織の別のエンティティ用に勘定科目の別の説明を保存できます。Product 1 Sales の場合、Eastern Division はローカルの説明「Printer Sales」を使用し、Western Division は「Modem Sales」という説明を使用できます。

注釈やローカル見出しは、Hyperion Enterprise Reporting、Hyperion Retrieve for Reporting、および Hyperion Analyst で使用できます。次の表に、注釈およびローカル見出しを使用する際のタスクおよびそのタスクを行う場所を示します。

表 57 注釈とローカル見出しのタスク

タスク	用途
Hyperion DataExtend	注釈またはローカル見出しに使用するフィールドを設定します。
Hyperion Schedules	注釈やローカル見出しのテキストを入力します。詳しくは、 第 16 章「Hyperion Schedules」 を参照してください。
Hyperion Enterprise Reporting	次のタスクを使用するレポートを作成します。 <ul style="list-style-type: none">Hyperion Schedules で、注釈機能およびローカル見出し設定機能のテキストを入力します。レポートに注釈やローカル見出しを含めます。
Hyperion Analyst	データを分析するときに注釈やローカル見出しを表示します。

Hyperion DataExtend の起動

Hyperion DataExtend を起動するには、Microsoft Windows 環境についての基本的な理解が必要です。Windows を使用したことがない場合は、Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。

Hyperion DataExtend をインストールすると、Hyperion DataExtend のアイコンが Hyperion Enterprise プログラムグループに追加されます。[Hyperion DataExtend] アイコンのプロパティによって、Windows のコマンド行フィールドに実行可能ファイルのパスが指定されます。

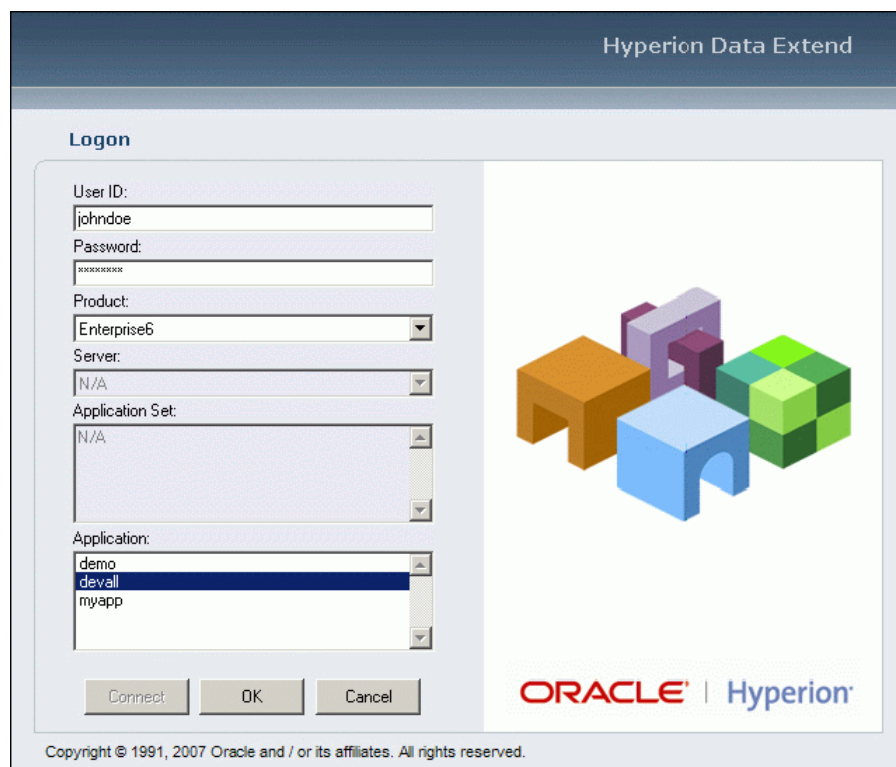
Hyperion DataExtend を起動したら、Hyperion Enterprise のアプリケーションを選択し、アプリケーションにアクセスするときのユーザ名とパスワードを指定します。Hyperion Enterprise でのユーザ名の変更手順については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。Hyperion Enterprise でのパスワードの変更手順については、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』を参照してください。

注： Hyperion DataExtend からの Hyperion Enterprise アプリケーションへのアクセスは一度に 1 つしかできません。

▶ Hyperion DataExtend を起動するには、次の手順に従います。

- 1 Windows で [Hyperion DataExtend] アイコンをダブルクリックします。

Hyperion DataExtend のログイン画面が表示されます。

The image shows the Hyperion Data Extend login window. It has a title bar that says "Hyperion Data Extend". Below the title bar is a "Logon" section. On the left side of the Logon section, there are several input fields: "User ID:" with the text "johndoe", "Password:" with masked characters, "Product:" with a dropdown menu showing "Enterprise6", "Server:" with a dropdown menu showing "N/A", "Application Set:" with a dropdown menu showing "N/A", and "Application:" with a list box containing "demo", "devall", and "myapp". At the bottom of the input fields are three buttons: "Connect", "OK", and "Cancel". On the right side of the Logon section, there is a graphic of four interlocking cubes in orange, purple, blue, and green. Below the graphic is the "ORACLE | Hyperion" logo. At the very bottom of the window, there is a small copyright notice: "Copyright © 1991, 2007 Oracle and / or its affiliates. All rights reserved."

- 2 有効なユーザ名とパスワードを入力します。

[接続] ボタンが選択可能になります。

- 3 [接続] ボタンをクリックします。

[アプリケーションセット] フィールドと [アプリケーション] フィールドに項目が表示されます。

- 4 Hyperion アプリケーションを 1 つ選択します。

- 5 [OK] をクリックします。

Hyperion DataExtend の終了

Hyperion DataExtend を終了して作業セッションを閉じ、Windows に戻ります。

▶ Hyperion DataExtend を終了するには、[ファイル] メニューの [終了] を選択します。

システムメニュー

Hyperion DataExtend で行うタスクの多くは、メニューからオプションを選択して行います。以下の項では Hyperion DataExtend のメニューを説明します。

【ファイル】メニュー

【ファイル】メニューオプションは、注釈やローカル見出しの読み込みや抽出、Hyperion Enterprise への切り替え、Hyperion DataExtend の終了などに使用します。

【編集】メニュー

【編集】メニューオプションは、【フィールドの編集】ダイアログボックスを表示して、注記やローカル見出しのフィールドを管理するために使用します。

【表示形式】メニュー

【表示形式】メニューオプションは、Hyperion DataExtend ウィンドウのツールバーやステータスバーの表示と非表示を切り替えるために使用します。




【ヘルプ】メニュー

【ヘルプ】メニューオプションは、Hyperion DataExtend のヘルプと『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』（.PDF）の表示、さらにはバージョン情報や著作権情報の表示に使用します。

ツールバー

ツールバーを使用すると、Hyperion DataExtend でよく使用されるメニュー項目にマウスを使用してすばやくアクセスできます。ツールバーは、メニューバーのすぐ下に表示されます。【表示】メニューの【ツールバー】オプションを選択または選択解除して、ツールバーの表示と非表示を切り替えます。次の表に、ツールバーアイコンを示します。

表 58 ツールバーのアイコン

アイコン	説明
	【読込】 ツールバーアイコンはテキストフィールドにデータを読み込むときに使用します。これは【ファイル】メニューの【読込】メニュー項目と同じ働きをします。
	【抽出】 ツールバーアイコンはテキストフィールドからデータを抽出するときに使用します。これは【ファイル】メニューの【抽出】メニュー項目と同じ働きをします。
	【フィールドの編集】 ツールバーアイコンは【フィールドの編集】ダイアログボックスを開いてテキストフィールドを編集するときに使用します。これは【編集】メニューの【フィールド】メニュー項目と同じ働きをします。

注釈とローカル見出しのフィールド

ローカル見出しと注釈のフィールドを設定するには、Hyperion DataExtend を使用します。作成したフィールドは、Hyperion Enterprise Reporting、Hyperion

Schedules、Hyperion Retrieve for Reporting、および Hyperion Analyst でフィールドディメンションとして使用できます。フィールドをレポートの列や行、データの視点に挿入して、そのレポートを Hyperion Schedules でデータの入力に使用したり、Hyperion Enterprise Reporting でのレポートの作成に使用したりできます。

数値しかサポートしない Hyperion Enterprise Reporting の普通のフィールドと違って、Hyperion DataExtend で作成したフィールドは文字列をサポートします。下にレポートでのフィールドデータの用途の例を示します。

- 注釈の作成。データの値、例えば異常値などにコメントを付けることができます。
- ローカル見出しの作成。製品の詳細説明を組織の中のエンティティごとに別々に用意できます。
- フィールドの管理。注釈やローカル見出しのフィールドを作成したり、要らなくなったものを削除したりできます。

フィールドの作成

Hyperion DataExtend で Hyperion のデータを補足するフィールドを作成します。フィールドは注釈のみに使用することも、レポートでの代替見出しに使用することもできます。フィールドの作成には、ODBC セットアップを使ってデータベースファイルをセットアップする必要があります。ローカル見出しや注釈は Hyperion Enterprise の外部データベースに保存されます。フィールドのデータには ODBC を介してアクセスします。

注： フィールドを作成した後に、その属性を変更することはできません。

フィールドを作成するときに、レポートでフィールドが変わる基準となるディメンションを定義します。これによって、そのフィールドをレポートのどこに配置するかが決まります。例えば、さまざまな期間や勘定科目のコメントを入力するには、期間と勘定科目で変わるフィールドを作成します。

► フィールドを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [Hyperion DataExtend] ウィンドウで [編集] メニューの [フィールド] を選択します。
- 2 [新規作成] アイコンを選択します。
- 3 フィールドの ID と説明を入力し、どのディメンションの値を可変にするかを選択します。
- 4 変更を保存するには、[適用] をクリックします。
- 5 各フィールドの作成で、手順の 2 から 4 を繰り返します。
- 6 フィールドの作成が終わったら、[閉じる] をクリックします。

フィールドの削除

フィールドは Hyperion データベースを補足するものですが、それが要らなくなったら、アプリケーションからフィールドを削除します。フィールドを削除すると、

そのフィールドに関連付けられているアプリケーションのデータがすべて削除されます。

- ▶ フィールドを削除するには、次の手順に従います。
- 1 [Hyperion DataExtend] ウィンドウで [編集] メニューの [フィールド] を選択します。
- 2 削除するフィールドを選択します。
- 3 [削除] アイコンをクリックし、[はい] をクリックしてフィールドを削除します。
- 4 削除するフィールドごとに、手順の 2 と 3 を繰り返します。
- 5 フィールドの削除が完了したら、[OK] をクリックします。

レポートでの DataExtend フィールドの使用

レポートで DataExtend フィールドを使用するには、次の手順に従います。

1. DataExtend でフィールドを作成します。311 ページの「フィールドの作成」を参照してください。
2. DataExtend で作成された Field ディメンションを含む Hyperion Enterprise Reporting でレポートを作成します。
3. Hyperion Enterprise Reporting のレポートを、データ入力表を使用して入力できるレポートセットに保存します。142 ページの「レポートセットまたはパッケージセットの作成」を参照してください。
4. Hyperion Schedules を起動し、Hyperion Enterprise Reporting で作成されたレポートを開き、データの視点を設定して、DataExtend フィールドを参照する行／列にデータまたはテキストを入力します。レポートを保存します。
5. Hyperion Enterprise Reporting を起動してレポートを実行すると、Schedules を使用して入力した DataExtend データが表示されます。

フィールドデータの読み込みと抽出

文字や数字を含むデータをテキストファイルから読み込んだり、テキストファイルに抽出したりできます。これは、フィールド、注記、ローカル見出しなどを簡単に追加したり、アプリケーション間で情報を共有したりするときに使用できます。フィールドデータの読み込みや抽出に使用するテキストファイルには次の 2 つのセクションが含まれます。

- 「FIELD DEFINITIONS」セクション。これは Hyperion DataExtend で定義したフィールドの属性です。
- 「DATA VALUES」セクション。これはそのフィールドのデータを構成する文字や数字です。

Field Definitions セクション

フィールドデータの読み込みや抽出に使用するファイルの「FIELD DEFINITIONS」セクションでは次の書式でフィールドが定義されます。

FIELD=ID
DESC=Description
TEXTFUNCTIONOVERRIDE=Function Override
READONLYIFCALCULATED=Read
TYPE=Text
DIMENSIONS=Dimensions

変数	説明
ID	フィールドの ID。
Description	フィールドの説明。
Function Override	None または@DES（ディメンション）。
Read	算出されたデータや連結処理されたデータのフィールドを読み取り専用にするには TRUE を、算出されたデータや連結処理されたデータに対してテキストエントリを可能するには FALSE を指定します。
Text	入力されたテキスト。
Dimensions	そのフィールドで値を可変にするディメンション。

Data Values セクション

フィールドデータの読み込みや抽出に使用するファイルの「DATA VALUES」セクションでは次の書式を使って個々のフィールドを定義します。

POV=Dimension1=ID1,Dimension2=ID2, Dimension=IDn,Field=FieldID
DATA=Text

変数	説明
Dimension1	そのフィールドで値を可変にする 1 番目のディメンション。ディメンションにはエンティティ、勘定科目、期間などがあります。
ID1	1 番目のディメンションの ID。例えば、Dimension1 が Account である場合は、ID1 は SALES です。
Dimension2	そのフィールドで値を可変にする 2 番目のディメンション。ディメンションにはエンティティ、勘定科目、期間などがあります。
ID2	2 番目のディメンションの ID。例えば、Dimension2 が Period である場合は、ID2 は FEB です。
Dimension	フィールドを可変にする最後のディメンション。ディメンションにはエンティティ、勘定科目、期間などがあります。
IDn	指定した最後のディメンションの ID。例えば、Dimension が SubAcc1 である場合は、IDn は EQUIP です。
FieldID	フィールドの ID。
Text	指定されたフィールドとディメンションに関連付けられているテキスト。

テキストファイルの例

次にフィールドデータ用のテキストファイルの例を示します。このファイルには「Comments」と「Results」という2つのテキストフィールドの定義とデータが含まれています。

```
[FIELD DEFINITIONS]
FIELD=Comments
DESC=Comments on data
TEXTFUNCTIONOVERRIDE=None
READONLYIFCALCULATED=True
TYPE=Text
DIMENSIONS=Entity,Account
FIELD=Results
DESC=Management information on data results
TEXTFUNCTIONOVERRIDE=None
READONLYIFCALCULATED=False
TYPE=Text
DIMENSIONS=Entity,Period
[DATA VALUES]
POV=Entity=CARO,Account=Sales,Field=Comments
DATA=See report7 for detailed results
POV=Entity=CARO,Account=Costsales,
Field=Comments
DATA=See report8 for detailed results
POV=Entity=UTAH,Account=Sales,Field=Comments
DATA=Code 224
POV=Entity=UTAH,Account=Costsales,
Field=Comments
DATA=Code 226
POV=Entity=CARO,Period=FEB,Field=Comments
DATA=note dramatic increase
POV=Entity=CARO,Period=MAR,Field=Comments
DATA=increase reported by JHOBBS
POV=Entity=UTAH,Period=FEB,Field=Comments
DATA=no change
POV=Entity=CARO,Period=MAR,Field=Comments
DATA=slight decrease, climate
```

フィールドデータの読み込み

Hyperion DataExtend を使用して、テキストファイルからアプリケーションのフィールドに英数字データを読み込むことができます。これは大量の注釈やローカル見出しをすばやく追加するための方法です。フィールドデータの読み込み元ファイルは、特定の形式に従う必要があります。新しいデータを読み込む前に、既存のデータを削除できます。詳しくは、この章の「フィールドデータの読み込みと抽出」の項を参照してください。

- ▶ フィールドデータを読み込むには、次の手順に従います。
- 1 [Hyperion DataExtend] ウィンドウで [ファイル] メニューの [読込] を選択するか、[読込] ツールバーアイコンを選択します。
- 2 フィールドデータを読み込むファイルのパスと名前を入力します。

ヒント： ファイルの名前や場所がわからない場合は、[参照] アイコンを選択して正しいパスを探し、ファイルを選択して [OK] をクリックします。

- 3 [適用] をクリックしてフィールドデータを読み込みます。

フィールドデータの抽出

アプリケーションからテキストファイルにフィールドデータを抽出して、他のアプリケーションと情報を共有できます。フィールドデータを抽出すると、テキストファイルに抽出される情報は特定の書式に従います。詳しくは、この章の「フィールドデータの読み込みと抽出」の項を参照してください。

► フィールドデータを抽出するには、次の手順に従います。

- 1 [Hyperion DataExtend] ウィンドウで [ファイル] メニューの [抽出] を選択するか、[抽出] ツールバーアイコンを選択します。
- 2 フィールドデータを抽出するファイルのパスと名前を入力します。

ヒント： ファイルの名前や場所がわからない場合は、[参照] アイコンを選択して正しいパスを探し、ファイルを選択して [OK] をクリックします。

- 3 [適用] をクリックしてフィールドデータを抽出します。

Hyperion DataExtend ヘルプの使用

Hyperion DataExtend ヘルプは Hyperion DataExtend の手順に関する情報を含んでいます。また、Hyperion DataExtend の各ウィンドウやダイアログボックスで直接オンラインヘルプを提供します。

1. 目次を表示するには、[ヘルプ] メニューの [目次] を選択します。
2. 特定のトピックに関する情報を探すには、[ヘルプ] メニューの [ヘルプの検索] を選択します。
3. ダイアログボックスに関する情報を表示するには、次のいずれかの操作を行います。
 - ダイアログボックスから [ヘルプ] を選択します。
 - ダイアログボックスから [F1] キーを押します。
 - [ヘルプ] メニューの [目次] を選択し、[ダイアログボックス] を選択して、目的のダイアログボックスを選択します。

Hyperion DataExtend オンラインガイドの表示と印刷

1. Hyperion DataExtend アプリケーションで [ヘルプ] メニューの [オンラインガイド (PDF)] を選択し、[ユーザーズガイド] を選択します。

注： 選択したガイドが Adobe Acrobat Reader プログラムで表示されます。

2. ガイドを印刷するには、次の手順に従います。

- Adobe Acrobat Reader で、[ファイル] メニューから [印刷] を選択します。
- [設定] を選択してプリンタと印刷オプションを選択し、[OK] をクリックします。

関連項目

[Hyperion DataExtend ヘルプの使用](#)

DataExtend ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ

Hyperion DataExtend のウィンドウとダイアログボックスのオプションについて説明しています。

ダイアログボックス

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

[316 ページの「\[フィールドの編集\] ダイアログボックス」](#)

[317 ページの「\[データの読込/抽出\] ダイアログボックス - \[読込\] パネル」](#)

[318 ページの「\[データの読込/抽出\] ダイアログボックス - \[抽出\] パネル」](#)

[フィールドの編集] ダイアログボックス

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

テキストフィールドの作成や削除に使用します。

フィールド

情報を表示するフィールドを選択するか、フィールドを削除します。



(新規作成)

新しいフィールドを作成する場合に選択します。



(削除)

選択したフィールドをシステムから削除する場合に選択します。

Field ID (フィールド ID)

新しいフィールドの ID を 8 文字以内で入力します。スペースと句読点は ID 文字として使用できません。

フィールドの説明

新しいフィールドの説明を 40 文字以内で入力します。スペースや句読点など、任意の文字を使用できます。

テキスト関数のオーバーライド

このフィールドは実装されていません。

算出ディメンション値を入力可能にする

算出または連結データセルにユーザが値を入力できるようにする場合に選択します。算出または連結ディメンション値とは、Hyperion Enterprise で算出された項目として定義された要素を指します。例えば、SALES 主要勘定科目は、そのサブ勘定科目の SALES.01 と SALES.02 の合計から導出されます。

ディメンション

テキストフィールドが変わる基準となるディメンションを選択します。

適用

新しいフィールドをデータベースに保存する場合に選択します。

[データの読込/抽出] ダイアログボックス - [読込] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

テキストファイルからテキストフィールドのデータを読み込む場合に使用します。

読込元ファイル名

テキストフィールドのデータを読み込むファイルのパスと名前を入力するか、[参照] アイコンを選択してパスとファイル名を選択します。

読込前に既存データを削除

テキストファイルから新しいデータを読み込む前にテキストフィールドの既存のデータを削除する場合に選択します。

適用

選択したファイルからテキストフィールドのデータを読み込む場合に選択します。

[データの読込/抽出] ダイアログボックス - [抽出] パネル

適用対象 :



テキストフィールドのデータをテキストファイルに抽出する場合に使用します。

抽出先ファイル名

テキストフィールドのデータの抽出先ファイルのパスと名前を入力するか、[参照] アイコンを選択してパスとファイル名を選択します。

適用

選択したファイルにテキストフィールドのデータを抽出する場合に選択します。

この章の内容

検索機能	320
データの視点バーのカスタマイズ	321
Hyperion Schedules の起動	321
Hyperion Schedules の終了	322
Hyperion Schedules のウィンドウ	323
システムメニュー	324
ツールバー	325
右マウスボタン	326
アプリケーションとデータの視点	326
ウィンドウ要素の表示／非表示	334
レポートを開く	335
データセルの調査の使用	335
セルの色の定義	336
設定変更の設定	337
注釈とローカル見出し	338
データ入力表	339
デフォルトのプリンタの変更	343
データのプレビュー	344
データの印刷	344
データの視点バーからのディメンションの削除	345
Hyperion Schedules with Validations	346
よく尋ねられる質問	372
Hyperion Schedules ヘルプ	373

Hyperion Schedules は、Hyperion Enterprise レポートまたは Hyperion Essbase レポートをデータ入力形式に変換するスプレッドシートインターフェイスを備えています。Hyperion Schedules を使用すると、Hyperion Enterprise Reporting で作成したレポートにデータを入力したり、データを変更したりすることができます。

例えば、列に勘定科目、行にエンティティを含むレポートを作成できます。その後、このレポートを Hyperion Schedules で開き、これらの勘定科目とエンティティのデータを変更できます。加えた変更は、レポートの構造を変更することはありませんが、Hyperion Enterprise または Hyperion Essbase データベースのデータに影響を与えます。

Hyperion Schedules では、注釈機能およびローカル見出し設定機能のテキストを入力することもできます。注釈機能とローカル見出し設定機能は、Hyperion Enterprise Reporting で実行するレポートの数値データを補足するものです。注釈機能は、データ結果やレポートの機能を高めるその他の情報に説明を提供します。ローカル見出しは、レポートまたはデータの視点で定義された他のディメンションに応じて、ディメンションの説明を置換できるテキストです。システム管理者によって定義された特別なテキストフィールドを持つ Hyperion Schedules のレポートに、注釈とローカル見出しのテキストを入力できます。

Hyperion Enterprise Reporting でレポート作成について詳しくは、Hyperion Enterprise Reporting のヘルプを参照してください。テキストフィールドについて詳しくは、Hyperion DataExtend のヘルプを参照してください。

検索機能

Hyperion Schedules の検索機能を使用すると、行見出しまたは列見出しでテキスト見出しを検索できます。テキスト見出しは、完全な名前でも名前の一部でも検索できます。検索機能を使用すると、一致するテキスト見出しが順番に検索されます。

- ▶ テキスト見出しを検索するには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Schedules のメインウィンドウで、[編集] メニューの [検索] を選択します。
- 2 [Find What (検索対象)] フィールドに、テキスト見出しの完全な名前または名前の一部を入力します。
- 3 [Search in Row Headings (行見出しを検索)] または [Search in Column Headings (列見出しを検索)] を選択し、[次を検索] をクリックします。

注： [検索] ダイアログボックスを終了するには、[閉じる] をクリックする必要があります。

Hyperion Schedules での非表示の行または列のソート

[Show Suppressed Rows (非表示の行の表示)] ダイアログボックスと [Show Suppressed Columns (非表示の列の表示)] ダイアログボックスで、行と列をアルファベット順にソートできます。HSCHE.D.INI ファイルを開き、次の情報を入力します。

```
[Default]
SortHiddenRowList=ON or SortHiddenRowList=OFF
SortHiddenColumnList=ON or SortHiddenColumnList=OFF
```

注： この機能はデフォルトではオフになっています。

データの視点バーのカスタマイズ

データの視点バーをカスタマイズして、ピクチャをオフにすることができます。テキストを名前や説明に変更することも、テキストなしにすることもできます。データの視点ディメンションに表示されるフォントを変更することもできます。データの視点バーのボタンを無効にするには、[Show Button (ボタンの表示)] で対応するディメンション名のボタンの選択を解除します。

データの視点バーを右マウスボタンでクリックすると、[データの視点バーのカスタマイズ] ダイアログボックスにアクセスするための浮動メニューが表示されます。

- ▶ データの視点バーをカスタマイズするには、[タスク] メニューの [データの視点バーのカスタマイズ] を選択します。

Hyperion Schedules の起動

Hyperion Schedules をインストールするときに、Hyperion Enterprise プログラムグループまたは Hyperion Essbase プログラムグループに Hyperion Schedules のアイコンを設定します。Hyperion Schedules アイコンのプロパティは、実行可能ファイルへのパスを指定します。

Hyperion Schedules を起動したら、Hyperion Solutions 製品とアプリケーションを選択し、次にアプリケーションを開くためのユーザ ID とパスワードを指定します。同時に使用できるアプリケーションは 1 つのみです。

- ▶ Hyperion Schedules を起動するには、次の手順に従います。

- 1 [Hyperion Schedules] アイコンをダブルクリックします。

Hyperion Schedules のログオン画面が表示されます。

- 2 有効なユーザ名とパスワードを入力します。
[接続] ボタンが選択可能になります。
- 3 [接続] ボタンをクリックします。
[アプリケーションセット] フィールドと [アプリケーション] フィールドに項目が表示されます。
- 4 データを変更する Hyperion Enterprise アプリケーションを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

Hyperion Schedules の終了

Hyperion Schedules を終了して作業セッションを終了し、Windows に戻ることができます。Hyperion Schedules を終了した後で、Windows での作業を続けることも DOS に移ることもできます。

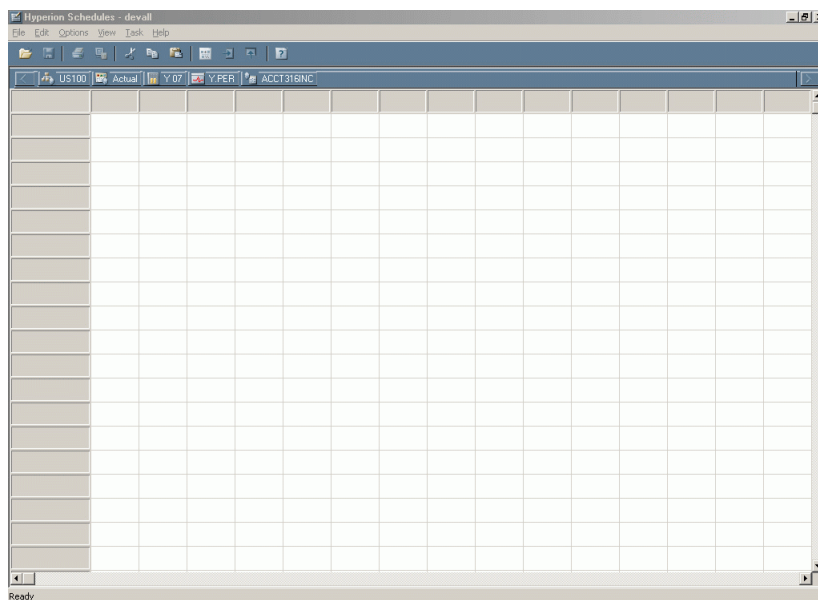
- Hyperion Schedules を終了するには、[ファイル] メニューの [終了] を選択します。

注： 変更内容を保存せずに終了しようとする、変更内容を保存するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。変更を保存する場合は、[はい] をクリックします。

Hyperion Schedules のウィンドウ

Hyperion Schedules は、データを入力または変更するための 1 つのウィンドウで構成されています。次の図に、Hyperion Schedules のウィンドウの一部を示します。

図 34 Hyperion Schedules のウィンドウ



ヘッダー領域には、レポートに定義したヘッダーが表示されます。レポートにヘッダーがない場合は、ヘッダー領域が Hyperion Schedules に表示されません。

フッター領域には、レポートに定義したフッターが表示されます。レポートにフッターがない場合は、フッター領域が Hyperion Schedules に表示されません。

行見出しは、レポートの行のディメンションを特定します。

列見出しは、レポートの列のディメンションを特定します。

データセルには、Hyperion Enterprise データベースからの値が表示されます。これらのセルでデータの入力や変更ができます。設定した色によって、セルの網掛けが設定されます。グリッド線は、列と行ごとにセルを分割します。

データセルを選択後、右マウスボタンをクリックすると、アクティブなレポートのデータの視点を選択したデータセルのデータの視点に変更できます。また、レポートを開いたり、調査を使用して選択したデータセルに関連するレポートを開いたりすることもできます。

タイトルバーは、Hyperion Schedules システムを識別します。レポートが開いている場合は、アクティブなレポートのファイル名もタイトルバーに表示されます。

メニューバーには、さまざまなタスクを実行するために使用できるメニューが一覧表示されます。

ステータスバーには、スプレッドシートで選択されている行や列など、現在のレポートに関する情報が表示されます。

ツールバーを使用すると、Hyperion Schedules でよく使用されるメニュー項目にマウスを使用してすばやくアクセスできます。

データの視点バーには、現在のセッションのデフォルトのディメンションが表示されます。Hyperion Schedules の [データの視点] ダイアログボックスにマウスを使用してすばやくアクセスできます。セッション中はいつでもデータの視点を変更できます。

システムメニュー

Hyperion Schedules でのタスクの実行にあたっては、マウスまたはキーボードを使用してメニューから項目を選択する必要があることが多々あります。使用できるメニュー項目は、Hyperion Schedules ウィンドウでの選択内容によって異なります。

[ファイル] メニュー

レポートの開閉や印刷、またデータベースに加えた変更の保存、Hyperion Schedules を終了する場合などに [ファイル] メニューを使用します。

[編集] メニュー

レポートのデータを変更したり、データの視点を設定したりするには、[編集] メニューを使用します。Hyperion Schedules では、データの切り取り、コピー、貼り付けを行うことができます。[編集] メニューで利用できる切り取り、コピー、貼り付け項目は、ウィンドウで選択した設定とクリップボードの内容によって異なります。

[オプション] メニュー

[オプション] メニューは、Hyperion Schedules タスクを実行する場合に使用します。[オプション] メニューから計算式を実行して、勘定科目の計算値を調べることができます。また、非表示になっている行や列を表示して、データを入力することも可能です。

[表示形式] メニュー

[表示形式] メニューは、ツールバー、データの視点バー、ステータスバー、グリッド線、ヘッダー領域、フッター領域を表示または非表示にする場合に使用します。

[ヘルプ] メニュー



[ヘルプ] メニューでは、Hyperion Schedules ヘルプ、バージョン情報、著作権情報にアクセスできます。

ツールバー

ツールバーを使用すると、Hyperion Schedules でよく使用されるメニューオプションにマウスを使用してすばやくアクセスできます。ツールは、メニューバーのすぐ下に表示されています。[表示形式] メニューの [ツールバー] オプションを選択または選択解除して、ツールバーの表示と非表示を切り替えます。

表 59 ツールバー

アイコン	メニューコマンド	説明
	[ファイル] メニューの [開く]	[開く] ツールバーアイコンで、既存のレポートを開くことができます。
	[ファイル] メニューの [保存]	[保存] ツールバーアイコンで、データに加えた変更を保存できます。
	[ファイル] メニューの [印刷]	[印刷] ツールバーアイコンで、開いている最新データのレポートを印刷できます。
	[ファイル] メニューの [印刷プレビュー]	[印刷プレビュー] ツールバーアイコンで、開いているレポートを画面でプレビューできます。
	[編集] メニューの [切り取り]	[切り取り] ツールバーアイコンを使用すると、選択したデータを切り取ってクリップボードに貼り付けることができます。
	[編集] メニューの [コピー]	[コピー] ツールバーアイコンを使用すると、選択したデータをコピーしてクリップボードに貼り付けることができます。
	[編集] メニューの [貼り付け]	[貼り付け] ツールバーアイコンを使用すると、クリップボードから、選択したデータセルにデータを貼り付けることができます。
	[オプション] メニューの [計算式の実行]	[Show Suppressed Rows (非表示の行の表示)] ツールバーアイコンを使用すると、非表示データ、隠しデータ、またデータのない行を表示できます。
	[オプション] メニューの [Show Suppressed Rows (非表示の行の表示)]	[Show Suppressed Rows (非表示の行の表示)] ツールバーアイコンを使用すると、非表示データ、隠しデータ、またデータのない行を表示できます。

アイコン	メニューコマンド	説明
	[オプション] メニューの [Show Suppressed Rows (非表示の列の表示)]	[Show Suppressed Columns (非表示の列の表示)] ツールバーアイコンを使用すると、非表示データ、隠しデータ、またデータのない列を表示できます。
	ヘルプ	[ヘルプ] ツールバーアイコンから、Hyperion Schedules ヘルプにアクセスできます。

右マウスボタン

右マウスボタンを使用すると、機能とレポートを一覧表示するメニューが表示されます。レポート内のデータセルを選択し、右マウスボタンをクリックすると、メニューが表示されます。

注： 右マウスボタンは、マウスが右利きのユーザ用に設定されている場合に使用してください。マウスが左利きのユーザ用に設定されている場合は、左マウスボタンを使用してください。

機能	説明
開く	既存のレポートを開くことができます。[ファイル] メニューの [開く] と同じ機能があります。
Change POV Using Selected Cell (変更したセルを使用してデータの視点を変更)	アクティブなレポートのデータの視点を、選択したデータセルのデータ視点に変更できます。
Change the POV Using Selected Cell and Open (選択したセルから [開く] を選択してデータの視点を変更)	別のレポートを開き、データの視点を選択したデータセルのデータ視点に変更できます。
調査	選択したデータセルに関連付けられたレポートを開くことができます。調査を使用して、Hyperion Enterprise Reporting のレポートにセルに関連付けることもできます。
List of Reports (レポートの一覧)	最後に開いたレポート 10 個と各レポートのデータの視点を表示します。レポートは、選択すると開きます。

アプリケーションとデータの視点

アプリケーションとデータの視点により、作業セッション中にアクセスするデータが決まります。1 つの Hyperion Enterprise または Hyperion Essbase アプリケーションに対してのみ、同時にデータにアクセスできます。Hyperion Schedules を起動したときにアプリケーションを選択しますが、アプリケーションはいつでも切り替えることができます。データの視点により、アプリケーション内で Hyperion Schedules がどのデータにアクセスするかが決まります。レポートの列と行で、

Hyperion Enterprise データを定義する多くのディメンションを指定できます。システムは、列と行に定義されていないディメンションをデータの視点から取得します。詳しくは、Hyperion Enterprise Reporting のヘルプを参照してください。

注： エンティティは、Hyperion Enterprise の以前のバージョンでは組織単位と呼ばれます。

デフォルトでは、Hyperion Schedules を起動したときに、前回 Hyperion Enterprise で設定したデータの視点を使用されます。データの視点では、現在の作業セッションの異なるデフォルトエンティティ、データ種別、期間、期間単位、表示形式、勘定科目、フィールドを選択できます。Hyperion Enterprise でのデータの視点の設定方法について詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』を参照してください。

注： Hyperion Enterprise では、データの視点を使用して、現在の作業セッションの異なるデフォルトの連結の詳細、親、通貨も選択できます。

Hyperion Schedules でデータを変更する場合は、データの視点バーを使用してデフォルトのデータの視点を変更できます。データの視点に対する変更は、現在の Hyperion Schedules のみに対して行われます。例えば、現在の期間に 2002 年度の 7 月を選択すると、現在のセッションで変更するまでこの期間が使用されます。Hyperion Schedules を終了後、再起動すると、Hyperion Schedules の現在の期間はデータの視点のデフォルトに戻ります。

注： Hyperion Enterprise の場合は、Hyperion Schedules を終了してから再起動すると、Hyperion Schedules の現在の期間は HYPENT.INI ファイルのデフォルトに戻ります。

データの視点バーのボタンを選択すると、有効な選択項目の一覧がダイアログボックスに表示されます。例えば、[エンティティ] ボタンを選択すると、新しいエンティティのデータの視点を選択できるエンティティ一覧が [データの視点] ダイアログボックスに表示されます。

データセルを選択して右マウスボタンをクリックすると、機能とレポートを一覧表示したメニューが表示されます。この機能を使用すると、レポートを開いてアクティブなレポートのデータの視点を変更したり、別のレポートを選択したデータセルのデータの視点に変更できます。また、調査を使用して選択したデータセルに関連したレポートを開くこともできます。

レポートの一覧を使用すると、関連したデータの視点を使用してレポートを開くことができます。レポートの一覧は、最初は空です。レポートを開くたびに、レポートと現在のデータの視点が一覧に追加されます。

アプリケーションの選択

アプリケーションを選択すると、そのアプリケーションのデータを表示または変更できます。デフォルトのアプリケーションはいつでも設定でき、変更は保持されます。

- ▶ アプリケーションを選択するには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Schedules ウィンドウで、[ファイル] メニューの [アプリケーションの選択] を選択します。
- 2 データを変更するアプリケーションを選択します。
- 3 ユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

選択したデータセルを使用したデータの視点の変更

データの視点を変更すると、Hyperion Schedules の別のデータを表示できます。データの視点はいつでも変更できます。各データセルには、特定のデータの視点があります。表示しているレポートのデータの視点は、選択したデータセルのデータの視点に変更できます。

- ▶ 選択したデータセルを使用してデータの視点を変更するには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Schedules ウィンドウからレポートを開き、使用するデータの視点を持つデータセルを選択して、右マウスボタンをクリックします。

注： 右マウスボタンは、マウスが右利きのユーザ用に設定されている場合に使用してください。マウスが左利きのユーザ用に設定されている場合は、左マウスボタンを使用してください。

- 2 機能とレポートを示すメニューから、次のいずれかの操作を行います。
 - アクティブなレポートのデータの視点を選択したセルのデータ視点に変更するには、[Change POV Using Selected Cell (選択したセルを使用してデータの視点を変更)] を選択します。
 - 別のレポートを開き、データの視点を選択したセルのデータの視点に変更するには、[Change the POV Using Selected Cell and Open (選択したセルから [開く] を選択してデータの視点を変更)] を選択し、レポートセットを選択してファイル名を入力するか、一覧からファイル名を選択して [OK] をクリックします。

エンティティの選択

エンティティを選択すると、そのエンティティのデータを表示または変更できます。デフォルトのエンティティはいつでも設定でき、変更は保持されます。

注： エンティティは、Hyperion Enterprise の以前のバージョンでは組織単位と呼ばれます。

▶ エンティティを選択するには、次の手順に従います。

1 Hyperion Schedules ウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。

- [編集] メニューの [データの視点] を選択し、[エンティティ] タブを選択します。
- データの視点バーで [エンティティ] ボタンを選択します。

注： エンティティ一覧をフィルタするには、[親]、[最下位エンティティ]、[サブエンティティ] を選択または選択解除します。

2 エンティティ ID を入力するか、一覧から選択します。

注： ID の最初の 1 文字または数文字を入力して、一覧から特定の入力項目を選択できます。入力項目に一致する次の ID を選択するには、[次を検索] アイコンを選択します。入力項目に一致する前の ID を選択するには、[前を検索] アイコンを選択します。

3 [OK] をクリックします。

データ種別の選択

データ種別を選択すると、そのデータ種別のデータを表示または変更できます。デフォルトのデータ種別はいつでも設定でき、変更は保持されます。

▶ データ種別を選択するには、次の手順に従います。

1 Hyperion Schedules ウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。

- [編集] メニューの [データの視点] を選択し、[データ種別] タブを選択します。
- データの視点バーで [データ種別] ボタンを選択します。

2 データ種別の ID を入力するか、リストから選択します。

注： ID の最初の 1 文字または数文字を入力して、一覧から特定の入力項目を選択できます。入力項目に一致する次の ID を選択するには、[次を検索] アイコンを選択します。入力項目に一致する前の ID を選択するには、[前を検索] アイコンを選択します。

3 [OK] をクリックします。

勘定科目の選択

勘定科目を選択すると、その勘定科目のデータを表示または変更できます。デフォルトの勘定科目はいつでも設定でき、変更は保持されます。

▶ 勘定科目を選択するには、次の手順に従います。

1 Hyperion Schedules ウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。

- [編集] メニューの [データの視点] を選択し、[勘定科目] タブを選択します。

- データの視点バーで [勘定科目] ボタンを選択します。

注： 勘定科目一覧をフィルタするには、[入力勘定]、[算出勘定]、[サブ勘定科目] を選択または選択解除します。

2 勘定科目 ID を入力するか、リストから選択します。

注： ID の最初の 1 文字または数文字を入力して、一覧から特定の入力項目を選択できます。入力項目に一致する次の ID を選択するには、[次を検索] アイコンを選択します。入力項目に一致する前の ID を選択するには、[前を検索] アイコンを選択します。

3 [OK] をクリックします。

期間の選択

選択できる期間は、データの視点バーの現在のデータ種別設定によって決まります。例えば、現在のデータ種別が Actual である場合には、Actual データ種別の期間を選択できます。

▶ 期間を選択するには、次の手順に従います。

1 Hyperion Schedules ウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。

- [編集] メニューの [データの視点] を選択し、[期間] タブを選択します。
- データの視点バーで [期間] ボタンを選択します。

2 期間の ID を入力するか、リストから選択します。

注： ID の最初の 1 文字または数文字を入力して、一覧から特定の入力項目を選択できます。入力項目に一致する次の ID を選択するには、[次を検索] アイコンを選択します。入力項目に一致する前の ID を選択するには、[前を検索] アイコンを選択します。

3 [OK] をクリックします。

期間単位と表示形式の選択

期間単位と表示形式を選択すると、その期間単位と表示形式のデータを表示または変更できます。デフォルトの期間単位と表示形式はいつでも設定でき、変更は保持されます。

▶ 期間単位と表示形式を選択するには、次の手順に従います。

1 Hyperion Schedules ウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。

- [編集] メニューの [データの視点] を選択し、[期間単位] タブを選択します。
- データの視点バーで、[期間単位] ボタンを選択します。

2 期間単位の ID を入力するか、リストから選択します。

3 表示形式の ID を入力するか、リストから選択します。

注： ID の最初の 1 文字または数文字を入力して、一覧から特定の入力項目を選択できます。入力項目に一致する次の ID を選択するには、[次を検索] アイコンを選択します。入力項目に一致する前の ID を選択するには、[前を検索] アイコンを選択します。

4 [OK] をクリックします。

サブエンティティの選択

サブエンティティを選択すると、そのサブエンティティのデータを表示または変更できます。デフォルトのサブエンティティはいつでも設定でき、変更は保持されます。

▶ サブエンティティを選択するには、次の手順に従います。

1 Hyperion Schedules ウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。

- [編集] メニューの [データの視点] を選択し、[サブエンティティ] タブを選択します。
- データの視点バーで [サブエンティティ] ボタンを選択します。

2 サブエンティティ ID を入力するか一覧から選択します。またはサブエンティティを参照しないデータの視点を使用する場合は、[なし] を選択します。

注： ID の最初の 1 文字または数文字を入力して、一覧から特定の入力項目を選択できます。入力項目に一致する次の ID を選択するには、[次を検索] アイコンをクリックします。入力項目に一致する前の ID を選択するには、[前を検索] アイコンをクリックします。

3 [OK] をクリックします。

第 1 レベルのサブ勘定科目の選択

第 1 レベルのサブ勘定科目を選択すると、そのサブ勘定科目のデータを表示または変更できます。デフォルトのサブ勘定科目はいつでも設定でき、変更は保持されます。

▶ 第 1 レベルのサブ勘定科目を選択するには、次の手順に従います。

1 Hyperion Schedules ウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。

- [編集] メニューの [データの視点] を選択し、[サブ勘定科目 1] タブを選択します。
- データの視点バーで第 1 レベルのサブ勘定科目を選択します。

2 選択するサブ勘定科目が入っているサブ勘定科目表の ID を入力または選択するか、またはサブ勘定科目を参照しないデータの視点を使用する場合は、[なし] を選択します。

3 サブ勘定科目の ID を入力するか、リストから選択します。

注： ID の最初の 1 文字または数文字を入力して、一覧から特定の入力項目を選択できます。入力項目に一致する次の ID を選択するには、[次を検索] アイコンを選択します。入力項目に一致する前の ID を選択するには、[前を検索] アイコンを選択します。

- 4 [OK] をクリックします。

第 2 レベルのサブ勘定科目の選択

第 2 レベルのサブ勘定科目を選択すると、そのサブ勘定科目のデータを表示または変更できます。デフォルトのサブ勘定科目はいつでも設定でき、変更は保持されます。

- ▶ 第 2 レベルのサブ勘定科目を選択するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Schedules ウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。
 - [編集] メニューの [データの視点] を選択し、[サブ勘定科目 2] タブを選択します。
 - データの視点バーで第 2 レベルのサブ勘定科目を選択します。
- 2 選択するサブ勘定科目が入っているサブ勘定科目表の ID を入力または選択するか、またはサブ勘定科目を参照しないデータの視点を使用する場合は、[なし] を選択します。
- 3 サブ勘定科目の ID を入力するか、リストから選択します。

注： ID の最初の 1 文字または数文字を入力して、一覧から特定の入力項目を選択できます。入力項目に一致する次の ID を選択するには、[次を検索] アイコンを選択します。入力項目に一致する前の ID を選択するには、[前を検索] アイコンを選択します。

- 4 [OK] をクリックします。

連結の詳細の選択

連結の詳細を選択すると、その連結の詳細のデータを表示または変更できます。デフォルトの連結の詳細はいつでも設定でき、変更は保持されます。

- ▶ 連結の詳細を選択するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Schedules ウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。
 - [編集] メニューの [データの視点] を選択し、[連結の詳細] タブを選択します。
 - データの視点バーで [連結の詳細] ボタンを選択します。
- 2 連結の詳細の ID を入力するか、リストから選択します。

注： ID の最初の 1 文字または数文字を入力して、一覧から特定の入力項目を選択できます。入力項目に一致する次の ID を選択するには、[次を検索] ア

アイコンをクリックします。入力項目に一致する前の ID を選択するには、**[前を検索]** アイコンをクリックします。

- 3 **[OK]** をクリックします。

親の選択

親を選択すると、その親データを表示または変更できます。デフォルトの親はいつでも設定でき、変更は保持されます。

► 親を選択するには、次の手順に従います。

- 1 **Hyperion Schedules** ウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。

- **[編集]** メニューの **[データの視点]** を選択し、**[親]** タブを選択します。
- データの視点バーで **[親]** ボタンを選択します。

注： 親一覧をフィルタするには、**[親]**、**[最下位エンティティ]**、**[サブエンティティ]** を選択または選択解除します。

- 2 親の ID を入力するか、リストから選択します。

注： ID の最初の 1 文字または数文字を入力して、一覧から特定の入力項目を選択できます。入力項目に一致する次の ID を選択するには、**[次を検索]** アイコンをクリックします。入力項目に一致する前の ID を選択するには、**[前を検索]** アイコンをクリックします。

- 3 **[OK]** をクリックします。

通貨の選択

通貨を選択すると、その通貨データを表示または変更します。デフォルトの通貨はいつでも設定でき、変更は保持されます。

► 通貨を選択するには、次の手順に従います。

- 1 **Hyperion Schedules** ウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。

- **[編集]** メニューの **[データの視点]** を選択し、**[通貨]** タブを選択します。
- データの視点バーで **[通貨]** ボタンを選択します。

- 2 通貨の ID を入力するか、リストから選択します。

注： ID の最初の 1 文字または数文字を入力して、一覧から特定の入力項目を選択できます。入力項目に一致する次の ID を選択するには、**[次を検索]** アイコンをクリックします。入力項目に一致する前の ID を選択するには、**[前を検索]** アイコンをクリックします。

- 3 **[OK]** をクリックします。

フィールドの選択

フィールドを選択すると、そのフィールドのデータを表示できます。例えば、VAL フィールドを選択すると、レポートのすべてのデータの現在の値が表示されます。デフォルトのフィールドはいつでも設定でき、変更は保持されます。

▶ フィールドを選択するには、次の手順に従います。

1 Hyperion Schedules ウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。

- [編集] メニューの [データの視点] を選択し、[フィールド] タブを選択します。
- データの視点バーで [フィールド] ボタンを選択します。

2 フィールドの ID を入力するか、リストから選択します。

注： ID の最初の 1 文字または数文字を入力して、一覧から特定の入力項目を選択できます。入力項目に一致する次の ID を選択するには、[次を検索] アイコンをクリックします。入力項目に一致する前の ID を選択するには、[前を検索] アイコンをクリックします。

3 [OK] をクリックします。

ウィンドウ要素の表示／非表示

Hyperion Schedules ウィンドウにツールバー、ステータスバー、データの視点バー、ヘッダー領域、フッター領域、グリッド線を表示するかどうかを指定できます。例えば、ヘッダー領域を非表示にして、データセルの表示領域を増やすことができます。

デフォルトではすべてのウィンドウ要素が表示されます。ウィンドウ要素を非表示にできるのは、現在の Hyperion Schedules セッションに限られます。Hyperion Schedules を終了して再起動すると、前のセッションで非表示にしたウィンドウ要素が表示されます。

注： ヘッダー領域とフッター領域は、現在のレポートにヘッダーとフッターが含まれる場合にのみ表示されます。

▶ ウィンドウ要素を表示または非表示にするには、[表示] を選択または選択解除し、次のいずれかを実行します。

- ツールバーの表示と非表示を切り替えるには、[ツールバー] を選択または選択解除します。
- ステータスバーの表示と非表示を切り替えるには、[ステータスバー] を選択または選択解除します。
- データの視点バーの表示と非表示を切り替えるには、[データの視点バー] を選択または選択解除します。
- ヘッダー領域の表示と非表示を切り替えるには、[ヘッダー] を選択または選択解除します。

- フッター領域の表示と非表示を切り替えるには、[フッター] を選択または選択解除します。
- グリッド線の表示と非表示を切り替えるには、[グリッド線] を選択または選択解除します。

レポートを開く

Hyperion Schedules のレポートを開いて、Hyperion Enterprise または Hyperion Essbase のデータを入力および変更できます。Hyperion Schedules では、コンパイルされたレポートしか開けません。

データセルを選択し、レポートを開いて、データの視点を選択したセルのデータ視点に変更できます。こうすると、異なるデータの視点からレポートを使用できます。

ヒント： [ファイル] メニューには、最近開いたレポートが 4 つまで表示されます。データセルを選択して右マウスボタンをクリックしたときに表示されるメニューには、最近開いたレポートが 10 個と各レポートのデータの視点が表示されます。これらのメニューを使用してレポートを選択し、Hyperion Schedules ウィンドウで開くことができます。

▶ レポートを開くには、次の手順に従います。

1 次のいずれかを実行します。

- Hyperion Schedules ウィンドウで、[ファイル] メニューの [開く] を選択するか、[開く] ツールバーアイコンをクリックします。
- 開いているレポートからデータセルを選択し、右マウスボタンをクリックして [開く] を選択してレポートを開くか、[Change the POV Using Selected Cell and Open (選択したセルから [開く] を選択してデータの視点を変更)] を選択して別のレポートを開き、選択したセルのデータの視点を使用するか、レポートの一覧からレポートを選択します。

2 開くレポートが含まれるセットを選択します。

3 ファイル名を入力するか、リストから選択して、[OK] をクリックします。

データセルの調査の使用

調査を使用すると、選択したデータセルに関連したレポートを開くことができます。レポートは、Hyperion Enterprise Reporting のデータセルに関連付けられています。

▶ データセルから調査を使用するには、次の手順に従います。

1 データセルを選択し、右マウスボタンをクリックします。

注： 右マウスボタンは、マウスが右利きのユーザ用に設定されている場合に使用してください。マウスが左利きのユーザ用に設定されている場合は、左マウスボタンを使用してください。

2 [調査] をクリックします。

3 調査を使用する各データセルに対して、ステップ 1 と 2 を繰り返します。

注： 調査を使用して、Hyperion Enterprise Reporting のレポートにセルを関連付けることもできます。詳しくは、Hyperion Enterprise Reporting のヘルプを参照してください。

セルの色の定義

Hyperion Schedules で色分けされているセルは、各セルに含まれているデータの種別を示します。Hyperion Schedules で色を定義すると、新しい色がデフォルトとして保存されます。セッション中はいつでも色を変更できます。

セルの色は、データの種別を示すために定義します。

- デフォルト色は有効な入力セルを示します。デフォルトのセルでデータの入力や変更ができます。
- 変更された色は、未保存のデータ変更が含まれているセルを示します。変更されたセルのデータをさらに変更できます。変更したセルをデフォルトのセルに変換するには、変更内容を保存する必要があります。
- 「保護済」の色は、データベースで保護または仕訳帳保護されている表示専用のセルを示します。
- レポート計算済みの色は表示専用セルで、Hyperion Enterprise Reporting の式を基に計算されたデータが入っています。式を計算すると、値が変わります。
- 「Application Calculated (アプリケーション算出)」の色は表示専用セルで、Hyperion Enterprise の計算式に基づいて計算されるデータを含んでいます。式を計算すると、値が変わります。
- 「テキスト」の色は表示専用のセルを示し、空か、またはテキストを含んでいます。
- 「Write-failed (書き込み失敗)」の色は、システムに保存したときデータベースに書き込めなかったデータを含んでいるセルを示します。
- 「Read Only (読み取り専用)」の色は、読み取り専用データを含んでいるセルを示します。読み取り専用のセルにはデータを入力できません。例えば、視点が無効のデータセルは読み取り専用です。

➤ セルの色を定義するには、次の手順に従います。

1 Hyperion Schedules ウィンドウで、[オプション] メニューの [色] を選択します。

2 色を定義するセルタイプを選択します。

3 必要に応じて次の操作を行います。

- 選択したセルタイプに赤、緑、青を追加するには、[赤]、[緑]、[青] のカラーバーを右にスクロールします。

- 選択したセルタイプの色から赤、緑、青を減らすには、[赤]、[緑]、[青] のカラーバーを左にスクロールします。
- 選択したセルタイプの色を選択するには、[Choose (選択)] をクリックして基本色または作成した色を選択して、[OK] をクリックします。
- 選択したセルタイプをシステムのデフォルト値に戻すには、[リセット] を選択します。

4 変更するセルタイプごとにステップ 2 ～ 3 を繰り返します。

ヒント： すべてのセルタイプをシステムのデフォルトの色に戻すには、[Reset All (すべてリセット)] を選択します。

5 新しい色を使用する場合は、[OK] をクリックします。

設定変更の設定

Hyperion Schedules の設定変更を指定して、入力に対するシステムの応答方法を決定します。設定変更には、[Enter] キーや [Tab] キーの動作のほか、データを入力しながら計算式を実行するかどうかなどの設定があります。設定変更を指定すると、次回 Hyperion Schedules で作業するときのために設定が保存されます。

[Tab] キーまたは [Enter] キーを押したときのカーソルの動作を選択できます。定義できるオプションは、次のとおりです。

- カーソルは同じセルに残ります。
- カーソルは 1 つ右のセルに移動します。
- カーソルは 1 つ下のセルに移動します。

データを入力しながら自動的に計算式を実行するかどうかを指定できます。定義できるオプションは、次のとおりです。

- システムによる計算式の自動実行はありません。
- Hyperion Enterprise Reporting の計算式のみが自動的に実行されます。
- Hyperion Enterprise Reporting の計算式と Hyperion Enterprise の計算式が自動的に実行されます。

注： [計算式の実行] オプションを使用して、データを計算できます。

► 設定変更を指定するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Schedules ウィンドウで、[オプション] メニューの [設定変更] を選択します。
- 2 [Tab] キーと [Enter] キーの動作を定義するには、次の手順に従います。
 - [Tab] キーまたは [Enter] キーを押したときに、カーソルを同じセルに残す場合は、[Cause No Movement (カーソルを動かさない)] をクリックします。
 - [Tab] キーまたは [Enter] キーを押したときに、カーソルを 1 つ右のセルに移動する場合は、[Move the Cursor to the Right (カーソルを右へ動かす)] をクリックします。

- [Tab] キーまたは [Enter] キーを押したときに、カーソルを 1 つ下のセルに移動する場合は、[Move the Cursor Down (カーソルを下へ動かす)] をクリックします。
- 3 [Tab] キーを押したときに、カーソルで編集不可能なセルをスキップする場合は、[Skip non-editable cells (編集不可能セルをスキップする)] をクリックします。
- 4 自動再計算を設定するには、次のいずれかの操作を行います。
- データの入力中に自動再計算を行わない場合は、[なし] をクリックします。
 - データの入力時に Hyperion Enterprise Reporting の計算式を自動的に実行し、Hyperion Enterprise の計算式を実行しない場合は、[Reporting Formulas Only (Hyperion Enterprise Reporting の計算式のみ)] を選択します。
 - データの入力時に Hyperion Enterprise Reporting の計算式と Hyperion Enterprise の計算式を自動的に実行する場合は、[Reporting and Application Formulas (Hyperion Enterprise Reporting とアプリケーションの計算式)] を選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

注釈とローカル見出し

Hyperion Schedules では、次のテキストオプションを使用します。

- 説明やコメントなどの注釈。
- レポート内の他のディメンション設定を基に個々のディメンションの説明を置換できるローカル見出し設定機能

注釈とは、レポート出力に情報を追加するためにコメントやその他のテキストデータを入力できるフィールドのことです。注釈は、エンティティ、期間、またはその他のディメンションごとに設定できます。例えば、Notes1 というフィールドを作成して、異なるエンティティ、期間、およびデータ種別の勘定科目の値に、増減の理由などの注釈を追加できます。

ローカル見出しとは、レポートにおけるディメンション設定に基づいて説明の代わりに使用できる注釈のことです。例えば、ある会社の勘定科目表には Cost A という勘定科目があります。Cost A は、Canada Division では輸送費を表し、Northeast Division では梱包費を表します。Accounts by Division というフィールドを作成すると、組織内のエンティティごとに勘定科目の説明を保存できます。この場合は、Cost A について Canada Division エンティティではローカル説明として「輸送コスト」を使用し、Northeast Division エンティティでは「梱包コスト」を使用します。

次の表に、注釈およびローカル見出しを使用する際のタスクおよびそのタスクを行う場所を示します。

表 60 注釈とローカル見出しの使用

オプション	説明
Hyperion DataExtend	注釈またはローカル見出しに使用するフィールドの設定に使用します。詳しくは、Hyperion DataExtend のヘルプを参照してください。

オプション	説明
Hyperion Enterprise Reporting	次のタスクに使用するレポートを作成するために使用します。 <ul style="list-style-type: none"> Hyperion Schedules で、注釈機能およびローカル見出し設定機能のテキストを入力します。 注釈とローカル見出しを使用してデータを提示します。詳しくは、Hyperion Enterprise Reporting ヘルプのレポート作成に関するトピックを参照してください。
Hyperion Schedules	注釈とローカル見出しとしてテキストを入力するために使用します。詳しくは、 339 ページの「注釈の入力」 および 339 ページの「ローカル見出しの入力」 を参照してください。

注釈の入力

注釈は、データ結果や Hyperion Enterprise レポートの機能を高めるその他の情報に説明を提供するために入力します。注釈は、テキストフィールドが列または行に定義されているセルに入力します。

テキストデータとして入力した注釈は、システムによって処理されます。注釈は、数値データと同じようにコピー、編集、変更、移動、削除できます。

► 注釈を入力するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Schedules ウィンドウで、注釈を入力または変更するセルを選択します。
- 2 注釈のテキストを入力し、[ENTER] キーを押します。

ローカル見出しの入力

ローカル見出しは、Hyperion Enterprise レポートのディメンションの代わりに説明を提供するために使用します。ローカル見出しを入力すると、行見出しまたは列見出しが入力項目を反映してただちに変更されます。

注： ローカル見出しは、管理者がローカル見出しを表示するように設定したディメンションおよびレポートに対してのみ入力できます。

► ローカル見出しを入力するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Schedules ウィンドウで、変更する行または列見出しをダブルクリックします。
- 2 ローカル見出しのテキストを入力し、[OK] をクリックします。

データ入力表

Hyperion Schedules ウィンドウではスプレッドシートインターフェイスを使用してレポートにデータを入力したり、データを変更したりします。データには、勘定科目値などの数値データや注釈またはローカル見出しなどの半角英数字を使用できます。データの入力や編集を行う際には、次のようなタスクで時間を節約できます。

- データブロックのハイライト
- オペレータキーを使用してデータ入力を高速化
- データの移動
- データのコピー
- データの削除
- 計算式の実行
- 非表示の行と列の表示

計算データや連結データが含まれるスプレッドシートのセルは、Hyperion Schedules でこれらのセルにデータを入力したりデータを変更できないことを示すために色分けされています。計算データと連結データについて詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』を参照してください。セルの色分け方法について詳しくは、[336 ページの「セルの色の定義」](#)を参照してください。

Hyperion Schedules の数値データは、レポートで定義された数値書式で表示されます。レポートでの数値書式の定義方法については、Hyperion Enterprise Reporting ヘルプを参照してください。

オペレータキー

オペレータキーには、迅速且つ容易にデータを入力するための特殊機能があります。オペレータキーを使用することによって、既にレポートに入力されているデータを計算したり、セルに数値を入力するのを少なくすることができます。オペレータキーは、数値データの入力にしか使用しません。次の表でオペレータキーについて説明します。

表 61 オペレータキー

キー	演算	例
+	入力する値を、セル内に挿入済みの値に加算します。	30+
-	入力する値を、セル内に挿入済みの値から減算します。	30-
*	入力する値を現在のセルの値に乗算します。	5*
/	現在のセルの値を入力する値で除算します。	10/
% + または % -	入力するパーセント値だけ、セルの値を増減します。	50%+
+ P または - P	入力する値またはパーセント値だけ、左側のセルの値を増減します。	30%+P
K または T	1000 を意味します。	17K または 12T
M	100 万を意味します。	32M
B	10 億を意味します。	21B

キー	演算	例
A	入力する量を、選択されているすべてのセルに均等に割り当てます。	1000A
? または -	選択されたすべてのセルに任意の正負の値を入力します。	?

注： P、K、T、M、B、A オペレータキーは大文字と小文字を区別しません。

数値データの入力

選択されたセルに数値データを入力したり数値データを変更する場合は、キーボードを使用します。オペレータキーを使用してデータ入力速度を高めることができます。数値データの入力や変更は、入力セルでのみ可能です。

- ▶ 数値データを入力するには、次の手順に従います。
 - 1 Hyperion Schedules ウィンドウで、データを入力または変更するセルを選択します。
 - 2 値と必要なオペレータキーを入力し、[Enter] キーを押します。

データブロックのハイライト

Hyperion Schedules ウィンドウでセルのブロックをハイライトすると、ハイライトしたすべてのセルのデータの変更や入力を同時に行うことができます。データの行、データの列、セルのブロック、またはレポート全体をハイライトできます。

- ▶ データのブロックをハイライトするには、ハイライトするブロックのセルの隅を選択し、必要なセルがすべてハイライトされるまでマウスをドラッグします。

データのコピー

数値データまたはテキストデータを 1 つのセルまたはセルのブロックから別のセルまたはセルのブロックにコピーできます。この方がデータを入力するよりも速く済みます。選択したデータは、レポートからコピーされて、クリップボードに貼り付けられます。その後、クリップボードから選択された場所にデータを貼り付けることができます。クリップボードについて詳しくは、Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。

計算済みのデータや無効なデータをコピーすることは可能ですが、保護された、または計算済みのセルにデータを貼り付けることはできません。レポートに表示されるセルはすべて、セルのデータの種類を示すように色分けされています。詳しくは、[336 ページの「セルの色の定義」](#)を参照してください。

- ▶ データをコピーするには、次の手順に従います。
 - 1 Hyperion Schedules ウィンドウで、コピーするデータが含まれているセルまたはセルのブロックを選択し、[編集] メニューの [コピー] を選択するか、[コピー] ツールバーアイコンをクリックします。

- 2 Hyperion Schedules ウィンドウで、データのコピー先のセルまたはセルのブロックを選択し、[編集] メニューの [貼り付け] を選択するか、[貼り付け] ツールバーアイコンをクリックします。

データの移動

数値データまたはテキストデータを 1 つのセルまたはセルのブロックから別のセルまたはセルのブロックに移動できます。これは、新しい場所にデータを入力して、最初の場所からデータをクリアするよりも素早く操作できます。

データ値はクリップボードに配置され、セルの値はゼロで置き換えられます。その後、クリップボードから選択された場所にデータを移動できます。クリップボードについて詳しくは、Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。

保護期間や算出勘定科目からデータを移動したり切り取ったりすることはできません。レポートに表示されるセルはすべて、含まれるデータの種類とデータをセルに移動できるかどうかを示すように色分けされています。詳しくは、[336 ページの「セルの色の定義」](#)を参照してください。

- ▶ データを移動するには、次の手順に従います。
 - 1 Hyperion Schedules ウィンドウで、移動するデータが含まれているセルまたはセルのブロックを選択し、[編集] メニューの [切り取り] を選択するか、[切り取り] ツールバーアイコンをクリックします。
 - 2 Hyperion Schedules ウィンドウで、データの貼り付け先のセルまたはセルのブロックを選択し、[編集] メニューの [貼り付け] を選択するか、[貼り付け] ツールバーアイコンをクリックします。

注： データを切り取った領域と異なるサイズのデータを移動しようとする、切り取りと貼り付けを行う領域のサイズが異なることを示すメッセージが表示されます。選択されている領域にデータを貼り付けることはできません。

データの除去

数値データまたはテキストデータを 1 つのセルまたはセルのブロックから別のセルまたはセルのブロックから削除してデータ値をゼロに設定できます。保護期間または算出勘定科目の値は削除できません。データ入力表に表示されるセルはすべて、含まれているデータの種類の示すように色分けされています。

- ▶ データを除去するには、次の手順に従います。
 - 1 Hyperion Schedules ウィンドウで、取り除くデータを含むセルまたはセルのブロックをハイライトします。
 - 2 [編集] メニューの [切り取り] または [切り取り] ツールバーアイコンを選択します。

計算式の実行

Hyperion Schedules の計算式を実行してデータを算出し、データ入力の結果を見ることができます。レポート全体の計算式を同時に計算できます。

計算式を実行すると、計算済みのセルの値は、Hyperion Enterprise で定義された計算式に基づいて変更されます。入力済みのセルは影響を受けません。Hyperion Schedules ウィンドウのセルは、含まれているデータの種別を示すように色分けされています。算出データと入力データを示すセルの色を定義します。詳しくは、[337 ページの「設定変更の設定」](#)の自動計算オプションに関する説明を参照してください。

- ▶ Hyperion Schedules ウィンドウで計算式を実行するには、[オプション] メニューの [計算式の実行] を選択するか、[計算式の実行] ツールバーアイコンを選択します。

非表示の行と列の表示

Hyperion Enterprise Reporting でレポートを作成したときに、データが含まれない個々の行や列を非表示にするように指定できます。Hyperion Schedules では、非表示になっている行や列をレポート表示して、データを入力することも可能です。

- ▶ 非表示の行と列を表示するには、次の手順に従います。
 - 1 Hyperion Schedules ウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。
 - 非表示の行を表示するには、[オプション] メニューの [Show Suppressed Rows (非表示の行の表示)] を選択するか、[Show Suppressed Rows (非表示の行の表示)] アイコンをクリックします。
 - 非表示の列を表示するには、[オプション] メニューの [Show Suppressed Columns (非表示の列の表示)] を選択するか、[Show Suppressed Rows (非表示の列の表示)] アイコンをクリックします。

ヒント： ハイライトされたセル下の非表示行または非表示列のみを含めるように一覧をフィルタするには、[Include Suppressed Rows for Selected Cell Only (選択したセルのみの非表示行を含める)] または [Include Suppressed Columns for Selected Cell Only (選択したセルのみの非表示列を含める)] を選択します。

- 2 表示する行または列を選択し、[OK] をクリックします。

デフォルトのプリンタの変更

Hyperion Schedules で印刷する場合は、デフォルトのプリンタを使用します。一度に選択できるプリンタは 1 台だけです。複数のプリンタをインストールしている場合は、デフォルトのプリンタを変更できます。

プリンタの中には、追加情報を必要とするものもあります。プリンタオプションの設定については、Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。

- ▶ デフォルトのプリンタを変更するには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Schedules ウィンドウで、[ファイル] メニューの [プリンタの選択] を選択します。
 - 2 デフォルトのプリンタに使用するプリンタを選択します。
 - 3 プリンタを設定するには [設定] をクリックして希望のオプションを選択します。
 - 4 [OK] をクリックします。

データのプレビュー

[レポートのデータを印刷する前、またはテキストファイルに保存する前に、データをプレビューできます。これにより、印刷の内容や書式を変更するかどうかを確認できます。

- ▶ データをプレビューするには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Schedules ウィンドウで、[ファイル] メニューの [印刷プレビュー] を選択します。
 - 2 必要に応じて次の操作を行います。
 - 出力の最初のページを表示するには、[最初] をクリックします。
 - 出力の最後のページを表示するには、[最後] をクリックします。
 - 出力の次のページを表示するには、[次へ] をクリックします。
 - 出力の前のページを表示するには、[前へ] をクリックします。
 - 出力の特定のページを表示するには、[ジャンプ] をクリックしてページ番号を入力し、[OK] をクリックします。
 - 拡大表示と全ページ表示を切り替えるには、[ズーム] をクリックします。
 - データを印刷するには、[印刷] をクリックします。
 - ページ余白のアウトラインの表示と非表示を切り替えるには、[余白] をクリックします。
 - プレビューを終了するには、[閉じる] をクリックします。

データの印刷

Hyperion Schedules ではレポートを印刷できます。レポートを印刷すると、Hyperion Schedules ウィンドウの現在のデータが印刷されます。ヘッダーとフッターの情報もすべて出力に表示されます。レポートはハードコピーを出力することもファイルにデータを出力することもできます。

[ファイルへ出力] オプションを選択すると、選択したプリンタにかかわらず、最大 32,000 文字の行の ASCII テキストファイルが作成されます。[ファイルへ出力] オプションを選択せず、ファイルのプリンタに汎用またはテキストのみを選択した場合は、出力が Windows の書式の ASCII テキストファイルとなります。

▶ データを印刷するには、次の手順に従います。

- 1 **Hyperion Schedules** ウィンドウで、[ファイル] メニューの [印刷] を選択するか、[印刷] ツールバーアイコンをクリックします。
- 2 [部数] 編集ボックスに、印刷部数を入力します。
- 3 ドラフト品質で印刷するには、[ドラフト印刷] をクリックします。

注： [ドラフト印刷] オプションは、[ファイルへ出力] を選択した場合は使用できません。

- 4 印刷するページを指定するには、次のいずれかの操作を行います。
 - 全ページを印刷するには、[すべて] をクリックします。
 - 1 ページ印刷するには、[開始] をクリックし、印刷するページ番号を入力します。
 - 数ページを連続して印刷するには、[開始] をクリックし、印刷する最初のページ番号と最後のページ番号を入力します。
- 5 出力をファイルに保存するには、[ファイルへ出力] を選択し、出力を保存するファイルの名前を入力します。

注： [ファイルへ出力] オプションを選択せず、ファイルのプリンタに汎用またはテキストのみを選択した場合は、出力が Windows の書式の ASCII テキストファイルとなります。ファイルのプリンタに汎用またはテキストのみを選択した場合の出力は、Hyperion Schedules によって制御されません。プリンタの選択または設定については、Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。

- 6 [OK] をクリックすると、データが印刷されます。

データの視点バーからのディメンションの削除

注： このタスクは管理者の方を対象としています。

個々のレポートで、データの視点バーからディメンションを削除できます。例えば、列に個々の勘定科目を含む「売上データ」というレポートを作成できます。ユーザが「売上データ」レポートのデータの視点から勘定科目を表示したり選択したりする必要はないため、ユーザの邪魔になったり混乱が生じるのを防ぐために勘定科目ディメンションをオフにすることができます。

ディメンションを削除する場合は、そのレポートの.SCH ファイルを作成します。任意のテキストエディタで.SCH ファイルを作成し、ファイルに Report.SCH という名前を付けます。Report は、ディメンションを制限するレポートの ID になります。アプリケーションの任意の.SCH ファイルをアプリケーションのレポートディレクトリに保存します。

Report.SCH ファイルの POVBAR セクションによって、表示されるディメンションが決まります。Hyperion Schedules では、Report.SCH ファイルで非表示にするよう

指定しない限り、データの視点バーにすべてのディメンションが表示されます。POVBAR セクションの例を示すと、次のようになります。

```
[POVBAR]
ACCOUNT = OFF
CATEGORY = OFF
```

この例では、勘定科目とデータ種別がデータの視点バーに表示されないように指定しています。

Hyperion Schedules with Validations

Hyperion Schedules の 32 ビットバージョンには、検証機能が追加されました。検証を設定するには、Visual Basic プログラミングの経験が必要です。データ入力表のデータを開いたり、データを入力および保存したりするカスタムの検証プロジェクトを作成できます。カスタム検証プロジェクトは、Visual Basic を使用して作成できます。

Hyperion Schedules は検証を行うために、ユーザによるプログラミングが可能な Visual Basic OLE DLL または VBScript テキストファイルなどのカスタム検証プロジェクトにアクセスします。カスタム検証プロジェクトには 3 種類の関数があります。これらのユーザ定義された関数は、次の処理が行われると、Hyperion Schedules によって起動されます。

- データ入力表を開く
- セル内にデータを入力する。
- データ入力表を保存する

カスタム検証プロジェクトに対して関数の呼び出しが行われるたびに、OLE データタイプ (IHypReportData) が参照されます。IHypReportData は、アプリケーション、レポート、ユーザに関する情報を供給します。また、IDisplayedData と ICompressedData の 2 つの追加の OLE データタイプに対するアクセスも提供します。IDisplayedData は、Hyperion Schedules グリッドに表示された行および列の数値を使用して Hyperion データ値を取り出します。ICompressedData は、Hyperion Enterprise Reporting に表示された行および列の数値を使用してデータ値を取り出します。いずれも、指定されたデータセルのデータの視点 (POV) 情報およびステータスを提供するクラスです。

前提条件

カスタム検証プロジェクトを作成するには、Visual Basic でのプログラミングに精通している必要があります。この文書では、読者が Visual Basic プログラミングについて十分な知識があることを前提としています。

この文書では、データの視点、圧縮、展開ということについて随時言及します。これらの要素について詳しくは、Hyperion Enterprise Reporting と Hyperion Schedules のオンラインヘルプシステムを参照してください。

Hyperion Schedules での検証の有効化

アプリケーションで検証を使用するには、WINDOWS ディレクトリの `hsched.ini` ファイルを更新する必要があります。次の 4 行をファイルに追加します。

```
Validation=1
VBScript=1
ValidationProjectName=projname.validate
ValidationScriptPath=c:\VBScript\
application1.vbs
```

使用中の Hyperion 製品およびアプリケーションに関するセクションを更新します。セクション名は角かっこで示されています。例えば、Hyperion Enterprise 製品と Application1 というアプリケーションを使用している場合は、`[Enterprise-Application1]` セクションを更新します。

Validation

検証を有効にする場合は `Validation` を 1 に、無効にする場合は 0 に設定します。検証を有効にすると、Hyperion Schedules は作成されたカスタム検証プロジェクトを呼び出します。

VBScript

VBScript を使用している場合は、`VBScript` を 1 に設定します。VB 4.0 か 5.0 を使用している場合は、0 に設定します。

Validation Project Name

Visual Basic を使用している場合は、`ValidationProjectName` を `NONE` または Visual Basic で指定した実際のプロジェクト名を `VALIDATE` という拡張子を付けて設定する必要があります。

Hyperion 製品名にアプリケーション名を追加して製品名を付けた場合は、`ValidationProjectName` を `NONE` に設定しても、自動的にそのプロジェクトが使用されます。例えば、`ValidationProjectName=NONE` と設定して、Hyperion Enterprise 製品と Application1 アプリケーションを使用した場合は、システムでは自動的に `EnterpriseApplication1.VALIDATE` というプロジェクト名が使用されます。

Hyperion 製品名にアプリケーション名を追加して製品名を付けなかった場合は、`ValidationProjectName` をプロジェクト名に設定し、`.VALIDATE` の拡張子を付ける必要があります。例えばプロジェクト名が `project 1` であれば、次のステートメントを使用します。

```
ValidationProjectName=project1.validate
```

注： VBScript を使用した場合は、`ValidationProjectName` は無視されます。

Validation Script Path

ValidationScriptPath を、VBScript ファイルがあるディレクトリと VBScript ファイル名に設定します。例えば、TEST.VBS という VBScript テキストファイルが c:\VBScript に置かれている場合は、次の用に設定します。

```
ValidationScriptPath=c:\VBScript\test.vbs
```

注： VB4.0 または 5.0 を使用した場合は、ValidationScriptPath は無視されます。

VBScript を使用したカスタム検証プロジェクトの保持

VBScript のカスタム検証プロジェクトは、テキストエディタで作成できます。プロジェクトは、Hyperion Schedules の実行中に解釈および実行されます。

- VBScript を使用してカスタム検証プロジェクトを作成するには、次の手順に従います。
 - 1 任意のテキストエディタを使用して、次の関数プロトタイプを入力します。
 - Function ValidateOpenReport
 - Function ValidateEditedCell
 - Function ValidateSaveReport
 - 2 関数をカスタマイズします。Hyperion Schedules から情報を取り出すには、グローバル変数の HypReportData を使用します。詳しくは、本文書の[351 ページの「カスタム検証関数の説明」](#)および[356 ページの「検証 OLE クラスのロジックとプロパティ」](#)を参照してください。
 - 3 VBScript テキストファイルを保存します。
 - 4 VBScript テキストファイルを各ユーザのワークステーションに配布します。HSCHED.INI ファイルの ValidationScriptPath 変数で指定したディレクトリに配置します。
 - 5 他のユーザがカスタム VBScript を使用できるようにするには、該当する入力項目を Windows 登録データベースに作成する必要があります。VBScript テキストファイルを使用している各ワークステーションについてこの作業を行う必要があります。VBScript.DLL と VALIDDLL.DLL を登録するには、完全パスと DLL 名を REGSVR32.EXE の引数として渡します。

ヒント： Windows XP を使用している場合は、VBScript.DLL は WINDOWS/ SYSTEM32 ディレクトリにあります。Windows 2000 を使用している場合は、VBScript.DLL は WINNT/ SYSTEM32 ディレクトリにあります。VALIDDLL.DLL は Hyperion Schedules がインストールされているディレクトリにあります。デフォルトの場所は c:\CDA です。

Visual Basic を使用したカスタム検証プロジェクトの保持

カスタム検証プロジェクトは、Visual Basic (VB) を使用して作成できます。プロジェクトは、Hyperion Schedules の実行中に実行されます。VB を使用してプロジェクトを作成する方法については、次の項をお読みください。

► VB を使用してカスタム検証プロジェクトを保持するには、次の手順に従います。

- 1 32 ビットバージョンの Visual Basic を開き、新規プロジェクトを作成します。
- 2 [プロジェクト] ウィンドウから Form1 を削除します。
- 3 [挿入] メニューから [モジュール] を選択します。
- 4 新しく作成したモジュールに「Sub Main」と入力し、[Enter] キーを押します。

注： End Sub が Visual Basic によって挿入されます。

- 5 [挿入] メニューから [クラスモジュール] をクリックします。
- 6 新しいクラスモジュールに、次の関数プロトタイプを入力します。
 - Public Function ValidateOpenReport(ByVal HypReportData As Object) As Boolean
 - Public Function ValidateEditedCell(ByVal HypReportData As Object) As Boolean
 - Public Function ValidateSaveReport(ByVal HypReportData As Object) As Boolean
- 7 [クラスモジュール] のプロパティを次のように変更します。
 - Instancing : 2 Creatable MultiUse
 - Name : Validate
 - Public : True
- 8 [ツール] メニューから [オプション] を選択します。
- 9 [プロジェクト] タブを選択します。
- 10 [プロジェクト名] 編集ボックスに Hyperion アプリケーション名を入力します。Hyperion 製品名にアプリケーション名を追加します。
- 11 VB プロジェクトを保存します。
- 12 関数をカスタマイズします。詳しくは、本文書の351 ページの「カスタム検証関数の説明」および356 ページの「検証 OLE クラスのロジックとプロパティ」を参照してください。
- 13 [ファイル] メニューから [Make OLE DLL File (OLE DLL ファイルの作成)] をクリックします。
- 14 Hyperion アプリケーション名を使用して DLL の名前を指定します。
- 15 DLL を各ワークステーションに配布します。

注： VB40032.DLL を各ワークステーションに配置します。Windows NT では windows/system32 ディレクトリに、Windows 2000 では WINNT/SYSTEM32

ディレクトリに、Windows XP では WINDOWS/SYSTEM32 ディレクトリに配置する必要があります。

- 16 DLL を登録するには、完全パスと DLL 名を REGSVR32.EXE の引数として渡します。

Visual Basic を使用したカスタム検証プロジェクトの保持

カスタム検証プロジェクトは、Visual Basic (VB) を使用して作成できます。プロジェクトは、Hyperion Schedules の実行中に実行されます。VB を使用してプロジェクトを作成する方法については、前の項をお読みください。

- VB を使用してカスタム検証プロジェクトを保持するには、次の手順に従います。
- 1 32 ビットバージョンの VB を開き、新規プロジェクトを作成します。
 - 2 ActiveX DLL テンプレートを選択します。
 - 3 Class1 クラスモジュールのプロパティを次のように変更します。
 - Name : Validate
 - Instancing : Multiuse
 - 4 Validate クラスモジュールに、次の関数プロトタイプを入力します。
 - Public Function ValidateOpenReport(ByVal HypReportData As Object) As Boolean
 - Public Function ValidateEditReport(ByVal HypReportData As Object) As Boolean
 - Public Function ValidateSaveReport(ByVal HypReportData As Object) As Boolean
 - 5 [プロジェクト] メニューから [Project1] のプロパティを選択します。
 - 6 [プロジェクト名] 編集ボックスに Hyperion アプリケーション名を入力します。Hyperion 製品名にアプリケーション名を追加します。
 - 7 [ファイル] メニューから [Save Project (プロジェクトの保存)] をクリックし、プロンプトが表示されたら、NAME.VBP の書式で名前を入力します。
 - 8 関数をカスタマイズします。詳しくは、本文書の351 ページの「カスタム検証関数の説明」および356 ページの「検証 OLE クラスのロジックとプロパティ」を参照してください。
 - 9 [ファイル] メニューから [Make Test DLL (テスト DLL の作成)] をクリックします。
 - 10 DLL を各ワークステーションに配布します。

注： MSVBVM50.DLL を各ワークステーションに配置します。Windows NT では windows/system32 ディレクトリに、Windows 2000 では WINNT/SYSTEM32 ディレクトリに、Windows XP では WINDOWS/SYSTEM32 ディレクトリに配置する必要があります。

- 11 DLL を登録するには、完全パスと DLL 名を REGSVR32.EXE の引数として渡します。

カスタム検証関数の説明

Visual Basic で実装されるカスタマイズ可能な検証関数には、次のようなものがあります。

- Public Function ValidateOpenReport(ByVal HypReportData As Object) As Boolean
- Public Function ValidateEditedCell(ByVal HypReportData As Object) As Boolean
- Public Function ValidateSaveReport(ByVal HypReportData As Object) As Boolean

ValidateOpenReport 関数

データ入力表を開いたときやアプリケーションのデータの視点を変更すると、カスタマイズ可能なこの関数が呼び出されます。この関数を使用すると、システム管理者は、現在のレポートを検証し、データセルを参照のみに指定できます。セルは属性を示すユーザ定義の色で表示されます。

ValidateOpenReport 関数の例

この ValidateOpenReport 関数の例では、次の操作を行います。

- 特定のユーザによるレポートへのアクセス権を否定します。
- エンティティのデータの視点が US100 の場合は、レポートを参照のみに設定します。
- 圧縮されている列 1 を参照のみに設定します。
- FALSE の値を返して、データ入力表を開けないようにします。

```
Public Function ValidateOpenReport (ByVal HypReportData As Object) As Boolean
    ValidateOpenReport = True
    Dim Str As String
    Dim b As Boolean
    Dim i As Integer
    Dim j As Integer
    Dim Row As Long
    Dim Col As Long
    Dim Msg As String
    Dim Style As Integer
    Dim Title As String
    Dim Response As Integer
    '*** Set COL 1 to Read Only.
    If (HypReportData.ReportName = "DISP21")_Then
        HypReportData.DisplayedData.ColNum = 1
        For i = 1 To _ HypReportData.DisplayedData.NumRows
            HypReportData.DisplayedData.RowNum = i
            HypReportData.DisplayedData.ReadOnly _ = True
        Next i
    End If
    '*** Don't allow the ADMIN user to open
    '*** the "NOACCESS" report
    If (HypReportData.UserID = "USER1" And _ HypReportData.ReportName _
        ="NOACCESS") Then
```

```

Msg = "User 1 is not allowed to access this _ report" '_ Define
message.
Style = vbOKOnly ' ボタンを定義します。
Title = "Visual Basic Validation" ' Define
title.
Response = MsgBox(Msg, Style, Title)
ValidateOpenReport = False
Exit Function
End If
'*** Set the report to read only if
'*** the Entity Point of View is not set to US100.
If (HypReportData.ReportName = "US100") Then
For Row = 1 To
HypReportData.DisplayedData.NumRows
HypReportData.DisplayedData.RowNum = Row
For Col = 1 To
HypReportData.DisplayedData.NumCols
HypReportData.DisplayedData.ColNum = Col
Str _ = HypReportData.DisplayedData.CellPOV(1)
If Str <> "US100" Then
HypReportData.DisplayedData.ReadOnly _ = True
End If
Next Col
Next Row
End If
'*** Set COL 3 (Budget) to Read Only.
If (HypReportData.ReportName = "BVSA") Then
HypReportData.DisplayedData.ColNum = 3
For i = 1 To HypReportData.DisplayedData.NumRows
HypReportData.DisplayedData.RowNum = i
HypReportData.DisplayedData.ReadOnly = True
Next i
End If
'*** This will set the Compressed COL 3
'*** (index 1 only) to read only
If (HypReportData.ReportName = "COMP21") Then
HypReportData.CompressedData.ColNum = 3
HypReportData.CompressedData.ExpandedColIndex = 1
For i = 1 To HypReportData.CompressedData.NumRows
HypReportData.CompressedData.RowNum = i
For j = 1 To
HypReportData.CompressedData.NumExpandedRows(i)
HypReportData.CompressedData.ExpandedRowIndex
= j
HypReportData.CompressedData.ReadOnly = True
Next j
Next i
End If
End Function

```

ValidateEditedCell 関数

セルに新しい値を入力してから、[Enter] キーを押すか、セルから移動させて新しい値を保存しようとする、カスタマイズ可能なこの関数が呼び出されます。

この関数を使用すると、システム管理者は値が検証条件を満たしていることを確認し、エンドユーザにエラーメッセージや警告メッセージを表示できます。

ValidateEditedCell 関数の例

この ValidateEditedCell 関数の例では、次の操作を行います。

- RANGE という名前のレポートで、列 2 に 100 ～ 1000 までの値しか入力できないことを確認します。
- 1,1 のセルが変更されていた場合は、レポートを計算して更新します。
- 実際の金額が予算を超過している場合に、ユーザにコメントを入力するよう求めるプロンプトを表示します。
- 実際の値が 1,000 を超えているものについて、それぞれメッセージを表示します。
- FALSE の値を返して、セルを編集できないようにします。

```
Public Function ValidateEditedCell(ByVal HypReportData As Object) As Boolean
    Dim bOK As Boolean
    Dim i As Integer
    Dim lNum1 As Double
    Dim lNum2 As Double
    Dim Budget As Double
    Dim Actual As Double
    Dim RN As Long
    Dim CN As Long
    Dim RNI As Long
    Dim CNI As Long
    Dim Str1 As String
    Dim DispData As Object
    Dim Response As Integer
    Set DispData = HypReportData.DisplayedData
    ValidateEditedCell = True
    '*** For the report "RANGE" validate Col 2
    '*** to have a range between 100 and 1000.
    If (HypReportData.ReportName = "RANGE") Then
        If (HypReportData.DisplayedData.ColNum = 2) Then
            lnum1 =
                HypReportData.DisplayedData.GetNumericValue
            If ((lNum1 < 100) Or (lNum1 > 1000)) Then
                Response = MsgBox("Value is out of
                    range.Please enter a value between 100 and
                    1000", 0, "Visual Basic Validation")
                ValidateEditedCell = False
                Exit Function
            End If
        End If
    End If
    '*** If modifying cell 1,1 then
    '*** calculate the report and refresh it.
    If (HypReportData.ReportName = "SUM") Then
        If (HypReportData.DisplayedData.RowNum = 1 And
            HypReportData.DisplayedData.ColNum = 1) Then
            lnum1 =
```

```

        HypReportData.DisplayedData.GetNumericValue
bOK =
        HypReportData.DisplayedData.SetNumericValue
        (lNum1)
HypReportData.DisplayedData.RowNum = 2
HypReportData.DisplayedData.ColNum = 1
bOK =
        HypReportData.DisplayedData.SetNumericValue
        (lNum1 + 1)
HypReportData.DisplayedData.RowNum = 3
HypReportData.DisplayedData.ColNum = 1
bOK = HypReportData.DisplayedData.
        SetNumericValue(lNum1 + 2)
HypReportData.DisplayedData.RowNum = 4
HypReportData.DisplayedData.ColNum = 1
bOK = HypReportData.DisplayedData.
        SetNumericValue(lNum1 + 3)
HypReportData.CalculateReport
HypReportData.RefreshReport
End If
End If
'*** if the actual amount is over budget then
'*** enter a comment as to why.
If (HypReportData.ReportName = "BVSA") Then
    If (HypReportData.DisplayedData.RowNum = 2) Then
        Budget = HypReportData.DisplayedData.
            .GetNumericValue
        If (Budget > 100) Then
            Response = MsgBox("Value not allowed", 0,
                "Visual Basic Validation")
            ValidateEditedCell = False
            Exit Function
        End If
    End If
    If (HypReportData.DisplayedData.ColNum = 2) Then
        '*** if we are editing the budget column
        Budget = HypReportData.DisplayedData.
            GetNumericValue
        HypReportData.DisplayedData.ColNum = 3
        Actual = HypReportData.DisplayedData.
            GetNumericValue
        HypReportData.DisplayedData.ColNum = 1
        If (Budget > Actual) Then
            Str1 = InputBox("The Actual amount is over
                the Budgeted amount.Please enter a comment
                as to why", "Visual Basic Validation")
            If (Str1 = "") Then
                '*** no comment, so discard new value
                ValidateEditedCell = False
            Else
                bOK = HypReportData.DisplayedData.
                    SetTextValue(Str1)
            End If
        End If
        HypReportData.RefreshReport
    End If
End If
End If

```

```

    *** Allow over budget by $1000.
    If (HypReportData.ReportName = "CALC") Then
        If (HypReportData.DisplayedData.ColNum = 1) Then
            Actual = HypReportData.DisplayedData.
                GetNumericValue
            HypReportData.DisplayedData.ColNum = 2
            Budget = HypReportData.DisplayedData.
                GetNumericValue
            If ((Actual - Budget) > 1000) Then
                Response = MsgBox("There is more than $1000
                    difference between Actual and Budget", 0,
                    "Visual Basic Validation")
                ValidateEditedCell = False
                Exit Function
            End If
            HypReportData.DisplayedData.ColNum = 3
            HypReportData.DisplayedData.SetTextValue
                (Str(Actual - Budget))
            HypReportData.RefreshReport
        End If
    End If
End Function

```

ValidateSaveReport 関数

Hyperion Schedules の検証では、ユーザがデータ入力表を保存しようとする、カスタマイズ可能なこの関数が呼び出されます。この関数を使用すると、システム管理者は、データ入力表の値が検証条件を満たしていることを確認できます。システム管理者は、エンドユーザにエラーメッセージや警告メッセージを表示し、FALSE の値を返してデータ入力表の保存を禁じることができます。

注： この関数で定義される検証ルールは、変更がデータベースで既に更新されている場合は強制されません。

ValidateSaveReport 関数の例

この ValidateSaveReport 関数の例では、次の操作を行います。

- SAVE2 レポートで 0 に設定されている値があれば、この値を 10 に変更します。
- 0 が含まれている場合に、SAVE1 レポートの保存を禁じます。

```

Public Function ValidateSaveReport (ByVal HypReportData As Object) As
    Boolean
    Dim lValue As Double
    Dim bOK As Boolean
    ValidateSaveReport = True
    Dim Str As String
    Dim Response As Integer
    *** Do not save the SAVE1 report if it contains
        Zeros.
    If (HypReportData.ReportName = "SAVE1") Then
        For Row = 1 To
            HypReportData.DisplayedData.NumRows

```

```

HypReportData.DisplayedData.RowNum = Row
For Col = 1 To
HypReportData.DisplayedData.NumCols
HypReportData.DisplayedData.ColNum = Col
bOK = HypReportData.DisplayedData.IsZero
If bOK = True Then
ValidateSaveReport = False
Response = MsgBox("Unable to save report
because some cell(s) contain Zero(s).",
0, "Visual Basic Validation")
Exit Function
End If
Next Col
Next Row
End If
'*** If any values in SAVE2 are Zeros then
'*** change them to 10.
If (HypReportData.ReportName = "SAVE2") Then
For Row = 1 To
HypReportData.DisplayedData.NumRows
HypReportData.DisplayedData.RowNum = Row
For Col = 1 To
HypReportData.DisplayedData.NumCols
HypReportData.DisplayedData.ColNum = Col
bOK = HypReportData.DisplayedData.IsZero
If bOK = True Then
bOK = HypReportData.DisplayedData.
SetNumericValue(10)
End If
Next Col
Next Row
End If
End Function

```

検証 OLE クラスのロジックとプロパティ

データの検証には、次の OLE クラスを使用できます。

- IIHypReportData
- IIDisplayedData
- IICompressedData

IIHypReportData

IIHypReportData は、Visual Basic で作成された 3 つの検証関数にそれぞれ渡されます。次の項では、これらのロジックとプロパティについて説明します。

DisplayedData As Object

説明

データ入力表で表示されているデータにアクセスするために使用できるオブジェクト

CompressedData As Object

説明

Hyperion Enterprise Reporting で表示されているデータにアクセスするために使用できるオブジェクト

ProductName As String 関数

説明

製品名を返します。

例

```
Dim Str1 As String  
Str1 = HypReportData.ProductName
```

ApplicationName As String 関数

説明

アプリケーション名を返します。

例

```
Dim Str1 As String  
Str1 = HypReportData.ApplicationName
```

ReportName As String 関数

説明

レポート名を返します。

例

```
Dim Str1 As String  
Str1 = HypReportData.ReportName
```

UserID As String 関数

説明

ユーザ名を返します。

例

```
Dim Str1 As String
```

```
Str1 = HypReportData.UserID
```

NumPOVKeys As Integer 関数

説明

データの視点（POV）ディメンションの数を返します。

例

```
Dim NumPOV As Integer
```

```
NumPOV = HypReportData.NumPOVKeys
```

POVKeyDesc(POVKeyIndex As Integer) As String 関数

説明

データの視点（POV）のキーインデックスが与えられた場合に、データの視点（POV）ディメンション名を返します。

例

```
Dim Str1 As String
```

```
Str1 = HypReportData.POVKeyDesc(1)
```

AppPOV(POVKeyIndex As Integer) As String 関数

説明

データの視点（POV）ディメンションの値を返します。

例

```
Dim Str1 As String
```

```
Str1 = HypReportData.AppPOV(1)
```

Sub CalculateReport 関数

説明

レポートの値を再計算します。

例

```
HypReportData.CalculateReport
```

Sub RefreshReport 関数

説明

データ入力表を再描画します。

例

```
HypReportData.RefreshReport
```

IIDisplayedData

IIDisplayedData オブジェクトは、IIHypReportData から取り出すことができます。データ入力表の行番号と列番号を使用してデータにアクセスできるようにします。次の項では、これらのロジックとプロパティについて説明します。

NumRows As Long 関数

説明

レポートの中の行数を返します。

例

```
Dim NumOfRows As Long
```

```
NumOfRows = HypReportData.DisplayedData.NumRows
```

NumCols As Long 関数

説明

レポートの中の列数を返します。

例

```
Dim NumOfCols As Long
```

```
NumOfCols = HypReportData.DisplayedData.NumCols
```

RowNum As Long プロパティ

説明

このプロパティは、現在の行番号を格納します。ValidateEditedCell を実行したときに、選択したセルの行番号に初期化されます。現在の行番号を設定または取得できます。

例

```
Dim RowNumber As Long  
HypReportData.DisplayedData.RowNum = 2  
RowNumber = HypReportData.DisplayedData.RowNum
```

ColNum As Long プロパティ

説明

このプロパティは、現在の列番号を格納します。ValidateEditedCell を実行したときに、選択したセルの列番号に初期化されます。現在の列番号を設定または取得できます。

例

```
Dim ColNumber As Long  
HypReportData.DisplayedData.ColNum = 2  
ColNumber = HypReportData.DisplayedData.ColNum
```

ReadOnly As Boolean プロパティ

説明

このプロパティは、特定のセルに対して参照のみのフラグを設定します。

例

```
Dim ColNumber As Long  
Dim RowNumber As Long  
HypReportData.DisplayedData.ColNum = 1  
HypReportData.DisplayedData.RowNum = 1  
HypReportData.DisplayedData.ReadOnly = True
```

GetNumericValue As Double 関数

説明

この関数は、現在のデータ行番号と列番号の数値を取り出します。

例

```
Dim ColNumber As Long  
Dim RowNumber As Long  
Dim CellValue As Double  
HypReportData.DisplayedData.ColNum = 1
```

```
HypReportData.DisplayedData.RowNum = 1
```

```
CellValue = HypReportData.DisplayedData.GetNumericValue
```

SetNumericValue (ByVal dbValue As Double) As Boolean 関数

戻り値

成功した場合は TRUE を、成功しない場合は FALSE を返します。

説明

この関数は、現在のデータ行番号と列番号の数値を設定します。

例

```
Dim ColNumber As Long
```

```
Dim RowNumber As Long
```

```
Dim OK As Boolean
```

```
HypReportData.DisplayedData.ColNum = 1
```

```
HypReportData.DisplayedData.RowNum = 1
```

```
OK = HypReportData.DisplayedData.SetNumericValue(10)
```

GetTextValue As String 関数

説明

この関数は、現在のデータ行番号と列番号のテキスト値を取り出します。

例

```
Dim ColNumber As Long
```

```
Dim RowNumber As Long
```

```
Dim CellValue As String
```

```
HypReportData.DisplayedData.ColNum = 1
```

```
HypReportData.DisplayedData.RowNum = 1
```

```
CellValue = HypReportData.DisplayedData.GetTextValue
```

SetTextValue (ByVal lpctrText As String) As Boolean 関数

戻り値

成功した場合は TRUE を、成功しない場合は FALSE を返します。

説明

この関数は、現在のデータ行番号と列番号のテキスト値を設定します。

例

Dim ColNumber As Long

Dim RowNumber As Long

Dim OK As Boolean

HypReportData.DisplayedData.ColNum = 1

HypReportData.DisplayedData.RowNum = 1

OK = HypReportData.DisplayedData.SetTextValue(“Hello”)

IsValueNumeric As Boolean 関数

説明

現在のセルが数値タイプの場合は TRUE を、それ以外の場合は FALSE を返します。

例

Dim IsCellNumeric As Boolean

IsCellNumeric = HypReportData.DisplayedData.IsValueNumeric

IsNoData As Boolean 関数

説明

現在のセルにデータがない場合は TRUE を、それ以外の場合は FALSE を返します。

例

Dim IsCellNoData As Boolean

IsCellNoData = HypReportData.DisplayedData.IsNoData

IsZero As Boolean 関数

説明

現在のセルが Zero（ゼロ）の場合は TRUE を、それ以外の場合は FALSE を返します。

例

Dim IsCellZero As Boolean

IsCellZero = HypReportData.DisplayedData.IsZero

IsDivideByZero As Boolean 関数

説明

現在のセルが Divide By Zero（ゼロによる除算）の場合は TRUE を、それ以外の場合は FALSE を返します。

例

```
Dim IsCellDBZ As Boolean
```

```
IsCellDBZ = HypReportData.DisplayedData.IsDivideByZero
```

IsError As Boolean 関数

説明

現在のセルが Error（エラー）セルの場合は TRUE を、それ以外の場合は FALSE を返します。

例

```
Dim IsCellError As Boolean
```

```
IsCellError = HypReportData.DisplayedData.IsError
```

IsReadOnlyByApp As Boolean 関数

説明

現在のセルがレポート上またはアプリケーション上で算出された項目である、または保護されている場合は TRUE を、それ以外の場合は FALSE を返します。

例

```
Dim IsCellAppReadOnly As Boolean
```

```
IsCellAppReadOnly = HypReportData.DisplayedData.IsReadOnlyByApp
```

ErrorCode As Short 関数

説明

最後に実行された関数のエラーコードを返します。最後の関数が成功した場合は、エラーコードは 0 になります。

例

```
Dim ErrorCode As Short
```

```
ErrorCode = HypReportData.DisplayedData.ErrorCode
```

ErrorDescription As Variant 関数

説明

最後に実行された関数のエラーの説明を返します。

例

```
Dim ErrorDesc As String
```

```
ErrorDesc = HypReportData.DisplayedData.ErrorDescription
```

CellPOV(POVKeyIndex As Integer) As String 関数

説明

ディメンションインデックスが与えられた場合にデータの視点 (POV) ディメンションの値を返します。

例

```
Dim POVKeyName As String
```

```
POVKeyName = HypReportData.DisplayedData.CellPOV(1)
```

GetCompressedCell(ByRef RowNum As Long, ByRef ExpandedRowIndex As Long, ByRef ColNum As Long, ByRef ExpandedColIndex As Long) As Boolean 関数

注： この関数は、VB 4.0 または 5.0 でのみ使用可能です。

説明

現在表示されているセルの圧縮行／列インデックスに相当するものを取り出します。

例

```
Dim RowNum As Long
```

```
Dim ColNum As Long
```

```
Dim ExpandedRowIndex As Long
```

```
Dim ExpandedColIndex As Long
```

```
Dim OK As Boolean
```

```
HypReportData.DisplayedData.RowNum = 2
```

```
HypReportData.DisplayedData.ColNum = 3
```

```
OK = HypReportData.DisplayedData.GetCompressedCell (RowNum,  
ExpandedRowIndex,
```

```
ColNum, ExpandedColIndex )
```

IsDirty As Boolean 関数

説明

現在のセルが変更されている場合は TRUE を、それ以外の場合は FALSE を返します。

例

```
Dim IsCellDirty As Boolean
```

```
IsCellDirty = HypReportData.DisplayedData.IsDirty
```

SetFocus As Boolean 関数

説明

現在のセルのフォーカスを変更します。

例

```
HypReportData.DisplayedData.RowNum = 2
```

```
HypReportData.DisplayedData.ColNum = 3
```

```
HypReportData.DisplayedData.SetFocus
```

IICompressedData

IICompressedData オブジェクトは、IHypReportData から取り出すことができます。Hyperion Enterprise Reporting 製品の行番号と列番号を使用してデータにアクセスできるようにします。次の項では、これらのロジックとプロパティについて説明します。

NumRows As Long 関数

説明

レポートの中の行数を返します。

例

```
Dim NumOfRows As Long
```

```
NumOfRows = HypReportData.CompressedData.NumRows
```

NumExpandedRows (RowNum As Long) As Long 関数

説明

行番号が指定された場合に、展開された行の数を返します。

例

Dim NumOfExpRows As Long

NumOfExpRows = HypReportData.CompressedData.NumExpandedRows(1)

NumCols As Long 関数

説明

レポートの中の列数を返します。

例

Dim NumOfCols As Long

NumOfCols = HypReportData.CompressedData.NumCols

NumExpandedCols (ColNum As Long) As Long 関数

説明

列番号が指定された場合に、展開された列の数を返します。

例

Dim NumOfExpCols As Long

NumOfExpCols = HypReportData.CompressedData.NumExpandedCols(1)

RowNum As Long プロパティ

説明

このプロパティは、現在の行番号を格納します。ValidateEditedCell を実行したときに、現在の行番号に設定されます。現在の行番号を設定または取得できます。

例

Dim RowNumber As Long

HypReportData.CompressedData.RowNum = 2

RowNumber = HypReportData.CompressedData.RowNum

ExpandedRowIndex As Long プロパティ

説明

このプロパティは、現在展開されている行番号のインデックスを格納します。ValidateEditedCell を実行したときに、現在の行インデックスの番号に設定されます。現在展開されている行インデックスの番号を設定または取得できます。

例

```
Dim ExpRowIndex As Long
HypReportData.CompressedData.ExpandedRowIndex = 2
ExpRowIndex = HypReportData.CompressedData.ExpandedRowIndex
```

ColNum As Long プロパティ

説明

このプロパティは、現在の列番号を格納します。ValidateEditedCell を実行したときに、現在の列番号に設定されます。現在の列番号を設定または取得できます。

例

```
Dim ColNumber As Long
HypReportData.CompressedData.ColNum = 2
ColNumber = HypReportData.CompressedData.ColNum
```

ExpandedColIndex As Long プロパティ

説明

このプロパティは、現在展開されている列番号のインデックスを格納します。ValidateEditedCell を実行したときに、現在の列インデックスの番号に設定されます。現在展開されている列インデックスの番号を設定または取得できます。

例

```
Dim ExpColNumberIndex As Long
HypReportData.CompressedData.ExpandedColIndex = 2
ExpColNumberIndex = HypReportData.CompressedData.ExpandedColIndex
```

ReadOnly As Boolean プロパティ

説明

このプロパティは、特定のセルに対して参照のみのフラグを設定または設定解除します。

例

```
Dim ColNumber As Long
Dim ExpColIndex As Long
Dim RowNumber As Long
Dim ExpRowIndex As Long
HypReportData.CompressedData.ColNum = 1
```

```
HypReportData.CompressedData.ExpandedColIndex = 1
HypReportData.CompressedData.RowNum = 1
HypReportData.CompressedData.ExpandedRowIndex = 1
HypReportData.CompressedData.ReadOnly = True
```

GetNumericValue As Double 関数

説明

この関数は、現在のデータ行番号と列番号の数値を取り出します。

例

```
Dim ColNumber As Long
Dim RowNumber As Long
Dim CellValue As Double
HypReportData.CompressedData.ColNum = 1
HypReportData.CompressedData.RowNum = 1
CellValue = HypReportData.CompressedData.GetNumericValue
```

SetNumericValue (ByVal dbValue As Double) As Boolean 関数

説明

現在のデータ行番号と列番号の数値を設定します。成功した場合は TRUE を、成功しない場合は FALSE を返します。

例

```
Dim ColNumber As Long
Dim RowNumber As Long
Dim OK As Boolean
HypReportData.CompressedData.ColNum = 1
HypReportData.CompressedData.RowNum = 1
OK = HypReportData.CompressedData.SetNumericValue(10)
```

SetTextValue (ByVal lpctrText As String) As Boolean 関数

説明

現在のデータ行番号と列番号のテキスト値を設定します。成功した場合は TRUE を、成功しない場合は FALSE を返します。

例

```
Dim ColNumber As Long
Dim RowNumber As Long
Dim OK As Boolean
HypReportData.CompressedData.ColNum = 1
HypReportData.CompressedData.RowNum = 1
OK = HypReportData.CompressedData.SetTextValue( "Hello" )
```

GetTextValue As String 関数

説明

現在のデータ行番号と列番号のテキスト値を取り出します。

例

```
Dim ColNumber As Long
Dim RowNumber As Long
Dim CellValue As String
HypReportData.CompressedData.ColNum = 1
HypReportData.CompressedData.RowNum = 1
CellValue = HypReportData.CompressedData.GetTextValue
```

IsValueNumeric As Boolean 関数

説明

現在のセルが数値タイプの場合は TRUE を、それ以外の場合は FALSE を返します。

例

```
Dim IsCellNumeric As Boolean
IsCellNumeric = HypReportData.CompressedData.IsValueNumeric
```

IsNoData As Boolean 関数

説明

現在のセルにデータがない場合は TRUE を、それ以外の場合は FALSE を返します。

例

```
Dim IsCellNoData As Boolean
```

IsCellNoData = HypReportData.CompressedData.IsNoData

IsZero As Boolean 関数

説明

現在のセルが Zero（ゼロ）の場合は TRUE を、それ以外の場合は FALSE を返します。

例

Dim IsCellZero As Boolean

IsCellZero = HypReportData.CompressedData.IsZero

IsDivideByZero As Boolean 関数

説明

現在のセルが Divide By Zero（ゼロによる除算）の場合は TRUE を、それ以外の場合は FALSE を返します。

例

Dim IsCellDBZ As Boolean

IsCellDBZ = HypReportData.CompressedData.IsDivideByZero

IsError As Boolean 関数

説明

現在のセルが Error（エラー）セルの場合は TRUE を、それ以外の場合は FALSE を返します。

例

Dim IsCellError As Boolean

IsCellError = HypReportData.CompressedData.IsError

IsReadOnlyByApp As Boolean 関数

説明

現在のセルがレポート上またはアプリケーション上で算出された項目である、または保護されている場合は TRUE を返します。それ以外の場合は FALSE を返します。

例

Dim IsCellAppReadOnly As Boolean

IsCellAppReadOnly = HypReportData.CompressedData.IsReadOnlyByApp

ErrorCode As Short 関数

説明

最後に実行された関数のエラーコードを返します。

例

Dim ErrorCode As Short

ErrorCode = HypReportData.CompressedData.ErrorCode

ErrorDescription As Variant 関数

説明

最後に実行された関数のエラーの説明を返します。

例

Dim ErrorDesc As String

ErrorDesc = HypReportData.CompressedData.ErrorDescription

CellPOV(POVKeyIndex As Integer) As String 関数

説明

ディメンションインデックスが与えられた場合に、データの視点（POV）のキーの値を返します。

例

Dim POVKeyName As String

POVKeyName = HypReportData.CompressedData.CellPOV(1)

GetDisplayedCell(ByRef RowNum As Long, ByRef ColNum As Long) As Boolean 関数

注： この関数は、VB 4.0 または 5.0 でのみ使用可能です。

説明

現在圧縮されているセルの表示行番号と列番号に相当するものを取り出します。

例

Dim RowNum As Long

Dim ColNum As Long

```
Dim bOK As Boolean
```

```
HypReportData.CompressedData.ColNum = 2
```

```
HypReportData.CompressedData.RowNum = 1
```

```
HypReportData.CompressedData.ExpandedColIndex = 2
```

```
HypReportData.CompressedData.ExpandedRowIndex = 1
```

```
bOK = HypReportData.CompressedData.GetDisplayedCell( RowNum, ColNum )
```

IsDirty As Boolean 関数

説明

現在のセルが変更されている場合は TRUE を、それ以外の場合は FALSE を返します。

例

```
Dim IsCellDirty As Boolean
```

I CellDirty = HypReportData.CompressedData.IsDirty SetFocus As Boolean 関数

説明

現在のセルのフォーカスを変更します。成功した場合は TRUE を、それ以外の場合は FALSE を返します。

例

```
HypReportData.CompressedData.RowNum = 2
```

```
HypReportData.CompressedData.ColNum = 3
```

```
HypReportData.CompressedData.SetFocus
```

よく尋ねられる質問

この章では、Hyperion Schedules に関して、このガイドの他の項で説明されていないけれども、よく尋ねられる質問について説明します。

他の問題が発生した場合や、この章で説明されていない質問がある場合は、システム管理者に問い合わせるか、Readme を参照してください。

Hyperion Schedules 内から複合レポートを開けませんか

複合レポートは、現在 Hyperion Enterprise Reporting 内でのみサポートされています。

Hyperion Schedules 内で緑のセルに入力できません

緑色のセルは、算出勘定であるか、入力勘定ではないことを示しています。

入力レベルのセルにデータを入力できません

データ入力表にデータを入力できない理由として、次のような理由が考えられます。

- ユーザにセキュリティへのアクセス権がない。
- 期間が保護されている。
- 表示形式が間違っています。YTD ではなく、CTD か PER を使用する必要があります。

Hyperion Schedules 内で行や列を変更できません

Hyperion Schedules は、データ入力以外はできない設計になっています。列や行に変更を加える場合は、Hyperion Enterprise Reporting を使用する必要があります。

計算式の算出を使用して、セルにアクセスできません

これらのセルには、Hyperion Enterprise Reporting の式を基に計算された、または Hyperion Enterprise アプリケーションで計算された表示専用のデータが入っています。式を計算すると、値が変わります。

Hyperion Schedules ヘルプ

Hyperion Schedules のウィンドウとダイアログボックスのオプションについて説明しています。

[Choose Report (レポートの選択)] ダイアログボックス



適用対象：

既存のレポートを開くために使用します。

セット

開くレポートまたはパッケージが含まれているセットを選択します。

ファイル名

レポートを選択します。編集ボックスにレポートファイル名の最初の数文字を入力すると、これと一致する最初のレポートがハイライトされます。[ファイル名] リストは、レポートセットを [セット] ドロップダウンリストから選択することによってフィルタできます。

[アプリケーションの選択] ダイアログボックス



適用対象：

アプリケーションにログオンするために使用します。

アプリケーション名

データの表示、入力、または編集に使用するアプリケーションを選択します。

ユーザー名

選択したアプリケーション用のユーザ名を入力します。Hyperion Enterprise 用のユーザ名は、システム管理者によって設定されます。

パスワード

ユーザ名に対応するパスワードを入力します。Hyperion Enterprise 用のパスワードを設定します。

[Show Suppressed Rows（非表示の行の表示）] ダイアログボックス



適用対象：

非表示になっている行にデータを入力できるように、これらの行を表示する場合に使用します。

Row Description（行の説明）

現在非表示になっている表示対象の行の説明を選択します。

Include Suppressed Rows for Selected Cell Only（選択したセルのみ非表示行を含める）

ハイライトしたセルの下に表示する行の説明を [Row Description（行の説明）] リストに含める場合を選択します。

[Show Suppressed Columns (非表示の列の表示)] ダイアログボックス



適用対象：

非表示になっている列にデータを入力できるように、これらの列を表示する場合に使用します。

Column Description (列の説明)

現在非表示になっている表示対象の列の説明を選択します。

Include Suppressed Columns for Selected Cell Only (選択したセルのみ非表示列を含める)

ハイライトしたセルの右に表示する列の説明を [Column Description (列の説明)] リストに含める場合に選択します。

[色の変更] ダイアログボックス



適用対象：

Hyperion Schedules のセルタイプを示す色を選択するために使用します。

Default Cells (デフォルトのセル)

有効な入力セルの色を示します。デフォルトはオフホワイトです。デフォルトのセルでデータの入力や変更ができます。

Changed Cells (変更されたセル)

未保存のデータ変更が含まれているセルの色を示します。デフォルトは黄色です。変更したセルのデータをさらに変更できます。変更内容を保存すると、変更したセルがデフォルトのセルになります。

Locked Cells (保護されたセル)

データベース内で保護された表示専用セル、または仕訳帳保護された表示専用セルの色を示します。デフォルトは薄緑色です。

Reporting Calculated Cells (Reporting 算出セル)

Hyperion Reporting の計算式に基づいて算出されたデータが含まれている表示専用セルの色を示します。デフォルトは薄緑色です。計算式を実行すると、値が変わります。

Application Calculated Cells (アプリケーション算出セル)

Hyperion Enterprise の計算式に基づいて算出されたデータが含まれている表示専用セルの色を示します。デフォルトは薄緑色です。計算式を実行すると、値が変わります。

Text Cells (テキストセル)

空の表示専用セルまたはテキストが含まれている表示専用セルの色を示します。デフォルトは白です。

Write-failed Cells (書き込み失敗セル)

保存時にデータベースに書き込めなかったデータが含まれているセルの色を示します。デフォルトは薄赤色です。

Read Only Cells (読み取り専用セル)

読み取り専用のセルの色を示します。読み取り専用のセルにはデータを入力できません。デフォルトは薄緑色と白です。

赤

選択した色に含める赤の量を調整します。

緑

選択した色に含める緑の量を調整します。

青

選択した色に含める青の量を調整します。

リセット

選択した色をデフォルト設定に戻す場合に選択します。

Reset All (すべてリセット)

すべての色をデフォルト設定に戻す場合に選択します。

Choose (選択)

Windows の標準のダイアログボックスを使用して色を選択する場合に使用します。

【設定変更】ダイアログボックス



適用対象：

[Tab] キーと [Enter] キーの動作および計算オプションを指定するために使用します。

Cause No Movement (カーソルを動かさない)

[Tab] キーまたは [Enter] キーを押したときにカーソルをセルから動かさない場合を選択します。

Move the Cursor to the Right (カーソルを右へ動かす)

[Tab] キーまたは [Enter] キーを押したときにカーソルを 1 つ右のセルに動かす場合を選択します。

Move the Cursor Down (カーソルを下へ動かす)

[Tab] キーまたは [Enter] キーを押したときにカーソルを 1 つ下のセルに動かす場合を選択します。

Skip Non-editable Cells (編集不可能セルをスキップする)

[Tab] キーを押したときに編集不可能なセルをスキップしてカーソルを動かす場合を選択します。

なし

データの入力中に自動計算を行わない場合を選択します。

Reporting Formulas Only (Hyperion Enterprise Reporting の計算式のみ)

データの入力時に Hyperion Enterprise の計算式ではなく Hyperion Reporting の計算式を自動的に実行する場合を選択します。

Reporting and Application Formulas (Hyperion Enterprise Reporting とアプリケーションの計算式)

データの入力時に Hyperion Reporting の計算式と Hyperion Enterprise の計算式を自動的に実行する場合を選択します。

[検索] ダイアログボックス



適用対象 :
Hyperion
Enterprise

テキスト見出しを検索するために使用します。

Find What (検索対象)

検索するテキスト見出しを入力します。

検索

行見出しまたは列見出しで検索する場合を選択します。

[データの視点] および [変更項目の編集] ダイアログボックス

ディメンションの編集、セクションの編集、変更項目の編集、データの視点の変更、およびプロンプトの貼り付けに使用します。

使用可能な項目

ディメンション ID、関数、または一覧を入力して、[使用可能な項目] リストの項目をハイライトします。

(検索オプション) (前を検索) (次を検索)

[検索オプション] を指定して、[使用可能な項目] リストの項目を検索します。

選択項目	検索方法
名前の検索	名前によって検索します。
説明の検索	説明によって検索します。
ワイルドカードの検索	*または?のワイルドカード記号を使用して検索します。空白文字を区切り文字として使用して複数の検索を指定できます。例えば、「d* w*」と指定した場合、d または w から始まるすべての項目が一致します。[ワイルドカード] テキストボックスが空白の場合は、ID は一致しません。
大文字と小文字を区別して検索	大文字と小文字を区別して検索を実行します。
自動検索	入力された文字で一覧を検索します。このオプションがオフの場合は、[前を検索] または [次を検索] ボタンをクリックして検索を行う必要があります。

(使用可能なオプション) (更新)

[使用可能なオプション] を指定して、[使用可能な項目] リストの項目を表示します。[自動更新] オプションがオフの場合に、[使用可能な項目] リストを更新するには、[更新] アイコンをクリックします。

選択項目	表示方法
リスト表示	項目をリストで表示します。
ツリー表示	項目を階層ツリーで表示します。
すべてを展開	ツリーのすべての項目を展開します。
すべてを縮小	ツリーのすべての項目を縮小します。
選択項目を展開	ツリーのハイライトされた項目を展開します。
選択項目を縮小	ツリーのハイライトされた項目を縮小します。
すべてを読込	最上位レベルから開始してすべての子孫を読み込みます。
選択項目を読込	選択した ID のすべての子孫を読み込みます。

選択項目	表示方法
自動更新	フィルタが変更されるたびに〔使用可能な項目〕リストを更新します。〔自動更新〕オプションがオフの場合にフィルタされた ID を表示するには、〔更新〕アイコンをクリックする必要があります。
〔可視属性〕メニューの 〔属性〕リスト	属性を表示します。

フィルタ

〔使用可能な項目〕リストに表示される ID を指定するには、フィルタを選択します。

フィルタの種類	フィルタ方法
リスト	リスト内で 1 つまたは複数の選択された項目に一致する ID を指定します。
範囲	範囲内の ID を指定します。範囲は、他のすべてのフィルタが適用された後に、ID のリストに適用されます。
ワイルドカード	*または?のワイルドカード記号を使用して ID を指定します。
オンまたはオフ	オンにしたチェックボックスに該当する ID を指定します。

(フィルタオプション)

すべてのフィルタオプションをオンにするには〔すべて〕を選択し、すべてのフィルタオプションをオフにするには〔なし〕を選択します。



(フィルタの概要)

フィルタオプションの概要を表示する場合に選択します。

この章の内容

Hyperion Retrieve for Reporting への Enterprise Retrieve 関数の変換	381
Hyperion Retrieve for Reporting 関数への Enterprise Retrieve 関数の変換 - 概要	382

Hyperion Retrieve for Reporting への Enterprise Retrieve 関数の変換

382 ページの「Hyperion Retrieve for Reporting 関数への Enterprise Retrieve 関数の変換 - 概要」

➤ 変換するには、次の手順に従います。

1 変換ユーティリティアドインをロードします

このアドインは、Microsoft Excel では CONVERT32.XLA という名前で、Hyperion Retrieve for Reporting のアドインと同じディレクトリに保存されています。

2 Hyperion Retrieve for Reporting のアドインがロードされていることを確認します。

3 Enterprise Retrieve 関数が含まれているワークシートを開きます。

4 変換する関数を指定します。

- 変換する特定の関数を選択するには、ワークシートで各関数をクリックしてドラッグします。
- ワークシートまたはパッケージのすべての関数を選択するには、次のステップに進みます。

5 [Retrieve] メニューの [変換] を選択します。

6 次のオプションを選択します。

- 変換するセルの範囲をワークシートで選択します。
- ドライバを選択します。
- Hyperion Retrieve for Reporting の計算式でアプリケーション名が指定されていない場合に使用される、デフォルトのアプリケーションを選択します。
- ここで選択した値を今後の変換のデフォルトとして使用するには、[Always Use These Values (これらの値を常に使用する)] チェックボックスをオンにします。

7 [OK] をクリックします。

Hyperion Retrieve for Reporting 関数への Enterprise Retrieve 関数の変換 - 概要

Hyperion Retrieve の変換ユーティリティを使用すると、Enterprise Retrieve 関数を Hyperion Retrieve for Reporting 関数に変換できます。関数を変換すると、Hyperion Retrieve for Reporting の追加機能を利用できるようになります。

Hyperion Retrieve for Reporting は、Hyperion のすべての製品と連動し、複数の Hyperion 製品のデータを同一のワークシートに取り込むことができます。Hyperion Retrieve for Reporting では、Hyperion アプリケーションのデフォルトのデータの視点も使用されます。そのため、Hyperion Software アプリケーションのデータの視点を上書きする場合を除き、計算式で要素を指定する必要はありません。

また、Enterprise Retrieve の各関数では単一のタスクのみを実行しますが、Hyperion Retrieve for Reporting の一部の関数では、複数の Enterprise Retrieve 関数のタスクが 1 つのタスクにまとめられています。

この章の内容

ダイアログボックス	383
Hyperion Enterprise Reporting	552

ダイアログボックス

Hyperion Enterprise Reporting のウィンドウとダイアログボックスのオプションについて説明します。

ダイアログボックスの説明

ここでは、Hyperion Reporting のダイアログボックスおよびそのパネルを示します。見出しの文字をクリックすると、その文字から始まるダイアログボックスの説明に移動できます。

A

385 ページの「[勘定科目] ダイアログボックス」

B

385 ページの「[パッケージ情報] ダイアログボックス」

386 ページの「[パッケージにおけるデータの視点] ダイアログボックス」

387 ページの「[パッケージセット情報] ダイアログボックス」

387 ページの「[パッケージオプション] ダイアログボックス」

D

388 ページの「[「各月の日数」勘定] ダイアログボックス」

E

388 ページの「[変更項目の編集] ダイアログボックス」

389 ページの「[ディメンションの編集] ダイアログボックス」

389 ページの「[計算式の編集] ダイアログボックス」

390 ページの「[セクションの編集] ダイアログボックス」

390 ページの「[エンティティ] ダイアログボックス」

390 ページの「[エクスポート] ダイアログボックス」

F

391 ページの「[フォント] ダイアログボックス」

391 ページの「[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックス」

392 ページの「[書式] ダイアログボックス」

G

392 ページの「[グローバル設定] ダイアログボックス」

H

391 ページの「[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックス」

I

393 ページの「[インポートオプション] ダイアログボックス」

394 ページの「[レポートの挿入] ダイアログボックス」

L

394 ページの「[レイアウト] ダイアログボックス」

M

395 ページの「[展開機能の管理] ダイアログボックス」

395 ページの「[展開機能の管理 - 詳細設定] ダイアログボックス」

396 ページの「[ディメンションのカスタマイズ] ダイアログボックス」

397 ページの「[レポートおよびパッケージの管理] ダイアログボックス」

N

399 ページの「[新規パッケージ] ダイアログボックス」

400 ページの「[新規パッケージセット] ダイアログボックス」

400 ページの「[新規作成] ダイアログボックス」

400 ページの「[新規レポート] ダイアログボックス」

401 ページの「[新規レポートセット] ダイアログボックス」

O

401 ページの「[開く]、[連続エクスポート]、[連続印刷]、または [Print Preview Batch (連続印刷プレビュー)] ダイアログボックス」

P

402 ページの「[ページ書式] ダイアログボックス」

402 ページの「[ページ設定] ダイアログボックス」

403 ページの「[展開機能の設定] ダイアログボックス」

403 ページの「[ディメンションの貼り付け] ダイアログボックス」

404 ページの「[貼り付け] ダイアログボックス」

404 ページの「[ファイルから貼り付け] ダイアログボックス」

- 405 ページの「[OnTrack Action (OnTrack アクション)] ダイアログボックス」
- 405 ページの「[ピボットテーブルオプション] ダイアログボックス」
- 406 ページの「[データの視点] ダイアログボックス」
- 407 ページの「[Preview Window (プレビューウィンドウ)] ダイアログボックス」
- 407 ページの「[プレビューページ指定] ダイアログボックス」
- 401 ページの「[開く]、[連続エクスポート]、[連続印刷]、または [Print Preview Batch (連続印刷プレビュー)] ダイアログボックス」
- 404 ページの「[印刷] ダイアログボックス」
- 408 ページの「[プロンプト値] ダイアログボックス」

R

- 408 ページの「[レポートの置換] ダイアログボックス」
- 408 ページの「[レポート情報] ダイアログボックス」
- 409 ページの「[レポートオプション] ダイアログボックス」
- 410 ページの「[レポートにおけるデータの視点] ダイアログボックス」
- 410 ページの「[レポートセット情報] ダイアログボックス」
- 411 ページの「[レポートウィザード] ダイアログボックス」

S

- 412 ページの「[名前を付けて保存] ダイアログボックスと [サマリー情報] ダイアログボックス」
- 412 ページの「[条件式の編集] ダイアログボックス」



T

- 413 ページの「[タグ] ダイアログボックス」

[勘定科目] ダイアログボックス

- 414 ページの「[勘定科目] ダイアログボックス - [範囲] パネル」
- 415 ページの
- 415 ページの「[勘定科目] ダイアログボックス - [関数] パネル」
- 416 ページの「[勘定科目] ダイアログボックス - [一覧] パネル」

[パッケージ情報] ダイアログボックス

適用対象：	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>Hyperion Enterprise</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>Hyperion Essbase</p> </div> </div>
-------	--

ハイライトしたパッケージのセキュリティクラスまたはタイトルを変更する場合に使用します。

名前	パッケージ名を表示します。
セキュリティクラス	パッケージのセキュリティクラスを選択します。
タイトル	タイトルを 40 文字以内で入力または編集します。

[パッケージにおけるデータの視点] ダイアログボックス

パッケージにおけるデータの視点を設定するには、以下のダイアログボックスを使用します。

[416 ページの「\[パッケージにおけるデータの視点\] ダイアログボックス」](#)

[416 ページの「\[パッケージにおけるデータの視点\] ダイアログボックス」](#)

[416 ページの](#)

[417 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - \[連結の詳細\] ダイアログボックス」](#)

[417 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - \[通貨単位\] ダイアログボックス」](#)

[417 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - \[データ種別\] ダイアログボックス」](#)

[417 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - \[エンティティ\] ダイアログボックス」](#)

[418 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - \[フィールド\] ダイアログボックス」](#)

[418 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - \[期間単位\] ダイアログボックス」](#)

[418 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - \[親\] ダイアログボックス」](#)

[418 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - \[期間\] ダイアログボックス」](#)

[418 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - \[期間\] ダイアログボックス」](#)

[418 ページの](#)



[418 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - \[期間\] ダイアログボックス」](#)

[418 ページの](#)

[418 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - \[期間\] ダイアログボックス」](#)

[419 ページの](#)



[パッケージセット情報] ダイアログボックス

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	---

パッケージセットの名前、セキュリティクラス、またはタイトルを変更する場合に使用します。

古い名前	パッケージセットの現在の名前が表示されます。
新規の名前	新しい一意の名前を 8 文字以内で入力します。これには英数字、ドル記号 (\$)、および下線 (_) を使用することができます。
セキュリティクラス	パッケージセットのセキュリティクラスを選択します。
タイトル	パッケージセットのタイトルを変更するには、新しいタイトルを 40 文字以内で入力します。

[パッケージオプション] ダイアログボックス

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	---

パッケージのページ番号、書式、目次などの設定に使用します。


ページ番号を付け直す	パッケージ内のセクションやレポートの開始ページ番号を指定します。 注： 開始ページ番号を定義するには、[ファイル] メニューの [ページ設定] を選択します。
連続	パッケージの最初の開始ページ番号から続けます。
各セクション	パッケージの各セクションの始めの開始ページ番号から続けます。
各レポート	パッケージの各レポートの始めの開始ページ番号から続けます。
セクションの情報	ページ番号の前に章番号、セクション番号、またはディメンション値を付けることができます。
なし	ページ番号の前に何も付けません。目次にすべてのレポートを含めます。
章番号	ページ番号の前に各セクションの章番号を付けます。章番号はセクション番号と同じで、セクション内でディメンションが変化するたびに増加します。
セクション番号	ページ番号の前に各セクションとサブセクションの連続番号を付けます。セクション番号は、セクション内でディメンションが変化するたびに増加します。

Section Dimension Value (セクションのディメンション値)	各セクションの現在のディメンション値をページ番号の前に付けます。
目次を印刷する	目次を印刷します。目次はパッケージの終わりに印刷されます。
オプション	目次の書式オプションを選択します。
パッケージ名	目次の一番上にパッケージ名が印刷されます。
パッケージタイトル	目次の一番上にパッケージタイトルが印刷されます。
レポート名	目次の左側にレポート名が印刷されます。
レポートタイトル	目次の左側にレポートタイトルが印刷されます。
ページ設定ラベル	目次内に一般、日付、時刻、およびテキストページラベルが印刷されます。 注： ページ設定ラベルを定義するには、[ファイル] メニューの [ページ設定] を選択します。このオプションを選択すると、ページ設定ラベルで定義されたページ番号は印刷されません。
向き	目次の印刷の向きとして [縦向き]、[横向き]、または [システムのデフォルト] の向きを指定します。システムデフォルトを選択すると、プリンタの現在のページの向きが使用されます。 注： デフォルトのプリンタオプションを使用すると、システムデフォルトの向きが設定されます。
フォント	目次のフォントオプションを設定します。

【「各月の日数」勘定】 ダイアログボックス

適用対象：	 Hyperion Enterprise
--------------	---

Hyperion Reporting の「各月の日数」勘定を指定するときに使用します。

勘定科目、  (前を検索、次を検索)	勘定科目を選択します。編集ボックスに勘定科目 ID の最初の数文字を入力すると、これと一致する最初の勘定科目がハイライトされます。項目をダブルクリックして選択することもできます。
入力勘定、算出勘定、サブ勘定科目	[勘定科目] リストに入力勘定科目、算出勘定科目、またはサブ勘定科目を含める場合に選択します。

【変更項目の編集】 ダイアログボックス

パッケージまたはレポートのディメンション設定の変更項目を挿入または編集するには、以下のダイアログボックスを使用します。

418 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス」
419 ページの

- 419 ページの「変更項目の編集 - [Additional Dimension (追加ディメンション)] ダイアログボックス」
- 419 ページの「変更項目の編集 - [データ種別] ダイアログボックス」
- 419 ページの「変更項目の編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス」
- 419 ページの「変更項目の編集 - [通貨単位] ダイアログボックス」
- 420 ページの「変更項目の編集 - [エンティティ] ダイアログボックス」
- 420 ページの「変更項目の編集 - [フィールド] ダイアログボックス」
- 420 ページの「変更項目の編集 - [期間単位] ダイアログボックス」
- 420 ページの「変更項目の編集 - [親] ダイアログボックス」
- 420 ページの「変更項目の編集 - [期間] ダイアログボックス」
- 420 ページの「変更項目の編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス」
- 421 ページの「変更項目の編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス」
- 421 ページの「変更項目の編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス」

【ディメンションの編集】 ダイアログボックス

レポートの列や行またはクエリにディメンションを割り当てる場合、またはレポートやパッケージセクションのディメンション設定を変更する場合は、以下のダイアログボックスを使用します。

- 421 ページの「ディメンションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス」
- 421 ページの「ディメンションの編集 - [データ種別] ダイアログボックス」
- 421 ページの「ディメンションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス」
- 422 ページの「ディメンションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス」
- 422 ページの「ディメンションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス」
- 422 ページの「ディメンションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス」
- 422 ページの「ディメンションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス」
- 423 ページの「ディメンションの編集 - [親] ダイアログボックス」
- 423 ページの「ディメンションの編集 - [期間] ダイアログボックス」
- 423 ページの「ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス」
- 423 ページの「ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス」
- 424 ページの「ディメンションの編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス」

【計算式の編集】 ダイアログボックス

- 424 ページの「[計算式の編集] ダイアログボックス - [データ] パネル」

425 ページの「[計算式の編集] ダイアログボックス - [ヘッダー/フッター] パネル」

[セクションの編集] ダイアログボックス



パッケージまたはレポートのディメンションのセクションを設定するには、以下のダイアログボックスを使用します。

- 425 ページの「セクションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス」
- 425 ページの「セクションの編集 - [データ種別] ダイアログボックス」
- 426 ページの「セクションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス」
- 426 ページの「セクションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス」
- 426 ページの「セクションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス」
- 426 ページの「セクションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス」
- 426 ページの「セクションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス」
- 427 ページの「セクションの編集 - [期間] ダイアログボックス」



[エンティティ] ダイアログボックス

- 427 ページの「[エンティティ] ダイアログボックス - [ID] パネル」
- 428 ページの「[エンティティ] ダイアログボックス - [関数] パネル」
- 428 ページの「[エンティティ] ダイアログボックス - [一覧] パネル」

[エクスポート] ダイアログボックス

適用対象：	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
-------	---	--

アクティブなレポート、一連のレポート、または一連のレポートセットを Microsoft Excel のスプレッドシートまたはファイルにエクスポートする場合に使用します。

ファイル名、 (ファイルの選 択) 	アクティブなレポートのファイル名を指定します。ファイル名、ファイルの種類、ディレクトリ、およびドライブを指定するには、[ファイルの選択] アイコンをクリックします。 注：一連のレポートまたはレポートセットをエクスポートする場合にはファイル名を指定できません。
パス名、 (ファイルの選 択) 	一連のレポートまたはレポートセットのパスを指定します。ディレクトリおよびドライブを参照するには、[ファイルの選択] アイコンをクリックします。
ファイルの種 類、(オブ	ファイルの種類を選択します。デフォルトのファイルの種類は EXCEL ファイルです。また、印刷ファイル、データファイル、カスタマイズ可能なファ

シヨンの編集)



イル、または Adobe Acrobat ファイルにエクスポートすることもできます。印刷ファイル、データファイル、またはカスタマイズ可能なファイルの ASCII ファイルオプションを指定するには、[オプションの編集] アイコンをクリックします。

注： Excel ファイルまたは Adobe Acrobat ファイルには ASCII ファイルオプションを設定できません。

[フォント] ダイアログボックス

適用対象：



選択したページ領域のフォントオプションを指定する場合に使用します。

フォント	[フォント] リストからフォントを選択します。[フォント] リストには、システムにインストールされているすべてのフォントが表示されます。
スタイル	スタイルを選択します。標準、太字、斜体、または太字斜体からフォントのスタイルを選択できます。
サイズ	フォントサイズを選択します。選択したフォントに使用可能なサイズを選択できます。
Effects (効果)	選択したページ領域に取り消し線および下線を使用するかどうかを指定します。デフォルトでは、どちらのオプションも無効になっています。
色	フォントの色を選択します。
サンプル	現在のオプション設定を使用して、選択したレポート領域のテキストのサンプルを表示します。
Script	リストからスクリプトフォントを選択します。フォントのドロップダウンリストから選択したフォントがシステムにない場合には、このフォントが代わりに使用されます。




[ヘッダー] および [フッター] ダイアログボックス

適用対象：



[ヘッダー] ダイアログボックスでは現在のレポートのヘッダーを設定します。
[フッター] ダイアログボックスでは現在のレポートのフッターを設定します。

左	左側に配置するテキストや関数を入力するか貼り付けます。
中央	中央揃えにするテキストや関数を入力するか貼り付けます。

右	右側に配置するテキストや関数を入力するか貼り付けます。
(Default Font (デフォルトのフォント)) 	[ページ書式] ダイアログボックスでのヘッダーまたはフッターのフォント設定に優先するフォントオプションを設定します。
 (フォントおよび網掛け/枠線)	[ページ書式] ダイアログボックスでのヘッダーまたはフッターのフォント設定に優先する個別行のフォントオプションを設定します。
 (計算式の編集)	[左]、[中央]、[右] の各編集ボックスにテキスト関数を含む計算式を貼り付けるときに使用します。

関連項目

[64 ページの「ヘッダーとフッターの設定」](#)

[402 ページの「\[ページ書式\] ダイアログボックス」](#)

[書式] ダイアログボックス

[429 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[フォント\] パネル」](#)

[430 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[網掛け/枠線\] パネル」](#)

[431 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[数値\] パネル」](#)

[432 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[レイアウト\] パネル」](#)

[433 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示\] パネル」](#)

[434 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[タイトル\] パネル」](#)



[435 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[ソート\] パネル」](#)

[436 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示基準\] パネル」](#)

[438 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[調査\] パネル」](#)

[439 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[展開\] パネル」](#)

[グローバル設定] ダイアログボックス

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	--

レポート全体に適用する条件書式の情報を表示するときに使用します。



注： このダイアログボックスは情報の表示専用です。表示基準の設定には [書式] ダイアログボックスを使用します。

Define Criteria（表示基準の定義）、結果	[Define Criteria（表示基準の定義）] 編集ボックスで表示基準ステートメントをハイライトして、[結果] に書式オプションを表示します。オプションは [Hyperion Reporting スタイル] ボックスに表示されます。
------------------------------------	---

関連項目

[436 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示基準\] パネル」](#)

[インポートオプション] ダイアログボックス

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
--------------	--

現在のレポートにもう 1 つのレポートを統合する際のオプションを設定するために使用します。

現在のレポートの前にインポート、列の後にインポート、行の後にインポート	インポートしたレポートやプロンプトを表示する場所に応じて編集ボックスを選択します。
レポートの貼り付け	[レポートの貼り付け] ダイアログボックスを表示して、インポートするレポートを指定します。
プロンプトの貼り付け	[プロンプトの貼り付け] ダイアログボックスを表示して、インポートするレポートをユーザに選択させるプロンプトのダイアログボックスを設定します。
挿入	ハイライトした行の上に空白行を挿入します。空白行に追加のレポートやプロンプトを挿入できます。
削除	ハイライトした行を削除します。
行/列参照の共有	行と列の参照を共有するときに使用します。行と列の参照はレポートが統合されてから評価されます。例えば、このオプションを使用して、統合したレポートですべての列を合計する関数にインポートした列のセットを含めることができます。



関連項目

[66 ページの「レポートのインポート」](#)

[440 ページの「\[レポートの貼り付け\] ダイアログボックス」](#)

[440 ページの「\[プロンプトの貼り付け\] ダイアログボックス」](#)



[レポートの挿入] ダイアログボックス

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	--



パッケージにレポートを挿入するときに使用します。

セット	挿入するレポートを含むセットを選択します。または[ファイル名] リストで[すべて] を選択してアプリケーション内のすべてのレポートを挿入します。
ファイル名	<p>レポートをハイライトしてダブルクリックします。編集ボックスにファイル名の最初の数文字を入力すると、これと一致する最初のレポートをハイライトすることができます。</p> <p>ヒント：[ファイル名] リストは、[セット] ドロップダウンリストからセットを選択することによってフィルタできます。</p>
上に挿入、下に挿入、セクション内に挿入	[上に挿入] や [下に挿入] を選択して、ハイライトしたレポートをハイライトしたパッケージの行の上または下に挿入します。パッケージの行がセクションを表す場合は、[セクション内に挿入] を選択してレポートをそのセクションに挿入します。



[レイアウト] ダイアログボックス

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	--







複合レポートのレイアウトを指定するときに使用します。

テンプレート	複合レポート用のテンプレートを選択します。
 (ヘッダー、フッター、レイアウト)	複合レポートのヘッダーまたはフッターを作成または編集するには、[複合レポートヘッダー] または [複合レポートフッター] アイコンを選択します。レイアウトオプションを指定するには [複合レポートレイアウト] アイコンを選択します。
 レポート、 (上に移動、下に移動)	複合レポートに組み込まれたレポートの順序を変更するには、組み込まれたレポートの名前をハイライトして、[上に移動] または [下に移動] アイコンを選択します。
レポート名	組み込まれたレポートの名前を変更するには、[レポート] リストでその名前をハイライトして [レポート名] 編集ボックスで名前を変更します。

「展開機能の管理」ダイアログボックス

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	---

Hyperion OnTrack、Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション、および Hyperion Analyst の展開オプションを定義するときに使用します。展開は、Hyperion Analyst のワークシートや Hyperion OnTrack または Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション画面で、ディメンション値の詳細データを表示します。

ディメンション	展開機能を管理するディメンションを選択します。
展開タグ	選択したディメンションの既存の展開タグを表示します。展開タグはディメンション値の ID です。例えば、ID が SALES という勘定科目に展開を設定する場合は、SALES を展開タグとして使用します。
 (新規タグ)、  (タグの削除)、  (タグの編集)	タグの作成、ハイライトしたタグの削除、編集などを行うための「タグ」ダイアログボックスを表示します。
展開機能の設定	選択したディメンションの既存の展開機能の設定を表示します。展開関係は、データを展開したときに表示される詳細を指定します。
前に展開	詳細な列または行をサマリ列または行の前に表示します。
 (新規の親)、  (親の削除)、  (親の編集)	「展開機能の設定」ダイアログボックスを表示して、展開関係の作成とハイライトした展開関係の削除や編集を行います。
詳細設定	「展開機能の管理 - 詳細設定」ダイアログボックスを表示して、展開関係を管理します。



関連項目

[403 ページの「\[展開機能の設定\] ダイアログボックス」](#)

[395 ページの「\[展開機能の管理 - 詳細設定\] ダイアログボックス」](#)

[413 ページの「\[タグ\] ダイアログボックス」](#)

「展開機能の管理 - 詳細設定」ダイアログボックス

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	---

展開の親子関係の管理に使用します。

読み込み	EXPAND.DAT という名前の抽出テキストファイルを読み込んで、関係のディメンション定義を作成します。
抽出	現在のアプリケーションのレポートディレクトリに、EXPAND.DAT という名前のテキストファイルを保存します。すべてのディメンションに関するすべての展開関係情報が保存されます。
変換	Hyperion OnTrack、Hyperion Analyst、または Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションの関係ファイルの情報を、関係のディメンション定義に変換します。
すべて削除	すべてのディメンションのすべての展開関係を削除します。



関連項目

[395 ページの「\[展開機能の管理\] ダイアログボックス」](#)

[403 ページの「\[展開機能の設定\] ダイアログボックス」](#)

[413 ページの「\[タグ\] ダイアログボックス」](#)

[ディメンションのカスタマイズ] ダイアログボックス



適用対象：	 
	Hyperion Enterprise Hyperion Essbase

次の目的に使用します。









- データの視点バーおよび計算式バーのメニューオプション、ステータスバー、およびヒントに表示されるディメンションの名前または説明を定義します。
- データの視点バーおよび計算式バーに表示されるディメンションのアイコンを変更するか、カスタムのアイコンを使用します。


Dimension List (ディメンション一覧)	カスタマイズするディメンションを選択します。
アイコンの選択	デフォルトアイコン、またはハイライトしたディメンションの計算式バーおよびデータの視点バーに表示されるアイコンを選択します。
カスタムアイコン	ハイライトしたディメンションのカスタムアイコンを指定します。詳しくは、「ディメンションのカスタマイズ」を参照してください。
テキストの表示	[名前] ボタンか [説明] ボタンを選択して、データの視点バーおよび計算式バーのメニューオプション、ステータスバー、およびヒントにディメンションの名前または説明のどちらを表示するかを指定します。

[レポートおよびパッケージの管理] ダイアログボックス

適用対象：	 
	Hyperion Enterprise Hyperion Essbase

レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットを管理する場合に使用します。

[レポート] または [パッケージ] パネル	レポートまたはパッケージのパネルを選択します。
セット	レポートセットまたはパッケージセットを選択します。
 (新規セットの挿入)	[新規レポートセット] または [新規パッケージセット] ダイアログボックスを表示して、レポートセットまたはパッケージセットを作成する場合に選択します。
 (セットの削除)	アプリケーションからハイライトしたセットを削除する場合に選択します。セットを削除するには、まずセットからすべてのレポートまたはパッケージを除去する必要があります。
 (セット情報の編集)	[レポートセット情報] ダイアログボックスを表示して、選択したレポートセットまたはパッケージセットの名前、セキュリティクラス、またはタイトルを変更する場合に選択します。
[システム内の全レポート] または [システム内のパッケージ]	セットへの追加、アプリケーションからの削除、またはチェックを行う 1 つまたは複数のレポートまたはパッケージをハイライトします。
 (セットに追加)	ハイライトしたレポートを選択したセットに追加する場合に選択します。
 ([レポートの削除] または [パッケージの削除])	ハイライトしたレポートまたはパッケージをアプリケーションから削除する場合に選択します。Hyperion Enterprise Reporting では、レポートまたはパッケージがアプリケーションのレポートまたはパッケージの一覧から削除されるのみで、ディスクから削除されるわけではありません。
 ([レポートのチェック] または [パッケージのチェック])	ハイライトしたレポートまたはパッケージの構文エラーをチェックする場合に選択します。
[セットのレポート] または [セットに含まれるパッケージ]	選択したセットからの削除、あるいはセキュリティクラスまたはタイトルの編集を行う 1 つまたは複数のレポートまたはパッケージをハイライトします。
 (セットから削除)	ハイライトしたレポートまたはパッケージを選択したセットから削除する場合に選択します。
 ([新規レポートの挿入] または [新規パッケージの挿入])	[新規レポート] または [新規パッケージ] ダイアログボックスを表示して、アプリケーションと現在のセットに新規のレポートまたはパッケージを追加する場合に選択します。

[新規パッケージの挿入])	ヒント： レポートまたはパッケージは、特定のセットに追加する必要があります。すべてのレポートまたはパッケージを含む [すべて] というセットに追加することはできません。
 〔レポート情報の編集〕 または [パッケージ情報の編集]	[レポート情報] または [パッケージ情報] ダイアログボックスを表示して、現在のレポートまたはパッケージのセキュリティクラスまたはタイトルを変更する場合に選択します。

関連項目



[401 ページの「\[新規レポートセット\] ダイアログボックス」](#)

[410 ページの「\[レポートセット情報\] ダイアログボックス」](#)

[400 ページの「\[新規レポート\] ダイアログボックス」](#)




[408 ページの「\[レポート情報\] ダイアログボックス」](#)




[タスクの実行] ダイアログボックス

適用対象：	 
--------------	---



タスクファイルを指定して実行する場合に使用します。

注： コマンド行パネルからレポートバッチコマンドをコピーし、テキストエディタでタスクファイルに貼り付けることができます。


タスクファイル名  (検索)	タスクファイル名を入力するか、[検索] アイコンをクリックしてパスおよびタスクファイル名を指定します。 注： タスクファイル名を指定する必要があります。
ログファイル名  (検索)	ログファイル名を入力するか、[検索] アイコンをクリックしてパスおよびログファイル名を指定します。バッチファイルの実行段階で、ログファイルにシステムメッセージが記録されます。 注： ファイルが存在しない場合には、システムにより作成されます。
レスポンスファイル名  (検索)	応答ファイル名を入力するか、[検索] アイコンをクリックしてパスおよび応答ファイル名を指定します。応答ファイルには、レポートまたはパッケージで@ASK 関数に応答するバッチコマンドが含まれます。
応答リセット	応答ファイルの使用方法を指定するオプションを選択します。正常に行を読み取り、行の最後で応答ファイルを巻き戻すには EndOfLine オプションを使用します。レポートまたはパッケージを実行した後で応答ファイルを巻き戻すには EndOfDocument オプションを使用します。応答ファイル全体を読み取った後に応答ファイルを巻き戻すには EndOfFile オプションを使用します。
エクスポートパス	エクスポートファイルのパスを入力します。

	注： エクスポートファイル名は、レポート名またはパッケージ名と同じです。
エクスポートの種類	エクスポートファイルの種類を指定します。
プリンタ  (検索)	プリンタ名を入力するか、【検索】アイコンをクリックしてプリンタ名を指定します。
データの視点  (検索)	データの視点を入力するか、【検索】アイコンをクリックしてデータの視点を指定します。
文書の動作	実行する動作を選択します。
文書の種類	文書の種類を選択します。
文書名  (検索)	文書名を入力するか、【検索】アイコンをクリックして文書名を指定します。



[新規パッケージ] ダイアログボックス

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	---

このアプリケーション以外で作成されたパッケージを現在のアプリケーションに追加する場合に使用します。

名前	一意の名前を 8 文字以内で入力します。これには英数字、ドル記号 (\$)、および下線 (_) を使用することができます。これはパッケージのファイル名です。名前を指定しない場合、Hyperion Enterprise Reporting では、読み込みファイルの名前が使われます。
読み込みファイル	アプリケーションに読み込むパッケージのファイル名を指定します。
 (ファイルの選択)	[ファイル名] ダイアログボックスが表示され、アプリケーションに読み込むパッケージの名前を検索できます。
セキュリティクラス	パッケージのセキュリティクラスを選択します。
タイトル	パッケージのタイトルを 40 文字以内で入力します。タイトルとは、パッケージに関してパッケージ名よりも詳しく説明したものです。これを空白にすると、読み込みファイルの名前とタイプ (Book) に設定されます。



【新規パッケージセット】 ダイアログボックス

適用対象：	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
-------	---	--




パッケージセットの作成に使用します。

名前	一意のセット名を 8 文字以内で入力します。これには英数字、ドル記号 (\$)、および下線 () を使用することができます。
セキュリティ クラス	パッケージセットのセキュリティクラスを選択します。
タイトル	パッケージセットのタイトルを 40 文字以内で入力します。



【新規作成】 ダイアログボックス

適用対象：	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
-------	--	---

標準レポート、複合レポート、またはレポートパッケージの作成に使用します。


 標準レポート	標準レポートの作成に使用します。
 複合レポート	複数のレポートを同時に表示する複合レポートの作成に使用します。
 レポートパッケージ	レポートパッケージの作成に使用します。

【新規レポート】 ダイアログボックス



適用対象：	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
-------	---	--

このアプリケーション以外で作成されたレポートを現在のアプリケーションに追加する場合に使用します。

名前	一意の名前を 8 文字以内で入力します。これには英数字、ドル記号 (\$)、および下線 () を使用することができます。
読み込みファイル	アプリケーションに読み込むレポートのファイル名を指定します。

 (ファイルの選択)	[ファイル名] ダイアログボックスが表示され、アプリケーションに読み込むレポートの名前を検索できます。
セキュリティクラス	レポートのセキュリティクラスを選択します。
タイトル	レポートのタイトルを 40 文字以内で入力します。タイトルとは、レポートに関してレポート名よりも詳しく説明したものです。これを空白にすると、読み込みファイルの名前とタイプ (Report) に設定されます。



[新規レポートセット] ダイアログボックス

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	---

レポートセットの作成に使用します。

名前	一意のセット名を 8 文字以内で入力します。これには英数字、ドル記号 (\$)、および下線 (_) を使用することができます。
セキュリティクラス	レポートセットのセキュリティクラスを選択します。
タイトル	レポートセットのタイトルを 40 文字以内で入力します。
Hyperion Schedules からの入力を可能にする	<p>セットのレポートを Hyperion Schedules および Hyperion Distributed Schedules のデータ入力に使用できるようにする場合に選択します。デフォルトではこのオプションがオンになっています。レポートセットのレポートを Hyperion Schedules または Hyperion Distributed Schedules のデータ入力に使用できないようにするには、このオプションをオフにします。</p> <p>注： Hyperion Enterprise では、Hyperion Schedules および Hyperion Distributed Schedules のデータ入力がサポートされています。</p>

[開く]、[連続エクスポート]、[連続印刷]、または [Print Preview Batch (連続印刷プレビュー)] ダイアログボックス

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	---

レポート、レポートセット、パッケージ、またはパッケージセットを開く場合に [開く] ダイアログボックスを使用します。



一連のレポートをエクスポートする場合に [連続エクスポート] ダイアログボックスを使用します。

一連のレポートまたはパッケージを印刷する場合に「連続印刷」ダイアログボックスを使用します。

一連のレポートをプレビューする場合に「Print Preview Batch（連続印刷プレビュー）」ダイアログボックスを使用します。

セット	アクセスするすべてのレポートまたはパッケージを含むセットを選択します。
セットのレポート、セットに含まれるパッケージ	アクセスするレポートまたはパッケージを選択します。編集ボックスにファイル名の最初の数文字を入力すると、これと一致する最初のレポートをハイライトすることができます。

「ページ書式」ダイアログボックス

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	---

レポートページのデフォルトフォントオプションを指定する場合に使用します。

ラベル	レポートのラベルのフォントオプションを指定する場合に選択します。
ヘッダー	各ページの一番上に表示されるレポートヘッダーのフォントオプションを指定する場合に選択します。
列	レポートの列見出しのフォントオプションを指定する場合に選択します。
行	レポートの行見出しのフォントオプションを指定する場合に選択します。
データ	レポートのデータのフォントオプションを指定する場合に選択します。
フッター	各ページの一番下に表示されるレポートフッターのフォントオプションを指定する場合に選択します。
サンプル	現在のページのフォントオプションを使用して、選択したページ領域のテキストのサンプルが表示されます。サンプルボックスの下にフォント名とサイズが表示されます。
フォント	「フォント」ダイアログボックスを表示して、選択したページ領域のフォント設定を変更する場合に選択します。

関連項目

[391 ページの「\[フォント\] ダイアログボックス」](#)

「ページ設定」ダイアログボックス



[441 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[日付\] パネル」](#)

[441 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[一般\] パネル」](#)

[442 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[ページ番号\] パネル」](#)

- [442 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[テキスト\] パネル」](#)
[443 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[時間\] パネル」](#)

[展開機能の設定] ダイアログボックス

適用対象：	 Hyperion Enterprise  Hyperion Essbase
-------	--

展開関係の設定に使用します。展開関係は、データを展開したときに表示される詳細データを指定します。

注： [展開機能の設定] ダイアログボックスの名前は、選択または入力した展開関係の名前を反映します。例えば、[展開機能の管理] ダイアログボックスの [展開機能の設定] リストで「ABC」を選択して、[親の編集] を選択すると、そのタイトが「親 ABC」になります。

[展開機能の設定] ダイアログボックスのパネルは、作成または編集する展開の設定のディメンションによって異なります。これらのパネルは [ディメンションの編集] ダイアログボックスのパネルと同じです。

関連項目

[395 ページの「\[展開機能の管理\] ダイアログボックス」](#)

[ディメンションの貼り付け] ダイアログボックス

ディメンション設定をデータ計算式に貼り付けるには、[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#) から以下のダイアログボックスを表示します。

- [444 ページの「ディメンションの貼り付け - \[勘定科目\] ダイアログボックス」](#)
[444 ページの「ディメンションの貼り付け - \[データ種別\] ダイアログボックス」](#)
[444 ページの「ディメンションの貼り付け - \[連結の詳細\] ダイアログボックス」](#)
[444 ページの「ディメンションの貼り付け - \[通貨単位\] ダイアログボックス」](#)
[444 ページの「ディメンションの貼り付け - \[エンティティ\] ダイアログボックス」](#)
[445 ページの「ディメンションの貼り付け - \[フィールド\] ダイアログボックス」](#)
[445 ページの「ディメンションの貼り付け - \[期間単位\] ダイアログボックス」](#)
[445 ページの「ディメンションの貼り付け - \[親\] ダイアログボックス」](#)
[445 ページの「ディメンションの貼り付け - \[期間\] ダイアログボックス」](#)

445 ページの「ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス」

446 ページの「ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス」

446 ページの「ディメンションの貼り付け - [サブエンティティ] ダイアログボックス」

【貼り付け】ダイアログボックス



以下のダイアログボックスは、レポートまたはパッケージを作成するときにプロンプト、レポート、およびその他の項目を貼り付けるために使用します。

440 ページの「[プロンプトの貼り付け] ダイアログボックス」

440 ページの「[レポートの貼り付け] ダイアログボックス」



446 ページの「[特殊貼り付け] ダイアログボックス」

【ファイルから貼り付け】ダイアログボックス

適用対象：	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
-------	--	---



レポートウィザードのクエリのベースとなる Hyperion Analyst の.HAQ ファイルを読み込む場合に使用します。クエリに使用する Hyperion Analyst の.HAQ ファイルのドライブ、ディレクトリおよび名前を選択します。

【印刷】ダイアログボックス

適用対象：	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
-------	---	--

アクティブなレポートまたはパッケージを印刷する場合に使用します。

出力	ドラフト印刷-ドラフト品質で印刷する場合に選択します。すべてのフォントオプションを使用しない代わりに、高速で印刷します。 部数-印刷部数を指定します。デフォルトは 1 です。
ページ	すべて-すべてのページを印刷する場合に選択します。 範囲-1 ページまたは連続した複数ページを印刷する場合に選択します。 開始、終-[範囲] オプションを選択した場合に、印刷する最初のページ番号と最後のページ番号を入力します。

出力	<p>ドラフト印刷-ドラフト品質で印刷する場合に選択します。すべてのフォントオプションを使用しない代わりに、高速で印刷します。</p> <p>部数-印刷部数を指定します。デフォルトは1です。</p>
ファイルオプション	<p>ASCII ファイルへ出力-レポートまたはパッケージを ASCII ファイルに出力する場合に選択します。</p> <p>注： [ASCII ファイルへ出力] オプションを選択しない場合でも、Generic/Text Only on File プリンタを選択した場合は、Windows 書式の ASCII テキストファイルで出力されます。Generic/Text Only on File プリンタを使用した出力は、Hyperion Enterprise Reporting では制御できません。プリンタの選択または設定方法については、Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。</p> <p> ファイル名、（ファイルの選択） - [ASCII ファイルへ出力] オプションを選択した場合に、出力ファイルの名前を入力します。[ディレクトリ] ボックスに指定されたパスを使用しない場合、出力ファイルのパスと名前を入力します。</p> <p>注： デフォルトでは、アクティブなレポートの名前とディレクトリになります。</p> <p>ファイル名、ファイルの種類、ドライブ、およびディレクトリを指定するには、[ファイルの選択] アイコンをクリックします。</p> <p> ファイルの種類、（オプションの編集） - [ASCII ファイルへ出力] オプションを選択した場合に、出力ファイルの種類を選択します。</p> <p>注： デフォルトのファイルの種類は.TXT です。</p> <p>ASCII ファイルオプションをカスタマイズするには、[オプションの編集] アイコンをクリックします。</p>

[OnTrack Action（OnTrack アクション）] ダイアログボックス



446 ページの「[OnTrack アクションの貼り付け] ダイアログボックス：[テキストメモ] パネル」

447 ページの「[OnTrack アクションの貼り付け] ダイアログボックス：[グラフィックメモ] パネル」

448 ページの「[OnTrack アクションの貼り付け] ダイアログボックス：[調査] パネル」

448 ページの「[OnTrack アクションの貼り付け] ダイアログボックス：[起動] パネル」

[ピボットテーブルオプション] ダイアログボックス

適用対象：	 
-------	---

レポートウィザードのクエリの表示と非表示オプションを設定する場合に使用します。

ゼロ	ゼロのみを含む行または列を非表示にする場合に選択します。 注： レポートウィザードのクエリでは、ゼロの場合に非表示にするオプションを選択すると、ゼロのみが非表示になります。Hyperion Enterprise Reportingの他の機能では、このオプションにより、データを含まない行または列や、ゼロによる除算エラーを含む行または列も非表示になります。
データなし	データを含まない行または列を非表示にする場合に選択します。
エラー	計算式エラーを含む行または列を非表示にする場合に選択します。
ゼロによる除算	ゼロによる除算が発生した行または列を非表示にする場合に選択します。
タイトルの固定	クエリのデータグリッドをスクロールするときに、列および行見出しを固定する場合に選択します。
インデントレベル	展開で詳細データをインデントする場合に選択します。
重複タイトル	クエリの各行の見出しですべてのディメンションを特定する場合に選択します。
列に説明を表示	列見出しにディメンション値の ID ではなく、説明を表示する場合に選択します。
行に説明を表示	行見出しにディメンション値の ID ではなく、説明を表示する場合に選択します。

【データの視点】 ダイアログボックス

449 ページの「[データの視点] ダイアログボックス - [勘定科目] パネル」

449 ページの「[データの視点] ダイアログボックス - [データ種別] パネル」

450 ページの「[データの視点] ダイアログボックス - [連結の詳細] パネル」

450 ページの「[データの視点] ダイアログボックス - [通貨単位] パネル」

450 ページの「[データの視点] ダイアログボックス - [エンティティ] パネル」

451 ページの「[データの視点] ダイアログボックス - [フィールド] パネル」

451 ページの「[データの視点] ダイアログボックス - [期間単位] パネル」

452 ページの「[データの視点] ダイアログボックス - [親] パネル」



452 ページの「[データの視点] ダイアログボックス - [期間] パネル」

453 ページの「[データの視点] ダイアログボックス - [サブエンティティ] パネル」

453 ページの「[データの視点] ダイアログボックス - [サブ勘定科目 1] パネル」

453 ページの「[データの視点] ダイアログボックス - [サブ勘定科目 2] パネル」

[Preview Window (プレビューウィンドウ)] ダイアログボックス

適用対象：	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
-------	---	--

プリンタまたはファイルにレポートを出力する前にレポートをプレビューする場合に使用します。



最初	最初のページを表示する場合に選択します。
最後	最後のページを表示する場合に選択します。
次へ	次のページを表示する場合に選択します。
前へ	前のページを表示する場合に選択します。
ジャンプ	[プレビューページ指定] ダイアログボックスを表示して、表示する特定のページを選択できます。
ズーム	ページレイアウトの概要を確認できる全体表示と、タイトルおよび見出しの書式などの詳細を確認できる最大表示を切り替えます。
印刷	[印刷] ダイアログボックスを表示して、レポートを出力できます。
余白	レポートの上下左右の余白を示す赤い点線の表示と非表示を切り替えます。余白を表示する場合は、[プレビュー] ウィンドウにのみ余白が表示され、印刷されるレポートには表示されません。
閉じる	[プレビュー] ウィンドウを閉じてレポートウィンドウに戻ります。

関連項目

[407 ページの「\[プレビューページ指定\] ダイアログボックス」](#)

[404 ページの「\[印刷\] ダイアログボックス」](#)

[プレビューページ指定] ダイアログボックス

適用対象：	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
-------	---	--

レポートの特定のページにジャンプする場合に使用します。

ジャンプ	表示するレポートのページ番号を入力します。
------	-----------------------

[プロンプト値] ダイアログボックス

パッケージの一部として実行するレポート内のプロンプトの値を設定するには、以下のダイアログボックスを使用します。

454 ページの「プロンプト値 - [勘定科目] ダイアログボックス」

454 ページの「プロンプト値 - [データ種別] ダイアログボックス」

454 ページの「プロンプト値 - [連結の詳細] ダイアログボックス」

454 ページの「プロンプト値 - [エンティティ] ダイアログボックス」

455 ページの「プロンプト値 - [フィールド] ダイアログボックス」

455 ページの「プロンプト値 - [期間単位] ダイアログボックス」

455 ページの「プロンプト値 - [親] ダイアログボックス」



455 ページの「プロンプト値 - [期間] ダイアログボックス」

455 ページの「プロンプト値 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル」

456 ページの「プロンプト値 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル」

456 ページの「プロンプト値 - [サブエンティティ] ダイアログボックス」



[レポートの置換] ダイアログボックス

適用対象 :	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
--------	---	--

ハイライトしたレポートを選択したレポートで置き換えるときに使用します。

セット	挿入するレポートを含むセットを選択します。または [すべて] を選択してすべてのセットのレポートを一覧表示します。
ファイル名	ハイライトしたレポートの代わりに挿入するレポートを選択します。編集ボックスにファイル名の最初の数文字を入力すると、これと一致する最初のレポートをハイライトすることができます。 ヒント : [ファイル名] リストは、[セット] ドロップダウンリストからレポートセットを選択することによってフィルタできます。



[レポート情報] ダイアログボックス

適用対象 :	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
--------	---	--


ハイライトしたレポートのセキュリティクラスまたはタイトルを変更する場合に使用します。

名前	レポート名を表示します。
セキュリティクラス	レポートのセキュリティクラスを選択します。
タイトル	タイトルを 40 文字以内で入力または編集します。

[レポートオプション] ダイアログボックス

適用対象：	 
-------	---

レポートの特性を設定するときに使用します。

 「各月の日数」勘定、（検索）（Hyperion Enterprise）	各月の日数を保持する勘定科目を入力します。[検索] アイコンを選択して [「各月の日数」勘定] ダイアログボックスを表示して勘定科目を選択することもできます。
使用するデータ種別	時間の経過により変化する組織のアプリケーション内でのエンティティの列挙には、[なし]、[すべて]、または特定のデータ種別を選択します。
データ量の少ないレポートの最適化	50%以上のセルにデータが含まれていない大きなレポートをより効率的に実行するために使用します。このオプションはデータのない列や行を表示します。
データ量の多いレポートの最適化	<p>大量の勘定科目、エンティティ、データ種別などを含むレポートの実行速度を上げます。このオプションは、現在のエンティティや名前および現在のデータ種別のデータがある勘定科目のみで列や行を作成します。</p> <p>注： このオプションでの自動非表示は勘定科目ディメンションに限定されます。このオプションを選択すると、組織に属さないエンティティがある期間のデータは表示されません。</p>
期間ごとに組織を変更	<p>各期間のデータに、エンティティの親子関係の変更を反映します。このオプションを選択すると、組織に属さないエンティティがある期間のデータは表示されません。</p> <p>注： このオプションを使用するには、親ディメンションが定義されている必要があります。このオプションが選択されていない、または親が指定されていない場合は、実際の親子関係とは関係なくすべての値が表示されます。</p>
勘定科目属性、符号を逆にする	勘定科目の符号を逆転する勘定科目属性を選択します。これは表示のみに使用されます。

関連項目

[57 ページの「Hyperion Enterprise のレポートオプションの設定」](#)

[58 ページの「Hyperion Essbase のレポートオプションの設定」](#)

[レポートにおけるデータの視点] ダイアログボックス

レポートのデータの視点を設定するには、以下のダイアログボックスを使用します。

457 ページの「[レポートにおけるデータの視点] ダイアログボックス」

457 ページの「[レポートにおけるデータの視点] ダイアログボックス」

457 ページの

457 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [データ種別] ダイアログボックス」

457 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [連結の詳細] ダイアログボックス」

458 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス」

458 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボックス」

458 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボックス」

458 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス」

458 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [親] ダイアログボックス」

459 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス」

459 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス」



459 ページの

459 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス」

459 ページの

459 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [表示形式] ダイアログボックス」

[レポートセット情報] ダイアログボックス



適用対象：	 Hyperion Enterprise  Hyperion Essbase
-------	--

レポートセットの名前、セキュリティクラス、またはタイトルを変更する場合に使用します。





古い名前	レポートセットの現在の名前が表示されます。
------	-----------------------

新規の名前	新しい一意の名前を 8 文字以内で入力します。これには英数字、ドル記号 (\$)、および下線 () を使用することができます。
セキュリティクラス	レポートセットのセキュリティクラスを選択します。
タイトル	レポートセットのタイトルを変更するには、新しいタイトルを 40 文字以内で入力します。
Hyperion Schedules からの入力を可能にする	<p>セットのレポートを Hyperion Schedules および Hyperion Distributed Schedules のデータ入力に使用できるようにする場合に選択します。デフォルトではこのオプションがオンになっています。レポートセットのレポートを Hyperion Schedules または Hyperion Distributed Schedules のデータ入力に使用できないようにするには、このオプションをオフにします。</p> <p>注： Hyperion Enterprise では、Hyperion Schedules および Hyperion Distributed Schedules のデータ入力がサポートされています。</p>



[レポートウィザード] ダイアログボックス

適用対象：	 
-------	---

レポートウィザードのクエリの作成または変更に使用します。

データの視点	<p>データの視点を変更する場合に選択します。</p> <p>ヒント： クエリのデータの視点を変更しても、Hyperion Enterprise Reporting には影響が及びません。クエリをレポートとして保存する際、データの視点が一緒に保存されるわけではありません。</p>
レポート	ディメンションを選択し行軸または列軸にドラッグして、そのディメンションに 1 つまたは複数の値を選択します。
列	クエリの列に含めるディメンションをこの軸にドラッグします。
行	クエリの行に含めるディメンションをこの軸にドラッグします。
 オプションの編集	[ピボットテーブルオプション] ダイアログボックスを表示して、レポートウィザードのクエリの表示と非表示オプションを設定する場合に選択します。
 ファイルから貼り付け	既存のレポートクエリまたはピボットファイル (*.HAQ) を探して開く場合に選択します。
 プレビュー	クエリをプレビューする場合に選択します。
 展開機能の管理	展開オプションを定義する場合に選択します。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスと [サマリー情報] ダイアログボックス



適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	--

既存のレポートやパッケージを別のファイル名やタイトル、コメントを付けて別のセットに保存するには、[名前を付けて保存] ダイアログボックスを使用します。

アクティブなレポートやパッケージ、それらが所属するセットのファイル名、タイトル、セキュリティクラス、コメントなどを表示するには [サマリー情報] ダイアログボックスを使用します。レポートまたはパッケージのタイトルやコメントは編集できます。

ファイル名	レポートまたはパッケージのファイル名。
セキュリティクラス	レポートまたはパッケージのセキュリティクラス。
セット	レポートまたはパッケージの保存先のセット。
タイトル	レポートまたはパッケージのタイトル（オプション）。
コメント	レポートまたはパッケージについてのコメント（オプション）。

[条件式の編集] ダイアログボックス

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	--

選択した列または行を表示する条件式を作成するときに使用します。編集ボックスに条件式を入力できます。演算子、変数、および属性を条件式に貼り付けることもできます。

注： 非表示の行または列はすべての計算から除外されます。





Is、Is Not、Between、=、<>、>、>=、<、<=、(、)、And、Or	これらの演算子を選択して編集ボックスに貼り付けることができます。
 （変数の貼り付け）	ハイライトした行を編集ボックスに貼り付けます。
 （属性の貼り付け）	ハイライトした勘定科目属性を編集ボックスに貼り付けます。次の表に、Hyperion Enterprise の勘定科目属性を示します。

表 62 勘定科目属性

勘定科目属性	勘定科目種別
ASSET	資産勘定科目種別
BALANCE	残高勘定科目種別
BASE	最下位エンティティ
CALCACC	算出勘定科目
CALCULATED	算出セル
DBZ	ゼロによる除算
ERROR	エラー条件
EXPENSE	費用勘定科目種別
FLOW	フロー勘定科目種別
INCOME	収益勘定科目種別
INPUT	入力勘定科目
LIABILITY	負債勘定科目種別
LOCKED	保護済み勘定科目
MAJOR	主要勘定科目
NODATA	データが含まれていない
PARENT	親エンティティ
PERIODIC	期別表示
RPTCALC	レポート算出値
YTD	年次累計表示

[タグ] ダイアログボックス

適用対象：	 
-------	---

展開タグの設定に使用します。



注： [タグ] ダイアログボックスの名前は、選択または入力したタグを反映します。例えば、[展開機能の管理] ダイアログボックスで [展開タグ] リストから「ABC」を選択して、[タグの編集] を選択すると、「タグ ABC」というタイトルが表示されます。

ソース	詳細データの表示に最初に使用する展開を選択します。
最初にデフォルトを適用	最初に「デフォルトのみ適用」展開関係を使用して展開します。「デフォルトのみ適用」の関係が見つからないときは、選択された展開タグに一致する展開関係を使用して展開します。
デフォルトのみ適用	デフォルトの展開関係のみを使用して展開します。
最初にオーバーライドを適用	最初に「オーバーライドのみ適用」展開関係を使用して展開します。「オーバーライドのみ適用」の関係が見つからないときは、選択された展開タグに一致するデフォルト展開を使用して展開します。
オーバーライドのみ適用	選択された展開タグに一致する展開関係を展開します。
昇順、降順、そのまま	詳細データが表示される順序を選択します。展開した結果を昇順で表示するには「昇順」、降順で表示するには「降順」、元の順序で表示するには「そのまま」を選択します。
タイトル	詳細データの見出しを入力します。これはオプションです。見出しは展開した行または列の、行または列見出しに表示されます。






関連項目




[395 ページの「\[展開機能の管理\] ダイアログボックス」](#)

[勘定科目] ダイアログボックス - [範囲] パネル

適用対象：	 
-------	---

一連の勘定科目を選択して勘定科目を割り当てるために使用します。



使用可能な項目、   (開始、Until (終了))、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リスト内の範囲の最初の勘定科目または関数をハイライトして、[開始] アイコンを選択します。
入力勘定、算出勘定、サブ勘定科目	[使用可能な項目] リストに入力勘定科目、算出勘定科目、またはサブ勘定科目を含める場合に選択します。
 (選択項目に追加)	[選択項目] リストに範囲を追加する場合に選択します。
Include First Level SubAccount (第 1 レベルのサブ勘定科目を含む)	範囲に第 1 レベルのサブ勘定科目を含める場合に選択します。
Include SubAccounts (サブ勘定科目を含む)	範囲にすべての第 1 レベルおよび第 2 レベルのサブ勘定科目を含める場合に選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。

  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

[勘定科目] ダイアログボックス - [ID] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

@ALL 関数、@SUB 関数、または@CHART 関数で使用するオプションの勘定科目 ID を選択するために使用します。

 、使用可能な項目  (前を検索、次を検索)	勘定科目をハイライトします。
入力勘定、算出勘定、サブ勘定科目	[使用可能な項目] リストに入力勘定科目、算出勘定科目、またはサブ勘定科目を含める場合に選択します。

関連項目

[180 ページの「@ALL - すべて」](#)

[244 ページの「@SUB - サブ勘定科目」](#)

[191 ページの「@CHART - チャートロジック展開」](#)



[415 ページの「\[勘定科目\] ダイアログボックス - \[関数\] パネル」](#)

[416 ページの「\[勘定科目\] ダイアログボックス - \[一覧\] パネル」](#)

[勘定科目] ダイアログボックス - [関数] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

@ALL 関数、@SUB 関数、または@CHART 関数で使用するオプションの勘定科目関数を選択するときに使用します。

 使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
--	--------------

関連項目

[180 ページの「@ALL - すべて」](#)

[187 ページの「@BAS - 基本レベル」](#)

[194 ページの「@CON - サマリ ID」](#)

[200 ページの「@DEP - 直下の ID」](#)

[228 ページの「@PAR - 親」](#)



[414 ページの「\[勘定科目\] ダイアログボックス - \[範囲\] パネル」](#) [415 ページの](#)

[416 ページの「\[勘定科目\] ダイアログボックス - \[一覧\] パネル」](#)

「勘定科目」ダイアログボックス - 「一覧」パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

@ASK 関数で使用するオプションの勘定科目一覧を選択するときに使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	勘定科目一覧をハイライトします。
--	------------------



関連項目

[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)

[414 ページの「\[勘定科目\] ダイアログボックス - \[範囲\] パネル」](#) [415 ページの](#)

[415 ページの「\[勘定科目\] ダイアログボックス - \[関数\] パネル」](#)

「パッケージにおけるデータの視点」ダイアログボックス

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	--

パッケージにおけるデータの視点を設定する場合に使用します。

Dimension List (ディメンション一覧)、セット、クリア、すべてクリア	ディメンションをハイライトして、そのディメンションのパッケージにおけるデータの視点を設定するには [セット] を、クリアするには [クリア] をクリックします。 すべてのディメンションのパッケージにおけるデータの視点をクリアするには [すべてクリア] をクリックします。
--	--

関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - 「勘定科目」ダイアログボックス

459 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル」

460 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [勘定科目] ダイアログボックス : [関数] パネル」

パッケージにおけるデータの視点 - [連結の詳細] ダイアログボックス

460 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル」

461 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル」

パッケージにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス

461 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル」

461 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス : [関数] パネル」

パッケージにおけるデータの視点 - [データ種別] ダイアログボックス

462 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル」

462 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル」

パッケージにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボックス

463 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル」

463 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル」

パッケージにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボックス

464 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル」

464 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル」

パッケージにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス

464 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル」

465 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル」

パッケージにおけるデータの視点 - [親] ダイアログボックス

465 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [親] ダイアログボックス : [ID] パネル」

466 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル」

パッケージにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス

466 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル」

467 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル」

パッケージにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス

467 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル」

468 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [関数] パネル」

パッケージにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス

468 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル」

469 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [関数] パネル」

パッケージにおけるデータの視点 - [サブエンティティ] ダイアログボックス

469 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル」

470 ページの「パッケージにおけるデータの視点 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル」

変更項目の編集 - [勘定科目] ダイアログボックス

470 ページの「変更項目の編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル」

471 ページの「変更項目の編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [関数] パネル」

変更項目の編集 - [Additional Dimension (追加ディメンション)] ダイアログボックス

425 ページの「[計算式の編集] ダイアログボックス - [ヘッダー/フッター] パネル」

変更項目の編集 - [データ種別] ダイアログボックス

471 ページの「変更項目の編集 - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル」

472 ページの「変更項目の編集 - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル」

変更項目の編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス

472 ページの「変更項目の編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル」

472 ページの「変更項目の編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル」

変更項目の編集 - [通貨単位] ダイアログボックス

473 ページの「変更項目の編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル」

473 ページの「変更項目の編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [関数] パネル」

変更項目の編集 - [エンティティ] ダイアログボックス

473 ページの「変更項目の編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル」

474 ページの「変更項目の編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル」

変更項目の編集 - [フィールド] ダイアログボックス

474 ページの「変更項目の編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル」

474 ページの「変更項目の編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル」

変更項目の編集 - [期間単位] ダイアログボックス

475 ページの「変更項目の編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル」

475 ページの「変更項目の編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル」

変更項目の編集 - [親] ダイアログボックス

475 ページの「変更項目の編集 - [親] ダイアログボックス : [ID] パネル」

476 ページの「変更項目の編集 - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル」

変更項目の編集 - [期間] ダイアログボックス

476 ページの「変更項目の編集 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル」

477 ページの「変更項目の編集 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル」

変更項目の編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス

477 ページの「変更項目の編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル」

478 ページの「変更項目の編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [関数] パネル」

変更項目の編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス

478 ページの「変更項目の編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル」

479 ページの「変更項目の編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [関数] パネル」

変更項目の編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス

479 ページの「変更項目の編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル」

479 ページの「変更項目の編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス

480 ページの「ディメンションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [関数] パネル」

414 ページの「[勘定科目] ダイアログボックス - [範囲] パネル」

481 ページの「ディメンションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [一覧] パネル」

481 ページの「ディメンションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル」

ディメンションの編集 - [データ種別] ダイアログボックス

482 ページの「ディメンションの編集 - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル」

482 ページの「ディメンションの編集 - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス

483 ページの「ディメンションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル」

484 ページの「ディメンションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス

484 ページの「ディメンションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル」

485 ページの「ディメンションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス

486 ページの「ディメンションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル」

487 ページの「ディメンションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル」

487 ページの「ディメンションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [一覧] パネル」

ディメンションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス

488 ページの「ディメンションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル」

488 ページの「ディメンションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス

489 ページの「ディメンションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル」

490 ページの「ディメンションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの編集 - [親] ダイアログボックス

490 ページの「ディメンションの編集 - [親] ダイアログボックス : [ID] パネル」

491 ページの「ディメンションの編集 - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの編集 - [期間] ダイアログボックス

492 ページの「ディメンションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル」

493 ページの「ディメンションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル」

494 ページの「ディメンションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [範囲] パネル」

ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス

495 ページの「ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [関数] パネル」

495 ページの「ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル」

496 ページの「ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [範囲] パネル」

ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス

497 ページの「ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [関数] パネル」

497 ページの「ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル」



498 ページの「ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [範囲] パネル」

ディメンションの編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス




499 ページの「ディメンションの編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル」

499 ページの「ディメンションの編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル」

[計算式の編集] ダイアログボックス - [データ] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
--------	---	--



データ計算式を挿入する場合に使用します。

種類	[関数] リストを有効にして、データ計算式に財務計算関数を選択できるようにするには [財務計算関数] を選択します。[関数] リストを無効にして、データ計算式にテキスト表示関数を使用するには [テキスト表示関数] を選択します。
関数、(関数の貼り付け) 	[関数] リストから財務計算関数を選択し、[関数の貼り付け] アイコンをクリックして、[データ計算式] 編集ボックスに関数を貼り付けます。
(関数ヘルプ) 	[関数] リストで選択した財務計算関数の概要を表示する場合に選択します。
ディメンション (ディメンション) 	[ディメンション] リストからディメンションを選択し、[ディメンション] アイコンをクリックして、[データ計算式] 編集ボックスにディメンションを貼り付けます。
データ計算式	データ計算式を編集するには、[データ計算式] 編集ボックスにテキスト表示関数または財務計算関数、および関数に必要なパラメータを入力するか、貼り付けます。



関連項目

106 ページの「データ計算式の編集」

[計算式の編集] ダイアログボックス - [ヘッダー/フッター] パネル

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	---

ヘッダーやフッターの計算式を挿入するときに使用します。

関数、(関数の貼り付け) 	[関数] リストからテキスト関数を選択し、[関数の貼り付け] アイコンをクリックして、[ヘッダー/フッター計算式] 編集ボックスに関数を貼り付けます。
(関数ヘルプ) 	[関数] リストで選択した財務計算関数の概要を表示する場合に選択します。
タイトル計算式	ヘッダーやフッターの計算式を編集するには、テキスト関数を入力するか、[関数] リストで関数を選択して[関数の貼り付け] アイコンをクリックします。その後、[ヘッダー/フッター計算式] 編集ボックスにその関数に必要なパラメータを入力するか、貼り付けます。

関連項目

[108 ページの「タイトル計算式の編集」](#)

セクションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス

[500 ページの「セクションの編集 - \[勘定科目\] ダイアログボックス：\[ID\] パネル」](#)

[500 ページの「セクションの編集 - \[勘定科目\] ダイアログボックス：\[関数\] パネル」](#)

[501 ページの「セクションの編集 - \[勘定科目\] ダイアログボックス：\[範囲\] パネル」](#)

[502 ページの「セクションの編集 - \[勘定科目\] ダイアログボックス：\[一覧\] パネル」](#)

セクションの編集 - [データ種別] ダイアログボックス

[502 ページの「セクションの編集 - \[データ種別\] ダイアログボックス：\[ID\] パネル」](#)

[503 ページの「セクションの編集 - \[データ種別\] ダイアログボックス：\[関数\] パネル」](#)

セクションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス

504 ページの「セクションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル」

504 ページの「セクションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル」

セクションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス

505 ページの「セクションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル」

505 ページの「セクションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [関数] パネル」

セクションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス

506 ページの「セクションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル」

506 ページの「セクションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル」

507 ページの「セクションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [一覧] パネル」

セクションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス

508 ページの「セクションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル」

508 ページの「セクションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル」

セクションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス

509 ページの「セクションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル」

509 ページの「セクションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル」

セクションの編集 - [期間] ダイアログボックス

510 ページの「セクションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル」



511 ページの「セクションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル」

511 ページの「セクションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [範囲] パネル」

[エンティティ] ダイアログボックス - [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

@ALL 関数、@BAS 関数、@CON 関数、@DEP 関数、または@PAR 関数で使用するオプションのエンティティ ID を選択するときに使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索) 	エンティティをハイライトします。
親、最下位エンティティ、サブエンティティ	[使用可能な項目] リストに親エンティティ、最下位エンティティ、またはサブエンティティを含める場合に選択します。

関連項目

180 ページの「@ALL - すべて」

187 ページの「@BAS - 基本レベル」

194 ページの「@CON - サマリ ID」

200 ページの「@DEP - 直下の ID」

228 ページの「@PAR - 親」



428 ページの「[エンティティ] ダイアログボックス - [関数] パネル」

428 ページの「[エンティティ] ダイアログボックス - [一覧] パネル」

[エンティティ] ダイアログボックス - [関数] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

@ALL 関数、@BAS 関数、@CON 関数、@DEP 関数、または@PAR 関数で使用するオプションのエンティティ関数を選択するときに使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
--	--------------

関連項目

[180 ページの「@ALL - すべて」](#)

[187 ページの「@BAS - 基本レベル」](#)

[194 ページの「@CON - サマリ ID」](#)

[200 ページの「@DEP - 直下の ID」](#)

[228 ページの「@PAR - 親」](#)



[427 ページの「\[エンティティ\] ダイアログボックス - \[ID\] パネル」](#)

[428 ページの「\[エンティティ\] ダイアログボックス - \[一覧\] パネル」](#)

[エンティティ] ダイアログボックス - [一覧] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

@ASK 関数で使用するオプションのエンティティ一覧を選択するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	エンティティ一覧をハイライトします。
--	--------------------



関連項目

[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)

[427 ページの「\[エンティティ\] ダイアログボックス - \[ID\] パネル」](#)

[428 ページの「\[エンティティ\] ダイアログボックス - \[関数\] パネル」](#)

[書式] ダイアログボックス - [フォント] パネル

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	---



選択したレポート領域のテキストやデータの外観を変更するときに使用します。

フォント	<p>フォントを選択するか、[デフォルト]を選択します。</p> <p>注： 斜体と太字のオプションを使用できないフォントもあります。</p>
サイズ	<p>フォントサイズを選択するか、[デフォルト]を選択します。</p>
下線	<p>下線オプションを選択するか、[デフォルト]を選択します。</p>
色	<p>色を選択するか、[デフォルト]を選択します。</p>
配置	<ul style="list-style-type: none"> ● デフォルトテキストまたはデータのデフォルト配置を使用する場合に選択します。 ● 左テキストやデータを左側に配置します。 ● 中央テキストやデータを中央に配置します。 ● 右テキストやデータを右側に配置します。
斜体	<p>テキストやデータを斜体で表示します。</p>
太字	<p>テキストやデータを太字で表示します。</p>
オーバーライン	<p>テキストやデータの上に線を重ねて表示します。</p>
非表示	<p>出力されたときにテキストやデータが表示されないようにします。</p> <p>注： [非表示]を選択した場合、選択した領域で他のフォントオプションはすべて使用できなくなります。</p>
デフォルト	<p>このパネルのフォントの設定をすべてデフォルトに戻します。</p>
サンプル	<p>選択されたフォントオプションでのテキストの見本を表示します。</p>

関連項目

- [433 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示\] パネル」](#)
- [431 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[数値\] パネル」](#)
- [430 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[網掛け/枠線\] パネル」](#)
- [432 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[レイアウト\] パネル」](#)
- [436 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示基準\] パネル」](#)
- [439 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[展開\] パネル」](#)
- [434 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[タイトル\] パネル」](#)
- [438 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[調査\] パネル」](#)
- [435 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[ソート\] パネル」](#)

[書式] ダイアログボックス - [網掛け/枠線] パネル

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	--



選択したレポート領域または指定した基準を満たす値に適用する網掛けと枠線のオプションを設定するときに使用します。

セルの枠線	<ul style="list-style-type: none"> ● 格子—セルを囲むすべての枠線を表示します。(格子と自動外枠の両方を指定すると、自動外枠のみが表示されます。) ● 左—セルの左側の枠線を表示します。 ● 右—セルの右側の枠線を表示します。 ● 上—セルの上側の枠線を表示します。 ● 下—セルの下側の枠線を表示します。([セルの枠線] のチェックボックスで、オンにした枠線が表示されます。)
選択された領域の枠線	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動外枠—各ページの選択したレポート領域に枠線を表示します。(格子と自動外枠の両方を指定すると、自動外枠のみが表示されます。) ● ページ左—各ページに左側の枠線を表示します。 ● ページ右—各ページに右側の枠線を表示します。 ● ページ上—各ページに上側の枠線を表示します。 ● ページ下—各ページに下側の枠線を表示します。([選択された領域の枠線] のチェックボックスで、オンにした枠線が表示されます。)
網掛け	<ul style="list-style-type: none"> ● デフォルト—選択したレポート領域にデフォルトの網掛けを表示する場合に選択します。 ● なし—選択したレポート領域に網掛けを表示しない場合に選択します。 ● 薄い影—選択したレポート領域に薄い灰色の網掛けを表示する場合に選択します。 ● 濃い影—選択したレポート領域に濃い灰色の網掛けを表示する場合に選択します。
デフォルト	網掛けと枠線の設定をすべてデフォルトに戻します。

関連項目

- [433 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示\] パネル」](#)
- [429 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[フォント\] パネル」](#)
- [431 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[数値\] パネル」](#)
- [432 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[レイアウト\] パネル」](#)
- [436 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示基準\] パネル」](#)
- [439 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[展開\] パネル」](#)
- [434 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[タイトル\] パネル」](#)
- [438 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[調査\] パネル」](#)

[書式] ダイアログボックス - [数値] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
-------	---	--



選択したレポート領域の数値マスク、四捨五入や単位のオプション、計算順序、勘定科目の属性などを指定するときに使用します。

数値書式	<p>単位オプションと数値マスクを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">● 単位-データの単位を指定するには 10 の乗数を選択します。四捨五入しない場合は 0 を選択します。[デフォルト] も選択できます。● 単位のオフセット-ハイライトされているレポート領域のデフォルト単位に優先するオフセットを選択します。マイナス記号 (-) またはプラス記号 (+) の後に続けて単位のオフセットを指定する数値を入力します。● 書式-数値マスクを選択します。数値マスクは数値の特性を示す表記パターンです。例えば、数値マスク「#,##0」は 3 桁ごとにコンマ (,) を使用して区切ります。
四捨五入計算	<p>計算と表示のオプションを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none">● 値-計算の前に値を四捨五入するときに使用する係数を選択します。四捨五入しない場合は [なし] を選択します。デフォルトは [なし] です。● 計算順序 (列より行を優先、行より列を優先)-先に行の値を計算するか、列の値を計算するかを選択します。デフォルトは [行より列を優先] です。● フォーマット順序を表示 (列より行を優先、行より列を優先)-先に行に指定されたフォーマットを使用するか、列に指定されたフォーマットを使用するかを選択します。デフォルトは [行より列を優先] です。● 属性-競合する属性を含む勘定科目の値を計算する数式で定義される列または行の勘定科目属性を選択します。[なし] も選択できます。

関連項目

- [433 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示\] パネル」](#)
- [429 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[フォント\] パネル」](#)
- [430 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[網掛け/枠線\] パネル」](#)
- [432 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[レイアウト\] パネル」](#)
- [436 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示基準\] パネル」](#)
- [439 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[展開\] パネル」](#)
- [434 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[タイトル\] パネル」](#)
- [438 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[調査\] パネル」](#)
- [435 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[ソート\] パネル」](#)

[書式] ダイアログボックス - [レイアウト] パネル

適用対象：	 
	Hyperion Enterprise Hyperion Essbase

選択したレポート領域のページの向きやレイアウトオプションを設定するときに使用します。



ページ	<ul style="list-style-type: none"> ● 向き—目次の印刷の向きとして [縦向き]、[横向き]、または [システムのデフォルト] を選択します。システムデフォルトを選択すると、プリンタの現在のページの向きが使用されます。(デフォルトのプリンタオプションを使用すると、システムデフォルトの向きが設定されます。) ● 順序—ページを印刷する順序として、[横方向を先に] または [縦方向を先に] を指定します。デフォルトは [横方向を先に] です。
セル	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動調整—セルにテキストが収まらない場合に、行内のテキスト行数や列幅を自動的に調整するかどうかを指定します。 ヒント：このオプションを使用するには、レポート全体を選択する必要があります。 ● 行—セルにテキストが収まらない場合に、行内のテキスト行数を増やします。 ● 列—セルにテキストが収まらない場合に、列幅を大きくします。 ● なし—[行] および [列] オプションで設定された行内の行数と列幅のデフォルト設定を使用します。[なし] を指定した場合にテキストがセルに収まらないときは、テキストが切り捨てられます。
列/行間隔	<ul style="list-style-type: none"> ● 前にスペース—選択した行または列の前に空白の行または列を挿入します。挿入する行数や列数を指定する必要があります。 注： 空の列の幅は 1 文字分の幅になります。空の行の高さは 1 文字または 1 行分の高さになります。 ● 後ろにスペース—選択した行または列の後ろに空白の行または列を挿入します。挿入する行数や列数を指定する必要があります。 注： 空の列の幅は 1 文字分の幅になります。空の行の高さは 1 文字または 1 行分の高さになります。 ● 後ろで改頁—選択した列または行の後ろに改ページを挿入します。
幅	<ul style="list-style-type: none"> ● 列—データを含む列の列幅を文字数で入力します。または [デフォルト] を選択します。 ● 行見出し—行見出しを含む列の列幅を文字数で入力します。または [デフォルト] を選択します。
余白	<ul style="list-style-type: none"> ● 上—上側の余白の幅をインチ単位で入力します。または [デフォルト] を選択します。 ● 下—下側の余白の幅をインチ単位で入力します。または [デフォルト] を選択します。 ● 左—左側の余白の幅をインチ単位で入力します。または [デフォルト] を選択します。 ● 右—右側の余白の幅をインチ単位で入力します。または [デフォルト] を選択します。

行	<ul style="list-style-type: none"> ● 行数-選択した行の行数を入力します。テキストは次の行に折り返されます。
ページ	<ul style="list-style-type: none"> ● 幅-そのレポートの幅に何ページ分を含めるかを指定します。 ● 高さ-そのレポートの高さに何ページ分を含めるかを指定します。
タイトル	<ul style="list-style-type: none"> ● 列見出し行-列見出しに使用する行数を入力します。 ヒント：「列見出し行」編集ボックスで列見出しの行数を指定する代わりに、数式バーの編集ボックスで円記号（\）を使用して見出しを改行できます。円記号の後のテキストは別の行に表示されます。 ● 行項目名表示-何列後に行見出しを表示するかを入力します。

関連項目

- [433 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示\] パネル」](#)
- [429 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[フォント\] パネル」](#)
- [430 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[網掛け/枠線\] パネル」](#)
- [431 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[数値\] パネル」](#)
- [436 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示基準\] パネル」](#)
- [439 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[展開\] パネル」](#)
- [434 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[タイトル\] パネル」](#)
- [438 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[調査\] パネル」](#)
- [435 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[ソート\] パネル」](#)


[書式] ダイアログボックス - [表示] パネル

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	--

選択したレポート領域のデータを非表示にして、その代わりにテキストを表示するオプションを設定するときに使用します。

注： テキストオプションを指定するには、レポート全体を選択する必要があります。



ゼロ	ゼロの代わりに表示するテキストを入力します。何も表示しない場合は空白のままにします。デフォルトはゼロです。
データなし	データが含まれていないセルに表示するテキストを入力します。デフォルトで表示されるテキストは「データなし」です。
エラー	エラーのためにデータが表示されないセルに表示するテキストを入力します。デフォルトで表示されるテキストは「エラー」です。

ゼロによる除算	ゼロによる除算が発生したセルに表示されるテキストを入力します。デフォルトでは空白になります。
常時	選択した列または行を非表示にする場合に選択します。
詳細（概要を表示）	詳細の列または行を非表示にして、列または行の合計のみを表示します。
ゼロ	ゼロのみを含む行または列を非表示にします。
データなしの場合	データが含まれない行または列を非表示にします。
エラーの場合	エラーのためにデータが表示されない列または行を非表示にします。
ゼロによる除算の場合	ゼロによる除算エラーのある行または列を非表示にします。
条件付け（IF 文）	列または行を条件によって非表示にする場合に選択します。次に「条件式の編集」アイコンを選択して編集ボックスで条件式を指定します。
 （条件式の編集）	「条件式の編集」ダイアログボックスを表示して、変数、演算子、勘定科目属性などを編集ボックスに貼り付けるときに選択します。



関連項目

- [429 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[フォント\] パネル」](#)
- [431 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[数値\] パネル」](#)
- [430 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[網掛け/枠線\] パネル」](#)
- [432 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[レイアウト\] パネル」](#)
- [436 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示基準\] パネル」](#)
- [439 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[展開\] パネル」](#)
- [434 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[タイトル\] パネル」](#)
- [438 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[調査\] パネル」](#)
- [435 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[ソート\] パネル」](#)
- [412 ページの「\[条件式の編集\] ダイアログボックス」](#)

「書式」ダイアログボックス - 「タイトル」パネル

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	--



見出し用のテキストまたはテキスト関数を指定するときに使用します。見出しのディメンション ID または説明を短縮することもできます。

説明	<ul style="list-style-type: none"> ● 見出し-選択した列または行の見出しに、テキストまたはテキスト関数を使用した計算式を入力します。見出しは選択したすべての列または行に適用されます。 ● ディメンション-見出しの計算式に@LAB 関数や@DES 関数が使用されている場合は、[ディメンション] リストから ID または説明を取得するディメンションを選択します。 ● 開始文字-見出しに表示する ID または説明の開始文字数を指定します。[デフォルト] を選択することもできます。 ● 終了文字-見出しに表示する ID または説明の終了文字数を指定します。[デフォルト] を選択することもできます。
列見出し	<ul style="list-style-type: none"> ● 列見出しの中央揃え-同じ列見出しが隣り合わせの位置にある場合、該当する列全体に 1 つの見出しが表示されます。 注： このオプションを使用するには、レポート全体またはすべての列見出しを選択する必要があります。同じ見出しが隣り合わせの位置にある場合、該当する列全体に 1 つの見出しが表示されます。 ● 見出しのフォーマット、、(Default Font (デフォルトのフォント))、、(フォントおよび網掛け/枠線) - 列見出しの行を選択し、[Default Font (デフォルトのフォント)] アイコンまたは [フォントおよび網掛け/枠線] アイコンを選択してフォントと枠線のオプションを設定します。

関連項目

- [433 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示\] パネル」](#)
- [431 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[数値\] パネル」](#)
- [430 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[網掛け/枠線\] パネル」](#)
- [432 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[レイアウト\] パネル」](#)
- [436 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示基準\] パネル」](#)
- [439 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[展開\] パネル」](#)
- [429 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[フォント\] パネル」](#)
- [438 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[調査\] パネル」](#)
- [435 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[ソート\] パネル」](#)
- [201 ページの「@DES - ディメンションの説明」](#)
- [212 ページの「@LAB - ディメンション ID」](#)

[書式] ダイアログボックス - [ソート] パネル

適用対象：	 
-------	---

選択した列の行、または選択した行の列のソートあるいは表示順位のオプションを指定するときに使用します。



注：「表示順位」を選択した場合は、順位の値が順位付けされた行または列のデータと置き換わります。

オン、オフ	選択したレポート領域のソートを有効にするか無効にするかを選択します。
行見出し、列の見出し	列または行見出しをアルファベット順にソートするときに選択します。
行または列の番号	<p>ソートの基準となる値を含む列または行の番号を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 昇順、降順—「昇順」は最小値を最初の行または列に、最大値を最後の行または列に表示します。「降順」は最大値を最初の行または列に、最小値を最後の行または列に表示します。 ● なし—「表示順位」を使用しないときに選択します。行または列見出しをソートすると、デフォルトで表示順位は「なし」になります。 ● すべて表示—選択した行または列の順位を表示します。 ● 最初の要件のみ表示—順位付けしたデータを指定した列数または行数だけ表示します。

関連項目

- [433 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示\] パネル」](#)
- [431 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[数値\] パネル」](#)
- [430 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[網掛け/枠線\] パネル」](#)
- [432 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[レイアウト\] パネル」](#)
- [436 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示基準\] パネル」](#)
- [439 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[展開\] パネル」](#)
- [434 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[タイトル\] パネル」](#)
- [438 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[調査\] パネル」](#)
- [429 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[フォント\] パネル」](#)

「[書式] ダイアログボックス - [表示基準] パネル

適用対象：	 
-------	---

選択したレポート領域のデータに条件に基づいた書式の表示基準を指定するときに使用します。

デフォルト、オン、オフ	デフォルト表示基準設定の使用や表示基準オプションのオンとオフを選択します。
編集ボックス	計算式の作成に使用します。演算子、変数、および属性を貼り付けるか、または入力できます。

 、  (上に移動) (下に移動)	ハイライトした表示基準ステートメントを編集ボックスで上下に移動します。
 (コピー)	ハイライトした表示基準ステートメントをクリップボードにコピーします。
 (貼り付け)	表示基準ステートメントをクリップボードから貼り付けます。
 (挿入)	ハイライトした表示基準ステートメントの上に空白行を挿入します。
 (削除)	ハイライトした表示基準ステートメントを削除します。ステートメントを削除した後に、削除を取り消すことはできません。
 (変数の貼り付け)	ハイライトした変数を表示基準の定義に貼り付けます。
Is、Is Not、Between、=、<>、>、>=、<、<=、(,)、And、Or	[オン] が選択されているときに、これらの演算子のいずれかを編集ボックスに貼り付けます。
 (属性の貼り付け)	ハイライトした属性を表示基準の定義に貼り付けます。詳しくは、 129 ページの「表示基準の設定」 を参照してください。
数値マスク	ハイライトした表示基準を満たす値の数値マスクを選択します。
Hyperion OnTrack スタイル	Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションでハイライトした表示基準を満たす値の表記スタイルを選択します。
Hyperion Reporting スタイル	ハイライトした表示基準を満たす値の表示に使用するフォントと枠線のオプションを選択します。
 (フォントおよび網掛け/枠線)	[フォントおよび網掛け/枠線の書式] ダイアログボックスを表示して、選択した表示基準を満たす値の表示に使用するフォントと枠線のオプションを設定します。
 (グローバル設定を表示)	レポート全体に適用する条件書式の情報を表示します。 注： このダイアログボックスは情報の表示専用です。表示基準の設定には [書式] ダイアログボックスを使用します。
Define Criteria (表示基準の定義)、結果	[Define Criteria (表示基準の定義)] 編集ボックスで表示基準ステートメントをハイライトして、[結果] に書式オプションを表示します。オプションは [Hyperion Reporting スタイル] ボックスに表示されます。

関連項目

- [433 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示\] パネル」](#)
- [431 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[数値\] パネル」](#)
- [430 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[網掛け/枠線\] パネル」](#)
- [432 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[レイアウト\] パネル」](#)
- [429 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[フォント\] パネル」](#)
- [439 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[展開\] パネル」](#)

[434 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[タイトル\] パネル」](#)

[438 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[調査\] パネル」](#)



[435 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[ソート\] パネル」](#)

[392 ページの「\[グローバル設定\] ダイアログボックス」](#)

[512 ページの「\[フォントおよび網掛け/枠線の書式\] ダイアログボックス - \[フォント\] パネル」](#)

[513 ページの「\[フォントおよび網掛け/枠線の書式\] ダイアログボックス - \[網掛け/枠線\] パネル」](#)

「[書式] ダイアログボックス - [調査] パネル」

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	--

選択したレポート領域で Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションの調査をオンまたはオフにするときに使用します。調査オプションも指定できます。

注： Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションでは、調査はレポートにハイパーリンクとして表示されます。

デフォルト	選択したレポート領域の調査にデフォルト設定を適用します。
自動	選択したレポート領域で自動調査をオンにします。
オン	選択したレポート領域でカスタム調査をオンにします。
オフ	すべての調査をオフにします。
セット	選択するレポートを含むセットを選択します。
レポート名	調査を設定するレポートを選択します。

関連項目

[433 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示\] パネル」](#)

[431 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[数値\] パネル」](#)

[430 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[網掛け/枠線\] パネル」](#)

[432 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[レイアウト\] パネル」](#)

[429 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[フォント\] パネル」](#)

[439 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[展開\] パネル」](#)

[434 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[タイトル\] パネル」](#)

[436 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示基準\] パネル」](#)


[435 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[ソート\] パネル」](#)

[392 ページの「\[グローバル設定\] ダイアログボックス」](#)

[512 ページの「\[フォントおよび網掛け/枠線の書式\] ダイアログボックス - \[フォント\] パネル」](#)

[513 ページの「\[フォントおよび網掛け/枠線の書式\] ダイアログボックス - \[網掛け/枠線\] パネル」](#)

[書式] ダイアログボックス - [展開] パネル

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	---

Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションでの展開オプションを設定するときに使用します。

デフォルト	選択したレポート領域の展開にデフォルトオプションを適用します。
オン	選択したレポート領域の展開をオンにします。
オフ	選択したレポート領域の展開をオフにします。
Expand On (展開の対象)	レポート全体の書式を設定する場合は、[Expand On (展開の対象)] ドロップダウンリストから [列] または [行] を選択して、列または行の展開オプションを設定するかどうかを指定します。
ディメンション	展開するディメンションを選択します。
位置	詳細な列または行をサマリ列または行の [前] に表示するか、[後] に表示するかを選択します。
展開タグ	選択したディメンションの既存の展開タグの名前が表示されます。その展開で使用する展開タグを選択します。
親オーバーライド	選択したディメンションの既存の展開関係の名前が表示されます。その展開で使用する親オーバーライドを選択します。

関連項目

[433 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示\] パネル」](#)

[431 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[数値\] パネル」](#)

[430 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[網掛け/枠線\] パネル」](#)

[432 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[レイアウト\] パネル」](#)

[429 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[フォント\] パネル」](#)

[436 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[表示基準\] パネル」](#)

[434 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[タイトル\] パネル」](#)

[438 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[調査\] パネル」](#)



[435 ページの「\[書式\] ダイアログボックス - \[ソート\] パネル」](#)

[392 ページの「\[グローバル設定\] ダイアログボックス」](#)

[512 ページの「\[フォントおよび網掛け/枠線の書式\] ダイアログボックス - \[フォント\] パネル」](#)

[513 ページの「\[フォントおよび網掛け/枠線の書式\] ダイアログボックス - \[網掛け/枠線\] パネル」](#)



[レポートの貼り付け] ダイアログボックス

適用対象：	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
-------	---	--

現在のレポートにもう 1 つのレポートを統合するときに使用します。

セット	インポートするレポートを含むセットを選択します。または [ファイル名] リストで [すべて] を選択してアプリケーション内のすべてのレポートを挿入します。
ファイル名	次のいずれかの方法でレポートを選択します。 <ul style="list-style-type: none">編集ボックスにレポートファイル名の最初の数文字を入力すると、これと一致する最初のレポートがハイライトされます。[ファイル名] リストは、[セット] ドロップダウンリストからセットを選択することによってフィルタできます。ファイル名をダブルクリックしてファイルを選択できます。

[プロンプトの貼り付け] ダイアログボックス

適用対象：	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
-------	---	--



アクティブなレポートにレポートをインポートするために使用するプロンプトダイアログボックスを設定するときに使用します。設定したプロンプトダイアログボックスはアクティブなレポートの実行時に表示されます。

ダイアログタイトル	プロンプトダイアログボックスのタイトルを入力します。
セット	ユーザがインポートできるレポートを 1 つのセットに限定する場合に選択します。[すべて] を選択すると、ユーザがアクセスできるレポートをどれでもインポートできるようになります。

関連項目

[393 ページの「\[インポートオプション\] ダイアログボックス」](#)

[ページ設定] ダイアログボックス - [日付] パネル

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	---

各ページに現在の日付が表示される場所を指定する場合に使用します。

上部ラベル、下部ラベル	日付を配置する上部ラベルまたは下部ラベル内の場所を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 日付を左端に配置するには、左側を選択します。 日付を中央に配置するには、中央を選択します。 日付を右端に配置するには、右側を選択します。
書式	日付の書式を選択します。
日付を非表示	ラベルに日付を表示しない場合に [日付を非表示] を選択します。 ヒント： [日付] アイコンをクリックして日付を非表示にすることもできます。

関連項目



[441 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[一般\] パネル」](#)

[443 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[時間\] パネル」](#)

[442 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[ページ番号\] パネル」](#)

[442 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[テキスト\] パネル」](#)

[ページ設定] ダイアログボックス - [一般] パネル

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	---

アプリケーションのデフォルトの余白を設定する場合に使用します。

余白	レポートまたはパッケージの左、右、上、下の余白設定をインチ単位で入力します。
----	--

関連項目



[441 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[日付\] パネル」](#)

[443 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[時間\] パネル」](#)

[442 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[ページ番号\] パネル」](#)

[442 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[テキスト\] パネル」](#)

[ページ設定] ダイアログボックス - [ページ番号] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
-------	---	--

各ページにページ番号を表示する場所を指定する場合に使用します。

上部ラベル、下部ラベル	ページ番号を配置する上部ラベルまたは下部ラベル内の場所を選択します。 <ul style="list-style-type: none">● ページ番号を左端に配置するには、左側を選択します。● ページ番号を中央に配置するには、中央を選択します。● ページ番号を右端に配置するには、右側を選択します。 ヒント： その場所に表示する順番で項目を指定します。
書式	ページ番号の書式を選択します。
開始ページ	開始するページ番号を入力します。
ページ番号を非表示	ラベルにページ番号を表示しない場合に選択します。 ヒント： [ページ番号] アイコンをクリックしてページ番号を非表示にすることもできます。

関連項目



[441 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[一般\] パネル」](#)

[441 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[日付\] パネル」](#)

[443 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[時間\] パネル」](#)

[442 ページの「\[ページ設定\] ダイアログボックス - \[テキスト\] パネル」](#)

[ページ設定] ダイアログボックス - [テキスト] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
-------	---	--

各ページにテキストを表示する場所を指定する場合に使用します。

上部ラベル、下部ラベル	テキストを配置する上部ラベルまたは下部ラベル内の場所を選択します。 <ul style="list-style-type: none">● テキストを左端に配置するには、左側を選択します。● テキストを中央に配置するには、中央を選択します。● テキストを右端に配置するには、右側を選択します。
-------------	--

上部テキスト	上部ラベルの最初の行に表示するテキストを入力します。
上部テキストを非表示	ページの一番上にテキストを表示しない場合に選択します。 ヒント：「上部テキスト」アイコンをクリックして上部テキストを非表示にすることもできます。
下部テキスト	下部ラベルの最後の行に表示するテキストを入力します。
下部テキストを非表示	ページの一番下にテキストを表示しない場合に選択します。 ヒント：「下部テキスト」アイコンをクリックして下部テキストを非表示にすることもできます。

関連項目



441 ページの「[ページ設定] ダイアログボックス - [一般] パネル」

441 ページの「[ページ設定] ダイアログボックス - [日付] パネル」

442 ページの「[ページ設定] ダイアログボックス - [ページ番号] パネル」

443 ページの「[ページ設定] ダイアログボックス - [時間] パネル」

[ページ設定] ダイアログボックス - [時間] パネル

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	---

各ページに現在の時間を表示する場所を指定する場合に使用します。

上部ラベル、下部ラベル	時間を配置する上部ラベルまたは下部ラベル内の場所を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 時間を左端に配置するには、左側を選択します。 時間を中央に配置するには、中央を選択します。 時間を右端に配置するには、右側を選択します。
書式	時間の書式を選択します。
時間を非表示	ラベルに時間を表示しない場合に選択します。 ヒント：「時間」アイコンをクリックして時間を非表示にすることもできます。

関連項目

441 ページの「[ページ設定] ダイアログボックス - [一般] パネル」

441 ページの「[ページ設定] ダイアログボックス - [日付] パネル」

442 ページの「[ページ設定] ダイアログボックス - [ページ番号] パネル」

442 ページの「[ページ設定] ダイアログボックス - [テキスト] パネル」

ディメンションの貼り付け - [勘定科目] ダイアログボックス

514 ページの「ディメンションの貼り付け - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル」

515 ページの「ディメンションの貼り付け - [勘定科目] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの貼り付け - [データ種別] ダイアログボックス

515 ページの「ディメンションの貼り付け - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル」

516 ページの「ディメンションの貼り付け - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの貼り付け - [連結の詳細] ダイアログボックス

516 ページの「ディメンションの貼り付け - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル」

516 ページの「ディメンションの貼り付け - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの貼り付け - [通貨単位] ダイアログボックス

517 ページの「ディメンションの貼り付け - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル」

517 ページの「ディメンションの貼り付け - [通貨単位] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの貼り付け - [エンティティ] ダイアログボックス

518 ページの「ディメンションの貼り付け - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル」

518 ページの「ディメンションの貼り付け - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの貼り付け - [フィールド] ダイアログボックス :

519 ページの「ディメンションの貼り付け - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル」

519 ページの「ディメンションの貼り付け - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの貼り付け - [期間単位] ダイアログボックス

519 ページの「ディメンションの貼り付け - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル」

520 ページの「ディメンションの貼り付け - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの貼り付け - [親] ダイアログボックス

520 ページの「ディメンションの貼り付け - [親] ダイアログボックス : [ID] パネル」

521 ページの「ディメンションの貼り付け - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの貼り付け - [期間] ダイアログボックス

521 ページの「ディメンションの貼り付け - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル」

522 ページの「ディメンションの貼り付け - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス

522 ページの「ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル」

523 ページの「ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス

523 ページの「ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル」



524 ページの「ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [関数] パネル」

ディメンションの貼り付け - [サブエンティティ] ダイアログボックス

524 ページの「ディメンションの貼り付け - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル」

525 ページの「ディメンションの貼り付け - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル」



[特殊貼り付け] ダイアログボックス

適用対象 :	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
--------	--	---


レポート領域を、ディメンションのみを付けて、書式オプションのみを付けて、またはディメンションと書式オプションの両方を付けて貼り付けるときに使用します。

すべて、書式、値	[すべて] を選択して、書式とディメンションの両方をクリップボードから貼り付けます。[書式] を選択して、クリップボードから書式を貼り付けます。ディメンションは含まれません。[値] を選択して、クリップボードからディメンションを貼り付けます。書式は含まれません。
----------	---



[OnTrack アクションの貼り付け] ダイアログボックス : [テキストメモ] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
--------	---	--


225 ページの「@OTA - Hyperion OnTrack アクション」関数を使用して、Hyperion OnTrack から Hyperion Enterprise レポートを表として表示するためのテキストメモを設定するときを使用します。

テキストの表示	Hyperion OnTrack でメモを識別するテキストを入力します。Hyperion Enterprise レポートを表示するときに選択するテキストです。
レポート名、  (検索)	Hyperion OnTrack でメモが選択されたときに表示する Hyperion Enterprise レポートを指定します。使用可能なレポートの一覧から選択するには、[検索] アイコンを選択して [レポート名] ダイアログボックスを表示し、使用可能なレポートから選択します。
サイズ	Hyperion OnTrack で自動的にメモのサイズを調整する場合は [自動] を選択します。縦 23 文字、横 80 文字で表示する場合は [大]、縦 37 文字、横 80 文字で表示する場合は [すべて] を選択します。 注： [大] と [すべて] のサイズでは Hyperion OnTrack のデフォルトのディメンション設定が使用されます。これらのデフォルトは Hyperion OnTrack で変更できます。

[OnTrack アクションの貼り付け] ダイアログボックス：[グラフィックメモ] パネル



適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	---

OTA 関数を使用して、Hyperion Enterprise レポートに基づくチャートを Hyperion OnTrack で表示するためのグラフィックメモを設定するときに使用します。


テキストの表示	Hyperion OnTrack でメモを識別するテキストを入力します。Hyperion Enterprise レポートを表示するときに選択するテキストです。
レポート名、  (検索)	Hyperion Enterprise レポートを指定します。Hyperion OnTrack でメモが選択されたときに、このレポートに基づいてチャートが作成されます。使用可能なレポートの一覧から選択するには、[検索] アイコンを選択して [レポート名] ダイアログボックスを表示し、使用可能なレポートから選択します。
テンプレート名	チャートの作成に使用する Excel または Chart Template Builder のテンプレートファイルの名前を指定します。Chart Template Builder のテンプレートファイル名には拡張子.TPL が必要です。Excel テンプレートには拡張子.XLC が必要です。
グラフィックスサーバー	Excel のグラフィックパッケージを使用するには [Excel] を選択します。Chart Template Builder のグラフィックパッケージを使用するには [OnTrack チャート] を選択します。
単位	Excel または Chart Template Builder の単位のデフォルトを使用するには [グラフィックスサーバーデフォルト] を選択します。Hyperion OnTrack で単位を設定できるようにするには [OnTrack チャート] を選択します。
サイズ	Hyperion OnTrack が自動的にサイズを調整するメモの場合は [自動] を選択します。縦 23 文字、横 80 文字で表示する場合は [大]、縦 37 文字、横 80 文字で表示する場合は [すべて] を選択します。 注： [大] と [すべて] のサイズでは Hyperion OnTrack のデフォルトのディメンション設定が使用されます。これらのデフォルトは Hyperion OnTrack で変更できます。

複数チャート	複数の円グラフを表示する場合に選択します。円グラフ以外のグラフを1つ表示する場合はクリアします。
チャートの方向	行見出しに基づいたチャートデータのレイアウトを使用するには「行単位」を、列見出しに基づいたチャートデータのレイアウトを使用するには「列単位」を選択します。



[OnTrack アクションの貼り付け] ダイアログボックス：[調査] パネル

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	--



225 ページの「@OTA - Hyperion OnTrack アクション」関数を使用して、個々の値の元になっているデータを示す Hyperion Enterprise レポートを表示するための調査を Hyperion OnTrack 内に設定するときに使用します。

テキストの表示	Hyperion OnTrack でメモを識別するテキストを入力します。Hyperion Enterprise レポートを表示するときに選択するテキストです。
レポート名、  (検索)	Hyperion OnTrack でメモが選択されたときに表示する Hyperion Enterprise レポートを指定します。使用可能なレポートの一覧から選択するには、「検索」アイコンを選択して「レポート名」ダイアログボックスを表示し、使用可能なレポートから選択します。

[OnTrack アクションの貼り付け] ダイアログボックス：[起動] パネル



適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	--

225 ページの「@OTA - Hyperion OnTrack アクション」関数を使用して、Hyperion OnTrack からプログラムを起動するためのメモを設定するときに使用します。



テキストの表示	Hyperion OnTrack でメモを識別するテキストを入力します。
ファイル名、  (検索)	Hyperion OnTrack でメモが選択されたときに起動するプログラムを指定します。使用可能なプログラムの一覧からファイルを選択するには、「検索」アイコンを選択して「ファイルの選択」ダイアログボックスを表示します。
パラメータ、  (検索)	プログラムに必要なパラメータ、例えばレポートファイル名やディメンションなどを指定します。使用可能なレポートの一覧から選択するには、「検索」アイコンを選択して「ファイル名」ダイアログボックスを表示し、使用可能なファイルから選択します。

方法	Hyperion OnTrack で起動メモが選択されるたびに、プログラムの新しいインスタンスを開くには、[実行] を選択します。プログラムの 1 つのインスタンスのみが実行されるようにするには [スマートラン] を選択します。パラメータ付きでプログラムを実行するには [リンク] を選択します。メモが選択されたとき、プログラムを一番手前のウィンドウで実行するには [上で実行] を選択します。
----	---

「データの視点」ダイアログボックス - 「勘定科目」パネル

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	--



Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を勘定科目ディメンションに設定する場合に使用します。

勘定科目、   (前を検索、次を検索)	勘定科目を選択します。
入力勘定、算出勘定、サブ勘定科目	入力勘定科目、算出勘定科目、またはサブ勘定科目を勘定科目一覧に組み込むかどうかを選択します。 注： サブ勘定科目は Hyperion Enterprise のみでサポートされています。

「データの視点」ダイアログボックス - 「データ種別」パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	--

Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点をデータ種別ディメンションに設定する場合に使用します。

データ種別、   (前を検索、次を検索)	データ種別 ID を選択します。
--	------------------



関連項目

[43 ページの「Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定」](#)

[データの視点] ダイアログボックス - [連結の詳細] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を連結の詳細ディメンションに設定する場合に使用します。

連結の詳細、   (前を検索、次を検索)	連結の詳細の ID を選択します。 ヒント : 連結の詳細を参照しないデータの視点を使用するには、[なし] を選択します。
--	--



関連項目

[43 ページの「Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定」](#)

[データの視点] ダイアログボックス - [通貨単位] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を通貨単位ディメンションに設定する場合に使用します。

通貨単位、   (前を検索、次を検索)	通貨単位を選択します。 ヒント : 通貨単位を参照しないデータの視点を使用するには、[なし] または [NATIVE (ネイティブ)] を選択します。
---	--



関連項目

[43 ページの「Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定」](#)

[データの視点] ダイアログボックス - [エンティティ] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---



Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点をエンティティディメンションに設定する場合に使用します。

エンティティ、   (前を検索、次を検索)	エンティティ ID を選択します。
親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ	エンティティ一覧に親エンティティ、最下位エンティティ、またはサブエンティティを含めるかどうかを選択します。



関連項目

[43 ページの「Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定」](#)

[データの視点] ダイアログボックス - [フィールド] パネル

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	---

Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点をフィールドディメンションに設定する場合に使用します。

フィールド、   (前を検索、次を検索)	フィールドを選択します。
--	--------------



関連項目

[43 ページの「Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定」](#)

[データの視点] ダイアログボックス - [期間単位] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	--

Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を期間単位と表示形式のディメンションの組み合わせに設定する場合に使用します。

期間単位、表示形式、   (前を検索、次を検索)	期間単位と表示形式を選択します。
--	------------------



関連項目

[43 ページの「Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定」](#)

[データの視点] ダイアログボックス - [親] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を親ディメンションに設定する場合に使用します。

親、   (前を検索、次を検索)	親を選択します。 ヒント： 親を参照しないデータの視点を使用するには、 [なし] を選択します。
親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ	親一覧に親エンティティ、最下位エンティティ、またはサブエンティティを含めるかどうかを選択します。



関連項目

[43 ページの「Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定」](#)

[データの視点] ダイアログボックス - [期間] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を期間ディメンションに設定する場合に使用します。

データ種別、期間   (前を検索、次を検索)	データ種別と期間を選択します。
日付、期間	使用可能な期間一覧に日付または期間 ID、あるいは両方を含めるかどうかを選択します。



関連項目

[43 ページの「Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定」](#)

[データの視点] ダイアログボックス - [サブエンティティ] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点をサブエンティティディメンションに設定する場合に使用します。

サブエンティティ、   (前を検索、次を検索)	サブエンティティを選択します。 ヒント： サブエンティティを参照しないデータの視点を使用するには、[なし] を選択します。
--	--



関連項目

[43 ページの「Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定」](#)

[データの視点] ダイアログボックス - [サブ勘定科目 1] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を第 1 レベルのサブ勘定科目ディメンションに設定する場合に使用します。

テーブル、Subaccount (サブ勘定科目)、   (前を検索、次を検索)	サブ勘定科目表とサブ勘定科目を選択します。 ヒント： 第 1 レベルのサブ勘定科目を参照しないデータの視点を使用するには、[なし] を選択します。
---	--



関連項目

[43 ページの「Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定」](#)

[データの視点] ダイアログボックス - [サブ勘定科目 2] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点を第 2 レベルのサブ勘定科目ディメンションに設定する場合に使用します。

テーブル、Subaccount (サブ勘定科目)、   (前を検索、次を検索)	サブ勘定科目表とサブ勘定科目を選択します。 ヒント： 第 2 レベルのサブ勘定科目を参照しないデータの視点を使用するには、[なし] を選択します。
---	--

関連項目

[43 ページの「Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点の設定」](#)

プロンプト値 - [勘定科目] ダイアログボックス

[525 ページの「プロンプト値 - \[勘定科目\] ダイアログボックス : \[範囲\] パネル」](#)

[526 ページの「プロンプト値 - \[勘定科目\] ダイアログボックス : \[一覧\] パネル」](#)

[526 ページの「プロンプト値 - \[勘定科目\] ダイアログボックス : \[関数\] パネル」](#)

[527 ページの「プロンプト値 - \[勘定科目\] ダイアログボックス : \[ID\] パネル」](#)

プロンプト値 - [データ種別] ダイアログボックス

[528 ページの「プロンプト値 - \[データ種別\] ダイアログボックス : \[関数\] パネル」](#)

[528 ページの「プロンプト値 - \[データ種別\] ダイアログボックス : \[ID\] パネル」](#)

プロンプト値 - [連結の詳細] ダイアログボックス

[529 ページの「プロンプト値 - \[連結の詳細\] ダイアログボックス : \[ID\] パネル」](#)

[530 ページの「プロンプト値 - \[連結の詳細\] ダイアログボックス : \[関数\] パネル」](#)

プロンプト値 - [エンティティ] ダイアログボックス

[530 ページの「プロンプト値 - \[エンティティ\] ダイアログボックス : \[ID\] パネル」](#)

531 ページの「プロンプト値 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル」

プロンプト値 - [フィールド] ダイアログボックス

532 ページの「プロンプト値 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル」

532 ページの「プロンプト値 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル」

プロンプト値 - [期間単位] ダイアログボックス

533 ページの「プロンプト値 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル」

533 ページの「プロンプト値 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル」

プロンプト値 - [親] ダイアログボックス

534 ページの「プロンプト値 - [親] ダイアログボックス : [ID] パネル」

534 ページの「プロンプト値 - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル」


プロンプト値 - [期間] ダイアログボックス

535 ページの「プロンプト値 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル」

536 ページの「プロンプト値 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル」






537 ページの「プロンプト値 - [期間] ダイアログボックス : [範囲] パネル」

プロンプト値 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	
--------	---

レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートの第 1 レベルのサブ勘定科目のプロンプトに ID を割り当てるために使用します。






Available Table (使用可能な表)、Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)、 	[Available Table (使用可能な表)] リストのサブ勘定科目表、および [Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)] リ
--	---

 (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	ストの 1 つまたは複数のサブ勘定科目をハイライトして、 [選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

プロンプト値 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートの第 2 レベルのサブ勘定科目のプロンプトに ID を割り当てるために使用します。



Available Table (使用可能な表)、Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)、  (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[Available Table (使用可能な表)] リストのサブ勘定科目表、および [Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)] リストの 1 つまたは複数のサブ勘定科目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

プロンプト値 - [サブエンティティ] ダイアログボックス

538 ページの「プロンプト値 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル」

538 ページの「プロンプト値 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル」

[レポートにおけるデータの視点] ダイアログボックス

適用対象：	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
-------	---	--

レポートにおけるデータの視点を設定する場合に使用します。

Dimension List (ディメンション一覧)、セット、クリア	ディメンションをハイライトして、そのディメンションのレポートにおけるデータの視点を設定するには [セット] を、クリアするには [クリア] を選択します。
すべてクリア	すべてのディメンションのレポートにおけるデータの視点をクリアする場合に選択します。

関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [勘定科目] ダイアログボックス

[539 ページの「レポートにおけるデータの視点 - \[勘定科目\] ダイアログボックス : \[ID\] パネル」](#)

[539 ページの「レポートにおけるデータの視点 - \[勘定科目\] ダイアログボックス : \[関数\] パネル」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [データ種別] ダイアログボックス

[540 ページの「レポートにおけるデータの視点 - \[データ種別\] ダイアログボックス : \[ID\] パネル」](#)

[540 ページの「レポートにおけるデータの視点 - \[データ種別\] ダイアログボックス : \[関数\] パネル」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [連結の詳細] ダイアログボックス

[541 ページの「レポートにおけるデータの視点 - \[連結の詳細\] ダイアログボックス : \[ID\] パネル」](#)

[541 ページの「レポートにおけるデータの視点 - \[連結の詳細\] ダイアログボックス : \[関数\] パネル」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス

541 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル」

542 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス : [関数] パネル」

レポートにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボックス

542 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル」

543 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル」

レポートにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボックス

543 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル」

544 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル」

レポートにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス

544 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル」

544 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル」

レポートにおけるデータの視点 - [親] ダイアログボックス

545 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [親] ダイアログボックス : [ID] パネル」

545 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル」



レポートにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス

- 546 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル」
- 546 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル」
- レポートにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス
- 547 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル」
- 547 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [関数] パネル」
- レポートにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス
- 548 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル」
- 549 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [関数] パネル」



レポートにおけるデータの視点 - [表示形式] ダイアログボックス

- 549 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [表示形式] ダイアログボックス : [ID] パネル」
- 550 ページの「レポートにおけるデータの視点 - [表示形式] ダイアログボックス : [関数] パネル」

パッケージにおけるデータの視点 - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	<div></div>
--------	---

ID を選択して、パッケージにおけるデータの視点の勘定科目を設定する場合に使用します。



使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	勘定科目 ID を選択します。
入力勘定、算出勘定、サブ勘定科目	入力勘定科目、算出勘定科目、またはサブ勘定科目を勘定科目一覧に組み込むかどうかを選択します。

注： サブ勘定科目は Hyperion Enterprise のみでサポートされています。



関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [勘定科目] ダイアログボックス：[関数] パネル

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	--


関数を選択して、パッケージにおけるデータの視点の勘定科目を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
--	--------------



関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [連結の詳細] ダイアログボックス：[ID] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

ID を選択して、パッケージにおけるデータの視点の連結の詳細を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	連結の詳細の ID を選択します。
--	-------------------

ヒント： 連結の詳細を参照しない ID を使用するには、[なし] を選択します。



関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して、パッケージにおけるデータの視点の連結の詳細を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
--	--------------



関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

ID を選択して、パッケージにおけるデータの視点の通貨単位を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	通貨単位 ID を選択します。
--	-----------------

ヒント： 連結の詳細を参照しない ID を使用するには、[なし] を選択します。



関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---


関数を選択して、パッケージにおけるデータの視点の通貨単位を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
--	--------------



関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

ID を選択して、パッケージにおけるデータの視点のデータ種別を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	データ種別を選択します。
--	--------------



関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して、パッケージにおけるデータの視点のデータ種別を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数を選択します。
--	-----------



関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

ID を選択して、パッケージにおけるデータの視点のエンティティを設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	エンティティ ID を選択します。
親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ	[使用可能な項目] リストに親エンティティ、最下位エンティティ、またはサブエンティティを含めるかどうかを選択します。



関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---



関数を選択して、パッケージにおけるデータの視点のエンティティを設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数を選択します。
--	-----------



関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
--------	---	--

ID を選択して、パッケージにおけるデータの視点のフィールドを設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	フィールド ID を選択します。
--	------------------



関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して、パッケージにおけるデータの視点のフィールドを設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数を選択します。
--	-----------

関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

ID を選択して、パッケージにおけるデータの視点の期間単位を設定する場合に使用します。

Available Frequency (使用可能な期間単位)、Available View
(使用可能な表示形式)、  (前を検索、次を検索)

期間単位をハイライトして表示形式を選択します。

関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :



関数を選択して、パッケージにおけるデータの視点の期間単位を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)



関数を選択します。

パッケージにおけるデータの視点 - [親] ダイア ログボックス : [ID] パネル

適用対象 :



ID を選択して、パッケージにおけるデータの視点の親を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、  (前
を検索、次を検索)

親 ID を選択します。

ヒント : 親を参照しないプロンプト値を使用するには、
[なし] を選択します。

親エンティティ、最下位エン
ティティ、サブエンティティ

[使用可能な項目] リストに親エンティティ、最下位エン
ティティ、またはサブエンティティを含めるかどうかを選択
します。

関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :



関数を選択して、パッケージにおけるデータの視点の親を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)

関数をハイライトします。

関連項目



[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :



ID を選択して、パッケージにおけるデータの視点の期間を設定する場合に使用します。

Available Category (使用可能なデータ種別)、Available Period (使用可能な期間)、  (前を検索、次を検索)

使用するデータ種別および期間をハイライトします。

日付、期間

[Available Period (使用可能な期間)] リストに日付または期間を含めるかどうかを選択します。



関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して、パッケージにおけるデータの視点の期間を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
期間のオフセット、 年のオフセット	<p>@CMO、@CUR、@START、または@END 関数を選択した場合に期間のオフセットを指定するには、マイナス記号 (-) またはプラス記号 (+) の後に続けてオフセットの期間数を入力します。</p> <p>@CMO、@CUR、@START、または@END 関数を選択した場合に年のオフセットを指定するには、マイナス記号 (-) またはプラス記号 (+) の後に続けてオフセットの年数を入力します。</p>

関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

[193 ページの「@CMO - 現在のデータ種別の期間番号」](#)

[196 ページの「@CUR - 現在のディメンション設定」](#)



[243 ページの「@START - 開始期間」](#)

[204 ページの「@END - 最後の ID」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

ID を選択して、パッケージにおけるデータの視点の第 1 レベルのサブ勘定科目を設定する場合に使用します。

<p>Available Table (使用可能な表)、 Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)、   (前を検索、次を検索)</p>	<p>使用するサブ勘定科目を含むサブ勘定科目表をハイライトします。</p> <p>ヒント : サブ勘定科目を参照しないパッケージにおけるデータの視点の値を使用するには、[なし] を選択します。</p>
--	--




関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して、パッケージにおけるデータの視点の第 1 レベルのサブ勘定科目を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数を選択します。
 (検索)	[サブ勘定科目 1] ダイアログボックスを表示して、@ASK 関数でサブ勘定科目表を指定するか、または [テーブル] 編集ボックスに「TABLE」とサブ勘定科目表の ID を入力します。

関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)



[550 ページの「\[サブ勘定科目 1\] ダイアログボックス」](#)

[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---


ID を選択して、パッケージにおけるデータの視点の第 2 レベルのサブ勘定科目を設定する場合に使用します。

Available Table (使用可能な表)、 Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)、   (前を検索、次を検索)	使用するサブ勘定科目を含むサブ勘定科目表をハイライトします。 ヒント： サブ勘定科目を参照しないパッケージにおけるデータの視点の値を使用するには、[なし]を選択します。
---	---



関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して、パッケージにおけるデータの視点の第 2 レベルのサブ勘定科目を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)	関数を選択します。
 (検索)	[サブ勘定科目 2] ダイアログボックスを表示して、@ASK 関数でサブ勘定科目表を指定するか、または [テーブル] 編集ボックスに「TABLE」とサブ勘定科目表の ID を入力します。


関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)


[550 ページの「\[サブ勘定科目 2\] ダイアログボックス」](#)

[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#) 関数

パッケージにおけるデータの視点 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

ID を選択して、パッケージにおけるデータの視点のサブエンティティを設定する場合に使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)	サブエンティティ ID を選択します。 ヒント： サブエンティティを参照しないパッケージにおけるデータの視点の値を使用するには、[なし] を選択します。
---	---



関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

パッケージにおけるデータの視点 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	
--------	---


関数を選択して、パッケージにおけるデータの視点のサブエンティティを設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
--	--------------



関連項目

[48 ページの「パッケージにおけるデータの視点の設定」](#)

変更項目の編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 
--------	---




ID を選択して、現在の勘定科目を変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	1. 項目をハイライトします。
入力勘定、算出勘定、サブ勘定科目	1. [使用可能な項目] リストに入力勘定科目、算出勘定科目、またはサブ勘定科目を含める場合に選択します。

変更項目の編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	<div>   </div> <div> Hyperion Enterprise Hyperion Essbase </div>
--------	--

関数を選択して、現在の勘定科目を変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。編集ボックスに関数の最初の数文字を入力すると、これと一致する最初の項目がハイライトされます。
Optional Parameter (オプションパラメータ)、Optional Account (オプションの勘定科目)  (検索)	@ASK 関数とともに使用する勘定科目を指定する場合に選択します。



関連項目

- 185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」
- 414 ページの「[勘定科目] ダイアログボックス - [範囲] パネル」
- 415 ページの「[勘定科目] ダイアログボックス - [関数] パネル」

変更項目の編集 - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	<div>  </div> <div> Hyperion Enterprise </div>
--------	---



ID を選択して、現在のデータ種別を変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	データ種別をハイライトします。
入力勘定、算出勘定	[使用可能な項目] リストに入力勘定科目または算出勘定科目を含める場合に選択します。

変更項目の編集 - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---



関数を選択して、現在のデータ種別を変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
--	--------------

変更項目の編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	--



ID を選択して、現在の連結の詳細を変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	項目をハイライトします。
--	--------------

変更項目の編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---



関数を選択して、現在の連結の詳細を変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
--	--------------

変更項目の編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---



ID を選択して、現在の通貨単位を変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	通貨単位をハイライトします。 ヒント : 通貨単位を指定しない場合は、[なし] または [NATIVE (ネイティブ)] を選択します。
---	---

変更項目の編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	--



関数を選択して、現在の通貨単位を変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
---	--------------

変更項目の編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---




ID を選択して、現在のエンティティを変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	項目をハイライトします。
親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ	[使用可能な項目] リストに親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティを含める場合に選択します。

変更項目の編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して、現在のエンティティを変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
Optional Parameter (オプションパラメータ)、  (検索)	@PAR 関数とともに使用するエンティティ、または @ASK 関数とともに使用するエンティティ一覧を指定する場合に選択します。



関連項目

[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)



[228 ページの「@PAR - 親」](#)

[427 ページの「\[エンティティ\] ダイアログボックス - \[ID\] パネル」](#)



変更項目の編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
--------	---	--



ID を選択して、現在のフィールドを変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	フィールドをハイライトします。
--	-----------------

変更項目の編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
--------	---	--



関数を選択して、現在のフィールドを変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
--	--------------

変更項目の編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---



ID を選択して、現在の期間単位を変更するために使用します。

Available Frequency (使用可能な期間単位)、Available View (使用可能な表示形式)、   (前を検索、次を検索)	期間単位をハイライトして表示形式を選択します。
---	-------------------------


変更項目の編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---



関数を選択して、現在の期間単位を変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
--	--------------

変更項目の編集 - [親] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

ID を選択して、現在の親を変更するために使用します。




使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	項目をハイライトします。
--	--------------

親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ	[使用可能な項目] リストに親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティを含める場合に選択します。
----------------------------	---

変更項目の編集 - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して、現在の親を変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
Optional Parent (オプションの親)、  (検索)	@PAR 関数とともに使用する親を指定する場合に選択します。

関連項目




[228 ページの「@PAR - 親」](#)

[550 ページの「\[親\] ダイアログボックス」](#)

変更項目の編集 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---



ID を選択して、現在の期間を変更するために使用します。

Available Category (使用可能なデータ種別)、Available Period (使用可能な期間)、期間単位、期間、使用可能な項目  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	リストの項目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。データ種別をハイライトし、期間を選択します。
日付、期間	[Available Period (使用可能な期間)] リストに日付または期間を含める場合に選択します。

変更項目の編集 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	
--------	---


関数を選択して、現在の期間を変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
期間のオフセット、年のオフセット	@CMO、@CUR、@END、または@START 関数を選択する場合に期間または年のオフセットを指定するには、マイナス記号 (-) またはプラス記号 (+) の後に続けてオフセットの期間数を入力します。



関連項目

- 193 ページの「@CMO - 現在のデータ種別の期間番号」
- 196 ページの「@CUR - 現在のディメンション設定」
- 204 ページの「@END - 最後の ID」
- 243 ページの「@START - 開始期間」

変更項目の編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	
--------	---




ID を選択して、現在の第 1 レベルのサブ勘定科目を変更するために使用します。

Available Table (使用可能な表)、Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)、   (前を検索、次を検索)	サブ勘定科目表をハイライトして、サブ勘定科目を選択します。
---	-------------------------------

変更項目の編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して、現在の第 1 レベルのサブ勘定科目を変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	第 1 レベルのサブ勘定科目の関数を選択します。
 テーブル (検索)	@ASK 関数とともに使用するサブ勘定科目表を指定する場合に選択します。[サブ勘定科目 1] ダイアログボックスの [テーブル] 編集ボックスに「TABLE」とサブ勘定科目表の ID を入力することもできます。

関連項目


[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)

[550 ページの「\[サブ勘定科目 1\] ダイアログボックス」](#)

変更項目の編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---




ID を選択して、現在の第 2 レベルのサブ勘定科目を変更するために使用します。

Available Table (使用可能な表)、Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)、  (前を検索、次を検索)	サブ勘定科目表をハイライトして、サブ勘定科目を選択します。 ヒント： サブ勘定科目を選択しない場合は、[なし] を選択します。
---	--

変更項目の編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して、現在の第 2 レベルのサブ勘定科目を変更するために使用します。


使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	第 2 レベルのサブ勘定科目の関数をハイライトします。
 テーブル (検索)	@ASK 関数とともに使用するサブ勘定科目表を指定する場合に選択します。[サブ勘定科目 2] ダイアログボックスの [テーブル] 編集ボックスに「TABLE」とサブ勘定科目表の ID を入力することもできます。

関連項目



[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)

[550 ページの「\[サブ勘定科目 2\] ダイアログボックス」](#)

変更項目の編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---



ID を選択して、現在のサブエンティティを変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	サブエンティティをハイライトします。
---	--------------------



変更項目の編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---








関数を選択して、現在のサブエンティティを変更するために使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
--	--------------

ディメンションの編集 - 「勘定科目」ダイアログボックス：「関数」パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise  Hyperion Essbase
-------	---

関数を選択して勘定科目を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、[選択項目] リスト内の項目の順序を変更します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
Optional Parameter (オプションパラメータ)、Optional Account (オプションの勘定科目)  (検索)	@ASK 関数、@ALL 関数、@SUB 関数、または@CHART 関数とともに使用する勘定科目を指定する場合に選択します。
行/列	AS 関数を選択する場合は、[選択項目] リストの AS 関数をハイライトして、関数が参照する行または列の番号を入力します。

関連項目

[180 ページの「@ALL - すべて」](#)

[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)

[191 ページの「@CHART - チャートロジック展開」](#)






[244 ページの「@SUB - サブ勘定科目」](#)

[414 ページの「「勘定科目」ダイアログボックス - 「範囲」パネル」](#) [415 ページの](#)



ディメンションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [一覧] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---



勘定科目一覧を選択してディメンションを割り当てるために使用します。



使用可能な項目、  (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の勘定科目一覧をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

ディメンションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
--------	---	--

ID を選択して勘定科目を割り当てるために使用します。




使用可能な項目、  (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の勘定科目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
入力勘定、算出勘定、サブ勘定科目	[使用可能な項目] リストに入力勘定科目、算出勘定科目、またはサブ勘定科目を含める場合に選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。

 (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

ディメンションの編集 - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---


ID を選択してデータ種別を割り当てる場合に使用します。






使用可能な項目、 (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数のデータ種別をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
入力勘定、算出勘定	[使用可能な項目] リストに入力勘定科目または算出勘定科目を含める場合に選択します。

ディメンションの編集 - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して、データ種別を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
---	--

加)、   (前を検索、次を検索)	
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、[選択項目] リスト内の項目の順序を変更します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
行/列	AS 関数を選択する場合は、[選択項目] リストの AS 関数をハイライトして、関数が参照する行または列の番号を入力します。






関連項目

[185 ページの「AS - 同じ」](#)

ディメンションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---






ID を選択して連結詳細を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

ディメンションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して連結詳細を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、[選択項目] リスト内の項目の順序を変更します。
行/列	AS 関数を選択する場合は、[選択項目] リストの AS 関数をハイライトして、関数が参照する行または列の番号を入力します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。



関連項目



[185 ページの「AS - 同じ」](#)

ディメンションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

ID を選択して通貨単位を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の通貨単位をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
--	--

選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
 (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。





関連項目

[185 ページの「AS - 同じ」](#)


ディメンションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---








関数を選択して通貨単位を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
行/列	AS 関数を選択する場合は、[選択項目] リストの AS 関数をハイライトして、関数が参照する行または列の番号を入力します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
 (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

ディメンションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス: [関数] パネル

適用対象:	 Hyperion Enterprise
-------	---

関数を選択してエンティティを割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
Optional Parameter (オプションパラメータ)  (検索)	@ALL 関数、@BAS 関数、@CON 関数、@DEP 関数、または@PAR 関数とともに使用するエンティティを指定する場合に選択します。エンティティ ID を入力するか、[エンティティ] ダイアログボックスからエンティティを選択することができます。[エンティティ] ダイアログボックスを表示するには、[検索] アイコンを選択します。
行/列	AS 関数を選択する場合は、[選択項目] リストの AS 関数をハイライトして、関数が参照する行または列の番号を入力します。

関連項目

[180 ページの「@ALL - すべて」](#)

[185 ページの「AS - 同じ」](#)

[187 ページの「@BAS - 基本レベル」](#)

[194 ページの「@CON - サマリ ID」](#)

[200 ページの「@DEP - 直下の ID」](#)







[228 ページの「@PAR - 親」](#)

[427 ページの「\[エンティティ\] ダイアログボックス - \[ID\] パネル」](#)

ディメンションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	
--------	---




ID を選択してエンティティを割り当てるために使用します。



使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数のエンティティをハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ	[使用可能な項目] リストに親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティを含める場合に選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

ディメンションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [一覧] パネル



適用対象 :	
--------	---

エンティティ一覧を選択してエンティティを割り当てるために使用します。






使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数のエンティティをハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、[選択項目] リスト内の項目の順序を変更します。

 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
 (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。



ディメンションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
--------	--


ID を選択してフィールドを割り当てるために使用します。






使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数のフィールドをハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数のフィールドをハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

ディメンションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
--------	--

関数を選択してフィールドを割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
---	--

加)、   (前を検索、次を検索)	
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、リストから削除するか、[選択項目] リスト内の項目の順序を変更します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
行/列	AS 関数を選択する場合は、[選択項目] リストの AS 関数をハイライトして、関数が参照する行または列の番号を入力します。







関連項目

[185 ページの「AS - 同じ」](#)

ディメンションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---







ID を選択して期間単位を割り当てるために使用します。

Available Frequency (使用可能な期間単位)、Available View (使用可能な表示形式)、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	期間単位をハイライトし、1 つまたは複数の表示形式を選択して、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

ディメンションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して期間単位を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
行/列	AS 関数を選択する場合は、[選択項目] リストの AS 関数をハイライトして、関数が参照する行または列の番号を入力します。




関連項目



[185 ページの「AS - 同じ」](#)

ディメンションの編集 - [親] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

ID を選択して親ディメンションを割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
---	--

親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ	[使用可能な項目] リストに親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティを含める場合に選択します。
選択項目	[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
 (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。




ディメンションの編集 - [親] ダイアログボックス: [関数] パネル

適用対象:	 Hyperion Enterprise
-------	---

関数を選択して親ディメンションを割り当てるために使用します。

REPENG.INI ファイルの OPTIONS セクションで UseEnterpriseOrg を設定して、親ディメンションとともに使用される動的関数の結果を、現在の Hyperion Enterprise 組織に基づいて制御できます。UseEnterpriseOrg = 1 を設定した場合は、現在指定されている組織の親のみが返されます。UseEnterpriseOrg = 0 を設定した場合や、REPENG.INI ファイルに UseEnterpriseOrg がない場合は、現在指定されている組織に関係なく、すべての親が返されます。

注: この設定によって、現在の組織に基づいて [Reporting] ダイアログボックスで一覧表示されるエンティティが変わることはありません。また、現在の組織に属さないエンティティについてレポートできなくなることもあります。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、[選択項目] リスト内の項目の順序を変更します。
 (検索)	@ALL 関数、@CON 関数、@DEP 関数、または@PAR 関数とともに使用するオプションの親を指定する場合に選択します。
行/列	AS 関数を選択する場合は、[選択項目] リストの AS 関数をハイライトして、関数が参照する行または列の番号を入力します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。



(上に移動、下に移動)

[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

関連項目

[180 ページの「@ALL - すべて」](#)

[185 ページの「AS - 同じ」](#)

[194 ページの「@CON - サマリ ID」](#)

[200 ページの「@DEP - 直下の ID」](#)

[228 ページの「@PAR - 親」](#)






[550 ページの「\[親\] ダイアログボックス」](#)

ディメンションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :









ID を選択して期間を割り当てるために使用します。

Available Category (使用可能なデータ種別)、Available Period (使用可能な期間)、期間単位、期間、使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	リストの項目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
日付、期間	[Available Period (使用可能な期間)] リストに日付または期間を含める場合に選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

ディメンションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して期間を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
期間のオフセット、 年のオフセット	@CMO 関数、@CUR 関数、@START 関数、または@END 関数を選択する場合に期間または年のオフセットを指定するには、マイナス記号 (-) またはプラス記号 (+) の後に続けてオフセットの期間数または年数を入力します。
行/列	AS 関数を選択する場合は、[選択項目] リストの AS 関数をハイライトして、関数が参照する行または列の番号を入力します。









関連項目

- [185 ページの「AS - 同じ」](#)
- [193 ページの「@CMO - 現在のデータ種別の期間番号」](#)
- [196 ページの「@CUR - 現在のディメンション設定」](#)
- [243 ページの「@START - 開始期間」](#)
- [204 ページの「@END - 最後の ID」](#)

ディメンションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [範囲] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

一連の期間を選択して期間を割り当てるために使用します。

Available Category (使用可能なデータ種別)、Available Period (使用可能な期間)、  、  (開始、Until (終了))、   (前を検索、次を検索)	リスト内の項目をハイライトし、次にリストの範囲の最初の期間または関数をハイライトして、[開始] アイコンを選択します。リスト内の範囲の最後の期間の項目をハイライトし、次にリストの範囲の最後の期間または関数をハイライトして、[Until (終了)] アイコンを選択します。
日付、期間	[Available Period (使用可能な期間)] リストに日付および期間を含める場合に選択します。
 期間のオフセット、(選択項目に追加)	範囲の最初の期間に@CMO、@START、@END、または@CUR 関数を選択する場合に期間のオフセットを指定するには、マイナス記号 (-) またはプラス記号 (+) の後に続けてオフセットの期間数と「P」を入力します。 [選択項目に追加] を選択して、その範囲を [選択項目] リストに追加します。 注： このオプションは、[日付] と [期間] のチェックボックスがオフの場合にのみ有効です。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

関連項目

[185 ページの「AS - 同じ」](#)

[193 ページの「@CMO - 現在のデータ種別の期間番号」](#)

[196 ページの「@CUR - 現在のディメンション設定」](#)







[243 ページの「@START - 開始期間」](#)

[204 ページの「@END - 最後の ID」](#)

ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して第 1 レベルのサブ勘定科目を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、[選択項目] リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 テーブル (検索)	@ALL 関数または@ASK 関数とともに使用するサブ勘定科目表を指定する場合、または [サブ勘定科目 1] ダイアログボックスの [テーブル] 編集ボックスに「TABLE」とサブ勘定科目表の ID を入力する場合に選択します。
行/列	AS 関数を選択する場合に、[選択項目] リストの AS 関数をハイライトして、関数が参照する行または列の番号を入力します。

関連項目

[180 ページの「@ALL - すべて」](#)

[185 ページの「AS - 同じ」](#)







[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)

[550 ページの「\[サブ勘定科目 1\] ダイアログボックス」](#)

ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---







ID を選択して第 1 レベルのサブ勘定科目を割り当てるために使用します。

Available Table (使用可能な表)、Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[Available Table (使用可能な表)] リストの 1 つまたは複数のサブ勘定科目表、および [Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)] リストの 1 つまたは複数のサブ勘定科目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [範囲] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---







一連の第 1 レベルのサブ勘定科目を選択して、第 1 レベルのサブ勘定科目を割り当てるために使用します。

Available Table (使用可能な表)、Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)、  (開始、Until (終了))、   (前を検索、次を検索)	[Available Table (使用可能な表)] リストの範囲の最初のサブ勘定科目表をハイライトし、次に [Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)] リストの範囲の最初のサブ勘定科目をハイライトして、[開始] アイコンを選択します。 [Available Table (使用可能な表)] リストの範囲の最後のサブ勘定科目表をハイライトし、次に [Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)] リストの範囲の最後のサブ勘定科目をハイライトして、[Until (終了)] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---


関数を選択して第 2 レベルのサブ勘定科目を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、[選択項目] リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
テーブル  (検索)	@ALL 関数または@ASK 関数とともに使用するサブ勘定科目表を指定する場合、または [サブ勘定科目 2] ダイアログボックスの [テーブル] 編集ボックスに「TABLE」とサブ勘定科目表の ID を入力する場合に選択します。
行/列	AS 関数を選択する場合は、[選択項目] リストの AS 関数をハイライトして、関数が参照する行または列の番号を入力します。







関連項目

- 180 ページの「@ALL - すべて」
- 185 ページの「AS - 同じ」
- 185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」
- 550 ページの「[サブ勘定科目 2] ダイアログボックス」

ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---







ID を選択して第 2 レベルのサブ勘定科目を割り当てるために使用します。

Available Table (使用可能な表)、Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[Available Table (使用可能な表)] リストの 1 つまたは複数のサブ勘定科目表、および [Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)] リストの 1 つまたは複数のサブ勘定科目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

ディメンションの編集 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [範囲] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---






一連の第 2 レベルのサブ勘定科目を選択して、第 2 レベルのサブ勘定科目を割り当てるために使用します。

Available Table (使用可能な表)、Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)、  (開始、Until (終了))、   (前を検索、次を検索)	[Available Table (使用可能な表)] リストの範囲の最初のサブ勘定科目表をハイライトし、次に [Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)] リストの範囲の最初のサブ勘定科目をハイライトして、[開始] アイコンを選択します。 [Available Table (使用可能な表)] リストの範囲の最後のサブ勘定科目表をハイライトし、次に [Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)] リストの範囲の最後のサブ勘定科目をハイライトして、[Until (終了)] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

ディメンションの編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---




関数を選択してサブエンティティを割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの1つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、[選択項目] リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

ディメンションの編集 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

ID を選択してサブエンティティを割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの1つまたは複数のサブエンティティをハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。



(上に移動、下に移動)

[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

セクションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :





Hyperion
Enterprise



Hyperion
Essbase

ID を選択して勘定科目セクションを編集または挿入するために使用します。

使用可能な項目、 (選択項目に追加)、 (前を検索、次を検索)

[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の勘定科目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。

入力勘定、算出勘定、サブ勘定科目

[使用可能な項目] リストに入力勘定科目、算出勘定科目、またはサブ勘定科目を含める場合に選択します。

選択項目

[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。



(上に移動、下に移動)

[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。



(選択項目から削除)

[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

セクションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :






Hyperion
Enterprise







Hyperion
Essbase

関数を選択して勘定科目セクションを編集または挿入するために使用します。

使用可能な項目、 (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)

[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。

選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
Optional Parameter (オプションパラメータ)、Optional Account (オプションの勘定科目) 	@ASK 関数、@ALL 関数、@SUB 関数、または@CHART 関数とともに使用する勘定科目を指定する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

関連項目



[180 ページの「@ALL - すべて」](#)

[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)





[191 ページの「@CHART - チャートロジック展開」](#)




[244 ページの「@SUB - サブ勘定科目」](#)

セクションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス: [範囲] パネル

適用対象:	  Hyperion Enterprise Essbase
-------	---

一連の勘定科目を選択して勘定科目セクションを編集または挿入するために使用します。







使用可能な項目、  (開始、Until (終了))、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの範囲の最初の勘定科目または関数をハイライトし、[開始] アイコンを選択します。次に、範囲の最後の勘定科目または関数をハイライトして、[Until (終了)] アイコンを選択し、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
入力勘定、算出勘定、サブ勘定科目	[使用可能な項目] リストに入力勘定科目、算出勘定科目、またはサブ勘定科目を含める場合に選択します。
Include First Level SubAccounts (第 1 レベルのサブ勘定科目を含む)	範囲に第 1 レベルのサブ勘定科目を含める場合に選択します。
Include SubAccounts (サブ勘定科目を含む)	範囲にサブ勘定科目を含める場合に選択します。

選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

セクションの編集 - [勘定科目] ダイアログボックス : [一覧] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---






勘定科目一覧を選択して勘定科目セクションを編集または挿入するために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の勘定科目一覧の ID をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

セクションの編集 - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---






ID を選択してデータ種別セクションを編集または挿入するために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの1つまたは複数のデータ種別をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
(選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
 入力勘定、算出勘定	[使用可能な項目] リストに入力勘定科目または算出勘定科目を含める場合に選択します。

セクションの編集 - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	--







関数を選択してデータ種別セクションを編集または挿入するために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの1つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、[選択項目] リスト内の項目の順序を変更します。
(上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
   (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

セクションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---





ID を選択して連結の詳細セクションを挿入するために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

セクションの編集 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して連結の詳細セクションを挿入するために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、[選択項目] リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。



(上に移動、下に移動)



[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

セクションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :



ID を選択して通貨単位セクションを挿入するために使用します。

使用可能な項目、 (選択項目に追加)、 (前を検索、次を検索)


[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。

選択項目

[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。

 (選択項目から削除)

[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

 (上に移動、下に移動)



[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

セクションの編集 - [通貨単位] ダイアログボックス : [関数] パネル




適用対象 :



関数を選択して通貨単位セクションを挿入するために使用します。

使用可能な項目、 (選択項目に追加)、 (前を検索、次を検索)







[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。

選択項目	[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、[選択項目] リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

セクションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---








ID を選択してエンティティセクションを編集または挿入するために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの1つまたは複数のエンティティをハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ	[使用可能な項目] リストに親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティを含める場合に選択します。
選択項目	[選択項目] リストの項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトしたエンティティまたは関数を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

セクションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択してエンティティセクションを編集または挿入するために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
Optional Parameter (オプションパラメータ)、  (検索)	@ASK 関数とともに使用するエンティティ一覧、あるいは@ALL 関数、@BAS 関数、@CON 関数、@DEP 関数、または@PAR 関数とともに使用するエンティティを指定する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

関連項目

[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)

[180 ページの「@ALL - すべて」](#)

[187 ページの「@BAS - 基本レベル」](#)

[194 ページの「@CON - サマリ ID」](#)




[200 ページの「@DEP - 直下の ID」](#)



[228 ページの「@PAR - 親」](#)

セクションの編集 - [エンティティ] ダイアログボックス : [一覧] パネル



適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

エンティティ一覧を選択してエンティティセクションを編集または挿入するために使用します。






使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数のエンティティをハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。

 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
 (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。



セクションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
--------	---



ID を選択してフィールドセクションを編集または挿入するために使用します。




使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数のフィールドをハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

セクションの編集 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
--------	---

関数を選択してフィールドセクションを編集または挿入するために使用します。





使用可能な項目、  (選 択項目に追加)、 	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
---	--

 (前を検索、次を検索)	
選択項目	[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、[選択項目] リスト内の項目の順序を変更します。
 (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

セクションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---






ID を選択して期間単位セクションを編集または挿入するために使用します。

Available Frequency (使用可能な期間単位)、Available View (使用可能な表示形式)、  (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	1つまたは複数の期間単位をハイライトし、1つまたは複数の表示形式を選択して、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

セクションの編集 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---







関数を選択して期間単位セクションを編集または挿入するために使用します。

<p>使用可能な項目、 (選択項目に追加)、 (前を検索、次を検索)</p>	<p>[使用可能な項目] リストの1つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。</p>
<p>選択項目</p>	<p>[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。</p>
<p>  (上に移動、下に移動)</p>	<p>[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。</p>
<p> (選択項目から削除)</p>	<p>[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。</p>

セクションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	--







ID を選択して期間セクションを編集または挿入するために使用します。

<p>Available Category (使用可能なデータ種別)、Available Period (使用可能な期間)、期間単位、期間、使用可能な項目、 (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)</p>	<p>リストの項目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。</p>
<p>日付、期間</p>	<p>[Available Period (使用可能な期間)] リストに日付および期間を含める場合に選択します。</p>
<p>選択項目</p>	<p>[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。</p>
<p>  (上に移動、下に移動)</p>	<p>[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。</p>
<p> (選択項目から削除)</p>	<p>[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。</p>

セクションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して期間セクションを編集または挿入するために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
期間のオフセット、年のオフセット、  (選択項目に追加)	@CMO 関数、@CUR 関数、@END 関数、または@START 関数を選択する場合に期間または年のオフセットを指定するには、マイナス記号 (-) またはプラス記号 (+) の後に続けてオフセットの期間数または年数を入力します。[選択項目に追加] アイコンを選択して、[選択項目] リストに項目を追加します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	ハイライトした期間、関数、または範囲を [選択項目] リストから削除する場合に選択します。

関連項目

[193 ページの「@CMO - 現在のデータ種別の期間番号」](#)

[196 ページの「@CUR - 現在のディメンション設定」](#)






[204 ページの「@END - 最後の ID」](#)

[243 ページの「@START - 開始期間」](#)

セクションの編集 - [期間] ダイアログボックス : [範囲] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

一連の期間を選択して期間セクションを編集または挿入するために使用します。

Available Category (使用可能なデータ種別)、Available Period (使用可能な期間)、  (開始、Until (終了))	[Available Category (使用可能なデータ種別)] リストの範囲の最初の期間のデータ種別をハイライトし、次に [Available Period (使用可能な期間)] リストの範囲の最初の期間または関数をハイライトして、[開始] アイコンを選択します。[使用可能な項目] リストの範囲の最後の期間のデータ種別をハイライトし、次に [Available Period (使用可能な期間)] リストの範囲の最後の期間または関数をハイライトして、[Until (終了)] アイコンを選択します。
日付、期間	[Available Period (使用可能な期間)] リストに日付または期間を含める場合に選択します。
期間のオフセット、年のオフセット、  (選択項目に追加)	<p>範囲の最初の期間に@CMO 関数、@START 関数、または@CUR 関数を選択する場合に期間のオフセットを指定するには、マイナス記号 (-) またはプラス記号 (+) の後に続けてオフセットの期間数を入力します。</p> <p>範囲の最後の期間の@END 関数または@CUR 関数を選択する場合に期間のオフセットを指定するには、マイナス記号 (-) またはプラス記号 (+) の後に続けてオフセットの期間数を入力します。</p> <p>[選択項目に追加] アイコンを選択して、[選択項目] リストに範囲を追加します。</p> <p>注： 期間のオフセットを指定するには、[日付] および [期間] のチェックボックスをオフにする必要があります。</p>
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

関連項目



[193 ページの「@CMO - 現在のデータ種別の期間番号」](#)

[196 ページの「@CUR - 現在のディメンション設定」](#)

[204 ページの「@END - 最後の ID」](#)

[243 ページの「@START - 開始期間」](#)

[フォントおよび網掛け/枠線の書式] ダイアログボックス - [フォント] パネル

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
--------------	--



ヘッダーやフッターまたは選択したレポート領域で、特定の表示基準を満たす値に適用するフォントオプションを設定するときに使用します。

フォント	フォントを選択するか、〔デフォルト〕を選択します。 注： 斜体と太字のオプションを使用できないフォントもあります。
サイズ	フォントサイズを選択するか、〔デフォルト〕を選択します。
下線	下線オプションを選択するか、〔デフォルト〕を選択します。
色	色を選択するか、〔デフォルト〕を選択します。
配置	配置オプションを選択するか、〔デフォルト〕を選択します。
斜体	テキストやデータを斜体で表示します。
太字	テキストやデータを太字で表示します。
オーバーライン	テキストやデータの上に線を重ねて表示します。
非表示	出力されたときにテキストやデータが表示されないようにします。 注： 〔非表示〕を選択した場合は、他のフォントオプションはすべて使用できません。
デフォルト	フォントオプションの設定をすべてデフォルトに戻します。
サンプル	選択されたフォントオプションでのテキストの見本を表示します。

関連項目

[513 ページの「\[フォントおよび網掛け/枠線の書式\] ダイアログボックス - \[網掛け/枠線\] パネル」](#)

[フォントおよび網掛け/枠線の書式] ダイアログボックス - [網掛け/枠線] パネル

適用対象：	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
-------	--

選択したレポート領域、または指定した表示基準を満たす値に網掛けと枠線のオプションを設定するときに使用します。



セルの枠線	<ul style="list-style-type: none"> ● 格子-セルを囲むすべての枠線を表示します。 ● 左-セルの左側の枠線を表示します。 ● 右-セルの右側の枠線を表示します。 ● 上-セルの上側の枠線を表示します。 ● 下-セルの下側の枠線を表示します。 <p>注： 〔セルの枠線〕のチェックボックスで、オンになっている部分の枠線が表示されます。</p>
-------	---

選択された領域の枠線	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動外枠-各ページにすべての枠線を表示します。 ● ページ左-各ページに左側の枠線を表示します。 ● ページ右-各ページに右側の枠線を表示します。 ● ページ上-各ページに上側の枠線を表示します。 ● ページ下-下側の枠線を表示します。 <p>注：「選択された領域の枠線」のチェックボックスで、オンになっている部分の線が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルト-デフォルトの網掛けを表示します。 ● なし-網掛けを表示しません。 ● 薄い影-薄い灰色の網掛けを表示します。 ● 濃い影-濃い灰色の網掛けを表示します。
デフォルト	表示基準を満たす値の網掛けおよび枠線の設定をデフォルトに戻します。



関連項目

[512 ページの「\[フォントおよび網掛け/枠線の書式\] ダイアログボックス - \[フォント\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - 「勘定科目」 ダイアログボックス : 「ID」 パネル

適用対象 :	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
--------	--



「計算式の編集」 ダイアログボックスで、財務計算式に勘定科目 ID を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	「使用可能な項目」 リストから勘定科目を選択します。
入力勘定、算出勘定、サブ勘定科目	入力勘定科目、算出勘定科目、およびサブ勘定科目を「使用可能な項目」 リストに含めるかどうかを選択します。




関連項目

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - 「勘定科目」 ダイアログボックス : 「関数」 パネル

適用対象 :	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
--------	---

「計算式の編集」 ダイアログボックスで、財務計算式に勘定科目関数を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストから関数を選択します。
Optional Parameter (オプションパラメータ)、  (検索)	「勘定科目」 ダイアログボックスを表示して、@ASK、@FIRST、または@LAST 関数で使用する勘定科目を指定します。@FIRST 関数や@LAST 関数では勘定科目を指定する必要があります。

関連項目

[385 ページの「「勘定科目」 ダイアログボックス」](#)



[424 ページの「「計算式の編集」 ダイアログボックス - 「データ」 パネル」](#)

[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)



[205 ページの「@FIRST - 最初のサブ勘定科目」](#)

[214 ページの「@LAST - 最後のサブ勘定科目」](#)

ディメンションの貼り付け - 「データ種別」 ダイアログボックス : 「ID」 パネル

適用対象 :	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
--------	---

「計算式の編集」 ダイアログボックスで、財務計算式にデータ種別 ID を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストからデータ種別を選択します。
--	-----------------------------

関連項目

[424 ページの「「計算式の編集」 ダイアログボックス - 「データ」 パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :



[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式にデータ種別関数を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)

[使用可能な項目] リストから関数を選択します。

関連項目

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :



[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式に連結の詳細 ID を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)

[使用可能な項目] リストからフィールドを選択します。

関連項目


[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル


適用対象 :




[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式に連結の詳細関数を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストから関数を選択します。
--	--------------------------

ディメンションの貼り付け - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---


[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式に通貨単位 ID を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストからフィールドを選択します。項目をダブルクリックして追加することもできます。
--	---


関連項目

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [通貨単位] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式に通貨単位関数を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストから関数を選択します。
--	--------------------------



関連項目

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式にエンティティ ID を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストでエンティティをハイライトします。
親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ	[使用可能な項目] リストに親エンティティ、最下位エンティティ、およびサブエンティティを含めるかどうかを選択します。




関連項目

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式にエンティティ関数を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストから関数を選択します。
Optional Parameter (オプションパラメータ)、  (検索)	[エンティティ] ダイアログボックスを表示して、@PAR 関数または@ASK 関数でエンティティを指定する場合に選択します。

関連項目



[390 ページの「\[エンティティ\] ダイアログボックス」](#)

[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)



[228 ページの「@PAR - 親」](#)

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
--------	---	--



[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式にフィールド ID を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストからフィールドを選択します。
--	-----------------------------



関連項目

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
--------	---	--

[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式にフィールド関数を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストから関数を選択します。
--	--------------------------



関連項目

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式に期間単位 ID を貼り付けるときに使用します。

Available Frequency（使用可能な期間単位）、Available View （使用可能な表示形式）、   （前を検索、次を検索）	期間単位をハイライトして表示形式を選択します。
---	-------------------------



関連項目

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [期間単位] ダイアログボックス：[関数] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式に期間単位関数を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、   （前を検索、次を検索）	[使用可能な項目] リストから関数を選択します。
--	--------------------------



関連項目

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [親] ダイアログボックス：[ID] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式に親 ID を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、   （前を検索、次を検索）	[使用可能な項目] リストからフィールドを選択します。
親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ	[使用可能な項目] リストに親エンティティ、最下位エンティティ、およびサブエンティティを含めるかどうかを選択します。




関連項目

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式に親関数を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストから関数を選択します。編集ボックスに関数の最初の数文字を入力すると、これと一致する最初の項目がハイライトされます。
Optional Parent (オプションの親)、  (検索)	[親] ダイアログボックスを表示して、@PAR 関数で親を指定する場合に選択します。

関連項目

[550 ページの「\[親\] ダイアログボックス」](#)



[228 ページの「@PAR - 親」](#)

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式に期間 ID を貼り付けるときに使用します。

Available Category (使用可能なデータ種別)、Available Period (使用可能な期間)、   (前を検索、次を検索)	[Available Category (使用可能なデータ種別)] リストのデータ種別をハイライトし、[Available Period (使用可能な期間)] リストから期間を選択します。
日付、期間	[Available Period (使用可能な期間)] リストに日付と期間を含めるかどうかを選択します。

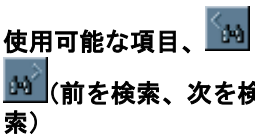
関連項目

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式に期間関数を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストから関数を選択します。
期間のオフセット、年のオフセット	@CMO 関数、@CUR 関数、@END 関数、または@START 関数を選択した場合に、期間または年のオフセットを指定するには、マイナス記号 (-) またはプラス記号 (+) の後に続けてオフセットの期間数または年数を入力します。

関連項目

[193 ページの「@CMO - 現在のデータ種別の期間番号」](#)

[196 ページの「@CUR - 現在のディメンション設定」](#)

[204 ページの「@END - 最後の ID」](#)


[243 ページの「@START - 開始期間」](#)

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式に第 1 レベルのサブ勘定科目 ID を貼り付けるときに使用します。

Available Table (使用可能な表)、Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)、  (前を検索、次を検索)	サブ勘定科目表をハイライトして、サブ勘定科目を選択します。
--	-------------------------------




関連項目

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式に第 1 レベルのサブ勘定科目関数を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストで関数をハイライトします。
テーブル、  (検索)	[サブ勘定科目 1] ダイアログボックスを表示して、@ASK 関数でサブ勘定科目表を指定するか、または [テーブル] 編集ボックスに「TABLE」とサブ勘定科目表の ID を入力します。

関連項目

[550 ページの「\[サブ勘定科目 1\] ダイアログボックス」](#)



[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式に第 2 レベルのサブ勘定科目 ID を貼り付けるときに使用します。

Available Table (使用可能な表)、Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)、   (前を検索、次を検索)	サブ勘定科目表をハイライトして、サブ勘定科目を選択します。
--	-------------------------------




関連項目

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式に第 2 レベルのサブ勘定科目関数を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストで関数をハイライトします。
テーブル、  (検索)	[サブ勘定科目 2] ダイアログボックスを表示して、@ASK 関数でサブ勘定科目表を指定するか、または [テーブル] 編集ボックスに「TABLE」とサブ勘定科目表の ID を入力します。

関連項目

[550 ページの「\[サブ勘定科目 2\] ダイアログボックス」](#)



[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式にサブエンティティ ID を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストでサブエンティティをハイライトします。
--	----------------------------------



関連項目

[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

ディメンションの貼り付け - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

[計算式の編集] ダイアログボックスで、財務計算式にサブエンティティ関数を貼り付けるときに使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストで関数をハイライトします。
--	----------------------------






関連項目




[424 ページの「\[計算式の編集\] ダイアログボックス - \[データ\] パネル」](#)

プロンプト値 - [勘定科目] ダイアログボックス : [範囲] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートの勘定科目のプロンプトに ID の範囲を割り当てるために使用します。







使用可能な項目、   (開始、Until (終了))、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの範囲の最初の勘定科目をハイライトし、[開始] アイコンを選択します。次に、範囲の最後の勘定科目をハイライトして、[Until (終了)] アイコンを選択し、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
入力勘定、算出勘定、サブ勘定科目	[使用可能な項目] リストに入力勘定科目、算出勘定科目、またはサブ勘定科目を含める場合に選択します。
Include First Level SubAccounts (第 1 レベルのサブ勘定科目を含む)	範囲に第 1 レベルのサブ勘定科目を含める場合に選択します。
Include SubAccounts (サブ勘定科目を含む)	範囲にサブ勘定科目を含める場合に選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。

 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

プロンプト値 - [勘定科目] ダイアログボックス : [一覧] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---








レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートの勘定科目のプロンプトに一覧を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの1つまたは複数の勘定科目一覧をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

プロンプト値 - [勘定科目] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートの勘定科目のプロンプトに関数を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの1つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
選択項目	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
Optional Parameter (オプションパラメータ)、Optional Account (オプションの勘定科目)  (検索)	@ASK 関数、@ALL 関数、@SUB 関数、または@CHART 関数とともに使用する勘定科目を指定する場合に選択します。

関連項目

[180 ページの「@ALL - すべて」](#)

[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)




[244 ページの「@SUB - サブ勘定科目」](#)




[191 ページの「@CHART - チャートロジック展開」](#)

プロンプト値 - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートの勘定科目のプロンプトに ID を割り当てるために使用します。







使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの1つまたは複数の勘定科目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
入力勘定、算出勘定、サブ勘定科目	[使用可能な項目] リストに入力勘定科目、算出勘定科目、またはサブ勘定科目を含める場合に選択します。

選択項目	[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、 [選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

プロンプト値 - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---





レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートのデータ種別のプロンプトに関数を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの1つまたは複数の関数をハイライトして、 [選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、 [選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
入力勘定、算出勘定	[使用可能な項目] リストに入力勘定科目または算出勘定科目を含める場合に選択します。

プロンプト値 - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---





レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートのデータ種別のプロンプトに ID を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、 (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数のデータ種別 ID をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
入力勘定、算出勘定	[使用可能な項目] リストに入力勘定科目または算出勘定科目を含める場合に選択します。

プロンプト値 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
---------------	--



レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートの連結の詳細のプロンプトに ID を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、 (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リスト内の 1 つまたは複数の連結の詳細 ID をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

プロンプト値 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---





レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートの連結の詳細のプロンプトに関数を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

プロンプト値 - [エンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートのエンティティのプロンプトに ID を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、  (前を検索)、  (次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数のエンティティをハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ	[使用可能な項目] リストに親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティを含める場合に選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。



(上に移動、下に移動)






[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

プロンプト値 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :



レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートのエンティティのプロンプトに関数を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、  (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
Optional Parameter (オプションパラメータ)、  (検索)	@ALL 関数、@BAS 関数、@CON 関数、@DEP 関数、または@PAR 関数とともに使用するエンティティを指定する場合に選択します。エンティティ ID を入力するか、[エンティティ] ダイアログボックスからエンティティを選択することができます。[エンティティ] ダイアログボックスを表示するには、[検索] アイコンを選択します。

関連項目

[180 ページの「@ALL - すべて」](#)

[187 ページの「@BAS - 基本レベル」](#)

[194 ページの「@CON - サマリ ID」](#)

[200 ページの「@DEP - 直下の ID」](#)






[228 ページの「@PAR - 親」](#)

[427 ページの「\[エンティティ\] ダイアログボックス - \[ID\] パネル」](#)



プロンプト値 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---




レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートのフィールドのプロンプトに ID を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、 (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数のフィールドをハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

プロンプト値 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
--------	---	--

レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートのフィールドのプロンプトに関数を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、 (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数のフィールドあるいは関数をハイライトして、リストから削除するか、[選択項目] リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。



(上に移動、
下に移動)







[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

プロンプト値 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :



レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートの期間単位のプロンプトに ID を割り当てるために使用します。



Available Frequency (使用可能な期間単位)、Available View (使用可能な表示形式)、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[Available Frequency (使用可能な期間単位)] リストの 1 つまたは複数の期間単位、および [Available View (使用可能な表示形式)] リストの 1 つまたは複数の表示形式をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。




プロンプト値 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :



レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートの期間単位のプロンプトに関数を割り当てるために使用します。




使用可能な項目、  (選択項目に追加)、 	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
---	--

 (前を検索、次を検索)	
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

プロンプト値 - [親] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---






レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートの親のプロンプトに ID を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の親 ID をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ	[使用可能な項目] リストに親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティを含める場合に選択します。
選択項目	[選択項目] リストの項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
 (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

プロンプト値 - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートの親のプロンプトに関数を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、 (選択項目に追加) 	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
Optional Parent (オプションの親)  (検索)	@ALL 関数、@CON 関数、@DEP 関数、または@PAR 関数を [選択項目] リストでハイライトした場合に、オプションの親を指定するには、親の ID を入力または選択します。




関連項目





- [180 ページの「@ALL - すべて」](#)
- [194 ページの「@CON - サマリ ID」](#)
- [200 ページの「@DEP - 直下の ID」](#)
- [228 ページの「@PAR - 親」](#)

プロンプト値 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
---------------	---

レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートの期間のプロンプトに ID を割り当てるために使用します。







Available Category (使用可能なデータ種別)、Available Period (使用可能な期間)、期間単位、期間、使用可能な項目  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	リストの項目をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。編集ボックスにデータ種別 ID または期間 ID の最初の数文字を入力すると、これと一致する最初の項目がハイライトされます。
日付、期間	[Available Period (使用可能な期間)] リストに日付または期間を含める場合に選択します。

選択項目	[選択項目] リストの項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストで項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。

プロンプト値 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートの期間のプロンプトに関数を割り当てるために使用します。

使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの1つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
期間のオフセット、年のオフセット	@CMO 関数、@CUR 関数、@START 関数、または@END 関数を選択する場合に期間または年のオフセットを指定するには、マイナス記号 (-) またはプラス記号 (+) の後に続けてオフセットの期間数または年数を入力します。
行/列	AS 関数を選択する場合は、[選択項目] リストの AS 関数をハイライトして、関数が参照する行または列の番号を入力します。

関連項目

[185 ページの「AS - 同じ」](#)







[193 ページの「@CMO - 現在のデータ種別の期間番号」](#)

- 196 ページの「@CUR - 現在のディメンション設定」
- 204 ページの「@END - 最後の ID」
- 243 ページの「@START - 開始期間」

プロンプト値 - [期間] ダイアログボックス : [範囲] パネル

適用対象 :	
--------	---

レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートの期間のプロンプトに ID の範囲を割り当てるために使用します。

Available Category (使用可能なデータ種別)、Available Period (使用可能な期間)、  (開始、Until (終了))、  (前を検索、次を検索)	<p>リスト内の項目をハイライトし、次にリストの範囲の最初の期間または関数をハイライトして、[開始] アイコンを選択します。</p> <p>リスト内の範囲の最後の期間の項目をハイライトし、次にリストの範囲の最後の期間または関数をハイライトして、[Until (終了)] アイコンを選択します。</p>
日付、期間	[Available Period (使用可能な期間)] リストに日付または期間を含める場合に選択します。
期間のオフセット、  (選択項目に追加)	<p>範囲の最初の期間に@CMO、@START、@END、または@CUR 関数を選択する場合に期間のオフセットを指定するには、マイナス記号 (-) またはプラス記号 (+) の後に続けてオフセットの期間数と「P」を入力します。</p> <p>[選択項目に追加] を選択して、その範囲を [選択項目] リストに追加します。</p> <p>注： このオプションは、[日付] と [期間] のチェックボックスがオフの場合にのみ有効です。</p>
選択項目	[選択項目] リストの 1 つまたは複数の項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。






関連項目

- 193 ページの「@CMO - 現在のデータ種別の期間番号」
- 243 ページの「@START - 開始期間」


プロンプト値 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---




レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートのサブエンティティのプロンプトに関数を割り当てるために使用します。




使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数の関数をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンをクリックします。
選択項目	[選択項目] リストの項目をハイライトして、[選択項目] リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
 (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

プロンプト値 - [サブエンティティ] ダイアログボックス : [ID] パネル



適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

レポートをアクティブなパッケージで実行するときに、ハイライトしたレポートのサブエンティティのプロンプトに ID を割り当てるために使用します。



使用可能な項目、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	[使用可能な項目] リストの 1 つまたは複数のサブエンティティをハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
--	--

選択項目	[選択項目] リストの1つまたは複数の項目をハイライトして、リストから削除するか、リスト内の項目の順序を変更します。
 (選択項目から削除)	[選択項目] リストからハイライトした項目を削除する場合に選択します。
  (上に移動、下に移動)	[選択項目] リストでハイライトした項目を上下に移動する場合に選択します。

レポートにおけるデータの視点 - [勘定科目] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
--------	---



ID を選択して、レポートにおけるデータの視点の勘定科目を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	勘定科目 ID を選択します。
入力勘定、算出勘定、サブ勘定科目	入力勘定科目、算出勘定科目、またはサブ勘定科目を勘定科目一覧に組み込むかどうかを選択します。 注： サブ勘定科目は Hyperion Enterprise のみでサポートされています。



関連項目


[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [勘定科目] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	  Hyperion Enterprise Hyperion Essbase
--------	---

関数を選択して、レポートにおけるデータの視点の勘定科目を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
--	--------------

Optional Parameter (オプションパラメータ)、 (検索)

[勘定科目] ダイアログボックスを表示して、@ASK 関数で使用する勘定科目一覧を指定します。

関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

[385 ページの「\[勘定科目\] ダイアログボックス」](#)



[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [データ種別] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :



ID を選択して、レポートにおけるデータの視点のデータ種別を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、
 (前を検索、次を検索)

データ種別を選択します。ボックスにデータ種別 ID の最初の数文字を入力すると、これと一致する最初の項目をハイライトすることができます。

関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [データ種別] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :



関数を選択して、レポートにおけるデータの視点のデータ種別を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、 (前を検索、次を検索)

関数を選択します。



関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

ID を選択して、レポートにおけるデータの視点の連結の詳細を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	連結の詳細の ID を選択します。 ヒント： 連結の詳細を参照しない ID を使用するには、[なし] を選択します。
--	---



関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [連結の詳細] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して、レポートにおけるデータの視点の連結の詳細を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数を選択します。
--	-----------



関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

ID を選択して、レポートにおけるデータの視点の通貨単位を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	通貨単位 ID を選択します。編集ボックスに通貨単位 ID の最初の数文字を入力すると、これと一致する最初の項目がハイライトされます。 ヒント： 通貨単位を参照しない ID を使用するには、[なし] または [NATIVE (ネイティブ)] を選択します。
--	--



関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [通貨単位] ダイアログボックス：[関数] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
--------------	---

関数を選択して、レポートにおけるデータの視点の通貨単位を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数を選択します。
---	-----------



関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボックス：[ID] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
--------------	---

ID を選択して、レポートにおけるデータの視点のエンティティを設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	エンティティ ID を選択します。
親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ	[使用可能な項目] リストに親エンティティ、最下位エンティティ、またはサブエンティティを含めるかどうかを選択します。




関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [エンティティ] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して、レポートにおけるデータの視点のエンティティを設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数を選択します。
Optional Parameter (オプションパラメータ)、  (検索)	[エンティティ] ダイアログボックスを表示して、 228 ページの「@PAR - 親」 関数でエンティティを指定するか、または 185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」 関数でエンティティ一覧を指定する場合に選択します。

関連項目



[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

[390 ページの「\[エンティティ\] ダイアログボックス」](#)



[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)

[228 ページの「@PAR - 親」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
--------	---	--

ID を選択して、レポートにおけるデータの視点のフィールドを設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	フィールド ID を選択します。
--	------------------



関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [フィールド] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
--------	---	--


関数を選択して、レポートにおけるデータの視点のフィールドを設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数を選択します。
--	-----------

関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

ID を選択して、レポートにおけるデータの視点の期間単位を設定する場合に使用します。

Available Frequency (使用可能な期間単位)、Available View (使用可能な表示形式)、   (前を検索、次を検索)	期間単位をハイライトして表示形式を選択します。
---	-------------------------



関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [期間単位] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して、レポートにおけるデータの視点の期間単位を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数を選択します。
--	-----------



関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [親] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

ID を選択して、レポートにおけるデータの視点の親を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	親を選択します。
親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ	[使用可能な項目] リストに親エンティティ、最下位エンティティ、またはサブエンティティを含めるかどうかを選択します。




関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [親] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

ID を選択して、レポートにおけるデータの視点の親を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
Optional Parameter (オプションパラメータ)、  (検索)	[親] ダイアログボックスを表示して、@PAR 関数で親を指定する場合に選択します。

関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)




[550 ページの「\[親\] ダイアログボックス」](#)

[228 ページの「@PAR - 親」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

ID を選択して、レポートにおけるデータの視点の期間を設定する場合に使用します。

Available Category (使用可能なデータ種別)、Available Period (使用可能な期間)、  (選択項目に追加)、   (前を検索、次を検索)	データ種別および期間をハイライトして、[選択項目に追加] アイコンを選択します。
日付、期間	[Available Period (使用可能な期間)] リストに日付または期間を含めるかどうかを選択します。



関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [期間] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

関数を選択して、レポートにおけるデータの視点の期間を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
期間のオフセット、年のオフセット	@CMO、@CUR、@START、または@END 関数を選択した場合に期間または年のオフセットを指定するには、マイナス記号 (-) また

はプラス記号 (+) の後に続けてオフセットの期間数または年数を入力します。

関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

[193 ページの「@CMO - 現在のデータ種別の期間番号」](#)

[196 ページの「@CUR - 現在のディメンション設定」](#)





[243 ページの「@START - 開始期間」](#)

[204 ページの「@END - 最後の ID」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	
--------	---

ID を選択して、レポートにおけるデータの視点の第 1 レベルのサブ勘定科目を設定する場合に使用します。

Available Table (使用可能な表)、   (前を検索、次を検索)	使用するサブ勘定科目を含むサブ勘定科目表をハイライトします。 ヒント: サブ勘定科目を参照しない ID を使用するには、[なし] を選択します。
Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)、   (前を検索、次を検索)	サブ勘定科目を選択します。




関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	
--------	---

関数を選択して、レポートにおけるデータの視点の第 1 レベルのサブ勘定科目を設定する場合に使用します。

<p>使用可能な項目、</p> <p> (前を検索、次を検索)</p>	関数を選択します。
<p>テーブル、 (検索)</p>	[サブ勘定科目 1] ダイアログボックスを表示して、@ASK および @ALL 関数でサブ勘定科目表を指定するか、または [テーブル] 編集ボックスに「TABLE」とサブ勘定科目表の ID を入力します。





関連項目

- [49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)
- [550 ページの「\[サブ勘定科目 1\] ダイアログボックス」](#)
- [180 ページの「@ALL - すべて」](#)
- [185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	--

ID を選択して、レポートにおけるデータの視点の第 2 レベルのサブ勘定科目を設定する場合に使用します。

<p>Available Table (使用可能な表)、</p> <p> (前を検索、次を検索)</p>	<p>使用するサブ勘定科目を含むサブ勘定科目表をハイライトします。</p> <p>ヒント: サブ勘定科目を参照しない ID を使用するには、[なし] を選択します。</p>
<p>Available SubAccount (使用可能なサブ勘定科目)、  (前を検索、次を検索)</p>	サブ勘定科目を選択します。




関連項目

- [49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---



関数を選択して、レポートにおけるデータの視点の第 2 レベルのサブ勘定科目を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数を選択します。
テーブル、  (検索)	[サブ勘定科目 2] ダイアログボックスを表示して、@ASK および @ALL 関数でサブ勘定科目表を指定するか、または [テーブル] 編集ボックスに「TABLE」とサブ勘定科目表の ID を入力します。



関連項目

- [49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)
- [550 ページの「\[サブ勘定科目 2\] ダイアログボックス」](#)
- [185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)
- [180 ページの「@ALL - すべて」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [表示形式] ダイアログボックス : [ID] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
--------	---	--



ID を選択して、レポートにおけるデータの視点の表示形式を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	表示形式を選択します。
--	-------------



関連項目

- [49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

レポートにおけるデータの視点 - [表示形式] ダイアログボックス : [関数] パネル

適用対象 :	 Hyperion Enterprise	 Hyperion Essbase
--------	---	--

関数を選択して、レポートにおけるデータの視点の表示形式を設定する場合に使用します。

使用可能な項目、   (前を検索、次を検索)	関数を選択します。
--	-----------

関連項目

[49 ページの「レポートにおけるデータの視点の設定」](#)

[サブ勘定科目 1] ダイアログボックス

[551 ページの「\[サブ勘定科目 1\] ダイアログボックス - \[ID\] パネル」](#)

[551 ページの「\[サブ勘定科目 1\] ダイアログボックス - \[関数\] パネル」](#)

[サブ勘定科目 2] ダイアログボックス



[552 ページの「\[サブ勘定科目 2\] ダイアログボックス - \[ID\] パネル」](#)

[552 ページの「\[サブ勘定科目 2\] ダイアログボックス - \[関数\] パネル」](#)

[親] ダイアログボックス

適用対象 :	 Hyperion Enterprise
--------	---

@ALL 関数、@CON 関数、@DEP 関数、または@PAR 関数で使用するオプションの親を選択するために使用します。

親、   (前を検索、次を検索)	親をハイライトします。
親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ	[使用可能な項目] リストに親エンティティ、最下位エンティティ、またはサブエンティティを含めるかどうかを選択します。

関連項目


[180 ページの「@ALL - すべて」](#)

- 194 ページの「@CON - サマリ ID」
- 200 ページの「@DEP - 直下の ID」
- 228 ページの「@PAR - 親」

[サブ勘定科目 1] ダイアログボックス - [ID] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

@ALL 関数または@ASK 関数で使用するオプションの第 1 レベルのサブ勘定科目表を指定するときに使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)	サブ勘定科目表を選択します。
--	----------------


関連項目

- 180 ページの「@ALL - すべて」
- 185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」
- 551 ページの「[サブ勘定科目 1] ダイアログボックス - [関数] パネル」

[サブ勘定科目 1] ダイアログボックス - [関数] パネル

適用対象：	 Hyperion Enterprise
-------	---

@ALL 関数または@ASK 関数で使用するオプションの第 1 レベルのサブ勘定科目表を指定するときに使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)	関数をハイライトします。
--	--------------

関連項目

- 180 ページの「@ALL - すべて」
- 185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」
- 551 ページの「[サブ勘定科目 1] ダイアログボックス - [ID] パネル」

[サブ勘定科目 2] ダイアログボックス - [ID] パネル

適用対象 :



@ALL 関数または@ASK 関数で使用するオプションの第 2 レベルのサブ勘定科目表を指定するときに使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)

サブ勘定科目表を選択します。

関連項目

[180 ページの「@ALL - すべて」](#)

[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)

[552 ページの「\[サブ勘定科目 2\] ダイアログボックス - \[関数\] パネル」](#)

[サブ勘定科目 2] ダイアログボックス - [関数] パネル

適用対象 :



@ALL 関数または@ASK 関数で使用するオプションの第 2 レベルのサブ勘定科目表を指定するときに使用します。

使用可能な項目、  (前を検索、次を検索)

関数をハイライトします。

関連項目

[180 ページの「@ALL - すべて」](#)

[185 ページの「@ASK - Windows ユーザへのプロンプト」](#)

[552 ページの「\[サブ勘定科目 2\] ダイアログボックス - \[ID\] パネル」](#)

Hyperion Enterprise Reporting

Hyperion Enterprise Reporting を使用してレポートを生成できます。

用語集

!「感嘆符 (Bang character)」を参照。

#欠如 (#Missing) 「データの欠如 (Missing data)」を参照。

1 次キューブ (Primary cube) 最初のキューブ (ターゲットキューブ)。

1 次フィールドタイプ (Primary field types) アウトラインでメンバを定義するフィールド。

2 次キューブ (Secondary cube) 2 番目のキューブ (ソースキューブ)。

2 次フィールドタイプ (Secondary field types) アウトラインでエイリアスと属性を定義するフィールド。

2 パス計算 (Two-pass calculation) Essbase の属性。連結後に勘定科目メンバ、「連動計算 (保存なし)」メンバ、または「連動計算および保存」メンバを再計算する。

2 パスメンバ (Two-pass members) データベース内で計算する前に特定のデータ値を必要とするメンバ。

AND/OR メンバのサブセットを指定するために計算やレポートのスクリプトで使用される論理式。

API アプリケーションプログラミングインターフェイス。Essbase API は、Essbase サーバにアクセスするためにカスタム C または Visual Basic プログラムで利用できる関数ライブラリである。

Application manager Essbase アプリケーションの作成や管理を行うことができる Essbase ソフトウェア。

ARBORPATH Essbase ルートディレクトリを指定する環境変数。

CHARTDSM チャートロジック (CHARTDSM chart method)

自動的に生成され、消去、換算、比率、調整後などの連結詳細に対して実行される入力ロジック。

CHART ロジック (CHART method) システムが生成するデフォルトの入力ロジック。システム全体に適用されるステートメントや条件式が含まれている。

Create 変数 (Create variable) CREATEVARIABLE。新しい代替変数を定義する ESSCMD。

DataExtend データ (DataExtend data) Schedules モジュールの Hyperion DataExtend データベースで収集され保存されているテキストデータ。通常は、アプリケーション要素に代替ラベルを割り当てたり、予算や予測の差異を説明するために使用される。本社との間で Hyperion DataExtend のデータを送受信できる。

Dbname.db Essbase データベースファイル。corporate.db など。

Dbname.esm 特定のデータベースの Essbase データベースルートファイル。

Dbname.ind データベース内でデータのない領域を追跡する Essbase データベースファイル。

Dbname.otl Essbase アウトラインファイル。corporate.otl など。

Dbname.tct 特定のデータベース内でトランザクションを追跡するファイル。

DB 設計者 (DB designer) 「データベース設計者 (Database designer)」を参照。

Delete 変数 (Delete variable) DELETEVARIABLE。現在設定されている変数を削除する ESSCMD。

DYNVIEWACCTS 入力ロジック (DYNVIEWACCTS chart method)

自動的に生成される入力ロジック。連動表示勘定科目で計算式を入力するために使われる。連動表示勘定科目では、特定の関数しか使用できない。

Essbase.sec Essbase のセキュリティファイル。

EssCell Essbase のセル取得関数。EssCell 関数を Essbase Spreadsheet アドインのセルに入力して、特定のデータベースメンバの交点を表すデータベース値を 1 つ取得する。

ESSCMD バッチファイルを使用するか、インタラクティブにサーバ処理を行うためのコマンド行インターフェイス。「バッチファイル (Batch file)」も参照。

Essnnn.pag 連番が付いたデータファイル。1 つのデータベースに属する。

Essnnnn.ind 連番が付いたインデックスファイル。1 つのデータベースに属する。

Fix ステートメント (Fix statement) 関数を実行する前に計算スクリプトに使用して、データベースの領域を特定する構文。

Flashback Essbase Spreadsheet アドインのコマンド。前回のデータベースビューを復元する。このコマンドは標準的な undo コマンドに似ている。

Hyperion Allocations Hyperion のモジュールの 1 つ。Hyperion Enterprise アプリケーションのデータを使用して値をエンティティ、勘定科目または期間に配賦できる。

Hyperion DataExtend Hyperion Schedules でテキストを入力し、それをデータまたは見出しとしてレポートに含めることのできる製品。

Hyperion Enterprise Reporting 財務データを現金出納報告書、予定財務諸表、損益計算書、貸借対照表などの形式で表すことのできる強力なグラフィックツール。Hyperion Solutions 製品アプリケーションのデータを取得して計算し、その表示方法を指定できる。

Hyperion Retrieve Hyperion のモジュールの 1 つ。スプレッドシートソフトウェアの分析、グラフおよびプレゼンテーション機能を使用できる。Microsoft Excel ワークシートから Hyperion のデータにアクセスできる。その後スプレッドシートソフトウェアでデータを分析、操作して、レポートやグラフを作成できる。

Hyperion Schedules Hyperion レポートをデータ入力用のフォームに変換するスプレッドシート形式のインターフェイス。

LedgerLink 重要なデータを変換して Hyperion Enterprise にインポートする処理を自動化するツール。LedgerLink を使用して、外部の各アプリケーションにカスタマイズしたテンプレートを設定する。それによって、データを含む ASCII ファイルを変更せずに、さまざまな元帳やフィードシステムからデータをインポートできる。

List 変数 (List variables) LISTVARIABLES。サーバのすべての代替変数を一覧表示する ESSCMD。

MDDB マルチディメンションデータベース。「マルチディメンション (Multidimensional)」も参照。

OK ステータス (OK status) エンティティがすでに連結されており、データが変化していないことを示す連結ステータス。この期間を連結する必要はないが、[すべての連結] または [データのあるものすべての連結] を使用して強制的に連結を実行できる。

OTL 変更ファイルの適用 (Apply OTL change file)

APPLTOTLCHANGEFILE。1 つのアウトラインから別のアウトラインに抽出されたアウトラインの変更を適用するためにデータベース管理者が使用するコマンド。変更内容は CHG ファイルから読み取られる。

OUTALTSELECT レポートまたは計算スクリプト内でエイリアステーブルを切り替える場合に使用するコマンド。

Partition Manager Essbase のツール。複製されリンクされたトランスペアレントなデータベースパーティションを簡単に作成して管理できる。Partition Manager には、パーティションの作成プロセスを順を追って説明する、複数のページで構成されたパーティションウィザードがある。

PDF 概念と手順に関する情報が含まれている Adobe Acrobat オンライン電子ガイド。

PVA 「期別値ロジック (Periodic value method.)」を参照。

Quiet ポイント (Quiet point) データベースにアクティブなトランザクションがない時点。

Report Editor レポートスクリプトの記述に使用する SSCII テキストエディタ。Report Editor にはテキスト編集ウィンドウとカスタマイズメニューがある。保存したレポートスクリプトにはファイル名に*.REP の拡張子が付く。

Report Extractor Essbase のコンポーネント。レポートスクリプトを実行したときに Essbase データベースからレポートデータを取得する。

Report Viewer Essbase のコンポーネント。レポートスクリプトの実行後にレポート全体を表示する。保存したレポートにはファイル名に*.RPT の拡張子が付く。

Section 179 の値 (Section 179 value) Internal Revenue Service (米国国税庁) で指定されている特定の資産に適用される控除。これにより、不動産、信託、および特定の非法人の賃貸人を除く納税者は、税年度中に取得した適格資産の特定原価額に対し現行控除を請求できる。

Set 計算スクリプト内で他のコマンドの前に付くコマンド語。

Spreadsheet アドイン (Spreadsheet add-in) 通常使用しているスプレッドシートで作業できる Essbase ソフトウェア。Essbase Spreadsheet アドインはスプレッドシートソフトウェアのアドインモジュールである。

SQL (構造化照会言語) (Structured Query Language) データベースに情報を要求する標準的な照会言語。分散型データベース (Hyperion Enterprise のように複数のコンピュータシステムに分散させたデータベース) をサポートしている。この言語を使用すると、LAN で通信する複数のユーザが同じデータベースに同時にアクセスできる。

Storage Manager Essbase サーバのレイヤの 1 つ。

Essbase データを物理ディスク記憶領域にマッピングする。Storage Manager は、保護、インデックス、データ、配賦、トランザクションなどの管理機能を制御する。

Sum of years digits (SYD) 減価償却 (Sum of years digits (SYD) depreciation) 減価償却可能な資産原価の一部が毎年償却される加速償却の形態で、償却される割合を使用して減価償却価額が計算される。割合の分子は当年に相当する番号を表し (降順に年度に番号付けする)、割合の分母は資産の耐用年数の年度の番号の合計を表す。

UNC 「ユニバーサル命名規則 (Universal naming convention)」を参照。

Units of production (UOP) 減価償却 (Units of production (UOP) depreciation) 資産の耐用年数ではなく、資産によって生産される予測単位数に基づいて期間の減価償却費を決定する方法。減価償却可能額 (原価から残存価額を減算したもの) に、期間中に生産された資産の総算出額の比率を乗算して算出する。

アウトライン (Outline) Essbase 内のデータベースのすべての要素を定義する構造。ディメンションとメンバ、高密度および低密度ディメンションのタグと属性、計算、共有メンバ、データベースの基本的な集計構造の変更などを定義する。

アウトライン同期 (Outline synchronization) アウトラインの値を、別のアウトラインの対応する値と一致させるプロセス。

アウトライン変更ログ (Outline change log) Essbase データベースアウトラインに行われた変更の記録。

アクセス権限 (Access rights) ユーザがタスクを実行できるかどうか、特定のアプリケーション要素にアクセスできるかどうかを決定する、オラクルの Hyperion® Enterprise® Reporting オプション。アクセス権限 (Access rights) ユーザがアプリケーションのタスクを実行できるかどうか、アプリケーション要素にアクセスできるかどうかを決定する設定。

アクティビティログ (Activity log) サイトのアクティビティをすべて表示するログ。すべての送受信イベントの状態が表示される。

新しいパスワード (New password) ユーザ ID に割り当てられた新しいパスワード。

アドインファイル (Add-in file) 大きいソフトウェアプログラム内で読み込んで、そのプログラムの機能や性能を拡張する小さいファイル。例えば、Hyperion Analyst は Microsoft Excel 内で読み込むアドインファイルである。

アプリケーション (Application) 財務レポートの要件を満たすために使われる、組織、勘定科目、データ種別、その他の要素の集まり。例えば、月次レポートの要件を満たすアプリケーションや、予算レポートの要件を満たすアプリケーションを設定できる。

アプリケーション (Application) 組織、勘定科目、データ種別、その他のシステムディメンションのセット。

アプリケーション (Application) 組織、勘定科目、データ種別、およびその他のシステム要素のセット。

アプリケーション基本通貨 (Application currency) 本社のデフォルトのレポート通貨。システムはすべての通貨をアプリケーション基本通貨と関連させて換算する。定義する各アプリケーションに対してアプリケーション基本通貨を選択し、通貨換算のデフォルトを設定する必要がある。「通貨 (Currency)」も参照。

アプリケーションサーバ (Application server) アプリケーションが起動すると実行されるメインのサーバプロセス (ESSSVR)。

アプリケーション設計者 (Application designer) Essbase のアプリケーションとデータベースを設計、作成、管理する担当者。

アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) オペレーティングシステムとアプリケーション間のインターフェイス。このインターフェイスによって、アプリケーションがオペレーティングシステムと通信し、オペレーティングシステムのサービスをアプリケーションに提供する。

アプリケーション要素 (Application element) 勘定科目、データ種別、エンティティ、仕訳、ロジックなどのアプリケーションデータを格納するために作成する項目。

アプリケーション要素レポート (Application Element Report) 指定したセキュリティクラスをどのアプリケーション要素が使用するかを示したセキュリティレポート。

アプリケーション読み込みの最適化 (Application load optimization) アプリケーションに存在する勘定科目、エンティティ、データ種別、レポートの数を指定できるようにする機能。この情報により、システムの読み込みファイルはアプリケーション要素を ASCII テキストファイルから読み込むときのパフォーマンスを最適化できる。

アプリケーションログファイル (Application log file) アプリケーションにユーザが行う操作の記録。

移行 (Migration) Essbase ソフトウェアを新しいリリースに更新するプロセス。

以降のメンバの取得 (Subsequent retrievals) 最初の取得が完了してから同じメンバセットをさらに取得すること。

一覧 (List) 「勘定科目一覧 (Account list)」、「エンティティ一覧 (Entity list)」を参照。

一括計算 (Batch calculator) Essbase 一括計算を使用したデータベースの連結および計算。

一括読み込み (Batch load) ESSCMD スクリプトとルールファイルを使用して一度にデータベースにデータを読み込む。

インタラクティブモード (Interactive mode) ESSCMD を使用する方法の 1 つ。コマンド行でコマンドを入力する。Essbase では必要に応じて入力を求めるメッセージが表示される。

インテリジェント計算 (Intelligent calculation) 前回の計算以降、どのデータブロックが更新されたかを追跡する計算方式。

インデックスエントリ (Index entry) 低密度ディメンションの交点のポインタ。各インデックスエントリはディスク上のブロックを示し、オフセットを使用してブロック内の特定のセルを見つける。

インデックス (Index) Essbase データを低密度ディメンションに基づいて取得する方法。インデックスファイルを指す場合もある。

インデックス (Index) 基準となる期間からの比率変更を保存している表。保存された値は、固定資産モジュール (FAM) の再評価プロセスを使用して原価調整などの関連トランザクションを生成する場合に使用される。

インデックスキャッシュ (Index cache) インデックスページを格納するメモリのバッファ。

インデックスファイル (Index file) Essbase でデータ検索情報の保存に使用されるファイル。ディスクに常駐し、インデックスページを格納する。

インデックスページ (Index page) インデックスファイルの区画。データブロックを示すエントリを格納する。

売上請求書 (Sales invoice) SLI で入力されるドキュメントトランザクション。資産の勘定科目に影響する場合は、固定資産モジュール (FAM) の SLI から処分トランザクションが生成され、総勘定元帳の勘定科目の定義に従ってこのイベントが処理される。

影響ありステータス (IMPACTED status) エンティティに集計されたデータが変化したことを示す連結ステータス。

エイリアス (Alias) ディメンションまたはメンバの別名。

エイリアステーブル (Alias table) データベースのエイリアス名を格納しているテーブル。

エクスポート (Export) コピーされてテキストファイルに配置されるデータ。

エラー (Error) 転送や処理に失敗したり、パッケージが送信されない場合に発生する。

エラーログ (Error log) Hyperion Enterprise XA に関連するエラーメッセージとアクティビティをすべて記録したログ。

演算子 (Operator) 「単項演算子 (Unary operator)」を参照。

エンティティ (Entity) 組織内のレポート単位。エンティティは、子会社、部門、工場、製品など、任意のレポート単位を表すことができる。

エンティティ (Entity) 部門、子会社、工場、地域、製品、またはその他の財務レポート単位を表すことができる組織単位。

エンティティ一覧 (Entity list) 同時に使用するエンティティをグループにしたもの。事業データを送信するエンティティ一覧、調整データを送信するエンティティ一覧、または保護解除のエンティティ一覧などのように定義できる。

エンティティ一覧 (Entity list) レポートやデータ入力表の定義で使用したり、データの抽出などのデータベース機能のために、ユーザがグループ分けしたアプリケーションのエンティティのサブセット。

エンティティ属性 (Entity attribute) エンティティに条件を付ける項目の1つ。通貨、チャートロジック、セキュリティクラス、下位構造、コード、単位などがある。

エンティティの親子関係 (Entity ownership) 組織内の子エンティティと親エンティティとの間の関係を定義する情報。エンティティの親子関係は、連結比率、出資比率、支配比率、連結ロジック、換算ロジックから成る。

エンティティ変換表 (Entity conversion table) 「変換表 (Conversion table)」を参照。

エージェント (Agent) アプリケーションやデータベースの開始と終了、ユーザの接続管理、ユーザアクセスのセキュリティ処理などを行うサーバのプロセス。ESSBASE.EXE と呼ばれる。

エージェントログファイル (Agent log file) エージェントが行う操作の記録。

オフピーク時 (Off-peak hours) 夜間など、データベースがあまり使用されない時間帯。

オブジェクト (Object) アプリケーションまたはデータベースに関連するファイル。オブジェクトには、アウトライン、ルールファイル、計算スクリプト、レポートスクリプト、データソースなどがある。これらはサーバのアプリケーションまたはデータベースのサブディレクトリ内か、クライアントコンピュータに保存される。

オペレータキー (Operator key) データ入力をすばやく容易にする機能を実行するキーボードキー。

オペレーティングシステム (Operating systems) コンピュータを動作させるシステムソフトウェア。Windows、Windows NT、Unix などがある。

親 (Parent) 下位に連結分岐を持つメンバ。

親エンティティ (Parent entity) 組織の他のエンティティを所有するエンティティ。「エンティティ (Entity)」も参照。

親が未定義のエンティティ (Unowned entity) どの組織にも含まれていないエンティティ。例えば、「CORP」という組織からエンティティ「USWEST」を削除した場合、「USWEST」が他のどの組織にも所属していないと、親が未定義のエンティティになる。親が未定義のエンティティになると、そのエンティティに関連したすべてのデータはシステムで維持される。

親の仕訳帳 (Parent journal) 組織内のノードに転記される仕訳帳入力。

親の調整 (Parent adjustments) 組織内のノードに転記される仕訳帳入力。

オンラインヘルプ (Online help) 手順を説明するオンラインナビゲーションのヘルプシステム。印刷版のドキュメントもある。

下位構造 (Substructure) あるエンティティの下にサブエンティティの集まりを作成できるようにするエンティティ属性。下位構造は、最下位エンティティにのみ割り当てることができる。下位構造の選択は、アプリケーションで以前に定義したすべての下位構造の一覧から行う。

開始期間 (Start period) データ種別のデータの保存を開始する期間。通常、開始期間は会計年度の最初の期間であるが、会計年度内の任意の期間を使用できる。また、開始期間はデータ種別の期間単位によっても異なる。

開始年 (Start year) データ種別の最初の期間の年。2 年以上のデータを保存するデータ種別の場合、データが開始する年を入力する。開始年は 4 桁で入力する必要がある。

会社間子表 (Intercompany dependent table) 直接的な子および間接的な子も含め、組織内の任意の親の会社間エンティティをすべて表示する表。この表には、連結比率、出資比率、支配比率、連結ロジックなど、各会社間の子の連結に関する情報が表示される。

会社間サブ勘定科目表 (Intercompany subaccount table) 会社間の残高詳細を保存するために使用する表。会社間サブ勘定科目表には、アプリケーションの会社間エンティティと同じ ID を持つ勘定科目が含まれる。

会社間消去 (Intercompany elimination) 勘定科目を照合して、組織の連結済み合計から会社間トランザクションをすべて消去する処理。

会社間照合 (Intercompany matching) アプリケーション内の会社間勘定科目のペアについてその残高を比較する処理。

会社間照合グループ (Intercompany matching group) 連結中に照合および消去される勘定科目を指定するために定義する会社間勘定科目のペア。

会社間照合レポート (Intercompany Matching report) 会社間勘定科目のペアの残高を比較し、ペアの残高が一致しているかしていないかを示すレポート。通常、会社間売掛金は会社間買掛金に対して照合、つまり比較される。システムはこれらの照合勘定科目を使用して、組織の連結済み合計から会社間トランザクションをすべて消去する。「調整勘定 (Plug account)」も参照。

回収期間 (Recovery period) 資産が減価償却する全期間。現在減価償却している期間は当期回収期間である。

階層 (Hierarchy) 一連のマルチディメンション関係。ツリー構成のアウトラインで作成される場合が多い。階層の例として、親、子、世代 2、世代 3 などがある。

開発者用ツールキット (Developer's toolkit) Hyperion Enterprise と相互作用するプログラムを開発して、既存の Hyperion Enterprise アプリケーションをカスタマイズするためのツール。この製品により、Hyperion Enterprise の API への高レベルのアクセスが可能になる。Hyperion Enterprise API を使用して、アプリケーションの要素、勘定科目残高、所有者データ、仕訳帳詳細などにアクセスできる。

格納なし (Non-store) アクティブなデータベースに格納されないデータ値。

カスタム関数 (Custom function) 独自の計算式関数を作成できるようにするユーザ定義のマクロ。カスタム関数は、1 つまたは複数のロジックで何回も繰り返し使われる論理式がある場合に便利。

加速原価回収法 (ACRS : Accelerated cost recovery set) 1981 年に米国で制定された制度で、所得をもたらす有形固定資産の使用に許可される所得税の控除について取り決めている。ACRS は、1981 ~ 1986 年に取得された長期有形固定資産に適用され、資産クラスと回収期間の決定に資産の取得原価を使用する。

加速償却法 (Accelerated method) 資産の取得原価が耐用年数の終了時より開始時に速く償却される減価償却法。

換算の詳細 (Translation detail) エンティティの換算結果を保存する連結の詳細のコンポーネント。

換算ロジック (Translation method) データの連結時に通貨換算を実行するロジック。換算ロジックには、連結時にエンティティの通貨を換算する方法を決定する計算式の集まりが含まれる。「ロジック (Method)」も参照。

勘定科目 (Account) アプリケーションの各エンティティやデータ種別の財務データを保存する、勘定科目表の要素。

勘定科目 (Accounts) エンティティ、データ種別、および期間におけるデータの場所。

勘定科目一覧 (Account list) [データ入力]、[データベース]、および [レポート] の各ウィンドウで使用するためにユーザが作成する勘定科目のグループ分け。

勘定科目グループ (Account group) 勘定科目表内の類似した勘定科目のグループ。勘定科目グループを定義すると、勘定科目を定義してグループに追加できる。デフォルト属性を定義して勘定科目グループに割り当てることもできる。

勘定科目属性 (Account attribute) システムで勘定科目の値を処理する方法を決定する情報。勘定科目属性は勘定科目に固有で、勘定科目を勘定科目表の他の場所に移動するときに勘定科目に適用される。

勘定科目ディメンション (Accounts dimension) 会計インテリジェンスを使用可能にするディメンション。1つのディメンションにのみ勘定科目のタグを付けることができる。勘定科目ディメンションが必ず必要わけではない。

勘定科目番号 (Account numbers) BaanERPにおいて通常の勘定科目 (12 文字) と最大 5 つのディメンション (1つのディメンションにつき 6 文字) で構成される番号。ディメンションはユーザが定義する。

勘定科目表 (Chart of accounts) データの読み込みや入力、仕訳帳の調整、データの連結、レポートの作成や実行に使われる勘定科目をすべて含むマスターリスト。Hyperion Enterprise では、各アプリケーションにある全組織の全勘定科目を 1 つの勘定科目表で定義する。勘定科目表には、アプリケーション内の全勘定科目の ID、説明、属性が含まれている。

勘定科目変換表 (Account conversion table) 外部勘定科目と、それに対応する Hyperion Enterprise の勘定科目への論理マッピングの一覧。勘定科目変換表では、外部ソースと Hyperion Enterprise との間に、一対一、一対複数、または複数対一の関係を確立できる。

勘定科目を無効にする (Account disabled) 管理者がユーザ ID を無効にできるオプション。

関数 (Function) 値または値の範囲を返したり、計算式の実行を制御するあらかじめ定義されたルーチン。Essbase では、算術、インデックス、財務、マクロ、ブールなどのカテゴリで多数の関数を使用できる。

関数 (Function) 特定の勘定科目の値の検索や特定の計算の実行をシステムに指示するキーワード。例えば、平均関数は、指定された勘定科目の当期の値と前期の値の平均を求めるようにシステムに指示する。

完全データブロック (Full data block) データブロックの各データセルで発生する計算。

感嘆符 (Bang character) 文字 (!)。一連のレポートコマンドを終了してデータベースから情報を要求する。レポートスクリプトは感嘆符で終了する必要がある。1つのスクリプト内に複数の感嘆符を使用できる。

管理 (Maintenance) 資産の管理に関連付けられた経費を保存する金額フィールド。このフィールドは、勘定科目の定義に従って買掛金 (ACP) または総勘定元帳 (GLD) のトランザクションから更新される。

管理者 (Administrator) ユーザアカウントやセキュリティを設定して、Essbase システムのインストールと管理を行う担当者。「データベース管理者 (Database administrator)」と「システム管理者 (System administrator)」も参照。

期間 (Period) 連動時系列メンバの定義に使用されるキーワード。特定の期間を示す (半年など)。

期間 (Period) データ種別内の時間の間隔。

期間 (Period) Hyperion Enterprise XA のデータの範囲を指定する開始期間と終了期間。

期間 (Periods) データ種別内の時間セグメント。

期間およびデータ種別ごとの親子関係 (Ownership by period and category) 「連動組織 (Dynamic organizations)」を参照。

期間終了 (Period end) 選択した会社の会計期間を終了して増分し、指定した履歴保持ルールに基づいて履歴を消去するイベント。年度末に期間終了を実行すると、履歴の年度末データが消去され、減価償却累計がゼロにリセットされる。

期間単位 (Frequency) 日次、週次、月次など、データ種別がデータを追跡する時間の間隔。

期間累計レポート (Period-to-date reporting) データを期間でまとめてレポートするプロセス (四半期累計 6 月など)。

企業予算 (Corporate budget) 企業オフィスによって調整され管理される予算情報。

季節 (Season) 連動時系列メンバの定義に使用されるキーワード。夏、秋、冬、春などの季節を示す。

期別替 (Rollovers) 期別替元データ種別から期別替先データ種別に情報を移動し、期別替元データ種別のデータをクリアするための処理。期別替が実行されると、送り側データ種別と送り先データ種別の開始日が増分される。

期別値ロジック (PVA : Periodic value method) 期別の換算レート値をある期間を通して適用し、換算結果を算出するための通貨換算の処理。

基本要素 (Basic element) Hyperion Enterprise アプリケーションの構造を構築するために定義する部分。アプリケーションの基本要素には、データ種別、期別替、コード、通貨、エンティティ、勘定科目、勘定科目表、換算表、勘定科目一覧、エンティティ一覧などがある。

キューブ (Cube) データのマルチディメンション配列。データベースと同義。

兄弟 (Sibling) 別の子メンバと同じ分岐レベルにある子メンバ。例えば、Sample Basic データベースでは East と West は兄弟である。

共有メンバ (Shared member) 同じ名前の別のメンバと記憶領域を共有するメンバ。このメンバには「共有」という属性がある。共有メンバは、アウトラインの複数の場所に含まれるメンバに対し Essbase で不要な計算が実行されるのを防ぐ。

共有領域 (Shared region) パーティション。

記録 (History) 1999、2000、2001、2002 など、時間ディメンションの時間の値をすべて含む連動時系列メンバを定義するために使用されるキーワード。

記録の消去 (History purge) 会社の資産の履歴データを消去する方法。

金融会社 (Financial company) 独自の原価と利益に責任を持つ組織。会計単位である必要はなく組織単位でもよい。

行の非表示 (Suppress rows) 値のない行、またはゼロ値および下線を含んでいる行をスプレッドシートレポートから除外するオプション。

行見出し (Row heading) レポートページにそれぞれの行名でメンバを一覧表示するレポート見出し。行はディメンション名の下にインデントされる。

クエリ (Query) ワークシートに並ぶディメンション ID。Hyperion Solutions 製品のアプリケーションからデータを取得するために使用される。

クライアント (Client) LAN でサーバに接続しているワークステーション。

クライアントログファイル (Client log file) クライアントで生成されるメッセージ、操作、エラーなどをすべて記録する ASCII ファイル。

繰延税金 (Deferred tax) 将来支払うべき所得税。既に取得しているが、まだ税金申告で認められていない収入から予測する。実際の責任や当面の義務ではなく、税金申告や財務報告で特定の収入および支出項目が認識される際の時間的差異を補正するためのものである。

クリーンタグ (Clean tag) ブロックに現在計算中であることを示すマーカを付けるインデックスタグ。

クリーンブロック (Clean blocks) 前回の計算以降、変更されていないデータセルのあるデータブロック。

計算式 (Formula) ロジック内の勘定科目、更新ルール、カスタム関数に割り当てられる関数、演算子、条件式を含む論理式。

計算式 (Formula) Hyperion Solutions 製品のアプリケーションからデータを取得して計算するために使用する関数やパラメータ。

計算式関数 (Formula function) 「関数 (Function)」を参照。

計算式の保持 (Preserve formulas) 新しいデータを取得する間、ユーザがスプレッドシート内で作成した計算式を保持するプロセス。

計算式保持 (Formula preservation) 「計算式の保持 (Preserve formulas)」を参照。

計算なし (Noncalculated) 一括計算中に計算されないデータブロック。

経常テンプレート (Recurring template) すべての期間に同一の調整を加えることができる機能。各期間ごとに通常仕訳帳を作成して同一の調整を転記する代わりに、その調整を含む経常テンプレートを 1 つ作成できる。期間を開くと、システムは経常テンプレートを使って通常仕訳帳を自動的に作成する。この仕訳帳は、ただちに転記することも、編集してから転記することもできる。

結合 (Merge) データ読み込みファイルで指定された勘定科目の既存の値のみをクリアし、それをファイルにある値で置換するデータ読み込みオプション。[置換] オプションとは異なり、[結合] オプションがクリアするのは読み込みファイルで指定された勘定科目の値のみである。「累計 (Accumulate)」、「置換 (Replace)」も参照。

検証 (Validate) パーティションをチェックして、正しく定義するための条件がすべて満たされているかどうかを確認するプロセス。

検証 (Validation) ルールファイルをアウトラインと比較して有効性を確認するプロセス。

検証 (Validation) レポートサイトで抽出または保護された事業データを制御するために本社が設定するルール。検証は受信したデータが正確であることを確認するために使用される。本社はデータの送信前に検証を適用しない。

減価償却費 (Depreciation expense) 収入を確定する際に、耐用年数にわたる資産の原価長期配賦に基づいて、収益から控除される金額。

減価償却法 (Depreciation method) 資産に適用する減価償却法によって、資産に生じる減価償却の金額を計算する式が決定する。減価償却法では大文字と小文字が区別される。

減価償却累計額 (Accumulated depreciation) 資産の取得後に認識され記録された減価償却の合計。資産の取得原価から減価償却累計額を減算して純帳簿価額を算出する。

子 (Child) 「子エンティティ (Dependent entity)」を参照。

子 (Child) データベース アウトラインで上位に親を持つメンバ。子は、データベースアウトラインの同じレベルにピア (兄弟) を持つ場合もある。

更新されたセルを設定 (Put updated cells) PUTUPDATEDCELLS。複製ソースとして使用される選択したデータベース内の変更されたセルを更新する ESSCMD。

更新変数 (Update variable) UPDATEVARIABLE。現在設定されている変数を更新する ESSCMD。

更新ルール (Update rule) 値を他のエンティティの勘定科目に配賦するときに使用される計算式のラベルを定義する関数。更新ルールは連結ロジックでのみ使用される。

高度解釈モード (Advanced interpretation mode) Essbase Spreadsheet アドインのオプション。ズーム操作、[Retrieval Wizard (取得ウィザード)] の操作、またはシートへのデータ入力によって、スプレッドシートのレイアウトを定義できる。自由形式のレポートを高度解釈モードで構成すると、Essbase でメンバ名が解釈され、メンバ名ラベルの位置に基づいてデフォルトのビューが作成される。

高密度ディメンション (Dense dimension) ディメンションの可能な組み合わせのうち、1 つ以上のデータポイントを占める可能性の高いディメンション。

子エンティティ (Dependent entity) 組織内の他のエンティティに所有されるエンティティ。

固定一覧 (Fixed list) 個別に選択された勘定科目やエンティティを含む静的な一覧。この一覧は、勘定科目やエンティティの追加または削除を手動で行わない限り変化しない。

子のレート勘定科目 (Child rate accounts) グローバル勘定グループの勘定科目ではないレート勘定科目を使って通貨換算できるようにするオプション。このオプションを選択すると、システムは子の非グローバル勘定科目のレートを使って連結を実行する。

コマンド (Command) レポートスクリプトや ESSCMD ウィンドウで使用される構文。

コミット行 (Commit row) 確定トランザクションのたびにディスクにコミットされるデータ行の数。

コミットされたアクセス (Committed access) Storage Manager 分離レベルの設定。Essbase のトランザクション処理方法に影響する。コミットされたアクセスでは、同時トランザクションが書き込み保護を長期間維持し、予測可能な結果を生じる。

コミットされた分離レベル (Committed isolation level) トランザクションがディスクにコミットされる時期を決定するデータベース設定。

コミットされていない分離レベル (Uncommitted isolation level) Storage Manager 分離レベルの設定。Essbase のトランザクション処理方法に影響する。コミットされていない分離レベルでは、同時トランザクションは、他の同時トランザクションが行われる際に短時間書き込みが保護され、予測不可能な結果を生じる。

コミットブロック (Commit blocks) 確定トランザクションのたびにディスクにコミットされるデータブロックの数。

コメント (計算式内) (Comment (in formulas)) 作成する計算式に関する情報をシステム管理者やユーザに提供する英数字の文字列。

コード (Code) 勘定科目、エンティティ、ロジック、仕訳帳などの要素をアプリケーションでグループ分けするために、これらの要素に割り当てるラベル。コードは、レポート用ツールとして使用したり、エンティティや勘定科目などのアプリケーション要素をエンティティ一覧や勘定科目一覧でフィルタするために使用できる。

最下位エンティティ (Base entity) 他のエンティティを所有しない、組織構造内の最下位にあるエンティティ。

再構築 (Restructure) データベースインデックスやデータファイルを再生成または再構築する操作。

最小データベースアクセス (Minimum database access) アプリケーションのすべてのデータベースに対するデフォルトのセキュリティを制御するオプショングループ。このグループはアクセス設定（読み取り、なしなど）をアプリケーション全体に適用する。アプリケーション内でデータベースに接続しているすべてのユーザは最小限のアクセスレベルを持っているが、個々のユーザはより高いレベルの権限を持つ場合がある。

最新 (Latest) Essbase Spreadsheet アドインまたは Report Writer 内で使用されるキーワード。最新の期間として定義されているメンバに基づいてデータ値を抽出する。

最上位エンティティ (Top entity) 親を持たないエンティティ。各組織には、最上位エンティティと呼ばれる、親を持たない親エンティティが 1 つある。エンティティはすべて、最上位エンティティに集計される。

最上位仕訳帳 (Top-level journal) 「親の仕訳帳 (Parent journal)」を参照。

最大メッセージ数 (Maximum message count) メッセージサーバでバッファ可能なメッセージの数。

再評価 (Revaluation) 固定資産の現行価値を市場相場に更新する。BaanERP では、固定資産をインデックスに基づいて再評価するか、手動で金額を入力する。

サブエンティティ (Subentity) 最下位エンティティに添付されているエンティティのテンプレート。詳細の定義と保存に使用される。

サブ勘定科目 (Subaccount) 詳細な情報を含んでいる勘定科目。主要勘定科目に添付される。サブ勘定科目の属性によって、サブ勘定科目の値の処理方法が決まる。

サブ勘定科目の共用記号 (Shared subaccount signatures) アプリケーションで同じラベルを持つすべてのサブ勘定科目に同じ内部識別子を使用できるオプション。このオプションを使用しない場合、既に存在するサブ勘定科目ラベルが新しいサブ勘定科目のラベルと一致するかどうかに関わらず、アプリケーション内に作成する各サブ勘定科目は一意の内部識別子を持つ。

サブ勘定科目表 (Subaccount table) アプリケーション内の主要勘定科目に付属できる詳細勘定科目の表。

サブセット (Subset) データの交点。サブセットにより、特定の条件を満たすメンバをさらに詳細に定義する。

サブデータ種別 (Subcategory) データ種別内の資産がさらに分類されたもの。各データ種別に、1 つまたは複数のサブデータ種別を入力できる。

算術演算子 (Mathematical operators) 「単項演算子 (Unary operators)」を参照。

算術データ読み込み (Arithmetic data load) 各値に 10 を追加するなど、データベースの値に演算を実行するデータ読み込み。

サードパーティツール (Third-party tools) Essbase のフロントエンドアプリケーション。

サーバ (Server) ディメンションメンバの交差に基づいてデータ値の検索とアクセスを行う大容量、マルチユーザのデータベースサーバ。エージェントとアプリケーションを格納している。

サーバアプリケーション (Server application) 「サーバ (Server)」を参照。

サーバ障害 (Server interruption) クラッシュ、停電、Ctrl+C キー操作、エラーなどでサーバが停止すること。

財務計算関数 (Financial functions) 2 つの列または行の値の比率など、財務データの取得と計算を行う関数。

残存価額 (Salvage value) 固定資産が耐用期間の終了時に処分されるときに回収される見積金額。

残高勘定科目 (Balance account) ある特定の時点における未指定値を保存する勘定科目種別。

市価保険金額 (Sum insured for fair market value) 資産に掛けられている市価保険金額。

資産 (Asset) 不動産、工場、装置など、組織が実際に使用しているもの。

資産買い取り (Asset acquisition) 資産を認知するプロセス。資産は、請求、支払い、受け取りが完了した時点で買い取られる。買い取られた資産は減価償却できる。買い取られた資産は既に資産計上されている。

資産勘定科目 (Asset account) 会社の資産を表した値を保存する勘定科目種別。

資産グループ (Asset group) 資産データ種別より広範囲のレベルのグループ。組織の資産を分類してレポートや照会に使用する。

資産計上 (Asset capitalization) 使用中であり減価償却に該当する資産を特定する方法。資産を計上するには、まず買い取る必要がある。

資産償却 (Asset depreciation) 使用中の資産の経費や原価を長期にわたって回収する制度。減価償却を使用すると、減価償却法として定義される数式を使用して、経費と収益を照合するか、または課税額を減額できる。資産は、資産または資産パッケージレベルで減価償却できる。資産償却中に、BaanERP では資産分布で示した勘定科目に従って指定した資産または資産パッケージを減価償却する。資産償却はパッケージまたは資産ごとに実行される。大量の減価償却は資産グループまたは資産パッケージのパッケージまたは会社で生じるが、単一の減価償却は一度に1つの資産または資産パッケージで生じる。

資産償却限度 (ADR : Asset depreciation range) 米国 IRS で制定された減価償却規定。1971 ~ 1980 年に取得された資産に適用される。ADR は、1971 年より前に取得された資産、ACRS または MACRS に従って償却可能な 1980 年より後に取得された資産、または ADR 選挙が行われなかった年度に取得された資産には適用されない。ADR は、資産に適用される相互排他的な規定の1つである。主な特徴として、米国 IRS が資産の寿命に上限と加減を設定したことが挙げられる。選挙年度に最初に使用された減価償却期間は、資産の残りの使用期間中、米国 IRS によっても納税者によっても変更できない。

資産処分 (Asset disposal) 資産に関連するパッケージに保管されている値を削除するトランザクション。処分された資産は、指定した保存期間まで固定資産モジュール (FAM : Fixed Assets module) に保持されるが、減価償却はしない。資産に対して記録できる資産処分には、売却、贈与などいくつかの種類がある。レポートへの影響は処分の種類によって異なる。

資産譲渡 (Asset transfer) 資産の所有者、場所、責任などが変更された結果、関連するパッケージに保存されている値の一部または全部に適用されるトランザクション。

資産タイプ (Property type) 米国税金の減価償却の法的要件に関する固定資産の分類。

資産調整 (Asset adjustment) 資産が資産計上され、直接変更できない資産価値を変更する処理。調整は通常、事務上の誤りを訂正する場合や、資産の寿命、減価償却法、原価などを再分類する場合に使用される。資産は、資産計上から処分または削除されない限り、ライフサイクルのどの時点でも調整できる。

資産トランザクション (Asset transaction) 資産のイベント、関連するパッケージ、分布などを記録するために生成されるレコード。調整、計上、減価償却、処分、および譲渡される資産のトランザクションが保存される。

資産の寿命 (Asset life) 資産の予想耐用年数。資産の減価償却に要する期間を決定する。

資産番号と資産拡張 (Asset number and asset extension) 資産番号と資産拡張により、選択した会社の資産の一意の識別子を作成する。

資産パッケージ (Asset book) 資産に関連付けられているパッケージ。資産データを記録するため、少なくとも1つのパッケージがデフォルトで設定されている必要がある。関係をデフォルトで設定する類似した資産パッケージでは、共通のパッケージセットを使用できる。パッケージを使用して、組織の資産の減価償却やその他のトランザクションデータを記録する。作成するパッケージごとに、パッケージに関連付けられている資産が減価償却するかどうかを指定する。資産を複数のパッケージに関連付けて、パッケージごとに異なる減価償却を指定したり、減価償却しないように指定することもできる。

資産分布 (Asset distribution) 資産分布は、特定の会社や経費勘定の減価償却費と、それらに関連するディメンションを示す。分布には、関連する場所、統合スキームまたはトランザクションデータ入力表における勘定科目、および分布線の数量または比率原価も格納される。

資産分布 (Asset distribution) 資産分布は分布線で構成される。特定の会社や経費勘定の減価償却費と、それらに関連するディメンションを示す。分布には、関連する場所、統合スキームまたはトランザクションデータ入力表における勘定科目、および分布線の数量または比率原価も格納される。

システム管理者 (System administrator) ハードウェア、ソフトウェア、ディスク領域の分配、実行中の Essbase ソフトウェアの設定などを管理する担当者。

子孫 (Descendant) 親の下位にあるメンバ。

子孫に展開 (Expand to descendants) Essbase Application Manager のオプション。ディメンションのすべてのメンバを展開して表示する。

支配比率 (Percent control) エンティティが組織内で支配される程度。支配比率を使って、連動組織での連結ロジックの割り当てを決定できる。

四半期 (Quarter) 四半期を示す連動時系列メンバを定義するために使用されるキーワード。

シフト係数 (Shift factor) 通常スケジュールされている勤務時間外に資産が使用される割合。シフト係数の値を 1 より小さく設定することはできない。

週 (Week) 週を示す連動時系列メンバを定義するために使用されるキーワード。

収益勘定科目 (Income account) 値が正の場合に純資産を増加させる期別値と累計値を保存する勘定科目種別。

集計 (Roll-up) 「連結 (Consolidate)」を参照。

集計 (Roll-up) 「組織 (Organization)」を参照。

修正加速原価回収法 (Modified accelerated cost recovery system) 加速原価回収法 (ACRS) ガイドラインの改訂版。減価償却可能な資産を、選択した減価償却方法に応じた回収期間に分類する。

集約値 (Aggregated values) 東日本の総売上高など、メンバの連結を表すデータ値。「連結 (Consolidation)」も参照。

取得ウィザード (Retrieval Wizard) Essbase Spreadsheet アドインのウィザードツール。レポートを容易に設計できる。

取得ソートバッファ (Retrieval sort buffer) Essbase Spreadsheet アドインまたは Report Writer によって使用されるバッファ。データをソートする。

取得バッファ (Retrieval buffer) Essbase Spreadsheet アドインまたは Report Writer によって使用されるバッファ。取得中の各データ抽出の大きさを決定する。大きいバッファであれば、一度にデータセット全体を抽出できる。

主要勘定科目 (Major account) 入力値や、ロジックを使用して算出された値を保存できる勘定科目。

照会 (Inquiry) 固定資産モジュール (FAM) で情報を表示する主要な方式。

昇格 (Promotion) メンバをアウトラインの 1 レベル上に移動するプロセス。

償却可能原価 (Depreciable cost) 資産の原価から残存価額と減価償却累計額を減算した値。

償却頻度 (Depreciation frequency) 減価償却が記録される頻度を決定する方法。特定の期間が保留になるかどうかとも決定する。

商業用パッケージ (Commercial book) 総勘定元帳データなど、税金報告規定に制約されないデータを記録するために米国以外の国で使用されるパッケージ。

詳細記憶モデル (DSM : Detailed storage model) 「連結の詳細 (Consolidation detail)」を参照。

詳細メンバ (Detail member) 「リーフメンバ (Leaf member)」を参照。

詳細レベルデータ (Detail-level data) レベルゼロ (0) のデータなど、データベースのメンバとディメンションの詳しい情報。

書式設定コマンド (Formatting command) Report Writer のコマンド。レポートの書式と外観のカスタマイズ、新しい列の作成、および列と行の計算を行う。これらのコマンドは、通常、中かっこ ({}) で囲まれているが、一部のコマンドは小なり記号 (<) で開始される。「メンバ指定レポートコマンド (Member-specific report command)」も参照。

所有率 (Shares) アプリケーションのエンティティ間の親子関係を示す単位または比率。

処理リソース (Processing resources) Essbase のタスクを処理できる利用可能なサーバ。

仕訳帳 (Journal) 1 つのデータ種別および期間の勘定科目の残高に対して加えられる借方／貸方の調整の集まり。仕訳帳は、勘定科目の値の変化を記録し、それらの変化の監査証跡を維持するために使用される。

仕訳帳入力 (Journal entry) トランザクションやイベントの詳細を会計システムに入力するための媒体。

仕訳帳の番号付け (Journal numbering) 仕訳帳入力に自動的に番号を付ける処理を有効にするオプション。アプリケーションの作成時に「仕訳帳に自動的に番号を付ける」オプションを選択すると、「データ種別」ウィンドウの「仕訳帳の番号付け」オプションを使って、現在のデータ種別で仕訳帳に番号を付ける方法を設定できる。このオプションを使用しない場合は、仕訳帳の ID のみがアプリケーション内の仕訳帳の識別子となる。

仕訳帳の保護 (Journal lock) この期間の現在の名前に転記された仕訳帳。いったん名前に仕訳帳を転記すると、別の仕訳帳を転記しなければ名前のデータを変更できない。

仕訳帳読み込みログ (Journal load log) 読み込まれた仕訳帳のステータスの表示に使用する。

信頼性 (Reliability) 週 7 日、1 日 24 時間、Essbase を使用できること。

時間ディメンション (Time dimension) データを収集して更新する頻度を定義するディメンションタイプ。1 つのディメンションにのみ時間のタグを付けることができる。時間ディメンションが必ず必要なわけではない。

事業データ (Operational data) 通常、レポートサイトから本社に、または他のレポートサイトに送信される入力データと調整データ。事業データはサイトの階層構造で上下どちらにも送信することができ、仕訳帳を添えることができる。

時系列インテリジェンス (Time series intelligence) 時間ディメンションメンバを使用して、連動計算される期間累計レポートと分析を作成する機能。

時系列レポート (Time series reporting) 年、四半期、月、週など、日付のカレンダーに基づいてデータをレポートするプロセス。

事前イメージアクセス (Pre-image access) データが新しくコミットされるのを待たずに前のデータ値を表示する機能。

事前計算 (Precalculation) ユーザが取得する前にデータベースを計算するプロセス。

自動逆仕訳仕訳帳 (Auto-reversing journal) 次の期間で逆仕訳する調整を入力するために使われる機能。自動逆仕訳仕訳帳は、2 つの期間のデータに影響を与える。つまり、まず自動逆仕訳仕訳帳を転記して 1 つの期間の値を調整する。その次の期間を開くと、システムによってそれらの調整を逆仕訳する仕訳帳が自動的に作成され、転記される。

自動再計算 (Auto recalculate) 「データベース」ウィンドウに値を入力するたびにすべてのデータを再計算できるオプション。

ジャンプポイント (Jump point) あるデータベースのデータ値から別のデータベースの対応する場所までドリルアクロスするポイント。

柔軟なレポート作成機能 (Flexible reporting options) ユーザ定義の属性、パターン照合、AND/OR 制約ロジックなどに基づいてデータをレポートする機能。

純帳簿価額 (Net book value) 資産の関連パッケージに格納されている現行原価から減価償却累計額を減算して算出される資産の価値。減価償却を算出して更新するか、原価または減価償却累計額を調整すると、各資産に関連するパッケージの純帳簿価額が変わる。パッケージの種類が連邦税の場合は、この計算結果から Section 179 の値も減算される。

自由形式のデータ読み込み (Free-form data loading) データベースにデータを読み込む方法。自由形式のデータ読み込みは、データソースに十分な情報があり、データベースに直接読み込む場合に使用される。例えば、Essbase で使用されるデフォルトの順序でデータが配置されている場合、ディメンション、メンバまたはエイリアス名が必要な場合、Essbase で検出するメンバ名に従ってデータが読み取られる場合などに自由形式の読み込みを使用する。

自由形式モード (Free-form mode) Essbase Spreadsheet アドインのオプション。スプレッドシートにレポートスクリプトのコマンドを入力できる。

自由形式レポート (Free-form reporting) 高度解釈モードと自由形式モードで使用可能なオプション。スプレッドシートにメンバ名またはレポートスクリプトのコマンドを入力してレポートを作成できる。

上位ブロック (Upper-level block) 低密度メンバの少なくとも 1 つが親レベルのメンバである場合に、低密度メンバの組み合わせ用に作成されたデータブロック。

条件式 (Expression) 条件式は数式の中で使われ、例えば、数字、アプリケーション要素の ID、算術記号、システムにどの値を使うかを指定する関数などがある。関数や他の条件式と区別するために、条件式はかっこ (()) で囲む。

冗長データ (Redundant data) トランザクションの有効期間中、Essbase に保持されるデータの複製。

スクリプトファイル (Script file) ESSCMD を含んでいるテキストファイル (*.SCR 拡張子)。Essbase によりファイルの終わりまで順番に実行される。オペレーティングシステムのコマンド行またはオペレーティングシステムのバッチファイル内からスクリプトファイルを実行できる。

スタイル (Styles) 「ビジュアルキュー (visual cues)」を参照。

ステータスバー (Status bar) 現在作業中のプログラムに関する情報を表示する。

スナップショット (Snapshot) ある時点でのデータのパーティションのコピー。

すべてのセルを設定 (Put all cells) PUTALLCELLS。複製ソースとして使用される選択したデータベース内のすべてのセルを更新する ESSCMD。

スワッピング (Swapping) 「ページング (Paging)」を参照。

スーパーバイザ (Supervisor) 定義済みのユーザタイプの 1 つ。サーバのすべてのアプリケーション、データベース、関連ファイル、およびセキュリティ機能のフルアクセス権を持つ。

ズーム (Zoom) 選択したディメンションに関連する詳細データや要約データを段階的に取得するプロセス。データベースのディメンションをズームインすると、そのディメンションのより詳細なデータが得られる。ズームアウトすると、連結レベルの高い、より全体的な視点が得られる。ズームインは「ドリルダウン」とも呼ばれる。

静的組織 (Static organizations) 連動組織とは対照的な組織。

セキュリティ (Security) Hyperion Enterprise のタスクやアプリケーション要素へのアクセスを制御する機能。セキュリティは、データを保護し、権限のないユーザによるデータの表示、アクセス、変更を防ぐために使われる。セキュリティは特定のタスクやアプリケーション要素に適用できる。

セキュリティクラス (Security class) アプリケーションの設計に基づいて、ジョブの機能、部門、基準ごとに分類された、アクセス可能な項目の集まり。ユーザグループは、アプリケーションのセキュリティクラスに対してさまざまなレベルのアクセス権を持つ。個々のユーザもセキュリティクラスに特定のアクセス権を持つことができ、この権限は、所属するユーザグループのアクセス権に優先する。

セグメント (Segment) ロケーションコンポーネントに使用される用語。

セル (Cell) マルチディメンションデータベースでディメンションの交点を表すデータ単位。また、スプレッドシートの行と列の交点も表す。

セルメモ (Cell note) Essbase データベースのセルに使用する 599 文字までのテキスト注釈。リンクされたレポートオブジェクトの 1 種である。

選択項目のみ削除 (Remove only) Essbase Spreadsheet アドインのコマンドの 1 つ。メンバのグループを指定して、特定のディメンションビューから削除できる。

選択した行のみを保持 (Keep only) Essbase Spreadsheet アドインコマンドの 1 つ。スプレッドシート内でハイライトされている行のみを保持する。

前期のデータ種別 (Prior category) 前期のデータに基づく初期値を使用してデータ種別を定義する場合に、値の計算に使用されるデータ種別。例えば、当年の実際のデータに Actual データ種別を定義し、開始残高を前年のデータの最後の期間の値に基づいて設定する。その場合、前年のデータを含んでいるデータ種別を Actual データ種別の前期のデータ種別として指定できる。

相互接続 (Interconnection) データベース間の接続（つまりドリルアクロス）。

組織 (Organization) 財務レポート構造を定義するために相互にリンクされたレポート上のエンティティの集まり。

祖先 (Ancestor) 下位にメンバを持つ分岐メンバ。
例えば、Sample Basic データベースでは Qtr2 と Year は April の祖先である。

その他のデータ (Other data) グローバル、Hyperion DataExtend、事業、または調整以外のデータタイプが必要なときに設定できるデータタイプ。アプリケーション、組織、エンティティ一覧、エンティティ、勘定科目一覧、期間、読み込みモードの累積や置換、連結などをさらに詳しく限定できる。また、送信先にリンクされていないグローバル勘定科目のデータを本社が送信することも可能にする。

ソース (Source) パーティション分割されたデータモデルでデータを生じた場所。

属性 (Attribute) メンバの特性。

属性レポート (Attribute reporting) データベースアウトラインのメンバの属性に基づいてレポートを定義するプロセス。

待機 (Wait) 新しくコミットされたデータの表示を待機する時間を決定する設定。

貸借一致仕訳帳 (Balanced journal) 借方の合計と貸方の合計が等しい仕訳帳。貸借一致仕訳帳を転記するには、まず仕訳帳内に借方と貸方を等しく入力する必要がある。

貸借不一致仕訳帳 (Unbalanced journal) 一欄式仕訳帳や貸借不一致仕訳帳の入力をユーザが転記できるようにする機能。

対称型マルチプロセッシング (SMP : Symmetric Multiprocessing) 複数のプロセッサが並行して機能できる強力なコンピューティングプロセス。32 ビットのマルチスレッド Essbase OLAP サーバアプリケーションで実現された。

対称レポート (Symmetric report) 同じメンバグループを繰り返すレポート。

タイトルバー (Title bar) 作業中のシステムを示す。

タイムスタンプ (Timestamp) いつデータがコピーまたは変更されたかを特定するためにブロックに配置する時間値。

タグ番号 (Tag number) 資産の識別番号。

多次元分析 (OLAP : Online analytical processing) 連結された企業データをリアルタイムで分析する必要があるユーザを対象にしたマルチディメンション、マルチユーザのクライアントサーバコンピュータ環境。OLAP システムには、ズーム、データピボット、複雑な計算、トレンド分析、モデリングなどの機能がある。

タスクレポート (Task report) 特定のセキュリティクラスにどのタスクを割り当てるかを決定するために使用するセキュリティレポート。

単位 (Scale) [データ入力] ウィンドウと [データベース] ウィンドウでデータを入力または表示するために使用する単位。

単項演算子 (Unary operators) データベースアウトラインで集計を行う方法を定義する算術インジケータ (+、-、*、/、%)。

ターゲット (Target) パーティション分割されたデータのアクセス元の場所。

代替最小税 (AMT : Alternative minimum tax) 納税者の代替最小税 (ATM) を算出するうえで減価償却が調整対象となる償却資産が分類される。これにより、減価償却に関して正規の税法規に従った税務上の利得が軽減される。税務減価償却標準額と AMT 減価償却額の差が AMT 調整額になる。法人および個人の高額納税者が少なくとも最低限の所得税を支払うように、AMT 規則が立案された。基本的には、租税の公平化を目的として、主に高額納税者が利用できる減税に対し再請求するための税回収手段。

代替変数 (Substitution variable) Essbase 固有の値を表すために使用する変数。変数と、対応する文字列の値を Essbase サーバで設定する。その後、計算スクリプト、レポートスクリプト、Essbase Spreadsheet アドイン、Essbase API などに代替変数を適用できる。

段階的な再構成 (Incremental restructuring) データベース全体を一度に再構成するのではなく、必要なときに部分的に再構成すること。

段階的な増加 (Incremental growth) ユーザ要求の増加に応じたアプリケーションとデータベースの増加。

ダーティブロック (Dirty block) 前回の計算以降、変更されているデータセルのあるデータブロック。

チェック勘定 (Account for lock) 「チェック勘定科目 (Locking account)」を参照。

チェック勘定科目 (Locking account) エンティティを保護できるようにするために、ゼロの値を含む必要がある勘定科目。エンティティを保護する前にその貸借を一致させるために使用する。

チェック済サブ勘定科目 (Validated subaccount) サブ勘定科目は、サブ勘定科目のデータが存在する場合にのみデータ入力表に表示される。

置換 (Replace) データ読み込みファイルで指定された期間のすべての勘定科目から既存の値をクリアし、データ読み込みファイルの値を読み込むデータ読み込みオプション。読み込みファイルで勘定科目が指定されていない場合は、指定された期間の勘定科目の値は読み込み中にクリアされる。「累計 (Accumulate)」、「結合 (Merge)」も参照。

中間データブロック (Intermediate data blocks) 上位の値を得るために計算されるブロック。

注釈 (Notations) 説明やコメントなどのテキスト入力項目。

抽出 (Extract) アプリケーションのデータを ASCII ファイルに転送できるようにするデータベースモジュールの機能。データを抽出する場合、データ書式を使って、出力先の ASCII ファイル内にデータをどのような書式で挿入するかを Hyperion Enterprise に指定する。

抽出コマンド (Extraction commands) Report Writer のコマンド。選択、方向、グループ化、順序付け、データベースからの生データ抽出などを処理する。これらのコマンドは小なり記号 (<) で始まる。

調整 (Adjustment) 「仕訳帳 (Journal)」を参照。

調整勘定 (Plug account) システムが会社間勘定科目のペア間の残高差を保存する勘定科目。

調整後当期利益 (ACE : Adjusted current earnings) 調整後当期利益 (ACE) 連邦税パッケージに属する資産の識別子。ACE は、1989 年より後に取得した資産について米国連邦税コードに必要な代替最小税 (AMT) 調整を算出するために行う所得修正である。

調整データ (Adjustment Data) 以前に送った事業データの調整を含む。以前に提出した元の事業データを保存して監査証跡を維持するために事業データから分離される。調整データは通常、本社から送信される。

通貨 (Currency) エンティティが使用する貨幣のタイプを表したエンティティ属性。以前にアプリケーションで定義されたすべての通貨の中から、各エンティティの通貨を 1 つ選択する。「アプリケーション基本通貨 (Application currency)」も参照。

通貨換算 (Currency conversion) Essbase データベースで通貨の値を別の国の通貨に変換する係数。換算には、元のデータが変更される場合と変更されない場合がある。

通貨パーティション (Currency partition) 使用通貨をアプリケーションの基本通貨として指定するディメンションの種類。Actual、Budget、Forecast などの通貨の種類も指定する。

通常仕訳帳 (Regular journal) 単一の期間に一度だけ調整を入力するために使用する機能。通常仕訳帳には、貸借一致、エンティティ単位で貸借一致、または貸借不一致のものがある。

月 (Month) 月を示す生成名の定義に使用されるキーワード。

ツールバー (Toolbar) Essbase の機能を表すアイコンのバー。アイコンは Essbase メニューへのショートカットとして使用される。

ツールバー (Toolbar) Hyperion Solutions 製品でよく使用されるメニュー項目にマウスを使用してすばやくアクセスできる。

定数 (Constant) 負または正の実数。

低密度 (Sparse) Market、Product など、含んでいるデータ値が少ないディメンション。

低密度ディメンション (Sparse dimension) 使用可能なデータ位置にデータを含んでいる比率の低いディメンション。例えば、会社の市場の一部で販売されていない製品。

テキスト関数 (Text functions) ディメンション ID や説明などの英数字テキストを取得する関数。

手続き (Procedural) 行ごとに構文を実行するプロセス。

手続き設定コマンド (Procedural set command) 1 つの計算スクリプトに複数の設定コマンドを適用できるコマンド。

展開 (Expansion) 展開によってワークシート内のディメンション ID から詳細データが表示される。ディメンション ID の横にあるプラス符号 (+) をクリックしてエンティティを展開する。

転送制御プロトコル／インターネットプロトコル (TCP/IP : Transmission Control Protocol/Internet Protocol) 世界中の多くの会社や機関で採用されている通信プロトコルの規格。TCP/IP は、オペレーティングシステムや内部のアーキテクチャが異なるコンピュータを接続する。TCP/IP ユーティリティを使用すると、ファイルの交換、電子メールの送信、LAN や WAN に接続している異種コンピュータへのデータの保存などを行うことができる。

テンプレート (Template) 特定のデータを同じ形式で定期的に取得するために設計された定義済みの画面。

ディスクパーティションサイズ (Disk partition size) ディスクボリュームの設定としてのディスクパーティションのサイズ。パーティション分割のパーティションではない。

ディメンション (Dimension) 情報を格納するもの。

ディメンション (Dimension) Excel ワークシートで視点の情報を表すアイコン。Hyperion Analyst でディメンションアイコンをクリックし、別の ID と関数を選択すると、ワークシートでディメンションを割り当てることができる。

ディメンションアイコン (Dimension Icon) (Excel)

Microsoft Excel ワークシートでディメンション ID を象徴的に表すアイコン。ディメンションアイコンをクリックしてダイアログボックスにアクセスし、ワークシートの視点、列、および行にディメンション ID を選択する。「ディメンション (Dimensions)」も参照。

ディメンション間の無関係 (Interdimensional irrelevance)

ディメンションのメンバが他のディメンションと交差しない場合に生じる状態。

デスクトップ (Desktop) タスクやオプションのすべてにアクセスできる画面。

データ圧縮 (Data compression) データベースに使用される圧縮の種類。圧縮なし、RLE (run-length encoding)、ビットマップなど。

データおよびインデックスのスレッシュホールド (Data/index threshold) Essbase Storage Manager がデータやインデックス情報をディスクにコミットするデータおよびインデックスキャッシュ内のレベル。ユーザの介入なしに内部で決定する。

データ記憶領域 (Data storage) ページやインデックスファイルをディスクに保存する場所の指定。

データキャッシュ (Data cache) データブロックをメモリに格納するバッファ。

データコピー (Data copy) DATACOPY。データベース間でデータブロックをコピーするコマンド。

データ種別 (Category) 予算データ、実績データ、予測データなど、維持できるデータのタイプを区別するカテゴリ。

データ種別 (Category) 資産を分類して資産入力中のデータ入力のデフォルトを指定する方法。データ種別には、デフォルトで割り当てられたサブデータ種別が関連付けられている。

データ種別属性 (Category attribute) データ種別のデータをシステムがどのように表示、処理、組織化するかを決定する設定。データは、期間と期間単位によって組織化される。データ種別属性を使うと、データ種別内の期間数や、データを保存する 1 年の期間数を設定できる。

データソース (Data source) テキストファイル、スプレッドシートファイル、SQL データベースなど、Essbase データベースに読み込まれる外部データ。

データ値 (Data value) 「セル (Cell)」、「メタデータ (Metadata)」を参照。

データなし (Missing data) この場所に関連するデータがないか、意味のある値が含まれていないか、または入力されていないことを示す Essbase のマーカ。ヌル値とよく似ているが、ゼロとは異なる。

データなし (Missing data) データが存在する期間の前後に、データの入力および読み込みが行われなかった期間がある場合、その期間において欠落しているデータ。ある勘定科目が前の期間または将来の期間、あるいはその両方でデータを含んでいるが、現在の期間ではデータを含まない場合に、データなしのステータスが発生する。システムで処理される際、データなしは常にゼロとして扱われる。

データなしステータス (NO DATA status) エンティティまたは勘定科目が 1 つの期間のデータを含んでいないことを示す連結ステータス。

データなしのナビゲート (Navigate without data) Essbase Spreadsheet アドインのオプションの 1 つ。データの取得をオフにできる。この機能は、データベースに「連動計算 (保存なし)」メンバと「連動計算および保存」メンバが含まれている場合に役立つ。

データ入力表 (Schedule) 特定のレポート上のエンティティとデータ種別に対する勘定科目と期間の表。データ入力表を使ってデータの表示と入力ができる。各データ入力表には、1 つまたは 2 つの勘定科目一覧を含めることができる。

データのクリア (Clear data) CLEARDATABLOCKS。データベースからデータを削除して連動計算のマークを付け、ブロックを未計算として保存するコマンド。

データの視点 (Point of View) アプリケーションを開始するときどのデータにアクセスするかを指定するために定義するディメンションのセット。

データの視点バー (Point of view bar) 現在のセッションのデフォルトのディメンションを表示する。

データの無いシートの非表示 (Suppress missing sheets) データ値が含まれていないレポートをスキップする設定。

データの読み込み (Load data) 「データ読み込み (Data load)」を参照。

データ表示形式 (Data view) [データベース] ウィンドウと [データ入力] ウィンドウのデフォルトの表示形式を決定するデータ種別設定。期別表示またはデータ種別累計表示のどちらかを指定できる。

データファイル (Data file) データブロックを含んでいるファイル。Essbase ではデータを読み込むときにファイルが生成され、ディスク ESS<m>.PASS に保存される。

データブロック (Data block) データベース表の連続するセル。データブロックには、1 つまたは複数の隣接する列または行にあるセルを含めることができる。

データベース (Database) Essbase 内のデータのリポジトリ。マルチディメンションのデータ記憶配列が含まれている。各データベースは、記憶領域構造の定義 (データベースアウトライン)、データ、およびセキュリティ定義で構成される。データベースに計算スクリプトが含まれている場合もある。アプリケーションには 1 つ以上のデータベースが含まれている。

データベース管理者 (Database administrator) Essbase データベースを管理する担当者。データベースの設計、保守、および作成を行う場合もある。

データベース再構築 (Database restructuring) データベースアウトラインの変更を反映するためにデータブロックを再構築するプロセス。

データベース設計者 (Database designer) データベースごとにグローバルに使用できる最高レベルのアクセス。このタイプのアクセスでは、計算と更新に関する完全なアクセスとレポートや計算スクリプトを実行できる。

データベース設定 (Database settings) データベースの実行方法を決定する一連の設定。

データベースフィルタ層 (Database filter layer) Essbase セキュリティ計画の層。データベースメンバの特定の設定をセルレベルまで定義する。

データポイント (Data point) 「セル (Cell)」を参照。

データモデル (Data model) 特定の組織のビジネスニーズによって決まるキューブの構成。

データ読み込み (Data load) Essbase データベースにデータを入力するプロセス。データ読み込みによって、データベースの構造アウトラインで定義したセルの実際の値が設定される。

データ読み込みルール (Data load rules) 外部データソースファイルのデータを読み込むときに Essbase がデータに行う一連の処理。

データレスナビゲーション (Dataless navigation) Essbase メタデータを使用してスプレッドシートのレポートを作成する機能。レポートの行と列がデータ値含まずに抽出される。最終的なレポートを取得するにはデータレスナビゲーションをオフにする。

投資 (Investment) 固定資産モジュール (FAM) 外で生じるトランザクション。新しい資産または調整トランザクションを作成する。

投資税額控除 (ITC : Investment tax credit) 納税者の連邦所得課税額に対する控除または減額は、当年中に買い取り、取得した適格機械および装置の原価に対し指定された比率に相当する。

投資税額控除 (ITC : Investment tax credit) 投資による経済の活性化を目的として米国税法で規定されている刺激策。適格な資産を購入した場合に比率に基づく税額控除を認めている。

特殊パッケージ (Special book) 米国以外の国のパッケージの種類。特定の減価償却方法 (カスタムまたは過剰の減価償却) を転記できる。商業または法定減価償却を補足する。

年 (Year) 年を示す連動時系列メンバを定義するために使用されるキーワード。

トップダウン (Top-down) アウトラインの最上位メンバから最下位メンバへ順番に行う計算。または、部門／組織のキューブを分離するために、連結モデルからコピーまたは移動したデータ。

トランザクション (Transaction) データベースに実行して、その状態を変化させる操作の集まり。

トランスペアレント (Transparent) データモデルを介して表示されるが、そのモデルに保存されていないデータ。データは、アクティブなモデルにマッピングされているモデルに保存されている。

トランスペアレントアクセス (Transparent access) 「トランスペアレントパーティション (Transparent partition)」を参照。

トランスペアレントパーティション (Transparent partition) 共有パーティションの一形態。リモートデータにトランスペアレントにアクセスして、ローカルデータベースの一部のように操作できる。リモートデータは、ユーザが要求するたびにデータソースから取得される。データの更新はデータソースに書き込まれるので、データターゲットユーザとデータソースユーザの両方が即座にアクセスできるようになる。

トランスペアレントプラン (Transparent plan) ターゲットデータベースでトランスペアレントに表示されるデータ領域を決定するプラン。

ドリルアクロス (Drill across) 「相互接続 (Interconnection)」を参照。

ドリルダウン (Drill down) 詳細なデータに段階的に移動するプロセス。例えば、Market から US、East、New York の順に移動する。「ズーム (Zoom)」も参照。

名前 (Name) 「エンティティ (Entity)」を参照。

名前付きパイプ (Named pipes) 特定のノード間アプリケーション、特に通信サーバとデータベースサーバへのアクセスに Macintosh LAN マネージャで使用するアプリケーションプログラミングインターフェイス。

入力データ (Input data) データソースから読み込まれるデータ。データベースの計算によって生成されるデータではない。

入力ブロック (Input block) データブロックの一種。読み込まれたデータ値が少なくとも1つある。

入力ロジック (Chart method) アプリケーションでデータを計算するために使用する計算式のグループ。チャートロジックには、デフォルトチャートロジックと特殊チャートロジックの2種類がある。デフォルトチャートロジックは、システム全体で使用される一般的な計算式を定義する。特殊チャートロジックは、デフォルトチャートロジックの計算式に対する例外を定義する。「ロジック (Method)」も参照。

ヌルフィールド (Null fields) 空または値が欠落しているデータ行内のフィールド。

ネストされた列見出し (Nested column headings) 複数のディメンションが含まれている列見出し。例えば、Sample Basic データベースでは、Year ディメンションと Scenario ディメンションの両方を含む列見出し。

ノード (Node) エンティティ対親の関係。

配賦先勘定科目 (Destination account) すべての計算式において、等号の後に指定された計算式の値を含む勘定科目。例えば、次のロジックの行では勘定科目 A (#ACCOUNTA) が配賦先勘定科目になる。
#ACCOUNTA=#ACCOUNTB+#ACCOUNTC

配列ベースの式計算 (Array-based formula calculator) データのセルを配列に分類して処理する計算機能。大きいブロックを計算する場合に便利である。

半月規則 (Midmonth convention) 資産を取得した月と資産を処分する月（回収期間が終了する前に処分される場合）は、半月分の減価償却が適用されるという規則コード。住居賃貸不動産、住居を除く不動産、鉄道の等級付け、鉄道トンネルなどに適用される。米国税法で使用される。

場所 (Location) 資産の物理的なサイトを定義する。最大8つのセグメントから成り、それぞれが資産の正確なサイトを定義している。

バッチファイル (Batch file) 複数の ESSCMD スクリプトを呼び出して複数の ESSCMD セッションを実行するオペレーティングシステムファイル (.BAT 拡張子)。バッチファイルは、バッチデータの読み込みや複雑な計算を処理し、レポートスクリプトを実行するコマンドを含めることができる。サーバ上のバッチファイルをオペレーティングシステムのプロンプトから実行できる。

バージョン 2.x モード (Version 2.x mode) 「自由形式モード (Free-form mode)」を参照。

パスワード管理 (Password management) Essbase Application Manager 内のセクション。管理者がユーザ ID とパスワードを管理できる。

パスワード処理 (Password handling) Essbase アプリケーションにパスワードを設定するプロセス。

パスワードの確認 (Confirm password) 入力したパスワードが正しいことを確認するために再入力するプロセス。

パスワードの変更 (Change password) パスワードの変更プロセス。

パターン照合 (Pattern match) 文字列のパターンに基づいて値を照合するプロセス。

パターン照合 (Pattern matching) 実際の値の代わりに疑問符 (?) やアスタリスク (*) などのワイルドカード値を代入する機能。

パターン照合マクロ (Pattern match macro) 主に計算スクリプトで使用されるマクロ。マクロは疑問符 (?) および末尾のアスタリスク (*) をサポートしている。

パッケージ (Book) 類似したレポートのグループを格納するコンテナ。パッケージでディメンションのセクションや変更を指定できる。

パッケージ (Book) 同時に実行してレポート生成を自動化する関連レポートのグループ。

パッケージ (Book) 資産のインスタンス。パッケージは資産に関連付けられ、資産の値を取得するように設計される。レポート作成や計算の要件に応じて、各資産に多数のパッケージが関連付けられている場合もある。計算、財務など、パッケージを特定の種類に定義すると、特定の計算専用のパッケージになる。

パッケージウィンドウ (Book window) パッケージを作成して管理する場所。

パッケージコード (Book code) 資産に関連付けられたパッケージを示すコード。パッケージコードを使用して、資産のトランザクションデータを記録するパッケージを定義できる。各資産に、少なくとも 1 つの資産／パッケージ関係が必要である。

パッケージセット (Book set) 達成するタスクによって関連付けられたパッケージのグループ。例えば、月末に実行しなければならないすべてのパッケージを含むパッケージセットを作成できる。

パッケージセット (Book set) 便宜上、結合したパッケージのグループ。例えば、月末のすべてのパッケージを含むパッケージセットを作成できる。

パーティション分割 (Partitioning) データモデル間で共有またはリンクされるデータ領域を定義するプロセス。パーティション分割は Essbase アプリケーションのパフォーマンスとスケーラビリティに影響を及ぼす場合がある。

パーティション領域 (Partition area) データベース内のサブキューブ。パーティションは 1 つ以上の領域で構成される。これらの領域は、データベースの特定部分のセルで構成される。複製されたトランスペアレントなパーティションの場合、ソースパーティションとターゲットパーティションが同じ形状であるように、パーティション分割された領域内のセルの数がデータソースとデータターゲットで同じでなければならない。例えば、データソース領域に 18 のセルが含まれている場合、データターゲット領域にも 18 のセルが含まれている必要がある。

日 (Day) 日を示す連動時系列メンバを定義するために使用されるキーワード。

非アクティブ化 (Deactivate) Essbase ユーザをロックアウトするプロセス。

非アクティブステータス (INACTIVE status) このエンティティは現在の期間ではアクティブでないことを示す連結ステータス。このステータスは、データ種別と期間ごとに組織が異なるアプリケーションでのみ表示される。

非アクティブユーザ (Inactive user) Essbase にログインできないユーザ。

引数 (Argument) Hyperion Enterprise のアプリケーションとアプリケーション要素（エンティティやデータ種別など）を計算式内で識別する文字列。引数は計算式の関数の後に続き、コンマ (,) で区切ってかっこ (()) で囲む。引数は、勘定科目の ID などのテキストや、セル参照から成る。

非対称レポート (Asymmetric report) 少なくとも 1 つのメンバが異なるネストされたメンバのグループを特徴とするレポート。メンバの数や名前が異なる。

標準産業分類コード (Standard industrial classification code) 米国の課税に使用される標準産業分類コード。

標準テンプレート (Standard templates) 各期間について共通の調整情報を持つ調整を転記するために使用される仕訳帳の機能。毎月、新しい通常仕訳帳を作成する代わりに、共通の勘定科目 ID、エンティティ ID、または値を含む標準テンプレートを作成できる。標準テンプレートは、類似した調整情報を含む通常仕訳帳の基礎として利用できる。

費用勘定科目 (Expense account) 値が正の場合に純資産を減少させる期別値と累計値を保存する勘定科目種別。

ビジュアルキュー (Visual cues) 特定のタイプのデータ値を強調するためにフォントや色などの書式設定したスタイル。データ値には、ディメンションメンバ、親、子、共有メンバ、計算式を含む連動計算メンバ、読み取り専用のデータセル、読み取りと書き込みが可能なデータセル、リンクされたオブジェクトなどがある。

ビュー (View) 「データビュー (Data view)」を参照。

[表示形式] メニュー (View menu) ツールバー、データの視点バー、ステータスバーなどを表示または非表示にするとときに使用する。ビンテージまたはグループ勘定科目 (Vintage or group account) 資産償却限度 (ADR) および修正加速原価回収法 (MACRS) グループ減価償却の対象となる資産の米国税控除の関連付けと最大化に使用する勘定科目。1999 年より後に取得された MACRS 資産には MACRS グループ勘定科目を作成し、1990 年より前に取得された資産には ADR ビンテージ勘定科目を作成できる。ビンテージまたはグループ勘定科目はグループとして減価償却され、勘定科目に属さない資産とは異なる処分ルールが適用される。

ピボット (Pivot) 取得したデータの視点を変える機能。Essbase では最初にディメンションを取得するとき、ディメンションが行に展開される。ユーザはデータをピボット (再配置) して別の視点で表示できる。

ファイル (Files) 1 つ以上のファイルを含んでいるパッケージ。ファイルは送信する前に閉じる必要がある。

ファイル一覧 (File list) 同時に送信するファイルのグループを定義するためにユーザが作成するテキストファイル。

ファイルの区切り文字 (File delimiter) データソース内のフィールドを区切る文字。

フィルタ (Filter) データベースのセルへのアクセスを制御する方法。フィルタは最も詳細なレベルのセキュリティで、データベース管理者はさまざまなアクセスレベルを定義して、データベースの値にユーザがアクセスできるかどうかを個別に設定できる。

フィールド (Field) Essbase データベースに読み込まれるデータソースファイル内の値や項目。

復元 (Restore) データベースが損傷したり破壊された場合にデータや構成情報を再読み込みする操作。通常はデータベースをシャットダウンして再起動した後で実行する。

複合レポート (Compound report) 一緒に表示する複数のレポートを入れるコンテナ。

複製 (Replication) データをソースからターゲットにコピーするプロセス。

複製パーティション (Replicated partition) パーティションの一形態。あるサイトで行われたデータの更新を、別のサイトに格納したデータのコピーに反映させることができる。ローカルキューブの一部として設計されたデータであるかのように、データにアクセスできる。

複製プラン (Replication plan) ソースデータベースからターゲットデータベースに複製するデータの領域を決定するプラン。

負債勘定科目 (Liability account) 会社の負債を表す「ある時点での」値を保存する勘定科目種別。

フッター (Footer) レポートの各ページの下部に表示されるテキスト。

フラットディメンション (Flat dimension) 同じレベルに多数のメンバを持つディメンション。5000 メンバを持つ製品ディメンションなど。

フラットディメンションの最適化 (Flat dimension optimization) 計算機能の 1 つ。計算のパフォーマンスを最適化するために非常にフラットなディメンションのどのメンバに値があるかを追跡する。

フロー勘定科目 (Flow account) 期別値と累計値を保存する未指定の勘定科目種別。

物理パーティション (Physical partitions) さまざまな場所に物理的に保存されるデータ。

ブロック (Block) Essbase 内の主要な記憶単位。データブロックはマルチディメンション配列で、すべての高密度ディメンションのセルを表す。

ブロックのクリア (Clear block) CLEARBLOCK。データブロックを削除するコマンド。

分割償還 (Amortization) 一定期間にわたって勘定科目残高などの金額を体系的に減額したり帳簿から抹消すること。減価償却の一形態である。分割償還は、営業権その他の無形資産を含む特定の資本支出を回収する手段である。分割償還は、経常事業控除を請求できる支出や、資産勘定に計上され減価償却された支出には適用できない。

分散 OLAP (Distributed OLAP) 分散多次元分析。Essbase の異なるキューブや複数のコンピュータ間のデータ統合を円滑にするアーキテクチャ。

分散アーキテクチャ (Distributed architecture) 複数のコンピュータ (ネットワーク接続されている場合が多い) の複数のデータベースを含むアプリケーション設計。

分散リソース (Distributed resources) Essbase のタスクやデータ記憶領域を複数のサーバやネットワーク間で分散すること。

分配勘定科目 (Distribution account) 資産を 1 つの分配勘定科目に割り当てるか、複数の分配勘定科目間で分配できる。資産の減価償却は各分配勘定科目に比率または単価ごとに記録される。各分布線に指定されたトランザクションデータ入力表または統合スキームによって、分配勘定科目が特定される。

分布線 (Distribution line) トランザクションデータ入力表または統合スキーム。資産の特定部分の分配勘定科目、資産の物理的な場所、および指定の場所と分配勘定科目に分配する資産の数量または比率を決定する。減価償却費を記録する会社も含まれる。

分離レベル (Isolation level) Storage Manager の設定の 1 つ。データベース操作のトランザクション動作を決定する。選択肢には、コミットされたアクセスとコミットされていないアクセスがある。

プレビューウィンドウ (Preview window) レポートを印刷する前にプレビューできる場所。

平均化規則 (Averaging convention) 資産の回収期間の開始と終了を決定するために MACRS、ACRS、および ADR で使用される規則。回収期間によって、資産の使用開始年と使用終了年の減価償却 (および関連する課税控除) が決定する。

並行取得 (Concurrent retrievals) 同時に生じる取得。

ヘッダー (Header) レポートの各ページの一番上に表示されるテキスト。

ヘッダーレコード (Header record) データソースの一番上にあるレコード。データソースの内容を説明する。

変換表 (Conversion table) 総勘定元帳システムなどの他のシステムに属する外部勘定科目または外部エンティティの ID と、それに相当する Hyperion Enterprise の勘定科目またはエンティティの ID を含む一覧。変換表は、データの読み込み時および抽出時に [データベース] ウィンドウで使う。外部 ID と内部の Hyperion Enterprise ID を照合することによって、Hyperion Enterprise との間でデータの読み込みや抽出を行う場合に、そのデータをどこに保存するかをシステムに指定する。「勘定科目変換表 (Account conversion table)」も参照。

変更ありステータス (CHANGED status) エンティティのデータが変化したことを示す連結ステータス。

変更ログ (Change log) 「アウトライン変更ログ (Outline change log)」を参照。

米国財務パッケージ (Financial - U.S. book) 総勘定元帳データなど、税金報告規定に制約されないデータを記録するために使用されるパッケージ。

米国その他の税パッケージ (Other tax - U.S. book) 州税や保険引替交付など、連邦税以外の税金報告規定に制約されるデータを記録するために使用されるパッケージ。

米国連邦税パッケージ (Federal tax - U.S. book) 米国 IRS の税金報告規定の対象となるデータを記録するパッケージ。IRS では、調整後当期利益や代替最小税など、さまざまな状況で使用される減価償却法を規定している。代替最小税 (AMT) や調整後当期利益 (ACE) の税金報告用のデータをパッケージに記録するかどうかを指定できる。3 つの異なる連邦税パッケージ (標準、ACE、または AMT) を定義できる。これらは別個のパッケージであるため、そのうち 1 つ、2 つ、または全部を同じ資産と減価償却に個別に関連付けることができる。

別名 (Alternate name) 「エイリアス (Alias)」を参照。

ページファイル (Page file) 「データファイル (Data file)」を参照。

ページ見出し (Page heading) レポートの現在のページに表示されているメンバを一覧表示するレポート見出しの一種。ページ内のすべてのデータ値はページ見出しにメンバを含んでいる。

ページング (Paging) インデックスまたはデータキャッシュがいっぱいになると、特定のキャッシュバッファの内容がページングされるか、またはディスクに書き込まれる。これは、インデックスページやデータブロックの追加に備えて領域を開放するために行われる。

法定パッケージ (Statutory book) 米国以外の国の課税パッケージ。計算、商業用、および特殊パッケージの税金申告に使用する減価償却のレポートを作成できる。

保険金額 (Sum insured) 資産に掛けられている保険金額。

保護 (Lock) 2つのトランザクションが同時に同じデータセットを変更するのを防ぐ手段。データブロックの保護は Essbase の Storage Manager が処理する。パーティションの作成時に、パーティション定義ファイルを保護して、作業中に他のユーザがその内容を編集するのを防ぐこともできる。

保護解除 (Unlock) 保護されたデータへのアクセスを可能にするために、本社がレポートサイトに送信するパッケージ。

保護済みステータス (LOCKED status) 指定期間が保護されているデータがこのエンティティに含まれることを示す連結ステータス。

保留 (Hold) 受信したパッケージをすぐに処理しないでおくこと。保留されているパッケージは、アクティビティログで待機中と表示される。

保留期間 (Suspended periods) 特定の期間、資産の減価償却を停止するプロセス。

ポーリング間隔 (Polling interval) メッセージサーバからメッセージをフェッチするのに必要な時間。

マクロ (Macro) 計算スクリプトで使用されるコマンドのグループ。

マップ (Map) データパーティション間やメンバ間の関連付け。

マルチスレッド (Multithreading) 複数のユーザが互いに干渉せずに同じアプリケーションで作業できるクライアント/サーバプロセス。

マルチディメンション (Multidimensional) 3つ以上のディメンションからデータを参照する方法。個々のレコードはディメンションのセットの交点を表す。

右マウスボタン (Right mouse button) 機能やレポートが並ぶメニューに即座にアクセスできる。

見積減価償却 (Projected depreciation) 減価償却費を記録せずに将来の資産の減価償却を計算するための計算式。

無効のユーザ名 (Disabled user name) アクティブでないユーザ名。このユーザはサーバにログオンできない。ユーザ名は、サーバ設定のパスワード管理オプションでスーパーバイザが指定した制限を超えると、自動的に無効になる。スーパーバイザはいつでもユーザ名を無効にできる。

メインウィンドウ (Main window) Hyperion Solutions 製品のすべてのタスクを開始するウィンドウ。

メタ時刻の設定 (Set meta time) SETMETATIME。ローカルターゲットサイトの現在の*.ddb ファイルで時刻にマークを付けて、ソースサイトの時刻をリセットする ESSCMD。

メタデータ (Metadata) データベース内でデータ値を表すデータ。ディメンション名やメンバ名など。

メタデータ (Meta data) Hyperion Enterprise XA のメタデータには、アプリケーション、ロジック、セキュリティ、株式、レポート、パッケージ、データ入力表、および ACE ロジックが含まれる。

メタ変更の除去 (Purge meta change)

PURGEMETACHANGE。複製された情報、リンクされた情報、またはトランスペアレントな情報を、選択したデータベースから削除する ESSCMD。

メニューバー (Menu bar) さまざまなタスクを実行するためのメニューが表示されている。

メンバ (Member) ディメンション内の個々のコンポーネント。例えば、Sample Basic データベースでは、Year、Profit、および Diet がメンバである。メンバはディメンションにも指定できる。例えば、Year はメンバであると同時にディメンションである。

メンバ指定レポートコマンド (Member-specific report commands) Report Writer の書式設定コマンドの一種。レポートスクリプトに含まれている位置で実行される。このコマンドは、関連付けられているメンバのみに影響する。書式設定コマンドは、メンバが処理される前に実行される。「書式設定コマンド (Formatting command)」も参照。

メンバ選択 (Member selection) Essbase Spreadsheet アドインの機能の 1 つ。UDA、パターン照合、AND/OR などの選択条件を使用してメンバのサブセットを指定できる。

メンバ選択レポートコマンド (Member selection report command) Report Writer コマンドの一種。兄弟、世代、レベルなどのデータベースアウトラインの関係に基づいてメンバの範囲を選択する。

メンバ名とエイリアスの両方を使用 (Use both member name and alias) メンバ名とそのエイリアスの両方を表示する。

メンバラベルの繰り返し (Repeat member labels) 行ディメンションのメンバ名の繰り返し。

持株会社 (Holding company) 親エンティティに割り当てることができるエンティティ。持株会社は、グループの同レベルのエンティティの株式を所有する。グループの親は持株会社と、グループの他のエンティティの連結データを保管する。持株会社は、計算ルーチンを実行できる参照点として機能する。

元帳勘定 (Ledger account) 実際および予算の会計データの記録先となるコード値。固定資産モジュール (FAM) では、資産のトランザクションは、各資産分布線に示されたトランザクションデータ入力表または統合スキームに基づいて、指定されたパッケージの元帳勘定に転記される。

有効日 (Effective date) 資産の寿命中にトランザクションが生じる時点。トランザクションの有効日は、使用開始日から資産に関連するすべてのパッケージで完全に処分される日までの任意の点。

ユニバーサル命名規則 (UNC : Universal naming convention)

Hyperion Enterprise の [アプリケーションの追加] ダイアログボックス、[読込] ダイアログボックス、[抽出] ダイアログボックスで使用されるシステム書式のこと。ネットワークサーバとサーバ上の共有ポイントを識別する。UNC のパスでは、ネットワークドライブを表す文字を参照せずにネットワークデバイスへの論理接続が可能である。UNC に基づいて付けられた名前は 2 つの円記号で始まり、その後にサーバ名が続く。

ユーザ (User) Hyperion Enterprise、そのタスク、およびアプリケーションの要素へのアクセス権を決定するプロファイル。

ユーザ ID (User ID) Enterprise XA の有効なユーザ ID。

ユーザ ID (User ID) Hyperion Solutions 製品にログオンするために使用するユーザ名。

ユーザ ID (User ID) Essbase ユーザがシステムにログオンするときに使用する ID。

ユーザインターフェイス (User interface) ソフトウェアインターフェイス。ソフトウェアの機能に関する選択肢がある。

ユーザグループ (User group) 類似したセキュリティ要件を持つユーザのセット。ユーザグループには、セキュリティクラスに関するアクセス権を割り当てる。ユーザグループのメンバには、個々のユーザと他のユーザグループがある。ユーザは少なくとも 1 つのユーザグループに所属する必要がある。

ユーザ定義属性 (UDA : User-defined attribute) 計算スクリプトとレポート内で、特定の特性を持つメンバー一覧を返すときに使用するロジック。データベースアウトラインであらかじめ定義されているデータ値のサブセットについてレポートできる。

ユーザ定義属性マクロ (User-defined attribute macro) 主に計算スクリプトで使用されるマクロ。

読み込み (Load) ASCII ファイルのデータをアプリケーションに読み込む処理。データを読み込む場合、データ書式を使って、外部システムのデータをどのように解釈するかを Hyperion Enterprise に指示する。

ラベル (Label) 「ID」を参照。

リサイクル (Recycling) 以前に割り当てたパスワードを割り当てるプロセス。

リモート (Remote) 同じオフィスや他の場所にある別のサーバに格納されているデータやデータベースへのネットワークを介したアクセス。

理由コード (Reason code) トランザクションの種類に基づいて、トランザクションに添付されるユーザ定義の説明。理由コードは照会やレポートを生成するデータを選択するのに役立つ。

領域 (Area) メンバと、パーティションを構成する値の、あらかじめ定義されているセット。

領域の確認 (Verify regions) VERIFYREGIONS。パーティションの定義を検証する ESSCMD。

リンク (Linked) セルから別のデータベースのセル、セル注釈、別のファイルなどへの接続ポイントまたはジャンプポイント。

リンクコマンド (Link command) <LINK。AND/OR 関係を定義するレポートスクリプトで使用されるコマンドまたはマクロ。

リンクされたアクセス (Linked access) 「リンクされたパーティション (Linked partition)」を参照。

リンクされたオブジェクト (Linked object) リンクされたパーティションとリンクされたレポートオブジェクトを含む用語。

リンクされたパーティション (Linked partition) データセルを使用して2つの異なるデータベースをリンクする共有パーティションの一形態。例えば、ユーザがスプレッドシートでリンクされたセルをクリックすると、Essbase では2番目のデータベースにドリルアクロスし、新しいシートが開いて、そのデータベースのディメンションが表示される。その後、ユーザは2番目のデータベースで使用可能なディメンションにドリルダウンできる。

リンクされたプラン (Linked plan) どのデータセルがデータベース間をリンクするかを決めるプラン。

リンクされたレポートオブジェクト (LRO : Linked reporting object) Essbase データベースのデータセルにリンクしている外部ファイル。LRO には、テキスト、オーディオ、ビデオ、ピクチャなどを含んでいるセル注釈やファイルがある。

リーフノード (Leaf node) 「リーフメンバ (Leaf member)」を参照。

リーフメンバ (Leaf member) 子を持たないメンバ。「詳細メンバ」、「レベルゼロ (0) メンバ」、「リーフノードメンバ」とも呼ばれる。

累計 (Accumulate) データ読み込みファイルの値をアプリケーション内の既存の値に追加するデータ読み込みオプション。「結合 (Merge)」、「置換 (Replace)」も参照。

ルートメンバ (Root member) 分岐の最上位メンバ。「リードメンバ」と比較する。

レコード (Record) 並んだフィールド。データソースから単位として読み取られる。

レジストリ (Registry) Windows 2000 または XP オペレーティングシステムで使用されるデータベース。設定情報を保持する。Windows アプリケーションの大半はインストール中にデータをレジストリに書き込む。ソフトウェアプログラムを正しく機能させるには、新しくインストールしたファイルをレジストリに登録しなければならない場合もある。

列 (Column) フィールドの縦の欄。

列見出し (Column headings) レポート内でページに横にメンバを並べる部分。複数のディメンションのデータをレポートするには、ネストした列見出しを使用できる。列内のすべてのデータ値に、列見出しに表示されているメンバが含まれる。

レベル (Level) 各ディメンション内の分岐。レベルはリーフメンバ (レベル0) からルートへ1ずつ増える番号が付けられる。

レベル作成 (Level build) アウトライン作成プロセス。ファイルをレベル別に下位から上位の順に処理する。

レベルゼロブロック (Level zero block) 低密度メンバのすべてがレベルゼロメンバである場合に低密度メンバの組み合わせ用に作成されたデータブロック。

レベルゼロメンバ (Level zero member) 「リーフメンバ (Leaf member)」を参照。

レベル名 (Level name) レベルを説明する一意の名前。

レポート (Report) スプレッドシートに類似したデータの表示方法。グリッドの列と行にディメンションを割り当ててレポートを作成する。標準と複合の2種類のレポートを作成できる。

レポート (Report) レポートスクリプトの実行後にデータベースから返される書式付きのサマリ情報。レポートスクリプトから1つまたは複数のレポートを生成できる。

レポート (Reports) Hyperion Solutions 製品のアプリケーションからデータを取得して計算し、その表示方法を指定する。

レポートウィンドウ (Report windows) レポートを作成して管理する場所。

レポートスクリプト (Report script) Report Writer のコマンドを含んでいる ASCII ファイル。1 つまたは複数の作成レポートを生成する。レポートスクリプトは、ESSCMD コマンド行インターフェイスまたは Essbase Application Manager を使用して連続モードで実行できる。スクリプトは、データ取得、書式、出力などの命令を含んでいるテキストファイルである。

レポートセット (Report set) 達成するタスクによって関連付けられたレポートのグループ。例えば、月末に実行しなければならないすべてのレポートを含むレポートセットを作成できる。

レポートセット (Report set) 便宜上、1 つにまとめておくレポートのグループ。例えば、すべての予測レポートを含むレポートセットなどを作成できる。

連結 (Consolidation) ディメンション内の親と子のあらゆる組み合わせのデータ関係を計算する方法。通常、連結は付加的であるが、任意のタイプを使用できる。例えば、ディメンション Year がメンバ Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 で構成される場合、その連結は Year である。「集約」と「集計」も連結プロセスを表す。

連結 (Consolidation) 子エンティティからデータを収集し、それを親エンティティに集計する処理。子エンティティにデータを入力するか読み込んだ後、連結を実行してそのデータを組織内で集計する。データの連結では、連結ロジックと換算ロジックを使ってデータが計算される。

連結詳細 (Consolidation detail) 子エンティティのデータを親エンティティに連結した結果生じる値。換算、比率、消去、親の調整、調整後の詳細がある。この詳細を保存すると、それぞれの子の詳細監査証跡が個別に提供される。「親の仕訳帳 (Parent journal)」、「親の調整 (Parent adjustments)」、「換算の詳細 (Translation detail)」も参照。

連結比率 (Percent consolidation) 親に連結されるエンティティの値の比率。

連結ロジック (Consolidation method) 連結中に子のデータが親エンティティに集計されるときに実行される計算式から成るロジック。連結ロジックは、蓄積、消去、再分類などの処理を定義するために使われる。システムによってデフォルトの連結ロジック CONSOL が生成され、これによって連結の計算式を入力できるようになる。

連続処理モード (Batch processing mode) ESSCMD を使用する方法の 1 つ。サーバの定期メンテナンスと診断タスクを自動化するバッチファイルやスクリプトファイルで記述できる。スクリプトファイルやバッチファイルを作成して、コマンド行か ESSCMDM または ESSCMDW アイコンから実行できる。

連動 (Dynamic) データ取得と同時にメンバを計算する方法。

連動一覧 (Dynamic list) 内容がフィルタ基準の集まりによって決定される勘定科目一覧またはエンティティ一覧。勘定科目とエンティティの属性が変化すると、連動一覧の内容も変化する。

連動計算 (Dynamic calculation) 「連動計算および保存」または「連動計算 (保存なし)」とタグ付けされているメンバに関するデータを取得するときに発生する計算。メンバの値は、一括計算中にあらかじめ計算されるのではなく、取得時に計算される。

連動計算 (保存なし) メンバ (Dynamic calc (non-store members)) 取得時に Essbase で自動的に計算されるメンバ。取得が完了すると、計算値は破棄される。

連動計算および保存メンバ (Dynamic calc and store members) 取得時に Essbase で自動的に計算されるメンバ。その後これらの値はデータベースに保存される。「連動計算および保存」メンバをこれ以降に取得する際は計算が不要になる。

連動参照 (Dynamic reference) データソース内のヘッダーレコードへのポインタ。

連動時系列 (Dynamic time series) 連動時系列の期間累計レポートを有効にする関数。

連動時系列メンバ (Dynamic time series members) 連動時系列レポートを作成するために Essbase で使用されるメンバ。

連動組織 (Dynamic organizations) アプリケーションの各データ種別と期間に対してユーザが一意的組織構造を作成できるようにするアプリケーションの設定オプション。

連動表示勘定科目 (Dynamic view account) 現在の表示形式と期間単位に基づいて計算される勘定科目。連動表示勘定科目は、入力ロジック内で比率を算出するために使われ、常にアプリケーションのすべてのデータ種別に適用される。

レート勘定科目 (Rate account) 勘定科目表の主要勘定科目。各通貨の為替レートを保存する。[通貨] ウィンドウで通貨を定義すると、「通貨」という名前のサブ勘定科目表が自動的に作成され更新される。作成する各レート勘定科目にこのサブ勘定科目表を添付する。

ログファイル (Log file) 操作やコマンドを記録する Essbase ファイル。アプリケーションログファイルは、ユーザがそのアプリケーションに行った操作を記録する。クライアントログファイルは、クライアントのメッセージ、操作、エラーなどを記録する。エージェントログファイルは、サーバのエージェントプロセスが行った操作を記録する。アウトライン変更ログファイルは、Essbase のデータベースアウトラインに行われた変更内容を記録する。

ロジック (Logic) 勘定科目値の計算方法をシステムに指示する一連のルール。ロジックはアプリケーションのセットアップ時に定義する。アプリケーションの変更時に、変更内容を反映するようにロジックを編集できる。

ロジック (Method) アプリケーションでデータを計算するために使われる計算式のグループ。ロジックの定義では、ロジックの設計、作成、エラーチェックを行う。ロジックの作成、チェック、編集には、[ロジック] ウィンドウを使用する。ロジックはエンティティに割り当てられる。「換算ロジック (Translation method)」も参照。

論理パーティション (Logical partition) 論理的にグループ化され、特定の方法で定義されているデータ。

ローカル (Local) ローカルサーバにあるデータやデータベース。

ローカル見出し (Local headings) レポート内の他のディメンション設定に基づいて個々のディメンションの説明の代わりに表示される。

ロールバックポイント (Rollback point) トランザクションがコミットされているかどうかを決定するブレークポイント。

ワークブック (Workbook) 多数のシートのあるスプレッドシートファイル全体。

レポートウィザード (Report wizard) Hyperion Enterprise Reporting 内で動的なアドホッククエリを作成するために使用するグラフィックツール。

索引

記号

, 36, 115, 133, 310, 335, 340, 341, 342, 357, 372
 CDAVAL 関数, 286
 Hyperion Analyst, 253
 Hyperion Analyst での使用, 253
 Hyperion Analyst ワークシート, 258
 Hyperion Retrieve for Reporting アドインファイル, 282
 Hyperion Retrieve for Reporting の使用, 281
 アドインファイルのアンロード, 282
 アドインファイルのロード, 282
 関数への値の変換, 266
 クエリの終了, 261
 ワークシート, 266
 ワークシートの保存, 284
 ワークシートをクエリとして保存, 261

A - Z

A24 フィールド, 100
 ABS 関数, 179
 ACC キーワード, 93
 ACODE 関数, 180
 ALT 関数, 182
 AMCODE 関数, 182
 Analyst, 「Hyperion Analyst」を参照, 281
 Analyst.ini ファイル, 266, 267
 ANC 関数, 182, 183
 APD 関数, 183
 APN 関数, 184
 ApplicationName As String 関数, 357
 AppPOV(POVKeyIndex As Integer) As String, 358
 APP 関数, 184
 ASCII 形式
 ファイルの出力, 154
 ファイルの保存, 153
 ASK 関数, 185
 Asset 勘定科目属性, Hyperion Enterprise, 119
 AS 関数, 185

AVG 関数, 186
 BAL 勘定科目属性, Hyperion Solutions アプリケーション, 119
 BAS 関数, 187
 BAS フィールド, 98
 BET 関数, 187
 BOT 関数, 188
 ByRef ColNum As Long, 364
 ByRef ExpandedColIndex As Long) As Boolean, 364
 ByRef ExpandedRowIndex As Long, 364
 CAT キーワード, 94
 CCVT 勘定科目属性, Hyperion Essbase, 119
 CDABET 関数, 288
 CDACAL 関数, 289
 CDACHG 関数, 290
 CDADES 関数, 290
 CDAINP 関数, 291
 CDAKEY 関数, 291
 CDALAB 関数, 292
 CDALNK 関数, 293
 CDAPAB 関数, 293
 CDAPBE 関数, 294
 CDAPCH 関数, 295
 CDAPCT 関数, 296
 CDASTR 関数, 297
 CDAVAL 関数
 値の貼り付け, 286
 アプリケーションデータベースへの保存, 299
 計算式, 293
 説明, 298
 例, 298
 CellPOV(POVKeyIndex As Integer) As String, 364, 371
 CELL 関数, 189
 CHANGE 関数, 190
 CHART 関数, 191

- CHG 関数, 192
- CHL 関数, 192
- CMCODE 関数, 193
- CMO 関数, 193
- ColNum As Long プロパティ, 360, 367
- CompressedData As Object 関数, 357
- CONSOL キーワード, 94
- CON 関数, 194
- CPN 関数, 195
- CRB ファイル拡張子, 37
- Credits フィールド, 98
- CUM フィールド, 101
- CURCY 関数, 197
- CURR キーワード, 95
- CUR 関数, 196
- DataExtend, 「Hyperion DataExtend」を参照, 338
- DAT 関数, 199
- DAT キーワード, 96
- Debits フィールド, 98
- DEP 関数, 200
- DES 関数, 201
- DIF フィールド, 100
- DisplayedData As Object 関数, 357
- DSC 関数, 201
- DUR 関数, 202
- DWV フィールド, 100
- ECODE 関数, 203
- [Edit Dimensions - Account (ディメンションの編集 - 勘定科目)] ダイアログボックス, 94
- END 関数, 204
- Enterprise。 「Hyperion Enterprise」を参照
- Enterprise, 「Hyperion Enterprise」を参照, 281, 308, 319
- [Enter] キー, 337
- ENT 関数, 204
- ENT キーワード, 97
- ErrorCode As Short 関数, 363, 371
- ErrorDescription As Variant 関数, 364, 371
- Essbase。 「Hyperion Essbase」を参照
- Excel, 390
 - へのエクスポート, 390
 - レポートからのワークシートの作成, 390
- Excel, 「Microsoft Excel」を参照, 253, 281
- Excel, レポートのエクスポート, 155
- Excel へのレポートのエクスポート, 155
- EXPAND.REL ファイル, 110
- Expand.rel ファイル, 264
- ExpandedColIndex As Long プロパティ, 367
- ExpandedRowIndex As Long プロパティ, 366
- Expense 勘定科目属性, Hyperion Solutions アプリケーション, 119
- Field Definitions セクション, 312
- FIE キーワード, 97
- FIRST 関数, 205
- FLN 関数, 206
- Flow 勘定科目属性, Hyperion Enterprise, 119
- FLT 関数, 206
- FOR 関数, 207
- FRD 関数, 208
- FRE キーワード, 101
- FRL 関数, 208
- FROM 関数, 209
- Function ApplicationName As String 関数, 357
- GEN 関数, 210
- GetCompressedCell(ByRef RowNum As Long, 364
- GetDisplayedCell(ByRef RowNum As Long, ByRef ColNum As Long) As Boolean, 371
- GetNumericValue As Double 関数, 360, 368
- GetTextValue As String 関数, 361, 369
- HAQ ファイル, 110
- Hdcaret.ini ファイル, 284
- HSCHED.INI ファイル, 347
- HYPENT.INI ファイル, 327
- hypent.ini ファイル, NoDataAsZero 設定, 261
- Hyperion Analyst, 308
 - CDAKEY 関数, 291
 - Hyperion Retrieve for Reporting の使用, 285
 - ツールバー, 256
 - データの視点, 259
 - メニュー, 256
 - ワークシート, 258
- Hyperion Analyst クエリ, [データなし] 表示オプション, 261
- Hyperion Analyst クエリの MissingValue の設定, 261
- Hyperion Analyst クエリの NoDataAsZero 設定, 261
- Hyperion Analyst の展開機能, 395, 403, 413
- Hyperion Data Extend, 338
- Hyperion DataExtend
 - アイコン, ツールバーの, 310
 - 起動, 308
 - 終了, 309

- ツールバー, 310
- データの抽出, 312, 315
- データの読み込み, 312, 314
- フィールド, 310
- フィールドデータ用のテキストファイルの例, 314
- メニュー, 309
- Hyperion DataExtend について, 308
- Hyperion DataExtend の終了, 309
- Hyperion Enterprise, 257, 265, 308, 310, 319, 321, 327, 328, 335
 - CDALNK 関数, 293
 - Hyperion Reporting から継承されたデータの視点, 43
 - Hyperion Retrieve for Reporting の使用, 281, 293
 - ID ロジック, 98
 - 関数の簡易リスト, 165
 - キーワード, 92
 - 条件ステートメントの変数, 130
 - 製品ドライバ, 指定, 159
 - ディメンションの割り当て方法, 69
 - バッチファイルへのアプリケーションの指定, 159
 - パッケージセット, 146
 - リリース 4XA のみ, 327, 332, 333
 - [レポート] ウィンドウまたは [パッケージ] ウィンドウ, 150
 - レポートオプション, 57
 - レポートセットまたはパッケージセットの作成, 142
 - レポートの印刷, 153
 - レポートモジュールおよびパッケージモジュール, 149
 - ワークシートから値を書き込む, 287
 - ワークシートヘデータを保存, 283
- Hyperion Enterprise Reporting Web Application, 395
 - 展開, 395, 413
 - OnTrack, 395
- Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションの展開機能, 413
- Hyperion Enterprise, 使用される関数, 230
 - ABS - 絶対値, 179
 - ACODE - 勘定科目コード, 180
 - ALL - すべて, 180
 - AMCODE - チャートロジックコード, 182
 - APD - アプリケーションの説明, 183
 - APP - アプリケーション ID, 184
 - AS - 同じ, 185
 - ASK - ユーザプロンプト, 185
 - AVG - 平均, 186
 - BAS - 基本レベル, 187
 - BET - 差異評価, 187
 - CELL - 特定のセル値, 189
 - Change - ディメンション変更, 190
 - CHART - チャートロジック展開, 191
 - CHG - 差異計算, 192
 - CMCODE - 連結ロジック, 193
 - CMO - 現在のデータ種別の期間番号, 193
 - CON - サマリ ID, 194
 - CPN - 今期の番号, 195
 - CUR - 現在のディメンション設定, 196
 - CURCY - 通貨テキスト, 197
 - DAT - 期間の説明, 199
 - DEP - 直下の ID, 200
 - DES - ディメンションの説明, 201
 - DUR - 指定値, 202
 - ECODE - エンティティコード, 203
 - END - 最後の ID, 204
 - ENT - 親としてのエンティティ, 204
 - FIRST - 最初のサブ勘定科目, 205
 - FLN - ファイル名, 206
 - FLT - ファイルタイトル, 206
 - FOR - セクション For, 207
 - FRD - 期間単位の説明, 208
 - FRL - 期間単位 ID, 208
 - FROM - 範囲の開始, 209
 - IFT - If Then, 210
 - LAB - ディメンション ID, 212
 - LAD - 最下位勘定科目の説明, 212
 - LAL - 最下位勘定科目の ID, 213
 - LAST - 最後のサブ勘定科目, 214
 - LIST - リスト, 215
 - LOCAL - ローカル見出し, 216
 - MUL - 乗算, 223
 - PAR - 親, 228
 - PBE - 差異率の評価, 229
 - PCR - 構成比, 230
 - PCT - 比率 (パーセント表示), 232
 - PDES - 部分的説明, 232
 - PLAB - 部分的ディメンション ID, 233
 - PSF - 連結ステータス, 234

- RAT - 比率, [234](#)
- REPORT - パッケージ内のレポート, [235](#)
- RND - 四捨五入, [235](#)
- RNG - 範囲, [236](#)
- SCALE - 現在のエンティティの単位, [238](#)
- START - 開始期間, [243](#)
- SUB - サブ勘定科目, [244](#)
- SUM - 合計, [245](#)
- TIM - 現在の時刻, [245](#)
- TMCODE - 換算ロジックコード, [246](#)
- TOD - 現在の日付, [247](#)
- UNTIL - 範囲の終わり, [248](#)
- USR - ユーザ ID, [249](#)
- VWD - ビューの説明, [249](#)
- VWL - ビュー ID, [250](#)
- WITHSUB - With サブ勘定科目, [250](#)
- WITHSUB1 - With 第 1 サブ勘定科目, [251](#)
- 日付マスク, [198](#)
- Hyperion Enterprise の ID ロジック, [98](#)
- Hyperion Enterprise の [レポート] ウィンドウ
または [パッケージ] ウィンドウ, [150](#)
- Hyperion Enterprise のレポートモジュールおよび
パッケージモジュール, [149](#)
- Hyperion Essbase
 - 勘定科目属性, [119](#)
 - 関数の簡易リスト, [165](#)
 - 使用可能なディメンション一覧, [81](#)
 - 条件ステートメントの変数, [131](#)
 - 製品ドライバの指定, [159](#)
 - ディメンションの割り当て方法, [69](#)
 - バッチファイルにおける大文字と小文字の区別, [161](#)
 - バッチファイルへのアプリケーションの指定, [159](#)
 - レポートオプション, [58](#)
- Hyperion Essbase, 使用される関数, [230](#)
 - ABS - 絶対値, [179](#)
 - ALL - すべて, [180](#)
 - ALT - 現在のエイリアステーブル, [182](#)
 - ANC - すべての祖先メンバ, [183](#)
 - APD - アプリケーションの説明, [183](#)
 - APN - アプリケーション名, [184](#)
 - APP - アプリケーション ID, [184](#)
 - AS - 同じ, [185](#)
 - ASK - ユーザプロンプト, [185](#)
 - AVG - 平均, [186](#)
 - BAS - 基本レベル, [187](#)
 - BET - 差異評価, [187](#)
 - BOT - レベル 0 のメンバ, [188](#)
 - CELL - 特定のセル値, [189](#)
 - CHANGE - ディメンション変更, [190](#)
 - CHG - 差異計算, [192](#)
 - CHL - 子, [192](#)
 - CUR - 現在のディメンション設定, [196](#)
 - DEP - 直下の ID, [200](#)
 - DES - ディメンションの説明, [201](#)
 - DSC - 子孫メンバ, [201](#)
 - DUR - 指定値, [202](#)
 - FLN - ファイル名, [206](#)
 - FLT - ファイルタイトル, [206](#)
 - FOR - セクション For, [207](#)
 - FROM - 範囲の開始, [209](#)
 - GEN - 同じ世代, [210](#)
 - IFT - If Then, [210](#)
 - IND - インデント, [211](#)
 - LAB - ディメンション ID, [212](#)
 - LIST - リスト, [215](#)
 - LOCAL - ローカル見出し, [216](#)
 - LRC - リンクされたレポートコメント, [216](#)
 - LRD - リンクされたレポートオブジェクトの
変更日, [217](#)
 - LRF - リンクされたレポートファイル, [218](#)
 - LRI - リンクされたレポートオブジェクトの
インデックス, [219](#)
 - LRO - リンクされたレポートオブジェクト,
[220](#)
 - LRT - リンクされたレポートオブジェクトの
種類, [221](#)
 - LRU - リンクされたレポートオブジェクトの
ユーザ, [222](#)
 - LVL - 同じレベル, [222](#)
 - MUL - 乗算, [223](#)
 - OFF - 現在またはオプションの期間のオフ
セット, [224](#)
 - PBE - 差異率の評価, [229](#)
 - PCR - 構成比, [230](#)
 - PCT - 比率 (パーセント表示) , [232](#)
 - RAT - 比率, [234](#)
 - REPORT - パッケージ内のレポート, [235](#)
 - RND - 四捨五入, [235](#)
 - RNG - 範囲, [236](#)
 - RPD - 現在のレポートディレクトリ, [237](#)
 - SED - セットの説明, [238](#)

- SET - セット名, [239](#)
- SIB - 兄弟, [239](#)
- SLA - 左側にあるすべての兄弟, [240](#)
- SLF - 左側にある最初の兄弟, [241](#)
- SRA - 右側にあるすべての兄弟, [241](#)
- SRF - 右側にある最初の兄弟, [242](#)
- SRN - サーバ名, [243](#)
- SUM - 合計, [245](#)
- TIM - 現在の時刻, [245](#)
- TOD - 現在の日付, [247](#)
- TOP - 最上位メンバ, [247](#)
- UNTIL - 範囲の終わり, [248](#)
- USR - ユーザ ID, [249](#)
- WITHSUB - With サブ勘定科目, [250](#)
- WITHSUB1 - With 第 1 サブ勘定科目, [251](#)
- WLD - ワイルドカード, [252](#)
- 日付マスク, [198](#)
- Hyperion OnTrack, [447](#)
 - ダイアログボックス, [446](#), [447](#), [448](#)
- Hyperion OnTrack アクション関数 (@OTA) , [226](#), [227](#), [228](#)
- Hyperion OnTrack からプログラムを起動, [448](#)
- Hyperion OnTrack のグラフィックメモ, [447](#)
- Hyperion OnTrack の展開機能, [395](#), [403](#), [413](#)
- Hyperion Reporting, [307](#), [308](#), [310](#), [319](#), [336](#), [339](#)
 - 関数のリスト, [165](#)
 - データの視点, [41](#)
- Hyperion Retrieve for Reporting, [253](#), [257](#), [266](#)
 - 関数の概要, [287-288](#)
 - 概要, [281](#)
 - 計算式, [286](#)
 - データの視点, [288](#), [297](#)
- Hyperion Retrieve for Reporting 関数への Enterprise Retrieve 関数の変換 - 概要, [382](#)
- Hyperion Schedules, [307](#)
 - ウィンドウ, [323](#)
 - オペレータキー, [340](#)
 - 概要, [319](#)
 - 起動, [321](#)
 - グリッド線, [334](#)
 - 終了, [322](#)
 - ステータスバー, [334](#)
 - ツールバー, [334](#)
 - データ入力キー, [340](#)
 - データの視点バー, [334](#)
 - ヘッダーとフッター, [334](#)
 - メインウィンドウ, [323-324](#)
 - メニュー, [324](#)
 - Hyperion Schedules について, [319](#)
 - Hyperion Schedules の終了, [322](#)
 - Hyperion's Spider-Man Web Application, [403](#)
 - 展開, [395](#), [413](#)
 - HypReportData.Compressed.IsDirtyFunctionSetFocus As Booleans 関数, [372](#)
 - IC1 フィールド, [98](#)
 - IC2 フィールド, [99](#)
 - ID, [275](#)
 - ID, デイメンション, [263](#)
 - ID デイメンションの割り当て方法, [69](#)
 - ID の表示, [275](#)
 - If Then 関数 (IFT) , [210](#)
 - IFT 関数, [210](#)
 - IICompressedData, [365](#)
 - IIDisplayedData, [359](#)
 - IIHypReportData 関数, [356](#)
 - Income 勘定科目属性, Hyperion Enterprise, [119](#)
 - IND 関数, [211](#)
 - IsCellDirty, [372](#)
 - IsDirty As Boolean 関数, [365](#), [372](#)
 - IsDivideByZero As Boolean 関数, [363](#), [370](#)
 - IsError As Boolean 関数, [363](#), [370](#)
 - IsNoData As Boolean 関数, [362](#), [369](#)
 - IsReadOnlyByApp As Boolean 関数, [363](#), [370](#)
 - IsValueNumeric As Boolean 関数, [362](#), [369](#)
 - IsZero As Boolean 関数, [362](#), [370](#)
 - LAB 関数, [212](#)
 - LAD 関数, [212](#)
 - LAL 関数, [213](#)
 - LAST 関数, [214](#)
 - Liability 勘定科目属性, Hyperion Enterprise, [119](#)
 - LOCAL 関数, [216](#)
 - Lotus 1-2-3, [302](#)
 - LRC 関数, [216](#)
 - LRD 関数, [217](#)
 - LRF 関数, [218](#)
 - LRI 関数, [219](#)
 - LRO 関数, [220](#)
 - LRT 関数, [221](#)
 - LRU 関数, [222](#)
 - LVL 関数, [222](#)
 - Microsoft Excel, [302](#)
 - CDAVAL 関数, [286](#)
 - [Convert to Functions (関数への変換)] オプション, [266](#)

- Hyperion Analyst, 253, 255, 291
- Hyperion Analyst ツールバー, 256
- Hyperion Analyst ワークシート, 258, 267
- Hyperion Retrieve for Reporting の使用, 281, 282
- アドインファイルのアンロード, 282
- アドインファイルのロード, 282
- アドインファイルのロードまたはアンロード, 254
- クエリの終了, 261
- テンプレートの作成, 267
- テンプレートのフォーマット, 267
- ドラッグアンドドロップ, 263
- ワークシート, 266
- ワークシートの保存, 284
- ワークシートをクエリとして保存, 261
- Microsoft Excel, レポートのエクスポート, 155
- Microsoft Windows, 254
- Microsoft ファイルのロードまたはアンロード, 299
- [Modify Query (クエリの変更)] ダイアログボックス, 277
- MS-DOS バッチコマンド, 157
- MUL 関数, 223
- Non-expense 勘定科目属性, Hyperion Essbase, 119
- NumCols As Long 関数, 359, 366
- NumExpandedCols (ColNum As Long) As Long 関数, 366
- NumExpandedRows (RowNum As Long) As Long, 365
- NumPOVKeys As Integer 関数, 358
- NumRows As Long 関数, 359, 365
- Off 関数, 224
- OnTrack, 446, 447, 448
- [OnTrack アクションの貼り付け] ダイアログボックス, 446, 447, 448
- OnTrack の展開機能, 395, 403, 413
- OTA - Hyperion OnTrack アクションの貼り付け, 446, 447, 448
- OTA 関数, 226, 227, 228
- PAR 関数, 228
- PAR キーワード, 103
- Paste Value (値の貼り付け) オプション, 283
- PBE 関数, 229
- PCH 関数, 230
- PCONS フィールド, 99
- PCR 関数, 230
- PCTRL フィールド, 99
- PCT 関数, 232
- PDES 関数, 232
- PLAB 関数, 233
- POVKeyDesc(POVKeyIndex As Integer) As String, 358
- POWN フィールド, 100
- [Preview Window (プレビューウィンドウ)] ダイアログボックス, 407
- PRE フィールド, 101
- ProductName As String 関数, 357
- PSF 関数, 234
- RAT 関数, 234
- ReadOnly As Boolean プロパティ, 360, 367
- REPENG.INI ファイル, 290
 - Hyperion 製品名, 158
 - UseEnterpriseOrg の設定, 228
 - カスタムのアイコンの作成時に更新, 31
 - プリンタオプション, 152
 - 編集による調査コマンドの有効化, 136, 137
- ReportName As String 関数, 357
- REPORT 関数, 235
- Retrieve for Reporting, 「Hyperion Retrieve for Reporting」を参照, 266
- Retrieve, 「Hyperion Retrieve for Reporting」を参照, 281
- Retrieve メニュー
 - Open applications (アプリケーションを開く) オプション, 283, 286
 - Paste Value (値の貼り付け) オプション, 283
 - 概要, 282, 283
 - 更新オプション, 283
 - データの視点の変更オプション, 283
 - 保存オプション, 283
- RND 関数, 235
- RNG 関数, 236
- RowNum As Long プロパティ, 359, 366
- RPD 関数, 237
- RW.INI ファイルの数値情報, 119
- RW.INI ファイルの数値マスク, 119
- RW32.INI ファイル, 120, 122
- SCALE 関数, 238
- Schedules, 「Hyperion Schedules」を参照, 310, 319
- SCH ファイル, 345

SED 関数, 238
 SetFocus As Boolean 関数, 365
 SetNumericValue (ByVal dbValue As Double) As Boolean, 361, 368
 SetTextValue (ByVal lpCTSTR As String) As Boolean, 361
 SetTextValue (ByVal lpCTSTR As String) As Boolean 関数, 368
 SET 関数, 239
 SHAROS フィールド, 99
 SHAROW フィールド, 99
 [Show Suppressed Columns (非表示の列の表示)] ダイアログボックス, 375
 [Show Suppressed Rows (非表示の行の表示)] ダイアログボックス, 374
 SIB 関数, 239
 SLA 関数, 240
 SLF 関数, 241
 SRA 関数, 241
 SRF 関数, 242
 SRN 関数, 243
 START 関数, 243
 Structured Query Language (SQL : 構造化照会言語), 260
 Sub CalculateReport 関数, 358
 Sub RefreshReport 関数, 359
 SUBACC1 キーワード, 103
 SUBACC2 キーワード, 105
 SUBENT キーワード, 106
 SUB 関数, 244
 SUM 関数, 245
 [Tab] キー, 337
 TIM 関数, 245
 TMCODE 関数, 246
 TOD 関数, 247
 TOP 関数, 247
 TXT ファイル, 153
 UNTIL 関数, 248
 UseEnterpriseOrg 設定, 491
 UserID As String 関数, 358
 USR 関数, 249
 ValidateEditedCell 関数, 352
 ValidateOpenReport 関数, 351
 ValidateSaveReport 関数, 355
 VALIDDLL.DLL ファイル, 348
 VAL フィールド, 101
 VB40032.DLL ファイル, 349

VSHAROS フィールド, 99
 VSHAROW フィールド, 99
 VWD 関数, 249
 VWL 関数, 250
 Windows, 「Microsoft Windows」を参照, 254
 Windows からの Hyperion Schedules の起動, 321
 With All サブ勘定科目関数 (WITHSUB), 250
 WITHSUB1 関数, 251
 WITHSUB 関数, 250
 With 第1レベルサブ勘定科目関数 (WITHSUB1), 251
 WLD 関数, 252
 XLT ファイル, 267

あ行

アイコン, 275
 印刷, 154
 およびディメンションの変更, 74
 およびパッケージでのディメンションの変更, 74
 ディメンション ID, 44
 ディメンションセクションを表す, 72
 ディメンションの変更を編集するために選択, 83
 デスクトップのカスタマイズ, 31
 フィルタの概要, 77
 プレビューツールバー, 153
 メモリに読み込まれているディメンション ID を表す, 76
 レポートウィザード, 110
 アイコン, ツールバー, 310
 値, 301
 値の貼り付け, 301
 新しいクエリ, 277
 アドインファイル, 254, 282
 アドインファイルのアンロード, 254
 アドインファイルのロード, 254
 アプリケーション, 300
 データの保存, 284
 開く, 283, 286
 アプリケーション, バッチファイルへの指定, 159
 アプリケーション ID 関数 (@APP), 184
 アプリケーションの説明関数 (@APD), 183
 アプリケーションのデータの変更, 302
 アプリケーションへの追加, 146

- アプリケーションへのデータの書き込み, 302
- アプリケーションへのデータの保存, 302
- アプリケーション名関数 (@APN) , 184
- アプリケーションを開く, 283, 286, 300
- 網掛け書式オプション, 116
- 網掛けと枠線のオプション, 121, 430
- 網掛けの状態, 118
- [網掛け/枠線] パネル, 430, 513
- アンロード, 282
 - Microsoft Excel アドインファイル, 282
- 位置展開オプション, 137
- 一覧, 273
 - [ディメンション] ダイアログボックスで割り当て, 75
 - ディメンションの割り当て, 81
- 一覧, 使用可能なディメンション ID の, 76
- 一覧ディメンションの割り当て方法, 69
- 一覧フィルタ, ディメンション ID を指定するため, 77
- [一般] パネル, 441
- 色, セル, 336
- [色の変更] ダイアログボックス, 375
- 印刷
 - アクティブなパッケージ, 153
 - アクティブなレポート, 153
 - ファイルに, 153
 - レポートのプレビューから, 152
 - 連続したパッケージ, 154, 157, 164
 - 連続したレポート, 154, 157, 164
- [印刷] アイコン, 154
- 印刷順序およびページの向きのレイアウトオプション, 124
- [印刷] ダイアログボックス, 404
- 印刷プレビュー, 344
- インデント関数 (@IND) , 211
- インポートオプション, 66
- [インポートオプション] ダイアログボックス, 393
- 引用符, バッチコマンド, 160
- ウィンドウプレビュー, 407
- ウィンドウ要素, 334
- ウィンドウ要素の非表示, 334
- ウィンドウ要素の表示, 334
- [エクスポート] ダイアログボックス, 390
- エラー, 280
- エラー, チェック, 146
- [エラーの場合] 非表示オプション, 126
- [エラー] 表示オプション, 126
- 演算子
 - 数式, 88
 - 数式における複数, 91
 - 優先, 91
- 演算の順序, 91
- エンティティ, 274, 307, 308, 311, 319, 327, 328, 329, 338
- エンティティコード関数 (@ECODE) , 203
- [エンティティ] ダイアログボックス, 274, 427, 428
- エンティティのキーワード (ENT) , 97
- 大文字と小文字の区別, バッチコマンド, 161
- 同じ関数 (AS) , 185
- 同じ世代関数 (@GEN) , 210
- 同じレベル関数 (@LVL) , 222
- オフの状態, 118
- オプション
 - 継承された書式, 117
 - 書式, 120
 - 数値の設定, 122
 - ソート, 128
 - 非表示の設定, 125
 - 表示基準の設定, 129
 - 表示の設定, 125
 - マスク, 122
 - レイアウト, 124
 - レポートのインポート, 66
 - レポートの書式, 115
- オプションのエンティティ, 274
- オプションの勘定科目, 270
- オプションのサブ勘定科目表, 279, 280
- [オプション] メニュー, 324
- オペランド, 92
- オペレータキー, 340
- 親, 276
- 親, 選択, 333
- 親エンティティのキーワード (PAR) , 103
- 親オーバーライド展開オプション, 137
- 親関数 (@PAR) , 228
- 親が未定義の最上位 ID 関数 (@TOP) , 247
- [親] ダイアログボックス, 550
- 親としてのエンティティ関数 (@ENT) , 204
- 親の関係の設定, 278
- オンまたはオフフィルタ, ディメンション ID を指定するため, 77
- オンラインヘルプ, 324

使用方法, [257](#), [283](#)
 オンラインヘルプへのアクセス, [324](#)

か行

「各月の日数」勘定, [388](#), [409](#)
 「「各月の日数」勘定」ダイアログボックス, [388](#)
 カスタマイズ
 計算式バー, [32](#)
 数値書式, [119](#)
 ディメンション, [31](#)
 デスクトップのアイコン, [31](#)
 データの視点バー, [33](#)
 下部テキスト設定, [442](#)
 空のデータ入力表, [37](#)
 関係, [403](#)
 換算ロジックコード関数 (@TMCODE) , [246](#)
 勘定科目, [270](#)
 勘定科目, 選択, [329](#)
 勘定科目記号, [118](#)
 勘定科目コード関数 (@ACODE) , [180](#)
 勘定科目属性, Hyperion Solutions アプリケーション, [119](#)
 「勘定科目」ダイアログボックス, [270](#), [415](#), [416](#)
 勘定科目のキーワード (ACC) , [93](#)
 勘定科目の属性, [118](#)
 勘定科目のデフォルト属性, [118](#)
 関数, [271](#), [327](#)
 , [230](#), [271](#), [327](#)
 ABS - 絶対値, [179](#)
 ACODE - 勘定科目コード, [180](#)
 ALL - すべて, [180](#)
 ALT - 現在のエイリアステーブル, [182](#)
 AMCODE - チャートロジックコード, [182](#)
 ANC - すべての祖先メンバ, [182](#), [183](#)
 APD - アプリケーションの説明, [183](#)
 APN - アプリケーション名, [184](#)
 APP - アプリケーション ID, [184](#)
 AS - 同じ, [185](#)
 ASK - ユーザプロンプト, [185](#)
 AVG - 平均, [186](#)
 BAS - 基本レベル, [187](#)
 BET - 差異評価, [187](#)
 BOT - レベル 0 の子孫, [188](#)
 CDABET - 2 つの ID の値の比較, [288](#)
 CDACAL - 算出値からなる勘定科目かどうか
 をチェック, [289](#)

CDACHG - 値の間の正の差の表示, [289](#)
 CDADES - ディメンション設定の説明の表示, [290](#)
 CDAINP - 入力勘定科目かどうかチェック, [291](#)
 CDAKEY - ディメンション設定の変更, [291](#)
 CDALAB - 指定されたディメンション上の ID の表示, [292](#)
 CDALNK - Hyperion アプリケーションへの値の転送, [293](#)
 CDAPAB - 勘定科目の 2 つの値の差異率の表示, [293](#)
 CDAPBE - 差異率の表示, [294](#)
 CDAPCH - 2 つの値の間の変化率の表示, [295](#)
 CDAPCT - 比率の計算, [296](#)
 CDASTR - 見出しを使ったテキストの表示, [297](#)
 CDAVAL - アプリケーションからの値の表示, [286](#), [287](#), [293](#), [298](#)
 CELL - 特定のセル値, [189](#)
 CHANGE - ディメンション変更, [190](#)
 CHART - チャートロジック展開, [191](#)
 CHG - 差異計算, [192](#)
 CHL - 子, [192](#)
 CMCODE - 連結ロジックコード, [193](#)
 CMO - 現在のデータ種別の期間番号, [193](#)
 CON - サマリ ID, [194](#)
 CPN - 今期の番号, [195](#)
 CUR - 現在のディメンション設定, [196](#)
 CURCY - 通貨テキスト, [197](#)
 DAT - 期間の説明, [199](#)
 DEP - 直下の ID, [200](#)
 DES - ディメンションの説明, [201](#)
 DSC - 子孫関数, [201](#)
 DUR - 指定値, [202](#)
 ECODE - エンティティコード, [203](#)
 END - 最後の ID, [204](#)
 ENT - 親としてのエンティティ, [204](#)
 FIRST - 最初のサブ勘定科目, [205](#)
 FLN - ファイル名, [206](#)
 FLT - ファイルタイトル, [206](#)
 FOR - セクション for, [207](#)
 FRD - 期間単位の説明, [208](#)
 FRL - 期間単位 ID, [208](#)
 FROM - 範囲の開始, [209](#)
 GEN - 同じ世代, [210](#)
 Hyperion Enterprise, 簡易リスト, [165](#)

- Hyperion Essbase, 簡易リスト, 165
- IFT - If Then, 210
- IND - インデント, 211
- LAB - デイメンション ID, 212
- LAD - 最下位勘定科目の説明, 212
- LAL - 最下位勘定科目の ID, 213
- LAST - 最後のサブ勘定科目, 214
- LIST - リスト, 215
- LOCAL - ローカル見出し, 216
- LRC - リンクされたレポートコメント, 216
- LRD - リンクされたレポートオブジェクトの変更日, 217
- LRF - リンクされたレポートファイル, 218
- LRI - リンクされたレポートオブジェクトのインデックス, 219
- LRO - リンクされたレポートオブジェクト, 220
- LRT - リンクされたレポートオブジェクトの種類, 221
- LRU - リンクされたレポートオブジェクトのユーザ, 222
- LVL - 同じレベル, 222
- MUL - 乗算, 223
- OFF - 現在またはオプションの期間のオフセット, 224
- OTA - Hyperion OnTrack アクション, 226, 227, 228
- PAR - 親, 228
- PBE - 差異率の評価, 229
- PCR - 構成比, 230
- PCT - 比率 (パーセント表示), 232
- PDES - 部分的説明, 232
- PLAB - 部分的デイメンション ID, 233
- PSF - 連結ステータス, 234
- RAT - 比率, 234
- REPORT - パッケージ内のレポート, 235
- RND - 四捨五入, 235
- RNG - 範囲, 236
- RPD - 現在のレポートディレクトリ, 237
- SCALE - 現在のエンティティの単位, 238
- SED - セットの説明関数, 238
- SET - セット名関数, 239
- SIB - 兄弟, 239
- SLA - 左側にあるすべての兄弟, 240
- SLF - 左側にある最初の兄弟, 241
- SRA - 右側にあるすべての兄弟, 241
- SRF - 右側にある最初の兄弟, 242
- SRN - サーバ名, 243
- START - 最初の ID, 243
- SUB - サブ勘定科目, 244
- SUM - 合計, 245
- TIM - 現在の時刻, 245
- TMCODE - 換算ロジックコード, 246
- TOD - 現在の日付, 247
- TOP - 親が未定義の最上位 ID, 247
- UNTIL - 範囲の終わり, 248
- USR - ユーザ ID, 249
- VWD - ビューの説明, 249
- VWL - ビュー ID, 250
- WITHSUB - With All サブ勘定科目, 250
- WITHSUB1 - With 第 1 レベルサブ勘定科目, 251
- WLD - ワイルドカード, 252
- 一覧, 173
- [デイメンション] ダイアログボックスで割り当て, 75
- デイメンションに割り当て, 80
- 関数デイメンションの割り当て方法, 69
- 関数への値の変換, 266
- 関数リスト, 165
- 管理者のタスク, 345
- 外部レポート, 397, 400
- 追加, 397, 400
- 概要, Hyperion Schedules, 319
- 期間, 278
- 期間, 選択, 330
- 期間単位, 選択, 330
- 期間単位 ID 関数 (@FRD), 208
- 期間単位のキーワード (FRE), 101
- 期間単位の説明関数 (@FRD), 208
- 期間のキーワード (DAT), 96
- 期間の説明関数 (@DAT), 199
- 記号, 88
- 起動, Hyperion DataExtend, 308
- 起動メモ, 228
- 機能, 326, 340
- 基本レベル関数 (@BAS), 187
- 兄弟関数 (@SIB), 239
- キー操作, 337
- キーの削除, 345
- キーボード, 337, 340
- キーワード
- ACC - 勘定科目, 93
- CAT - データ種別, 94

- CONSOL - 連結詳細, 94
- CURR - 通貨, 95
- DAT - 期間, 96
- ENT - エンティティ, 97
- FIE - フィールド, 97
- FRE - 期間単位, 101
- Hyperion Enterprise, 92
- PAR - 親エンティティ, 103
- SUBACC1 - 最初のサブ勘定科目セット, 103
- SUBACC2 - 第2のサブ勘定科目セット, 105
- SUBENT - サブエンティティ, 106
- 一覧, 173
- 概要, 92
- 行, 432
 - 切り取り, 55
 - 空白行の挿入, 56
 - コピー, 55
 - ソート, 128
 - 貼り付け, 55
 - 非表示, 433
 - レイアウト, 432
 - レポート, 70
- 行, 非表示, 343
- [行] 軸, 110
- 行データの書式設定の継承, 118
- 行のページ書式オプション, 150
- 行見出しの書式設定の継承, 118
- 行レイアウトオプション, 125
- 空白の列および行, 挿入, 56
- クエリ
 - エンティティ, 265
 - 作成, 260
 - 終了, 261
 - 追加, 254, 255
 - テンプレートのカスタマイズ, 267
 - [ディメンションの管理] オプション, 257, 262
 - データの視点の変更, 110
 - ネストされた勘定科目セクション, 111
 - 開く, 260
 - 変更, 260
 - 保存, 261
 - レポートウィザードでの作成, 110
 - レポート形式での表示, 113
- クエリの作成, 277
- クエリの取得, 277
- クエリの変更, 260
- クエリの編集, 277
- クエリの保存, 279
- クエリフォーマットのカスタマイズ, 267
- クエリを開く, 277
- 組み込みレポート, 37
- グラフィックメモ, 226
- グリッド線, 334
- グループ分け, 142
- [グローバル設定] ダイアログボックス, 392
- グローバル表示基準, 392
- 計算記号, 88
- 計算キー, 340
- 計算／再計算, 338, 340
- 計算式, 301, 324, 336, 337, 338, 340
 - CDAVAL, 293
 - Hyperion Retrieve for Reporting での, 286-287
 - 概要, 87
 - 算出, 343
 - 書式付きのコピー, 133
 - 書式なしのコピー, 133
 - 使用される関数, 287
 - タイトルの編集, 108
 - ディメンションの設定, 284
 - データ, 88
 - データの編集, 106
 - フッターへの挿入, 64
 - ヘッダーへの挿入, 64
 - 見出し, 32, 87
- 計算式の実行, 343
- [計算式の編集] ダイアログボックス, 179, 424, 425
- 計算式バー, カスタマイズ, 32
- 計算順序オプション, 122
- 継承, 118
- 継承された書式オプション, 117
- 継承の状態, 118
- 結果の書式, 392, 436
- 検索オプション, ディメンション ID を検索するため, 78
- 現在のエイリアステーブル関数 (@ALT) , 182
- 現在のエンティティの単位関数 (@SCALE) , 238
- 現在の時刻関数 (@TIM) , 245
- 現在のディメンション設定関数 (@CUR) , 196
- 現在のデータ種別の期間番号関数 (@CMO) , 193

現在の日付関数 (@TOD) , 247
 現在のレポートディレクトリ関数 (@RPD) , 237
 現在またはオプションの期間のオフセット関数 (@OFF), 224
 更新, 256
 更新オプション, 283
 構成比関数 (PCR) , 230
 構文, バッチコマンド, 160
 構文エラー, 146
 子関数 (@CHL) , 192
 コメント, バッチコマンド, 161
 今期の番号関数 (CPN) , 195
 合計関数 (SUM) , 245

さ行

最下位勘定科目の ID 関数 (@LAL) , 213
 最下位勘定科目の説明関数 (@LAD) , 212
 差異計算関数 (CHG) , 192
 最後の ID 関数 (@END) , 204
 最後のサブ勘定科目関数 (@LAST) , 214
 最初の ID 関数 (@START) , 243
 最初のサブ勘定科目関数 (@FIRST) , 205
 最初のサブ勘定科目セットのキーワード (SUBACC1) , 103
 差異評価関数 (BET) , 187
 差異率の計算関数 (PCH) , 230
 差異率の評価関数 (PBE) , 229
 削除されたレポートまたはパッケージの回復, 147
 削除した領域の復元, 57
 削除した領域を元に戻す, 57
 削除取り消し, 147
 作成
 レポートの高速作成, 57, 59
 サブエンティティのキーワード (SUBENT) , 106
 [サブ勘定科目 1] ダイアログボックス, 279, 551
 [サブ勘定科目 2] ダイアログボックス, 280, 552
 サブ勘定科目関数 (@SUB) , 244
 サマリ ID 関数 (@CON) , 194
 サマリデータ, 112
 算術記号, 88
 サーバ名関数 (@SRN) , 243
 財務計算関数

使用, 106
 数式, 88
 データ計算式, 106
 四捨五入関数 (RND) , 235
 四捨五入計算オプション, 122
 システムメニュー, 309, 324
 子孫メンバ関数 (@DSC) , 201
 指定値関数 (DUR) , 202
 詳細データ, 112
 [詳細] 非表示オプション, 126
 書式, 119, 392, 431
 結果, 392
 検証, 146
 数値, 431
 数値書式マスクのカスタマイズ, 119
 数値のカスタマイズ, 119
 ページ, 150
 ラベル設定, 150, 152
 レポート間でのコピー, 133
 書式オプション
 網掛け, 116
 網掛けと枠線, 121
 継承, 117
 コピー, 133
 順序, 117
 数値, 116
 ソート, 117, 128
 属性セット, 120
 調査, 117
 展開, 117
 非表示, 125
 表示, 117, 125
 表示基準, 117, 129
 フォント, 116, 120
 見出し, 117
 レイアウト, 116, 124
 枠線, 116
 書式設定済レポート, 132
 書式設定の継承, 118
 書式設定の貼り付け, 55
 [書式] ダイアログボックス, 118, 429, 430, 431, 432, 433, 434, 435, 436, 438, 440
 ショートカット, メニュー, 326
 使用可能なオプション, デイメンション ID を検索するため, 78
 [新規作成] ダイアログボックス, 400

- [新規パッケージセット] ダイアログボックス, 400
- [新規パッケージ] ダイアログボックス, 399
- [新規レポートセット] ダイアログボックス, 401
- [新規レポート] ダイアログボックス, 400
- 時間, 443
 - ページの設定, 443
- [時間] パネル, 443
- 軸、列、レポートおよび行, 110
- 順序のソート, 435
- [条件式の編集] ダイアログボックス, 412
- 条件ステートメント, 129
 - Hyperion Enterprise, 130
 - Hyperion Essbase, 131
- 条件ステートメントの変数
 - Hyperion Enterprise, 130
 - Hyperion Essbase, 131
- [条件付け] 非表示オプション, 126
- 条件に基づいた書式, 129
- 条件ベースの書式, 129
- 乗算関数 (MUL) , 223
- [常時] 非表示オプション, 126
- 状態, チェックボックス, 118
- 上部テキスト設定, 442
- 数式
 - 演算子, 88
 - オペランド, 91
 - 財務計算関数, 88
 - データ計算式, 88
 - 複数の演算子, 91
- 数式で実行される演算の順序, 91
- 数式での優先, 91
- 数式のダイアログボックス, 88
- 数値オプション
 - 計算順序, 122
 - 四捨五入計算, 122
 - 書式, 122
 - 設定, 122
 - 属性, 122
 - 単位, 122
- 数値書式, カスタマイズ, 119
- 数値書式オプション, 116
- 数値書式の設定, 431
- 数値データ, 入力, 341
- [数値] パネル, 431
- 少ないデータ量, 57
- ステータスバー, 334
- スプレッドシートの計算式, 258
- すべて関数 (@ALL) , 180
- すべての祖先メンバ関数 (@ANC) , 183
- すべての列、行見出し、およびデータ書式設定の継承, 118
- 製品ドライバ, Hyperion Solutions アプリケーションに指定, 159
- セクション, 390
 - セクション内に挿入, 84
 - ネスト, 84
 - 貼り付け, 55
 - パッケージ, 72
 - パッケージに挿入, 83
 - 編集, 86
 - ラベル作成, 83, 84
 - レポート, 70
 - レポートに挿入, 83
- セクション for 関数 (FOR) , 207
- セクション内のセクション, 84
- セクションにラベルを付ける, 83, 84
- [セクションの編集] ダイアログボックス, 500, 501, 502, 503, 504, 505, 506, 507, 508, 509, 510, 511
- セクションをネストする, 84
- 設定, 491
 - repeng.ini, 491
 - UseEnterpriseOrg, 491
- 設定, Hyperion Analyst, 254
- 設定変更, ユーザ, 337
- [設定変更] ダイアログボックス, 376
- セット
 - 管理, 397
 - 削除, 144
 - 作成, 142, 400, 401
 - 名前の変更, 145
 - パッケージの除去, 145
 - 編集, 144, 387, 410
 - レポートの除去, 145
- セットの説明関数 (@SED) , 238
- セット名関数 (@SET) , 239
- 説明, 275
- 説明の表示, 275
- セル
 - 色, 336
 - 算出, 336
 - データのハイライト, 341

未保存, 336
セルからのデータの削除, 342
セルの色, 定義, 336
セルのデータの移動, 342
選択
 アプリケーション, 326
 エンティティ, 328
 親, 333
 勘定科目, 329
 期間, 330
 期間単位, 330
 第1レベルのサブ勘定科目, 331
 第2レベルのサブ勘定科目, 332
 通貨, 333
 データ種別, 329
 表示形式, 330
 フィールド, 334
 連結の詳細, 332
[選択項目] リスト, デイメンション ID の, 79
絶対値関数 (@ABS) , 179
ゼロ, 280
ゼロ値の表示オプション, 433
ゼロによる除算, 280
[ゼロによる除算の場合] 非表示オプション, 126
[ゼロによる除算] 表示オプション, 126
[ゼロ] 非表示オプション, 126
[ゼロ] 表示オプション, 125
ソート, 128
 順序の指定, 435
ソート書式オプション
 使用方法, 117
 設定, 128
[ソート] パネル, 435
属性オプション, 122

た行

[タイトル] パネル, 434
[タグ] ダイアログボックス, 413
[タスクの実行] ダイアログボックス, 162
タスクファイル, 157
[タスク] メニュー, 309
縦向きでの印刷, 39
単位オプション, 122
第1レベルサブ勘定科目, 279
第1レベルのサブ勘定科目, 選択, 331

第2のサブ勘定科目セットのキーワード (SUBACC2) , 105
第2レベルサブ勘定科目, 280
第2レベルのサブ勘定科目, 選択, 332
ダイアログボックス, 270, 316, 383
OnTrack アクションの貼り付け, 446, 447, 448
OnTrack の貼り付け, 447, 448
印刷, 404
インポートオプション, 393
エクスポート, 390
エンティティ, 427, 428
親, 550
「各月の日数」勘定, 388
勘定科目, 415, 416
グローバル設定, 392
計算式の編集, 179, 424, 425
サブ勘定科目 1, 551
サブ勘定科目 2, 552
書式, 118, 429, 430, 431, 432, 433, 434, 435, 436, 438, 440
新規作成, 400
新規パッケージ, 399
新規パッケージセット, 400
新規レポート, 400
新規レポートセット, 401
条件式の編集, 412
数式, 88
セクションの編集, 500, 501, 502, 503, 504, 505, 506, 507, 508, 509, 510, 511
説明, 383
タグ, 413
タスクの実行, 162
展開機能の管理, 137, 138, 395
展開機能の設定, 403
デイメンション, 75
デイメンションのカスタマイズ, 396
デイメンションの貼り付け, 514, 515, 516, 517, 518, 519, 520, 521, 522, 523, 524, 525
デイメンションの変更項目の編集, 388
デイメンションの編集, 110, 414, 480, 481, 482, 483, 484, 485, 486, 487, 488, 489, 490, 491, 492, 493, 494, 495, 496, 497, 498, 499
デイメンションの編集 - 勘定科目, 94
データの視点, 42, 449, 450, 451, 452, 453
特殊貼り付け, 446
名前を付けて保存, 36, 412

- パッケージオプション, 387
- パッケージ情報, 385
- パッケージセット情報, 387
- パッケージにおけるデータの視点, 416, 459, 460, 461, 462, 463, 464, 465, 466, 467, 468, 469, 470
- ピボットテーブルオプション, 110
- フォント, 391
- フォントおよび網掛けの書式, 512
- フォントおよび網掛け/枠線の書式, 513
- [プレビュー] ウィンドウ, 407
- プレビューページ指定, 407
- プロンプト値, 455, 456, 525, 526, 527, 528, 529, 530, 531, 532, 533, 534, 535, 536, 537, 538
- プロンプトの貼り付け, 440
- ヘッダーおよびフッター, 391
- 変更項目の編集, 470, 471, 472, 473, 474, 475, 476, 477, 478, 479
- ページ書式, 402
- ページ設定, 441, 442, 443
- レイアウト, 394
- レポートウィザード, 113, 411
- レポートウィザードのピボットテーブル, 405
- レポートオプション, 100, 409
- レポートおよびパッケージの管理, 141, 397
- レポート情報, 408
- レポートセット情報, 410
- レポートにおけるデータの視点, 457, 539, 540, 541, 542, 543, 544, 545, 546, 547, 548, 549, 550
- レポートの挿入, 394
- レポートの置換, 408
- レポートの貼り付け, 440
- 連続印刷, 401
- チェックボックスの状態, 118
- チャートロジックコード関数 (@AMCODE) , 182
- チャートロジック展開関数(@CHART), 191
- 注釈
 - 定義, 134
 - レポートでの設定, 135
- 注釈, 入力, 339
- 注釈の作成, 307
- 抽出, Hyperion DataExtend からデータを, 315
- 調査, 227
 - 書式オプション, 117
 - 設定, 137
 - 注意事項, 227
 - 定義, 136
- 調査, データセルからの使用, 335
- [調査] パネル, 438
- 直下の ID 関数 (@DEP) , 200
- 通貨, 選択, 333
- 通貨テキスト関数 (@CURCY) , 197
- ツールバー, Hyperion Analyst, 256
- ツールバー, Hyperion DataExtend の, 310
- ツールバーの [プレビュー] アイコン, 153
- 定義の表示, 108
- テキスト
 - オプション, 433
 - フィールドの削除, 311
 - フィールドの作成, 311
- テキストデータ, 339
- テキスト入力のルール, 87
- テキストの入力ルール, 87
- [テキスト] パネル, 442
- テキストファイル, 312, 313, 314
- テキストファイルへのデータの保存, 344
- テキストメモ, 226
- 展開, 257, 261, 264-266, 275, 276, 278
 - 管理, 138, 395, 403, 413
 - 設定, 137
 - 定義, 136
- 展開オプション
 - 位置, 137
 - 親オーバライド, 137
 - 展開タグ, 137
 - ディメンション, 137
- 展開関係, 395
- 展開記号の表示または非表示, 266
- 展開機能の管理, 138, 265, 275, 276
- [展開機能の管理 - 詳細設定] ダイアログボックス, 395
- 展開機能の管理オプション, 138
- [展開機能の管理] ダイアログボックス, 137, 138, 395
- 展開機能の設定, 276, 278
- [展開機能の設定] ダイアログボックス, 403
- [展開機能の設定] 展開機能の管理オプション, 138
- 展開書式オプション, 117
- 展開タグ, 138
- 展開タグオプション, 137

展開の設定, 278

[展開] パネル, 440

テンプレート, 267

ディメンション, 262, 263, 270, 275, 308, 310, 311, 313, 345

Hyperion Enterprise のキーワード, 92

カスタマイズ, 31

書式付きのコピー, 133

書式なしのコピー, 133

[ディメンション] ダイアログボックスを使用する変更, 75

パッケージのデフォルト設定, 48

パッケージの変更および Hyperion Reporting のデータの視点, 74

変更の挿入, 69

列幅の変更, 31

レポートのデフォルト設定, 33, 49

レポートの変更および Hyperion のデータの視点, 74

ディメンション ID, 263

項目を割り当てる [選択項目] リスト, 79
指定, 80

指定するフィルタ, 77

ディメンション ID アイコン, 44, 76

ディメンション ID 関数 (@LAB) , 212

ディメンション ID の割り当て, 271, 272, 273

[ディメンション] ダイアログボックス, 75

ディメンション値, 112

ディメンション値の縮小, 112

ディメンション展開オプション, 137

[ディメンション] 展開機能の管理オプション, 138

ディメンションとディメンション ID の移動, 263

ディメンションとディメンション ID の並べ替え, 263

ディメンションの一覧, 割り当て, 81

[ディメンションのカスタマイズ] ダイアログボックス, 396

ディメンションの関数, 割り当て, 80

ディメンションの管理, 262, 275。「ディメンション, カスタマイズ」を参照

ディメンションの設定

デフォルト, 41, 43

パッケージ, 48

レポート, 33, 49

ディメンションの説明関数 (@DES) , 201

[ディメンションの貼り付け] ダイアログボックス, 403, 514, 515, 516, 517, 518, 519, 520, 521, 522, 523, 524, 525

ディメンションの表示, 275

ディメンションの変更

およびディメンション ID, 73, 74

挿入, 82

パッケージでの, 74

編集, 83

レポート, 73

[ディメンションの変更] ダイアログボックス, 388

ディメンションの変更の編集, 83

ディメンションの編集, 262

[ディメンションの編集] ダイアログボックス, 110, 270, 271, 272, 273, 414, 480, 481, 482, 483, 484, 485, 486, 487, 488, 489, 490, 491, 492, 493, 494, 495, 496, 497, 498, 499

ディメンション変更関数 (CHANGE) , 190

ディメンションボタン, 31

ディメンションを割り当てる ID, 80

デフォルト

Hyperion Reporting のデータの視点, 43

行見出し, 70

ディメンションの設定, 41, 43

パッケージのデータの視点, 48

フォント, 150

複合レポート, 39

ページ書式, 150

ラベル設定, 150, 152

列見出し, 70

レポートのデータの視点, 33, 49

デフォルトの行見出し, 70

デフォルトの展開, 264

デフォルトのデータの視点, 285, 301

デフォルトのプリンタ, 343

デフォルトの列見出し, 70

データ

Hyperion DataExtend から抽出, 315

Hyperion DataExtend に読み込む, 312, 314

印刷, 344

印刷前のプレビュー, 344

計算式, 88

計算式の編集, 106

コピー, 341

削除, 342

サマリ, 112

詳細, 112
 セルからの移動, 342
 セルからの削除, 342
 ソート, 435
 テキストファイルへの保存, 344
 貼り付け, 55, 341
 非表示, 433
 フィールドでの表示, 334
 データ, 縮小／展開, 265
 データ計算式
 種類の変更, 106
 数式, 88
 編集, 106
 データ種別, 選択, 329
 データ種別のキーワード (CAT) , 94
 データなし, 280
 [データなしの場合] 非表示オプション, 126
 [データなし] 表示オプション, 125
 [データなし] 表示オプション, Hyperion Analyst
 クエリの場合, 261
 データ入力, 339-343
 データ入力キー, 340
 データのコピー, 341
 データの削除, 342
 データの視点, 259, 278, 301
 CDABET 関数, 288
 Hyperion Reporting, 41
 概要, 41
 設定, 43, 284
 テキストの取得, 297
 ディメンションの変更の割り当て, 69
 パッケージ, 42
 パッケージ用の設定, 48
 変更, 283, 284
 レポート, 42
 レポートの設定, 33, 49
 データの視点, 変更, 328
 [データの視点] ダイアログボックス, 42, 374,
 375, 449, 450, 451, 452, 453
 データの視点の変更, 301
 データの視点の変更オプション, 283
 データの視点のリセット, 259
 データの視点バー, 324, 334
 データの視点バー, カスタマイズ, 33
 データの視点バー, ディメンションの削除, 345
 データの視点バーのディメンションボタン, 31
 データの縮小, 265, 275

データの展開, 265, 275
 データの貼り付け, 341
 データの変更, 284, 298
 データのページ書式オプション, 150
 [データの読込/抽出] ダイアログボックス,
 317, 318
 データ非表示の条件式, 412
 データ量の少ないレポートの最適化, 57, 59
 [特殊貼り付け] ダイアログボックス, 446
 特定のセル値関数 (CELL) , 189
 ドラッグアンドドロップ
 Microsoft Excel を使用した場合, 263
 ドラフトレポート, 132

な行

名前の変更
 セット, 145
 パッケージ, 36, 145
 レポート, 36, 145
 [名前を付けて保存] ダイアログボックス, 36,
 412
 入力
 数値データ, 341
 注釈, 339
 データ, 341
 ローカル見出し, 339
 ネストされたセクション
 パッケージでの, 72
 レポート, 70
 データ入力表, 空の, 37

は行

幅レイアウトオプション, 124
 貼り付け
 値, 286
 計算式に関数を貼り付ける, 287
 [貼り付け] ダイアログボックス, 404
 範囲, 271, 272
 範囲, 選択, 54
 範囲関数 (@RNG) , 236
 範囲の終わり関数 (UNTIL) , 248
 範囲の開始関数 (FROM) , 209
 範囲フィルタ, ディメンション ID を指定する
 ため, 77
 バッチ
 印刷, 401

- バッチファイル, 157
- バー, 分割, 79
- パッケージ
 - アクティブの印刷, 153
 - アプリケーションからの削除, 147
 - アプリケーションへの追加, 146, 399
 - 印刷, 152
 - インポート, 146
 - オプションの設定, 59
 - 管理の概要, 141
 - 概要, 31, 35
 - コンパイル, 146
 - 作成, 35
 - サマリの編集, 64
 - セクションの挿入, 83
 - セットからの除去, 145
 - ディメンションの変更, 74
 - データの視点, 42
 - データの視点の設定, 48
 - 閉じる, 36
 - 名前の変更, 36, 145
 - 範囲の選択, 54
 - 開く, 53
 - プレビュー, 152
 - 編集, 51, 385
 - 保存, 36
 - 領域の選択, 54
 - 領域の選択解除, 54
 - レポートの挿入, 63
 - レポートの置換, 64
 - 連続印刷, 154, 157, 164
- パッケージオプション, 59
- [パッケージオプション] ダイアログボックス, 387
- パッケージオプションの設定, 59
- [パッケージ情報] ダイアログボックス, 385
- パッケージセクション
 - 一連のディメンションのデータを取得する, 72
 - ネスト, 72
 - 編集, 86
- パッケージセット
 - 管理, 397
 - 概要, 142
 - 削除, 144
 - 作成, 142, 400
 - パッケージの除去, 145
 - 編集, 144, 387
 - 保存されたパッケージに対する指定, 36
 - レポートの追加, 144
- [パッケージセット情報] ダイアログボックス, 387
- パッケージとレポートのサマリ, 64
- パッケージ内のレポート関数 (REPORT) , 235
- [パッケージにおけるデータの視点] ダイアログボックス, 386, 416, 459, 460, 461, 462, 463, 464, 465, 466, 467, 468, 469, 470
- パッケージのサマリ, 64
- パッケージ領域
 - 切り取り, 55
 - コピー, 55
 - 削除, 57
 - 削除した項目の復元, 57
 - 選択, 54
 - 選択解除, 54
 - 貼り付け, 55
- パラメータ, [ディメンション] ダイアログボックスへの関数の入力, 80
- 左側にある最初の兄弟関数 (@SLF) , 241
- 左側にあるすべての兄弟関数 (@SLA) , 240
- 日付, 441
 - ページの設定, 441
- [日付] パネル, 441
- 日付マスク, 198
- 非表示, 280
- 非表示オプション, 126
- 非表示オプションの設定, 125
- 非表示の行, 374
- 非表示の行と列, 325, 326, 340, 343
- 非表示の行と列の表示, 343
- 非表示の列, 375
- 表示
 - 書式設定済レポート, 132
 - 定義, 108
 - ドラフトレポート, 132
- 表示基準, 436
 - 網掛けと枠線のオプション, 513
 - 定義, 436
 - 表示, 392, 436
 - フォントオプション, 512
 - 編集, 436
- 表示基準書式オプション
 - 使用方法, 117

- 設定, 129
- [表示基準] パネル, 436
- 表示形式, 選択, 330
- [表示形式] メニュー, 309, 324
- 表示書式オプション
 - エラー, 126
 - 使用方法, 117
 - 設定, 125
 - ゼロ, 125
 - ゼロによる除算, 126
 - データなし, 125
- 表示順位, 435
- [表示] パネル, 433
- 比率（パーセント表示）関数（PCT）, 232
- 比率関数（RAT）, 234
- ビットマップ。「アイコン」を参照
- ビュー ID 関数（@VWL）, 250
- ビューの説明関数（@VWD）, 249
- [ピボットテーブルオプション] ダイアログボックス, 110, 405
- ファイル
 - .TXT, 153
 - ASCII 形式, 154
 - .CRB, 37
 - EXPAND.REL, 110
 - .HAQ, 110
 - HDCDARET.INI, 284
 - REPENG.INI, 31, 137, 152, 158, 290
 - RW32.INI, 120, 122
 - タスク, 157
 - バッチ, 157
 - ログ, 158
- ファイル, 応答, 157
- [ファイルから貼り付け] ダイアログボックス, 404
- ファイル形式, ASCII テキストでの保存, 153
- ファイルタイトル関数（@FLT）, 206
- ファイル名関数（@FIRST）, 206
- [ファイル] メニュー, 309, 324, 335
- フィルタ, ディメンション ID を指定するための, 77
- [フィルタの概要] アイコン, 77
- フィールド
 - 削除, 311
 - 作成, 311
 - 用途, 310
- フィールド, 選択, 334
- フィールドでのデータ表示, 334
- フィールドデータのテキストファイル, 312, 313, 314
- フィールドデータ用のテキストファイルの例, 314
- フィールドのキーワード（FIE）, 97
- フィールドの削除, 311
- フィールドの除去, 311
- [フィールドの編集] ダイアログボックス, 316
- フォント, 64
 - 設定, 391, 402, 512
 - デフォルト, 402
- [フォントおよび網掛け/枠線の書式] ダイアログボックス, 512, 513
- フォント書式オプション
 - 使用方法, 116
 - 設定, 120
 - デフォルトの変更, 150
- [フォント] ダイアログボックス, 391
- [フォント] パネル, 429, 512
- フォント表示基準オプション, 512
- フォーマット, Microsoft Excel テンプレート, 267
- 複合レポート
 - 概要, 37
 - 作成, 39
 - デフォルトのレイアウト, 39
 - 標準レポートのコピー, 39
 - レイアウト, 39
- 複合レポートのページ余白, 39
- 複合レポートのレイアウト, 39
- フッター, 64
 - [フッター] ダイアログボックス, 391
 - フッターのページ書式オプション, 150
- 部分的説明関数（@PDES）, 232
- 部分的ディメンション ID 関数（@PLAB）, 233
- 分割バー, 79
- [プレビューページ指定] ダイアログボックス, 407
- プロンプト
 - 値の割り当て, 86
 - レポートのインポート, 66
- [プロンプト値] ダイアログボックス, 408, 455, 456, 525, 526, 527, 528, 529, 530, 531, 532, 533, 534, 535, 536, 537, 538
- プロンプトの値, 割り当て, 86

[プロンプトの貼り付け] ダイアログボックス, 440
 平均関数 (@AVG) , 186
 並列表示での印刷, 39
 ヘッダー
 計算式の挿入, 64
 設定, 64
 貼り付け, 55
 フォントの選択, 64
 [ヘッダー] ダイアログボックス, 391
 ヘッダーとフッター, 334, 344
 ヘッダーのページ書式オプション, 150
 [ヘルプ] メニュー, 324
 [変更項目の編集] ダイアログボックス, 470, 471, 472, 473, 474, 475, 476, 477, 478, 479
 [編集] メニュー, 309, 324
 編集を元に戻す, 57
 ページ検索, 407
 [ページ書式] ダイアログボックス, 402
 ページ書式のデフォルトの変更, 150
 [ページ設定] ダイアログボックス, 441, 442, 443
 ページの向き, 432
 設定, 432
 ページ番号設定, 442
 [ページ番号] パネル, 442
 保存
 アプリケーションヘデータを, 284
 ワークシート, 283

ま行

マスク
 オプション, 122
 数値書式マスクのカスタマイズ, 119
 日付, 198
 右側にある最初の兄弟関数 (@SRF) , 242
 右側にあるすべての兄弟関数 (@SRA) , 241
 右マウスボタン, 326, 335
 見出し
 計算式, 32, 87
 計算式の編集, 108
 書式, 434
 レイアウト, 432
 見出し書式オプション
 使用方法, 117
 設定, 126
 レイアウト, 124

見出しレイアウトオプション, 125
 未保存のセル, 336
 メインウィンドウ, Hyperion Schedules, 323-324
 メニュー
 オプション, 324
 ファイル, 324, 335
 メニュー, Hyperion Analyst, 256
 メニュー, Hyperion DataExtend の, 309
 メニュー, Retrieve, 282, 283, 286

や行

優先順位, 91
 ユーザ ID 関数 (@USR) , 249
 ユーザ設定変更, 334, 337
 ユーザ定義の勘定科目属性, Hyperion Essbase, 119
 ユーザプロンプト関数 (@ASK) , 185
 ようこそ, 381
 横向きでの印刷, 39
 余白, 432
 設定, 432, 441
 デフォルト, 441
 余白レイアウトオプション, 125
 読み込み, 282
 Microsoft Excel アドインファイル, 282
 読み込む、Hyperion DataExtend にデータを, 312

ら行

ラベル, 442
 ページ設定, 442
 ラベル設定, 441, 443
 ページ設定, 441, 443
 ラベル設定のデフォルトの変更, 150, 152
 ラベルのページ書式オプション, 150
 リスト関数 (LIST) , 215
 リリース 4XA のみ, 327, 332, 333
 リンクされたレポートオブジェクト関数 (@LRC) , 220
 リンクされたレポートオブジェクトのインデックス関数 (@LRI) , 219
 リンクされたレポートオブジェクトの種類関数 (@LRT) , 221
 リンクされたレポートオブジェクトの変更日関数 (@LRD) , 217

- リンクされたレポートオブジェクトのユーザ関数 (@LRU) , 222
- リンクされたレポートコメント関数 (@LRC) , 216
- リンクされたレポートファイル関数 (@LRF) , 218
- レイアウト, 277
- レイアウト, 複合レポート, 39
- レイアウトオプション
 - 印刷順序, 124
 - 行, 125
 - 設定, 124
 - 幅, 124
 - ページの向き, 124
 - 見出し, 124, 125
 - 余白, 125
- レイアウト書式オプション, 116
- [レイアウト] ダイアログボックス, 394
- [レイアウト] パネル, 432
- 列, 343, 432
 - 切り取り, 55
 - 空白行の挿入, 56
 - コピー, 55
 - ソート, 128
 - 幅の設定, 432
 - 貼り付け, 55
 - 非表示, 433
 - レイアウト, 432
 - レポート, 70
- [列] 軸, 110
- 列データの書式設定の継承, 118
- 列と行の設定, 389
- 列のページ書式オプション, 150
- 列見出しの書式設定の継承, 118
- 列見出しの中央揃え, 126
- レベル 0 の子孫関数 (@BOT) , 188
- レベル 1 のサブ勘定科目, 331
- レベル 2 のサブ勘定科目, 332
- レポート, 335
 - Excel へのエクスポート, 155, 390
 - アクティブの印刷, 153
 - アプリケーションからの削除, 147
 - アプリケーションへの追加, 146
 - 印刷, 152, 344, 407
 - インポート, 146
 - オプションの設定, 57, 59
 - 管理, 397
 - 管理の概要, 141
 - 概要, 31, 35
 - 行, 53
 - クエリの表示, 110, 113
 - 組み込み, 37
 - 組み込みレポートの作成, 39
 - 結合, 66
 - 高速作成, 57, 59
 - コンパイル, 146
 - 作成, 35
 - サマリの編集, 64
 - 書式設定済レポートの表示, 132
 - 書式付きの計算式のコピー, 133
 - 書式付きのディメンションのコピー, 133
 - 書式なしの計算式のコピー, 133
 - 書式なしのディメンションのコピー, 133
 - 書式の概要, 115
 - 書式のコピー, 133
 - セクションの挿入, 83
 - セットからの除去, 145
 - 注釈, 134
 - 注釈の設定, 135
 - 追加, 400
 - ディメンションのカスタマイズ, 31
 - ディメンションの変更, 73
 - データの視点, 42
 - データの視点の設定, 33, 49
 - データ量の少ないレポートの最適化, 57, 59
 - 閉じる, 36
 - ドラフトの表示, 132
 - 名前の変更, 36, 145
 - 範囲の選択, 54
 - パッケージでの, 394, 408
 - パッケージに挿入, 63
 - パッケージのレポートの置換, 64
 - 標準, 35
 - 開く, 53, 326, 328, 335
 - 複合, 35, 37
 - 複合レポートの作成, 39
 - プレビュー, 152, 407
 - 編集, 51, 408
 - 保存, 36
 - 領域の選択, 54
 - 領域の選択解除, 54
 - 列, 53
 - 連続印刷, 154, 157, 164
 - ローカル見出し, 134

- ローカル見出しの設定, 135
- レポート, 「Hyperion Reporting」を参照, 307, 319
- レポートウィザード
 - アイコン, 110
 - 概要, 109
 - クエリの作成, 110
 - クエリレポートの作成, 113
 - ディメンション値の縮小, 112
 - ディメンション値の展開, 112
 - ネストされたディメンション, 111
 - [ピボットテーブルオプション] ダイアログボックス, 405
 - [ファイルから貼り付け] ダイアログボックス, 404
- [レポートウィザード] ダイアログボックス, 113, 411
- レポートウィザードのネストされたディメンション, 111
- レポートウィザードの [ファイルから貼り付け] ダイアログボックス, 404
- レポートオプション, 388
 - 設定, 59
- [レポートオプション] ダイアログボックス, 100, 409
- レポートオプションの設定, 57, 59
- [レポートおよびパッケージの管理] ダイアログボックス, 397
- レポートからの Microsoft Excel ワークシートの作成, 390
- [レポート] 軸, 110
- [レポート情報] ダイアログボックス, 408
- レポートセクション
 - 一連のディメンションのデータを取得する, 70
 - 行, 70
 - ネスト, 70
 - 編集, 86
 - 列, 70
- レポートセット
 - 管理, 397
 - 概要, 142
 - 削除, 144
 - 作成, 142, 401
 - 編集, 144, 410
 - 保存されたレポートに対する指定, 36
 - レポートの除去, 145
- レポートの追加, 144
- [レポートセット情報] ダイアログボックス, 410
- レポートディメンション, 31
- [レポートにおけるデータの視点] ダイアログボックス, 410, 457, 539, 540, 541, 542, 543, 544, 545, 546, 547, 548, 549, 550
- レポートの Microsoft Excel へのエクスポート, 390
- レポートの印刷, 344
- レポートの行のデフォルトの見出し, 70
- レポートの検証, 146
- レポートのサマリ, 64
- レポートの種類, 35
- レポートの書式オプション
 - 「書式オプション」を参照, 115
- レポートの書式オプションの概要, 115
- レポートの書式の概要, 115
- [レポートの挿入] ダイアログボックス, 394
- [レポートの置換] ダイアログボックス, 408
- [レポートの貼り付け] ダイアログボックス, 440
- レポートのプレビュー, 152
- レポートの列のデフォルトの見出し, 70
- レポートのワークシートへのエクスポート, 390
- レポート領域
 - 切り取り, 55
 - コピー, 55
 - 削除, 57
 - 削除した項目の復元, 57
 - 選択, 54
 - 選択解除, 54
 - 貼り付け, 55
- レポートを開く, 326, 328, 335
- 連結ステータス関数 (@PSF) , 234
- 連結の詳細, 選択, 332
- 連結ロジックコード関数 (@CMCODE) , 193
- 連続印刷, 154, 157, 164
- [連続印刷] ダイアログボックス, 401
- ログイン, Hyperion Schedules, 326, 328
- ログオン, Hyperion Schedules, 321
- ログファイル, レポートバッチコマンド, 157
- ロジック, 343
- ローカル見出し
 - 定義, 134
 - レポートでの設定, 135

ローカル見出し, 入力, [339](#)

ローカル見出し関数 (@LOCAL) , [216](#)

ローカル見出しの作成, [307](#)

わ行

ワイルドカード関数(@WLD), [252](#)

ワイルドカードフィルタ, ディメンション ID
を指定するため, [77](#)

枠線, [430](#)

網掛け, [512](#)

オプション, [430](#)

枠線オプション, [121](#)

枠線書式オプション, [116](#)

ワークシート, [258](#), [267](#), [302](#), [303](#)

更新, [283](#)

保存, [283](#)

ワークシートの更新, [303](#)

ワークシートの視点, [278](#)

ワークシートの視点, 変更, [259](#)

ワークシートの視点の変更, [259](#)

